

下石川平野遺跡Ⅱ 旭（1）遺跡 旭（2）遺跡

— 県営野沢2期地区畑地帯総合整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

（第1分冊）

2016年3月

青森県教育委員会

しも いし かわ ひらの の い せ き
下石川平野遺跡Ⅱ
あ さ ひ か っ こ い ち い せ き
旭 (1) 遺跡
あ さ ひ か っ こ に い せ き
旭 (2) 遺跡

— 県営野沢2期地区畑地帯総合整備事業に伴う遺跡発掘調査報告 —

(第1分冊)

2016年3月

青森県教育委員会



遺跡周辺空中写真 W→



下石川平野遺跡 農道31号 第1号掘立柱建物跡 NE→

口絵1 遺跡群空中写真・下石川平野遺跡



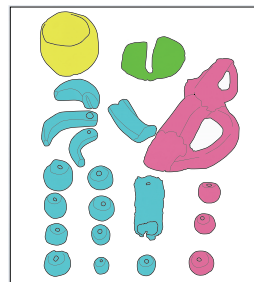
下石川平野遺跡 農道 31 号 第 7 号 竪穴建物跡カマド W→、N→



下石川平野遺跡・旭 (1) 遺跡・旭 (2) 遺跡出土遺物
(玉類・筒状鉄製品・錫杖頭状土製品・土鈴・小杯)



下石川平野遺跡農道 31 号出土土錘



- 下石川平野遺跡 (農道 30 号)
- 下石川平野遺跡 (農道 31 号)
- 旭 (1) 遺跡 (農道 35 号)
- 旭 (2) 遺跡 (農道 37 号)

口絵 2 下石川平野遺跡・出土遺物

序

青森県埋蔵文化財調査センターでは、平成25年度から県営野沢2期地区畑地帯総合整備事業予定地内に所在する下石川平野遺跡、旭(1)遺跡、旭(2)遺跡の発掘調査を実施しました。

調査の結果、縄文時代、平安時代の竪穴建物跡や土坑などの遺構・遺物が多数発見され、本遺跡が縄文時代、平安時代の大きな集落跡であることが分かりました。

出土遺物の中でも特に、平安時代の竪穴建物跡から出土した錫杖頭状土製品や筒状鉄製品などはきわめて希少な出土例として学術的価値の高い資料です。

調査を行った3遺跡は、津軽平野の東部、梵珠山麓に広がる丘陵に所在しています。周辺には数多くの埋蔵文化財包蔵地が遺されていますが、その中には史跡五所川原須恵器窯跡をはじめ、中平遺跡や寺屋敷平遺跡など平安時代の重要な遺跡が含まれています。

本報告書は、平成26年度の発掘調査事業の調査結果についてまとめたものです。この成果が今後、埋蔵文化財の保護等に広く活用され、また、地域の歴史を理解する一助となることを期待します。

最後に、日頃から埋蔵文化財の保護と活用に対してご理解をいただいている青森県農林水産部農村整備課に厚くお礼申し上げますとともに、発掘調査の実施と報告書の作成にあたりご指導、ご協力いただきました関係各位に対し、心より感謝いたします。

平成28年3月

青森県埋蔵文化財調査センター

所 長 三 上 盛 一

例 言

- 1 本書は、青森県農林水産部農村整備課による県営野沢2期地区畑地帯総合整備事業に伴い、青森県埋蔵文化財調査センターが平成26年度に発掘調査を実施した青森市下石川平野遺跡、旭(1)遺跡、旭(2)遺跡の発掘調査報告書である。発掘調査面積は、下石川平野遺跡農道30号1,290㎡、農道31号1,220㎡、旭(1)遺跡農道35号2,000㎡、旭(2)遺跡農道37号440㎡で、合計4,950㎡である。
- 2 下石川平野遺跡の所在地は、青森県青森市浪岡大字吉野田字木戸口地内外、青森県遺跡番号は201399である。旭(1)遺跡の所在地は、青森県青森市浪岡大字吉野田字螢沢地内外、青森県遺跡番号は201332である。旭(2)遺跡の所在地は、青森県青森市浪岡大字吉野田字螢沢地内外、青森県遺跡番号は201333である。
- 3 県営野沢2期地区畑地帯総合整備事業に伴う発掘調査報告書は、本書が下石川平野遺跡では第2冊目、旭(1)・旭(2)遺跡では第1冊目となる。
- 4 発掘調査及び整理・報告書作成の経費は、発掘調査を委託した青森県農林水産部農村整備課が負担した。
- 5 発掘調査から整理・報告書作成までの期間は、以下のとおりである。

発掘調査期間	下石川平野遺跡：平成26年6月3日～同年10月31日
	旭(1)遺跡：平成26年5月8日～同年9月5日
	旭(2)遺跡：平成26年4月30日～同年6月3日
整理・報告書作成期間	平成27年4月1日～平成28年3月31日
- 6 本書は、青森県埋蔵文化財調査センターが編集し、青森県教育委員会が作成した。執筆と編集は、青森県埋蔵文化財調査センター小田川哲彦総括主幹・神康夫文化財保護主幹・鈴木和子文化財保護主幹・平山明寿文化財保護主査・岩井美香子文化財保護主査が担当した。第1編及び下石川平野遺跡調査概要等は神が担当した。下石川平野遺跡農道30・31号の遺構は神・鈴木・岩井が、遺物は鈴木・神が担当した。旭(1)遺跡農道35号の遺構・遺物は小田川・平山が担当した。旭(2)遺跡農道37号の遺構・遺物は神が担当した。総括及び全体の編集作業は神・鈴木・平山が行った。なお依頼原稿及び委託原稿については、文頭に執筆者名あるいは機関名を記した。
- 7 発掘調査から整理・報告書作成にあたり、以下の業務については原稿依頼もしくは委託により実施した。

ラジコンヘリ空中写真撮影	株式会社シン技術コンサル
地形および地質について	島口 天(青森県立郷土館学芸主幹)
石質鑑定	島口 天(青森県立郷土館学芸主幹)
火山灰分析	柴 正敏(弘前大学大学院理工学研究科教授)
放射性炭素年代測定	株式会社パレオ・ラボ
炭化種実同定	株式会社パレオ・ラボ
炭化材樹種同定	株式会社パレオ・ラボ
土器の胎土分析	株式会社第四紀地質研究所
土器類の写真撮影委託	シルバーフォト
石器類の写真撮影委託	フォトショップいなみ
- 8 発掘調査成果の一部は、発掘調査報告会等において公表しているが、これらと本書の内容が異なる場合は、正式報告として刊行する本書がこれらに優先する。
- 9 発掘調査及び整理、報告書作成に際して、下記の方々と機関からご協力、ご指導を得た(敬称略、順不同)。

小口雅史（法政大学）、齋藤 淳（中泊町立博物館）、武井紀子（国立大学法人弘前大学）、平川 南（大学共同利用機関法人人間文化研究機構）、藤原弘明（五所川原市教育委員会）、中村隼人（岩手県埋蔵文化財センター）

- 10 本書に掲載した地形図（遺跡位置図）は、国土地理院発行の25,000分の1地形図「浪岡」を複写して使用した。
- 11 測量原点の座標値は、世界測地系に基づく平面直角座標第X系による。
- 12 挿図中の方位は、すべて座標北を示している。
- 13 地形図、調査区域図、遺構配置図等の縮尺は適宜縮尺を変更し、各挿図にスケール等を示した。
- 14 遺構には、その種類を示す略号と、路線ごと、検出順に通し番号を付した。遺構に使用した略号は以下のとおりで、整理作業に伴って遺構名等を変更したものについては各節冒頭あるいは各遺構の事実記載文に記している。
S I - 竪穴建物跡 S B - 掘立柱建物跡 S P - 柱穴 S K - 土坑 S D - 溝跡
S V - 溝状土坑 S R - 埋設土器遺構
また火山灰に関して、B-Tmは白頭山苦小牧火山灰、To-aは十和田 a 火山灰、To-Hは十和田八戸火山灰の略称として使用している。
- 15 遺跡の基本土層にはローマ数字、遺構内堆積土層には算用数字を使用した。各土層の色調表記等には、『新版標準土色帖2005年版』（小山正忠・竹原秀雄）を基に記録した。
- 16 遺構実測図の縮尺は、原則として竪穴建物跡のカマド・炉等は1/30、竪穴建物跡・土坑・溝跡・掘立柱建物跡・溝状土坑・柱穴群等は1/60とし、各挿図にスケール等を示した。各図で使用した網掛けは、各挿図中に示した。
- 17 遺構実測図の平面図のうち、柱穴（建物内・単独とも）等には（ ）内にその深さをcm単位で示している。土層断面図等には、水準点を基にした海拔標高を付している。
- 18 遺構内から出土した遺物等には、取り上げ順にその種類を示す略号と通し番号を必要に応じて付した。遺物に使用した略号は、土器 - P、石器 - S、炭化材 - Cで、その他の記号を用いた場合は各図に示した。
- 19 遺構実測図の土層断面図等には、水準点を基にした海拔標高を付している。現在の地表面がある場合は模式的な草を表示し、地表面から遺構確認面までの深さが容易に判別できるよう示した。
- 20 各遺構の規模に関する計測値は、原則として現存値を記載している。調査区域外に延びていたり他遺構・攪乱によって壊されているものは（ ）を付して本文や柱穴計測表に記載している。
- 21 遺物実測図の個別番号は、路線ごとに1から遺物番号を付した。
- 22 遺物実測図の縮尺は、土器類1/3、剥片石器類1/2、礫石器類1/3、土石製品類・玉類1/2を原則とし、各挿図にスケール等を示した。また遺物実測図に使用した網掛けは、各挿図中に示した。
- 23 遺物観察表の計測値は、原則として現存値を記している。土器類計測値における（ ）内の数値は、口径・底径は推定値、器高は現存値である。土器類の調整技法（文様）は、原則として土器上部（口縁）から順に記載している。石器及び製品類において、欠損が明らかなものについて（ ）を付している。
- 24 遺物写真には遺物実測図と共通の図番号を付しており、縮尺は不同である。
- 25 発掘調査及び整理・報告書作成における出土品、実測図、写真等は、現在、青森県埋蔵文化財調査センターが保管している。

第1分冊 目次

口 絵
序 言
目 次
図版目次
表目次

第1編 調査の概要	
第1章 調査に至る経緯	
第2章 共通する調査方法	
第1節 発掘調査の方法	2
第2節 整理・報告書作成作業の方法	3
第3章 調査の体制等	
第1節 発掘調査の体制	5
第2節 整理・報告書作成作業の体制と経過	5
第4章 下石川平野遺跡・旭(1)遺跡・旭(2)遺跡周辺地域の地形と地質	
第1節 遺跡周辺地域の地形と地質	10
第2節 遺跡内における地形と地質	10
第2編 下石川平野遺跡	
第1章 調査方法と調査経過、基本層序	
第1節 下石川平野遺跡での調査方法	12
第2節 発掘調査の経過	12
第3節 地形と基本層序	14
1 下石川平野遺跡の地形	14
2 基本層序	14
3 農道30号南端部の沢	15
第2章 農道30号の検出遺構と出土遺物	
第1節 検出遺構	20
1 竪穴建物跡	20
2 柱穴	28
3 土坑	28
4 溝跡	36
5 溝状土坑	43
第2節 遺構外の出土遺物	44
第3章 農道31号の検出遺構と出土遺物	
第1節 検出遺構	86
1 竪穴建物跡	86
2 掘立柱建物跡・柱穴	117
3 土坑	124
4 溝跡	139
5 溝状土坑	143
6 埋設土器遺構	145
第2節 遺構外の出土遺物	146
第3編 旭(1)遺跡	
第1章 調査方法と調査経過、基本層序	

第1節	旭(1)遺跡での調査方法	249
第2節	発掘調査の経過	249
第3節	地形と基本層序	250
1	旭(1)遺跡の地形	250
2	基本層序	250
第2章	農道35号の検出遺構と出土遺物	
第1節	検出遺構	254
1	竪穴建物跡	254
2	柱穴	264
3	土坑	264
4	溝跡	272
第2節	遺構外の出土遺物	275
第4編	旭(2)遺跡	
第1章	調査方法と調査経過、基本層序	
第1節	旭(2)遺跡での調査方法	315
第2節	発掘調査の経過	315
第3節	地形と基本層序	316
1	旭(2)遺跡の地形	316
2	基本層序	316
第2章	農道37号の検出遺構と出土遺物	
第1節	検出遺構	317
1	竪穴建物跡	317
2	柱穴	319
3	土坑	319
4	溝跡	320
第2節	遺構外の出土遺物	322
第5編	出土遺物観察表	
第1章	下石川平野遺跡	
第1節	農道30号出土遺物	
1	土器観察表	331
2	石器観察表	335
3	土製品観察表	335
第2節	農道31号出土遺物	
1	土器観察表	336
2	石器観察表	345
3	土製品観察表	346
4	鉄製品観察表	347
第2章	旭(1)遺跡	
第1節	農道35号出土遺物	
1	土器観察表	348
2	石器観察表	352
3	土製品観察表	352
4	石製品観察表	352
5	鉄製品観察表	352
第3章	旭(2)遺跡	
第1節	農道37号出土遺物	
1	土器観察表	353
2	土製品観察表	353

第1分冊 挿図目次

図1	下石川平野・旭(1)・旭(2)遺跡 位置図 …	7	図52	第2号a竪穴建物跡(2) ……	151
図2	下石川平野遺跡周辺 調査路線図 ……	8	図53	第2号a竪穴建物跡(3) ……	152
図3	平成26年度調査路線図 ……	9	図54	第2号a竪穴建物跡(4) ……	153
図4	段丘分布図 ……	11	図55	第2号b竪穴建物跡・第3号a竪穴建物跡(1) ……	154
第2編 第1章					
図5	農道30・31号 地形図 ……	16	図56	第3号a竪穴建物跡(2)・第3号b竪穴建物跡 ……	155
図6	基本層序 ……	17	図57	第4号竪穴建物跡・第5号竪穴建物跡 ……	156
図7	沢(1) ……	18	図58	第6号竪穴建物跡 ……	157
図8	沢(2) ……	19	図59	第7号a竪穴建物跡(1) ……	158
第2章					
図9	農道30号遺構配置図 ……	45	図60	第7号a竪穴建物跡(2)・第7号b竪穴建物跡(1) ……	159
図10	第1号竪穴建物跡 ……	47	図61	第7号a竪穴建物跡(3) ……	160
図11	第2号竪穴建物跡(1) ……	48	図62	第7号b竪穴建物跡(2) ……	161
図12	第2号竪穴建物跡(2) ……	49	図63	第8号竪穴建物跡(1) ……	162
図13	第3号竪穴建物跡 ……	50	図64	第8号竪穴建物跡(2) ……	163
図14	第4号竪穴建物跡 ……	51	図65	第9号竪穴建物跡(1) ……	164
図15	第5号竪穴建物跡・第6号竪穴建物跡 ……	52	図66	第9号竪穴建物跡(2) ……	165
図16	第7号竪穴建物跡(1)・第18号溝跡 ……	53	図67	第10号竪穴建物跡・第11号竪穴建物跡(1) ……	166
図17	第7号竪穴建物跡(2) ……	54	図68	第11号竪穴建物跡(2) ……	167
図18	第8号竪穴建物跡(1) ……	55	図69	第12号竪穴建物跡(1) ……	168
図19	第8号竪穴建物跡(2) ……	56	図70	第12号竪穴建物跡(2) ……	169
図20	第8号竪穴建物跡(3) ……	57	図71	第13号a竪穴建物跡(1) ……	170
図21	第9号竪穴建物跡 ……	58	図72	第13号a竪穴建物跡(2) ……	171
図22	柱穴(1) ……	59	図73	第13号a竪穴建物跡(3) ……	172
図23	柱穴(2) ……	60	図74	第13号b竪穴建物跡 ……	173
図24	柱穴(3) ……	61	図75	第13号c竪穴建物跡 ……	174
図25	土坑(1) ……	62	図76	第14号竪穴建物跡(1) ……	175
図26	土坑(2) ……	63	図77	第14号竪穴建物跡(2) ……	176
図27	土坑(3) ……	64	図78	第14号竪穴建物跡(3) ……	177
図28	土坑(4) ……	65	図79	第14号竪穴建物跡(4) ……	178
図29	溝跡(1) ……	66	図80	第15号竪穴建物跡(1) ……	179
図30	溝跡(2) ……	67	図81	第15号竪穴建物跡(2) ……	180
図31	溝跡(3) ……	68	図82	第16号竪穴建物跡(1) ……	181
図32	溝跡(4) ……	69	図83	第16号竪穴建物跡(2) ……	182
図33	溝跡(5) ……	70	図84	第17号竪穴建物跡(1) ……	183
図34	溝跡(6) ……	71	図85	第17号竪穴建物跡(2) ……	184
図35	溝状土坑 ……	72	図86	第17号竪穴建物跡(3) ……	185
図36	第1号竪穴建物跡・第2号竪穴建物跡・第3号竪穴建物跡 出土遺物 ……	73	図87	第18号竪穴建物跡 ……	186
図37	第4号竪穴建物跡・第6号竪穴建物跡・第7号竪穴建物跡 出土遺物 ……	74	図88	第19号竪穴建物跡 ……	187
図38	第8号竪穴建物跡 出土遺物 ……	75	図89	第20号竪穴建物跡(1) ……	188
図39	土坑 出土遺物(1) ……	76	図90	第20号竪穴建物跡(2)・第21号竪穴建物跡 ……	189
図40	土坑 出土遺物(2) ……	77	図91	第22号竪穴建物跡 ……	190
図41	土坑 出土遺物(3) ……	78	図92	第23号竪穴建物跡・第24号竪穴建物跡 ……	191
図42	溝跡 出土遺物(1) ……	79	図93	第26号竪穴建物跡 ……	192
図43	溝跡 出土遺物(2) ……	80	図94	第1号掘立柱建物跡 ……	193
図44	溝跡 出土遺物(3) ……	81	図95	第3号掘立柱建物跡 ……	194
図45	溝跡 出土遺物(4) ……	82	図96	第4号掘立柱建物跡 ……	195
図46	溝跡 出土遺物(5) ……	83	図97	第5号掘立柱建物跡・第8号掘立柱建物跡 ……	196
図47	溝跡 出土遺物(6) ……	84	図98	第10号掘立柱建物跡 ……	197
図48	遺構外 出土遺物 ……	85	図99	柱穴(1) ……	198
第3章					
図49	農道31号遺構配置図 ……	147	図100	柱穴(2) ……	199
図50	第1号竪穴建物跡 ……	149	図101	柱穴(3) ……	200
図51	第2号a竪穴建物跡(1) ……	150	図102	柱穴(4) ……	201
			図103	土坑(1) ……	202
			図104	土坑(2) ……	203

図105	土坑 (3)	204
図106	土坑 (4)	205
図107	土坑 (5)	206
図108	土坑 (6)	207
図109	土坑 (7)	208
図110	土坑 (8)	209
図111	溝跡 (1)	210
図112	溝跡 (2)	211
図113	溝跡 (3)	212
図114	溝状土坑 (1)	213
図115	溝状土坑 (2)	214
図116	埋設土器遺構	215
図117	第1号竪穴建物跡・第2号a竪穴建物跡 (1) 出土遺物	216
図118	第2号a竪穴建物跡 (2) 出土遺物	217
図119	第3号a竪穴建物跡・第3号b竪穴建物跡・第4号竪穴建物跡・第5号竪穴建物跡 出土遺物	218
図120	第6号竪穴建物跡・第7号a竪穴建物跡 (1) 出土遺物	219
図121	第7号a竪穴建物跡 (2) 出土遺物	220
図122	第7号b竪穴建物跡・第8号竪穴建物跡 出土遺物	221
図123	第9号竪穴建物跡 出土遺物	222
図124	第10号竪穴建物跡・第11号竪穴建物跡 (1) 出土遺物	223
図125	第11号竪穴建物跡 (2) 出土遺物	224
図126	第12号竪穴建物跡 出土遺物	225
図127	第13号a竪穴建物跡・第14号竪穴建物跡 (1) 出土遺物	226
図128	第14号竪穴建物跡 (2) 出土遺物	227
図129	第15号竪穴建物跡・第16号竪穴建物跡 (1) 出土遺物	228
図130	第16号竪穴建物跡 (2)・第17号竪穴建物跡 (1) 出土遺物	229
図131	第17号竪穴建物跡 (2)・第18号竪穴建物跡 (1) 出土遺物	230
図132	第18号竪穴建物跡 (2)・第19号竪穴建物跡・第20号竪穴建物跡 (1) 出土遺物	231
図133	第20号竪穴建物跡 (2)・第21号竪穴建物跡・第24号竪穴建物跡 (1) 出土遺物	232
図134	第24号竪穴建物跡 (2)・第26号竪穴建物跡 出土遺物	233
図135	第1号掘立柱建物跡・第8号掘立柱建物跡・柱穴 出土遺物	234
図136	土坑 出土遺物 (1)	235
図137	土坑 出土遺物 (2)	236
図138	土坑 出土遺物 (3)	237
図139	土坑 出土遺物 (4)	238
図140	土坑 出土遺物 (5)	239
図141	土坑 出土遺物 (6)	240
図142	土坑 出土遺物 (7)	241
図143	土坑 出土遺物 (8)	242
図144	土坑 出土遺物 (9)	243
図145	土坑 出土遺物 (10)	244
図146	溝跡 出土遺物	245
図147	溝状土坑・埋設土器遺構 出土遺物	246
図148	遺構外 出土遺物 (1)	247
図149	遺構外 出土遺物 (2)	248

第3編 第1章

図150	農道35号 地形図	252
図151	基本層序	253

第2章

図152	農道35号遺構配置図	277
図153	第1号竪穴建物跡 (1)	279
図154	第1号竪穴建物跡 (2)	280
図155	第2号竪穴建物跡	281
図156	第3号竪穴建物跡 (1)	281
図157	第3号竪穴建物跡 (2)	282
図158	第3号竪穴建物跡 (3)	283
図159	第4号竪穴建物跡 (1)・第6号竪穴建物跡 (1)・第7号竪穴建物跡 (1)	284
図160	第4号竪穴建物跡 (2)	285
図161	第5号竪穴建物跡	286
図162	第6号竪穴建物跡 (2)	287
図163	第7号竪穴建物跡 (2)	288
図164	第9号竪穴建物跡・第10号竪穴建物跡	289
図165	第11号竪穴建物跡	290
図166	第12号竪穴建物跡	291
図167	第13号竪穴建物跡・第14号竪穴建物跡	292
図168	柱穴	293
図169	土坑 (1)	294
図170	土坑 (2)	295
図171	土坑 (3)	296
図172	土坑 (4)	297
図173	土坑 (5)	298
図174	溝跡	299
図175	第1号竪穴建物跡 (1) 出土遺物	300
図176	第1号竪穴建物跡 (2) 出土遺物	301
図177	第3号竪穴建物跡 (1) 出土遺物	302
図178	第3号竪穴建物跡 (2) 出土遺物	303
図179	第3号竪穴建物跡 (3)・第4号竪穴建物跡 (1) 出土遺物	304
図180	第4号竪穴建物跡 (2) 出土遺物	305
図181	第5号竪穴建物跡・第6号竪穴建物跡 (1) 出土遺物	306
図182	第6号竪穴建物跡 (2)・第7号竪穴建物跡 出土遺物	307
図183	第2号竪穴建物跡・第9号竪穴建物跡・第11号竪穴建物跡・第12号竪穴建物跡・第13号竪穴建物跡 出土遺物	308
図184	柱穴 出土遺物 土坑 (1) 出土遺物	309
図185	土坑 出土遺物 (2)	310
図186	土坑 出土遺物 (3)	311
図187	土坑 出土遺物 (4) 溝跡 出土遺物	312
図188	遺構外 出土遺物 (1)	313
図189	遺構外 出土遺物 (2)	314

第4編 第1章

図190	農道37号 地形図	323
------	-----------	-----

第2章

図191	農道37号 遺構配置図	324
図192	第1号竪穴建物跡 (1)・溝跡 (1)	325
図193	第1号竪穴建物跡 (2)・溝跡 (2)	326
図194	第2号竪穴建物跡・柱穴	327
図195	土坑	328
図196	溝跡	329
図197	出土遺物	330

第1分冊 表目次

第1編 調査に至る経緯、他	表8 農道37号 柱穴計測表 ……………	319
表1 下石川平野遺跡・旭(1)遺跡・旭(2)遺跡と周辺の遺跡一覧 ……………	1	
第2編 下石川平野遺跡	第5編 出土遺物観察表	
表2 農道30・31号 主要点の国土座標値及び標高値一覧 ……………	表9 農道30号 土器観察表 ……………	331
表3 農道30号 柱穴計測表 ……………	表10 農道30号 石器観察表 ……………	335
表4 農道31号 柱穴計測表 ……………	表11 農道30号 土製品観察表 ……………	335
第3編 旭(1)遺跡	表12 農道31号 土器観察表 ……………	336
表5 農道35号 主要点の国土座標値及び標高値一覧 ……………	表13 農道31号 石器観察表 ……………	345
表6 農道35号 柱穴計測表 ……………	表14 農道31号 土製品観察表 ……………	346
第4編 旭(2)遺跡	表15 農道31号 鉄製品観察表 ……………	347
表7 農道37号 主要点の国土座標値及び標高値一覧 ……………	表16 農道35号 土器観察表 ……………	348
	表17 農道35号 石器観察表 ……………	352
	表18 農道35号 土製品観察表 ……………	352
	表19 農道35号 石製品観察表 ……………	352
	表20 農道35号 鉄製品観察表 ……………	352
	表21 農道37号 土器観察表 ……………	353
	表22 農道37号 土製品観察表 ……………	353

第2分冊 目次

目次

第6編 理化学的分析結果		
第1章 下石川平野遺跡		
第1節 下石川平野遺跡出土の火山灰について ……………	1	
第2節 下石川平野遺跡出土炭化材の樹種同定 ……………	5	
第3節 下石川平野遺跡から出土した炭化種実 ……………	11	
第4節 下石川平野遺跡出土試料の放射性炭素年代測定 ……………	18	
第5節 下石川平野遺跡出土土器のX線回折試験及び化学分析試験 ……………	24	
第2章 旭(1)遺跡		
第1節 旭(1)遺跡出土の火山灰について ……………	40	
第2節 旭(1)遺跡出土炭化材の樹種同定 ……………	42	
第3節 旭(1)遺跡出土試料の放射性炭素年代測定 ……………	45	
第4節 旭(1)遺跡出土土器のX線回折試験及び化学分析試験 ……………	48	
第3章 旭(2)遺跡		
第1節 旭(2)遺跡出土試料の放射性炭素年代測定 ……………	62	
第7編 総括		
第1章 下石川平野遺跡 ……………	65	
第2章 旭(1)遺跡 ……………	69	
第3章 旭(2)遺跡 ……………	71	
引用・参考文献 ……………	72	
写真図版 ……………	73	
報告書抄録 ……………	222	

第1編 調査の概要

第1章 調査に至る経緯

平成19年から4年間にわたり浪岡野沢地区県営畑地帯総合整備に伴う発掘調査が行われる中、平成21年7月に同事業の野沢2期地区の埋蔵文化財包蔵地の取扱いについて東青地域県民局地域農林水産部水利防災課(以下「水利防災課」)から青森県教育庁文化財保護課(以下「文化財保護課」)に照会があり、両課による継続的な協議及び踏査が行われた。

平成24年5月から文化財保護課により当該地区に計画されている農道の試掘調査が実施され、調査範囲が確定されることとなった。同年9月、試掘調査の結果を基に水利防災課、文化財保護課、青森県埋蔵文化財調査センター(以下「埋蔵文化財調査センター」)による現地協議が行われ、下石川平野遺跡(農道23号、24号)、旭(1)遺跡(農道35号)、旭(2)遺跡(農道37号)の調査範囲の確認等を行った。

平成25年度は、5月上旬と6月下旬に三者による現地協議を経て、7月から下石川平野遺跡(農道23号、24号、配水管12～15号、給水栓10号)の発掘調査を埋蔵文化財調査センターが実施した。

平成26年度は、4月上旬に関係機関による現地協議が行われ、埋蔵文化財調査センターが同年4月下旬から旭(2)遺跡(農道37号)、6月から下石川平野遺跡(農道30号、31号)と旭(1)遺跡(農道35号)の発掘調査を実施した。

なお、事業者側からの本報告に伴う土木工事等のための発掘に関する通知は、東青地域県民局長から平成25年5月22日付け東県局農水第304号でなされ、これを受けて青森県教育委員会教育長から、埋蔵文化財の記録保存のための発掘調査の実施を平成25年5月30日付け青教文第459号で通知されている。

表1 下石川平野遺跡・旭(1)遺跡・旭(2)遺跡と周辺の遺跡一覧

市	遺跡番号	遺跡名	時代	種別
青森市	201331	下下平遺跡	縄文(後)、平安	散布地
	201332	旭(1)遺跡	平安	散布地
	201333	旭(2)遺跡	平安	散布地、集落跡
	201334	中平遺跡	縄文(後)、平安	散布地、集落跡
	201335	浪岡蛭沢遺跡	縄文(前)	散布地
	201336	熊沢溜池遺跡	平安	散布地、集落跡
	201337	永原遺跡	縄文(前・後)	散布地
	201338	上野遺跡	縄文(前・後)、平安、中世、近世	散布地、集落跡
	201339	神明宮遺跡	縄文(前・晩)、平安、	散布地、集落跡
	201340	山神宮遺跡	縄文(晩)	散布地
	201341	長溜池遺跡	縄文(中・後・晩)、弥生、平安、中世	散布地、墳墓
	201342	大林遺跡	縄文、平安	散布地
	201378	銀館遺跡	中世	城館跡
	201385	杉田遺跡	平安	散布地
	201386	寺屋敷平遺跡	平安	散布地
	201397	樽沢上野遺跡	縄文、平安	散布地
	201398	郷山前村元遺跡	平安	散布地
	201399	下石川平野遺跡	縄文(前・中)、平安	集落跡
	201411	銀前田遺跡	平安	散布地
	201412	樽沢村元遺跡	縄文、平安	散布地
201414	岡田遺跡	平安	散布地	
201423	吉野田平野遺跡	平安	散布地	
201434	荷越沢遺跡	縄文(前・後・晩)	散布地	
201436	樽沢村元(2)遺跡	平安	散布地	
五所川原市	205008	川崎遺跡	縄文(晩)、平安、近世	散布地
	205009	桜ヶ峰(1)遺跡	縄文(草・前・中・後・晩)、弥生、平安、近世	散布地、須恵器窯跡
	205018	持子沢館	縄文(後)、平安、近世	散布地、城館跡
	205043	真言館遺跡	平安、中世	城館跡
	205059	桜ヶ峰(2)遺跡	縄文(前・中・後・晩)、弥生、続縄文、平安	散布地
	205060	桜ヶ峰(3)遺跡	縄文、平安	散布地
	205062	隠川(2)遺跡	旧石器、縄文(早・前・中・後・晩)、平安、近世	集落跡
	205063	隠川(3)遺跡	縄文(前・中・後・晩)、弥生、平安、近世	集落跡
	205064	隠川(4)遺跡	縄文(早・前・中・後・晩)、弥生、平安、近世、近代	散布地
	205065	隠川(5)遺跡	平安	散布地
	205066	隠川(6)遺跡	縄文、平安	散布地
	205067	隠川(7)遺跡	平安、近世	散布地
	205072	隠川(12)遺跡	縄文(前・中・後・晩)、弥生、平安、近世	集落跡
205101	広野遺跡	縄文、平安	散布地、須恵器窯跡	

第2章 共通する調査方法等

第1節 発掘調査の方法

平成26年度調査対象となった農道30・31・35・37号は、いずれも平成24年度に文化財保護課によって確認調査が行われている。これらによって縄文時代・古代の遺物と遺構（竪穴建物跡等）が確認されたため、縄文時代・古代の遺構調査に重点をおいて、各集落の時期・構造等を把握できるような調査方法を採用した。

〔地区の名称と略称〕 調査地区の名称は畑地帯総合整備事業で用いている工事区域名（農道30・31・35・37号）を原則としてそのまま使用した。各農道工事では流末水路が設計されているが、調査対象となったのは農道31・35号だけである。農道の略称として「N」、流末水路の略称として「R」を使用しており、「農道30号」は「N30」、「農道35号流末水路」は「N35-R」などである。

〔測量基準点・水準点の設置・グリッド設定〕 各路線の測量原点及びレベル原点には工事用の既存成果を利用し、各調査対象区域内に標準の国土座標値と標高値を備えた工事用幅杭や任意の基準杭を設置し、これらを実測基準点として使用した。調査の進捗に応じて、これら実測基準点と与点として調査路線周辺に基準杭・ベンチマークを増設して使用した。主な基準点の国土座標値（世界測地系）及び標高値等の一覧表、各調査路線（農道）と公共座標軸の位置関係や基準主要点を示した遺構配置図は、各編冒頭に示してある。

遺構・基本土層の精査や遺構外出土遺物の取り上げにあたっては、各農道の中心線を基準に起点から5メートルごとで区切ってグリッドとし、平面的出土位置を記録して取り上げた。グリッドの名称は、起点（No.0）から5mまでを「(路線番号) - 1グリッド」、「(路線番号) - 2グリッド」…、と呼称した。例えば農道30号の場合、起点（No.0）から5mまでは「N30 - 1グリッド」、5～10mまでは「N30 - 2グリッド」…、となる。

また農道31・35号では流末水路部分を調査したことから、この部分も5メートルごとのグリッド名に「R」を付し、「N31-R1グリッド」、「N31-R2グリッド」…、と呼称している。

各グリッドの設定状況・名称については、各路線の遺構配置図に赤字で示している。

〔基本土層〕 遺跡の基本土層については表土から順にローマ数字を付けて呼称し、細分が必要な場合は小文字のアルファベットを付した。

〔表土等の調査〕 これまで実施された確認調査の結果等によって、古代及び縄文時代の遺構・遺物が存在することは把握していた。しかし表土から古代の遺構確認面までは畑地造成や砂利道として攪乱されていることも分かっていたので、その部分は重機を使用して掘削の省力化を図り、古代の遺構検出・調査、縄文時代の遺物包含層・遺構検出・調査の順に発掘作業を進めることとした。表土から遺構確認面までの土層から出土した遺物は、適宜地区単位で層位毎に取り上げた。

〔遺構の調査〕 検出遺構には、原則として確認順に種類別の番号を付けて精査した。堆積土層観察用のセクションベルトは、遺構の形態、大きさ等に応じて、基本的には4分割又は2分割で設定したが、遺構の重複や付属施設の有無等により必要に応じて追加した。遺構内の堆積土層には、算用数字を付けて、ローマ数字を付けた基本土層と区別した。遺構の平面図は、主に(株)CUBIC製「遺構実測支援システム」を用いてトータルステーションによる測量で作成した。遺構の堆積土層断面図や竪穴

建物跡に伴う炉・カマド等の平面図、出土遺物の形状実測図等は、簡易遣り方測量等で縮尺1/20・1/10の実測図を作成した。遺構内の出土遺物は遺構単位・遺構内地区単位で層位毎に又は堆積土一括で取り上げたが、床面(底面)や炉・カマドの出土遺物については、トータルステーションや簡易遣り方測量により、必要に応じて縮尺1/20・1/10のドットマップ図・形状実測図等を作成した。

〔遺物包含層の調査〕 上層から層位毎に人力で掘削した。遺物が密集して出土した区域では、トータルステーションや簡易遣り方測量により、縮尺1/20・1/10のドットマップ図や形状実測図を作成したが、遺物が散発的に出土した区域では、原則としてグリッド単位で層位毎に取り上げた。

〔写真撮影〕 原則として35mmモノクローム、35mmカラーリバーサルの各フィルム及びデジタルカメラを併用し、発掘作業状況、土層の堆積状態、遺物の出土状態、遺構の検出状況・精査状況・完掘後の全景等について記録した。デジタルカメラは約1,800万画素のものを使用し、一部の写真撮影は(株)CUBIC製「俯瞰写真撮影システム」を用いて数m上空からの俯瞰写真撮影を行った。また、業者に委託してラジコンヘリによる遺跡及び調査区域全体の空中写真撮影を行った。

第2節 整理・報告書作成作業の方法

平成26年度において3遺跡の調査を行った結果、縄文時代及び古代の竪穴建物跡49棟、掘立柱建物跡10棟、柱穴181基、土坑95基、溝跡38条、溝状土坑7基、埋設土器遺構2基が検出され、縄文時代・古代の土器類49箱、石器類4箱、土・鉄製品2箱、鉄滓1箱、自然木2箱、合計段ボール箱58箱分が出土した。

これらの遺構・遺物をもとに、主に古代の集落の時期・構造等を解明するため、竪穴建物跡をはじめとする各遺構の構築時期と集落の変遷等の検討に重点をおいて整理・報告書作成作業を進めた。

〔図面類の整理〕 遺構の平面図は主にトータルステーションによる測量で作成したもので、整理作業ではこれを原則として縮尺20分の1で図化し、簡易遣り方測量で作成した堆積土層断面図や炉・カマド等の付属施設の実測図等との図面調整を行った。また、遺構台帳・遺構一覧表等を作成して、発掘作業時の所見等を整理した。

〔写真類の整理〕 35mmモノクロームフィルムは撮影順に整理してネガアルバムに収納し、35mmカラーリバーサルフィルムは発掘作業状況、包含層遺物の出土状態、遺構毎の検出・精査状況等に整理して農道ごとにスライドファイルに収納した。また、デジタルカメラのデータは35mmカラーリバーサルフィルムと同様に整理してタイトルを付けた。

〔遺物の洗浄・注記と接合・復元〕 遺構出土遺物及び包含層出土遺物を優先的に接合し、復元作業を早期に進めるようにした。遺物の注記は、調査年度、遺跡名、出土区・遺構名、層位、取り上げ番号等を略記したが、剥片石器・金属器等、直接注記できないものは、収納したポリ袋に注記した。接合・復元にあたっては、同一個体の出土地点・出土層等も留意しながら行った。

〔報告書掲載遺物の選別〕 遺物全体の分類を適切に行った上で、遺構に伴って使用・廃棄(放置)された資料、遺構の構築・廃絶時期等を示す資料、遺存状態が良く同類の中で代表的な資料、所属時代(時期)・型式・器種等の分かる資料等を主として選別した。

〔遺物の観察・図化〕 充分観察した上で、遺物の特徴を適切に分かり易く表現するように図化した。

特に、縄文土器の復元個体や拓本では表現しきれない隆帯・突起等の凹凸のある遺物については、実測図を作成するように心掛けた。また、種類ごとに遺物台帳・観察表・計測表等を作成した。

〔遺物の写真撮影〕 業者に委託して行ったが、実測図等では表現しがたい質感・雰囲気・製作技法・文様表現等を伝えられるように留意した。

〔理化学的分析〕 出土火山灰の噴出源を特定するための火山灰分析、竪穴建物跡の建築材等を特定するための炭化材の樹種同定、当時の利用植物を明らかにする炭化種実の同定、炭化種実や炭化材の年代を特定するための放射性年代測定、土器胎土中に含まれる鉱物・元素等の種類構成を解明するX線回折分析・化学分析法による胎土分析、これらは研究機関・業者等に委託して行った。

〔遺構・遺物のトレース・版下作成〕 遺構・遺物の実測図やその他挿図のトレースは、ロットリングペンによる手作業と、(株)CUBIC製「トレースくん」(遺物実測支援システム)やAdobe社製「Illustrator」を用いたデジタルトレースを併用した。実測図版・写真図版等の版下作成についても、紙図版による手作業とパソコンによるデジタルデータ加工作業(Adobe社製「PhotoShop」・「Indesign」)を併用した。遺構内出土遺物のうち、床面(底面)出土遺物や竪穴建物跡の炉・カマド出土遺物等については、原則として遺構の平面図にそのドットマップ図・形状実測図等を掲載した。

〔遺構の検討・分類・整理〕 遺構毎に種類・構造的特徴・出土遺物・他の遺構との新旧関係等に関するデータを整理し、構築時期や同時性・性格等について検討を加えた。

〔遺物の検討・分類・整理〕 遺物を時代・時期・種類毎に整理し、出土遺物全体の分類・器種構成・個体数等について検討した。

〔調査成果の検討〕 遺構・遺物の検討結果を踏まえて、縄文時代と古代の集落の時期・構造・変遷等について検討・整理した。

第3章 調査の体制等

第1節 発掘調査の体制

平成26年度の発掘調査では、調査委託者の要望により旭(2)遺跡の農道37号をまずは神・岩井が担当して調査することとした。その後、下石川平野遺跡の農道31号、農道30号を神・鈴木・岩井が、旭(1)遺跡の農道35号を平山・小田川が担当することとした。発掘調査体制は以下のとおりである。

調査主体	青森県埋蔵文化財調査センター	
所長	三上 盛一	
次長(総務GM兼務)	高橋 雅人(現・中南教育事務所所長)	
調査第一GM	中嶋 友文	
総括主幹	小田川 哲彦(発掘調査担当者)	
文化財保護主幹	神 康夫(発掘調査担当者)	
文化財保護主幹	鈴木 和子(発掘調査担当者)	
文化財保護主査	平山 明寿(発掘調査担当者)	
文化財保護主査	岩井 美香子(発掘調査担当者)	

専門的事項に関する指導・助言

調査員	葛西 勳	前青森短期大学教授(考古学)
〃	福田 友之	青森県考古学会会長(考古学)
〃	島口 天	青森県立郷土館主任学芸主査(地質学、現・学芸主幹)

発掘作業の経過等は、各編の冒頭に記載しているのでそちらを参照願います。

第2節 整理・報告書作成作業の体制と経過

平成26年度調査の報告書作成事業は平成27年度に実施することとなり、平成27年4月1日から平成28年3月31日までの期間で行った。下石川平野遺跡、旭(1)遺跡、旭(2)遺跡は縄文時代と古代の複合遺跡であり、検出遺構の中では古代の竪穴建物跡が多く、出土遺物も古代の土器が多い点等を考慮して、これに応じた整理作業の工程を計画した。

平成27年度の整理・報告書作成体制は、以下のとおりである。

調査主体	青森県埋蔵文化財調査センター	
所長	三上 盛一	
次長(総務GM兼務)	川上 彰雄	
調査第一GM	中嶋 友文	
総括主幹	小田川 哲彦(報告書作成担当者)	
文化財保護主幹	神 康夫(報告書作成担当者)	
文化財保護主幹	鈴木 和子(報告書作成担当者)	
文化財保護主査	平山 明寿(報告書作成担当者)	
文化財保護主査	岩井 美香子(報告書作成担当者)	

平成27年度の整理・報告書作成作業の経過、業務委託状況等は、以下のとおりである。

〔平成27年度〕

- 4～7月 写真類と発掘作業で作成した図面類の整理作業、遺物の洗浄・注記作業を行った。図面類は、必要に応じて図面修正を行い、それをもとに個別遺構図や遺構配置図の作成を開始した。出土遺物は、農道ごと、遺構ごと、グリッドごと、層位ごとに出土遺物の点数と重量の計測を行い、遺物台帳等を作成した。計測作業の終了後、遺構・グリッド・調査路線ごとに土器類の接合作業を行った。7月には島口天学芸主幹(青森県立郷土館)に地形及び地質について原稿執筆を依頼した。
- 8月上旬 遺物の検討・分類・整理作業を経て、土器類・石器類とも報告書掲載予定遺物を選定した。選定された遺物には路線ごとの整理番号をナンバーリングし、遺物整理一覧表を作成した。遺物整理一覧表に接合状況や図化手順も記載し、整理作業のスムーズ化を図った。柴正敏教授(弘前大学大学院理工学研究科)に火山灰分析について原稿執筆を依頼した。
- 8月中旬 接合された土器にボンド・石膏を入れて復元し、実測作業等に耐えられるよう補強した。石膏を入れる復元作業が終了した調査路線の遺物から順次、拓本取り作業を行った。
- 9月 調査路線の遺物から順次、遺物整理一覧表を基に土器類の実測図作成、断面図作成など本格的な整理作業に入っていった。
- 10～11月 土器類の図化作業に加え、石器・土石製品・鉄製品などの実測作業も並行して進めた。10月下旬には(株)パレオ・ラボに炭化種実の同定業務及び炭化材の樹種同定業務について委託した。11月上旬には報告書掲載遺物の写真撮影を行い、土器類はシルバーフォトに、石器類はフォトショップいなみにそれぞれ業務委託した。遺構図については、図面修正を終えたものから報告書の体裁に合わせた図版組み作業に着手した。併せて報告書の構成、目次立てを検討し、遺構の事実記載等の原稿執筆も開始した。
- 12月 調査成果を総合的に検討しながら粗原稿や仮図版、仮写真図版等を作成し、報告書の内容・ページ数を確認し、印刷業者を選定した。
- 1～2月 実測が終わった遺物は順次トレース作業を行って印刷用版下を作成し、遺物の写真図版作成にも着手した。完成した原稿・版下等から順次印刷業者へ入稿し、原稿、遺構図版、遺物観察表、遺構及び遺物写真図版などの精査・校正や印刷業者との打合せを繰り返した。併せて出土遺物や記録類の整理作業にも着手する。
- 3月25日 平成26年度調査分下石川平野遺跡・旭(1)遺跡・旭(2)遺跡の発掘調査報告書を刊行した。
- 3月31日 記録類・出土品の収納と確認を行い、報告書刊行事業をすべて完了した。

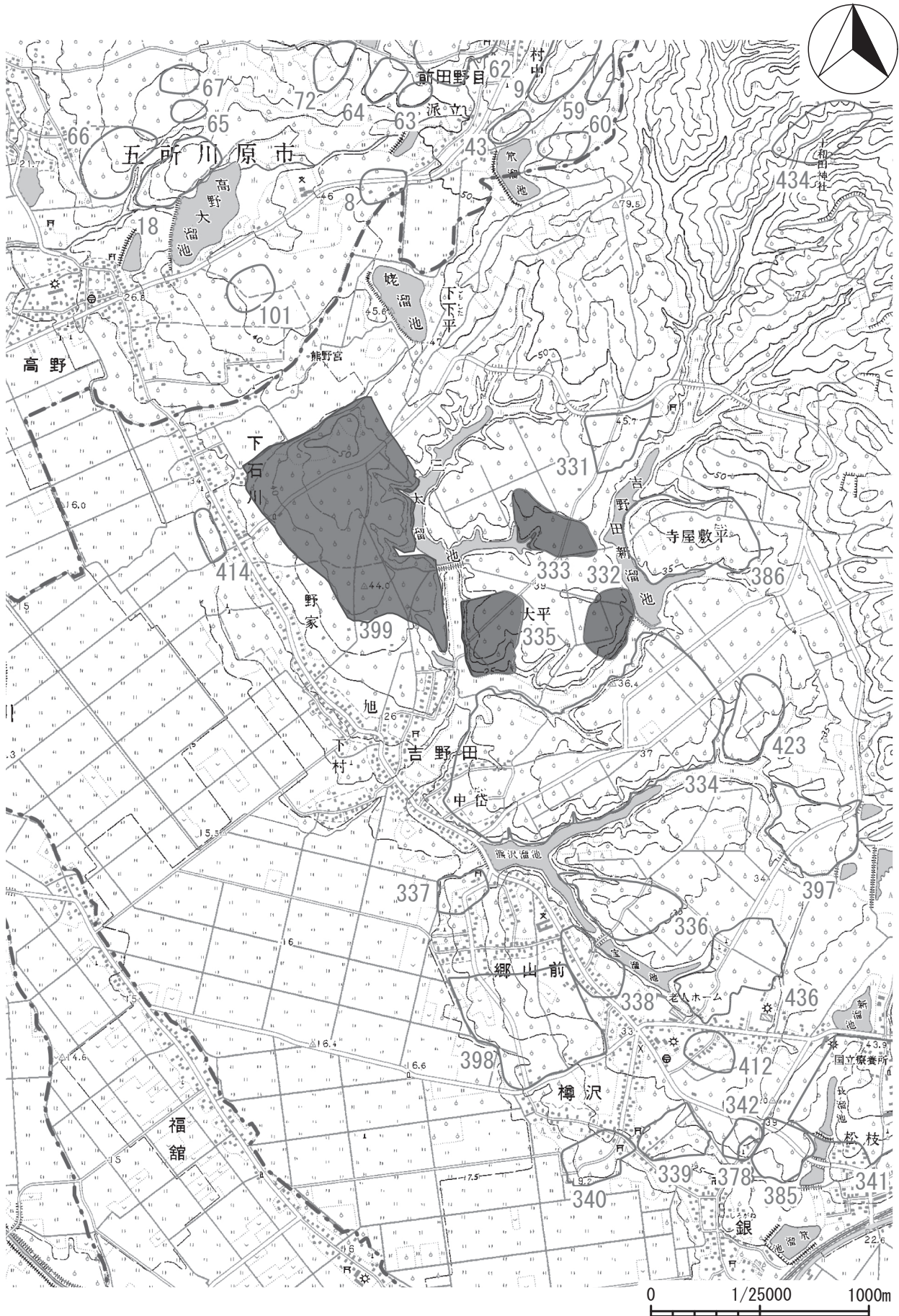


図1 下石川平野・旭(1)・旭(2)遺跡 位置図

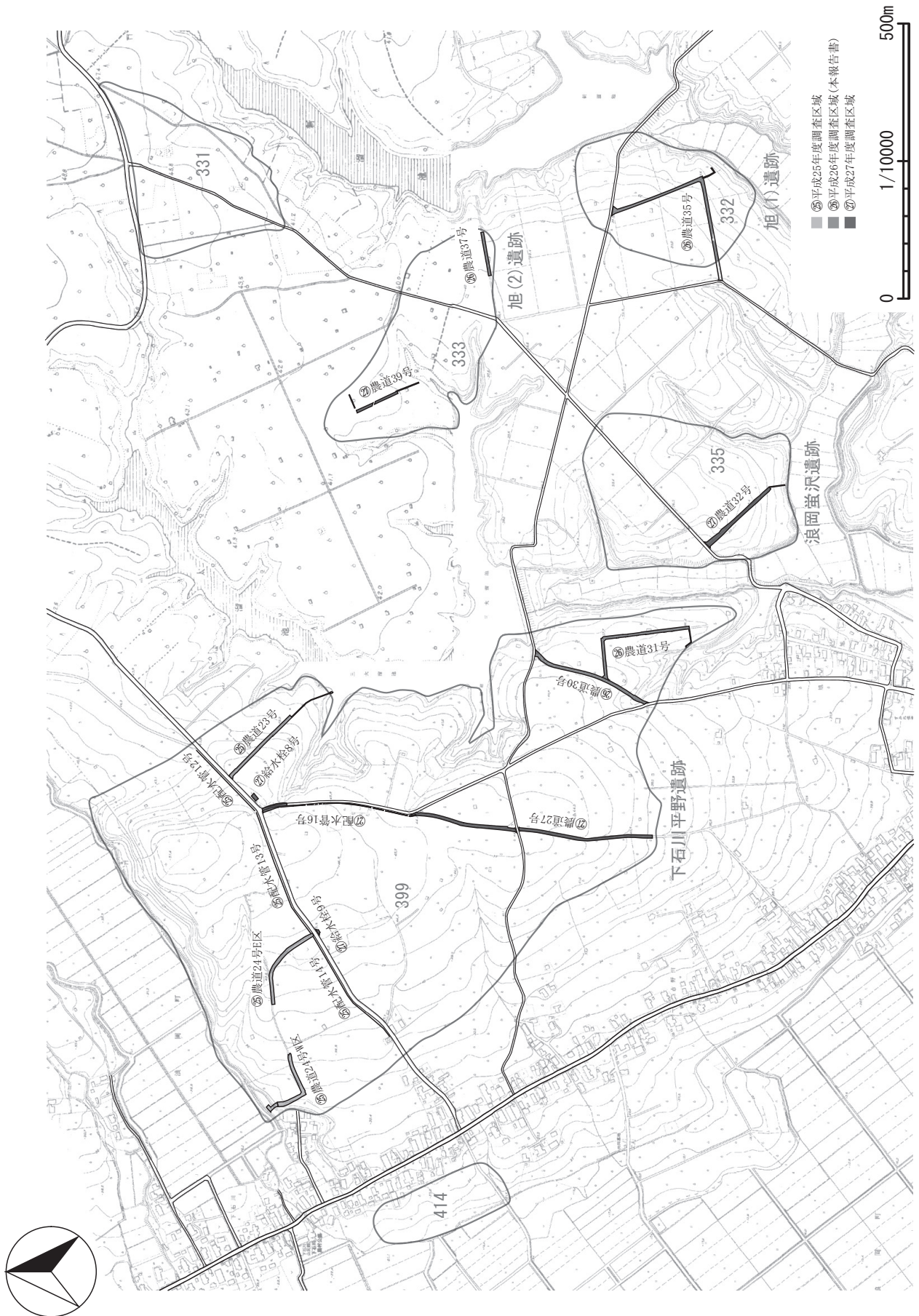


図2 下石川平野遺跡周辺 調査路線図

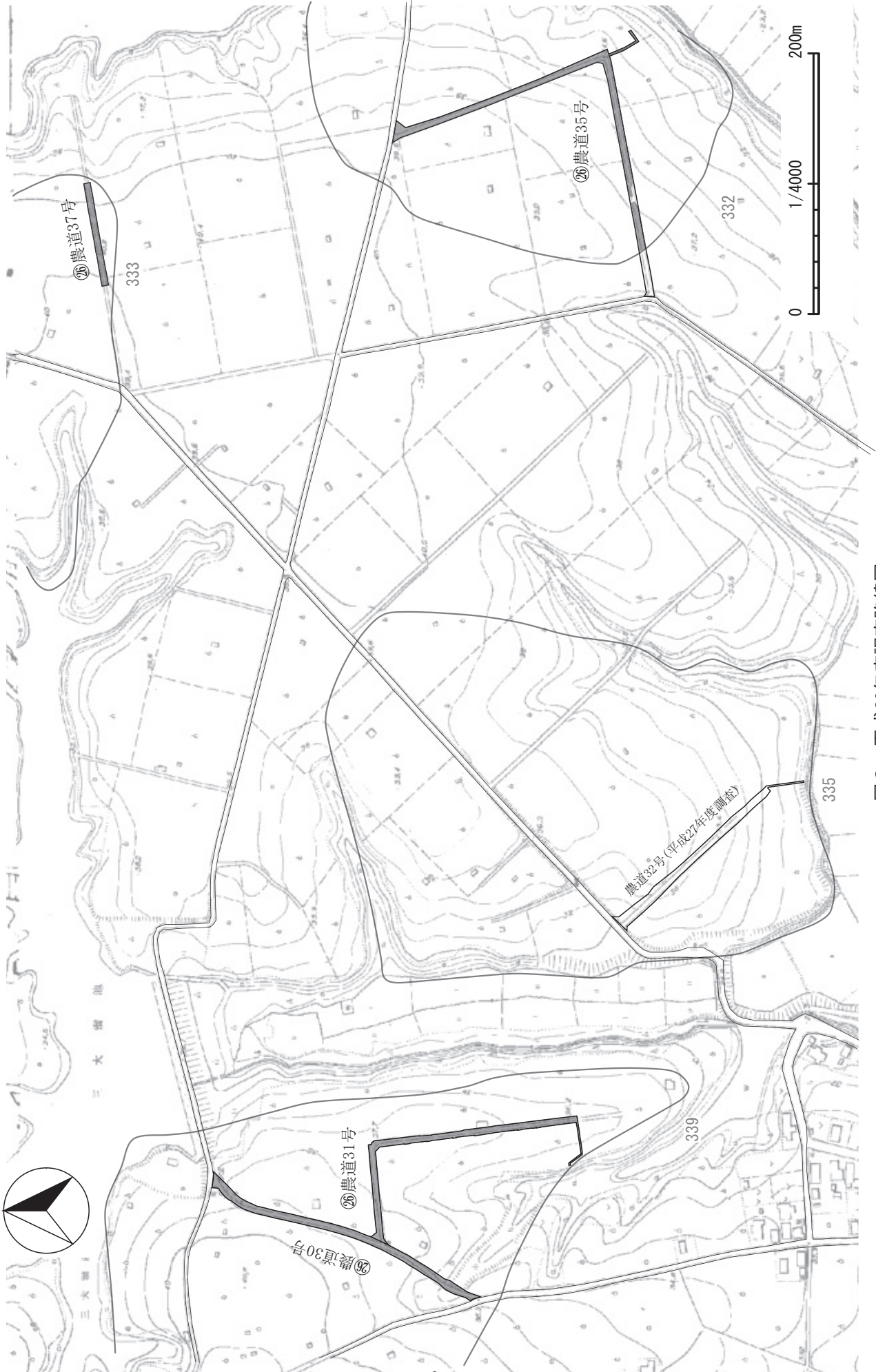


図3 平成26年度調査路線図

第4章 下石川平野遺跡・旭(1)遺跡・旭(2)遺跡周辺地域の地形と地質

青森県立郷土館 学芸主幹 島口 天

第1節 遺跡周辺地域の地形と地質

遺跡周辺地域の地形と地質については、長森ほか(2013)を引用して島口(2015)で述べたので、ここでは省略する。図4に、本地域における段丘の分布を示し、各遺跡及び関連遺跡の位置を示す。

第2節 遺跡内における地形と地質

下石川平野及び旭(1)・(2)遺跡は高位段丘面上に立地し、同段丘分布域には大平断層が存在する。

高位段丘面は、五所川原市野里付近から青森市浪岡付近にかけて津軽平野の東縁に沿って分布する。大平断層は、浪岡付近に分布する高位段丘に西側隆起の低断層崖を形成しており、走向は北北西-南南東である。本断層による高位段丘の上下変位量は2-10mである。大平断層の西側には、地形面が西へ傾き下がる異常傾斜がみられ、高位段丘面は西に下がり津軽平野下に没している(長森ほか、2013)。

各遺跡における基本層序は、表土の黒～黒褐色土層の下位に黄褐色砂質火山灰層、黄橙色砂質ローム層が順に見られた。旭(1)遺跡において黒～黒褐色土層には、薄く長いレンズ状の明らかに黒味に乏しい黒褐色土が挟まれていた。細野・佐瀬(2015)は、三内丸山遺跡で確認されている類似の黒褐色土について「過度の人為」によるものと考えている。「過度の人為」としては、下位の褐色ローム質土層が付加されてローム質土塊が混在したこと、活発なヒトの活動による過度な踏みつけが植被の衰退を招き腐植の材料となる有機物供給量が著しく減少したことも関わったことを推定している。旭(1)遺跡においても同様のことを考える必要があると思われる。

黄褐色砂質火山灰層は、下石川平野遺跡では上部ほど黄色味が強く色は漸移するが、旭(1)遺跡では黄色味が強い上部と白っぽい下部に分けることができる。黄橙色砂質ローム層には、レンズ状の灰白色の粘土層と紫灰色の粘土層が不規則に含まれる。上野遺跡において黄褐色砂質火山灰層及び黄橙色砂質ローム層は、十和田八戸テフラの再堆積層と考えられた(島口、2010)。

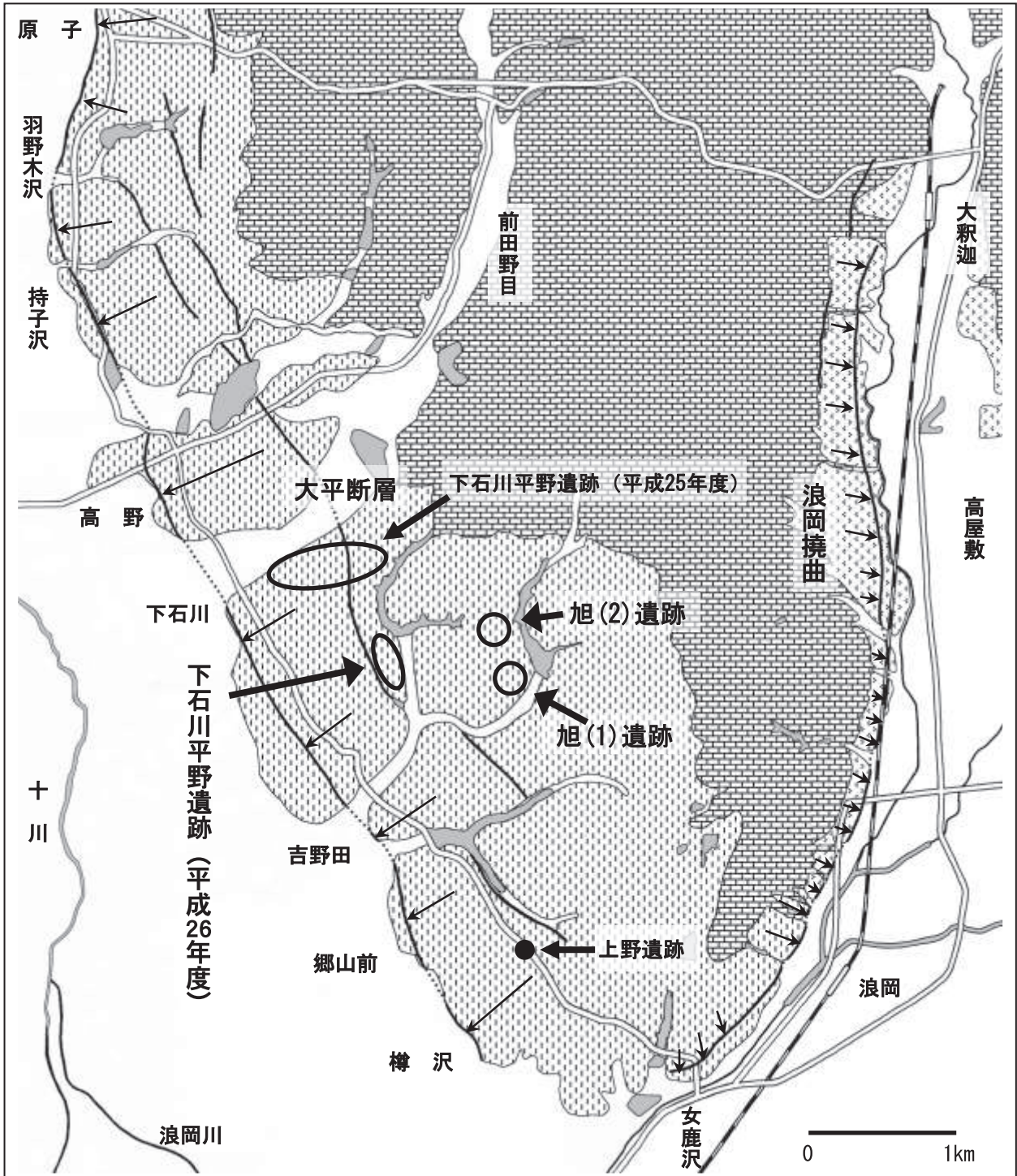
これまでの調査結果から、この地域に分布する高位段丘を覆う地層の最上部では、黒～黒褐色土層の下位に十和田八戸テフラの再堆積層が発達する。ただし、この再堆積層は岩相や色調が異なる3つの層からなり、その違いの原因は不明である。最上位の黄褐色砂質火山灰層はどこでもふつうに見られるが、他の2層は場所によって欠落する。大平断層の西側と東側で、特に大きな違いは見られない。

引用文献

細野 衛・佐瀬 隆(2015)黒ボク土層の生成史：人為生態系の観点からの試論。第四紀研究, 54(5), p. 323 - 339.
長森英明・宝田晋治・吾妻 崇(2013)青森西部地域の地質。地域地質研究報告(5万分の1地質図幅)。産総研地質調査総合センター, 67p.

島口 天(2010)上野遺跡の地形と地質。青森県埋蔵文化財調査報告書 第486集 上野遺跡Ⅱ, 青森県埋蔵文化財調査センター編, 青森県教育委員会, p. 8 - 10.

島口 天(2015)下石川平野遺跡及び周辺地域の地形と地質。青森県埋蔵文化財調査報告書 第556集 下石川平野遺跡, 青森県埋蔵文化財調査センター編, 青森県教育委員会, p. 13 - 15.



【凡例】






- | | |
|---|--|
|  磯田山層・八甲田第1期火砕流堆積物・前田野目層 |  高位段丘堆積物 |
|  低位段丘堆積物 |  断層 (点線は伏在部分) |
|  活撓曲 (矢印の長さは変形の範囲) | |
- [長森ほか(2013)を元に作成]

図4 段丘分布図

第2編 下石川平野遺跡

第1章 調査方法と調査経過、基本層序

第1節 下石川平野遺跡での調査方法

下石川平野遺跡での発掘調査方法は、原則として「第1編第2章 共通する調査方法」で記した方法を用いている。

〔測量基準点・水準点の設置・グリッド設定〕下石川平野遺跡で使用した、主な基準点の国土座標値(世界測地系)及び標高値等の一覧表は表2に示した。また、調査路線(農道)と公共座標軸との位置関係や基準主要点、グリッドの設定状況・名称については各遺構配置図に示す。農道30号遺構配置図は図9に、農道31号遺構配置図は図49にある。

表2 農道30・31号 主要点の国土座標値及び標高値一覧

地区名	点 名	国土座標値 (世界測地系・JGD2011)		標高値 (m)
		X	Y	
農道30号	N0.1	80975.164	-24365.942	-
	N0.5	81044.994	-24327.334	-
	N0.6	81064.051	-24321.289	-
	N0.10	81140.015	-24298.421	-
	T-3	81027.762	-24339.654	38.654
	T-5	81132.054	-24308.808	39.366
	T-6	80994.103	-24350.248	37.657
	L26	81142.462	-24301.205	38.444
農道31号	K-1	81092.969	-24309.896	39.142
	N0.1	81029.367	-24312.784	-
	N0.3	81033.049	-24272.954	-
	N0.4	81027.594	-24256.703	-
	N0.6	80987.897	-24251.794	-
	N0.9	80928.35	-24244.431	-
	N0.11	80888.652	-24239.521	-
	31BP	81027.526	-24332.699	-
	31R16	80967.655	-24252.516	-
	T-2	81033.22	-24325.335	38.432
	T-4	81029.086	-24280.471	37.934
	R-12	81028.305	-24260.012	37.375
	31SN0.0	80876.886	-24240.515	-
31SN0.1	80873.978	-24260.302	-	
31SN0.2	80882.095	-24275.294	-	

※各点の位置は、各遺構配置図に示している。

第2節 発掘調査の経過

〔平成26年度〕

- 4月上旬 青森県東青地域県民局地域農林水産部水利防災課、青森県教育庁文化財保護課と打合せを行い、今年度調査対象とする路線や発掘作業の進め方、障害物の有無等について確認した。
- 5月下旬 農道30号西側付近の空き地を借地し、調査事務所、器材庫、発掘作業員休憩所や仮設トイレの設置、駐車場の整備等、事前の準備作業を行った。最初に調査着手する農道31号には、調査時の迂回路となる鉄板を敷設した。
- 6月3日 前の調査地である旭(2)遺跡から発掘器材等を調査事務所や器材庫に搬入し、環境整備を行った。調査区の確認後、農道31号南側にトレンチを設定し、粗掘り作業に着手した。
- 6月上旬 トレンチ調査によって遺構確認面までの深さを確認できたことから、31-30グリッド以南部分の砂利を含む表土について、重機を使用して除去した。その結果、竪穴建物跡や土坑など多数の遺構が存在することが判明し、早速遺構精査に着手する。測量基準点・水準点は工事用のものを使用し、必要に応じて調査区周辺に移設、増設した。
- 6月中旬～7月上旬 深さのある遺構が多く、カマドの遺存状態が良好であるものも多いことから、遺構精査に時間を要した。また、確認面で約0.7～1m、深さ約1mで柱痕を有する大型のピットが複数検出され、出土遺物等から縄文時代の遺構のものと推測されたことから、平安時代のみならず縄文時代の遺構も視野に入れて調査を進めることに留意した。

- 7月中旬 31-12~30グリッド付近の表土を除去し遺構確認したところ、この部分にも多くの遺構が重複した状態で存在することが判明したため、当面、遺構精査範囲を拡大せず、遺構精査に専念して終了面積を拡大することを目指した。
- 7月下旬~8月上旬 農道調査と並行して流末水路の調査を行い、写真撮影、地形測量、遺構と基本土層の精査を行った。31-12~16グリッドでは、遺構の重複が激しい上、迂回路の振り替えが必要なため道路幅の半分、約2.2~2.5mの幅で遺構精査を2回行わなければならないため手間と時間を要した。8月12日には空中写真撮影を株式会社シン技術コンサルに委託し、農道30・31号の全景と農道31号15グリッド以南の遺構群等の空中写真を撮影する。
- 8月下旬 31-17グリッド以南の遺構精査に目処が立ってきたことから、31-12グリッド以西部分の表土除去及び遺構精査に着手した。
- 9月上旬 旭(1)遺跡農道35号の調査が終了したことから発掘作業員を下石川平野遺跡に移し、9月の一ヶ月間は2チーム分の作業員で調査を進めることとした。鉄板を敷いて駐車場を拡大し、発掘作業員休憩所・トイレ等を増設して調査環境を整えた。農道30号18~30グリッド付近にも鉄板を追加敷設して迂回路を設定し、表土を重機で除去して遺構確認を行った。この部分では土坑や溝跡が多く、竪穴建物跡は少ないことが判明した。
- 9月中旬~下旬 農道31号では、迂回路の振り替えを要していた1~15グリッド部分の調査を残すのみとなっており、農道30号へ調査の主軸を移していった。農道30号では迂回路を確保しながらの調査であるため、調査が終わった部分は埋め戻し、そこに鉄板を敷いて迂回路とし、元の迂回路部分の表土除去、遺構確認・精査を繰り返していった。また、起点部にある沢部についてトレンチ調査を行った。遺構・遺物とも希薄で、壕などの遺構である可能性も認められないことから、崩落等の危険を回避するため早急に埋め戻した。
- 10月上旬 農道31号の調査をすべて完了したため、埋め戻して碎石を敷設し、原状に復した。農道30号の北端部分では、攪乱を除去した下層から土坑・溝状土坑が検出された。
- 10月中旬 30-33~41グリッドで竪穴建物跡がまとまって検出されたが、掘り込みが浅く遺存状態があまり芳しくないことと、遺物も少なかったことから、比較的順調に調査を進めることができた。一方南側の30-7~13グリッドでも竪穴建物跡や溝跡などがまとまることが判明し、急ピッチで精査を進めた。
- 10月下旬 竪穴建物跡や溝跡などが重複する30-7~13グリッドの精査を最後まで行った。調査と並行して、出土遺物や図面類・記録データなどの収納、調査器材等の洗浄や梱包などの片付け作業を行った。
- 10月31日 出土遺物、記録類、調査器材等をトラックにて搬出し、調査区の埋め戻し作業、碎石の敷き均し作業等、農道の復旧作業を行った。なおプレハブ・鉄板の撤収作業等は11月上旬に終了し、下石川平野遺跡の調査を完了した。
- 12月 農道30・31号の竪穴建物跡や土坑、溝跡から出土した炭化材及び種実について、株式会社パレオ・ラボへ放射性炭素年代測定を委託した。

第3節 地形と基本層序

1 下石川平野遺跡の地形

下石川平野遺跡の発掘調査は、平成25年度に遺跡北西部の農道23・24号と配水管12～14号を、平成26年度には遺跡南東部の農道30・31号が調査対象区域となった。なお平成27年度は遺跡中央部を縦断する農道27号と配水管16号などが調査区である。

平成26年度の調査対象区は農道30・31号で、津軽半島の南東部にある梵珠山(標高468m)の裾野に広がる高位段丘上に下石川平野遺跡があり、東側は入り組んだ開析谷に面している。開析谷途中には堰堤が築かれ、梵珠山の伏流水が堰き止められて三太溜池を形成しており、農業用水として利用されている。

農道30号は南南西から北北東へ延びる蛇行する調査区で、北西から南東へわずかに傾斜する標高約37～40mの丘陵裾野を横切り、南東部は標高約34mまで下がる沢を乗り越えている。

農道31号は農道30号の東側に位置し、東側へ約75m直線的に延びたところで南へ直角に折れ、約160m尾根伝いに延びている。そこから西へ流末水路が約40m延びて開析谷の支谷へ落ちていく。農道部分の標高は約36.5～37.5mで、流末水路の標高は約35.0～36.5mである。

2 基本層序

下石川平野遺跡における基本層序は、次の4カ所で精査・確認した。丘陵頂部では農道31号の31-20グリッド及び31-36グリッド、丘陵縁辺部では農道31号の31-R6グリッド、開析谷の支谷では農道30号南端の沢部分で精査を行った。農道30号南端の沢については、次項で調査状況や形成時期等について詳述する。

丘陵頂部では、リング畑の造成や耕作等によって第Ⅱ～Ⅲ層が失われているのが大半で、表土直下で遺構確認面であることが多い。ただし、30-20～23グリッド付近や31-1～8グリッド付近などの埋没した沢筋では黒色土の堆積が厚いため、これら第Ⅱ～Ⅲ層が遺存しているものの、湿気がたまりやすく、遺構や遺物が希薄な地域となっている。各土層の特徴等は次のとおりである。

第Ⅰ層 10YR2/2 黒褐色土

現在もしくはかつての表土で、草根多くみられる。地点によっては10YR3/1～10YR2/3の黒褐色土の色調を呈する。また、現農道部分では碎石(砂利)が本層に相当し、時期・構成物によって細分されるものは第Ⅰa層、第Ⅰb層に区別した。

第Ⅱ層 10YR3/1～10YR2/3 黒褐色土

地点によっては黒色土(10YR1.7/1)を呈する。白頭山苦小牧火山灰を含む平安時代の土層とみられるが、丘陵上ではほとんど削平されており、埋没した沢筋や農道30号南端部の沢などで確認できた。

第Ⅲ層 10YR2/1 黒色土

縄文時代から古代までの土層とみられるが丘陵上では削平されているところが多く、埋没した沢筋や農道30号南端部の沢などで確認できた土層である。

第Ⅳ層 10YR3/3～10YR3/4 暗褐色土

シルト質の第Ⅲ層とローム質の第Ⅴ層との漸移層であり、本層で大半の遺構が確認された。丘陵上や現農道部分では、表土を除去するとすぐ本層が表出する場合が多い。

第V層 10YR5/6～10YR5/8 黄褐色土

いわゆるローム層であり、本層上面が最終遺構確認面である。

第VI層 7.5YR6/6 橙色土

ローム層で、地点によっては砂粒が含まれたり水分の影響で粘土化している部分もある。下位は黄褐色(10YR5/6)の色調を呈する。

3 農道30号南端部の沢

農道30号の南端には沢が存在する。現地形では緩い沢状地形となっており、調査区の西側に隣接して沢頭が確認できる。北西から南東方向に開析しており、現在も水が流入するため、排水のための土側溝が設けられている。遺構が確認された平坦面との比高は調査区内で約3.5～4.0mである。

調査は、調査区への進入路の確保および作業の効率化のためトレンチ調査とした。トレンチは、調査区を横切って設置されている水路を妨げない4か所(「沢トレンチ1」～「沢トレンチ4」、以下「T1」～「T4」)を設定した。調査の結果、T1～3で旧地形が確認でき、T4では地山直上の堆積土にアスファルトなどの廃棄物が含まれていたことから、攪乱を受けていると判断した。なお、水路の保持および作業の安全確保のため、沢底の検出には至っていない。検出した旧地形の地表面から深さは最深でT1が約1.7m、T2が1.5m、T3が2.0mである。T1最深部では常時湧水が認められる。地表面から30～60cmの深さまでは、現代の攪乱による堆積が認められるものの、それ以下には、遺存状態が良好な堆積層が認められた。下位には均質な黒色土が堆積し(T1・2-4層、T3-13層)、T3-13層からは、縄文土器片(図8-1)が出土している。地表面に発達した黒ボク土が流入し、堆積したものと考えられる。黒色土の上面には火山灰を含む堆積(T1・T2-3層、T3-9層)が認められ、その上位には黒褐色土が堆積する。下位層が均質な黒色土であるのに対し、上位層には第V層由来土が含まれる。しかしながら、ブロックではなく漸移的な様相を呈することから、上位も自然堆積の可能性が高い。なお、T3では火山灰層の下位にも上位層と同様の堆積が薄く認められる(T3-10・11層)。上位層と下位層の堆積様相の差異は、流入土の変化を示しており、火山灰降下の少し前に周辺環境が変化した可能性が示唆される。堆積様相が変化する時期は、集落の形成時期と合致することから、集落形成に伴う土地利用の変化との関連性が窺われ、建物の構築や平坦地の造成などの理由により、第V層が表出したことに起因する可能性が指摘できる。

なおT1-3層及びT3-9層は火山灰分析を行っており、T1-3層は白頭山苦小牧火山灰を、T3-9層は白頭山苦小牧火山灰及び十和田a火山灰をそれぞれ含む土層、との結果を得ている(第6編第1章第1節)。T1-3層はT2-3層と同一層とみられ、これらとT3-9層がともに平安時代、とりわけ10世紀前半頃の土層であることが確認された。

沢の形成については、現状でも水の集約が見られることから、規模の大小はあるものの、現在に至るまで開析は進んでいたものと考えられる。しかし、堆積土に不整合面が認められないことから、大規模な出水による浸食は想定し難く、下位層(T1・2-4層、T3-13層)の堆積が始まった段階で、堆積の進行が開析の進行を上回り、徐々に埋積が進んだものと推定される。なお、沢の開析時期および埋積開始時期は特定しがたい。しかしながら少なくとも古代には、沢の埋積がある程度進んでいたものの、明らかに沢と認識できるような地形であったと推定される。

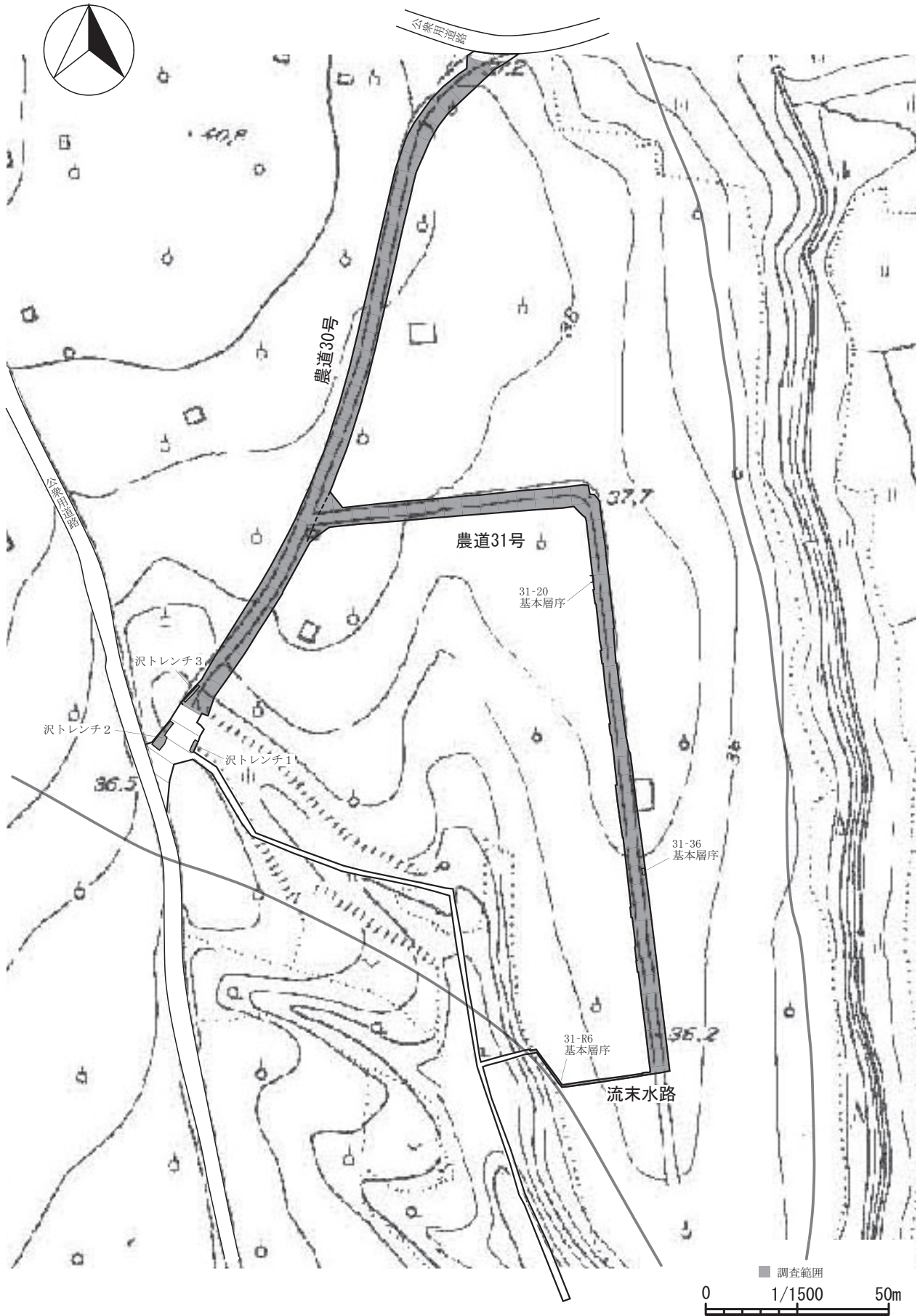
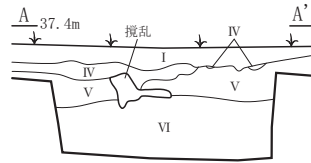


図5 農道30・31号 地形図

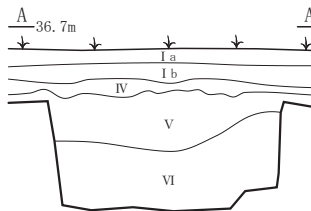
31-20基本層序



31-20基本層序

I	10YR2/2	黒褐色土	表土。草の根多い。ローム粒(φ1~10mm)7%。
IV	10YR3/4	暗褐色土	漸移層。しまりなし。
V	10YR5/8	黄褐色土	ローム層。乾燥時は堅くしめるが、湿るともろく柔らかい。明黄褐色ローム粒(φ3~20mm)5%。
VI	7.5YR6/6	橙色土	ローム質だが砂粒が含まれる。しまりややあり。本層上部5~15cmほどは水分の影響か粘土化しており、7.5YR6/4にぶい橙色土を呈している。下位はマンガンの凝集が顕著にみられる。

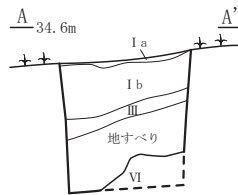
31-36基本層序



31-36基本層序

Ia	砂利層	現在の表土相当層。
Ib	10YR3/1 黒褐色土	旧表土。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
IV	10YR3/3 暗褐色土	漸移層。10YR3/1黒褐色土20%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~30mm)15%。
V	10YR5/6 黄褐色土	遺構確認面。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~30mm)15%、10YR4/4褐色土10%、10YR3/1黒褐色土2%。
VI	7.5YR6/6 橙色土	10YR5/4にぶい黄褐色粘土15%、粘土化する7.5YR6/4にぶい橙色土が層全体ラミナ状にみられ攪拌されている印象がある。

31-R6基本層序



31-R6基本層序

Ia	10YR2/3 黒褐色土	表土。本層下面にビニール等含まれる。根多い。ローム粒(φ1mm)1%。
Ib	10YR2/2 黒褐色土	旧表土。りんご畑の造成にともなって盛られた可能性あり。ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
III	10YR2/1 黒色土	縄文時代後期以降の黒色土と思われる。台地中央部は削平等によって失われており、斜面下方の西側付近でのみ確認できる。シルト質しまりなくやわらかい。ローム粒(φ1~3mm)1%。
地すべり	10YR4/4 褐色土	III~V層(シルト質とロームの混合土)が攪拌されて互層状に堆積している。下面の凹凸が激しく、その範囲が6m以上続くことから、風倒木よりも規模の大きい地すべりの可能性がある。
VI	10YR5/6 黄褐色土	10YR5/8黄褐色土40%、ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。全体的にマンガンの凝集がみられることから、31-20 ⁷ リ、31-36 ⁷ リの基本層序の第VI層の下部に相当すると思われる。

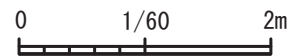


図6 基本層序

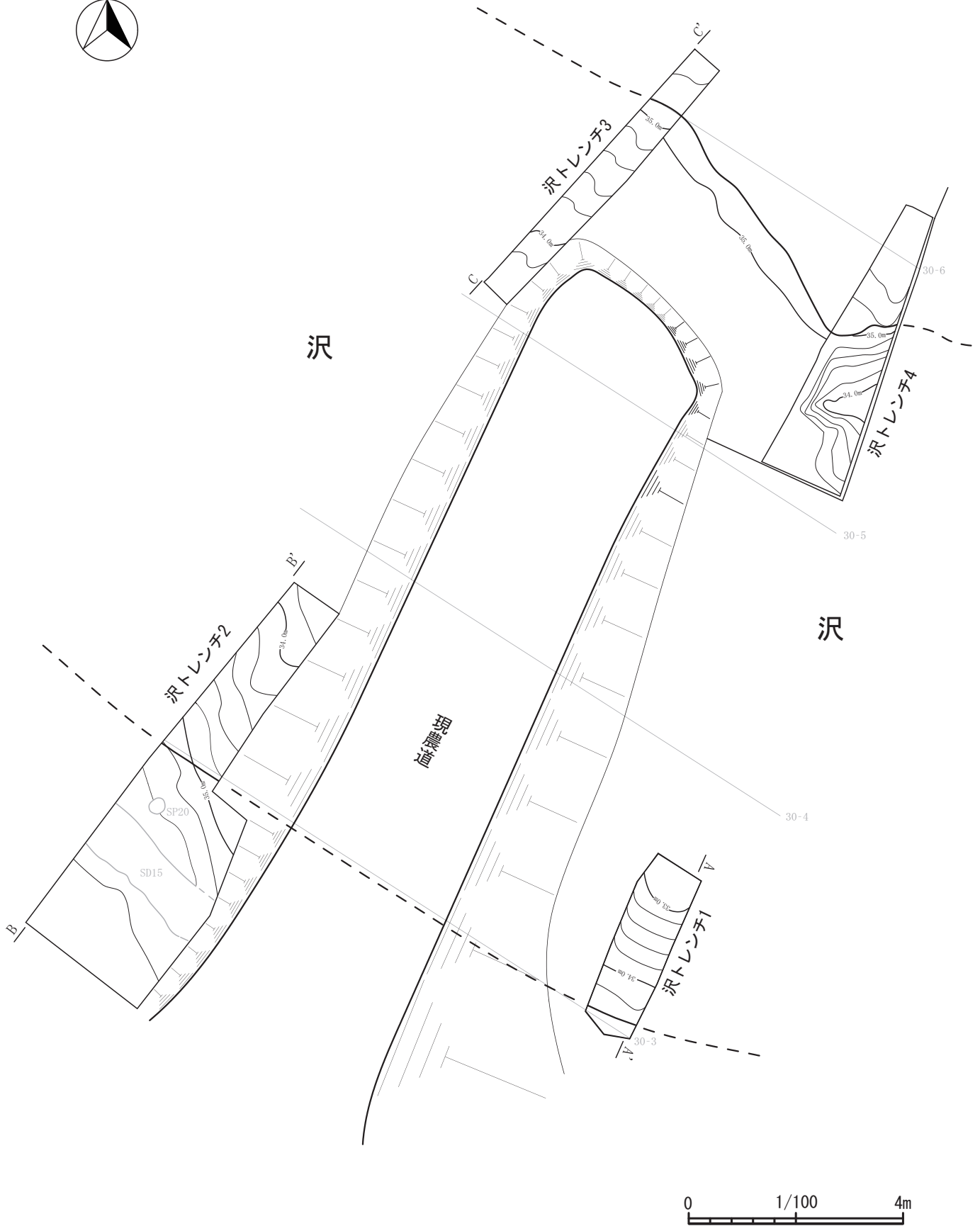
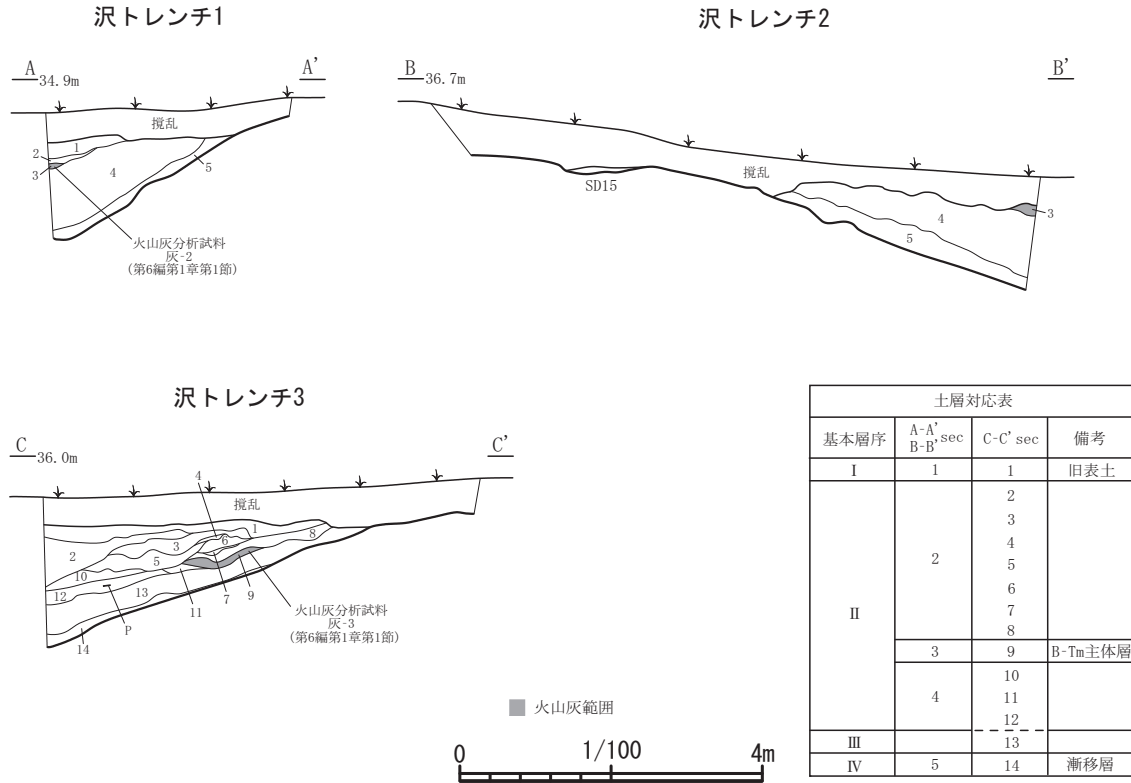


図7 沢(1)



沢トレンチ1・2(A-A'・B-B')

- 1層 10YR2/1 黒色土 10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)1%。
- 2層 10YR3/1 黒褐色土 10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
- 3層 10YR3/1 黒褐色土 10YR7/6明黄褐色B-Tm20%。
- 4層 10YR1.7/1 黒色土 5YR5/6橙褐色土(φ1~5mm)1%、10YR8/6黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
- 5層 10YR3/1 黒褐色土 10YR8/6黄褐色ローム粒(φ1~10mm)6%。

沢トレンチ3(C-C')

- 1層 10YR3/2 黒褐色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)1%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1~10mm)1%。
- 2層 10YR2/1 黒色土 7.5YR5/8明褐色土(φ1~5mm)1%。
- 3層 10YR3/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~15mm)3%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- 4層 10YR3/1 黒褐色土 10YR4/3にぶい黄褐色ローム粒3%。
- 5層 10YR3/1 黒褐色土 10YR5/4にぶい黄褐色ロームブロック10%、10YR6/8明黄褐色土(φ1~20mm)1%。
- 6層 10YR3/3 暗褐色土 7.5YR5/8明褐色土(φ1~5mm)1%。
- 7層 10YR3/1 黒褐色土 10YR2/1黒色土30%。
- 8層 10YR3/3 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色土1%、10YR8/6黄褐色ローム粒(φ1~15mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- 9層 10YR2/3 黒褐色土 B-Tm含む。B-Tm(φ10~100mm)30%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~15mm)3%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- 10層 10YR2/2 黒褐色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
- 11層 10YR2/3 黒褐色土 10YR8/6黄褐色ローム粒(φ1~20mm)3%、7.5YR6/8橙色土(φ1~10mm)1%。
- 12層 10YR3/1 黒褐色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
- 13層 10YR2/1 黒色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
- 14層 10YR2/2 黒褐色土 漸移層。

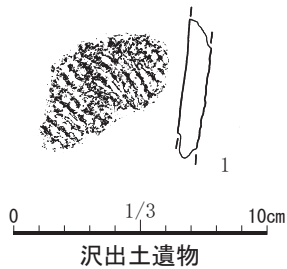


図8 沢(2)

第2章 農道30号の検出遺構と出土遺物

農道30号は、長さ約210m、幅約5.5mで、合計1,290㎡を調査した。

調査区は南北に細長く延びる形状で、南側調査区内に沢地形が存在し、北側調査区域外には開析谷を堰き止めて造られた三太溜池が存在している。そのため、調査区の南北端はそれぞれ沢や溜池へと下る緩やかな斜面地となっている。その他の大部分は北側から南側へやや傾斜がみられるものの概ね平坦な地形であった。

調査区南端の沢地形が存在した場所では、トレンチ調査を先行した。その結果、沢地形は、遺跡の主体となる平安時代には存在していたことが確認できたが、遺構は確認されず、遺物も土師器と縄文土器の破片が1点ずつ出土したのみであったことから、この区域の調査はトレンチ調査で終了し、約150㎡について面的な調査は実施していない。北端では、開析谷への落ち込みは調査区内には存在しなかったため、面的に調査を行っている。

検出された遺構とその略称は、下記のとおりである。

竪穴建物跡(SI)	9棟(いずれも平安時代)
柱穴(SP)	43基 ※単独のもののみ
土坑(SK)	22基(いずれも平安時代)
溝跡(SD)	17条
溝状土坑(SV)	2基

縄文時代の遺構は、調査区北端で確認した溝状土坑2基のみである。平安時代の遺構は調査区全体にみられるが、竪穴建物跡は調査区北側と南側に分かれて分布しており、調査区中央部には認められない。調査区中央部には溝跡が主体的に分布している。なお、比較的傾斜が強い調査区南側の30-9グリッド以南、および調査区北側の30-38グリッド以北では、農道に伴うとみられる攪乱が地山面まで及んでいた。検出した遺構は希薄な状況であったが、本来は存在していた遺構が攪乱を受けて削平された可能性もある。

農道30号から出土した遺物は、土器類10箱、石器類1箱、鉄製品類1箱の合計12箱で、大半は平安時代の遺物で、縄文時代の遺物はごく少量である。

以下に各遺構の詳細を記載していくが、下記の遺構は整理作業等に伴って名称を変更した。

- 第19号土坑(SK19) → 攪乱であることが判明したため欠番
- 第7号溝跡(SD07) → 第5号溝跡(SD05)に統合したため欠番

第1節 検出遺構

1 竪穴建物跡

平安時代の竪穴建物跡が9棟検出された。これらの竪穴建物跡は、標高がやや低い調査区中央部では確認されておらず、沢や開析谷に面した丘陵上である調査区の北側と南側で分布が認められた。

第1号竪穴建物跡(SI01、図10・36)

[位置・確認] 調査区北側、30-37・38グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.5~38.7m、第V層で確認した。他遺構との重複関係は認められなかったが、風倒木痕の上部に構築されている。

[平面形・規模] 南東側が調査区域外に延びているため遺構の全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北西壁3.3m、深さ11cm、北東壁(2.2)m、深さ20cm、南西壁(3.1)m、深さ18cmを測る。いずれの壁も垂直に立ち上がる。カマドは検出されていないが、南東側にカマドがあるとすれば建物の軸方向はN-141°-Eである。

[床面・壁溝] 床面の大半には貼床(7層)が施されて平坦に整えられているが、風倒木痕と重複しない南側部分では地山(第V層)をそのまま床面としている部分もある。壁溝は幅4~12cm、深さ2~26cmで、壁際を全周するように巡らされているようである。

[柱穴] 調査区域内では検出されなかった。

[カマド] 調査区域内では検出されなかった。調査区南東側の壁際で粘土範囲を確認していることから、この粘土範囲に隣接した調査区域外に存在する可能性がある。

[その他の施設] 調査区域内では検出されなかった。

[堆積土] 全体的に黒褐色土または暗褐色土が主体で、ロームブロックやローム粒、炭化物などが混入している。床面上には自然堆積層が認められないことから、廃絶後、早い段階で人為的に埋め戻されたものと推測される。

[出土遺物] 土師器、須恵器、縄文土器が出土した。このうち、土師器甕(2)・埴(3)、須恵器坏(4)を図示した。2と3は床面の直上から出土している。4の須恵器は還元軟質焼成である。

[小結] 出土遺物と堆積土の様相から、10世紀前半頃には廃絶していたと考えられる。

第2号竪穴建物跡(SI02、図11・12・36)

[位置・確認] 調査区北側、30-34・35グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.6~38.7m、第V層で確認した。上部は大きく削平されており、検出時には堆積土はほとんど残存せず、壁溝のプランが露出した状態であった。SI03と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 西側半分以上が調査区域外にあるため遺構の全容は不明であるが、方形を呈すると推定される。壁長は、北東壁(2.7)m、南東壁6.4m、南西壁(3.0)mを測る。上部からの削平のため、壁の立ち上がりは確認できなかった。建物の軸方向はN-103°-Eである。

[床面・壁溝] 調査区西壁で確認した土層の堆積状況から、貼床(8層)により床面を平坦に整えていたとみられるが、削平により床面が残存していない部分もあった。壁溝は幅20~46cm、深さ4~28cmで、カマド部分ではわずかに途切れているが、壁際を全周するように巡らされているとみられる。

[柱穴] 竪穴内部で2基(Pit 1・4)検出された。この2基が主柱穴になるとみられるが、柱の配置状況は不明である。各柱穴の規模と平面形は、Pit 1は51×40cmの楕円形、深さ53cm、Pit 4は59×52cmのほぼ円形、深さ58cmである。Pit 4では土層断面で柱痕を確認した。図示していないが、Pit 1とPit 4から土師器の細片がごく少量出土している。

[カマド] 東壁の北寄りに検出された。一旦掘削した壁溝の一部を埋め戻し、その上部に構築している。後世の削平により遺存状態は悪く、火床面とみられる焼土範囲と袖の一部だけが残存した。袖部

は粘土で構築されているが、残存高は5cmほどのため詳細は不明である。芯材が用いられていたかどうか不明である。袖の内側には被熱による赤色化が確認できた。焼土範囲の奥側で、支脚として使用していたと思われる土師器甕の体部が出土している。出土状態から逆位で設置されていたとみられるが、底部は削平により残存していなかった。また、被熱と後世の攪乱などによって細かくひび割れており、遺物取り上げ後は復元が困難であったことから図示はしていない。燃焼部には70×50cmの焼土範囲が検出された。明確な煙道部は確認されなかったが、カマドに接する竪穴外で検出したPit 2・3が煙道に関連した施設とみられる。それぞれの規模は、Pit 2は45×29cm、深さ16cm、Pit 3は54×38cm、深さ26cmである。2基とも楕円形の形状で、比較的浅い。

[その他の施設] 竪穴内部でPit 1基(Pit 5)が検出された。カマドの掘方を精査中に検出したことから、古い時期の柱穴、もしくは別遺構とも考えられる。規模と平面形は、37×30cmの楕円形、深さ17cmである。また、土坑3基(SK 1～3)を検出した。各土坑の規模と平面形は、SK 1は81×58cmの楕円形を呈し、深さ11cmを測る。SK 2は壁溝の上端を壊して構築している。69×68cmの円形を呈し、深さ36cmを測る。SK 1・SK 2ともに堆積土にロームブロックや焼土などを多く含んでおり、人為的に埋め戻されている。カマド周辺に位置し、焼土を多く含むことから、カマドに伴う廃棄土坑の可能性が考えられる。SK 3は調査区西壁際にあり、半分以上が調査区域外にあるとみられる。遺構の全形は不明で、機能も不明である。調査区内で確認した規模は、南北長(142)cm、東西長(36)cmで、調査区壁で確認した深さは50cmを測る。SK 1とSK 2からは土師器や須恵器がごく少量出土しているが、SK 1とSK 2または建物の堆積土から出土した遺物と接合するものがあることから、SK 1・SK 2ともに建物廃絶時に埋め戻された可能性が高い。

[堆積土] 全体的に黒色土または黒褐色土が主体となっており、ローム粒や炭化物が若干混入している。人為的に埋め戻された様相が強いとみられるが、堆積土の残存状況が悪いため詳細は不明である。9層(A-A')は、本遺構構築以前の別遺構と考えられる。

[出土遺物] 建物の堆積土から土師器、建物内のピット及び土坑から土師器と須恵器が出土している。このうち、土師器坏(5・6)・小甕(7)・甕(8～10)を図示した。6はSK 1とSK 2から出土した遺物が接合した土師器坏で、内外面ともに被熱している。8はSK 1、SK 2の他、壁溝やカマドの袖部分から出土した遺物が接合した土師器甕で、本来は袖の構築部材として利用されていた可能性もある。袖構築部材であったとすれば、廃絶時にカマドが大きく壊されたとみられる。9と10は土師器甕で、建物堆積土とSK 2から出土した遺物が接合している。9は底外面に木葉痕が残る。

[小結] 出土遺物と重複関係、堆積土の様相から、9世紀後葉～10世紀初頭には廃絶していたと考えられる。

第3号竪穴建物跡(SI03、図13・36)

[位置・確認] 調査区北側30-35・36グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.6～38.7m、第V層で確認した。SI02と重複し、本遺構が新しい。上部は大きく削平されており、検出時には建物の堆積土はほとんど残存せず、壁溝プランが露出していた。

[平面形・規模] 南西側が調査区域外にあるが、平面形は3.4×3.3mのほぼ方形とみられる。壁長は、北西壁(0.9)m、北東壁3.4m、南東壁3.3m、南西壁(1.3)mを測る。壁の立ち上がりは確認できなかつ

た。建物の主軸方向はN-145° - Eである。

[床面・壁溝] 床面は貼床(2層)によって平坦に整えられている。壁溝は幅8~21cm、深さ2~13cmで、カマド部分は途切れているが、壁際を全周するように巡らされているとみられる。

[柱穴] 壁溝のコーナー部分で3基(Pit 1・2・5)、その中央部で2基(Pit 3・4)の合計5基を検出した。いずれも柱痕は確認されなかった。各柱穴の規模は、Pit 1は24×18cm、深さ20cm、Pit 2は14×20cm、深さ20cm、Pit 3は23×11cm、深さ10cm、Pit 4は17×12cm、深さ10cm、Pit 5は24×22cm、深さ20cmを測る。平面形は、Pit 3が楕円形、それ以外はほぼ円形である。いずれの柱穴からも遺物は出土していない。

[カマド] 南東壁の南寄りに検出された。後世の削平により遺存状態は悪く、火床面と袖の一部だけが残存した。袖部は粘土(2層)で構築されているが、残存高は6cmほどのため詳細は不明で、芯材が用いられていたかどうか不明である。火床面は34cm×33cmで、深さ3cmまで被熱が及んで赤色化、硬化していた。火床面の奥側で支脚として使用していたとみられる土師器甕の体部破片が出土しているが、底部は上部からの削平により残存しておらず、残存状態が良くなかったため図示はしていない。煙道部は検出されなかった。

[その他の施設] 調査区域内では検出されなかった。

[堆積土] ロームや粘土ブロックが混入した黒褐色土1層を確認した。人為的に埋め戻されたものとみられるが、残存状況が悪く、詳細は不明である。

[出土遺物] 土師器と須恵器が出土しており、このうち土師器甕(11・12)と須恵器甕(13)を図示した。11は床面直上、12はカマドの周辺部、13は貼床から出土している。

[小結] 出土遺物と重複関係、堆積土の様相から、10世紀前半頃には廃絶していたと考えられる。

第4号竪穴建物跡(SI04、図14・37)

[位置・確認] 調査区北端、30-40・41グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.8~38.1m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 削平により北東壁の立ち上がりは確認できなかったが、平面形は約3.1×2.5mの方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁(2.1)m、南東壁2.8m、深さ26cm、北西壁(3.1)m、深さ5cm、南西壁2.5m、深さ19cmを測る。建物の主軸方向は概ねN-149° - Eである。

[床面・壁溝] 床面は貼床(4層)によって概ね平坦に整えられている。中央部が若干低くなっているが、後世の農道利用に伴う影響の可能性が大きい。壁溝は北西壁と南西壁で部分的に検出された。規模は、幅16~24cm、深さ1~7cmである。

[柱穴] 南西コーナーで1基(Pit 1)検出した。規模と平面形は、36×27cmの円形、深さ30cmを測る。柱痕は確認できなかった。位置的に主柱穴になる可能性が高いが、その他の柱穴が検出されておらず、主柱穴の配置状況は不明である。

[カマド] 南東壁の南寄り、煙道の一部と、カマドに伴うと考えられる炭化物や焼土が広がる範囲を検出した。燃焼部にあたるとみられる場所には袖などの構築物は残存しておらず、明確な火床面も検出されなかったことから、カマドは大きく壊されていると考えられる。煙道部は調査区外へと延びており、全長は不明である。軸方向はN-130° - Eで、幅は約35cmである。

[その他の施設] 南西壁際で土坑2基(SK1・2)を検出した。各土坑の規模と平面形は、SK1は58×45cmの楕円形、深さ15cm、SK2は52×46cmのほぼ円形、深さ21cmを測る。ともに機能は不明である。遺物は出土していない。

[堆積土] ローム粒や焼土、炭化物が多く混入する黒褐色または暗褐色土が主体で、人為的に埋め戻されているとみられる。貼床は暗褐色土と地山ロームとの混合層である。

[出土遺物] 土師器と須恵器が出土している。このうち、土師器坏(14)・小甕(15)・甕(16)を図示した。遺物の多くは焼土・炭化物範囲とその北側に近接した範囲の、比較的上層部分から出土している。15は土師器小甕で、カマドがあったとみられる焼土・炭化物範囲の床面に近い場所から出土した遺物と、その周辺の堆積土から出土した遺物が接合している。16は堆積土の上層から破片が比較的まとまった状態で出土した遺物である。

[小結] 出土遺物と堆積土の様相から、10世紀前半頃には廃絶していたと考えられる。

第5号竪穴建物跡(SI05、図15)

[位置・確認] 調査区北側、30-38・39グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.3~38.5m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。上部は大きく削平されており、検出時に建物の堆積土はほとんど残存せず、壁溝と掘方のプランが露出していた。

[平面形・規模] 南東側の大部分が調査区域外にあるため遺構の全容は不明であるが、方形を呈すると推定される。掘方からみた壁長は、北東壁(1.2)m、北西壁(4.0)m、南西壁(1.5)である。調査区壁の土層でのみ壁の立ち上がりを確認した。壁下位はほぼ垂直に、上位はやや開いて立ち上がる。カマドは検出されていないが、南東側にカマドがあるとすれば建物の軸方向はN-124°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は貼床(8層)によって概ね平坦に整えられていたとみられるが、後世の削平のため床面はほとんど残存していなかった。壁溝は北西壁および北東壁で、幅8~10cm、深さ6~14cmで残存していた。

[柱穴・カマド・その他の施設] いずれも調査区域内では検出されなかった。

[堆積土] ロームブロック、ローム粒混じりの黒褐色土が主体で、人為的に埋め戻されているとみられる。また、調査区壁際の南部で、63×(25)cmの範囲で広がる粘土の堆積層(3層)が検出された。カマド及びその周辺に伴う堆積土の可能性もあるが、詳細は不明である。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

[小結] 堆積土の様相と周辺遺構の年代から、10世紀前半頃には廃絶していた可能性が高いと考えられる。

第6号竪穴建物跡(SI06、図15・37)

[位置・確認] 調査区南側、30-6・7グリッドに位置する。遺構確認面の標高は35.8~36.5m、第IV層で確認した。

[平面形・規模] 南東部分が調査区外に位置し、北西部分は道路造成時に削平されており、残存範囲は狭小である。残存部分の長軸は(4.5)m、竪穴の本来の規模は推定しがたい。壁は北東壁の一部のみを検出した。確認面から床面の深さは約29cmである。北西壁は土層断面で確認でき、床面までの深さ

は4cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がる。カマドは検出されていないが、南東側にカマドがあるとすれば建物の軸方向はN-124° - Eである。

[床面・壁溝] 地山の黄褐色ロームを主体とする貼床(8・9層)が施されて平坦に整えられている。壁溝は検出されなかった。

[柱穴] 2基検出した(Pit 1・3)。各柱穴の規模と平面形は、Pit 1は(52)×33cmの楕円形、深さ36cm、Pit 3が43×(19)cm、半分以上が調査区域外にあるとみられ平面形は不明、深さ20cmである。主柱穴やその配置状況は不明である。

[カマド] 検出されなかったものの、調査区壁際で焼土面を検出したことから、付近にカマドが存在した可能性も考えられる。

[その他の施設] ピット1基(Pit 2)が検出された。規模は143×(62)cm、深さ22cmである。半分以上が調査区域外にあるとみられ、平面形は楕円形を呈する可能性が高い。

[堆積土] ローム粒や焼土、炭化物が混入する暗褐色土が主体である。床面上に自然堆積層が認められないことから、廃棄後、比較的早い段階で人為的に埋め戻されたとみられる。

[出土遺物] 土師器と須恵器がごく少量出土している。このうち土師器甕(17)・ミニチュア甕(18)と須恵器鉢(19)を図示した。17・19は床面直上から出土している。19の須恵器鉢は外面に刻書がみられるが、刻書部分が大きく欠損しているため刻書の内容は不明である。

[小結] 出土遺物と堆積土の様相から、10世紀前半頃には廃絶していたと考えられる。

第7号竪穴建物跡(SI07、図16・17・37・46・47)

[位置・確認] 調査区南側、30-8~10グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.7~37.3m、第IV層で確認した。SP42・SP43と重複し、本遺構が古い。30-9~11グリッドに位置するSD18は本竪穴建物跡の外周溝とみられる。遺構確認面の標高は36.8~37.4mで、第IV層で確認した。SI08と重複し、本溝跡が古い。

[平面形・規模] 西隅部分は削平(現農道の切り通し)によって遺存しておらず、南東の大半は調査区域外に延びている。調査区内で検出したのは全体の6分の1程度と推定され、本来の平面形は8m四方の方形と考えられる。壁長及び確認面から床面の深さは、北東壁(0.5)m・深さ34cm、北西壁(8.0)m・深さ23cm、南西壁(2.3)m・深さ0.4cmである。いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がる。カマドは検出されていないが、南東側にカマドがあるとすれば建物の軸方向はN-134° - Eである。

[床面・壁溝] 地山の黄褐色ロームを主体とする貼床(13層)により平坦に整えられている。壁溝は幅5~16cm、深さ5~23cmで、壁際に連続して巡らされているとみられる。

[柱穴] 5基(Pit 1~5)を検出しいずれも柱痕は確認されなかったが、規模からPit 2が主柱穴とみられる。各Pitの規模と平面形は、Pit 1が62×50cmの楕円形で深さ17cm、Pit 2が125×(77)cmの楕円形で深さ52cm、Pit 3が56×47cmの楕円形で深さ11cm、Pit 4が50×42cmの楕円形で深さ19cm、Pit 5が37×36cmの円形で深さ19cmを測る。Pit 1・3から土師器が、Pit 2から土師器と須恵器が、いずれもごく少量ずつ出土している。

[カマド・その他の施設] 調査区域内では検出されなかった。

[堆積土] ロームや焼土、炭化物が混入する暗褐色土が主体で、人為的に埋め戻されたとみられる。

[出土遺物] 土師器と須恵器の他、少量の縄文土器が出土している。このうち、土師器坏(20・21)・甕(22)、須恵器坏(23)・長頸壺(24)を図示した。21は内面に黒色処理を施した土師器坏で、Pit 2 から出土した。20・22・24は床面から出土している。

【外周溝－第18号溝跡(SD18)】

[位置・確認] 調査区南側、30-9～11グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.8～37.4mで、第IV層で確認した。位置的にSI07に付属する外周溝とみられる。SI08と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模・底面] 平面形は北側で弧状をなし、北西部分ではSI07北西壁に平行するようにやや直線的で、SI07壁からは2.5～3.5m離れるように作られたものとみられる。検出した長さは(11.4)m、幅は30～84cmで、壁は大きく開いて立ち上がる。確認面からの深さは30～58cmであるが、西側の直線部分では上部が削平や攪乱の影響で30～40cm程度と浅く、東側の弧状部分では47～58cmと深くなっている。底面の標高は10グリッドで最も高く、南西端では約16cm、北東端では約5cm低くなっていることから、東西両方向に排水がなされるよう作られたものである。

[堆積土] 最下層10層はローム主体の堆積であり、掘方である。溝堆積土は、ロームや焼土、炭化物などを含む暗褐色土と褐色土が互層状に堆積する。人為的に埋め戻されたとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と須恵器、縄文土器、砥石が出土している。このうち、土師器坏(126～129)・小甕(130)・甕(131・132)・埴(133)、須恵器坏(134・135)・鉢(136)・甕(137・138)、砥石(139)を図示した。134は外面に墨書、135は外面に刻書がみられる須恵器坏である。134の墨書は、「V」字状の記号と「王」とみられる文字の組み合わせから成る。137は須恵器甕の底部に近い部位の体部破片とみられ、内面下位には同心円状のあて具痕、上位には138と類似する平行状のあて具痕が残る。138は須恵器甕の体部破片で、内面に平行状のあて具痕跡が残る。なお、137・138は胎土分析を行っている(第6編第1章第5節参照、S-4・5)。

【小結】 出土遺物、堆積土の様相から、10世紀前半頃には廃絶していたと考えられる。

第8号竪穴建物跡(SI08、図18～20・38)

[位置・確認] 調査区南側、30-10～12グリッドに位置し、遺構確認面の標高は37.2～37.7m、第IV層で確認した。SK23、SP45・46は本竪穴建物跡に付属するものとみられる。SK22、SD17・18と重複し、SD17より古く、SK22、SD18より新しい。本遺構は農道造成時の切り通しにより、上位が大きく削平されている。

[平面形・規模] 調査区内で検出したのは全体の6分の5程度と推定され、本来の平面形は約5.6×4.7mの長方形とみられる。壁長及び確認面から床面の深さは、北東壁4.7m・深さ34cm、南東壁5.6m・深さ14cm、北西壁(0.6)m・深さ35cm、南西壁(3.4)m・深さ29cmである。いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がる。

[床面・壁溝] 床面は北東-南西方向に帯状に凹む(B-B'断面8層)。この凹みは調査区に平行に南西側へ延伸し、底面が非常に硬く締まることから、農道機能時に圧迫され凹んだものと考えられる。本建物には貼床が施されていることから、本来は平坦に整えられていたと推定される。貼床の厚さは1～28cmである。壁溝は北側で確認でき、南側では一部のみ確認した。幅は13～28cm、床面からの深さ6～23cmである。壁板の痕跡は確認できない。建物の軸方向は概ねN-133°-Eである。

[柱穴] 10基(Pit 1～10)を検出した。Pit 1・2・10で柱痕を確認し、Pit 5とともに支柱穴とみられる。各Pitの規模と平面形は、Pit 1が58×48cmの楕円形で深さ60cm、Pit 2が54×47cmの楕円形で深さ59cm、Pit 3が41×38cmの円形で深さ32cm、Pit 4が88×65cmの楕円形で深さ28cm、Pit 5が95×48cmの不整楕円形で深さ67cm、Pit 6が55×53cmの円形で深さ21cm、Pit 7が34×26cmのほぼ円形で深さ6cm、Pit 8が31×8cmの長楕円形で深さ13cm、Pit 9が73×64cmの楕円形で深さ18cm、Pit 10が55×39cmの楕円形で深さ49cmを測る。Pit 2・3、6・8・9から土師器、Pit 4・10から土師器と須恵器が、いずれもごく少量ずつ出土している。

[カマド] 南東壁の南寄りで検出された。袖部及び煙道壁は粘土で構築されている(22～27層)が、残存高は10cmほどで、遺存状態は比較的悪い。火床面は32×28cmの不整形で、深さ4cmまで被熱が確認できた。火床面の奥側で、支脚として使用していたと思われる土師器甕が左右に2点(29・32)並んだ状態で出土している。2点とも逆位で設置された状態とみられ、南西側の支脚は体部のみ残存していた。煙道は半地下式で、建物外に約130cm延びる。煙道の軸方向は概ねN-137°-Eである。幅は75～80cmほどである。

[その他の施設] 中央部やや北東寄りでSK23が検出され、規模と平面形は、223×196cmの楕円形で、深さは37cmである。底面は平坦に整えられており、壁はやや開きながら立ち上がる。堆積土はロームが混入する黄褐色土が主体で、人為的に埋め戻されている。また、南東壁外側で検出されたSP45・46は本竪穴建物跡に付属するものとみられ、SP46では柱痕を確認していることから掘立柱建物を構成する可能性が高い。ただし柱間寸法が約4.3mで広過ぎるため、その間にピットの存在を採ったものの検出されなかった。SP45・46からはそれぞれ須恵器壺片、土師器甕片が出土している。

[堆積土] 25層に分層した。ロームブロックを含む黒褐色～黄褐色土が堆積する。12層には灰が多く含まれ、19層には焼土ブロックが含まれる。1層は比較的均質であることから、自然堆積の可能性が考えられる。2～21層は人為堆積と推定される。22・23層は壁溝内堆積土、24～26層はPit 9の堆積土である。

床面から20～25cm上の堆積土中位では、径10～35cmの火山灰を検出した。ブロック状であることから、堆積土に混入していた可能性が高い。また建物東隅及び南隅では、床面直上で粘土の堆積を確認した。東隅の粘土は褐灰色で、約85×75cmの範囲に5～12cmの厚さで堆積する。南隅の粘土は灰白色で、約1.7×1.1mの範囲に3cm程度の厚さで堆積する。性格は定かではない。

[出土遺物] 土師器と須恵器、羽口、土鈴が出土している。このうち、土師器坏(25)・小甕(26～29)・甕(30～32)、須恵器坏(33～35)・長頸壺(36)、土鈴(37)、羽口(38)を図示した。29はカマド火床面から出土した北側(左側)の支脚、32は南側(右側)の支脚である。38もカマドから出土している。26・28は床面直上および床面から出土した遺物で、35はPit 4から、27はPit 9から出土している。35は外面に刻書がみられるが、欠損により刻書の内容は不明である。SI08に付属する遺構であるSK23からは土師器や須恵器が少量出土しており、このうち土師器坏(39)・甕(40)を図示した。

[小結] 出土遺物、堆積土の様相、堆積土中位から白頭山苦小牧火山灰が検出されていることから、10世紀前葉、白頭山苦小牧火山灰降下前には廃絶していたと考えられる。

第9号竪穴建物跡(SI09、図21)

[位置・確認] 調査区南側、30-6・7グリッドに位置し、遺構確認面の標高は35.7～35.8m、第Ⅵ層でピット及び壁溝の一部を確認した。上部は大きく削平されて床面は遺存しておらず、他遺構との重複も認められなかった。

[平面形・規模] 南側が削平により残存しておらず、かつ西側が調査区域外にあるため遺構の全容は不明であるが、歪な方形を呈すると推定される。壁長は、北東壁3.6m、深さ23cm、北西壁(1.1)m、深さ42cm、南東壁(1.2)m、深さ8cmである。カマドは検出されていないが、南東側にカマドがあるとなれば建物の軸方向はN-155° - Eである。

[床面・壁溝] 削平により床面は残存していなかった。北東壁で部分的に検出された壁溝の規模は、幅19～21cm、深さ3～7cmである。

[柱穴] 3基(Pit 1～3)が検出された。各柱穴の規模と平面形は、Pit 1は35×26cmの円形、深さ30cm、Pit 2は203×169cmの円形、深さ23cm、Pit 3は88×35cmの楕円形、深さ13cmを測る。いずれの柱穴からも遺物は出土していない。

[カマド・その他の施設] 調査区域内では検出されなかった。

[堆積土] 削平により建物の堆積土は残存していなかった。

[出土遺物] 図示していないが、壁溝から土師器甕の破片3点が出土している。

[小結] 出土遺物、周辺遺跡との関係から、10世紀前半頃には廃絶していたと考えられる。

2 柱穴

45基の柱穴(SP)が検出され、2基(SP45・46)が竪穴建物に付属するとみられる。30-30グリッド付近の3基(SP08・35・41)もSD10と関連して掘立柱建物跡を構成する可能性があるが、断定できないためここでは単独柱穴として扱うこととする。したがってここでは、掘立柱建物跡や柵列を構成しない単独の柱穴とみられる43基を記載することとする。これらの柱穴の位置や計測値等の諸特徴は、図9遺構配置図や図22～24、表3の柱穴計測表に示した。

出土遺物は図化していないが、SP08から土師器甕と須恵器甕、SP12・28・31・46掘方から土師器甕、SP33とSP45から須恵器壺がそれぞれ破片で出土している。

3 土坑

22の基の土坑が検出された。すべて平安時代の構築とみられ、調査区全体にわたって散発的に分布している。なお、調査時にSK19としたものは攪乱であると判断したため、欠番とした。

第1号土坑(SK01、図25)

[位置・確認] 調査区中央、30-22グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.9m、第Ⅴ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は、長軸51cm、短軸44cmの楕円形を呈する。確認面からの深さは22cmで、底面は第Ⅴ層中であってほぼ平坦である。北側壁は垂直気味に立ち上がり、南側壁は緩やかに開いて立ち上がり、断面形は逆台形に近い形状である。

表3 農道30号 柱穴計測表

SP 番号	図版番号	グリッド	標高 (m)	規模(cm)			備考
				長さ	幅	深さ	
SP01	図23	N30-18	37.8	33	29	16	
SP02	図23	N30-24	38.0	27	25	45	
SP03	図23	N30-27	38.3	27	25	20	
SP04	図23	N30-27	38.3	33	26	10	
SP05	図23・25・30	N30-26	38.2	42	(29)	25	SK04より古い。
SP06	図23	N30-28	38.3	54	45	33	
SP07	図31	N30-29・30	38.5	30	26	34	
SP08	図31	N30-30	38.6	26	22	59	SD10と関連あり。土師器甕・須恵器甕破片出土。
SP09	図23	N30-31	38.5	62	51	48	
SP10	図23	N30-32・33	38.6	34	28	27	
SP11	図22	N30-36	38.6	39	36	27	
SP12	図11・12・22	N30-35	38.6	28	20	8	土師器甕破片出土。柱痕あり。
SP13	図22	N30-36	38.6	31	29	18	柱痕あり。
SP14	図22	N30-35	38.5	17	14	12	
SP15	図22	N30-35	38.6	35	23	24	
SP16	図22	N30-35	38.6	31	27	16	
SP17	図22	N30-35	38.6	23	19	28	
SP18	図22	N30-35	38.6	23	20	11	
SP19	図22	N30-36	38.5	32	23	16	
SP20	図23・33	N30-2	35.4	30	28	37	
SP21	図32	N30-16	37.6	31	25	34	SD12より新しい。
SP22	図23	N30-12・13	37.6	28	24	13	
SP23	図23	N30-13	37.6	32	30	48	
SP24	図23	N30-13	37.6	32	28	20	
SP25	図23	N30-13	37.6	35	31	30	
SP26	図23	N30-13・14	37.6	(61)	(25)	30	
SP27	図23	N30-13	37.5	73	55	24	
SP28	図23	N30-13	37.5	41	40	40	土師器甕破片出土。
SP29	図24	N30-27	38.4	30	30	15	柱痕あり。
SP30	-	-	-	-	-	-	欠番
SP31	図24	N30-14	37.6	(38)	(35)	34	土師器甕破片出土。
SP32	図24	N30-14	37.6	(46)	39	27	
SP33	図24	N30-14	37.6	22	22	27	須恵器壺破片出土。
SP34	図24	N30-26	38.2	36	30	14	
SP35	図31	N30-29	38.5	32	30	15	SD10と関連あり。
SP36	図31	N30-30	38.5	25	22	24	
SP37	-	-	-	-	-	-	欠番
SP38	図24	N30-14	37.5	29	23	24	
SP39	図24	N30-32	38.6	32	31	15	
SP40	図24	N30-27	38.4	25	21	16	
SP41	図31	N30-30	38.5	31	29	39	SD10と関連あり。
SP42	図17・34	N30-10	37.1	45	32	16	SI07より新しい。
SP43	図17・34	N30-10	37.1	43	34	18	SI07より新しい。
SP44	図22	N0-36	38.6	38	29	19	
SP45	図18・19・34	N30-11	37.3	53	34	39	SI08付属ビット。須恵器壺破片出土。
SP46	図18~20・34	N30-10・11	37.2	(53)	(39)	49	SI08付属ビット。柱痕あり。掘方から土師器甕出土。
SP47	図24・34	N30-12	37.5	51	45	34	SD17より古い。

[堆積土] 黒色土の単一層で、下位にロームブロック、上位にローム粒が少量含まれている。人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第2号土坑(SK02、図25)

[位置・確認] 調査区中央、30-22・23グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.9m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は、長軸79cm、短軸76cmの円形を呈する。確認面からの深さは14cmで、底面は第V層中にあり、わずかに丸底状を呈し、起伏は少ない。壁は直立気味に立ち上がり、断面形は箱状を呈する。

[堆積土] 黒色土の単一層で、南側でロームブロックの混入が多くみられる。人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第3号土坑(SK03、図25・39)

[位置・確認] 調査区中央、30-23・24グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.0~38.1m、第V層で確認した。SD02と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は不整な長楕円形を呈し、検出された長軸は(264)cm、短軸60~122cmである。底面は第V層中であってほぼ平坦である。南側に145×108cmの一段低い落ち込みが伴い、この部分の確認面からの深さは21~30cmである。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は逆台形状である。

[堆積土] ロームブロックやローム粒、炭化物、焼土等を含む黒色土が主体となっている。人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と須恵器が出土しており、このうち、土師器坏(41・42)・小甕(43)・甕(44~47)、埴(48)を図示した。南東側の堆積土中位から上位で、土師器破片がまとまった状態で出土した。出土遺物や堆積土の様相、遺構の形状等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第4号土坑(SK04、図25・39)

[位置・確認] 調査区中央、30-25・26グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.1~38.2m、第V層で確認した。SD05・06、SP05と重複し、本遺構はいずれの遺構よりも新しい。

[平面形・規模] 平面形は、長軸は211cm、短軸114cmの楕円形を呈する。確認面からの深さは40cmで、底面は第V層中であって丸底気味で、起伏は少ない。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形はすり鉢状をなす。

[堆積土] 概ねローム粒、炭化物を少量含む黒褐色土が主体であるが、最下層(A-A'7層・B-B'2層)はロームやロームブロックが主体となっている。最下層は人為的に埋め戻されたとみられ、その上層は自然堆積の可能性はある。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器が3点出土しており、甕(49・50)を図示した。出土遺物や堆積土の様相、遺構の形状等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第5号土坑(SK05、図26)

[位置・確認] 調査区中央北寄り、30-30グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.5m、第V層で確認した。SD10と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は、長軸72cm、短軸55cmの楕円形を呈する。確認面からの深さは32cmで、底面は第V層中であってやや起伏がみられる。壁は開いて立ち上がり、断面形は浅いU字状である。

[堆積土] 上層は黒色土主体、下層はロームの混入が多くみられる。下層は人為的に埋め戻されたともみられるが、上層は自然堆積の可能性はある。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第6号土坑(SK06、図26)

[位置・確認] 調査区北側、30-34・35グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.6m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区壁際に位置し、東側は調査区域外にある。平面形は、円形もしくは楕円形を呈するとみられる。検出された開口部の南北軸は(222)cm、東西軸は(73)cm、底面の南北軸は(165)cm、東西軸は(86)cmで、西側から北側にかけての壁の断面はフラスコ状となっている。調査区壁面で確認した深さは51cmである。底面は第VI層上面にあり、やや起伏がみられるがほぼ平坦である。

[堆積土] 全体的に黒色土が主体である。下位にはロームブロックが多く含まれており、中位では壁崩落土とみられるローム主体土が堆積している。概ね人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器甕の体部破片4点が出土している。出土遺物や堆積土の様相などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第7号土坑(SK07、図26)

[位置・確認] 調査区北側、30-36グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.5~38.7m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は長楕円形を呈する。検出された開口部の長軸は2.14m、短軸は1.04m、底面の長軸は1.55m、短軸は1.09mで、短軸方向にあたる北東壁と南西壁の断面形は、下端が上端より奥に入り込んでフラスコ状となっている。確認面からの深さは54.6cmである。底面は第VI層上面まで掘り込み、ほぼ平坦である。

[堆積土] ローム粒混じりの黒褐色土が主体で、北側では崩落土とみられるロームまたは黒色土とロームが混合する層が堆積している。崩落を伴う自然堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器の坏と甕、須恵器の壺とみられる体部破片などが、ごく少量出土している。出土遺物や堆積土の様相などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第8号土坑(SK08、図26)

[位置・確認] 調査区中央、30-20グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.7~37.8mで、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は、長軸134cm、短軸124cmのやや不整な円形を呈する。確認面からの深さは22.2cmで、底面は第V層中にあり、やや凹凸がみられる。壁は直立気味に立ち上がる。

[堆積土] 全体的にV層の黄橙色土が多く混入した黒色土が主体となっており、炭化物やロームの混入も確認できることから、人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第9号土坑(SK09、図26)

[位置・確認] 調査区北側、30-38グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.5mで、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区壁際に位置し、東側は調査区域外にあるため、遺構の全容は不明である。平面形は円形もしくは楕円形を呈するものとみられる。南北長は(136)cm、東西長は(85)cmである。調査区壁で確認した深さは55cmである。底面は第V層中にあり、凹凸がみられる。壁は開いて立ち上がる。

[堆積土] 全体的に黒褐色土が主体で、ローム粒・炭化物が混入している。南側壁際には、壁の崩落土とみられるロームや第V層に由来する土が多く混合した土の堆積が確認できた。人為的に埋め戻された後、自然堆積により埋まったとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第10号土坑(SK10、図27・40)

[位置・確認] 調査区中央南寄り、30-15グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.6mで、第IV層で確認した。SD13より古い。

[平面形・規模・底面] 西側がSD13に掘り込まれ消失するものの、残存する規模は133×(62)cmで、平面形は楕円形と復元できる。確認面からの深さは約26cmである。壁は開いて立ち上がり、底面は丸みを帯びる。北東壁際にはピット状の掘り込みを伴う。ピット状の掘り込みは58×(46)cmの楕円形平面で、土坑底面からの深さは最深で18cmである。

[堆積土] 6層に分層した。下位(5・6層)には褐色～黄橙色土が堆積し、上位(1～4層)にはロームブロックを含む黒色～黒褐色土が堆積する。いずれも人為堆積と考えられるものの、上位と下位では基質が異なることから、堆積の時期が異なる可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器7点と須恵器2点が出土しており、そのうち、土師器坏(51)と須恵器坏(52・53)を図示した。また、図示してないが、土師器甕の破片も出土している。51の土師器坏は、口縁部の内外面にタール状の黒色付着物がみられる。出土遺物や堆積土の様相、遺構の形状等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第11号土坑(SK11、図27・40)

[位置・確認] 調査区中央南寄り、30-15グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.6～37.7mで、第IV層で確認した。SD13より古く、SD14より新しい。

[平面形・規模・底面] 平面形は、98×91cmの円形である。確認面からの深さは最大で28cmで、底面は丸みを帯びる。壁は開いて立ち上がる。

[堆積土] 2層に分層した。黒色～黒褐色土を基質とする。ロームブロックが含まれることから、いずれも人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器が5点出土しており、坏(54)を図示した。出土遺物や堆積土の様相、遺構の形状等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第12号土坑(SK12、図27・40)

[位置・確認] 調査区中央、30-27・28グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.4mで、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区際に位置し、西側は調査区域外にある。南北長は140cm、東西長は(95)cmで、平面形は円形もしくは楕円形を呈するとみられる。調査区壁で確認した深さは65cmである。底面は第V層中にあり、概ね平坦である。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は台形状である。

[堆積土] 全体的に黒色土が主体となっており、下位と壁際は第V層に由来する土が主体となって堆積している。全体的に粘土や焼土粒など混入物も多く、人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器2点と須恵器と縄文土器が各1点出土している。このうち、土師器甕(55)、須恵器甕(56)、縄文土器深鉢(57)を図示した。出土遺物や堆積土の様相、遺構の形状等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第13号土坑(SK13、図27・40)

[位置・確認] 調査区中央南寄り、30-15・16グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.6mで、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面] 東側が調査区外に位置するものの、検出部分の開口部の南北長は191cm、東西長は(100)cmで、平面形は楕円形と復元できる。確認面からの深さは最大37cmで、底面は平坦である。壁は中位でオーバーハングし、袋状を呈する。

[堆積土] 4層に分層した。黒色土を基質とする。ロームブロックが含まれることから、いずれも人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と須恵器が出土しており、そのうち、土師器坏(58)と土師器甕(59)を図示した。須恵器は図示していないが、坏と甕の破片が出土している。堆積土の様相や遺構の形状等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第14号土坑(SK14、図27)

[位置・確認] 調査区中央北寄り、30-31グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.6mで、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区壁際に位置し、遺構の半分以上が調査区外にあり、遺構の全容は不明である。確認した南北長は(66)cm、東西長は(17)cmである。調査区壁で確認した深さは68cmで、底面は第VI層上面にあり、起伏がみられる。壁下位はやや垂直気味に、上位は大きく開いて立ち上がる。

[堆積土] 全体的に黒色土が主体となっており、自然堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器甕の破片が2点出土している。出土遺物や堆積土の様相、遺構の形状等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第15号土坑(SK15、図28・40)

[位置・確認] 調査区中央南寄り、30-19グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.8mで、第V層で確認した。西側の調査区壁際が部分的に攪乱を受けているが、その他の遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区壁際に位置し、西側が調査区域外に延びる。調査区内で検出した長軸は(122)cm、短軸は73cmである。確認面からの深さは15cmで、底面は第V層中にあり、ほぼ平坦である。壁は垂直気味に立ち上がり、断面形は浅い台形状である。

[堆積土] 上位に黒褐色土、下位は第V層に由来する土が多く混入した灰黄褐色土が堆積する。全体的に黄褐色ロームブロックが少量混入しており、人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 2層の上面から土師器破片がまとめて出土しており、いくつかは取り上げ後に接合が可能であった。図示した遺物は土師器埴(60・61)である。60と61は口縁部の形状が若干異なることから別個体として掲載したが、同一個体の可能性も残る。出土遺物や堆積土の様相から平安時代の遺構と考えられる。また、土坑として精査をしているが、遺構の形状から判断すると溝跡であった可能性が高い。

第16号土坑(SK16、図28)

[位置・確認] 調査区中央南寄り、30-17グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.7~37.9mで、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区壁際に位置し、遺構の半分以上が調査区外にあるため、遺構の全容は不明である。検出した南北長は(192)cm、東西長は(50)cmである。調査区壁で確認した深さは52cmで、底面は第V層中にあり、概ね平坦である。壁は緩やかに開いて立ち上がる。

[堆積土] 全体的に黒色土および黒褐色土が主体となっており、ロームブロックやローム粒、炭化物を含んでいる。人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器甕とみられる破片7点と須恵器の器種不明の細片1点が出土している。出土遺物や堆積土の様相、遺構の形状等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第17号土坑(SK17、図28)

[位置・確認] 調査区中央、30-26グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.2~38.3mで、第V層で確認した。東側半分が攪乱により破壊されているが、その他の遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 検出された長軸は132cm、短軸は(63)cmで、平面形は円形もしくは楕円形を呈すると考えられる。確認面からの深さは48cmで、底面は第VI層上面にあり、起伏が少ない丸底状である。断面形は上部が開くすり鉢状である。

[堆積土] 黒色土を主体とした堆積であったが、土層確認用のベルトが崩落したため図化していない。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第18号土坑(SK18、図28・41)

[位置・確認] 調査区北端、30-43グリッドに位置し、遺構確認面の標高は37.0~37.1mである。第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は、長軸153cm、短軸143cmの楕円形を呈する。確認面からの深さは23cmで、底面は第V層中においてやや凹凸がある。壁は大きく開いて立ち上がり、断面形は浅い皿状である。

[堆積土] 全体的に黒褐色土が主体となっており、少量の焼土粒・ローム粒・炭化物の混入がみられる。第2層に流水の状況を示す堆積がみられることから、第3層が底面となっていた時期があったものと推測される。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土の上位を中心に土師器や須恵器が多く出土しており、このうち、土師器坏(62・63)・小甕(64・65)・甕(66)、須恵器坏(67・68)を図示した。67は内外面にタール状の黒色付着物がみられる須恵器坏で、胎土分析を行った(第6編第1章第5節参照、S-1)。また、68は外面に刻書がみられるが、欠損により内容は不明である。出土遺物や堆積土の様相、遺構の形状等から、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第19号土坑(欠番)

調査区北端、30-33・34グリッドで検出したが、精査の結果、攪乱であったため欠番とした。

第20号土坑(SK20、図28)

[位置・確認] 調査区中央北寄り、30-30グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.5~38.6mで、第V層で確認した。西側の一部が攪乱を受けているが、その他の遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は、長軸99cm、短軸71cm以上の楕円形を呈する。確認面からの深さは25cmで、底面は第V層中にあり、起伏がある。壁は開いて立ち上がり、中位に若干の段をもつ。

[堆積土] ローム粒と焼土粒を少量含む黒色土の単一層である。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第21号土坑(SK21、図28・41)

[位置・確認] 調査区南側、30-12グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.6~37.7mで、第IV層で確認した。SD17と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模・底面] 北西側が調査区外に位置する。検出部分は(96)×(78)cmの不整形である。確認面からの深さは最大で40cmである。壁は開いて立ち上がり、底面は丸みを帯びる。壁、底面ともに凹凸が見られる。

[堆積土] 3層に分層した。黒褐色~暗褐色土を基質とする。ロームブロックが含まれることから、いずれも人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 須恵器坏1点が出土しており、図示した(69)。堆積土の様相や遺構の形状、出土遺物等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第22号土坑(SK22、図28)

[位置・確認] 調査区南側、30-12グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.6~37.7mで、第IV層で確認した。SI08、SD17と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模・底面] 西側の上部は重複により壊されている。検出部分は(60)×(53)cmで、楕円形を呈する。確認面からの深さは24cmで、底面はやや起伏がある。壁は開いて立ち上がる。

[堆積土] ローム粒と炭化物が含まれる黒褐色土の単一層である。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相や遺構の形状等から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第23号土坑(SK23、図18・19・38)

調査区南側、30-11グリッドに位置する。SI08の付属遺構とみられることから、SI08の中で報告している。

4 溝跡

17条の溝跡が検出された。主に、調査区中央部に分布がみられる。調査区を横断するように検出されたものが多く、全容が分かるもの、性格や機能が特定できるものは少ない。

なお、第7号溝跡は、第5号溝跡と同一の遺構であることが判明したため欠番とした。

第1号溝跡(SD01、図29・42)

[位置・確認] 調査区中央、30-19・20グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.7~37.9m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められない。

[平面形・規模・底面] 調査区を西-東方向に横切る直線状の溝跡で、遺構の全容は不明である。確認できた長さは(6.1)m、幅48~81cm、確認面からの深さは27~42cmである。底面は第V層中であってやや凹凸がある。東端が西端より約12cm低く、東側にわずかに傾斜している。断面はU字状である。

[堆積土] 2層とした黒色土が主体で、概ね自然堆積により埋没しているが、最上部の1層はロームブロックなどの混入がみられることから、埋まりきらなかった凹地を人為的に埋め戻したとみられる。最下層第3層はロームブロックが多く混入しており、掘方とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 須恵器が2点出土しており、このうち坏(70)を図示した。その他、図示していないが、甕の破片が出土している。堆積土と出土遺物の様相から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から、排水や区画等の可能性が考えられる。

第2号溝跡(SD02、図29)

[位置・確認] 調査区中央、30-24グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.0~38.1m、第V層で確認した。SK03と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模・底面] 北東-南西方向に長軸をもつ溝跡で、確認できた長さは2.9m、幅102~132cm、確認面からの深さは10~30cmほどである。底面は第V層中であって概ね平坦で、東端が西端より約10cm低い。最深部は長軸のほぼ中央にある。断面は皿状である。

[堆積土] ローム粒とロームブロックがわずかに混入するが、比較的均質な黒色土の単一土層であることから、自然堆積により埋没したとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は不明である。本来は北東または南西方向に連続して延びていたものの、削平により一部しか残存していない可能性が考えられる。

第3号溝跡(SD03、図29)

[位置・確認] 調査区中央、30-24グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.0~38.1m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められない。

[平面形・規模・底面] 調査区壁際に位置し、南東側が調査区域外にあるため遺構の全容は不明である。北西-南東方向に長軸をもつ溝跡の北西部のみが検出されたと思われる。確認できた長さは(2.37)m、幅48~69cmである。底面は第V層中であって概ね平坦であるが、南東端が一段深くなっている。一条の溝として精査を行っているが、土坑が重複していた可能性が高い。重複関係があった場合の新旧関係は不明である。土坑が重複していたとみられる部分を除くと、確認面からの深さは5~15cmである。断面形は台形状を呈する。底面は南東端が北西端より約10cm低く、南東側へ傾斜している。土坑状の落ち込みは長軸(87)cm、短軸45cmで、溝確認面からの深さは46cmである。

[堆積土] 1層は混入物が多くみられる黒褐色土と暗褐色土との混合層で、2層は概ね均質な黒褐色土が堆積している。自然堆積によってある程度埋まった後、人為的に埋められた可能性が高い。なお、土坑が重複していた場合、2層は土坑の堆積土となるが、溝と土坑の重複関係が不明であることから、1層がどちらの遺構に帰属する堆積土になるかは不明である。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器の坏と甕の破片が出土している。堆積土と出土遺物の様相から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、形状や走行方向から、排水や区画等の可能性が考えられる。

第4号溝跡(SD04、図30)

[位置・確認] 調査区中央、30-24・25グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.0~38.1m、第V層で確認した。SD05と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模・底面] 北東-南西方向にわずかに湾曲して延びる溝跡で、確認できた長さは(3.6)m、幅39~88cm、確認面からの深さは4~29cmである。断面形は皿状で、第V層を掘り込む底面は凹凸が見られる。底面は北東端より南西端が約17cm低く、南西側にわずかに傾斜している。

[堆積土] ローム粒を多く含んだ黒褐色土の単一土層で、人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器2点と縄文土器1点の破片が出土している。堆積土や出土遺物、重複関係から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は不明である。

第5号溝跡(SD05、図30・42)

[位置・確認] 調査区中央、30-25~27グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.0~38.3m、第V層で確認した。調査区東側の調査時に2条の溝跡(北側SD07、南側SD05)として検出・精査したが、西

側の調査時に同一溝であることを確認し、遺構名称は第5号溝跡(SD05)とした。SK04、SD04と重複し、本遺構はSD04より新しく、SK04より古い。

[平面形・規模・底面] 調査区際に位置し、北東側と南東側が調査区域外にあるため遺構の全容は不明であるが、調査区内でL字に屈曲している。確認できた長さは(12.5)m、幅40～86cm、確認面からの深さは10～60cmほどである。第V層を掘り込む底面は凹凸が見られ、北東端より南東端が約45cm低く、南東側に大きく傾斜している。壁は緩やかに開いて立ち上がり、断面形は台形状である。

[堆積土] 上位はローム粒を含む黒褐色土が主として堆積し、下位はローム主体、あるいはロームブロックを多く含んだ堆積となっている。人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器が少量出土しており、このうち甕の口縁部破片と底部(71～73)を図示した。堆積土や出土遺物、重複関係から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、その形状から何らかの区画施設であるとみられる。L字状の形状は建物跡に伴う外周溝にも類似するが、調査区域内では溝の内側および周辺から建物跡に関連する遺構は検出されていない。

第6号溝跡(SD06、図30)

[位置・確認] 調査区中央、30-25・26グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.1～38.2m、第V層で確認した。SK04と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模・底面] 調査区際に位置し、北東側が調査区域外にあるため遺構の全容は不明である。調査区内では北東-南西方向に直線的に伸びる溝跡で、確認できた長さは(3.4)m、幅62～87cmで、確認面からの深さは4～25cmである。底面は第V層中にあり、凹凸が見られる。北西端底面と南東端底面との比高差はほとんどなく、最深部は長軸のほぼ中央部にあり、両端部より約10cm低い。

[堆積土] 上位の1・2層は混入物が少ない黒色土および黒褐色土が主体で、下位の3層はロームが多量に混入する。1層下位にはラミナが形成されている。3層は人為的に埋め戻した様相を呈している。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器甕の破片1点が出土している。堆積土や出土遺物、重複関係から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、形状から、排水や区画等である可能性が考えられる。

第7号溝跡(SD07→SD05)

調査中にSD05と同一溝跡であることが判明したため、SD05に統一した。

第8号溝跡(SD08、図31・42)

[位置・確認] 調査区中央、30-27・28グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.3～38.4m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められない。

[平面形・規模・底面] 調査区を南東-北西方向に横切る直線状の溝跡である。確認できた長さは(6.1)m、幅72～100cm、確認面からの深さは17～32cmである。壁はやや開いて立ち上がり、断面は台形状となる。底面は第V層中にあり、概ね平坦である。南東端より北西端が約4cm低いが、ほとんど傾斜はみられない。

[堆積土] 黒色土主体で、ローム粒や焼土粒、炭化物がごく少量混入しているが、概ね自然堆積の様相

を呈するとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と須恵器が出土しており、このうち土師器坏(74)と須恵器坏(75・76)を図示した。また、器形が明確になるまで接合し得なかったため図示していないが、同一個体とみられる土師器甕の破片が多く出土している。その他、鉄滓と見られる遺物1点が出土している。堆積土と出土遺物の様相から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、形状から、排水や区画等の可能性が考えられる。

第9号溝跡(SD09、図31)

[位置・確認] 調査区中央南寄り、30-19グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.8m、第V層で確認した。攪乱により破壊されている部分があるが、その他の遺構との重複は認められない。

[平面形・規模・底面] 調査区壁際に位置し、南東側が調査区域外にあるため遺構の全容は不明である。調査区域内で確認できた長さは(1.3)m、幅75~101cmである。調査区壁で確認した深さは65cmである。底面は第VI層上面にあり、やや起伏がみられる。壁はやや開いて立ち上がるが、北西端は段を成して立ち上がる。断面は台形状となる。

[堆積土] 1層は混入物が少なく概ね均質な黒色土で、2・3層はローム粒やロームブロックの混入がみられることから、ある程度上部まで人為的に埋め戻された後、自然堆積により完全に埋没したとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土などから平安時代の遺構と考えられる。遺構の大部分は調査区外へ延びているとみられ、機能は不明である。

第10号溝跡(SD10、図31・42)

[位置・確認] 調査区中央よりやや北側、30-30・31グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.4~38.6m、第V層で確認した。SK05重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模・底面] 西側が調査区域外に延びる。調査区内で確認できた長さは(6.0)m、幅75~220cmで、確認面からの深さは12~46cmである。北西-南東方向へ緩やかに湾曲しながら延びる。底面は第V層中であってやや起伏がみられ、北西側が一段低く掘り込まれている。この一段低い部分を除くと、底面は北東側より南東端が約10cm低く、南東側へやや傾斜している。壁は開いて立ち上がる。

[堆積土] 全体的にロームブロックやローム混じりの堆積土で、人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と須恵器、縄文土器が出土しており、このうち土師器甕(77)を図示した。須恵器は図示していないが、坏と壺とみられる小破片が出土している。堆積土と出土遺物の様相から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は不明であるが、緩やかに湾曲する形状は建物に伴う外周溝に類似する。また、本遺構南側で検出されたSP08・35・41は深さが異なるものの両者間の柱間寸法がいずれも約2.4mであることから掘立柱建物跡を構成する可能性があり、本溝跡はそれを取り囲む外周溝である可能性が考えられる。

第11号溝跡(SD11、図32・42)

[位置・確認] 調査区北側、30-33・34グリッドに位置する。遺構確認面の標高は38.6~38.7m、第V

層で確認した。他遺構との重複は認められない。

[平面形・規模・底面] 調査区を南西－北東方向に横切る直線状の溝跡で、確認できた長さは(7.2)m、幅104～125cm、確認面からの深さは20～42cmである。底部はV層中にあり、溝掘削時の痕跡である凹凸がみられる。底面は北東端より南西端が約7cm低い、ほとんど傾斜はみられない。壁は垂直気味に立ち上がり、断面形は台形に近い箱型である。

[堆積土] 4層はローム主体で、溝の掘方とみられる。1～3層は黒色土主体であるが、ローム粒やV層由来とみられる黄橙色土が混合していることから、人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と須恵器、縄文土器が出土している。このうち、土師器坏(78)、須恵器壺(79)を図示した。その他、図示していないが、土師器甕や須恵器坏または甕の破片などが出土している。堆積土と出土遺物の様相から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、形状から、区画や排水等の可能性が考えられる。

第12号溝跡(SD12、図32・42～44)

[位置・確認] 調査区中央南寄り、30-16・17グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.7～37.8m、第IV層で確認した。SP12と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模・底面] 平面形は直線状であり、北側は調査区外に延びる。検出した長さは(5.7)m、幅は165～229cmである。壁はやや開いて立ち上がり、底面は丸みを帯びる。南東側が一段低く、確認面からの深さは42～53cm、南西側の確認面からの深さは30～46cmである。底面には鋤痕と考えられる凹凸があり、東端から約2.5m西側付近には土坑状の掘り込みを伴う。土坑状の掘り込みは285×167cmの不整形で、溝底面からの高低差は最大で約30cmである。

[堆積土] 下位にはロームブロックを多量に含む層が堆積する(A-A'断面7～11層、B-B'断面5層)。底面上に堆積することから、掘削後比較的早い段階で埋め戻されたと推定される。上位(A-A'断面1～6層、B-B'断面1～4層)はII層由来の黒色～黒褐色土が堆積する。上位層は小～中粒のロームブロックが一定量含まれる層(A-A'断面2・4～6層、B-B'断面1・3・4層)、とロームブロックが少量で比較的均質な層(A-A'断面1・3層、B-B'断面2層)が見受けられることから、人為堆積と自然堆積が混在しながら埋没したと推定される。また、検出面から10cm程度の深さで、火山灰が検出された。範囲は狭小でブロック状であることから、堆積土に混入したものと推定される。なお、土坑状の掘り込み内には、底面から15cm程度上面に灰が堆積する。厚さは3cm程度である。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器、須恵器、縄文土器、羽口、石器が出土しているが、上位層(A-A'断面1～6層、B-B'断面1～4層)から遺物が多く出土した。このうち、土師器坏(80・81)・小甕(82～84・92・94・96)・甕(85～91・93)・埴(95)・小坏(97)・ミニチュア甕(98)、須恵器坏(99～102)・壺(103)・甕(103～106)、羽口(107・108)、凹石(109)を図示した。84・93・94は土師器小甕または甕で、外面に被熱痕が認められる。97は、全体的に指オサエによって整形された口径3.4cmの小型製品で、完形で出土している。96は、口縁部の内外面にススが付着しており、体部下半の器形が不明なことから小甕としたが、ミニチュア羽釜の可能性もある。101・102は須恵器坏で、外面に刻書が見られる。106は内面には鳥足状のあて具痕がみられる須恵器甕の体部破片で、胎土分析を行っている(第6編第1章第5節参照、S-2)。

堆積土と出土遺物の様相から平安時代の遺構と考えられ、溝の先端部分が土坑状に落ち込む点や、溝の主軸方向から外周溝の可能性のあるSD10と酷似する点などから、建物に伴う外周溝に類似する可能性がある。ただし、本遺構南西側では建物跡やそれに関連する遺構は検出されなかったため、詳細は不明である。また本溝跡内の土坑中に灰が検出される例は、農道31号SD03でも確認されていることから、この灰は土坑部分の機能を示す可能性が高い。灰を用いる作業の一例としては、堅果や山菜のアク抜きが想定されるものの、調査段階ではこれらの土坑は比較的水はけが良好であり、それらの作業に適していたか否かは不明瞭である。なお、本遺構堆積土から出土した炭化材1点について、炭素年代測定を行った(第6編第1章第4節参照、PLD-28323)結果、8世紀後半～9世紀後半の年代が示されている。

第13号溝跡(SD13、図33・45)

[位置・確認] 調査区中央南寄り、30-16グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.6～37.7m、第IV層で確認した。SK10・SK11、SD14より新しい。

[平面形・規模・底面] 平面形は弧状であり、検出した長さは(3.9)m、幅は57～103cmである。西壁はやや急に立ち上がり、東壁は開きながら立ち上がる。底面には鋤痕と考えられる凹凸がある。確認面からの深さは31～54cmであるが、南西端部は一段高く、確認面からの深さは25～33cmである。

[堆積土] 下位にはロームブロックを多量に含む層が堆積する(3層)。底面上に堆積することから、掘削後比較的早い段階で埋め戻されたと推定される。上位(2層)はII層由来の黒色土が堆積する。均質であることから、自然堆積と考えられる。最上位に堆積する1層は、ロームブロックが一定量混入する黒褐色土である。溝埋没後の凹みを埋めた人為堆積層と推定される。なお、南西端部の検出面では、10×20cmの範囲で火山灰を検出したが、分析の結果、十和田八戸テフラ(To-H)であった(第6編第1章第1節参照)。また、同じく南西端部の検出面から20cm下面では、15×25cmの範囲で灰を検出した。どちらもブロック状であることから、堆積土に混入したものと推定される。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土の上位を中心に、土師器と須恵器、石器が出土している。このうち、土師器坏(110・111)・甕(112・113)と須恵器甕(114)、凹石(115)を図示した。また、図示した遺物の他、須恵器坏または壺などの破片が出土している。堆積土と出土遺物の様相から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は不明である。緩やかに湾曲する形状は建物に伴う外周溝の末端部分に類似し、SD14末端部の湾曲とも類似する。SD14より本溝跡が新しいことから、北西へ延びる部分は削平によって遺存していないがSD14を造り替えた溝の末端部分が本溝跡でないかと推測される。ただし、本遺構に伴う建物跡があるとすれば南西側調査区域外にあるとみられるため、詳細は不明である。

第14号溝跡(SD14、図33・45・46)

[位置・確認] 調査区中央南寄り、30-15・16グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.6～36.8m、第IV層で確認した。SD13、SK11より古い

[平面形・規模・底面] 平面形は屈曲の緩い逆L字状である。南側は北東-南西方向、北側は北西-南東方向に延びる。南端はSK11及びSD13に掘り込まれ、北側は調査区外へ延伸する。検出した長さは(3.9)m、幅は67.2～110.4cmである。壁はやや開いて立ち上がる。底面には鋤痕と考えられる凹凸が

ある。南側が一段高く、確認面からの深さは26～35cm、北側の確認面からの深さは42～52cmである。
[堆積土] 下位にはロームブロックを多量に含む層が堆積する(3層)。底面上に堆積することから、掘削後比較的早い段階で埋め戻されたと推定される。上位(1・2層)は黒～黒褐色土が堆積する。どちらも比較的均質であることから、自然堆積の可能性が考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土の上層を中心に、土師器と須恵器、縄文土器が出土している。このうち、土師器坏(116)・小鉢(117)・小坏(118)・甕(119・120)・埴(121)、須恵器坏(122～124)・甕(125)を図示した。118は外面にはミガキ調整が施され、非常に平滑に仕上げられている。122は須恵器坏で、胎土分析を行っている(第6編第1章第5節参照、S-3)。124は還元軟質焼成の須恵器坏で、外面に刻書がみられる。また、図示はしていないが、須恵器壺の体部破片なども出土している。堆積土と出土遺物の様相から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は不明である。緩やかに湾曲する形状は建物に伴う外周溝に類似するが、本遺構に伴う建物跡があるとすれば南西側調査区域外にあるとみられるため、詳細は不明である。

第15号溝跡(SD15、図33)

[位置・確認] 調査区南端、30-2グリッドに位置する。遺構確認面の標高は35.1～35.6m、沢部南肩付近第Ⅵ層で確認した。他遺構との重複は認められない。

[平面形・規模・底面] 平面形は直線状で、西側は調査区外に延び、東側は道路下へ延びる。検出した長さは(2.4)m、幅は75～95cmである。壁は開いて立ち上がり、底面は丸みを帯びる。底面には鋤痕と考えられる凹凸が見られる。確認面からの深さは35cmであり、北東端と南西端の高低差は約12cmで南西側に低く傾斜する。

[堆積土] 黒褐色土の単一層である。ロームブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土や周辺遺構の様相から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、形状から、区画や排水等の可能性が考えられる。

第16号溝跡(SD16、図33)

[位置・確認] 調査区中央南寄り、30-18グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.8～37.9m、第Ⅴ層で確認した。他遺構との重複は認められない。

[平面形・規模・底面] 調査区壁際に位置し、西側の大部分が調査区域外にあるため、遺構の全容は不明である。確認できた長さは(1.2)m、幅242cmで、調査区壁で確認した深さは50cmである。底面は第Ⅴ層中にあり、やや丸味を帯びて起伏がみられる。壁は底面から大きく開いて立ち上がる。

[堆積土] 1層は概ね均質な黒色土の堆積で、2層以下はローム混じりの黒色土またはローム主体の堆積となっていることから、人為的に埋め戻された後、自然堆積により埋没したとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相から平安時代の遺構と考えられるが、機能は不明である。

第17号溝跡(SD17、図33)

[位置・確認] 調査区南側、30-9～12グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.0～37.7m、第Ⅳ

層で確認した。SI08、SK21・22・23、SP47と重複し、本遺構はいずれよりも新しい。

[平面形・規模・底面] 平面形は直線状で、検出した長さは(14.8)m、幅は28～56cmである。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は平坦である。底面には部分的に凹凸が見られる。確認面からの深さは2～18cmであり、北東端と南西端の高低差は約24cmで南西側に低く傾斜する。

[堆積土] 黒褐色土の単一層である。堆積要因は定かではない。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器の坏と甕の体部破片が少量出土している。堆積土の様相と出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。本遺構の機能は、形状から、区画や排水等の可能性が考えられる。

第18号溝跡(SD18、図16・46・47)

調査区南側、30-9～11グリッドに位置する。SI07の付属遺構とみられることから、SI07の中で報告している。

5 溝状土坑

2基の溝状土坑が検出され、2基とも調査区北端の開析谷に臨む緩斜面で検出された。

第1号溝状土坑(SV01、図35)

[位置・確認] 調査区北側、30-41・42グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.6～37.8m、第V層で確認した。

[平面形・規模・底面] 北端が調査区域外に延びている。開口部で確認した長軸は3.7m、短軸は41～51cm、確認面からの深さ69cmである。底面は第VI層中にあり、幅16～31cmで平坦に整えてある。

[堆積土] 概ね黒褐色土が主体の自然堆積であるが、2層はロームが多く混入することから壁崩落土とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。詳細な帰属時期は不明だが、堆積土の様相と遺構の形状から縄文時代の落とし穴と考えられる。

第2号溝状土坑(SV02、図35)

[位置・確認] 調査区北端、30-42・43グリッドに位置し、遺構確認面の標高は37.2～37.6m、第V層で確認した。農道に伴うとみられる攪乱の下から検出しており、上部は大きく削平されている。

[平面形・規模・底面] 開口部で確認した長軸は3.3m、短軸は22～34cm、確認面からの深さ12～38cmである。底面は第VI層中にあり、幅12～18cmで平坦に整えてある。

[堆積土] 堆積土の様相は図化していないが、概ね黒色土を主体とする堆積状況であった。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。詳細な帰属時期は不明だが、堆積土の様相と遺構の形状から縄文時代の落とし穴と考えられる。

第2節 遺構外の出土遺物

遺構外の出土遺物は、縄文時代のものと平安時代のものがあり、段ボール箱で約2箱分出土した。

1 縄文時代の出土遺物(図48)

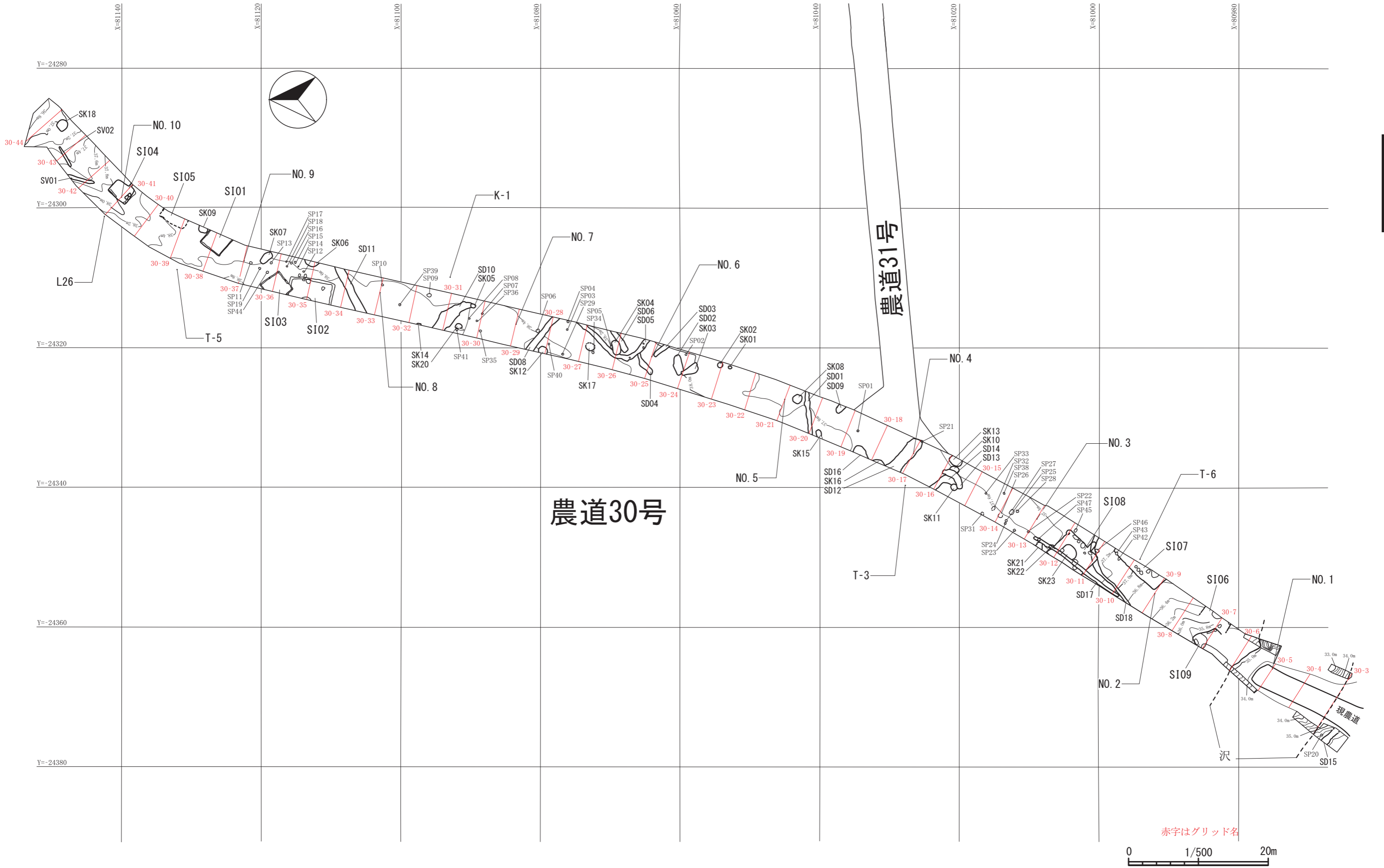
晩期の注口土器(140)のみを図示した。晩期中頃の注口部分である。

2 平安時代の出土遺物(図48)

土師器坏(141)・甕(142)・埴(143)、須恵器坏(144)・鉢(145・146a・146b)・甕(148)・壺(147・149)を図示した。

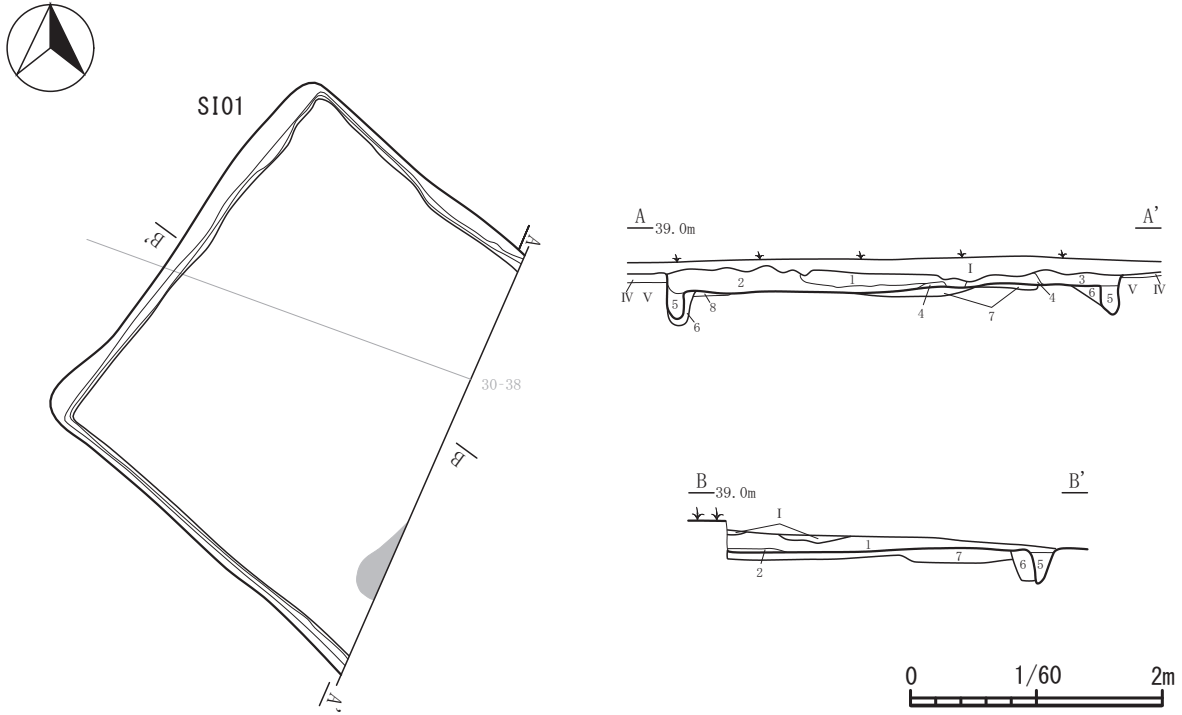
141は土師器坏の体部下半で、内面に黒色処理を施し、外面に炭化物の付着がみられる。142は土師器甕の口縁部で、口縁部内面に黒色物が付着する。143は埴の口縁部である。

144は須恵器坏の体部下半である。外面に刻書がみられるが、内容は不明である。145・146a・146bは鉢である。145は口縁部で、頸部はやや開いて立ち上がり、口縁端部を外側へ折り返し、端面は外傾して面をとる。非常に薄く、胎土が緻密な製品である。146a・146bは、接合はしないが同一個体とみられる。頸部は直立気味に立ち上がり、口縁端部をやや外側に引き出し、端面はやや外傾するが水平に近い。底外面には回転糸切痕がみられる。なお、146aは胎土分析を行っている(第6編第1章第5節参照、S-6)。147・148は須恵器壺または甕の口縁部破片である。147は口縁部断面が長方形を呈し、端面はやや外傾して面をとる。口縁の縁帯下を少しつまみ出して突帯状としている。148は肥厚した縁帯に2条の沈線を巡らし、中央部を小さな突帯状としたものである。149は須恵器壺の底部で、底外面に菊花状の調整痕が残る。



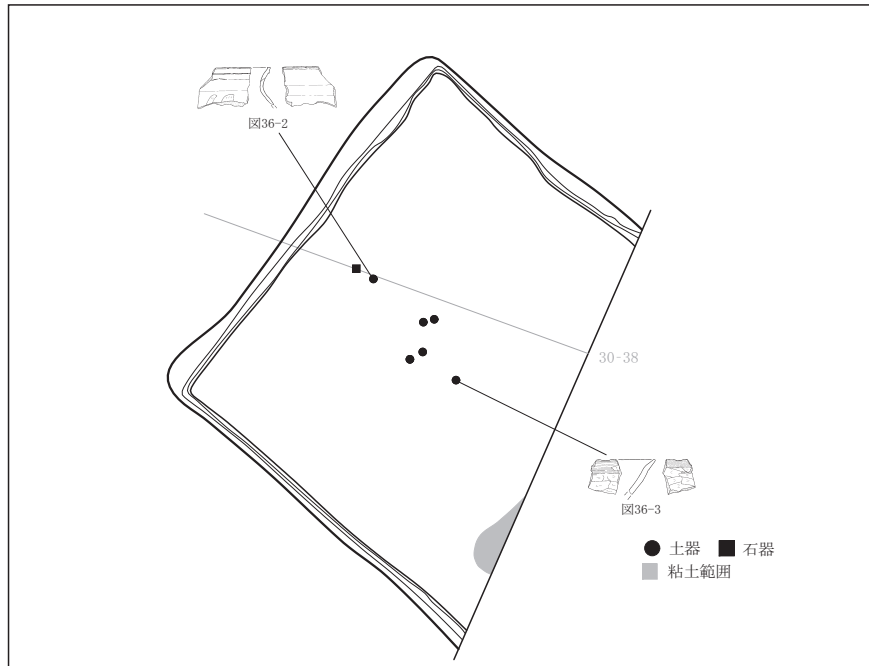
農道30号
下石川平野遺跡

図9 農道30号遺構配置図



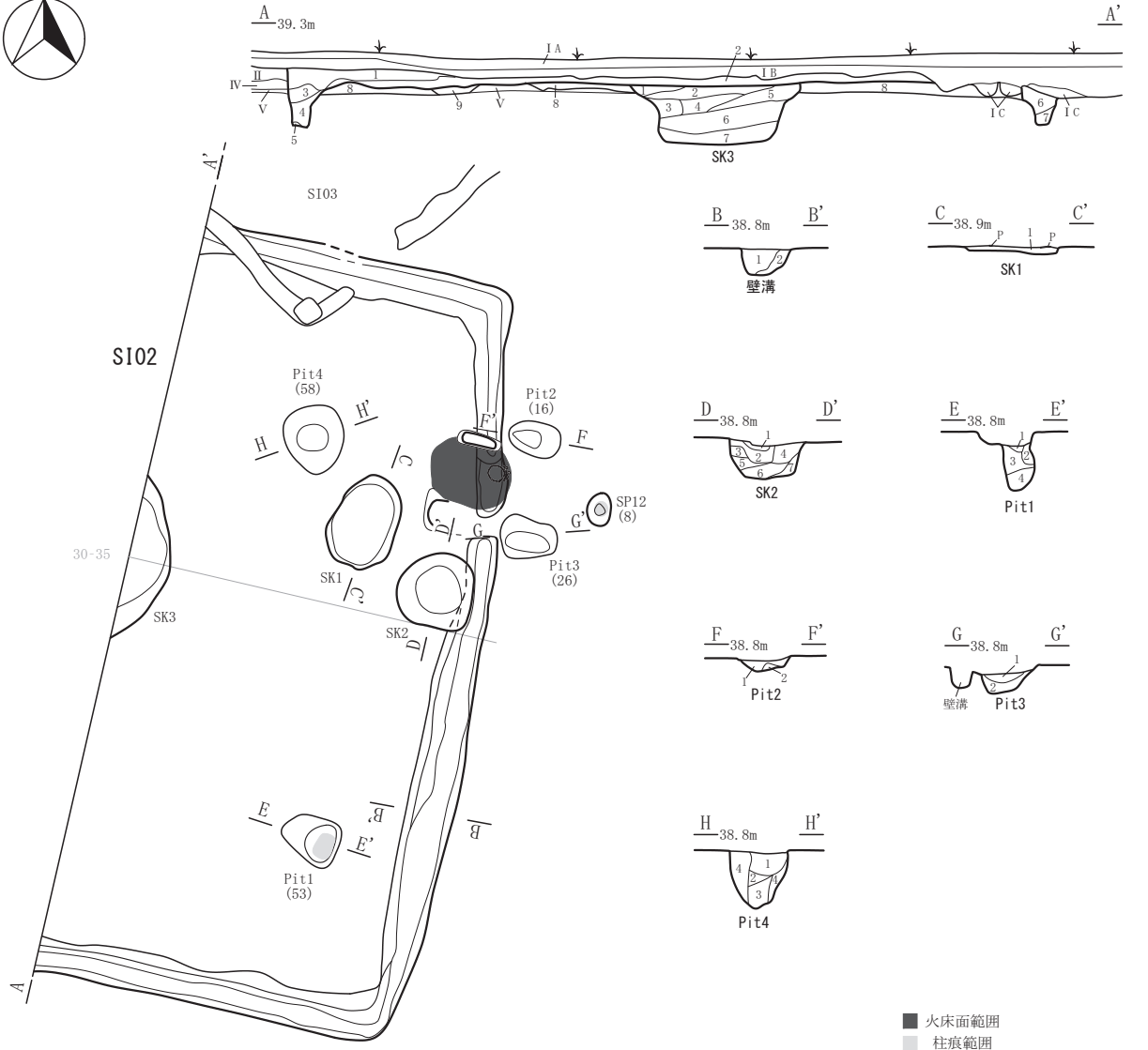
S101 (A-A'・B-B')

- 1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~90mm)3%。
- 2層 10YR3/4 暗褐色土と10YR4/3に多い黄褐色土の混合層。10YR4/6褐色土15%、ローム粒(φ1~30mm)2%、炭化物(φ2~5mm)1%。
- 3層 10YR4/4 褐色土 10YR3/4暗褐色土5%、ローム粒(φ1~50mm)5%、焼土(φ2mm)1%。
- 4層 10YR5/6 黄褐色土と10YR4/4褐色土の混合層。10YR3/4暗褐色土5%、焼土(φ1~20mm)3%。
- 5層 10YR4/4 褐色土と10YR5/8黄褐色土の混合層。建物壁溝。10YR3/3暗褐色土10%、ローム粒(φ1~30mm)3%。
- 6層 10YR3/4 暗褐色土と10YR3/2黒褐色土の混合層。壁溝掘方。ローム粒(φ1~20mm)20%。
- 7層 10YR3/4 暗褐色土と10YR5/8黄褐色土の混合層。建物貼床。地山ブロック(φ1~20mm)5%。
- 8層 10YR3/2 黒褐色土と10YR3/4暗褐色土の混合層。建物下風倒木層。ローム粒(φ1~15mm)5%、炭化物(φ2~5mm)1%。



遺物出土状況

図10 第1号竪穴建物跡



- SI02 (A-A')**
- 1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒 (φ1~50mm)5%。
 - 2層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒 (φ1~30mm)2%、炭化物 (φ1~20mm)1%。
 - 3層 10YR3/2 黒褐色土 壁溝。ローム粒 (φ1~30mm)5%。
 - 4層 10YR3/1 黒褐色土 壁溝。ローム粒 (φ1~40mm)5%。
 - 5層 10YR4/4 褐色土と10YR3/4暗褐色土の混合層。壁溝。
 - 6層 10YR3/2 黒褐色土 壁溝。ローム粒 (φ1~40mm)25%。
 - 7層 10YR3/1 黒褐色土 壁溝。ローム粒 (φ1~20mm)3%。
 - 8層 10YR4/4 褐色土と10YR3/4暗褐色土の混合層。貼床。ロームブロック (φ1~120mm)30%、7.5YR5/8明褐色土7%、7.5YR2/2黒褐色土5%。
- SK3 (A-A')**
- 9層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒 (φ1~10mm)3%、ロームブロック (φ11~20mm)2%、炭化物 (φ1~5mm)1%。
 - 1層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック (φ11~30mm)7%、ローム粒 (φ1~10mm)5%、10YR1.7/1黒色土 (φ5~10mm)1%。
 - 2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒 (φ1~10mm)5%、10YR1.7/1黒色土2%。
 - 3層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒 (φ1~10mm)15%、ロームブロック (φ11~50mm)15%。
 - 4層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒 (φ1~10mm)15%、ロームブロック (φ11~50mm)10%、10YR1.7/1黒色土3%。
 - 5層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒 (φ1~10mm)15%、ロームブロック (φ11~35mm)10%、10YR1.7/1黒色土3%。
 - 7層 10YR7/6 明黄褐色粘土
- SI02壁溝 (B-B')**
- 1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒 (φ1~20mm)3%、焼土粒1%、炭化物 (φ2~10mm)1%。
 - 2層 10YR6/8 明黄褐色土と10YR7/8黄褐色土の混合層。10YR3/4暗褐色土10%、10YR3/3暗褐色土5%、炭化物 (φ1~2mm)1%。
- SK1 (C-C')**
- 1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR7/6明黄褐色ロームブロック (φ5~20mm)5%、2.5YR5/8明赤褐色焼土 (φ5~10mm)3%。
- SK2 (D-D')**
- 1層 10YR3/3 暗褐色土 焼土 (φ1~10mm)3%、焼土ブロック (φ11~40mm)3%、ローム粒 (φ1~5mm)2%、炭化物 (φ1~5mm)1%。
 - 2層 7.5YR5/8 明褐色土 焼土 (φ1~10mm)5%、焼土ブロック (φ11~40mm)5%、ローム粒 (φ1~5mm)2%、炭化物 (φ1~10mm)2%。
 - 3層 7.5YR5/6 明褐色土 焼土 (φ1~10mm)3%、ローム粒 (φ1~10mm)2%、炭化物 (φ1~5mm)2%。
 - 4層 10YR3/4 暗褐色土 焼土 (φ1~10mm)3%、ローム粒 (φ1~10mm)2%、炭化物 (φ1~5mm)3%、ロームブロック (φ11~20mm)3%、ローム粒 (φ1~10mm)2%、炭化物 (φ1~10mm)2%。
 - 5層 10YR2/3 暗褐色土 焼土 (φ1~10mm)2%、炭化物 (φ1~5mm)2%、焼土 (φ1~10mm)1%。
 - 6層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒 (φ1~10mm)5%、ロームブロック (φ11~20mm)2%、炭化物 (φ1~10mm)2%、焼土 (φ1~10mm)1%。
 - 7層 10YR2/1 黒色土 ローム粒 (φ1~10mm)2%、ロームブロック (φ11~20mm)2%、炭化物 (φ1~10mm)2%。

- Pit1 (E-E')**
- 1層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒 (φ1~5mm)3%。
 - 2層 10YR3/2 黒褐色土 壁崩落土。ローム粒 (φ1~40mm)30%。
 - 3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒 (φ1~50mm)10%、炭化物 (φ2~5mm)1%、ローム粒 (φ2~5mm)1%。
 - 4層 10YR3/1 黒褐色土
- Pit2 (F-F')**
- 1層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒 (φ1~10mm)2%、炭化物 (φ1mm)1%。
 - 2層 10YR3/4 暗褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合層。ローム粒 (φ1~10mm)2%、炭化物 (φ1~5mm)1%。
- Pit3 (G-G')**
- 1層 10YR3/2 黒褐色土
 - 2層 10YR6/6 明黄褐色土と10YR3/2黒褐色土との混合層。
- Pit4 (H-H')**
- 1層 10YR3/3 暗褐色土 柱痕。ローム粒 (φ1~10mm)3%、ロームブロック (φ11~30mm)2%、焼土 (φ1~10mm)2%、炭化物 (φ1~10mm)2%、柱痕。ロームブロック (φ11~30mm)5%、ローム粒 (φ1~10mm)2%、10YR1.7/1黒色土2%。
 - 2層 10YR2/3 黒褐色土 柱痕。ローム粒 (φ1~10mm)2%、炭化物 (φ1~10mm)3%。
 - 3層 10YR3/3 暗褐色土 柱痕。ロームブロック (φ11~40mm)5%、ローム粒 (φ1~10mm)3%。
 - 4層 10YR2/2 黒褐色土と10YR6/8明黄褐色ロームの混合層。掘方。焼土 (φ1~10mm)2%、炭化物 (φ1~5mm)2%。

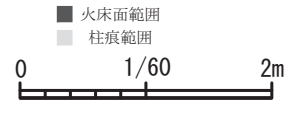
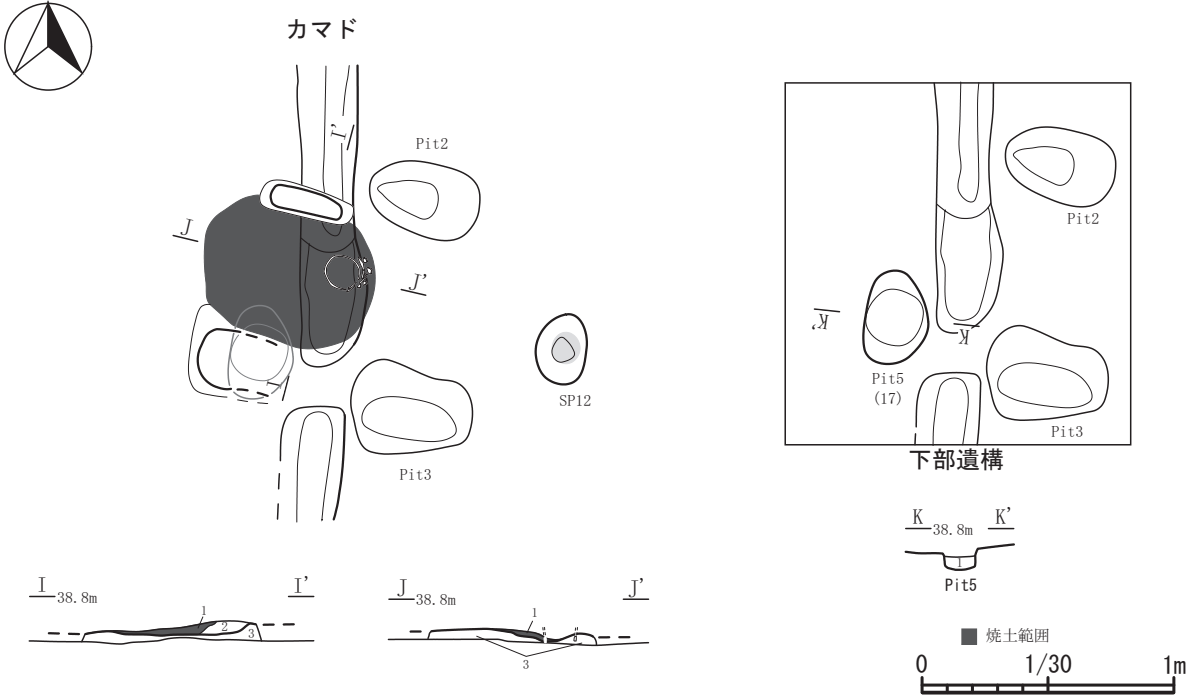
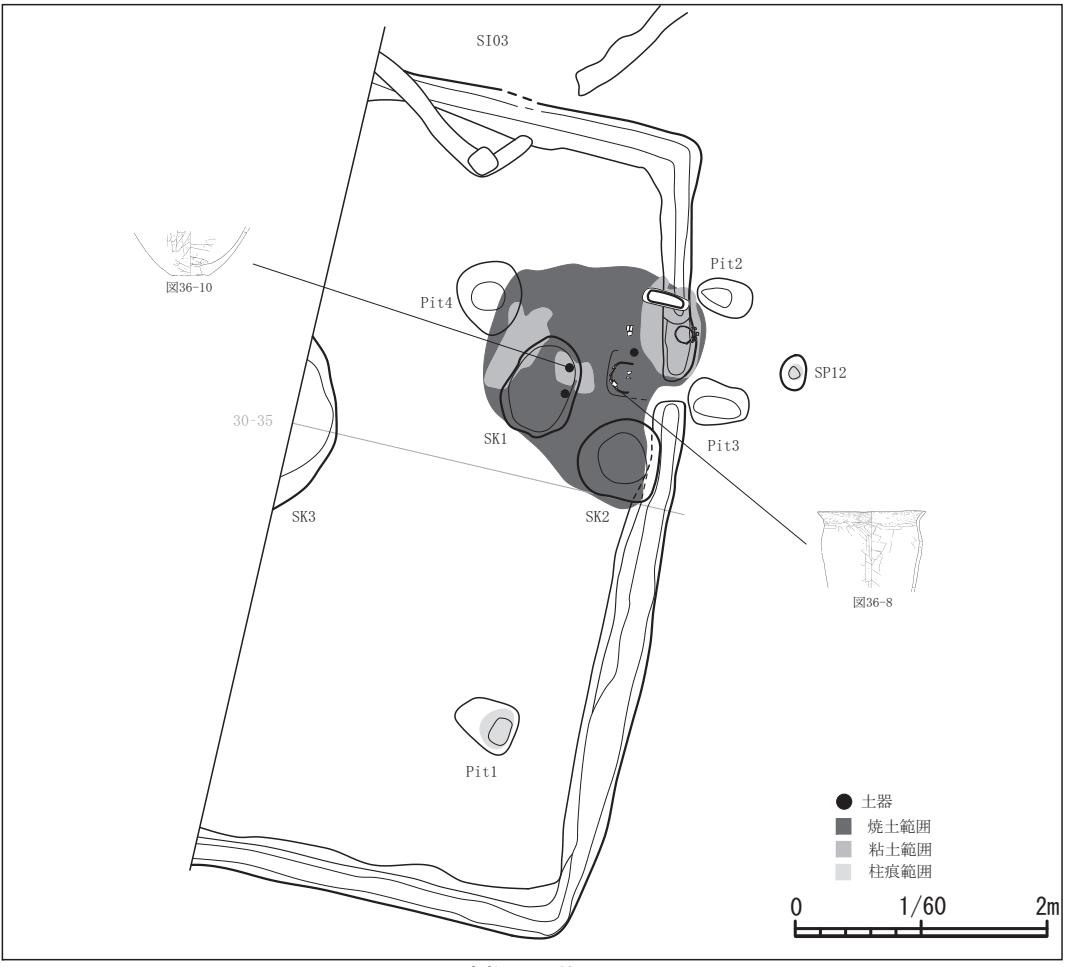


図11 第2号竪穴建物跡 (1)



Pit5 (I-I')
 1層 10YR2/1 黒色土 10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~40mm)20%。
 SI02カマド(J-J'・K-K')
 1層 10YR4/4 褐色土と7.5YR5/6明褐色土の混合層。焼土10%、炭化物(φ1~40mm)5%。
 2層 10YR4/6 褐色土と10YR6/6の明黄褐色土の混合層。カマド袖。10YR3/3暗褐色土5%。
 3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ5~18mm)3%。



遺物出土状況

図12 第2号竪穴建物跡(2)

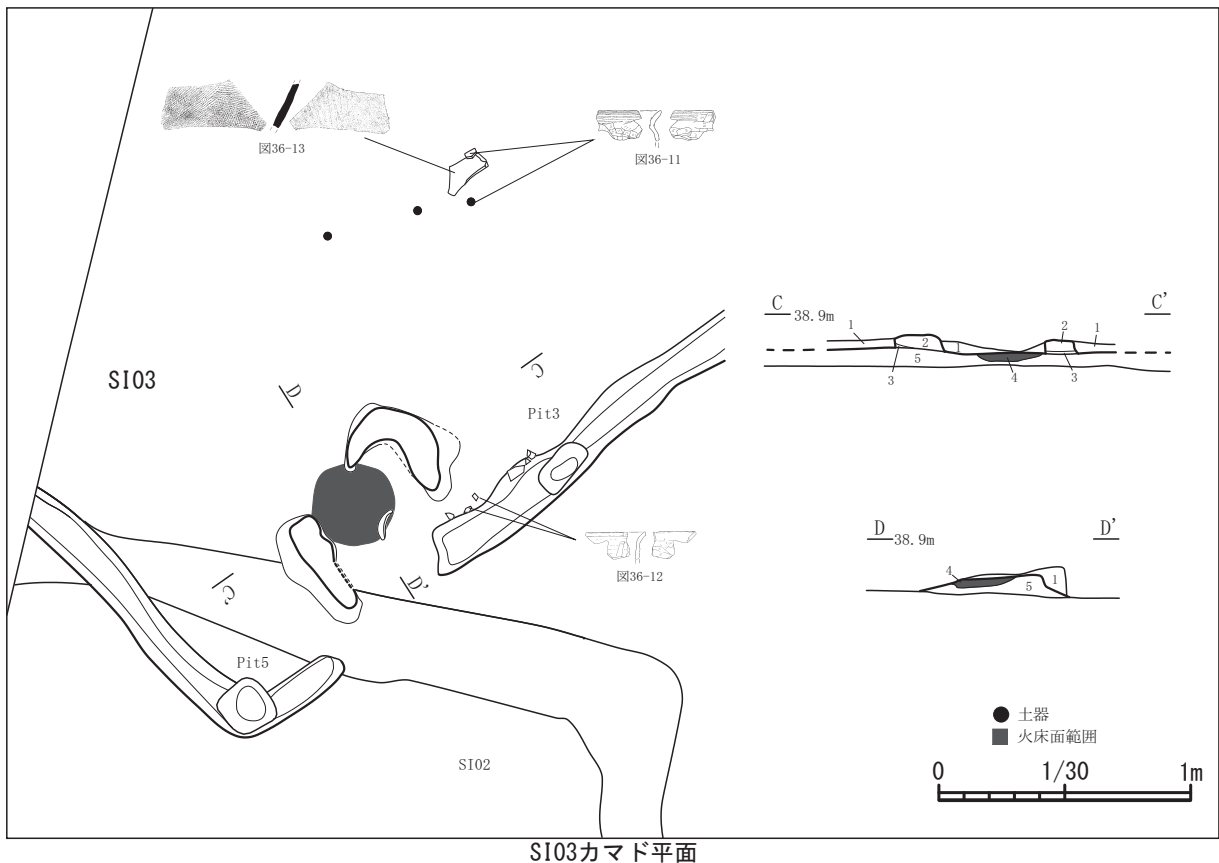
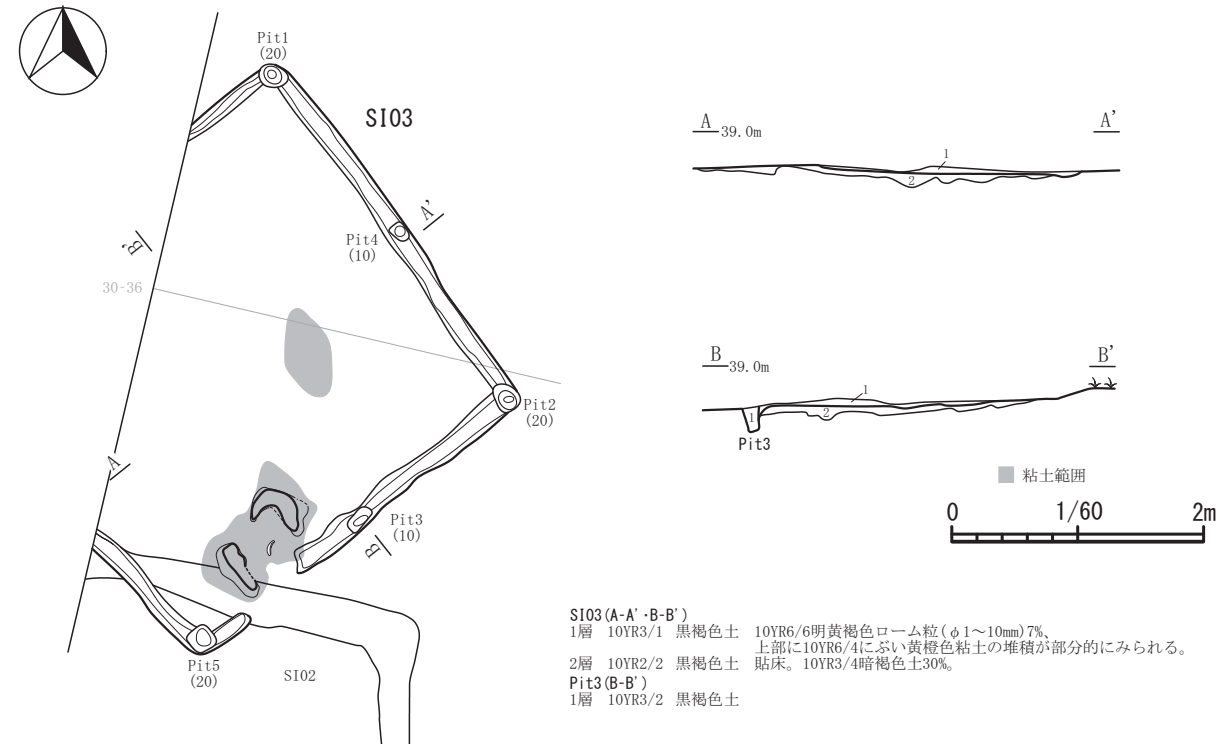
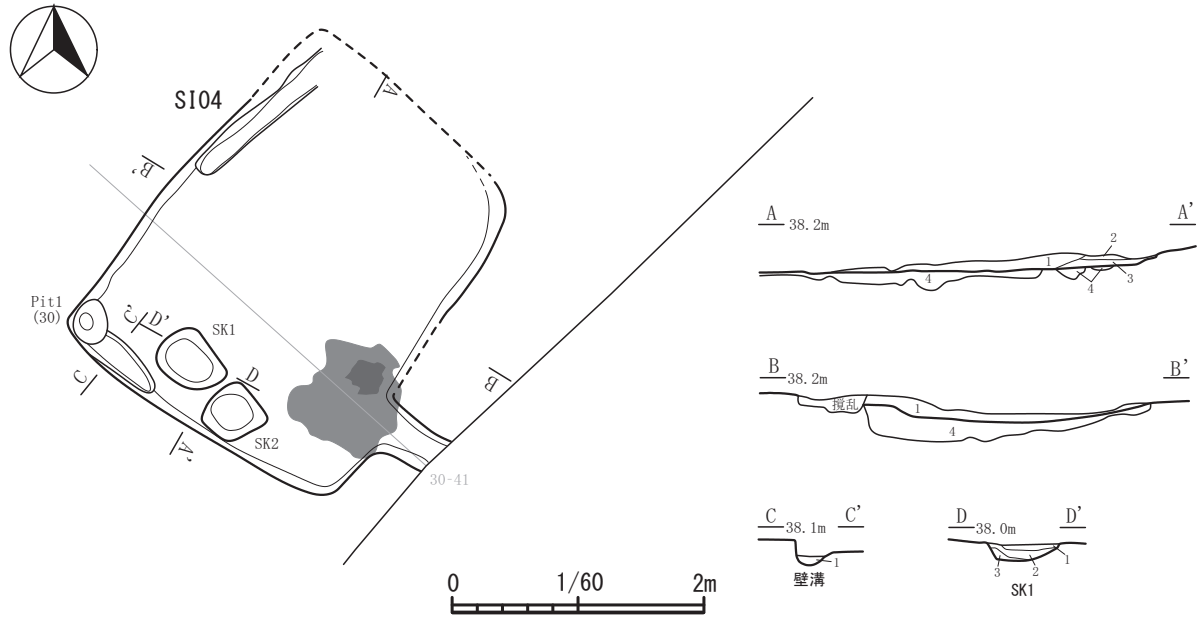


図13 第3号竪穴建物跡



S104 (A-A'・B-B')

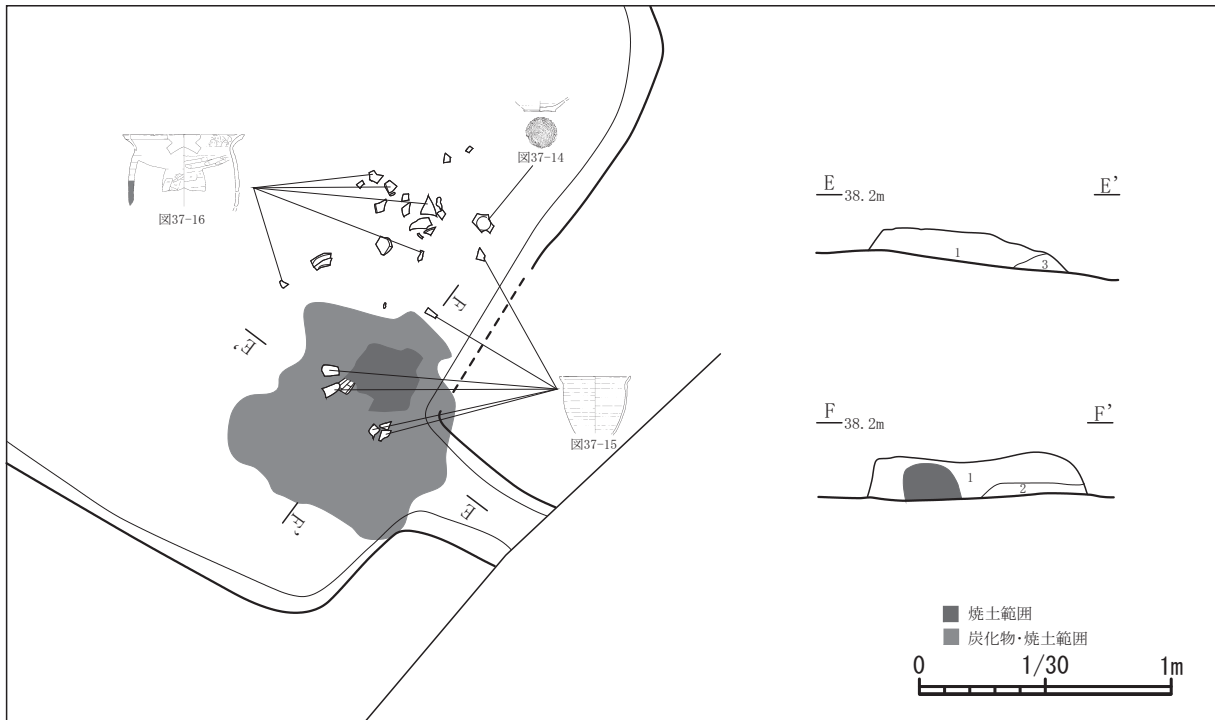
- 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)15%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1~5mm)5%、炭化物(φ1~7mm)2%。
- 2層 10YR3/3 暗褐色土と10YR6/8明黄褐色土の混合層。5YR4/4にぶい赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%。
- 3層 10YR3/4 暗褐色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)10%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ2~3mm)1%。
- 4層 10YR3/3 暗褐色土と10YR6/6明黄褐色土の混合層。掘方。ローム粒(φ1~10mm)3%、ロームブロック(φ11~30mm)3%。

S104 壁溝(C-C')

- 1層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~10mm)5%、ロームブロック(φ11~30mm)2%、黒褐色土(φ1~5mm)2%。

SK1 (D-D')

- 1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~10mm)5%、ロームブロック(φ11~30mm)3%、焼土粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~10mm)2%、焼土ブロック(φ20mm)1%。
- 2層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1~10mm)7%、ロームブロック(φ11~20mm)3%、焼土粒(φ1~10mm)3%、炭化物(φ1~10mm)2%。
- 3層 7.5YR3/4 暗褐色土 焼土ブロック(φ20~30mm)3%、ローム粒(φ1~10mm)2%、焼土粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~10mm)2%。



炭化物・焼土範囲、遺物出土状況

S104 炭化物・焼土範囲(E-E'・F-F')

- 1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~25mm)7%、炭化物(φ1~5mm)5%、5YR7/8橙色焼土(φ1~5mm)1%、焼土ブロック(20×15cm)。
- 2層 10YR4/4 褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~15mm)3%。
- 3層 10YR2/2 黒褐色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~10mm)1%、5YR7/8橙色焼土(φ1~3mm)1%。

図14 第4号竪穴建物跡

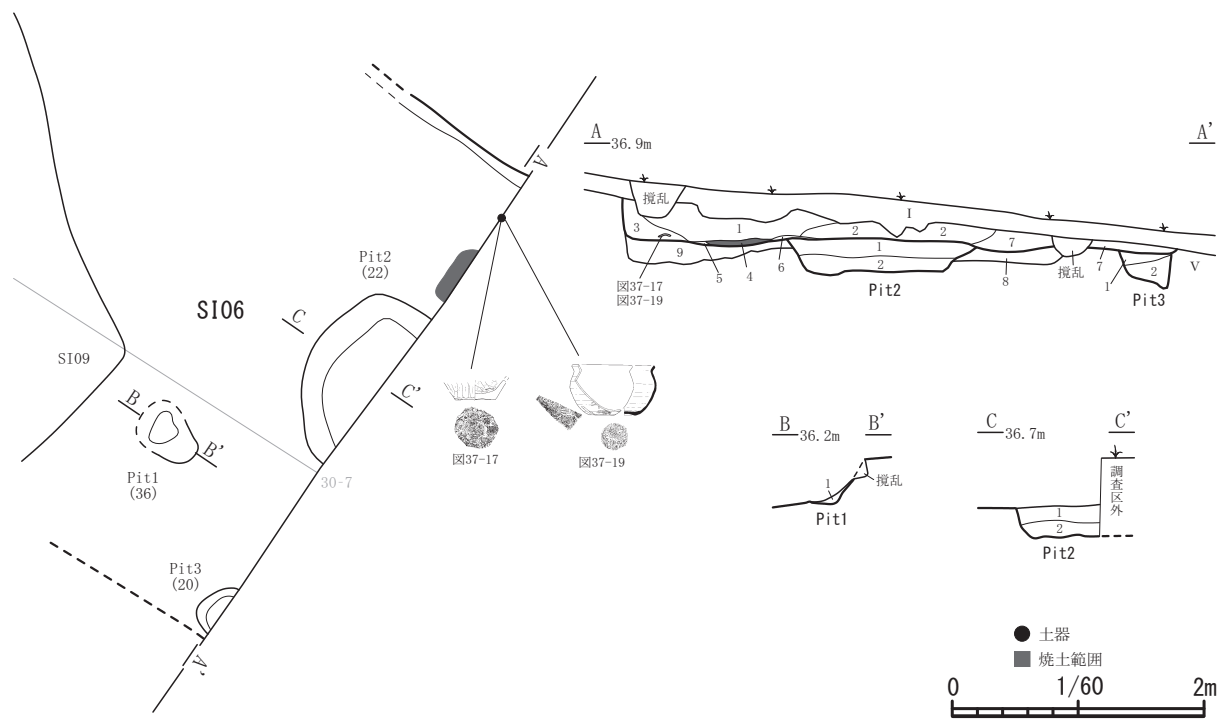
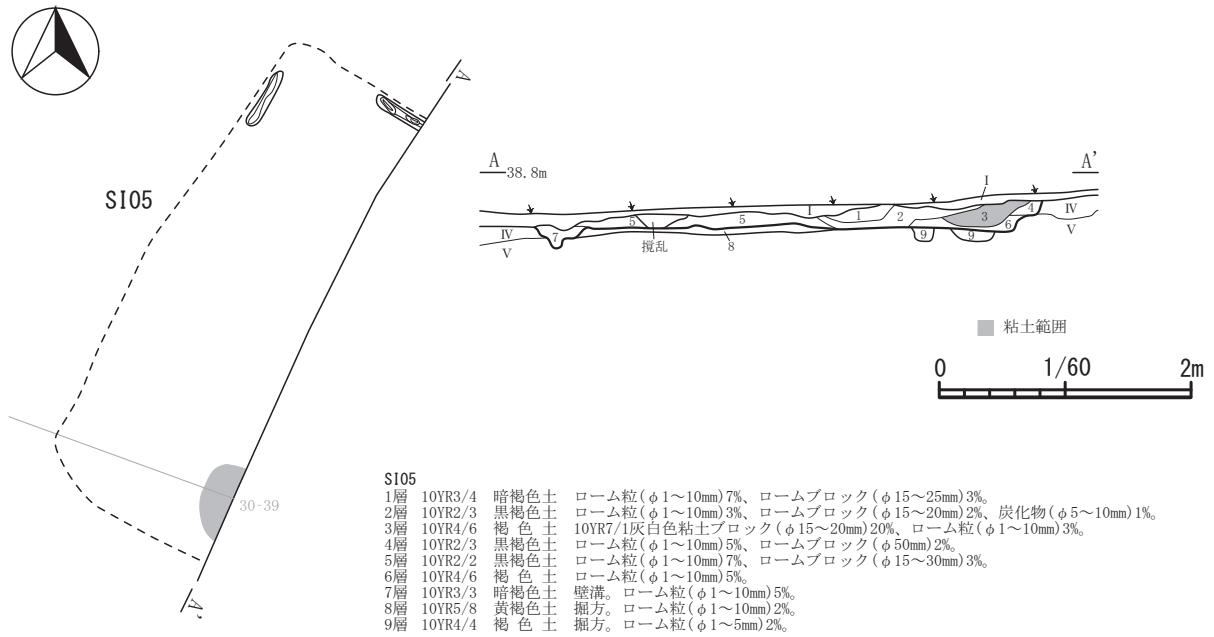
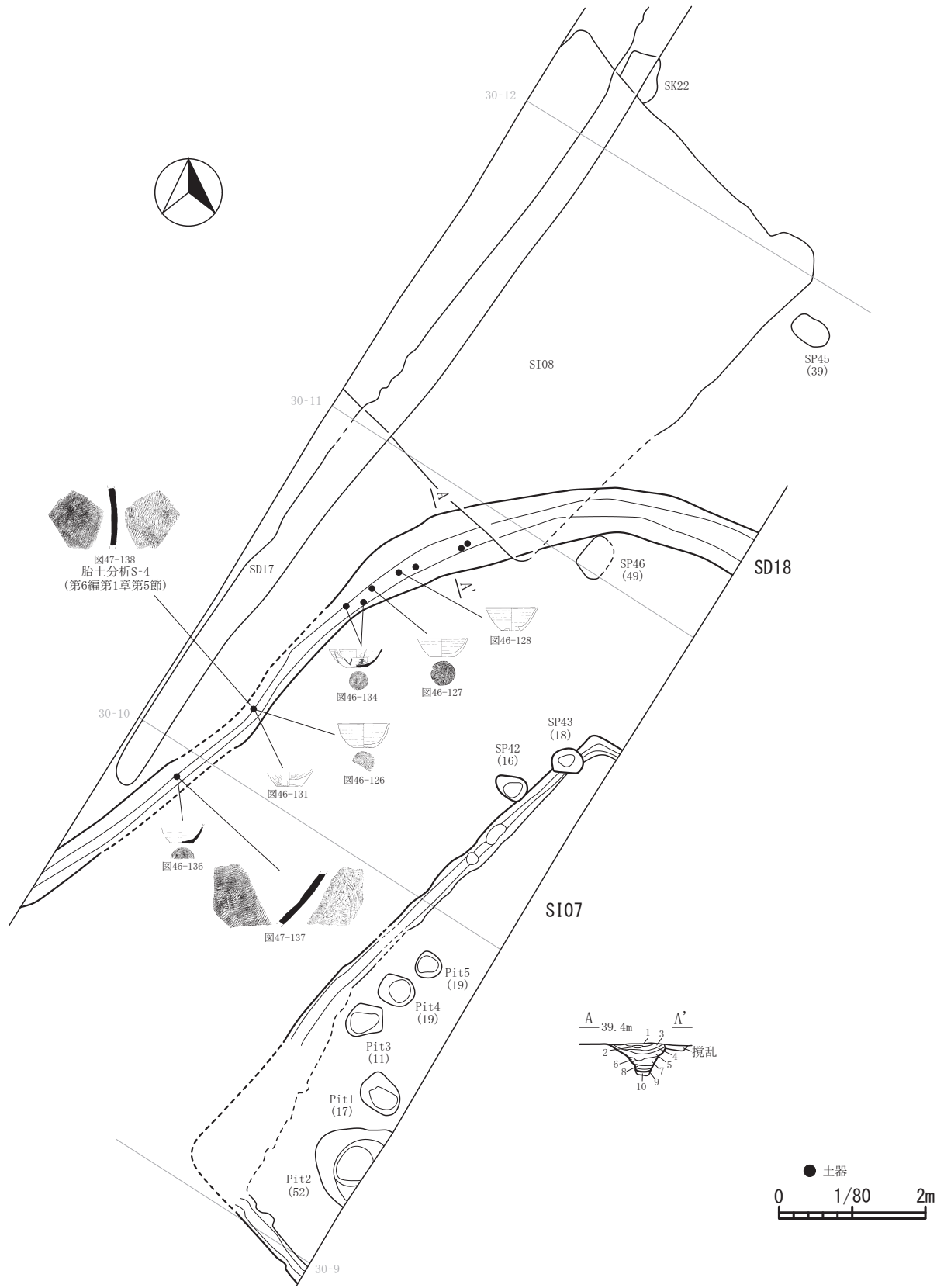


図15 第5号竪穴建物跡・第6号竪穴建物跡



- SD18
- 1層 10YR3/3 暗褐色土と10YR4/3にぶい黄褐色土の混合層。ローム粒(φ1~10mm)2%、焼土(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~10mm)1%。
 - 2層 10YR4/6 褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合層。焼土(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%。
 - 3層 10YR3/4 暗褐色土とローム粒(φ1~10mm)2%、焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 - 4層 10YR4/4 褐色土と10YR3/4暗褐色土の混合層。10YR4/6褐色土5%、ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~10mm)1%。
 - 5層 10YR3/3 暗褐色土と10YR5/6黄褐色土3%、ローム粒(φ1~30mm)3%、焼土(φ10mm)1%、炭化物(φ2~10mm)1%。
 - 6層 10YR4/4 褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合層。炭化物(φ3mm)1%。
 - 7層 10YR4/3 におい黄褐色土と10YR5/8明黄褐色土3%、ローム粒(φ1~10mm)2%、焼土(φ2mm)1%、炭化物(φ1~15mm)1%。
 - 8層 10YR3/4 暗褐色土とローム粒(φ1~5mm)1%、炭化物(φ2mm)1%。
 - 9層 10YR4/4 褐色土とローム粒(φ1~20mm)20%。
 - 10層 10YR5/6 黄褐色土掘方。7.5YR5/8明褐色土15%、10YR5/6黄褐色土10%。

図16 第7号竪穴建物跡(1)・第18号溝跡

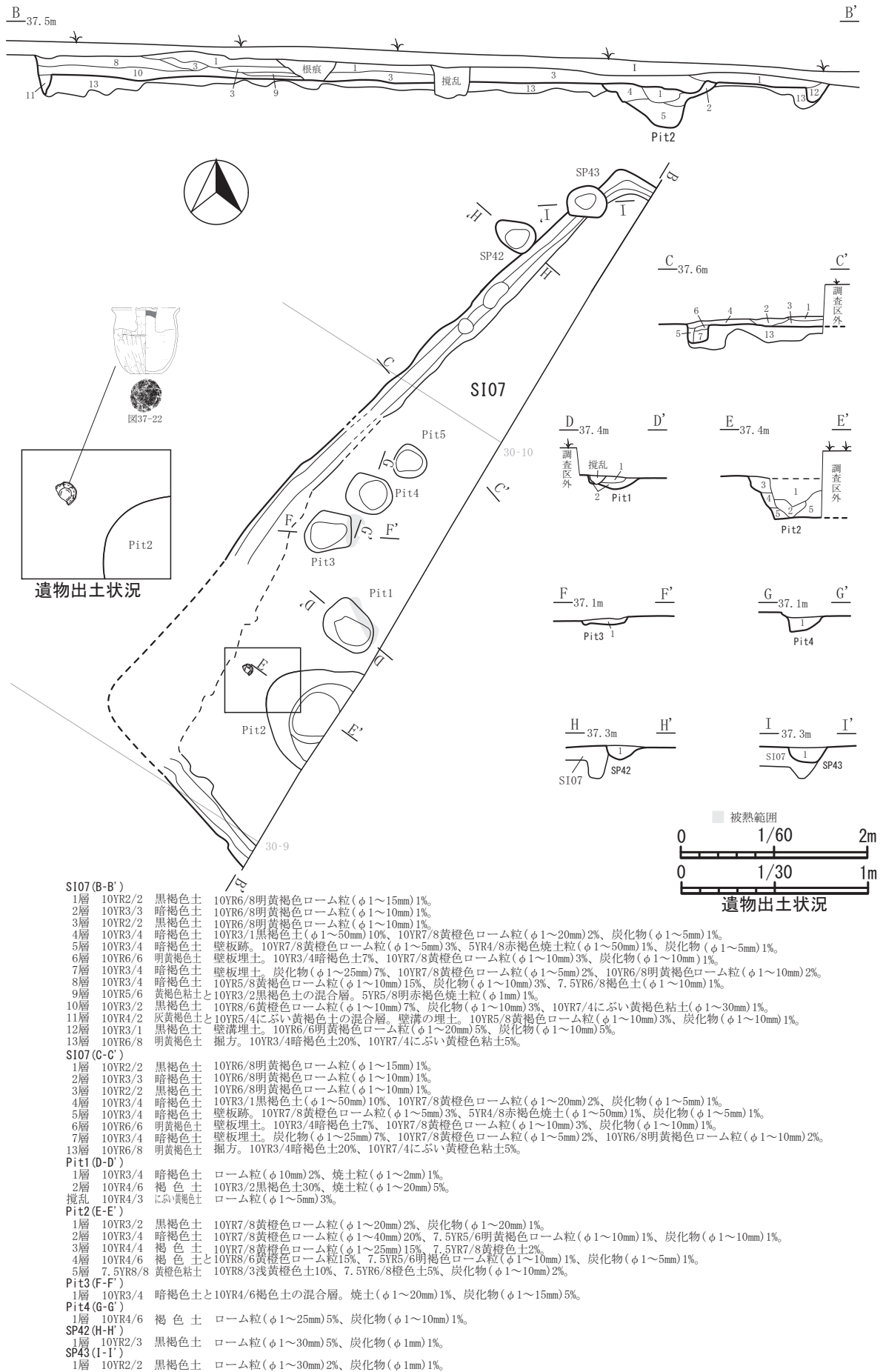


図17 第7号竪穴建物跡(2)

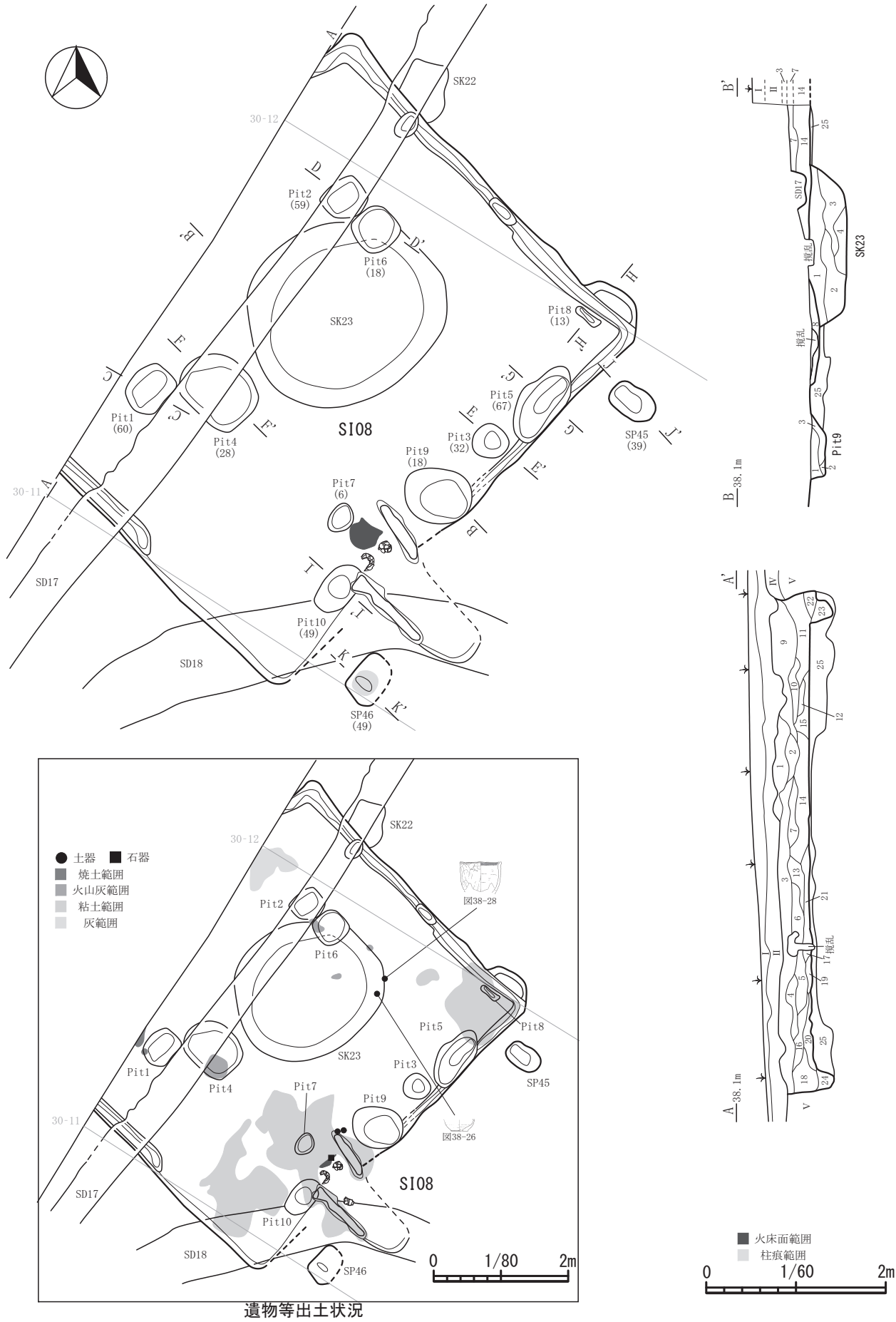


図18 第8号竪穴建物跡(1)

SI08 (A-A'・B-B')

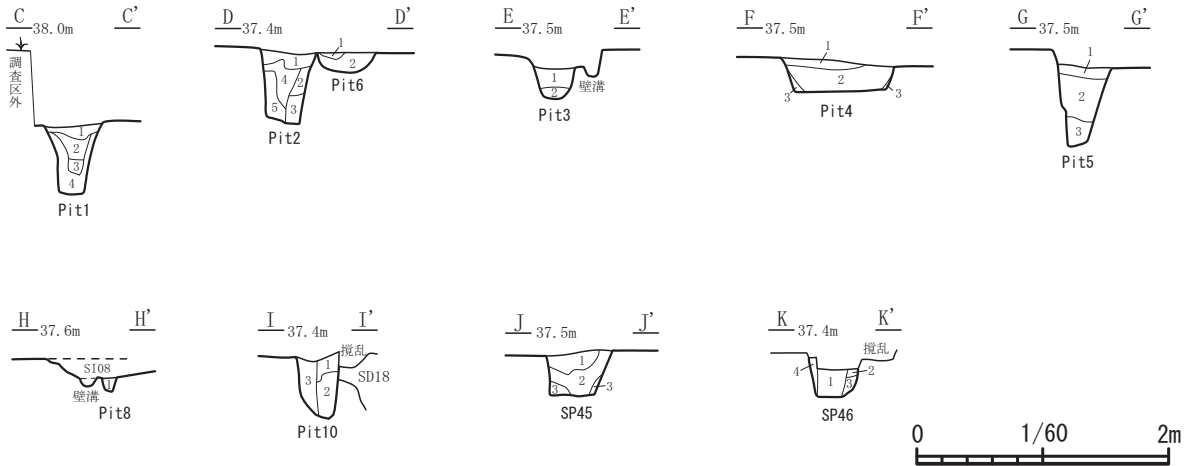
I	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
II	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
1層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~10mm)2%、5YR2/4極暗赤褐色土1%(鉄分?)、炭化物(φ1mm)1%。
2層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒(φ1~200mm)5%、5YR2/4極暗赤褐色土1%、炭化物(φ1mm)1%。
3層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒(φ1~3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
4層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
5層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒(φ1~50mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
6層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%。
7層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
8層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
9層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~5mm)2%。
10層	10YR3/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~10mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%。
11層	10YR3/4	暗褐色土	ロームブロック(φ100~300mm)10%、ローム粒(φ1~50mm)5%、炭化物(φ1~5mm)3%。
12層	10YR4/4	褐色土	10YR6/4にぶい黄橙色粘土40%、灰30%、ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1mm)2%。
13層	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~30mm)5%、7.5YR5/8明褐色焼土(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%。
14層	10YR3/4	暗褐色土	ロームブロック(φ200mm)5%、ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~10mm)2%。
15層	10YR4/6	褐色土	ローム粒(φ1~50mm)5%、ロームブロック(φ300mm)5%、炭化物(φ1~10mm)2%。
16層	10YR4/6	褐色土	ローム粒(φ1~30mm)5%、炭化物(φ1~3mm)1%。
17層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
18層	10YR4/4	褐色土	ローム粒(φ1~50mm)5%、ロームブロック(φ200mm)3%、炭化物(φ1~5mm)3%。
19層	10YR3/4	暗褐色土	7.5YR5/8明褐色焼土20%、ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
20層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
21層	10YR4/6	褐色土	ローム粒(φ1~50mm)5%、炭化物(φ1~3mm)2%。
22層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒(φ1~30mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%。
23層	10YR3/4	暗褐色土	壁溝。ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~3mm)1%。
24層	10YR2/2	黒褐色土	壁溝。ローム粒(φ1~70mm)20%。
25層	10YR6/8	明黄褐色土	掘方。ロームブロック主体。10YR3/3暗褐色土15%で下半に多い。

Pit9 (B-B')

I	10YR2/2	黒褐色土	ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
II	10YR2/1	黒色土	ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
1層	10YR4/6	褐色土	ローム粒(φ1~10mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%。
2層	10YR3/4	暗褐色土	ローム粒(φ1~5mm)2%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1~3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
3層	10YR4/4	褐色土	ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%。

SK23 (B-B')

1層	10YR4/3	にぶい黄褐色土	10YR5/6黄褐色ローム粒(φ10~40mm)10%。
2層	10YR3/2	黒褐色土	10YR5/6黄褐色ローム粒(φ5~20mm)7%、10YR2/2黒褐色土5%。
3層	10YR4/4	褐色土	10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~30mm)15%。
4層	10YR5/8	黄褐色粘土	10YR6/4にぶい黄橙色粘土15%。



Pit1 (G-C')

1層	7.5YR4/3	褐色土	ローム粒(φ1~50mm)10%。
2層	7.5YR5/6	明褐色土	と10YR5/6黄褐色土の混合層。柱痕。
3層	7.5YR5/6	明褐色土	と10YR3/2黒褐色土の混合層。柱痕。
4層	10YR5/6	黄褐色土	掘方。7.5YR5/8明褐色粘土5%。

Pit2 (D-D')

1層	10YR4/4	褐色土	ローム粒(φ1~30mm)3%、炭化物(φ1~15mm)1%。
2層	10YR5/8	黄褐色土	柱痕。10YR6/8明黄褐色土15%、10YR6/4にぶい黄褐色土10%、炭化物(φ1~2mm)1%。
3層	10YR6/6	明黄褐色土	柱痕。10YR2/2黒褐色土10%、10YR7/1灰白色粘土5%。
4層	10YR5/6	黄褐色土	掘方。炭化物(φ1~3mm)1%。
5層	10YR8/6	黄褐色土	掘方。10YR8/4浅黄褐色粘土3%、10YR2/2黒褐色土2%。

Pit6 (D-D')

1層	10YR3/2	黒褐色土	10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)3%、10YR2/1黒色土1%。
2層	10YR3/3	暗褐色土	10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~20mm)5%、10YR8/7黄褐色ローム粒(φ1~15mm)3%、炭化物(φ1~5mm)1%。

Pit3 (E-E')

1層	10YR4/4	褐色土	ローム粒(φ1~30mm)7%、炭化物(φ1~10mm)1%。
2層	10YR4/6	褐色土	ローム粒(φ1~20mm)30%、10YR7/4にぶい黄褐色粘土20%、炭化物(φ1~3mm)1%。

Pit4 (F-F')

1層	10YR4/4	褐色土	ローム粒(φ1~80mm)10%、炭化物(φ15mm)1%。
2層	10YR5/6	黄褐色土	と10YR6/8明黄褐色土の混合層。10YR4/4褐色土20%、10YR3/4暗褐色土10%、10YR7/8黄褐色土5%。
3層	10YR6/6	明黄褐色土	と10YR5/6黄褐色土の混合層。

Pit5 (G-G')

1層	10YR5/4	にぶい黄褐色土	と10YR4/4褐色土の混合層。ローム粒(φ1~100mm)20%、10YR5/6黄褐色土15%、炭化物(φ2~20mm)2%。
2層	10YR4/4	褐色土	ローム粒(φ1~80mm)35%、炭化物(φ1~15mm)1%。
3層	10YR5/6	黄褐色土	10YR4/4褐色土15%、炭化物(φ1~10mm)1%。

Pit8 (H-H')

1層	10YR3/2	黒褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1mm)2%。
----	---------	------	---

Pit10 (I-I')

1層	10YR4/4	褐色土	柱痕。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~20mm)3%、炭化物(φ1~5mm)2%。
2層	10YR3/4	暗褐色土	柱痕。炭化物(φ1~3mm)2%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
3層	10YR6/6	明黄褐色土	掘方。10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~3mm)2%。

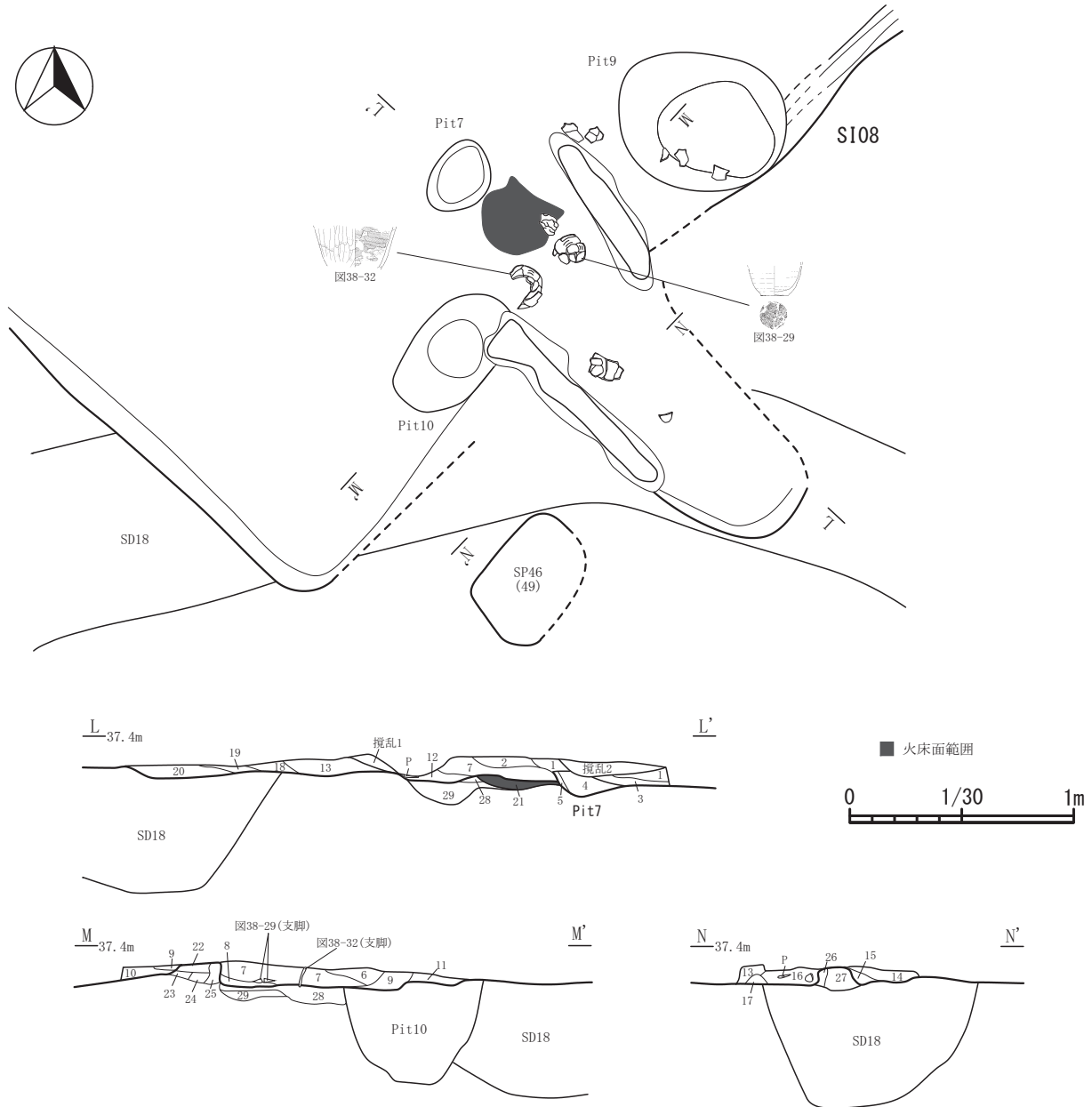
SP45 (J-J')

1層	10YR7/8	黒褐色土	10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~20mm)2%、10YR8/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)1%。
2層	10YR7/8	黒褐色土	10YR8/8黄褐色ローム粒(φ1~20mm)7%、10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~30mm)5%、10YR2/1黒色土(φ1~15mm)1%。
3層	10YR7/6	明黄褐色土	10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~15mm)5%、10YR3/2黒褐色土3%、10YR2/1黒色土1%。

SP46 (K-K')

1層	10YR3/4	暗褐色土	柱痕。炭化物(φ1~5mm)3%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)2%。
2層	10YR3/2	黒褐色土	掘方。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
3層	10YR4/4	褐色土	掘方。10YR7/1灰白色粘土3%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%。
4層	10YR4/4	褐色土	掘方。10YR5/8黄褐色土10%、炭化物(φ1mm)1%。

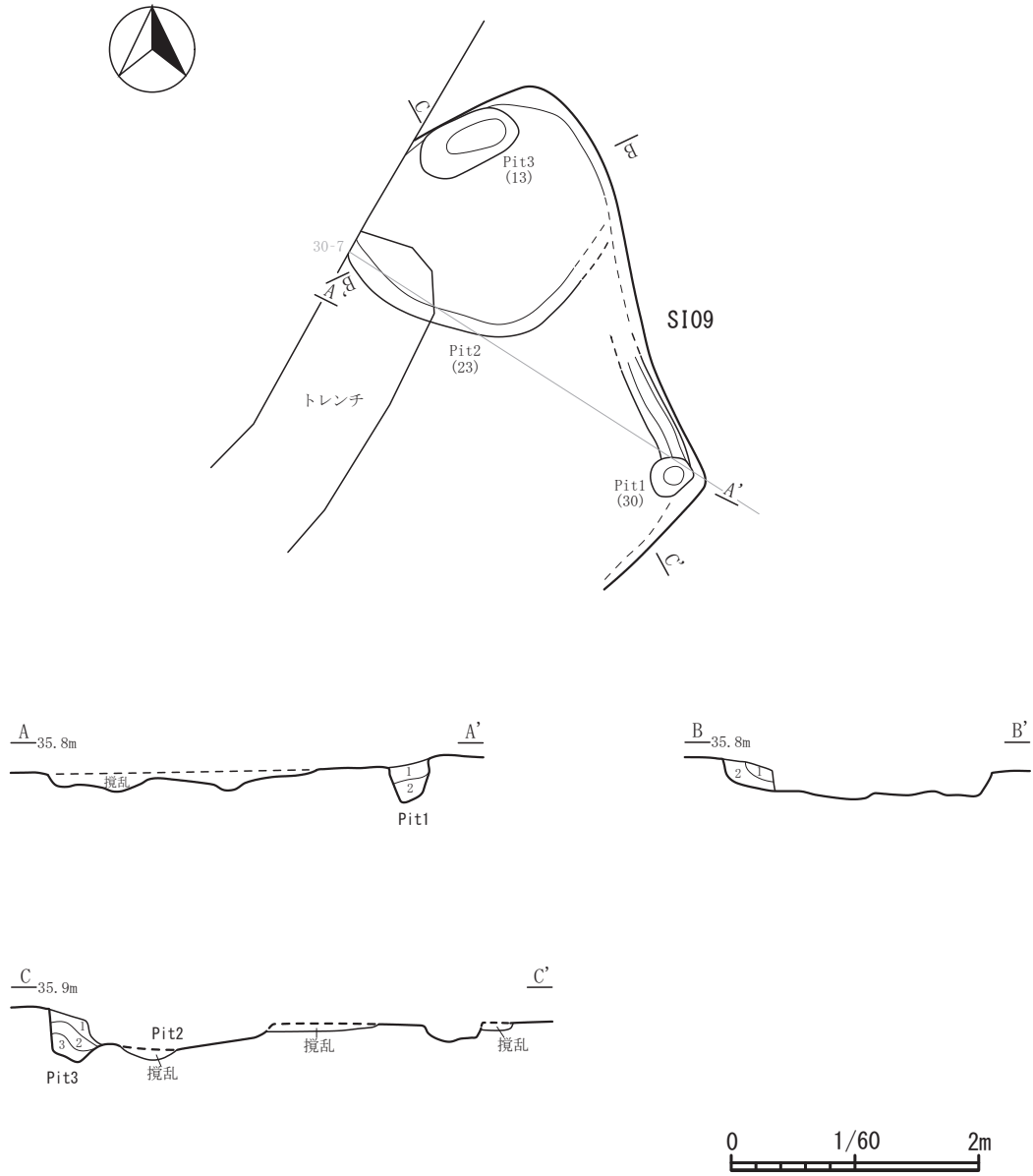
図19 第8号竪穴建物跡(2)



S108カマド(L-L'・M-M'・N-N')

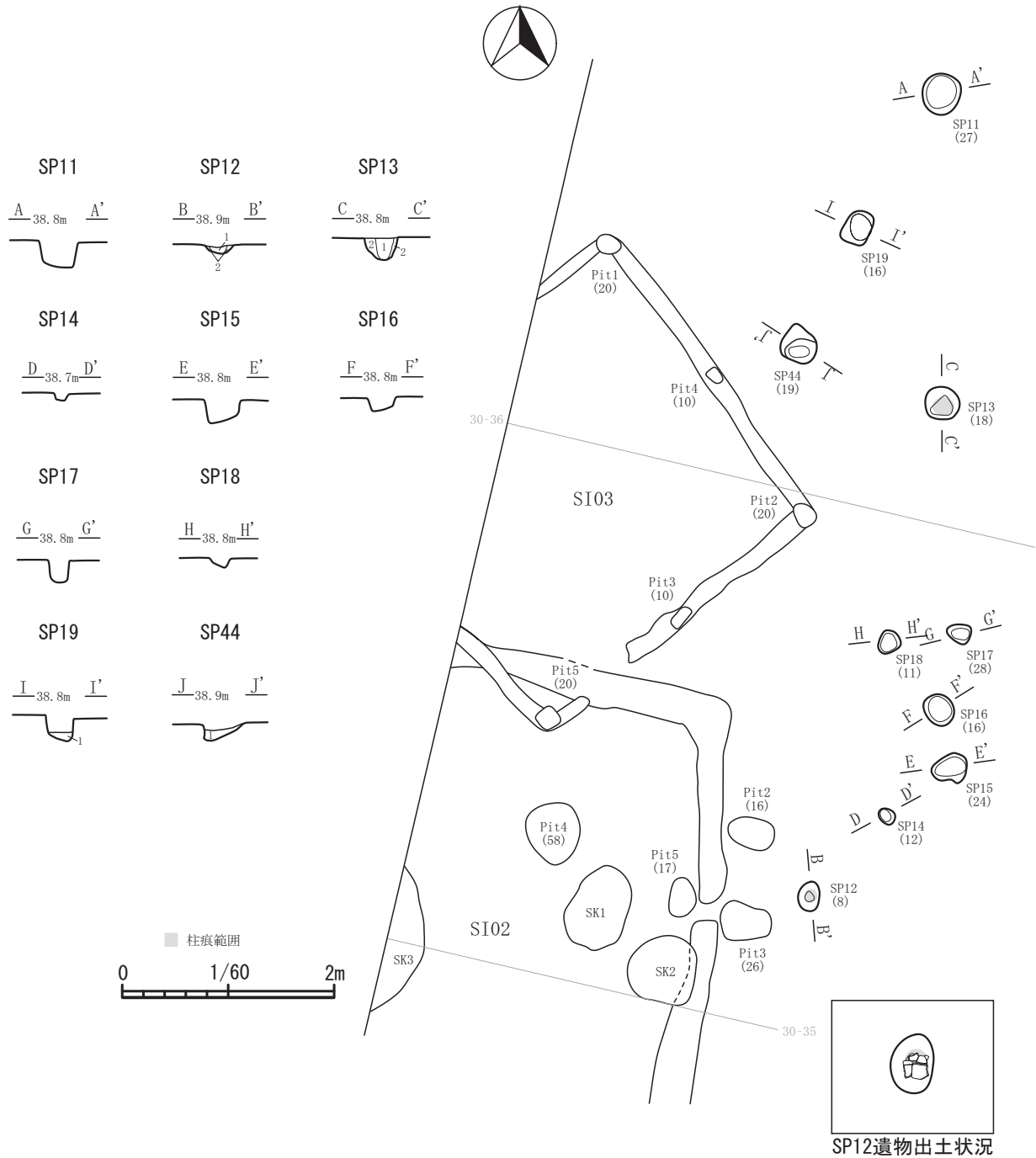
- | | | | |
|-----|----------|--------|--|
| 1層 | 10YR5/4 | にぶ黄褐色土 | 10YR7/8黄褐色ローム粒40%。 |
| 2層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。 |
| 3層 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~20mm)7%、7.5YR6/8橙色土(φ1~5mm)1%。 |
| 4層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | Pit7堆積土。10YR8/8黄褐色ローム粒(φ1~20mm)3%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1~20mm)2%、炭化物(φ1~5mm)1%。 |
| 5層 | 10YR4/4 | 褐色土 | Pit7堆積土。10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~5mm)1%。 |
| 6層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%、7.5YR6/8橙色土(φ1~5mm)1%。 |
| 7層 | 10YR2/3 | 暗褐色土 | 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)1%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1~10mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。 |
| 8層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 5YR5/8明赤褐色焼土(φ1~5mm)1%。 |
| 9層 | 10YR6/4 | にぶ黄褐色土 | 10YR2/3黒褐色土30%、10YR8/1灰白色浮石1%。 |
| 10層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR8/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。 |
| 11層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)1%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1~10mm)1%。 |
| 12層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~20mm)7%。 |
| 13層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR8/1灰白色浮石1%、10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~3mm)1%。 |
| 14層 | 10YR5/4 | にぶ黄褐色土 | 10YR8/6黄褐色ローム粒(φ1~30mm)20%、10YR7/4にぶ黄褐色粘土1%、炭化物(φ1~5mm)1%。 |
| 15層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。 |
| 16層 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 7.5YR5/8明赤褐色ローム粒(φ1~15mm)3%。 |
| 17層 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~30mm)10%。 |
| 18層 | 10YR3/1 | 黒褐色土 | 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~30mm)25%。 |
| 19層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。 |
| 20層 | 10YR2/2 | 黒褐色土 | 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)1%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~10mm)1%。 |
| 21層 | 2.5YR5/8 | 明赤褐色土 | 本層上面が火床面。 |
| 22層 | 10YR5/4 | にぶ黄褐色土 | 袖部材の粘土。 |
| 23層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 袖部材。 |
| 24層 | 2.5YR7/4 | 浅黄色土 | 袖部材の粘土。 |
| 25層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 粘土質で袖部材。焼土(φ5~8mm)2%。 |
| 26層 | 5YR3/2 | 暗赤褐色土 | 煙道壁の貼付粘土で被熱した部分。元々は27層と思われる。 |
| 27層 | 10YR6/6 | 明赤褐色土 | 煙道壁の貼付粘土部材。 |
| 28層 | 10YR6/8 | 明赤褐色土 | 掘方。10YR3/2黒褐色土2%。 |
| 29層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 掘方。10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~15mm)7%。 |

図20 第8号竪穴建物跡(3)



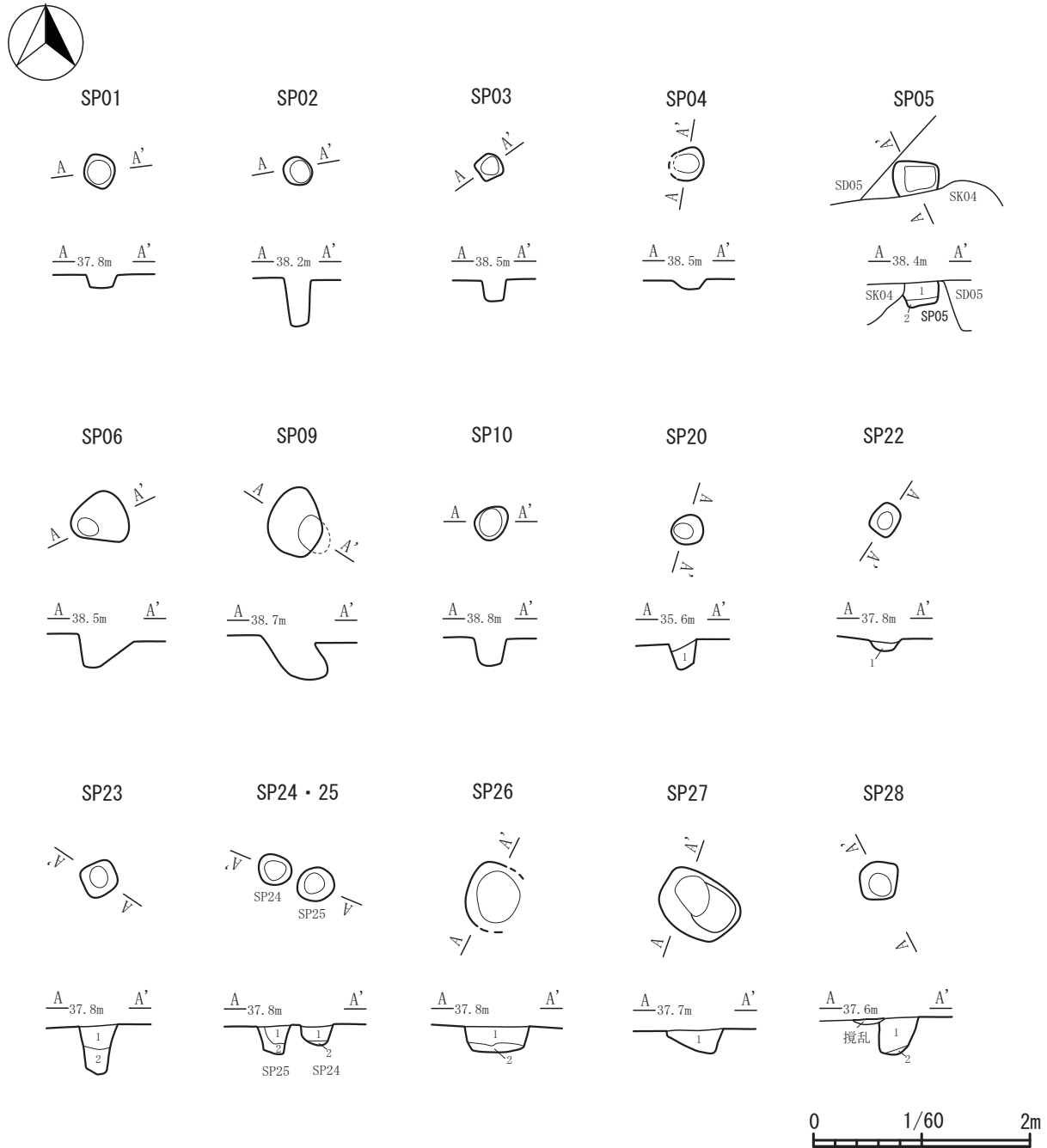
- Pit1 (A-A')**
 1層 10YR4/3 におい黄褐色土 10YR3/3暗褐色土20%。
 2層 10YR6/3 におい黄褐色土 10YR4/4褐色土7%(下位に)。
- Pit2 (B-B')**
 1層 2.5YR4/4 オリーブ褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ3~40mm)10%、10YR7/1灰白色粘土(φ1~10mm)3%、焼土(φ1~10mm)1%。
 2層 10YR5/6 黄褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ3~15mm)5%、10YR7/1灰白色粘土(φ1~5mm)1%。
- Pit3 (C-C')**
 1層 10YR5/4 におい黄褐色土 10YR4/6褐色土5%、鉄分凝着あり。
 2層 10YR4/3 におい黄褐色土 10YR6/4におい黄褐色粘土5%。
 3層 10YR4/4 褐色土 10YR6/4におい黄褐色粘土10%。

図21 第9号竪穴建物跡



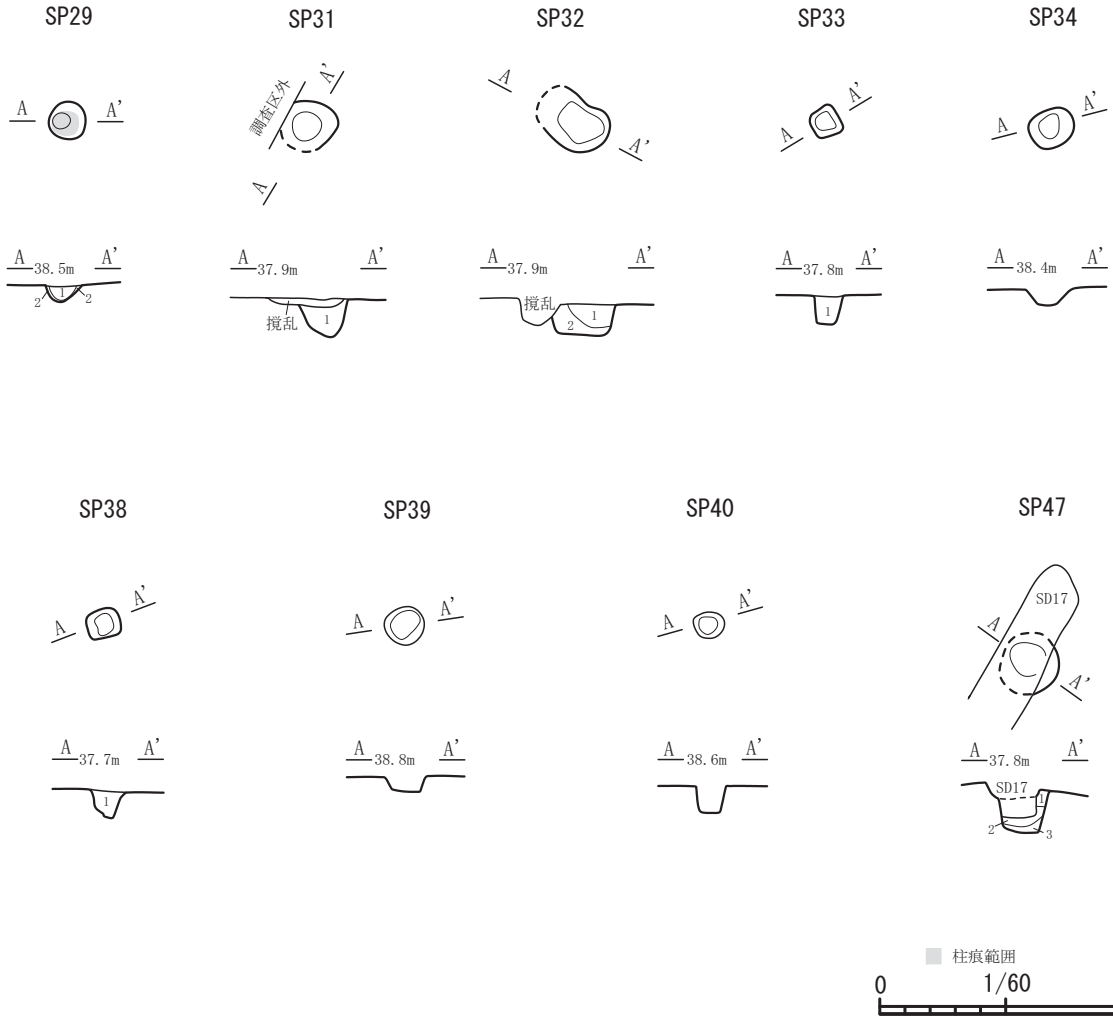
SP12(B-B')
 1層 10YR3/4 暗褐色土 柱痕。ローム粒(φ1~10mm)3%、10YR1.7/1黒色土(φ1~5mm)2%、焼土(φ1~10mm)2%。
 2層 10YR4/6 褐色土 掘方。ローム粒(φ1~10mm)2%、10YR1.7/1黒色土(φ1~5mm)2%。
 SP13(C-C')
 1層 10YR3/2 黒褐色土 柱痕。10YR5/6黄褐色土7%。
 2層 10YR3/3 暗褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合層。掘方。10YR6/8明黄褐色土5%。
 SP19(I-I')
 1層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~35mm)3%、炭化物(φ1~2mm)2%、焼土1%。
 SP44(J-J')
 1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~10mm)3%、炭化物(φ1~5mm)2%。

図22 柱穴(1)



SP05			
1層	10YR1.7/1	黒色土	ローム粒(φ1~10mm)2%。
2層	10YR2/2	黒褐色土	ロームブロック(φ20~40mm)50%、ローム粒(φ1~10mm)2%。
SP20			
1層	10YR3/3	暗褐色土	10YR6/3にぶい黄橙色土15%、鉄分凝着(φ5~20mm)5%。
SP22			
1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~35mm)1%。
SP23			
1層	10YR2/2	黒褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~3mm)1%。
2層	10YR3/1	黒褐色土	10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~20mm)7%。
SP24			
1層	10YR2/1	黒色土	10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
2層	10YR2/2	黒褐色土	10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~40mm)30%。
SP25			
1層	10YR3/1	黒褐色土	10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~15mm)15%、10YR6/4にぶい黄橙色土(φ50mm)10%。
2層	10YR3/1	黒褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~15mm)7%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ2~10mm)1%。
SP26			
1層	10YR2/1	黒色土	10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~25mm)15%。
2層	10YR4/4	褐色土	10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~40mm)30%。
SP27			
1層	10YR3/2	黒褐色土	10YR5/3にぶい黄褐色土20%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~25mm)15%。
SP28			
1層	10YR2/1	黒色土	10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)3%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~20mm)1%。
2層	10YR2/2	黒褐色土	10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~50mm)30%、5YR6/6橙色焼土(φ2mm)1%。

図23 柱穴(2)



- SP29**
 1層 10YR2/1 黒色土 柱痕。ローム粒(φ1~3mm)2%。
 2層 10YR5/8 黄褐色土 掘方。ローム粒(φ1~3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
- SP31**
 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
- SP32**
 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)3%。
 2層 10YR6/8 明黄褐色土 10YR2/2黒褐色土10%、炭化物(φ1~3mm)2%。
- SP33**
 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
- SP38**
 1層 10YR1.7/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
- SP47**
 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
 2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/8黄褐色土20%、炭化物(φ1~3mm)2%。
 3層 10YR7/6 明黄褐色土 10YR8/2灰白色粘土5%、10YR5/6黄褐色土3%。

図24 柱穴(3)

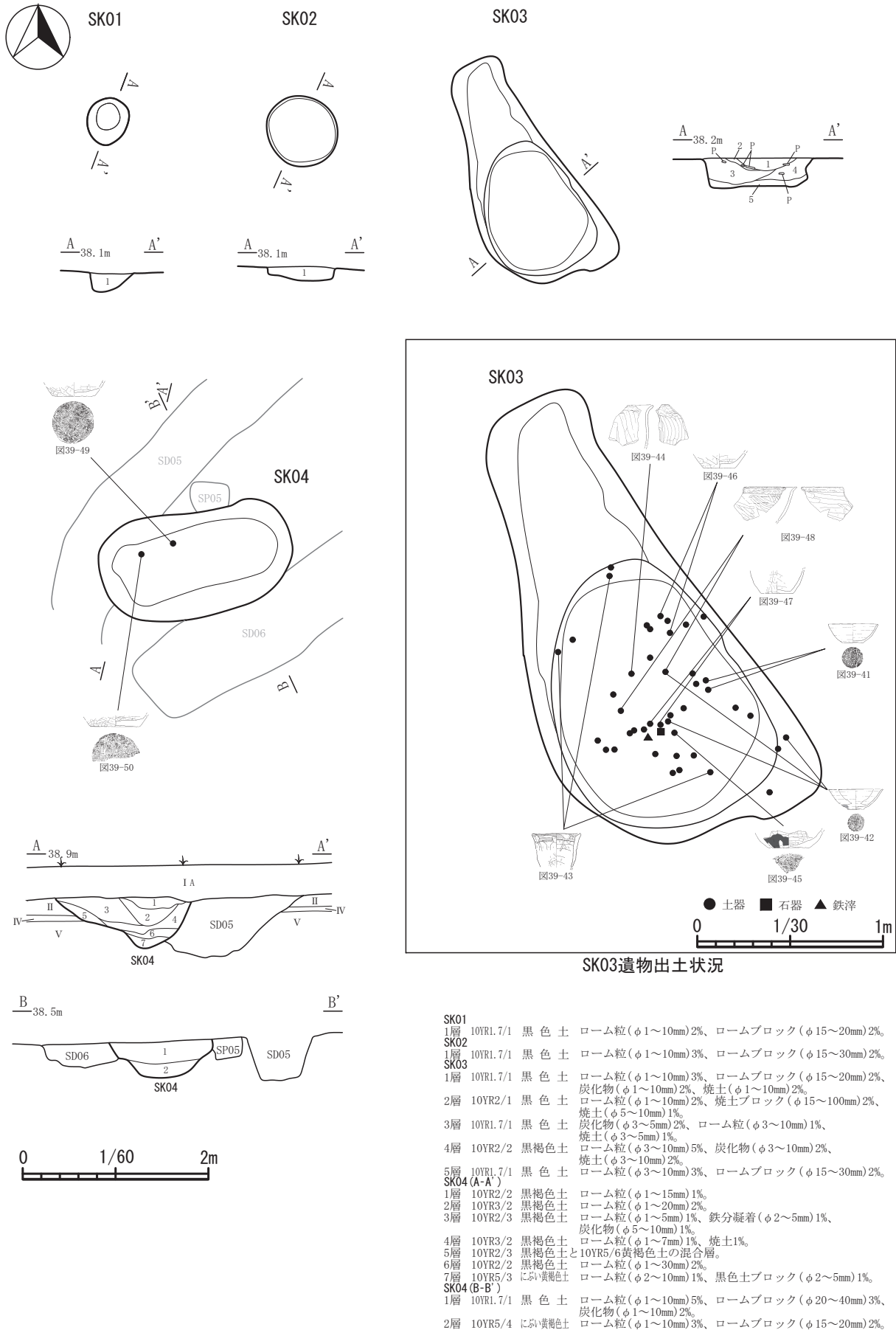
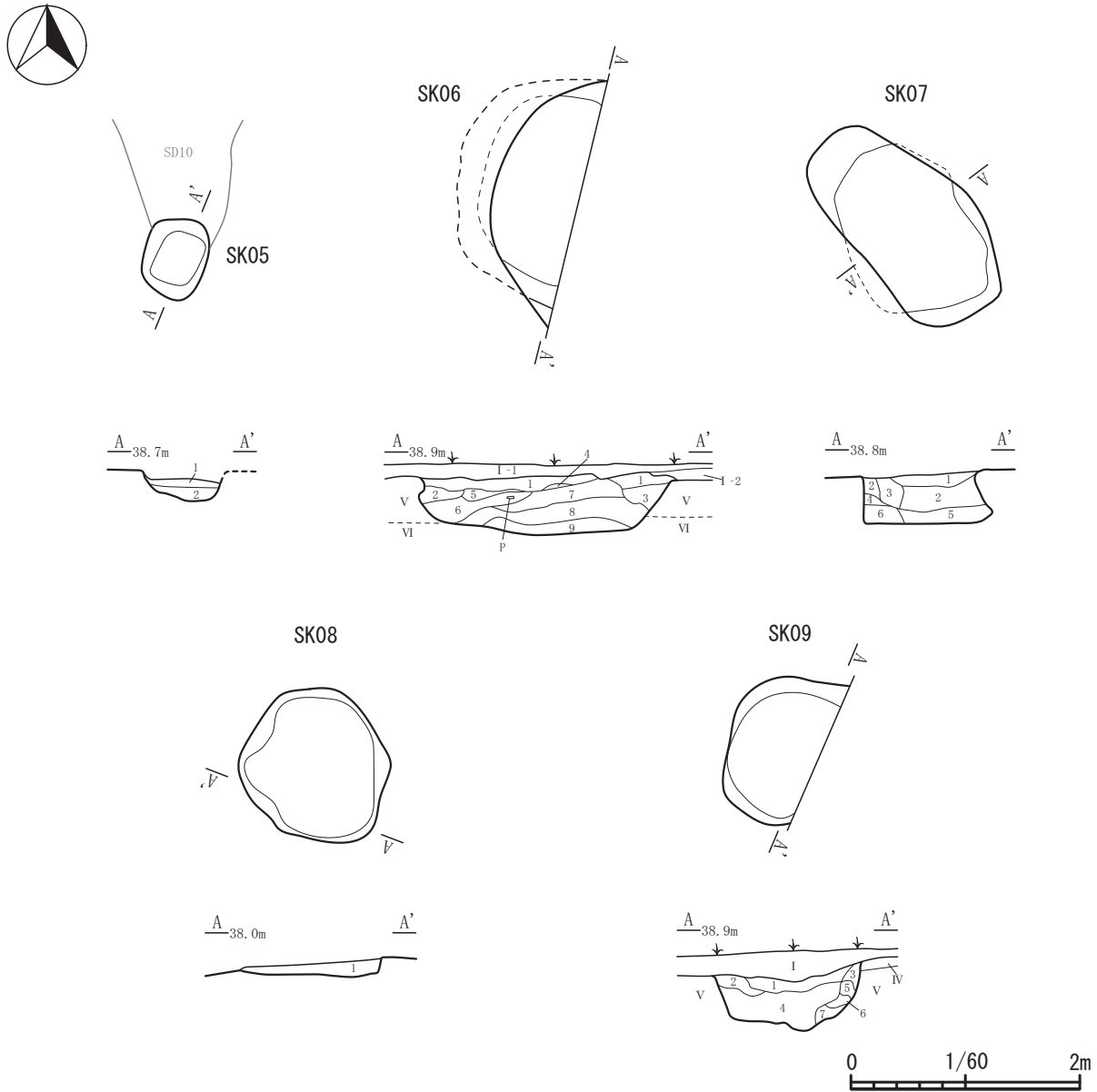
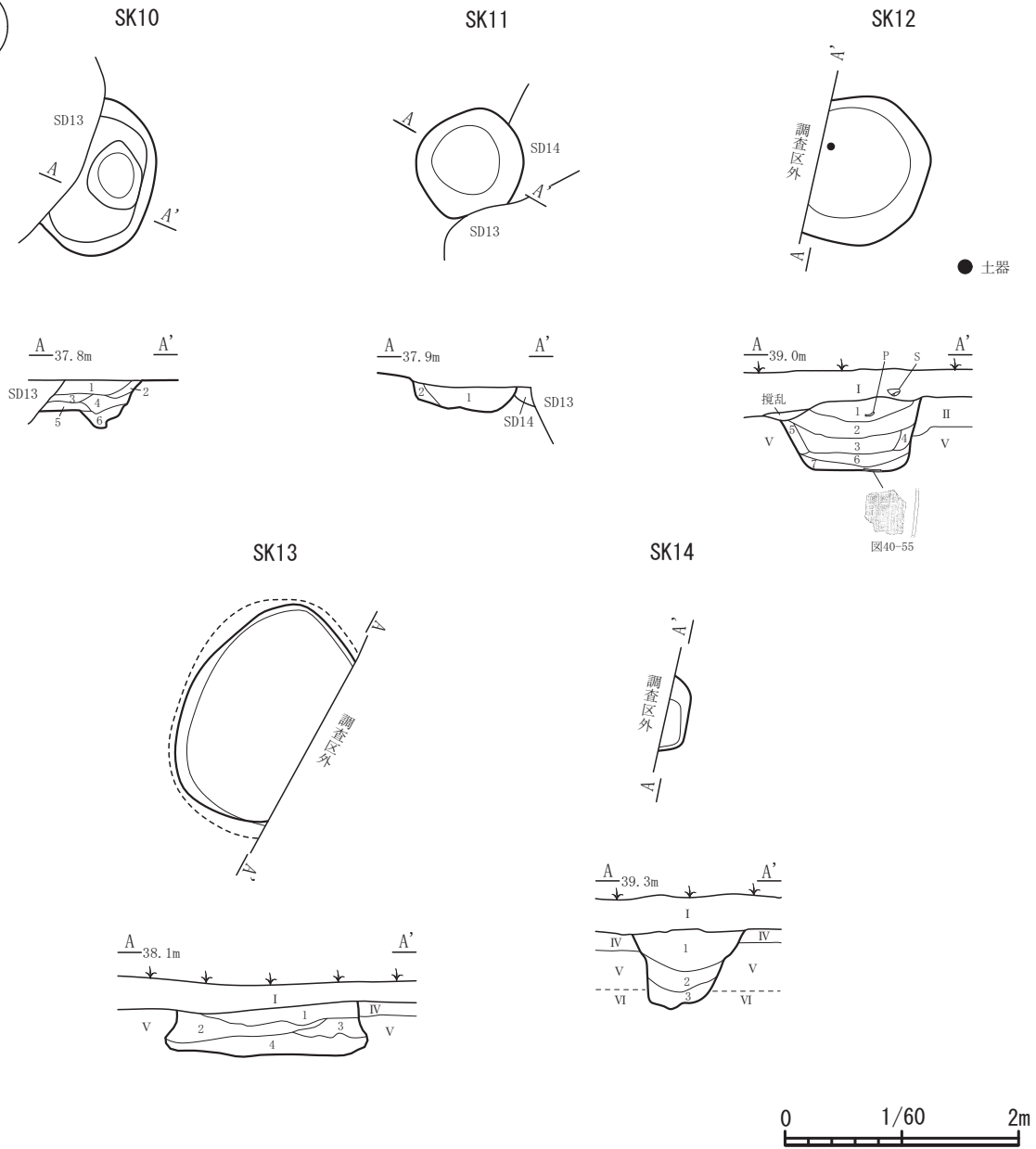


図25 土坑 (1)



- SK05**
 1層 10YR2/1 黒色土 10YR7/8黄橙色土ローム粒(φ1~10mm)2%。
 2層 10YR2/1 黒色土 10YR6/6明黄褐色土ローム40%、5YR6/8橙色焼土。
- SK06**
 1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~10mm)3%、ロームブロック(φ15~20mm)2%、炭化物1%。
 2層 10YR6/8 明黄褐色土 ローム粒(φ1~5mm)1%。
 3層 10YR4/6 褐色土 ローム粒(φ1~5mm)1%。
 4層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)2%。
 5層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~10mm)3%、焼土(φ1~3mm)1%、炭化物1%。
 6層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~10mm)5%、ロームブロック(φ15~20mm)3%、炭化物1%。
 7層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~10mm)2%、ロームブロック(φ15mm)1%。
 8層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ1~10mm)3%、ロームブロック(φ15~30mm)3%。
 9層 10YR2/1 黒色土 ロームブロック(φ30~100mm)25%、ローム粒(φ1~10mm)3%。
- SK07**
 1層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~8mm)1%。
 2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~20mm)2%。
 3層 10YR6/8 明黄褐色土
 4層 10YR7/2 赤褐色土 10YR2/3黒褐色土5%。
 5層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~40mm)5%。
 6層 10YR2/3 黒褐色土と10YR6/8明黄褐色土の混合層。
- SK08**
 1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR8/6黄橙色土20%、炭化物(φ1~50mm)10%、10YR6/6明黄褐色土ローム粒(φ1~2mm)7%。
- SK09**
 1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~8mm)1%。
 2層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~15mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
 3層 10YR3/2 黒褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合層。崩落土。
 4層 10YR3/4 暗褐色土 10YR2/3黒褐色土15%、ローム粒(φ1~60mm)7%、炭化物(φ2~5mm)1%。
 5層 10YR6/8 明黄褐色土 崩落土。7.5YR5/6明褐色土5%。
 6層 10YR4/6 褐色土と10YR3/4暗褐色土の混合層。崩落土。7.5YR6/8橙色土5%、10YR7/6明黄褐色土4%。
 7層 10YR5/8 黄褐色土と7.5YR6/8橙色土の混合層。崩落土。10YR3/4暗褐色土5%。

図26 土坑(2)



SK10

- 1層 10YR2/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~3mm)5%。
- 2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~3mm)2%。
- 3層 10YR1.7/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
- 4層 10YR2/1 黒色土 10YR7/8黄橙色土10%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)3%。
- 5層 10YR4/4 褐色土 10YR6/8明黄褐色土ローム粒(φ1~10mm)3%。
- 6層 10YR8/6 黄橙色土 10YR2/2黒褐色土2%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。

SK11

- 1層 10YR1.7/1 黒色土 10YR7/8黄橙色土ローム粒(φ1~10mm)1%。
- 2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土ローム粒(φ1~10mm)3%。

SK12

- 1層 10YR2/1 黒色土 10YR6/2灰黄褐色粘土(φ5~35mm)7%、10YR5/4にぶい黄褐色ローム粒(φ1~20mm)7%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1~4mm)2%。
- 2層 10YR2/1 黒色土 10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~20mm)20%、10YR5/3にぶい黄褐色土5%、10YR7/2にぶい黄褐色粘土(φ25mm)3%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1~2mm)2%。
- 3層 10YR2/1 黒色土 10YR7/4にぶい黄褐色ローム粒(φ1~7mm)7%、10YR6/3にぶい黄橙色粘土(φ10~40mm)5%、10YR3/2黒褐色粘土(φ5~7mm)1%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1~3mm)1%。
- 4層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/4にぶい黄褐色ローム粒(φ1~15mm)20%、10YR2/1黒色土15%、10YR8/4浅黄褐色ローム粒(φ1~5mm)10%、10YR5/4にぶい黄褐色粘土(φ12~20mm)3%。
- 5層 10YR5/3 にぶい黄褐色土 10YR8/6黄褐色ローム粒(φ1~30mm)30%、10YR2/1黒色土10%、5YR4/6赤褐色焼土(φ1~3mm)1%。
- 6層 10YR2/1 黒色土 10YR7/4にぶい黄褐色土20%、10YR3/2黒褐色土15%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~20mm)10%、10YR4/2灰黄褐色粘土(φ5~10mm)2%。
- 7層 10YR1.7/4 にぶい黄褐色土 10YR3/2黒褐色土5%、10YR2/1黒色土5%、10YR4/6褐色ローム粒(φ1~10mm)5%。

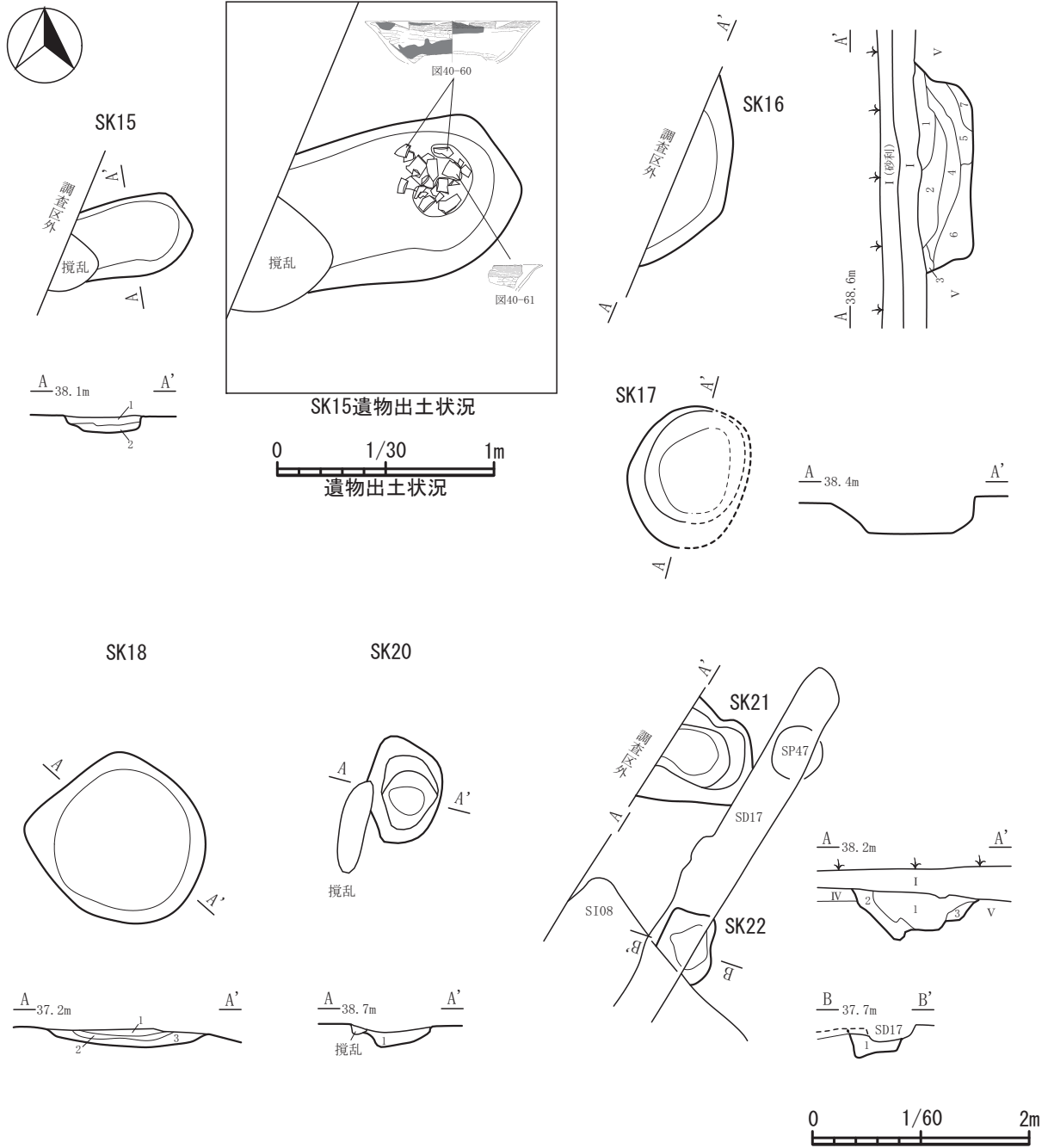
SK13

- 1層 10YR2/1 黒色土 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)5%、10YR8/8黄褐色ローム粒(φ10mm)2%。
- 2層 10YR1.7/1 黒色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~20mm)15%、10YR4/4褐色土(φ30mm)5%。
- 3層 10YR2/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)15%、10YR2/2黒褐色土5%、5YR3/6暗赤褐色焼土(φ3mm)1%。
- 4層 10YR1.7/1 黒色土 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~20mm)15%、10YR7/4にぶい黄褐色ローム粒(φ1~30mm)5%、10YR4/4褐色ローム粒(φ1~20mm)5%。

SK14

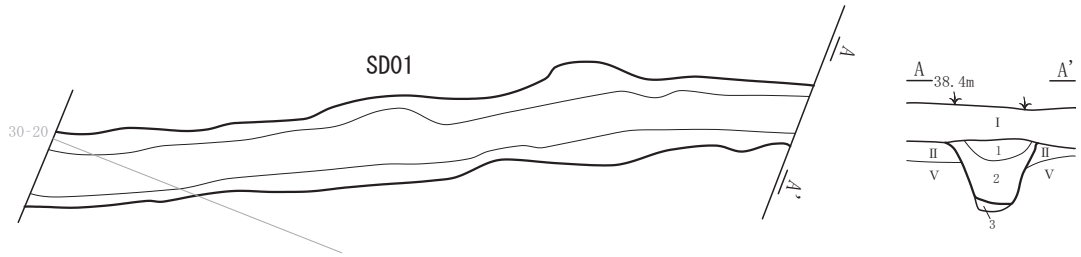
- 1層 10YR2/1 黒色土 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~3mm)3%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ3mm)1%。
- 2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)5%。
- 3層 10YR2/1 黒色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~30mm)3%。

図27 土坑(3)

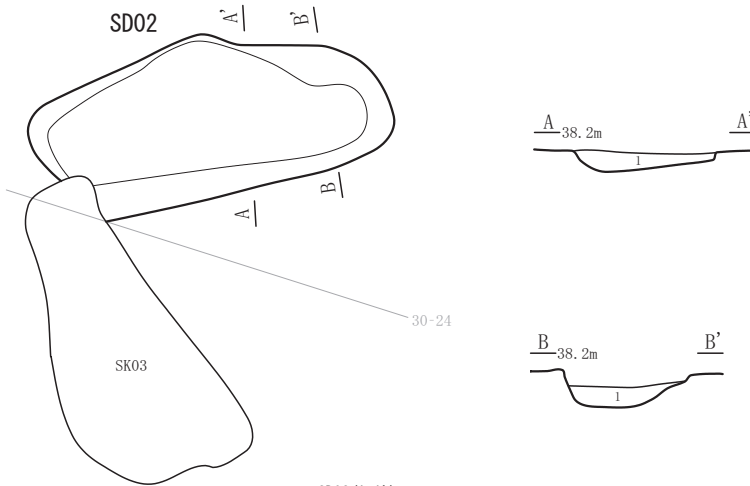


- SK15**
 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ブロック3%。
 2層 10YR4/2 灰黄褐色土 10YR5/6黄褐色ブロック(φ10~25mm)2%。
- SK16**
 1層 10YR2/1 黒色土 10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~15mm)7%、10YR4/4褐色土3%、炭化物(φ1~2mm)1%。
 2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR8/6黄褐色ローム粒(φ1~5mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%。
 3層 10YR2/1 黒色土 10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~20mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
 4層 10YR3/2 黒褐色土 10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~30mm)20%、10YR2/1黒色土3%。
 5層 10YR3/3 暗褐色土 10YR2/1黒色土20%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~30mm)10%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 6層 10YR2/1 黒色土 10YR2/2黒褐色土5%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)3%。
 7層 10YR3/2 黒褐色土 10YR7/6明黄褐色ロームブロック(φ11~60mm)15%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)10%、炭化物(φ1~5mm)2%。
- SK18**
 1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム30%、ローム粒(φ1~10mm)3%、炭化物(φ1~50mm)2%。
 2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~3mm)3%、5YR4/8赤褐色焼土(φ50mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
 3層 10YR2/3 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~200mm)5%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1~3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
- SK20**
 1層 10YR1.7/1 黒色土 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~30mm)7%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ3mm)1%。
- SK21**
 1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)1%。
 2層 10YR3/3 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~30mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
 3層 10YR3/3 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)7%、炭化物(φ1~3mm)1%。
- SK22**
 1層 10YR3/2 黒褐色土 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)10%、炭化物(φ1mm)3%。

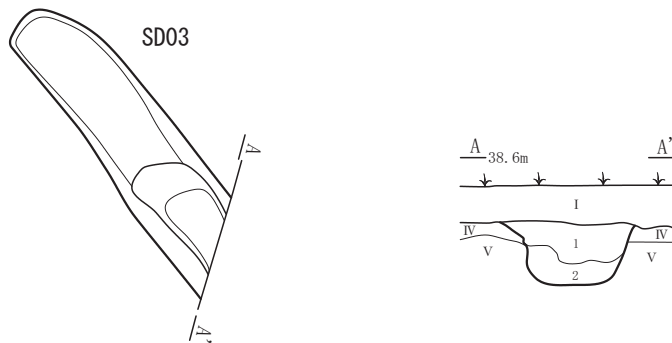
図28 土坑(4)



SD01
 1層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ1~10mm)3%、ロームブロック(φ15~40mm)3%。
 2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)2%。
 3層 10YR2/1 黒色土 掘方。ローム粒(φ1~10mm)2%、ロームブロック(φ15~30mm)2%。



SD02 (A-A')
 1層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ1~10mm)2%、ロームブロック(φ30~50mm)1%。
SD02 (B-B')
 1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~10mm)1%。



SD03
 1層 10YR3/2 黒褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合層。ローム粒(φ1~45mm)7%、10YR6/8明黄褐色土3%、10YR4/2灰黄褐色粘土3%。
 2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR4/3にぶい黄褐色粘土15%、ローム粒(φ1~5mm)1%。

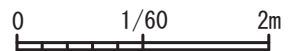


図29 溝跡(1)

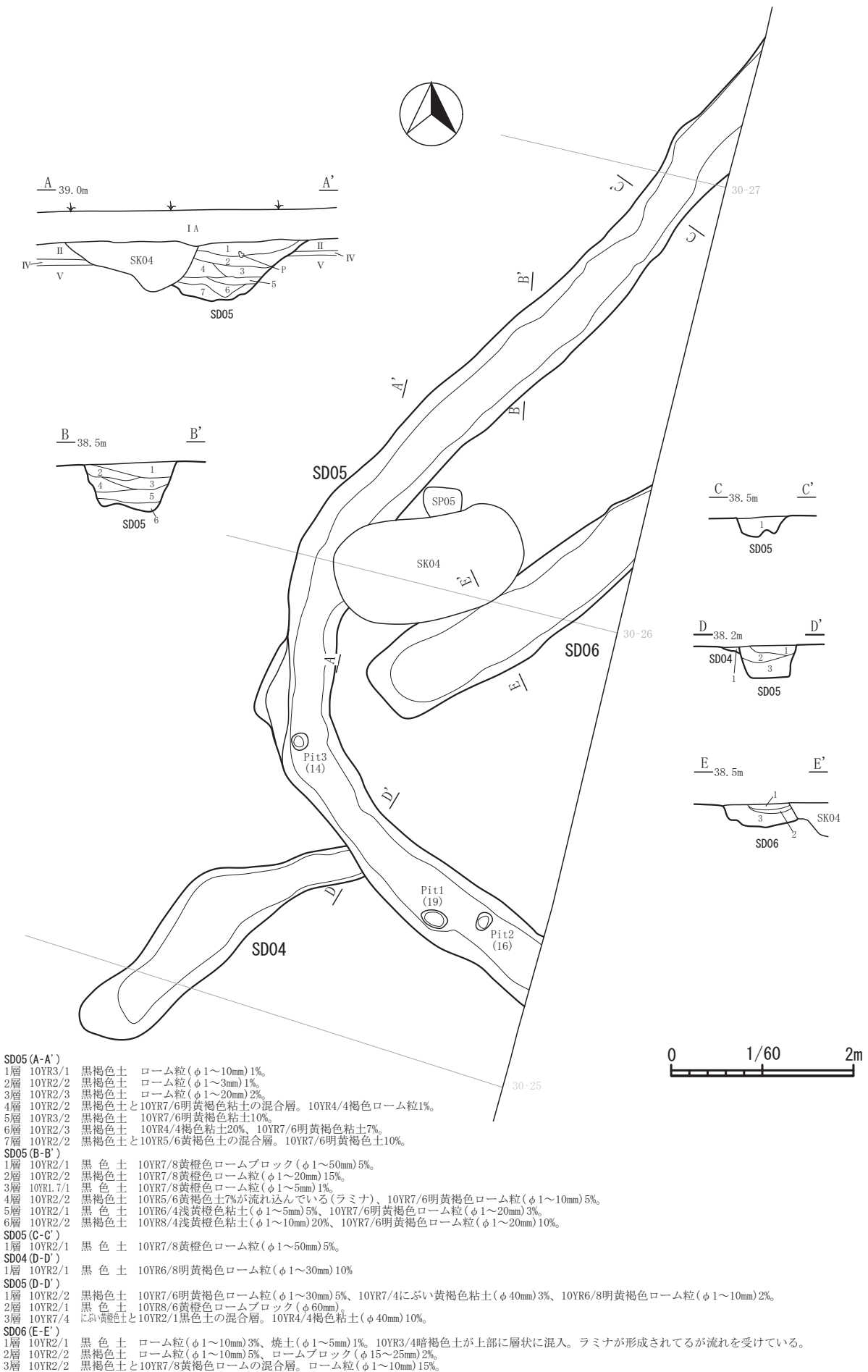


図30 溝跡 (2)

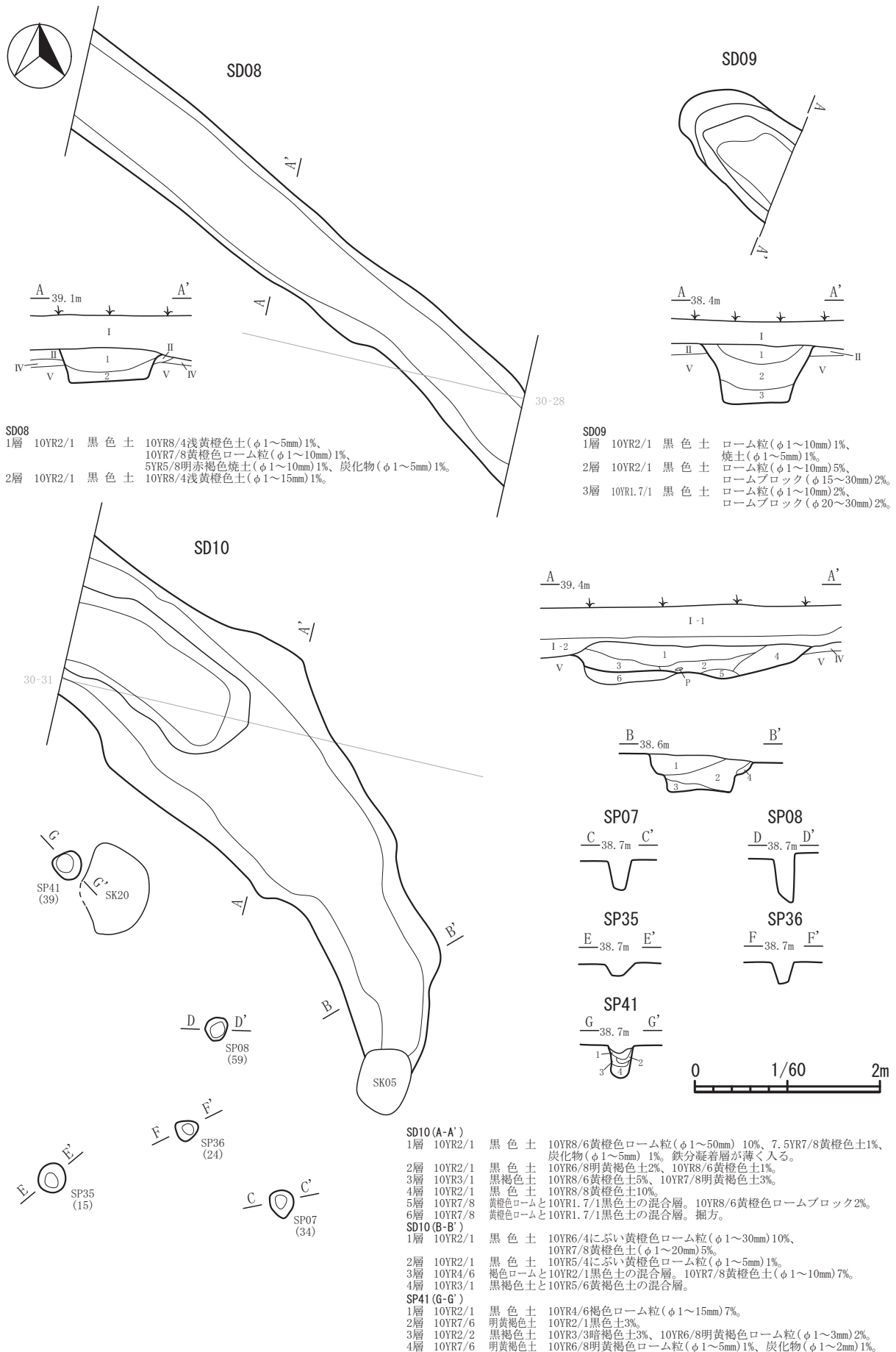


図31 溝跡 (3)

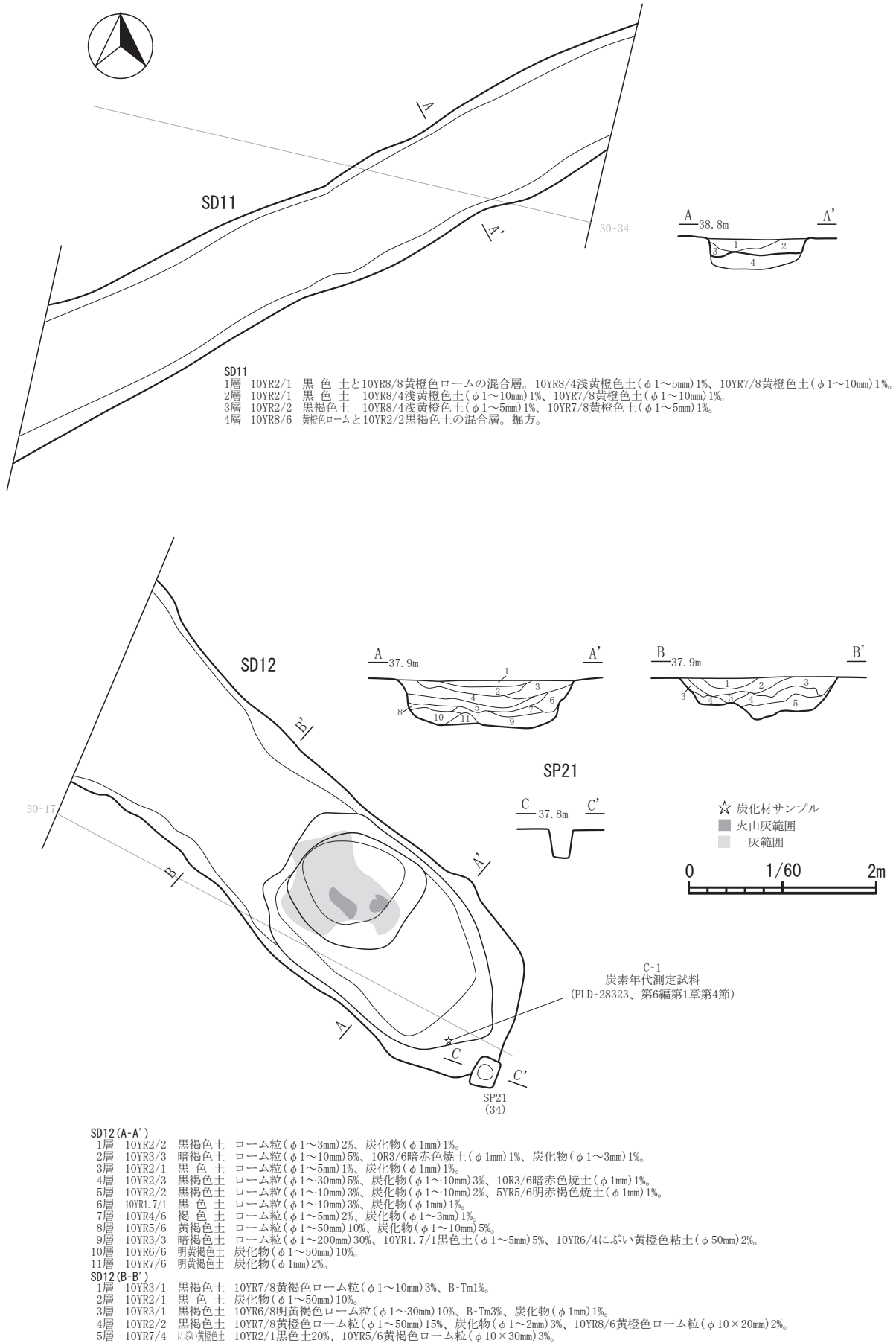


図32 溝跡(4)

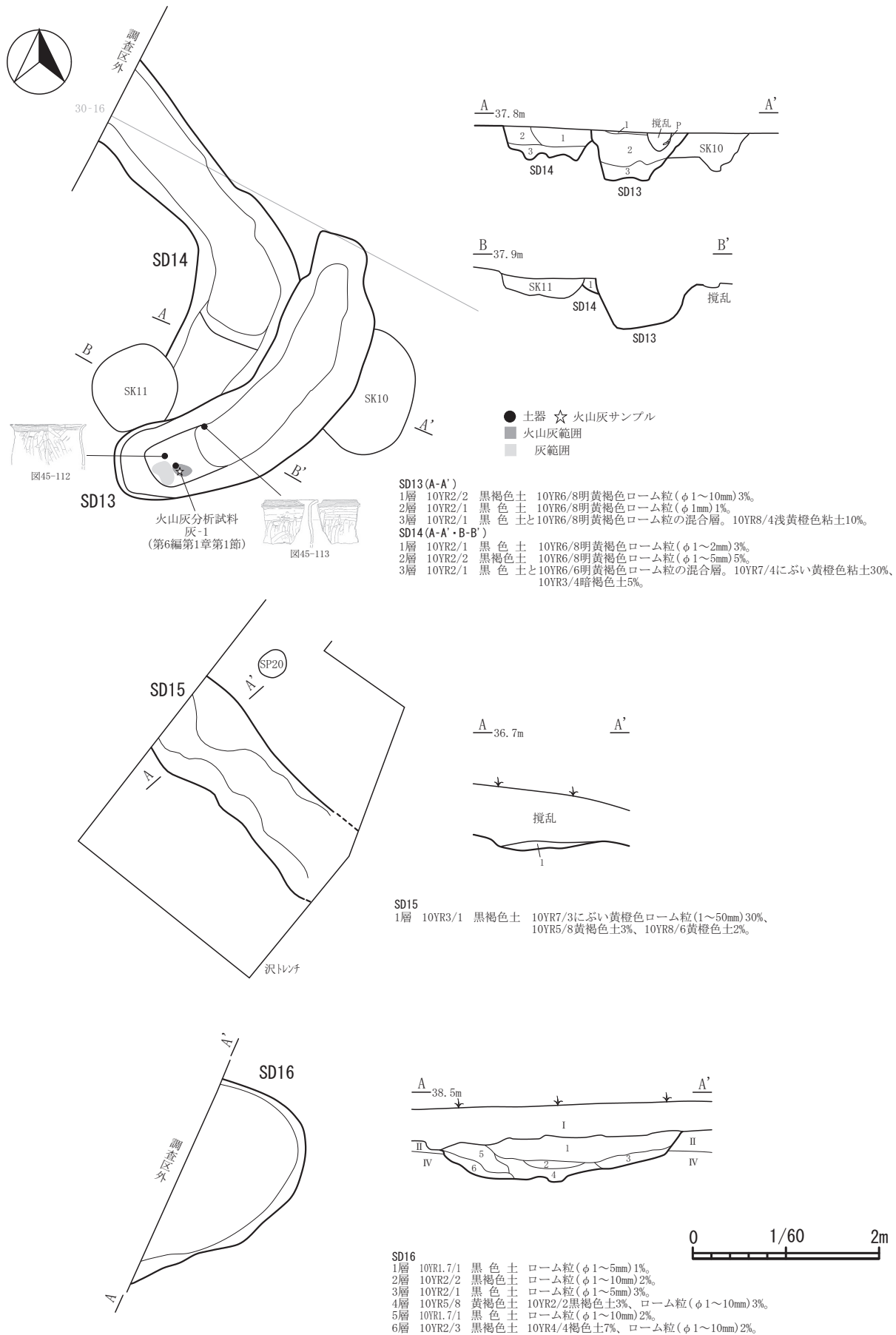
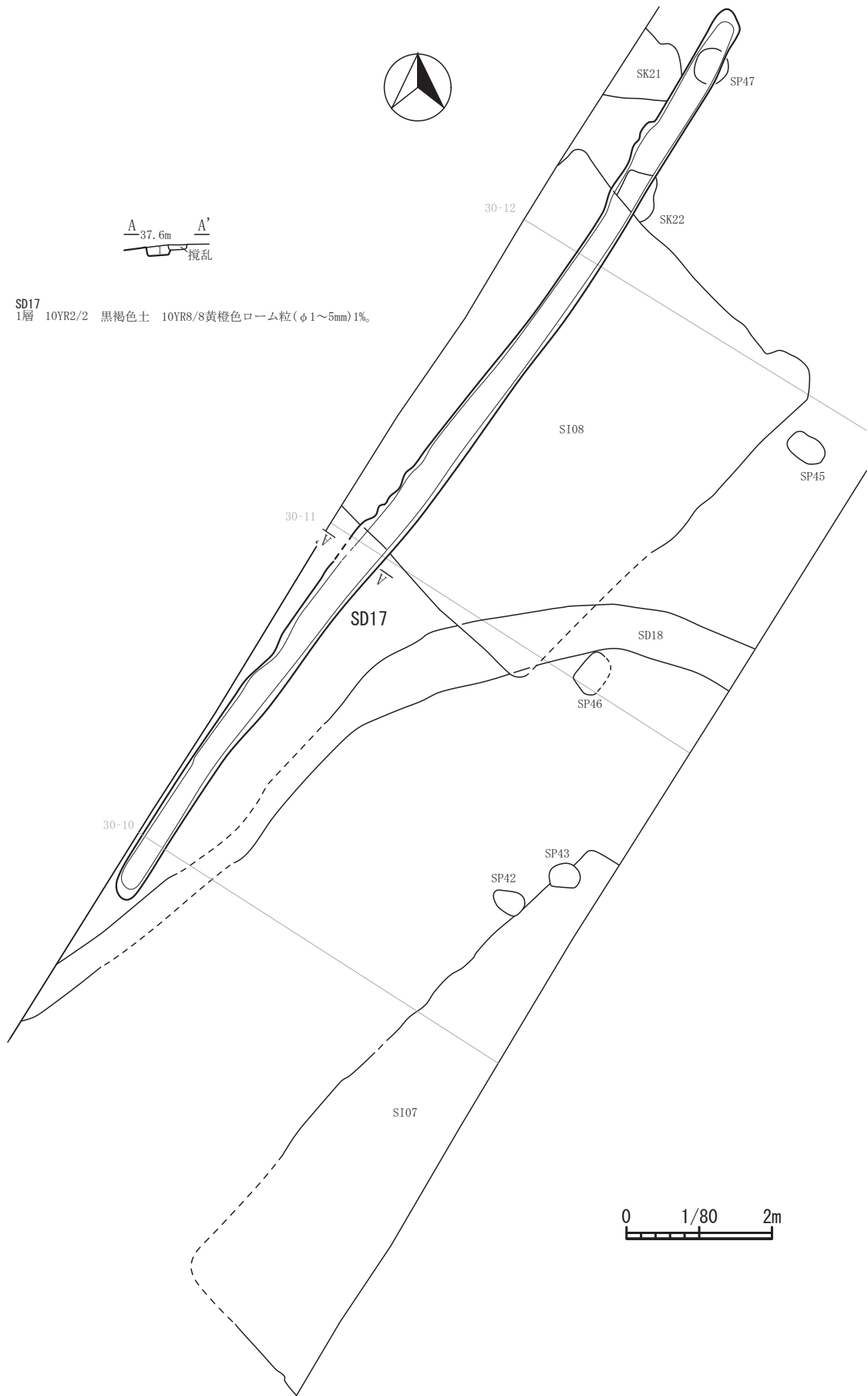
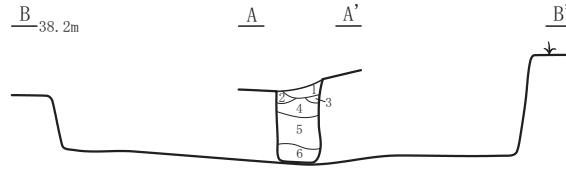
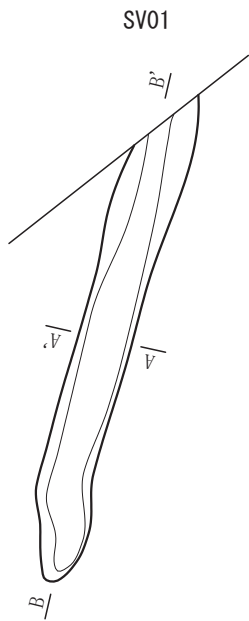


図33 溝跡(5)



農道30号
下石川平野遺跡

図34 溝跡(6)



- SV01
- | | | | |
|----|---------|------|--------------------------------------|
| 1層 | 10YR4/4 | 褐色土 | 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~15mm)1%。 |
| 2層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR7/8黄橙色土20%。 |
| 3層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR8/8黄橙色ローム粒(φ1~3mm)1%。 |
| 4層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR7/8黄橙色土ローム粒(φ1~10mm)1%。部分的に鉄分凝着。 |
| 5層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 10YR7/8黄橙色土ローム粒(φ1~5mm)1%。部分的に鉄分凝着。 |
| 6層 | 10YR3/2 | 黒褐色土 | 10YR7/8黄橙色土ローム粒(φ1~20mm)2%。部分的に鉄分凝着。 |

SV02

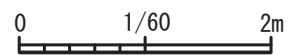
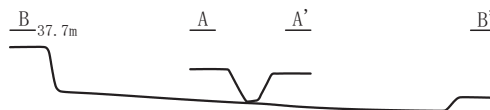
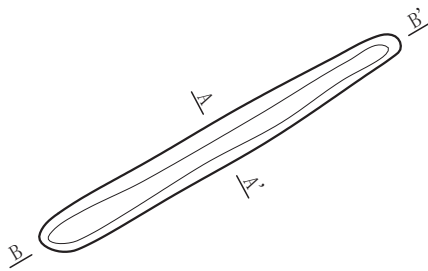
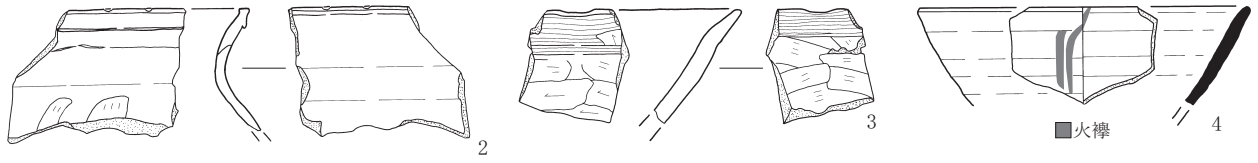
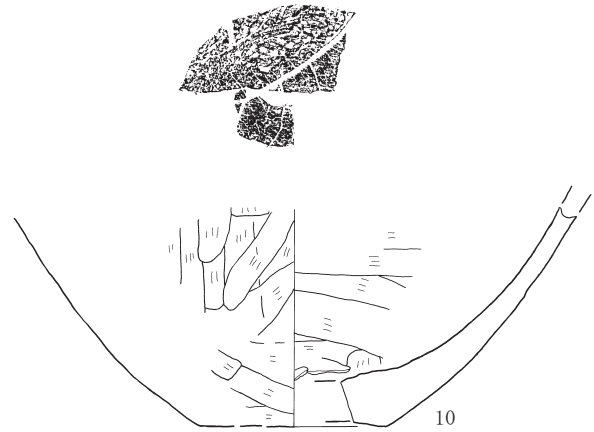
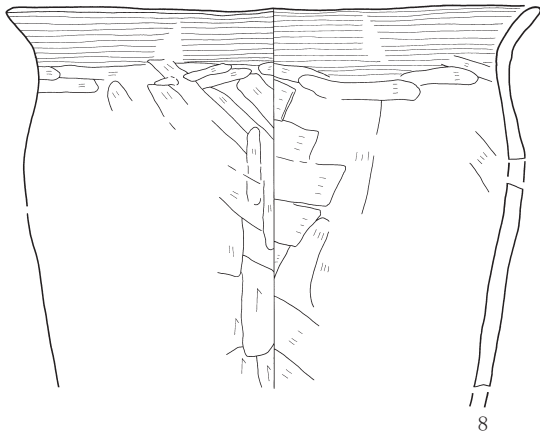
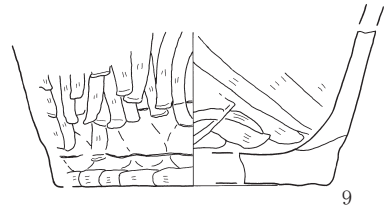
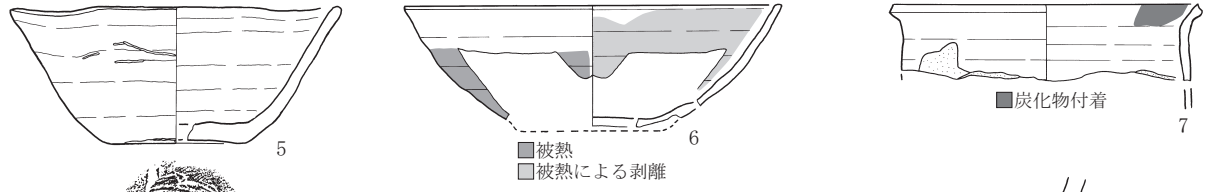


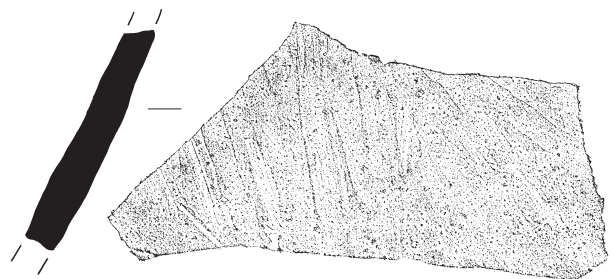
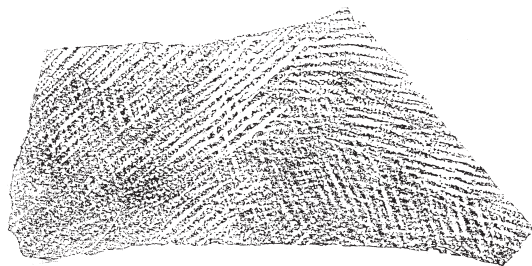
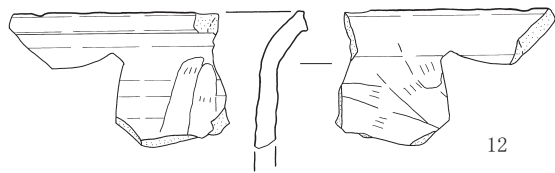
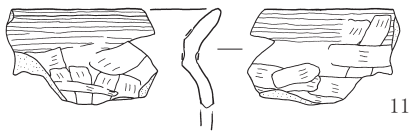
図35 溝状土坑



S101



S102



13(貼床)

0 1/3 10cm

S103

図36 第1号豎穴建物跡・第2号豎穴建物跡・第3号豎穴建物跡 出土遺物

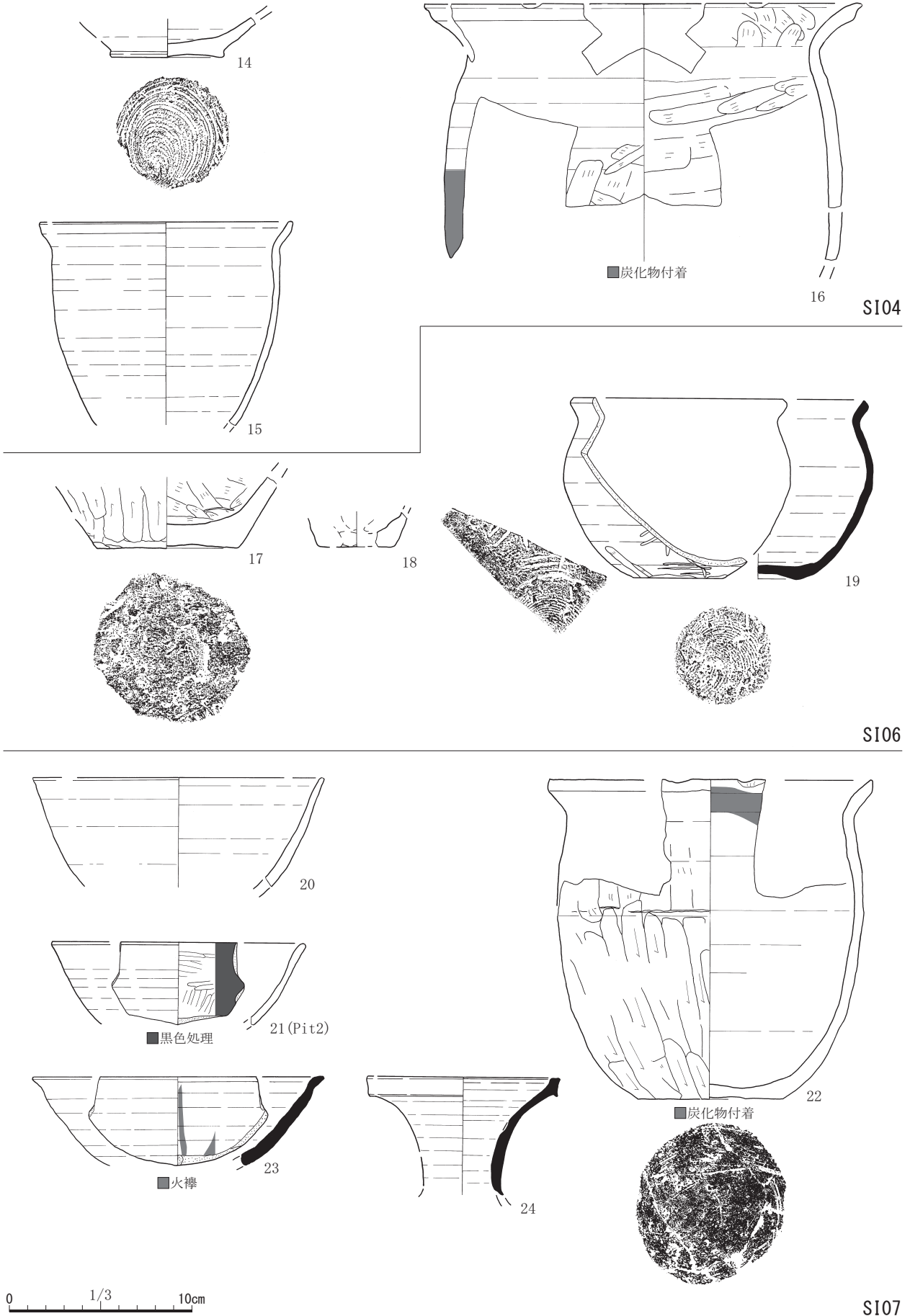


図37 第4号豎穴建物跡・第6号豎穴建物跡・第7号豎穴建物跡 出土遺物

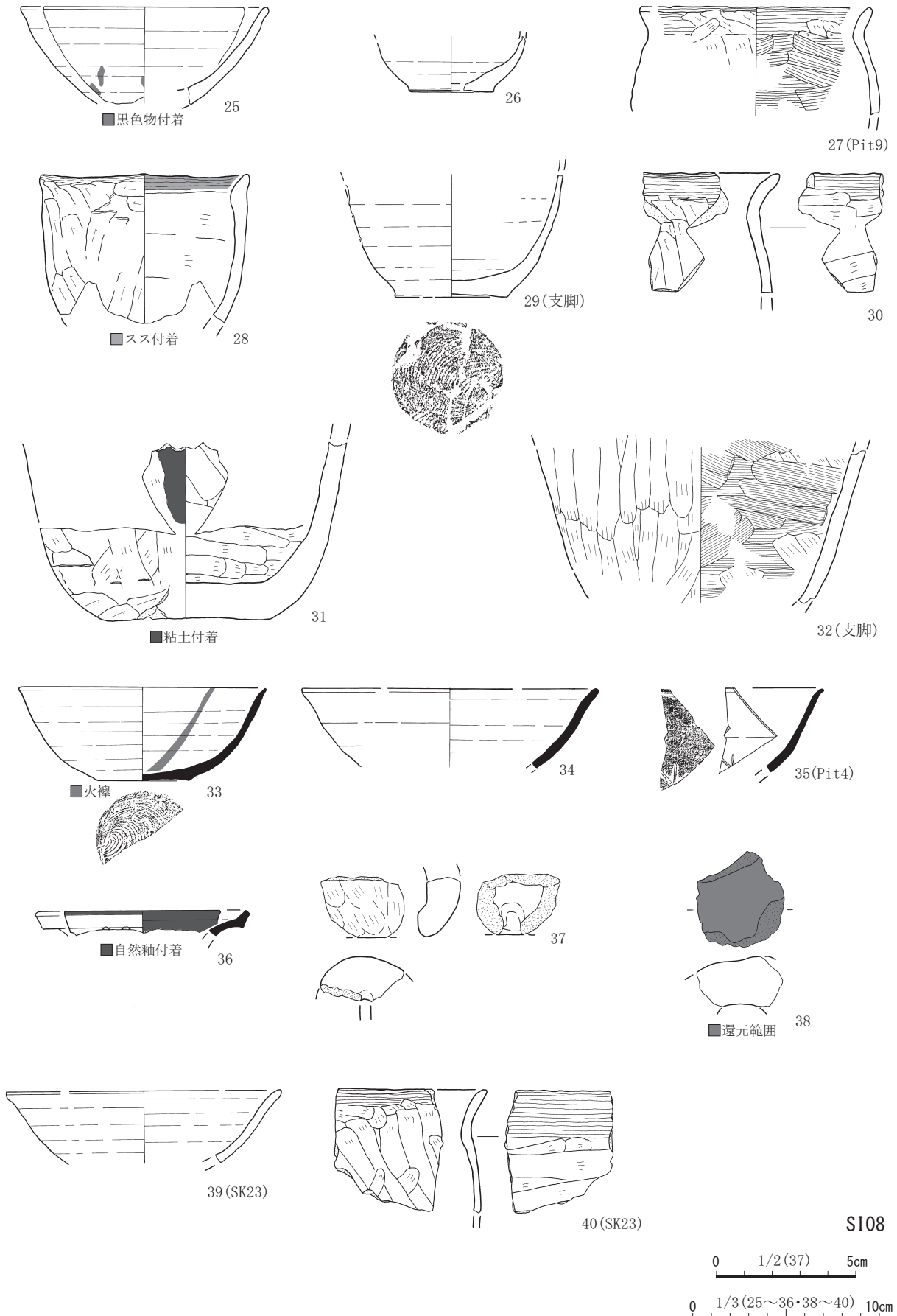


図38 第8号竪穴建物跡 出土遺物

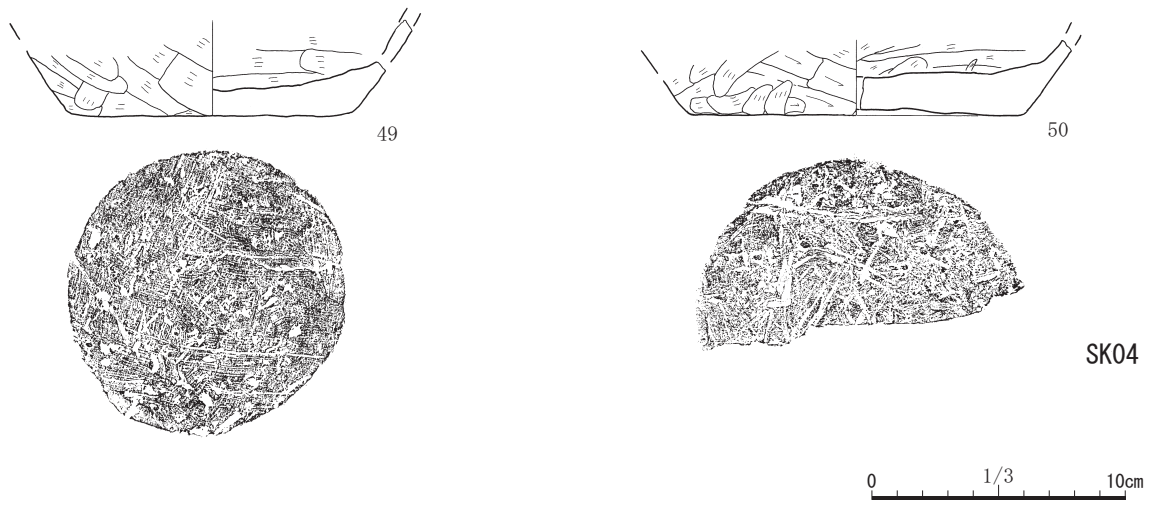
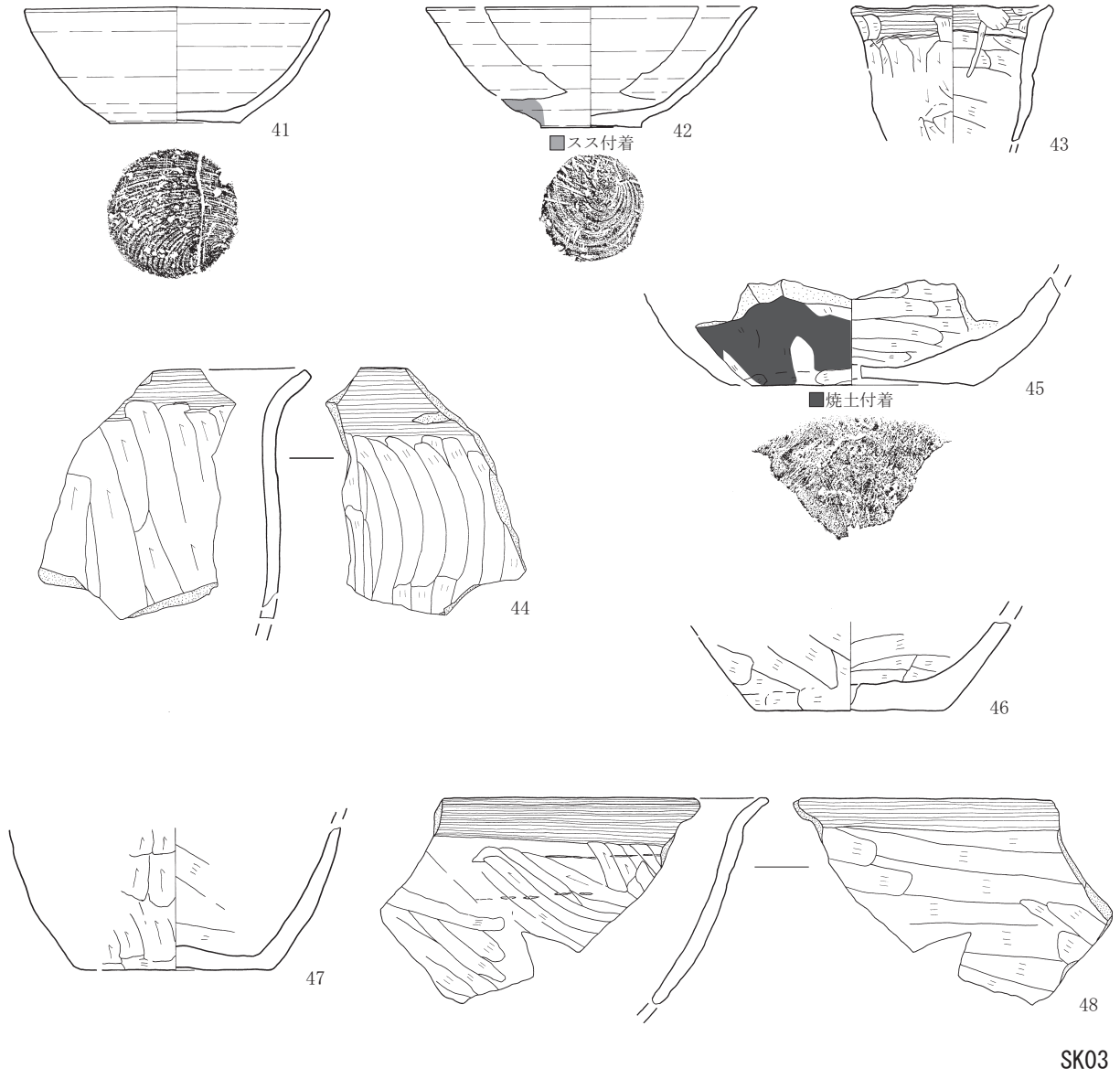
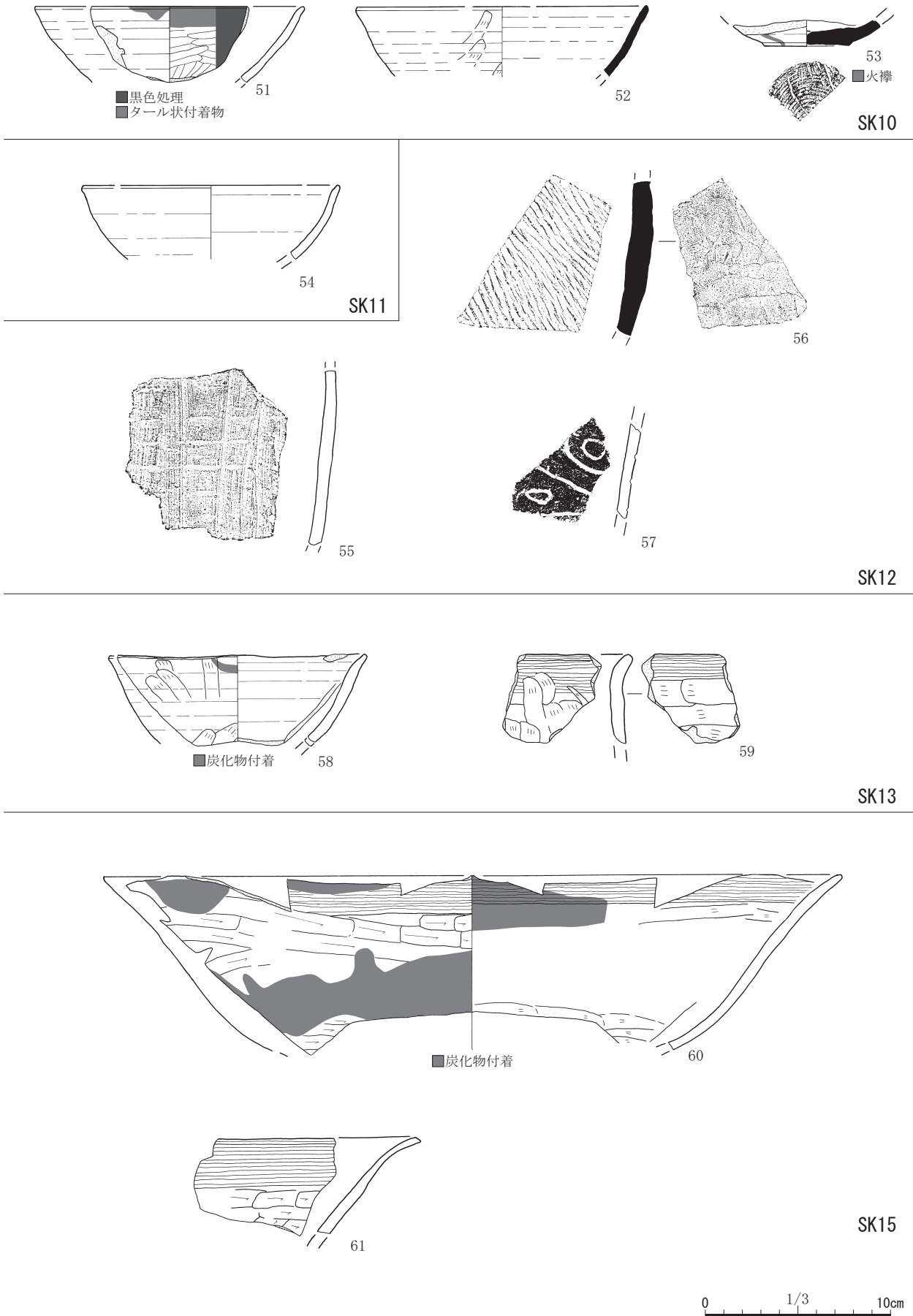
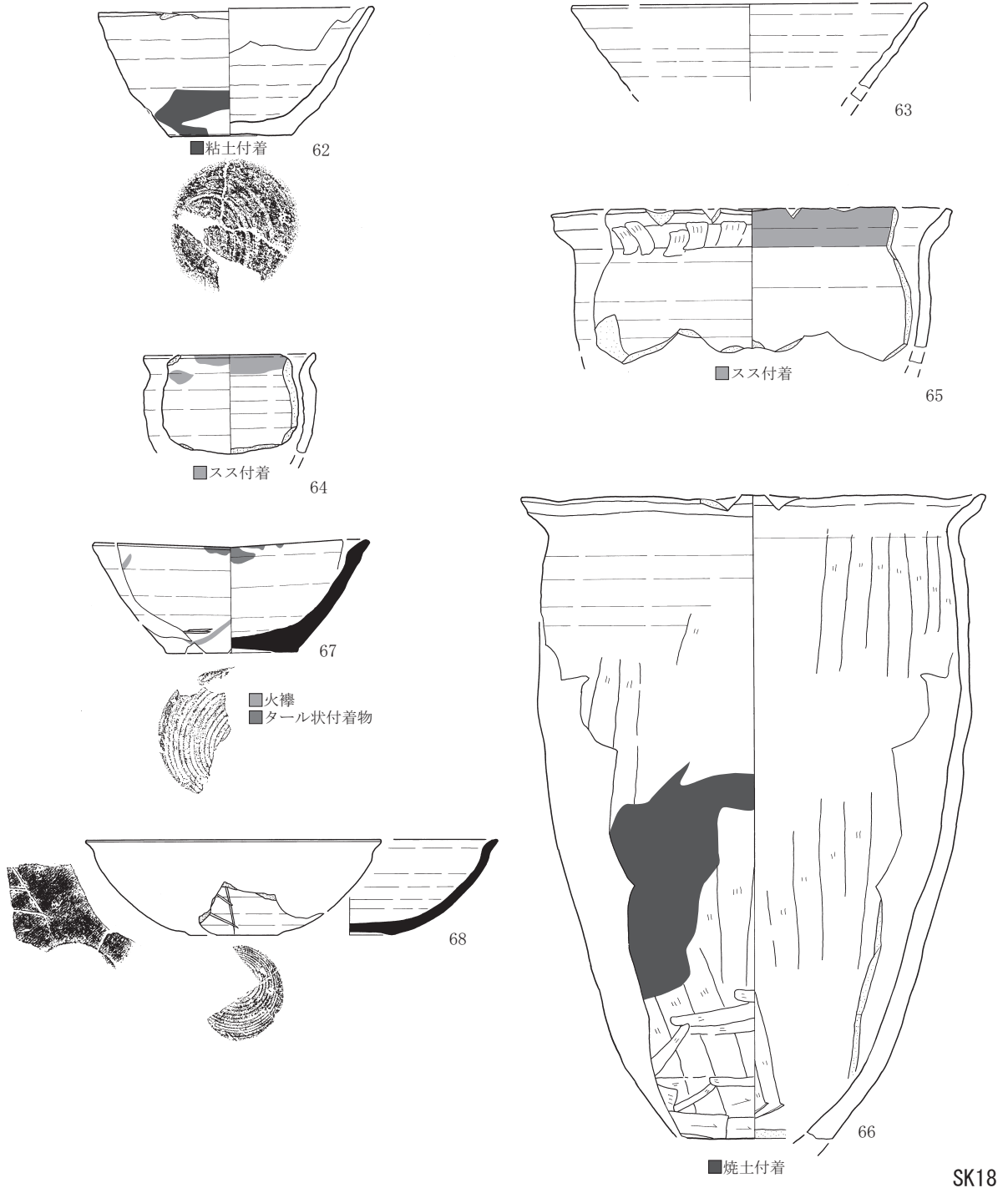


図39 土坑 出土遺物 (1)

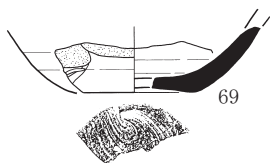


農道30号
下石川平野遺跡

図40 土坑 出土遺物 (2)



SK18



SK21

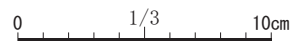


図41 土坑 出土遺物 (3)

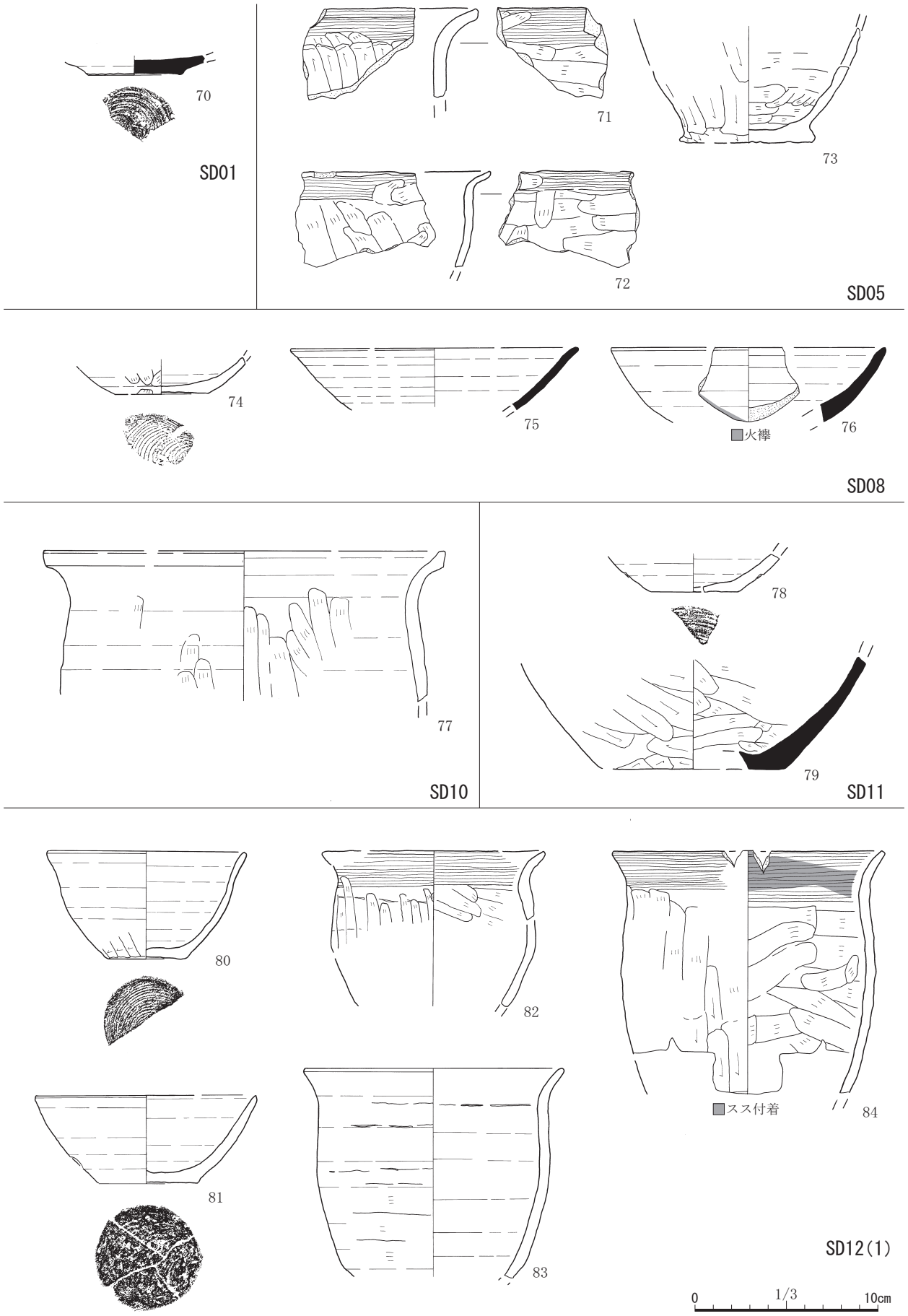


図42 溝跡 出土遺物 (1)

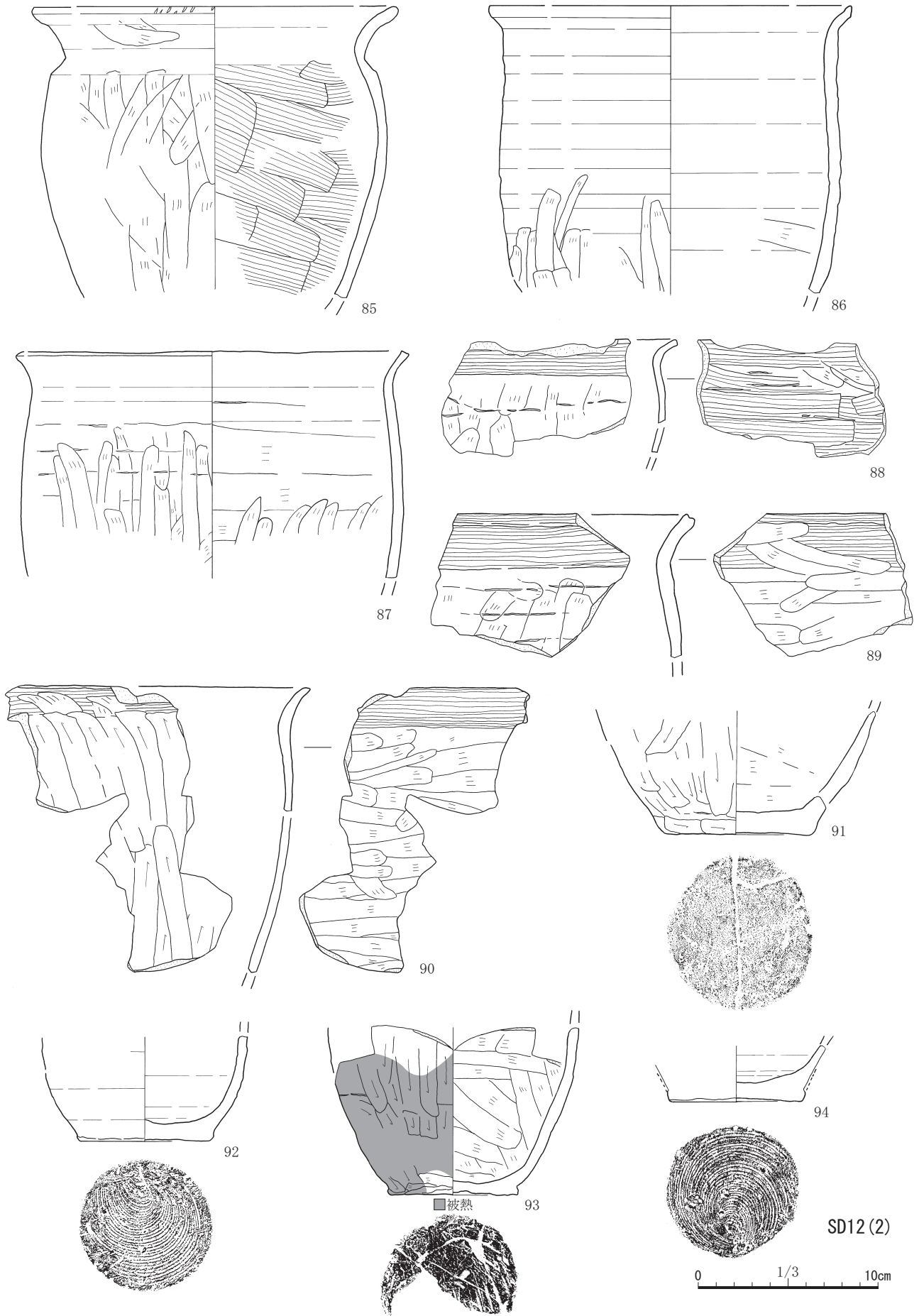


图43 溝跡 出土遺物 (2)

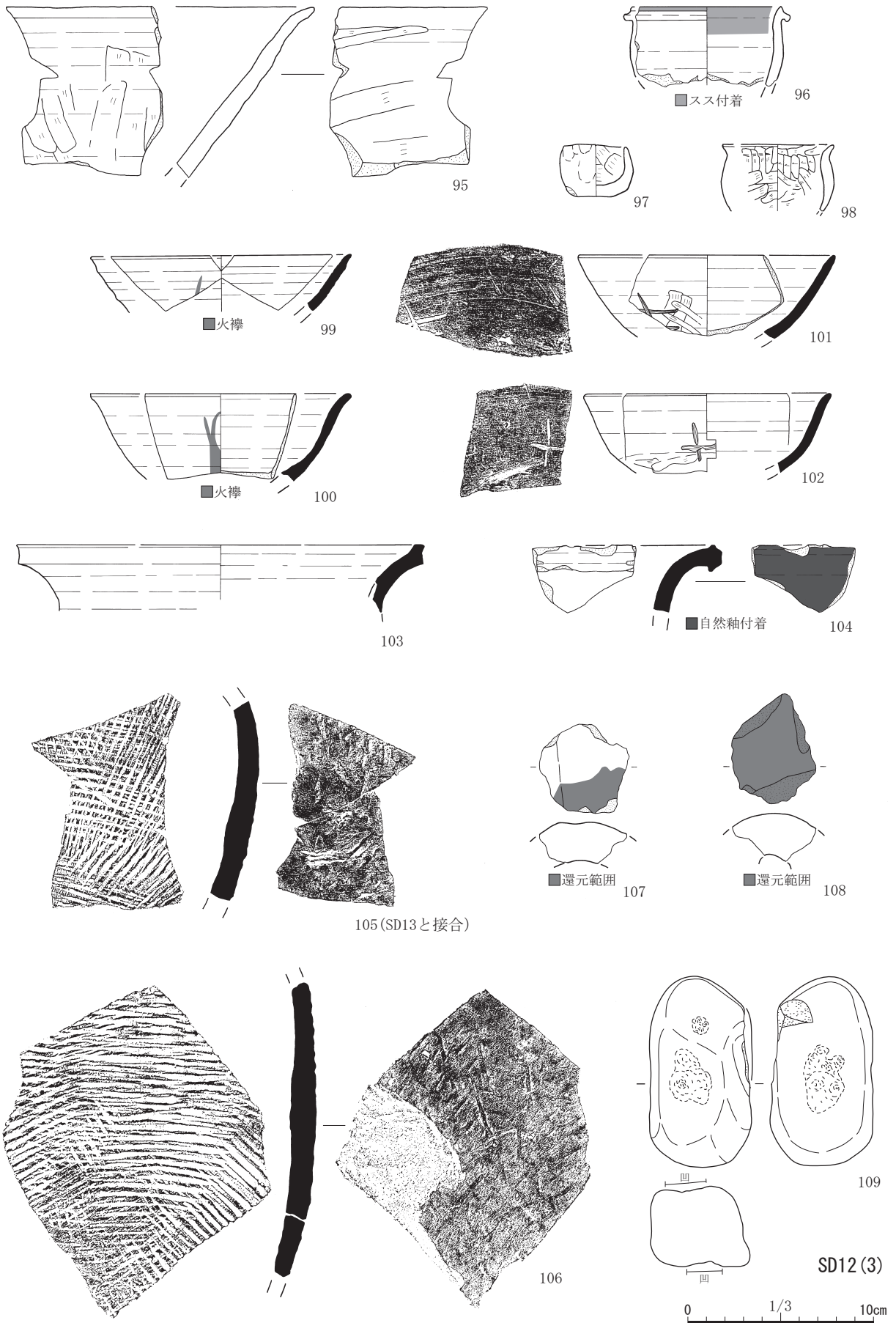
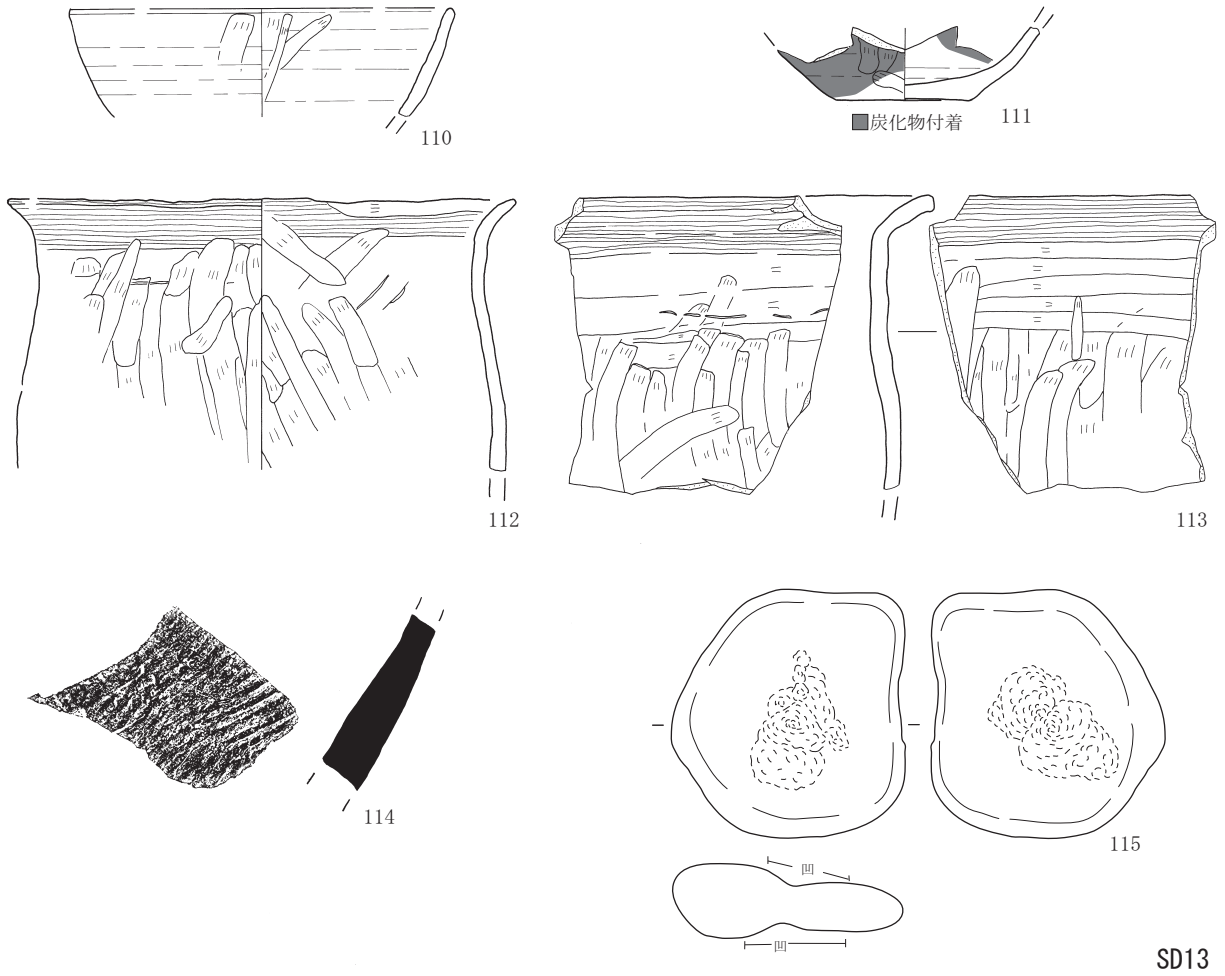
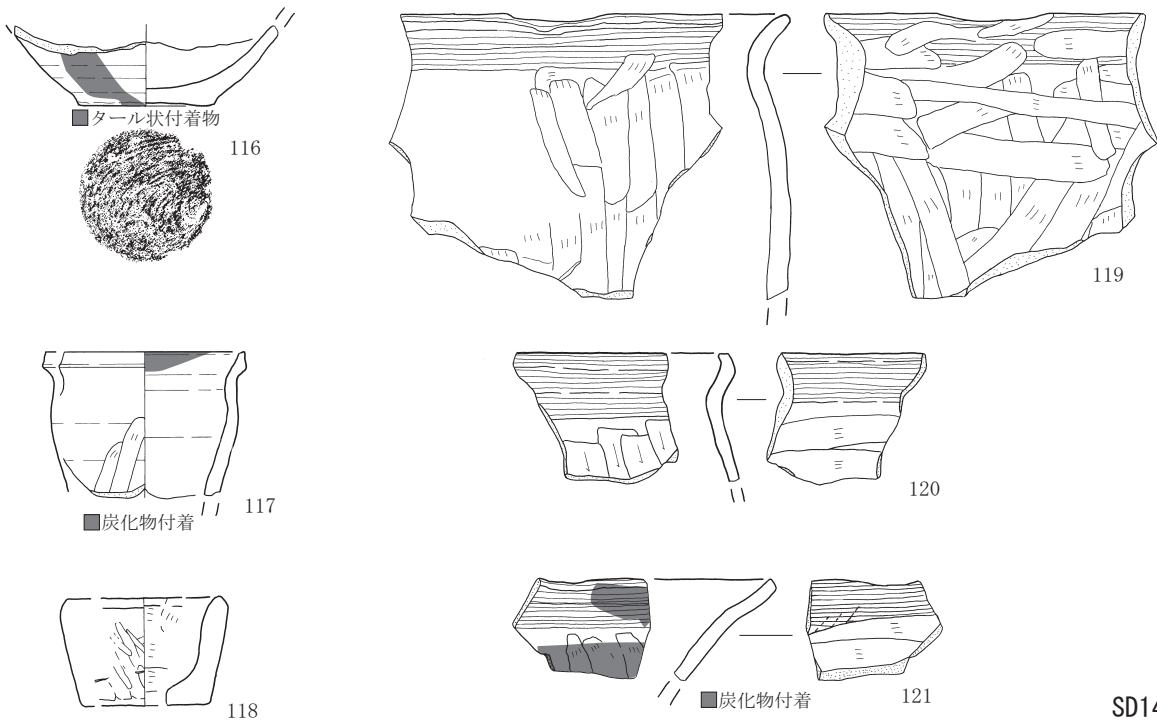


図44 溝跡 出土遺物 (3)



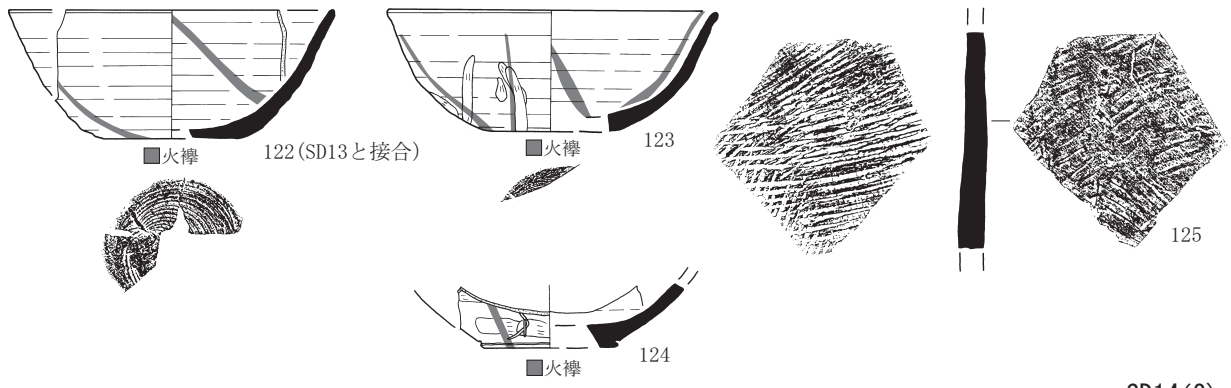
SD13



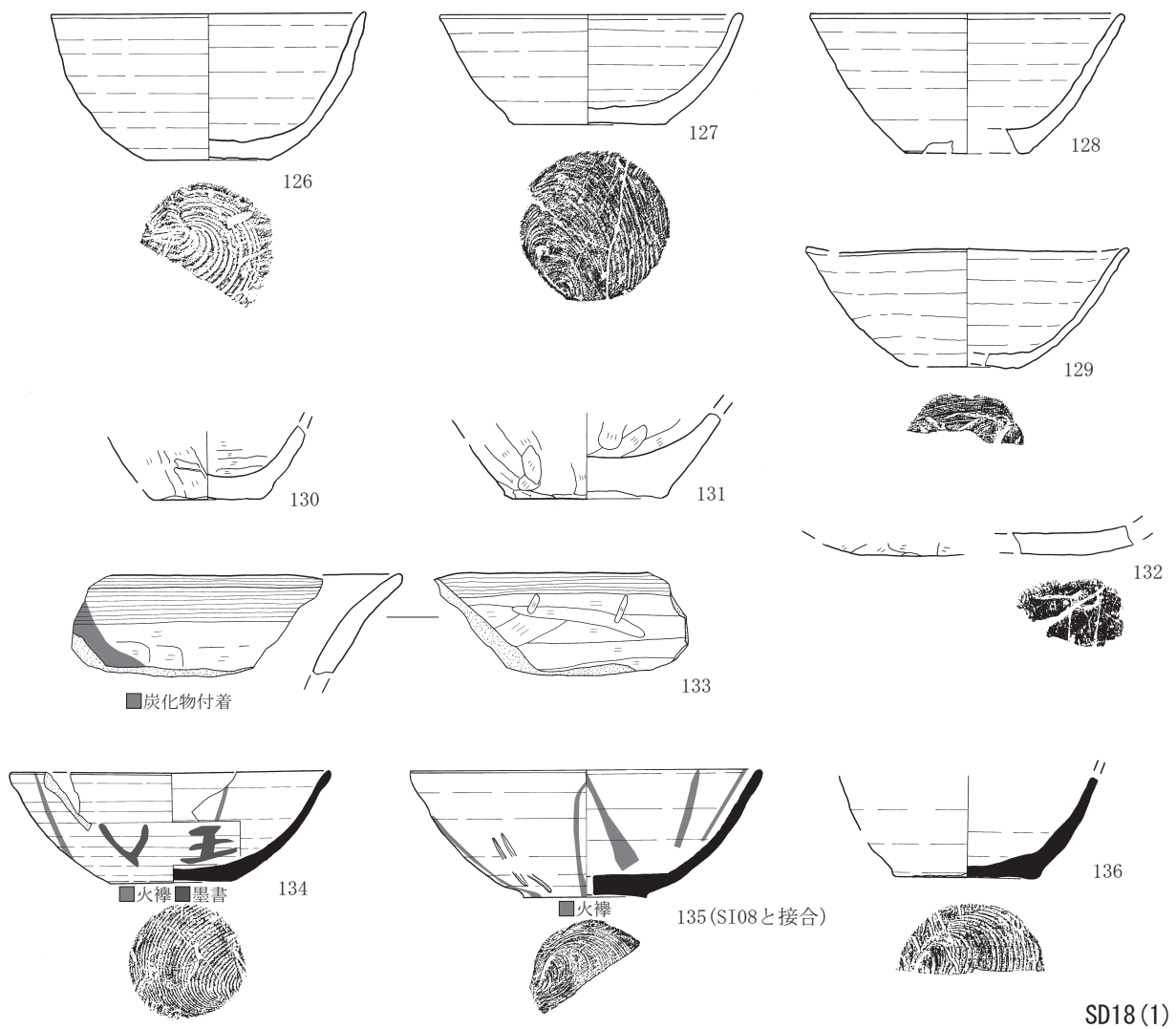
SD14(1)

0 1/3 10cm

図45 溝跡 出土遺物 (4)



SD14(2)



SD18(1)

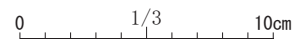


図46 溝跡 出土遺物 (5)

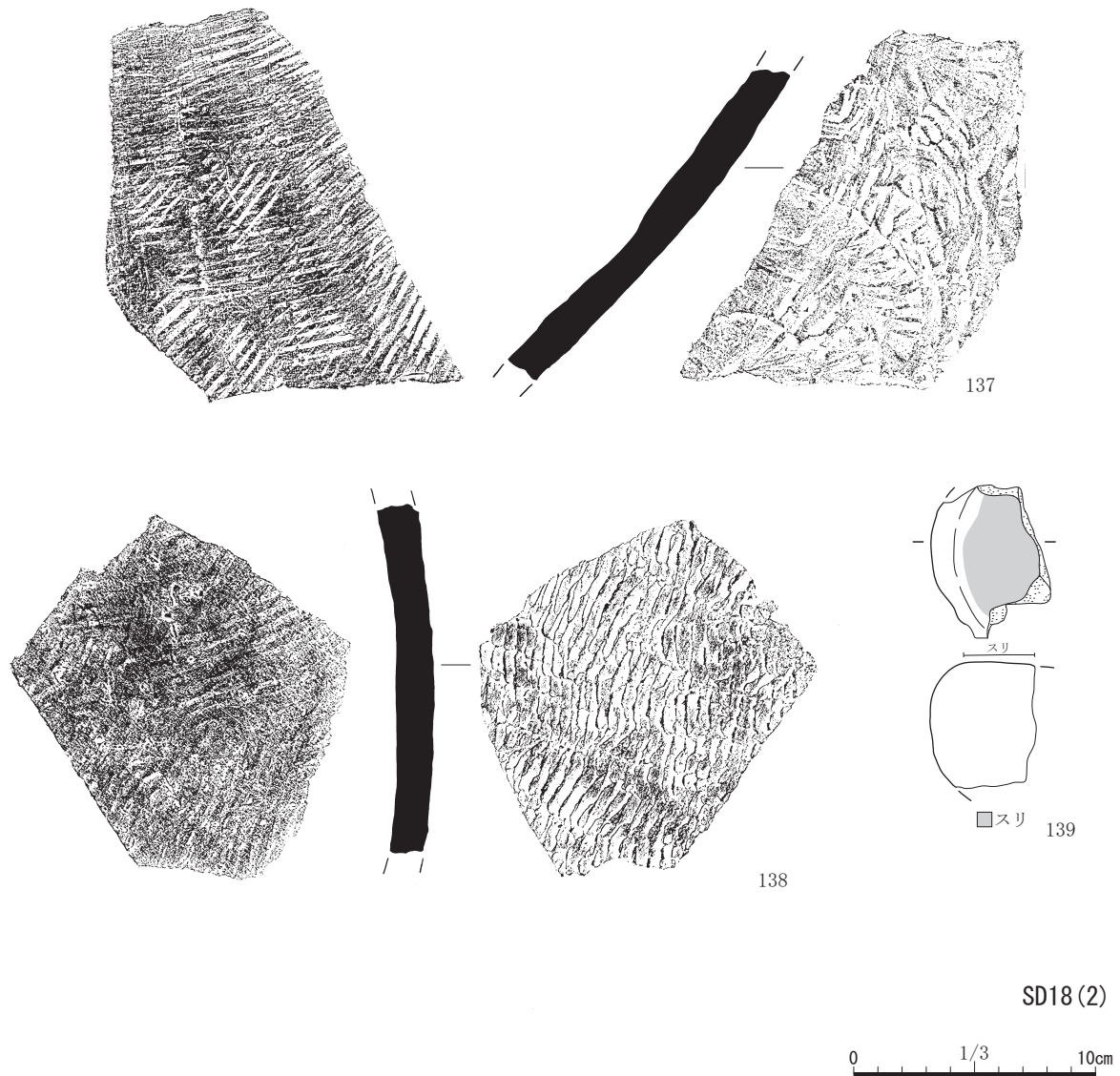


図47 溝跡 出土遺物 (6)

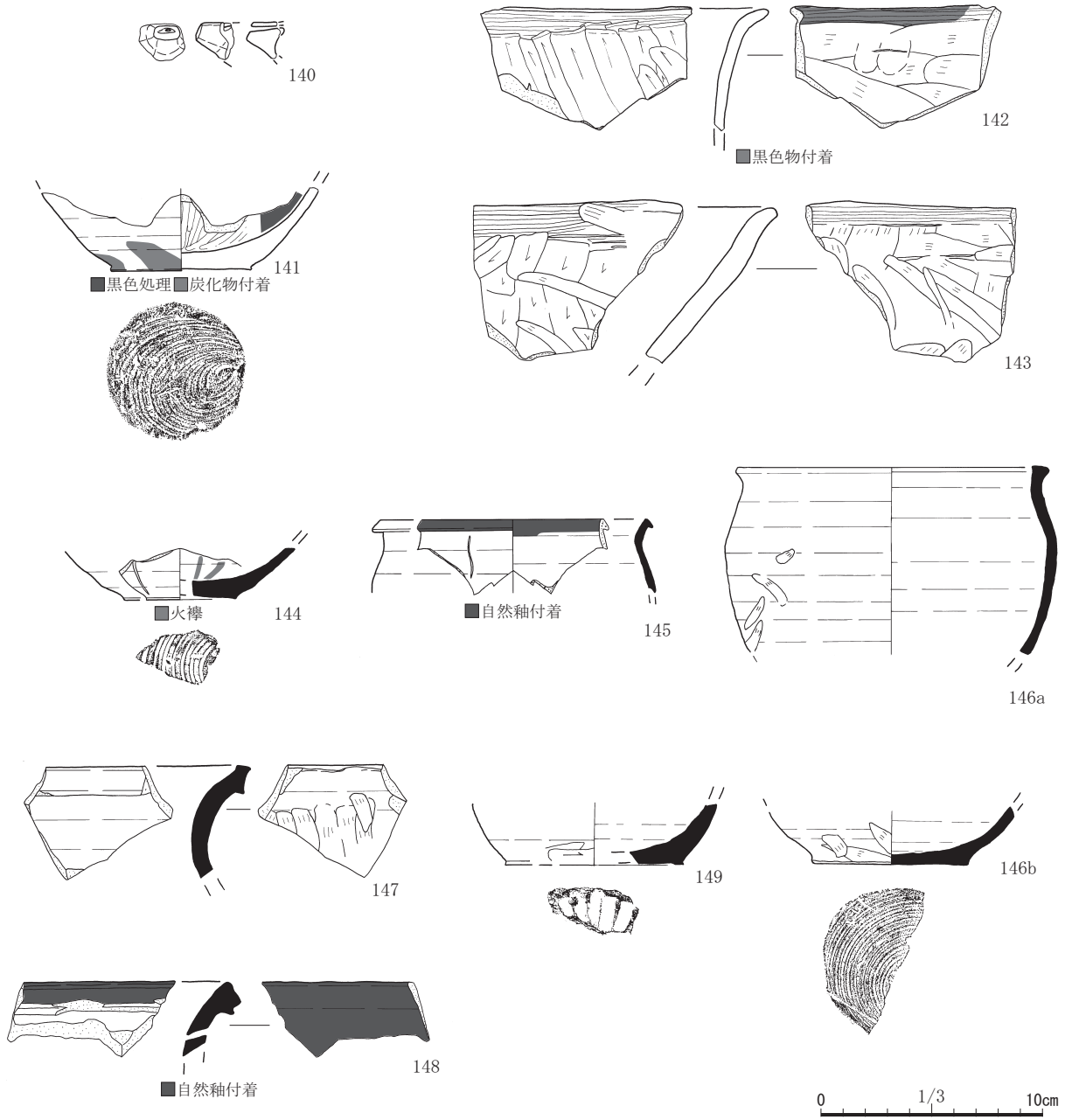


図48 遺構外 出土遺物

第3章 農道31号の検出遺構と出土遺物

農道31号調査区は、農道部分と流末水路部分からなる。農道部分は長さ約230m、幅約5m、流末水路部分は長さ約35m、幅約1mで、合計1,200㎡を調査した。調査地点の標高は約36～38mで、N31-10～18周辺が最も高く、西側は南北に走る埋没沢筋へ傾斜し、南側は尾根上を緩やかに傾斜していく。南端のN31-47グリッドで西へほぼ直角に折れて流末水路調査区が延び、やや強い傾斜で谷へ向かって降りていく。

農道31号で検出された遺構とその略称は、下記のとおりである。

竪穴建物跡(SI)	25棟(縄文時代1棟、平安時代24棟(うち4棟で建て替えあり))
掘立柱建物跡(SB)	10棟(縄文時代3棟、平安時代7棟)
柱穴(SP)	133基(うち44基は掘立柱建物跡に組み込まれる)
土坑(SK)	45基(縄文時代8基、平安時代37基)
溝跡(SD)	9条
溝状土坑(SV)	5基
埋設土器遺構(SR)	2基

縄文時代の遺構は15～47グリッドの尾根上に散在しており、その中央部の26～38グリッドにやや強いまとまりがみられる。平安時代の遺構は、埋没沢である5～9グリッドと流末水路部分は希薄であるが、それら以外の部分で多数検出された。流末水路部分には遺構がみつからないことから、おそらく尾根の頂部に細長く平安時代の集落が占地しているものと思われる。

農道31号から出土した遺物は、土器類27箱、石器類2箱、土・鉄製品1箱、鉄滓1箱、自然木2箱の合計33箱で、縄文時代の遺物が調査区中央部付近の各遺構からある程度出土した以外、大半を占めるのは平安時代のものである。

以下に各遺構の詳細を記載していくが、下記の遺構は整理作業等に伴って名称を変更した。

第25号竪穴建物跡(SI25)	→	第22号竪穴建物跡(SI22)に統合
第18号竪穴建物跡内第1号土坑(SII8内SK1)	→	第131号柱穴(SP131)
第71号柱穴(SP71)	→	欠番
第98号柱穴(SP98)	→	欠番

第1節 検出遺構

1 竪穴建物跡

25棟検出され、縄文時代の1棟(SI04)を除き、残りの24棟は平安時代のもので、うち4棟(SI02・03・07・13)で建て替えが認められた。

第1号竪穴建物跡(SI01、図50・117)

[位置・確認] 調査区中央、31-30グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.3～36.4m、第V層で確認した。SK02・09と重複し、いずれよりも本遺構が新しい。

[平面形・規模] 北西壁の一部が攪乱によって壊されているが、平面形は北東－南西方向が約2.2mとやや長い長方形をなすものと推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁2.0m・深さ13～23cm、南東壁2.2m・深さ4～12cm、南西壁2.0m・深さ10～15cm、北西壁(2.2)m・深さ11cmを測り、いずれの壁もやや開きながら立ち上がる。建物の軸方向はN－123°－Eである。

[床面・壁溝] 概ね地山をそのまま床面としているが、一部では掘削痕と思われる掘方が検出されている。床面は古い遺構の堆積土部分では沈み込みがみられるなど、やや起伏がある。壁溝は検出されなかった。

[柱穴] 柱穴は検出されなかった。

[カマド] 南東壁際の南寄りに半地下式カマドが検出され、煙道部は長さ約20cmが壁外に延びていることは確認できたがそれ以上は確認できなかった。煙道の軸方向はN－123°－Eである。袖部は粘土を用いて煙道部分まで貼り付けて構築されていた。火床面は検出されなかったが、燃烧部奥で甕底部(1)が逆位で出土したことから、支脚として設置されたものと考えられ、この手前部分で火焚きがおこなわれていたものと思われる。カマドの堆積土は天井部の崩落粘土や自然に流入・堆積した暗褐色土などが堆積している。

[その他の施設] 調査区域内では検出されなかったが、中央部分にSK09が検出されていることから、本竪穴建物跡と何らかの関連が想定できる。

[堆積土] 暗褐色土及び黒褐色土が堆積している。上位第2層にはロームや炭化物などを含むにぶい黄褐色土がみられるがカマド部材と考えられ、自然堆積したものと思われる。

[出土遺物] 土師器と縄文土器が出土した。そのうち土師器甕(1・2)を図示した。1はカマド燃烧部の奥側で逆位の状態で出土しており、カマドの支脚として使用されていたものとみられる。2は、1の出土位置よりさらに奥側の煙道部から出土している。本建物跡から出土した炭化材3点について、樹種同定を行った(第6編第1章第2節参照)。

[小結] 堆積土の様相、遺構の形態、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代10世紀前半頃に廃絶されたものと思われる。本建物跡床面直上から出土した炭化材1点について、炭素年代測定を行った(第6編第1章第4節参照、PLD-28325)結果、7世紀後半～8世紀後半の年代が示され、古木効果の可能性はある。

第2号a竪穴建物跡(SI02a、図51～54・117・118)

【位置・確認】 調査区中央、31-31～33グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.3m、第V層で確認した。調査着手時当初は1棟の竪穴建物跡として認識していたが、床面を除去したところ、壁溝と思われる溝跡がL字状に検出されたことから、第2号竪穴建物跡は造り替えられていることが判明し、新期をSI02a、貼床層下層から検出された古期の建物跡をSI02bとした。SP05・14・16・17・19・22は掘立柱建物跡(SB02)を構成し、本竪穴建物跡(SI02a)に付属する。

[平面形・規模] 東側約4分の1程度が調査区域外にあるが、平面形は一辺が約5.2mの方形をなすものと推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、南東壁(3.7)m・深さ39～44cm、南西壁5.2m・深さ41～47cm、北西壁(5.2)m・深さ49～51cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。南東壁にカマドがあり、建物の軸方向はN－162°－Eである。

[床面・壁溝] 床面は部分的に掘方を有し、貼床によって平坦に整えられている。壁溝は幅10～26cm、深さ7～14cmで、壁際を全周するように巡らされているようである。

[柱穴] SI02a内ではPit 1・2・3・4が主柱穴と考えられる。床面からの深さ48～58cmを測るしっかりとした柱穴で、いずれからも長方形の柱痕が確認されていることから、主柱には板材が用いられていたものと推測される。北側にあるPit 1・2では北方向に、南東側のPit 3・4では南側にそれぞれ寄せて設置されていたようである。各ピットの規模は、Pit 1は71×49cmの歪な楕円形で深さ58cm、Pit 2は58×47cmの歪な円形で深さ52cm、Pit 3は45×36cmの隅丸長方形で深さ48cm、Pit 4は25×19cmの歪な半円形で深さ48cmである。図示しないがPit 1から須恵器1点が出土している。

[カマド] 南東壁際の西寄りに半地下式カマドが検出され、煙道部は長さ約150cmが壁外に延び、煙道の軸方向はN-162°-Eである。東袖の端部には土師器甕の体部上半(8)が芯材として用いられており、粘土を貼り付けて袖部が構築されていた。煙道部分は地山をそのまま使用しており、壁から30～70cmの煙道側面が被熱によって赤色化している。両袖の内側には49×36cmの楕円形の火床面があり、深さ3cmまで被熱が及んで赤色化し、奥の西側には小甕口縁部(6)が逆位で出土したことから、支脚として設置されていたものと思われる。同じく火床面奥の東側ではやや浮いてはいたが土師器甕底部(11)が逆位で出土しており、本カマドは、これら2基の支脚を用いていたものと推測される。カマド袖の下部には幅5～8cm、深さ9～12cmで、長さ20cmと30cmの溝状遺構が検出された。位置的に袖の真下部分にあたることから、何らかの芯材が設置されていた痕跡の可能性はある。

[その他の施設] SI02内でPit 5～13の9基が検出された。Pit 5は26×19cmの歪な半円形で深さ12cm、Pit 6は43×32cmの歪な円形で深さ23cm、Pit 7は102×49cmの半円形で深さ11cm、Pit 8は22×27cmの円形で深さ12cm、Pit 9は30×25cmの円形で深さ11cm、Pit 10は21×20cmの円形で深さ19cm、Pit 11は60×41cmの歪な半円形で深さ27cmで、Pit 12は69×63cmの円形で深さ90cm、Pit 13は35×28cmの歪な円形で深さ23cmの規模である。図示していないが、Pit 6・9から土師器と須恵器、Pit 7から土師器が少量出土している。なお、Pit 5～7・9・10はSI02bに伴う可能性も考えられる。

[堆積土] 最上位には黒褐色土が堆積するが、堆積土の大半は褐色土が堆積し、下位ほどローム粒の混入度合いが強く、床面付近には暗褐色土が堆積している。堆積土下半は人為的に埋め戻されたものと思われる。貼床及び掘方には明黄褐色土及び黄橙色土が用いられている。確認面にあたる第2層には火山灰が含まれており、分析を行ったところ白頭山苦小牧火山灰との結果を得た(第6編第1章第1節参照、灰4)。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器、土製品、鉄製品、石器など、多くの遺物が出土している。このうち、土師器坏(3～5)・小甕(6・7・12)・甕(8～11)・ミニチュア甕(13)、須恵器坏(14・15)・鉢(16)・壺(17)・壺か甕(18)、土玉(19～21)、鉄製刀子(22)、鉄塊系遺物(23)、台石(24)、砥石(25)、縄文土器深鉢(26～31)・台付鉢(32)を図示した。6・11はカマド火床面の奥より出土しており、カマドの支脚として使用されたものとみられる。6は外面に被熱痕がみられ、内外面ともに被熱によって剥落している部分が多くみられる。逆位で設置されていた。8はカマドの左袖端から逆位した状態で出土しており、袖の構築部材として使用されたものである。外面には焼土の付着が確認できる。その他、9・10・14・19・23・32はカマド内またはカマド周辺から、17は煙道の排煙部から出土している。7・18・22・24は床面直上から出土している。14・15は外面に刻書がみられる須恵器の坏で、14は「田」

の字状、15は「大」とみられる。14は胎土分析を行った(第6編第1章第5節参照、S-7)。

【掘立柱建物跡 - SB02】

[平面形・規模] SI02南東部でSP05(深さ52cm)、SP14(同36cm)、SP16(同64cm)、SP17(同67cm)、SP19(同56cm)、SP22(同37cm)の柱穴6基が検出された。梁行3間、桁行2間と推定され、東側調査区域外に対応する柱穴が存在して掘立柱建物を構成するものと思われる。梁行の柱間寸法は、カマド煙道をかかわすためにSP19とSP14間が約1.8mと広く、SP14とSP22間が約1.2mと狭くなっているものと考えられる。桁行の柱間寸法は約1.8mである。建物の軸方向はN-157° - Eである。

[その他の施設] 本掘立柱建物跡の中央部付近にSK08があり、何らかの関連施設である可能性が考えられる。

[堆積土] SP14では、土層観察から柱を抜き取ったと思われる痕跡が確認できる。SP05・16・17では柱痕や抜き取り痕は確認できず、褐色土が堆積している。

[出土遺物] SB02を構成する柱穴からは遺物は出土していない。

【小結】 堆積土の様相、火山灰の検出状況、遺構の形態、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代の遺構である。さらに堆積土の状況は人為的に埋め戻されたものとみられ、その後間もなく火山灰が降下したと考えられることから、10世紀前葉頃には廃絶された建物跡と考えられる。本建物跡床面直上から出土した炭化材1点について炭素年代測定を行った(第6編第1章第4節参照、PLD-28326)結果、7世紀後半～8世紀後半の年代が示され、古木効果の可能性はある。

第2号b竪穴建物跡(SI02b、図55)

[位置・確認] 調査区中央、31-31・32グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.3mであるが、本竪穴建物跡を確認したのはSI02a掘方の精査時であった。調査着手時当初は1棟の竪穴建物跡として認識していたが、SI02a床面を除去したところ、壁溝と思われる溝跡がL字状に検出されたことから、第2号竪穴建物跡は造り替えられていることが判明し、新期をSI02a、貼床層下層から検出された古期の建物跡をSI02bとした。SI02aには掘立柱建物跡が付属するが、本竪穴建物跡では付属する掘立柱建物跡は確認されなかった。

[平面形・規模] 南西壁の壁溝と、北西壁・北東壁の壁溝一部を検出したのみで、床面はSI02a構築時に失われている。平面形は一辺が約3.3～3.6mの方形をなしていたものと推定される。床面が遺存していないが、確認面からの深さはおそらく50cm程度あったものと思われる。北東壁(3.1)m・深さ12～15cm、南西壁3.2m・深さ23～27cm、北西壁(3.6)m・深さ13～21cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。南東壁にカマドがあり、建物の軸方向はN-162° - Eである。

[床面・壁溝] 床面は遺存しておらず、その状況は不明である。壁溝は幅18～37cm、深さ15～20cmで、部分的に検出されたが本来は壁際を全周するように巡らされていた可能性がある。

[柱穴] SI02b内では、支柱穴とみられる柱穴は確認されなかった。

[カマド] カマドの痕跡や火床面は検出されていないためカマドの設置された位置は特定できないが、SI02aカマドの地点にあって作り替えたか、SI02aカマドをすでに使用していた可能性が考えられる。

[その他の施設] SI02a内で検出されたPit 5～7・9・10がSI02bに伴う可能性がある。また、SI02aではSB02が付属するが、本竪穴建物跡と位置がずれていて他に構築物を構成する柱穴等がみられな

め、本竪穴建物跡には掘立柱建物跡は伴わないものとみられる。

[堆積土] 床面が遺存しておらず、壁溝の堆積土のみが確認できた。暗褐色土を含む明黄褐色ローム主体であることから、SI02a構築時に埋め戻されたと考えられる。

[出土遺物] 図示していないが、壁溝堆積土から縄文土器片1点が出土した。

[小結] 遺構の形態、白頭山苦小牧火山灰が堆積しているSI02aとの重複関係などから、平安時代9世紀末～10世紀初頭頃に廃絶されたものと思われる。

第3号a竪穴建物跡(SI03a、図55・56・119)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-34・35グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.2m、第IV層で確認した。調査着手時当初は1棟の竪穴建物跡として認識していたが、土層断面を観察したところ、壁溝を2か所で確認し、床面も2面認められたことから、第3号竪穴建物跡は造り替えられていることが判明し、新期をSI03a、貼床層下層から検出された古期の建物跡をSI03bとした。SK06と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 建物北西部のみ確認され、調査区内で検出したのは全体の4分の1程度と推定される。遺構の大半は調査区域外にある。大部分が調査区外に位置することから、本来の規模は推定しがたいが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面の深さは、南西壁(5.0)m・深さ44～58cm、北西壁(2.5)m・深さ45～53cmである。壁は概ねほぼ垂直に立ち上がるが、第6号土坑と重複する箇所のみ外側に不整形に広がる。東西土層断面では、竪穴内に第6号土坑の堆積土の流れ込みは確認できないことから、遅くとも竪穴廃絶時にはこの部分は不整形に外側に広がっていたものと推定される。なお、自然崩落か意図的な行為かは判然としない。南東側にカマドがあるとすれば、建物の主軸方向はN-147°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は基本的に貼床(19～22層)により平坦に整えられているが、北側では掘削底面をそのまま床面とする。貼床の厚さは5～20cmである。壁溝は幅16～46cm、床面からの深さ6～15cmで、壁際を巡るが、部分的に途切れる。壁板の痕跡は確認できない。北西隅付近では、壁溝が不自然に建物内側へ広がる。何らかの施設が重複している可能性も考えられる。

[柱穴] SI03内ではPit 1～4の4基が検出された。そのうちSI03aではPit 1が本竪穴建物跡に伴う主柱穴と考えられる。62×36cmの半円形で床面からの深さ57cmで、柱痕を有している。また壁際にPit 2・3・4の3基が検出された。Pit 2は29×21cmの歪な楕円形で深さ43cm、Pit 3は31×24cmの歪な楕円形で深さ20cm、Pit 4は40×27cmの楕円形で深さ24cmの規模である。図示していないが、Pit 1から土師器が2点出土している。

[カマド] 調査区域内では検出されなかった。調査区外に位置する可能性が考えられる。

[その他の施設] 検出されなかった。

[堆積土] 1～14層は竪穴及び壁溝の堆積土である。5層は火山灰を多く含む。揺り鉢状に堆積し、建物中央付近では床面上に堆積する。火山灰層の下位に堆積する6～14層はロームを基質とする、もしくはロームブロックが多く混入することから、人為堆積と考えられる。火山灰層(5層)の上層(1～4層)は、比較的均質な黒褐色～褐色土であるものの、部分的にロームの混入が認められることから、堆積要因は判然としない。より上位の層が黒みが強く、漸移的に変化することから、土壌生成作用の

影響を受けている可能性が考えられる。14層はSI03a壁溝の堆積土、15・16層は床面を整えるための貼床層である。なお17・18層はSI03b壁溝の堆積土、19～22層はSI03bの掘方(貼床層)である。本建物跡の壁際の堆積土上層から出土した火山灰と、中央付近の床面から出土した火山灰について火山灰分析を行ったところ、両者とも白頭山苦小牧火山灰との結果を得ている(第6編第1章第1節参照、灰5・6)。このことは、壁際が初期堆積によって三角状に堆積していたものの、建物中央部は堆積がほとんどない状態の時に白頭山苦小牧火山灰が降灰したこととなる。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器、石器が出土している。このうち土師器坏(33)・甕(34)・ミニチュア甕(35)、須恵器坏(36・37)、敲磨器(38)・敲石(39)を図示した。33・34は床面から出土した遺物である。

[小結] 堆積土の様相から、建物廃絶後、壁際付近は埋め戻されているものの、中央部は開口状態であったと復元できる。埋め戻された壁際と床面が露出している中央部に同一の白頭山苦小牧火山灰が堆積していることから、本建物の廃絶は白頭山苦小牧火山灰降下直前と判断でき、平安時代10世紀前葉頃には廃絶されていたと考えられる。

第3号b竪穴建物跡(SI03b、図56・119)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-34・35グリッドに位置する。調査当初1棟とみていたSI03が、造り替えられていることが判明したため、新期をSI03a、貼床層下層から検出された古期の建物跡をSI03bとした。

[平面形・規模] SI03aに造り替えられていることから、竪穴の規模は不明瞭であるものの、壁溝の位置から、SI03aより一回り程度小さく、調査区内で検出したのは全体の4分の1程度と推定される。南東側にカマドがあるとすれば、建物の主軸方向はN-147°-Eである。

[床面・壁溝] 貼床(19～22層)が施されているものの床面は検出されなかったことから、SI03a構築により床面は削平されたと推定される。貼床の厚さは残存部分で3～29cmである。壁溝は幅10～32cm、確認面からの深さ11～22cmで、壁際を巡ると推定される。一部検出できない部分もあった。壁板の痕跡は確認できない。

[柱穴] 3基検出した(Pit5～7)。Pit7は平面規模が22×17cmの歪な半円形で深さ57cmであり、比較的規模が大きく、SI03aの主柱穴であるPit1と重複して位置することから、主柱穴と考えられる。Pit5～6は壁柱穴である。各柱穴の規模は、Pit5が39×31cmの隅丸長方形で深さ31cm、Pit6が32×27cmの楕円形で深さ30cmである。また、図示していないがPit5から土師器が2点、Pit7から土師器が1点出土している。

[カマド・その他施設] 検出されなかった。

[堆積土] SI03a構築のためにSI03b床面を削平し、貼床層である15・16層で整えて15層上面をSI03a床面としたことから、本竪穴建物跡の堆積土は遺存していない。なお、17・18層はSI03b壁溝の堆積土、19～22層はSI03bの掘方(貼床層)である。

[出土遺物] Pit7から出土した土師器甕(40)を図示した。SI03a床面から出土した遺物と接合している。この他、SI03aの掘方から出土した遺物が本建物に伴う遺物と解釈でき、土師器甕の体部の小破片1点が出土しているが、図示していない。

[小結] SI03aの埋め戻し後に白頭山苦小牧火山灰が堆積していることから、本建物の廃絶は白頭山苦小牧火山灰降下より前と判断でき、平安時代10世紀初頭頃には廃絶されていたと考えられる。

第4号竪穴建物跡(SI04、図57・119・139)

[位置・確認] 調査区中央、31-29・30グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.4m、第V層で確認した。SP20、SK07・11、SR01より古い。

[平面形・規模] 南側が他遺構との重複によって遺存しないものの、直径2.7mのほぼ円形をなすものと推定される。確認面から床面の深さは10~26cmで、やや開きながら立ち上がる。

[床面・壁溝] 床面は地山をそのまま平坦な床面として使用していた。壁溝は検出されなかった。

[柱穴・炉] 建物北側でPit 1が検出された。21×19cmの歪な円形で深さ7cmの規模で、柱穴となる可能性がある。建物跡の大部分が重複しているSK07によって壊されているため、炉は検出されなかったものの本来は存在していた可能性がある。

[その他の施設] 東側で幅約90cm、奥行き約60cmの張出部分が検出された。遺構確認面と床面の中間の深さに段を設けるような平場が形成されており、その中央直径約50cmほどの範囲が硬化していたことから、出入り口として設けられたものと考えられる。

[堆積土] ローム及び炭化物を含む褐色土~暗褐色土が堆積し、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物] 縄文土器が少量出土しており、このうち深鉢(41・42)・鉢(43)を図示した。図139-263は出入り口部分の底面直上から出土した破片が、SK07出土遺物と接合したものである。土器片の大半がSK07から出土しているが、遺構の新旧関係から本来は本竪穴建物跡に帰属していた遺物と判断された。

[小結] 円筒上層b式土器片が床面直上から出土しているものの、重複しているSR01(円筒上層a2式期)より古いことから、縄文時代中期の円筒上層a式期頃に廃絶されたものと思われる。出入り口を有する竪穴建物跡である。

第5号竪穴建物跡(SI05、図57・119)

[位置・確認] 調査区中央、31-33・34グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.2m、第V層で確認した。他遺構との重複関係は認められなかった。

[平面形・規模] 大半が調査区域外にあるため遺構の全容は不明だが、平面形は一辺が約3.3mの方形をなすものと推定される。確認できた壁長及び確認面から床面までの深さは、北壁(0.3)m・深さ55cm、東壁(3.3)m・深さ55~60cm、南壁(0.4)m・深さ52cmを測る。いずれの壁もほぼ垂直の立ち上がりを見せている。南壁にカマドがあるとすれば、建物の軸方向はN-170°-Eである。

[床面・壁溝] 地山をそのまま使用して平坦な床面とし、壁溝は幅14~30cm、深さ12~23cmで、壁際を全周するように巡らされているようである。

[柱穴・カマド] 主柱穴及びカマドは調査区域内では検出されなかった。ただし建物隅の北東及び南東隅の壁際、壁溝内でPit 1・2が検出された。Pit 1は22×24cmの円形で深さ24cm、Pit 2は22×20cmの歪な円形で深さ26cmである。いずれからも遺物は出土していない。

[その他の施設] 検出されなかった。

[堆積土] 上位には黒褐色土及び暗褐色土が堆積し、床面付近には褐色土が堆積している。中位の第3層には火山灰が検出され、理化学的分析を行っていないが、土層観察等によって白頭山苦小牧火山灰の可能性が高いとみられる。壁溝には炭化物を少量含む黄褐色土が堆積している。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器、粘土塊が少量出土している。このうち、堆積土から出土した土師器坏(44)、須恵器甕(45)を図示した。44は内面に黒色処理を施す。45はやや酸化軟質焼成の須恵器甕の体部破片で、胎土分析を行っている(第6編第1章第5節参照、S-8)。

[小結] 堆積土中位から白頭山苦小牧火山灰が検出されたことから、白頭山苦小牧火山灰降下前に廃棄された建物跡である。堆積土の様相、火山灰の検出状況、遺構の形態、出土遺物などから、平安時代9世紀末葉～10世紀前葉頃に廃絶されたものと思われる。

第6号竪穴建物跡(SI06、図58・120)

[位置・確認] 調査区南部、31-38グリッドに位置する。遺構確認面の標高は35.7m、第IV層で確認した。SK12と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 調査区内で検出したのは全体の5分の3程度と推定され、本来の平面形は約2.3m四方の方形と考えられる。壁長及び確認面から床面の深さは、北西壁(1.1)m・深さ22~27cm、北東壁2.3m・深さ15~25cm、南東壁2.1m・深さ18~22cmである。いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がる。建物の軸方向はN-167°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は基本的に貼床(12層)により平坦に整えられているが、地山をそのまま床面としている部分もある。貼床の厚さは5~22cmである。壁溝は検出されなかった。

[柱穴] 調査区域内では検出されなかった。

[カマド] 南東壁西寄りに検出された。右袖部は調査区外に位置するため検出していない。カマドは粘土で構築されており(カマド断面6層)、芯材は用いられていない。天井部はカマド内側付近に崩落していたものの(7・8層、カマド断面1~3層)、袖部はカマド底面から約14cmの高さまで残存していた。カマド内部及び周囲からは焼土ブロックや炭化物を含む堆積(6・9・10層、カマド断面4層)が検出されている。袖部や天井崩落土には被熱による弱い赤色化が認められるが、火床面は検出されていない。燃烧部からは逆位の小甕底部(46)が出土し、内側には明褐色土が充填していた(11層、カマド断面5層)ことから、位置的には支脚として設置されていた可能性がある。ただし火床面が遺存していない状況は、意図的に剥ぎ取った可能性を示唆しており、何らかの廃絶儀礼に関わる可能性も考えられる。

煙道部は地下式である。煙道は建物外に110cm延び、軸方向はN-165°-Eである。幅は25cm、高さ22~25cmで、カマド底面から27°の傾斜で低く掘り込む。煙出しは30×33cmの円形平面で、深さは72cmである。ほぼ垂直に掘り込まれ、煙道と鋭角に連結する。煙道～煙出し内部には締まりのない褐色土が堆積(煙道断面1層)していることから、埋め戻しはされなかったものと考えられる。カマド連結部には粘質の強い褐色～黄褐色土(煙道断面2~4層)が堆積する。カマド部材崩落土が流入したものと推定される。

[その他の施設] 調査区域内では検出されなかった。

[堆積土] 1~5層は竪穴堆積土である。6~11層はカマド関連堆積土、12層は貼床である。竪穴堆

積土にはロームブロックが全体的に含まれ、漸移的なレンズ状堆積ではないことから、人為堆積の可能性が高い。堅穴堆積土には自然堆積層が認められないことから、建物廃絶後速やかに当時の地表面付近まで埋め戻されたものと推測される。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器、石器、粘土塊が出土している。このうち、土師器小甕(46)、須恵器坏(47)を図示した。46はカマド燃焼部から出土した土師器小甕の底部で、支脚として使用されていたものと考えられる遺物である。

[小結] 堆積土の様相、遺構の形態、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代10世紀前半頃に廃絶されたものと思われる。

第7号a堅穴建物跡(SI07a、図59～61・120・121)

[位置・確認] 調査区南部、31-40・41グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.6～36.8m、第IV層で床面及び壁溝を確認した。建物南側にはピットが7基(SP48～53・69)検出されているが、建物としての明確な配置は捉えられない。しかしながら、近接してSI08や攪乱が位置しており、それらとの重複により柱穴配置が不明瞭となっている可能性も否定しがたい。このことから、本建物には南側に掘立柱建物跡が伴っていた可能性もある。

調査着手時当初は1棟の堅穴建物跡として認識していたが、貼床を除去したところ、当初の堅穴より一回り小さい方形の掘方を検出したことから、第7号堅穴建物跡は造り替えられていることが判明し、新期をSI07a、貼床層下層から検出された古期の建物跡をSI07bとした。SP18と重複し、本遺構より新しい。

[平面形・規模] 調査区内で検出したのは全体の4分の3程度と推定され、南西側が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁5.4m・深さ42～54cm、南東壁(4.7)m・深さ49～52cm、北西壁(2.7)m・深さ41～53cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。建物の軸方向はN-153°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は基本的に貼床(11層)により平坦に整えられているが、地山をそのまま床面としている部分もある。貼床の厚さは4～11cmである。壁溝は幅10～36cm、床面からの深さ12～33cmで、壁際を巡る。壁板の痕跡は確認できない。

[柱穴] 5基検出した。そのうちPit 3・5が主柱穴、Pit 6、12が壁柱穴である。各柱穴の規模は、Pit 3が36×26cmの楕円形で深さ50cm、Pit 4が24×22cmの円形で深さ12cm、Pit 5が36×35cmのやや不整な円形で深さ45cm、Pit 6が23×21cmのほぼ円形で深さ18cm、Pit 12が41×31cmの楕円形で深さ30cmである。いずれも柱痕は確認していないが、Pit 5の底面で長軸17cm、短軸12cm、底面からの深さ9cmの長方形の凹みを検出した。近接するSI02で同規模の柱痕が確認されていることから、この凹みは柱あたりの可能性が高い。なお、壁柱穴として検出したのは2基であるが、壁溝底面で部分的に深い箇所を9地点確認しており、これらが柱の痕跡である可能性も考えられる。図示していないが、Pit 3から土師器と須恵器が各1点ずつ出土している。

[カマド] 南東壁西寄りに検出された。右袖部は一部、調査区外に位置する。カマドは粘土で構築されており(カマド断面19～22層)、芯材は用いられていないが、土器片が混入する。袖部の遺存状況は比較的良好であり、カマド底面から約28cmの高さまで袖部が残存する。袖部内側は被熱により約6cm

の厚さで赤色化している(19・20層)。カマド内側付近には、カマド構築材と同様の粘土や焼土ブロックが混入する堆積土(カマド断面1・2・6・8・9層)が認められることから、天井部はカマド内部に崩落したものと推定される。燃焼部には49×47cmの範囲で火床面を検出した(カマド断面23層)。赤色化はカマド底面から最大5cmの深さに及ぶ。カマド底面直上には、極暗褐色土が薄く堆積しており(カマド断面13層)、比較的均質なことから、カマド機能時の堆積の可能性が考えられる。カマド内堆積土からは、土器片が多数出土した。火床面の奥側では支脚と思われる逆位の甕(51)が検出された。口縁部から6cmの範囲が埋設されており、上部は欠損している。

煙道は半地下式である。端部は攪乱により消失するものの、煙出し部が検出されていることから、消失部分は狭小な範囲に留まると推測される。煙道は建物外に130cm確認でき、軸方向はN-155°-Eである。幅は42~57cmで、煙出しに向かって緩やかに高く傾斜する。煙道の遺存状況は比較的良好で、天井部が一部崩落せずに残存する。天井部は粘土で構築され、壁部分にも天井部から連続して6~20cmの厚さで粘土が貼られる。壁から天井部にかけては、内側が4~15cmの厚さで被熱により赤色化する(カマド断面14層)。煙道の天井部は、南東端部付近で粘土の残存及び崩落が認められないことから、この部分が煙出しに相当すると考えられる。煙出し部は、推定長径約30cm、短径約25cm、深さ16cmである。

煙道から煙出し部にかけては、天井部の崩落土を含む暗褐色~褐色土が堆積する(カマド断面3~5・7層)。煙出し底面直上に薄く堆積する暗褐色土(カマド断面10層)は、比較的均質なことから、機能時の堆積と考えられる。10層直上からは、土師器の胴部片が出土した。大破片であり、自然に混入したとは考えがたいこと、機能時の堆積直上から出土したことから、廃絶時に入れられたものと推定される。

カマドは、天井部が崩落し、内部から遺物片が多数出土しているものの、廃絶に伴う意図的な破壊行為や儀礼行為が伴うか否かは判然としない。

[その他の施設] ピットを4基検出した(Pit 1・2・7・8)。各ピットの規模は、Pit 1が37×33cmの円形で深さ11cm、Pit 2が42×40cmの円形で深さ12cm、Pit 7が43×36cmの楕円形で深さ5cm、Pit 8が62×62cmの円形で深さ12cmである。Pit 1からは、縄文土器の底部や土師器などがごく少量出土した。縄文土器の底部(66)は最高位で床面よりも5cmほど高いことから(機能時に床面から底部が突き出ている状態は不自然であり、その部分の破損も認められないことから)、建物廃絶後に入れられた可能性が高い。Pit 8からは焼土ブロック及び粘土ブロックが多量に検出された。カマド廃材が廃棄された可能性が考えられる。また、土師器甕が出土している(55)。図示していないが、Pit 2からは土師器が2点出土した。

[堆積土] 1~9層は堅穴堆積土、10層は壁溝の堆積土、11層は貼床である。堅穴堆積土にはロームブロックが全体的に混入し、漸移的なレンズ状堆積ではないことから、人為堆積と考えられる。堆積土中に自然堆積層が認められないことから、建物廃絶後速やかに当時の地表面付近まで埋め戻されたものと推測される。

[出土遺物] 土師器と須恵器、製塩土器、縄文土器、土製品、鉄製品、石器など、多くの遺物が出土している。このうち、土師器坏(48・49)・小甕(50・51)・甕(52~57)、須恵器坏(58)・壺(59)・甕(60)、製塩土器(61)、土製品(62)、鉄製品(63~65)、縄文土器広口壺(66~68)・鉢(69)を図示した。51はカ

マドの火床面のやや奥側で出土しており、カマドの支脚として使用されたとみられる。外面は被熱により剥落した部分が確認できる。逆位で設置されていた。53はカマド袖内から出土しており、カマド構築材として使用されたものである。内外面に被熱痕が確認できる。その他、50・52・56・57などがカマド周辺から出土した遺物であるが、56は竪穴内のやや離れた位置の堆積土や床面出土遺物とも接合している。54は外面にタタキを施した土師器の甕で、竪穴内に散在した遺物が接合したものである。その他、55がPit 8から出土している。62は床面から出土した土製品で、焼成粘土紐とみられる。63～65はすべて釘状の鉄製品で、63が床面直上から、64が壁溝から出土している。本建物跡から出土した炭化材3点について、樹種同定を行った(第6編第1章第2節参照)。

[小結] 堆積土の様相、遺構の形態、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代9世紀後半～10世紀初頭頃に廃絶されたものと思われる。なお、本建物跡のカマド床面直上から出土した炭化材1点について炭素年代測定を行った(第6編第1章第4節参照、PLD-28327)結果、8世紀後半～10世紀後半の年代が示された。

第7号b竪穴建物跡(SI07b、図60・62・122)

[位置・確認] 調査区南部、31-40・41グリッドに位置する。第IV層で床面及び壁溝を確認した。調査の結果、第7号竪穴建物跡は造り替えられていることが判明し、新期をSI07a、貼床層下層から検出された古期の建物跡をSI07bとした。SI07aと同様、建物南側にはピットが7基(SP48～53・69)検出されており、掘立柱建物が伴っていた可能性がある。SP18と重複し、本遺構より新しい。

[平面形・規模] 調査区内で検出したのは全体の5分の4程度と推定され、本来の平面形は約4m四方の方形と考えられる。壁は建物北側で比較的良好に残存するが、建物南側では新期建物の掘方に破壊され、壁はほとんど残存していない。壁長及び確認面(新期床面)から床面の深さは、北東壁3.7m・深さ10～26cm、南東壁(3.9)m・深さ36～46cm、北西壁(2.5)m・深さ13～25cmである。南東壁は新期建物と共有する。いずれの壁もほぼ垂直に立ち上がる。南東壁にカマドがあるとすれば、建物の軸方向はN-155°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は基本的に貼床(14層)により平坦に整えられている。貼床の厚さは5～27cmである。壁溝は幅6～12cm、床面からの深さ6～14cmで、壁際を巡る。壁板の痕跡は確認できない。

[柱穴] ピットは7基検出したが、いずれも浅いことから柱穴とは判断しがたい。

[カマド] 南東壁西寄りに検出された。建物に伴うカマドの火床面が上下2層(カマド断面23・27層)に分かれること、新期建物カマドの袖部下に焼土を含む層(24～26層)が堆積することなどから、新期建物に伴うカマドと同位置に旧期建物のカマドが位置していたと推定される。新期建物カマド構築時に大部分が破壊され消失していることから、カマドの詳細は不明である。火床面は新期カマドと重複するため、被熱範囲は判然としない。旧期建物カマドに伴う煙道は検出していないことから、新期建物の煙道と共有している可能性が考えられる。

[その他の施設] ピットを7基検出した(Pit 9～11・13～15・17)。Pit14とPit17は重複し、Pit14のほうが新しい。各ピットの規模は、Pit 9が81×70cmのほぼ円形で深さ13cm、Pit10が44×40cmの円形で深さ17cm、Pit11が47×32cmの楕円形で深さ13cm、Pit13が78×73cmの円形で深さ25cm、Pit14が47×42cmの円形で深さ20cm、Pit15が36×27cmの楕円形で深さ18cm、Pit17が154×(134)cmで深さ34cmである。

Pit 9 及びPit17は上位に貼床状の堆積が認められる。床面の貼床(14層)とは連続しないことから、建物機能時に一定期間開口していたものの、建物最終段階では埋め戻され、上面は床面として機能していたものと推定される。Pit13及びPit14は上面に、建物機能時の床面の汚れ(13層)が堆積することから、Pit 9 及びPit17のような部分的な貼床は施されなかったものの、建物最終段階では上面は床面として機能していたものと考えられる。なお、Pit13からは焼土ブロック及び粘土ブロックが多量に検出された。カマド廃材が廃棄された可能性が考えられるが、上面が最終段階で床面として機能していると推定されることから、Pit13から検出された焼土ブロック及び粘土ブロックは、カマドの補修に伴う残滓の可能性が想定される。図示していないが、Pit 9・13・15・17から土師器や縄文土器がごく少量出土している。

[堆積土] 堆積土には新期建物の貼床層が堆積する。12層は壁溝の堆積土、13層は建物機能時の床面の汚れ、14層は貼床である。

[出土遺物] SI07aの貼床から出土した遺物が本建物に伴う遺物と解釈でき、土師器と須恵器が出土している。このうち、須恵器鉢(71)を図示し、胎土分析を行っている(第6編第1章第5節参照、S-9)。また、Pit 9から出土した土師器甕(70)を図示しているが、これはSI07a床面から出土した遺物と接合したものである。

[小結] 遺構の形態、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代9世紀後半頃に廃絶されたものと思われる。

第8号竪穴建物跡(SI08、図63・64・122)

[位置・確認] 調査区南部、31-41・42グリッドに位置する。遺構確認面の標高は35.6~35.7m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかったが、北西部分は攪乱により消失している。

[平面形・規模] 調査区内で検出したのは全体の10分の9程度であり、遺構の北西側が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁2.4m・深さ37~40cm、南東壁2.2m・深さ37~43cm、南西壁(1.2)m・深さ37~46cm、北西壁(0.3)m・深さ38~40cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。南東壁にカマドがあるとすれば、建物の軸方向はN-140°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は基本的に貼床(11層)により平坦に整えられているが、地山をそのまま床面としている部分もある。貼床の厚さは4~12cmである。壁溝は検出されなかった。

[柱穴] 調査区域内では検出されなかった。

[カマド] 南東壁東寄りに検出された。カマドは粘土で構築されており(カマド断面20~22層)、後述のとおり、芯材として土師器甕の大破片が数片用いられていたものと推定される。カマド内側からは天井部の崩落土と思われる粘土が検出された(カマド断面2・4~7層)。右袖部は遺存状況が良好で、内側は被熱により3~7cmの厚さで赤色化している。右袖部中位からは縦半分が欠損した土師器甕(74)が伏せた状態で検出された。被熱した粘土に挟まれることから、カマドの芯材だったと考えられる。検出時はほぼ水平であったが、右袖部の粘土が内側に強く傾斜していることや、芯材の甕がカマド内部に張り出して検出されたことから、本来は斜めに据えられていたものが、経年変化で内側に倒れ込んだものと推定される。なお、甕の内側には部分的に煤が付着しており、付着範囲がカマド袖部

の粘土と甕が接していた範囲と合致するため、煤が付着していない範囲は火を受けたことにより煤が消失したものと推測される。但し、火を受けたと推定される箇所が劣化が弱いことから、構築時には粘土が貼られていたものの、使用段階で粘土がはがれ落ちた可能性が高い。左袖部は比較的遺存状態が悪く、右袖部より長さが15cm程度短いほか、残存高も10cmに満たない。燃焼部には26×24cmの範囲で火床面を検出した(カマド断面22層)。赤色化はカマド底面から最大4cmの深さに及ぶ。支脚と推定できる遺物は認められない。

カマド南西付近では、カマド構築材と思われる粘土ブロックや焼土、炭化材、土器片などが散乱した状態で検出された。左袖部の遺存状態が悪いことを考え合わせると、カマドが意図的に破壊された可能性も想定される。散乱する土器片の中には比較的大きい破片もあり、それらはカマド構築材と同様の粘土が張り付くことから、カマドの芯材として用いられていたものと推定される。また、カマド内にも土師器甕の大破片が検出されているが、これもカマド構築材と思われる粘土(カマド断面4～7)に挟まれていたことからカマドの芯材であったと考えられる。

煙道は地下式であり、南東壁から南東側78cmに煙出しが位置する。煙出しまで含めた煙道は建物外に120cm伸び、軸方向はN-140°-Eである。幅は31cmで、カマド底面から14°の傾斜で低く掘り込む。煙出しは直径45cm、深さ58cmで、ほぼ垂直に掘り込まれ、煙道と鋭角に連結する。煙道天井部は被熱により焼土化する。煙道から煙出しの下位に堆積する黒～暗褐色土は(7・9・10層)比較的均質であることから、機能時の自然堆積と考えられる。また、煙道底面には天井部に由来すると思われる焼土ブロック(8層)も認められる。上位の堆積土(1・2・4・6層)はロームを含むことから、廃絶後に埋め戻されていると推定される。なお、縁に被熱が認められるロームブロックが混入する(3・5層)が、壁や天井から崩落したものと考えられる。

[その他の施設] ピットを1基検出した(Pit 1)。ピットの規模は、67×55cmの歪な円形で深さ21cmである。上面に硬化は認められないことから、建物廃絶直前まで開口していたと考えられる。遺物は出土しておらず、性格は不明である。建物東側の床面からは、青白色粘土塊を2個検出した。長軸28～30cm、短軸20～22cm、厚さは15～20cmである。掘り込み、被熱などは認められない。

[堆積土] 1～6層は竪穴堆積土である。いずれもロームブロックが一定量混入し、漸移的なレンズ状堆積ではないことから、人為堆積と考えられる。7層はカマド前部に薄く堆積した黒色土である。使用時の床面の堆積と考えられる。8～10層はカマド右袖部である。竪穴堆積土には自然堆積層が認められないことから、建物廃絶後速やかに当時の地表面付近まで埋め戻されたものと推測される。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器が出土している。このうち、土師器小甕(72・73)・甕(74・75)・塙(76)、縄文土器鉢(77)を図示した。74はカマドの右袖から出土した遺物で、袖構築材として使用されていたものである。カマド周辺から出土した遺物と接合しており、建物廃絶時にカマドを壊した状況がうかがえる。72はカマド周辺から出土した遺物が接合した土師器の小甕であるが、外面が全体的に被熱しており、カマドの支脚として使用されていた可能性もある。76は外面に輪積痕が顕著に残る。

[小結] 堆積土の様相、遺構の形態、出土遺物などから、平安時代9世紀後半頃に廃絶されたものと思われる。

第9号竪穴建物跡(SI09、図65・66・123)

[位置・確認] 調査区南部、31-42・43グリッドに位置する。遺構確認面の標高は35.5～35.6m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

調査着手時当初は1棟の竪穴建物跡として認識していたが、カマドを調査したところ、煙道の造り替えが確認された。古期煙道は、カマド取り付け部分の標高値が建物床面より10cm以上高いことから、現建物に伴うとは考えがたい。このことから、現建物より10cm程度高い位置に床面を設けていた別の建物の存在が想定でき、現建物に造り替えた際に、消失したものと推定される。古期建物の痕跡が全く残存していないことから、本建物跡は造り替えが想定できるものの、1棟の建物として報告し、カマドのみ新期(カマドa)と古期(カマドb)に分けて記述する。

[平面形・規模] 調査区内で検出したのは全体の10分の9程度であり、遺構の南東側隅が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁(1.6)m・深さ52～61cm、南東壁(2.9)m・深さ50～54cm、南西壁3.5m・深さ51～61cm、北西壁3.6m・深さ54～60cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。南東壁にカマドがあるとなれば、建物の軸方向はN-145°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は基本的に貼床(11層)により平坦に整えられている。貼床の厚さは2～23cmである。壁溝は検出されなかった。

[柱穴] 調査区域内では検出されなかった。

[カマド] 南東壁西寄りに検出された。煙道が重複して2本検出されたため、同位置での造り替えが想定されることから、新期をカマドa、古期をカマドbとした。

〈カマドa〉カマドは粘土で構築されている(カマド断面18～21層)。袖部の遺存状況は比較的良好であり、カマド底面から28cmの高さまで袖部が残存する。右袖端部には縦半分が欠損した土師器甕(81)が逆位に据えられる。袖部内側は被熱により4～10cmの厚さで赤色化している(18・20層)。燃焼部には44×46cmの範囲で火床面を検出した(カマド断面22層)。赤色化はカマド底面から最大6cmの深さに及ぶ。カマド内側付近には、カマド構築材と同様の粘土や焼土ブロックが混入する堆積土(カマド断面3層)が認められることから、天井部はカマド内部に崩落したものと推定される。カマド内部及び周囲の堆積土中からは土器片が約30点出土したものの、支脚と推定できる資料は認められない。

煙道は半地下式である。煙道は建物外に110cm延び、軸方向はN-144°-Eである。幅は31cmで、煙出しに向かって緩やかに高く傾斜する。壁部分にはカマド袖部から連続して10～12cmの厚さで粘土が貼られ、内側は部分的に被熱により赤色化する。天井部は内側に崩落する(カマド断面6・7層)。

〈カマドb〉煙道は煙出しに向かい低く傾斜する。これは近接するSI08やSI06と同様の特徴であることから、地下式のカマドと復元される。カマド本体は、新期カマドを伴う建物を構築した際に深く掘り込まれ、消失している。煙道は建物外に100cm残存し、軸方向はN-154°-Eである。煙道は8.5°の傾斜で掘り込まれており、最深部では遺構確認面から34cmの深さに達している。煙出し部の深さは25cmである

[その他の施設] ピットを1基検出した(Pit 1)。規模は107×82cmの歪な楕円形で深さ18cmである。上面は硬く締まるが、貼床は施されていないことから、建物機能時に一時期開口していたものの埋め戻され、建物最終段階では上面は床面として機能していたものと推定される。図示していないが、土

師器と縄文土器が各1点出土している。

[堆積土] 1～10層は堅穴堆積土である。にぶい黄褐色～黒褐色土を基調とする。全体的にロームブロックが一定量混入し、漸移的なレンズ状堆積ではないことから、人為堆積と考えられる。11層は貼床である。堆積土上位からは褐灰色粘土が検出された(2層)。127×55cmの不整形の範囲に広がり、厚さは9～14cm程度である。性格は定かではない。堅穴堆積土には自然堆積層が認められないことから、建物廃絶後速やかに当時の地表面付近まで埋め戻されたものと推測される。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器、粘土塊、石器など、多くの遺物が出土した。このうち、土師器坏(78)・小甕(79・80)・甕(81)、須恵器坏(82・83)、縄文土器浅鉢(84)・壺(85・86)、搔器(87)を図示した。78・80・81はカマドおよびカマド周辺から出土した遺物である。81はカマドの右袖端から逆位した状態で出土した土師器甕で、袖構築材として使用されていたものである。

[小結] 堆積土の様相、遺構の形態、出土遺物などから、平安時代9世紀後半～10世紀前半頃に廃絶されたものと思われる。

第10号堅穴建物跡(SI10、図67・124)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-43・44グリッドに位置する。遺構確認面の標高は35.4～35.5m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区内で検出したのは全体の4分の1程度と推定され、遺構の大半が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、南東壁(0.3)m・深さ48～51cm、南西壁3.6m・深さ51～60cm、北西壁(1.5)m・深さ61～65cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。南東壁にカマドがあるとすれば、建物の軸方向はN-152°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は貼床(20層)によって平坦に整えられている。貼床の厚さは8～10cmである。壁溝は幅12～25cm、床面からの深さ10～22cmで、壁際を巡る。壁板の痕跡は確認できない。

[柱穴] 堅穴北西隅と南西隅に各1基を検出し、壁溝内に位置する。各柱穴の規模と平面形は、北西隅のPit 1が27×15cmの楕円形で深さ40cm、南西隅のPit 2が21×16cmのほぼ円形で深さ49cmである。

[カマド・その他の施設] 調査区域内では検出されなかった。

[堆積土] 黒褐色～暗褐色土を主体とし、いずれもロームブロックを多く含み、漸移的なレンズ状堆積ではないことから、人為堆積と考えられる。西壁際に堆積する9・14・15層は褐色～明黄褐色土であり、対応部分の壁が不整形であったことから、壁の崩落土の可能性が考えられる。17～19層は壁溝堆積土、20層は貼床である。堅穴堆積土には自然堆積層が認められないことから、建物廃絶後速やかに当時の地表面付近まで埋め戻されたものと推測される。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器が出土している。このうち、土師器坏(88・89)・甕(90)・埴(91)、縄文土器浅鉢(92)を図示した。90は床面直上から出土した土師器の甕で、体部上半には輪積痕が顕著に残り、体部下半には焼土が付着している。89は土師器の坏とみられるが、やや硬質で、酸化焼成された須恵器の可能性もある。外面に擦痕状の痕跡3条がみられる。堆積土上位から出土している。

[小結] 堆積土の様相、遺構の形態、出土遺物などから、平安時代9世紀後半～10世紀前半頃に廃絶されたものと思われる。

第11号竪穴建物跡(SI11、図67・68・124・125)

[位置・確認] 調査区南部、31-44・45グリッドに位置する。遺構確認面の標高は35.3～35.4m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区内で検出したのは全体の4分の1程度と推定され、遺構の大半が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁5.1m・深さ45～60cm、南東壁(2.4)m・深さ36～43cm、北西壁(0.9)m・深さ56～63cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。南東壁にカマドがあるとすれば、建物の軸方向はN-155°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は貼床(24層)によって平坦に整えられている。壁溝は幅13～23cm、深さ7～24cmで、壁際を全周するように巡らされているようである。壁板の痕跡は確認できない。

[柱穴] ピットは3基検出した(Pit 1～3)。各ピットの規模と平面形は、Pit 1が50×(23)cmで、調査区外へ延びているため平面形は不明、深さ21cm、Pit 2が42×39cmの円形で深さ15cm、Pit 3が26×10cmの楕円形で深さ19cmで、いずれも浅いことから柱穴とは断定しがたい。図示していないが、Pit 1・2から土師器各1点が出土している。

[カマド・その他の施設] 調査区域内では検出されなかった。

[堆積土] 竪穴堆積土下位の10～20層は全体的にロームブロックが含まれ、漸移的なレンズ状堆積ではないことから、人為堆積と考えられる。また、堆積土中位には焼土ブロックや炭化物を含む黒褐色土が堆積し(9層)、その上の暗褐色土層(7・8層)は遺物を比較的多く含むことから、これらも人為堆積と考えられる。堆積土中位から下位(7～20層)には自然堆積の様相は認められないことから、建物廃絶後速やかに中位まで埋め戻しが行われたと推測される。上位の堆積土(1～6層)にはロームブロックの混入が少なく自然堆積の可能性が考えられる。なお、3層には火山灰がレンズ状に堆積する。

南東隅の床面付近からは、厚さ10cm前後の灰色粘土ブロックが検出された。床面より若干上位に位置するため、堆積土に混入したものと推定する。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器、土製品、鉄製品が出土している。このうち、土師器坏(93)・小甕(94・95)・甕(96～98)・埴(99)、須恵器坏(100・101)・甕(102・103)、製塩土器(104～107)、土錘(108～113)、釘状鉄製品(114)を図示した。遺物の多くは7・8層から出土している。図示した遺物のうち、93・103は床面直上、97は堆積土下位からの出土であるが、その他は7・8層を含めて堆積土上位からの出土である。94は土師器の小甕であるが、口縁部が大きくゆがんでいる。96は土師器の甕で、外面に刻書がみられる。104～107の製塩土器は、輪積痕が明瞭に残り、主に指オサエとナデで整形されている。また、1・2層および、周囲の検出面から土錘が合計6点(108～113)出土している。形態が類似することから、一連の遺物と考えられる。

[小結] 堆積土の様相、火山灰の検出状況、遺構の形態、出土遺物などから、平安時代9世紀後半～10世紀初頭頃に廃絶されたものと思われる。堆積土下位が埋め戻されていることから時期詳細は断定できないが、堆積土上位3層から白頭山苦小牧火山灰と思われる火山灰が検出されており、白頭山苦小牧火山灰降下前に廃絶された建物跡である。

第12号竪穴建物跡(SI12、図69・70・126)

[位置・確認] 調査区南部及び流末水路調査区東部にあたる31-46・47・R1グリッドに位置する。遺構確認面の標高は35.4～35.5m、第IV層で確認した。SV04と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 調査区内で検出したのは全体の3分の1程度と推定され、遺構の北西側が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁3.6m・深さ54～62cm、南東壁3.4m・深さ55～63cm、南西壁(1.1)m・深さ52～54cm、北西壁(0.7)m・深さ52～56cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。南東壁にカマドがあるとすれば、建物の軸方向はN-162°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は掘方を有し、貼床(17・18層)によって平坦に整えられている。壁溝は検出されなかった。

[柱穴] ピットは2基検出した(Pit1・2)。Pit1は北東隅に位置し、Pit2はカマドの東脇に位置する。各ピットの規模と平面形は、Pit1が50×49cmの円形で深さ17cm、Pit2が35×25cmの楕円形で深さ14cmで、どちらも浅いことから柱穴とは断定しがたい。Pit2からは小型の甕(117)が、ピット北壁に接して斜位に検出された。残存状態が良好なことから、意図的に埋置された可能性が考えられるものの、その性格は定かではない。

[カマド] 南東壁西寄りに検出された。煙道部南半～煙出し部は調査区外に位置するため検出していない。カマドは粘土で構築されており(カマド断面12～17層)、芯材は用いられていない。袖部の遺存状況は比較的良好であり、カマド底面から21cmの高さまで袖部が残存する。袖部内側は被熱により4～9cmの厚さで赤色化している(カマド断面12・14・16層)。カマド内側付近には、カマド構築材と同様の粘土や焼土ブロックが混入する堆積土(カマド断面2～5層)が認められることから、天井部はカマド内部に崩落したものと推定される。燃焼部には25×17cmの範囲で火床面を検出した(カマド断面11層)。赤色化はカマド底面から最大2cmの深さに及ぶ。カマド底面上には焼土ブロックや炭化物を含む層(カマド断面6～8層)が堆積する。炭化物が他層と比較して多く含まれることから、機能時の堆積の可能性も考えられる。8層上面からは土師器甕の口縁部片(119)が伏せた状態で出土した。被熱痕は認められず、大破片のため自然混入は想定しがたいことから、廃絶後に意図的に置かれたものと推定される。なお、支脚と推定される遺物は認められない。

煙道は地下式である。煙道は建物外に29cm検出した。軸方向はN-162°-Eである。幅は24cmで、カマド底面から9°の傾斜で低く掘り込む。煙道内部には締まりのない褐色土(カマド断面1層)が堆積する。カマド天井崩落土の上部から流入していることから、天井崩落後に自然堆積したものと推定される。

[その他の施設] 検出されなかった。

[堆積土] 1～16層は竪穴堆積土で、黄褐色～暗褐色土を基調とする。全体的にロームブロックが一定量混入し、漸移的なレンズ状堆積ではないことから、人為堆積と考えられる。竪穴堆積土には自然堆積層が認められないことから、建物廃絶後速やかに当時の地表面付近まで埋め戻されたものと推測される。17・18層は貼床である。建物南東部からは床面直上に黄褐色土の粘土が検出された。約80×70cmの範囲に広がり、厚さは1～6cmである。性格は定かではない。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器、土製品が出土しており、このうち土師器坏(115)・小甕(116)・

117)・甕(118~120)、須恵器坏(121)・長頸壺(122)、縄文土器台付土器(124)、土製勾玉(123)を図示した。116・121はそれぞれ建物北東隅、南東隅から逆位で出土した土師器の小甕と須恵器の坏である。116は外面が全体的に被熱しており、121は外面に「古」字状の刻書がみられる。また、カマド東脇からも土師器甕の底部破片が逆位で出土している(118)。これら3点の遺物は、出土位置が特徴的であることから、意図的に置かれたものと推定される。117はカマド東脇のPit 2から出土した土師器の小甕である。内外面が全体的に被熱しており、外面は大部分が被熱のために剥落している。本建物のカマドからは支脚は検出されなかったが、117が支脚として利用されており、建物廃絶時にPit 2に廃棄された可能性がある。

[小結] 堆積土の様相、遺構の形態、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代9世紀後半~10世紀前葉頃に廃絶されたものと思われる。

第13号竪穴建物跡(SI13、図71~75・127)

[位置・確認] 調査区北部、31-13~16グリッドに位置する。調査の結果、第13号竪穴建物跡は造り替えられていることが判明し、新期を第13号a竪穴建物跡(SI13a)、貼床層下層から検出された古期の建物跡を第13号b竪穴建物跡(SI13b)、最古期を第13号c竪穴建物跡(SI13c)とした。竪穴建物南東側にはピットが10基検出されていて3時期の掘立柱建物跡が想定されることから、各竪穴建物跡に各掘立柱建物跡が伴っていたものと考えられる。SP30・31・44は第6号掘立柱建物跡(SB06)、SP34・35・36は第7号掘立柱建物跡(SB07)、SP31・32・33は第9号掘立柱建物跡(SB09)を構成するものと考えられる。SI13aとSB09、SI13bとSB07、SI13cとSB06が、それぞれ付属する。遺構確認面の標高は37.0~37.2m、第V層で確認した。SI23、SK16・26・38、SD01と重複し、SI23、SK16・26・38より新しく、SD01より古い。

第13号a竪穴建物跡(SI13a、図71~73・127)

【位置・確認】 調査区北部、31-13~16グリッドに位置する。調査の結果、SI13a・13b・13cのうち最も新しい竪穴建物跡で、SB09(SP31・32・33)が南東側に付属する。遺構確認面の標高は37.0~37.2m、第V層で確認した。SI23、SK16・26・38、SD01と重複し、SI23、SK16・26・38より新しく、SD01より古い。

[平面形・規模] 遺構の南西側と北東側が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、平面形は6.8×7.3mの長方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁(5.1)m・深さ25~33cm、南東壁(3.2)m・深さ27~30cm、南西壁(4.0)m・深さ17~24cm、北西壁(3.2)m・深さ6~13cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。南東壁にカマドがあるとすれば、建物の軸方向はN-153°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は掘方を有し、貼床によって平坦に整えられている。壁溝は幅7~21cm、深さ11~26cmで、壁際を全周するように巡らされているようである。

[柱穴] SI13内ではPit 1~15の15基が検出され、そのうち柱痕が検出されたPit13・14が支柱穴と考えられる。各ピットの規模と平面形は、Pit13が46×45cmの円形で深さ44cm、Pit14が93×76cmの楕円形で深さ55cmである。図示していないが、Pit14から土師器片が少量出土した。

【カマド】調査区域内では検出されなかったが、南東部の調査区際に火床面が2枚検出されており、2時期によって使用されたものと考えられる。火床面1枚目は、68×34cm、深さ2cmまで被熱し、火床面2枚目は60×50cm、深さ9cmまで被熱している。この周辺では袖部や天井部に用いられた粘土や煙道の掘削痕跡等は検出されていないため、壁に近い地点であるが地床炉とみられる。カマドは南東壁の西側、調査区域外にあるものと推測される。

【その他の施設】本竪穴建物に帰属するとみられるのは、Pit 1～4・6・11・12の7基である。各ピットの規模と平面形は、Pit 1が87×52cmの楕円形で深さ41cm、Pit 2が32×31cmの円形で深さ15cm、Pit 3が82×74cmの歪な円形で深さ25cm、Pit 4が97×(55)cmの楕円形で深さ12cm、Pit 6が73×57cmの歪な楕円形で深さ66cm、Pit 11が54×49cmの円形で深さ63cm、Pit 12が74×65cmの歪な円形で深さ31cmである。Pit 6確認面では、粘土粒や焼土粒が充填された状態で検出され、底面付近の第4層からは炭化物が出土した。この炭化物について種実同定を行ったところ、アワなど多種の炭化種実が検出された(第6編第1章第3節参照)。図示していないが、Pit 4・6・11から土師器片が少量出土した。

【堆積土】西側にはローム粒を含む黒褐色土あるいは暗褐色土が堆積するが、東側ではロームを主体とする褐色土が堆積している。ロームを多量に含む土壌が互層状にみられ、焼土及び炭化物も含まれることから人為堆積と思われる。貼床及び掘方には黒褐色土を少量含む明黄褐色ロームが主として用いられている。

【出土遺物】土師器と須恵器が出土している。このうち、土師器坏(125・126)・甕(127・128)・埴(129)、須恵器坏(130)・長頸壺(131)・壺(132)を図示した。126～129は床面直上から出土しており、129はSI14・SK14から出土した遺物と接合している。130は須恵器の坏で、底外面に刻書がみられる。132は掘方から出土した壺の底部破片で、胎土分析を行っている(第6編第1章第5節参照、S-10)。

【掘立柱建物跡 - SB09】

【平面形・規模】SI13南東側で検出されたピットのうち、SP31(深さ29cm)、SP32(同58cm)、SP33(同41cm)のピット3基で構成される。SP31は、SB06と重複して使用されたものと思われる。桁行2間で、梁行は調査区域外に延びていて不明であるが、調査区域外にこれらに対応するピット列があるものと思われる。柱間寸法は約2.6mで、建物の軸方向はN-153° - Eである。

【堆積土】SP33では暗褐色土が堆積している。

【出土遺物】SP33から土師器甕(133)が出土しているが、他のピットからの出土はなかった。

【小結】堆積土の様相、遺構の形態、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代9世紀末葉～10世紀前半頃に廃絶されたものと思われる。本建物跡Pit 3から出土した炭化材1点について、炭素年代測定を行った(第6編第1章第4節参照、PLD-28328)結果、8世紀後半～9世紀後半の年代が示されているが、古木効果の可能性はある

第13号b竪穴建物跡(SI13b、図74・127)

【位置・確認】調査区北部、31-13～16グリッドに位置する。調査の結果、SI13a・13b・13cのうち2番目に新しい竪穴建物跡で、SB07(SP34・35・36)が南東側に付属する。遺構確認面の標高は37.0～37.2m、SI13aの精査中に壁溝を検出し、建物跡の存在を確認した。SI23、SK26・38、SD01と重複し、SI23、SK26・38より新しく、SD01より古い。

[平面形・規模] 改築によって壁が遺存しておらず遺構の全容は不明だが、平面形は5.4～5.7mほどの方形と推定される。建物の軸方向は南東壁にカマドがあるとすればN - 152° - Eと推定される。

[床面・壁溝] 床面は遺存していないため、その様相は不明である。壁溝は南東部分が遺存していないが、確認できた規模は、北東壁溝(2.4)m、南東壁(1.7)m、南西壁(3.0)m、北西壁溝6.7mで、南東壁溝及び南西壁溝はSI13aと共用していたものと思われる。幅は6～18cm、深さ13～18cmで、本来は壁際を全周するように巡らされていたものと思われる。

[柱穴] SI13内ではPit 1～15の15基が検出されたが、そのうちPit 5・8～10・15の5基が本竪穴建物跡に帰属するものと思われる。そのうちPit 9が支柱穴、Pit 5・8・15が壁柱穴とみられる。各ピットの規模と平面形は、支柱穴のPit 9が59×41cmの楕円形で深さ36cm、壁柱穴のPit 5が30×29cmの円形で深さ11cm、Pit 8が30×29cmの円形で深さ46cm、Pit 15が25×22cmの円形で深さ46cmである。これらのピットからは、いずれも遺物は出土しなかった。

[カマド] 調査区域内では検出されなかった。

[その他の施設] 本竪穴建物に帰属するとみられるのは、Pit 10の1基である。規模と平面形は、Pit 10が56×(14)cmの半楕円形で深さ43cmを測る。図示していないが、土師器片が少量出土した。

[堆積土] 改築によって堆積土は遺存しておらず、一部の壁溝でローム粒を主体とした埋め戻し土を確認したのみである。

[出土遺物] 本竪穴建物跡は堆積土が遺存しておらず、掘方から出土した須恵器壺の底部破片(132)が本竪穴建物跡に帰属する可能性がある。なお132は胎土分析を行っている(第6編第1章第5節参照、S-10)。

【掘立柱建物跡 - SB07】

[平面形・規模] SI13南東側で検出されたピットのうち、SP34(深さ49cm)、SP35(同59cm)、SP36(同32cm)のピット3基で構成される。桁行2間で、梁行は調査区域外に延びていて不明であるが、調査区域外にこれらに対応するピット列があるものと思われる。柱間寸法は約2.5mで、建物の軸方向はN - 153° - Eである。

[堆積土] SP36ではローム・焼土・炭化物粒を含む褐色土が堆積している。

[出土遺物] いずれのピットからも遺物の出土はなかった。

【小結】 堆積土の様相、遺構の形態、遺構の重複関係などから、平安時代9世紀後半～10世紀初頭頃に廃絶されたものと思われる。

第13号c竪穴建物跡(SI13c、図75)

【位置・確認】 調査区北部、31-14～16グリッドに位置する。調査の結果、SI13a・13b・13cのうち最も古い竪穴建物跡で、SB06(SP30・31・44)が南東側に付属する。SI13aの精査中に壁溝を検出し、建物跡の存在を確認した。SK26・38、SD01と重複し、SK26・38より新しく、SD01より古い。

[平面形・規模] 改築によって壁が遺存しておらず遺構の全容は不明だが、平面形は4.0～4.5mほどの方形と推定される。建物の軸方向は南東壁にカマドがあるとすればN - 148° - Eと推定される。

[床面・壁溝] 床面は遺存していないため、その様相は不明である。壁溝の確認できた規模は、北東壁4.4m、南東壁(0.8)m、南西壁(4.0)m、北西壁(1.3)mで、南東壁溝はSI13aと共用していたものと思

われるが、南西壁溝は検出されなかった。壁溝の幅は7～21cm、深さ19～26cmである、
[柱穴] SI13内ではPit 1～15の15基が検出されたが、本竪穴建物跡に帰属するピットは、Pit 7のみと思われる。壁溝の延長上にあることから壁柱穴と思われ、36×35cmの円形で深さ45cmを測る。遺物は出土しなかった。

[カマド] 調査区域内では検出されなかった。

[その他の施設] 特になし。

[堆積土] 改築によって堆積土は遺存しておらず、一部の壁溝でローム粒を主体とした埋め戻し土を確認したのみである。

[出土遺物] 本竪穴建物跡は堆積土が遺存しておらず、明確に本竪穴建物跡に帰属するとみられる遺物は出土していない。

【掘立柱建物跡 - SB06】

[平面形・規模] SI13南東側で検出されたピットのうち、SP30(深さ40cm)、SP31(同29cm)、SP44(同48cm)のピット3基で構成されるが、SP30とSP44の間に検出されなかったがもう1基ピットがあって桁行3間の掘立柱建物跡と考えられる。またSP31は、SB09と重複して使用されたものと思われる。梁行は調査区域外に延びていて不明であるが、調査区域外にこれらに対応するピット列があるものと思われる。柱間寸法は約1.8mで、建物の軸方向はN - 142° - Eである。

[堆積土] いずれも多く多くのローム粒を含む暗褐色土が主体となっている。

[出土遺物] いずれのピットからも遺物の出土はなかった。

【小結】 堆積土の様相、遺構の形態、遺構の重複関係などから、平安時代9世紀後半頃に廃絶されたものと思われる。

第14号竪穴建物跡(SI14、図76～79・127・128)

[位置・確認] 調査区北部、31-15・16グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.1m、第V層で確認した。

[平面形・規模] 遺構の北東部約2分の1が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、平面形は一辺約4.8mの方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、南東壁(3.5)m・深さ23～31cm、南西壁4.8m・深さ7～37cm、北西壁(0.3)m・深さ57～59cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。建物の軸方向はN - 163° - Eである。

[床面・壁溝] 床面は掘方を有し、貼床によって平坦に整えられている。壁溝は幅10～25cm、深さ4～22cmで、壁際を全周するように巡らされているようである。

[柱穴] SI14内からPit 1～6の6基が検出されている。その内、Pit 3が主柱穴、Pit 1・2・4が壁柱穴とみられる。各ピットの規模と平面形は、Pit 1が46×34cmの楕円形で深さ34cm、Pit 2が34×32cmの円形で深さ14cm、Pit 3が41×33cmの楕円形で深さ41cm、Pit 4が48×23cmの楕円形で深さ28cmである。図示していないが、Pit 1・3から土師器が各1点出土している。

[カマド] 南東壁際の南西寄りに半地下式カマドが検出され、煙道部は長さ約50cmが壁外に延び、煙道の軸方向はN - 172° - Eである。袖部は末端芯材に羽口を用いており、それに粘土を貼り付けて構築されていた。両袖端部に用いられていた羽口は縦に半割りした状態のものであったが、整理作業に

よってこれらが接合したもの(145)である。火床面は54×47cmの範囲に広がり、深さ7cmまで被熱が及んで赤色化していた。火床面の奥には支脚が2基設置されている。東側の支脚は土器を3段、西側は2段積み重ねており、高さが同じになるように調整され、ツインバーナーの如く同時併用されていたものである。東側は3点の土師器塙の底部もしくは土師器甕の体部下半の土器が逆位で重ねられており、上位が137、中位が138、下位が139であった。西側は2点の土師器甕底部が逆位で重ねられており、上位が140、下位が141であった。これら積み重ねた土器の内部には土壌が充填されていて、使用中に動かないように固定する役割と、支脚上に乗せた煮沸用具の荷重に耐える強度を保つ役割を担っているものと思われる。なお内面に充填された土壌は被熱し、赤色化するほどの熱を帯びていたことが確認できた。

カマド燃焼部周辺では構築材である粘土が不純物が少ない状態で検出されており、壊されて粘土が飛び散った状態ではなく、天井部が原形を保ったまま崩落したものと推測される。袖部の火床面側も顕著な被熱を受けており、堅緻に焼き締まっている。煙道部の堆積土は焼土を含む暗褐色土が主体となっている。

カマド火床面の手前側、東寄りの火床面直上層から炭化物がまとまって出土した。この炭化物について種実同定を行ったところ、ハイイヌガヤなどの炭化種実が検出された(第6編第1章第3節参照)。
[その他の施設] 柱穴でないピットはPit 5・6の2基で、各ピットの規模と平面形は、Pit 5が80×63cmの隅丸方形で深さ13cm、Pit 6が55×50cmの円形で深さ13cmである。また南西壁の中央部で、幅約1m奥行き約0.7mの張出部が検出された。堅穴建物床面より5cmほど低く、地山をそのまま使用した平坦な底面が作られている。堆積土の状況から別遺構ではなく、本堅穴建物跡の付属施設である。

[堆積土] 堆積土大半がローム粒を含む褐色土もしくは暗褐色土で、床面付近には黄褐色土を含む褐色土が堆積している。本建物跡の堆積土上位の第3層で火山灰が検出されたことから、火山灰分析を行ったところ白頭山苦小牧火山灰との結果を得た(第6編第1章第1節参照、灰7)。掘方は明黄褐色ローム粒が主体で、黒褐色土を少量含む土壌が用いられている。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器、羽口、鉄製品、粘土塊が出土しており、このうち土師器坏(134)・甕(135～138・140・141)・塙(139・142)、須恵器坏(143・144)、羽口(145・146)、鉄製品(147・148)を図示した。137はカマド火床面奥の左側から出土した土師器甕の底部で、カマドの支脚として使用されていた。137下から出土した2段目の支脚が138の土師器甕の底部である。138下にも3段目の支脚として土師器塙の底部破片(139)が出土している。140はカマド火床面奥の右側から出土した土師器甕の底部で、カマド支脚として使用されていた。左側と同じように、140下から2段目の支脚が出土しており、141である。140は被熱が著しく、外表面は大部分が剥落している。その他、136・142～144は床面直上から出土している。135・136の土師器甕、142の土師器塙の内面調整には刷毛目が用いられている。147は苧引金具とみられる鉄製品である。148は薄い鉄板を筒状に湾曲させた鉄製品で、側面上部に長方形の穿孔がみられる。錫杖等に用いられるとみられる。147は床面直上から出土した。

また、本堅穴建物跡の床面もしくは床面直上から多くの炭化材が出土しており、これらのうち22点について、樹種同定を行った(第6編第1章第2節参照)。

[小結] 堆積土の様相、火山灰の検出状況、遺構の形態、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時

代9世紀後葉～10世紀初頭頃に廃絶されたものと思われる。確認面付近から白頭山苦小牧火山灰が検出されたことから、白頭山苦小牧火山灰降下前に大半が埋め戻されていた建物跡と考えられる。本建物跡カマド火床面直上から出土した炭化材1点について、炭素年代測定を行った(第6編第1章第4節参照、PLD-28329)結果、9世紀後半～10世紀後半の年代が示された。

第15号竪穴建物跡(SI15、図80・81・129)

[位置・確認] 調査区中央北部、31-20・21グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.9～37.0m、第V層で確認した。SI21と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 1辺約2.1×2.6mの長方形を呈する。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁2.1m・深さ24～35cm、南東壁2.6m・深さ23～38cm、南西壁2.1m・深さ17～35cm、北西壁2.6m・深さ24～39cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。建物の軸方向はN-159°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は掘方を有し、貼床(10層)で平坦に整えられている。壁溝は検出されなかった。

[柱穴] 調査区内では検出されなかった。

[カマド] 南東壁の西寄りに検出された。カマドは粘土で構築されている(カマドI-I'7・8層)。袖部は残存高は10cmに満たず、比較的遺存状態が悪く、下部のみが残存している状態であった。芯材が用いられていたかどうかは不明である。袖の内側には被熱による赤色化が確認できた(7層)。燃焼部には34×31cmの範囲で火床面を検出した(カマドI-I'・J-J'9層)。赤色化はカマド底面から最大5cmの深さに及ぶ。火床面奥側で支脚として使用された土師器の坏(149)が逆位の状態で出土している。

煙道は半地下式である。煙道は建物外に110cm延び、軸方向はN-159°-Eで、幅は37～46cmである。燃焼部から煙出しに向かった傾斜はほとんどみられない。煙道部の壁は、カマド袖部から連続して粘土で構築されていたとみられるが、排煙部付近に部分的に粘土が残存しているのみであった。

[その他の施設] Pit 1～3の3基が検出された。各ピットの規模と平面形は、Pit 1が30×29cmの円形で深さ7cm、Pit 2が32×23cmの楕円形で深さ17cm、Pit 3が32×28cmの楕円形で深さ19cmである。いずれも浅いことから、柱穴とは断定しがたい。遺物は出土していない。また、SK 1～4の4基が検出された。SK 1は57×50cmのほぼ円形で深さ10cm、SK 2は71×62cmのやや不整な楕円形で深さ44cm、SK 3は130×119cmの楕円形で深さ52cm、SK 4は62×(35)cmの楕円形で深さ48cmである。SK 2はSK 3より新しく、SK 3はSK 4より新しい。いずれも機能は不明である。SK 1・2・3から土師器が少量出土しており、SK 3から出土した土師器甕(151)を図示した。

[堆積土] 1～9層が建物堆積土である。ロームブロックが混入する暗褐色土と褐色土が互層状に堆積しており、人為的に埋め戻されたとみられる。10層は貼床である。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器、羽口が出土している。このうち、土師器坏(149)・小甕(150)・甕(151・152)、須恵器長頸壺(153)を図示した。149はカマド火床面の奥側で出土しており、カマドの支脚として使用されていた土師器の坏である。逆位で設置されていた。152は建物内に散在した遺物が接合した土師器甕で、床面直上やカマド周辺、カマド袖、SI15SK 1、SI15SK 2から出土した遺物の他、隣接するSK18から出土した遺物とも接合している。153は須恵器の長頸壺の頸部破片で、外面にしぼり痕が認められる。また、外面に刻書もみられる。

[小結] 出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、10世紀前半頃までに廃絶されたものと思われる。

第16号竪穴建物跡(SI16、図82・83・129・130)

[位置・確認] 調査区中央、31-23・24グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.7~36.8m、第V層で確認した。SK34・35と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 1辺約3.5mの方形を呈する。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁3.7m・深さ43~59cm、南東壁3.4m・深さ45~51cm、南西壁3.6m・深さ17~37cm、北西壁3.3m・深さ47~57cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。建物の軸方向はN-113°-Wである。

[床面・壁溝] 床面は掘方を有し、貼床(8層)によって平坦に整えられている。壁溝は幅16~33cm、深さ4~16cmである。ほぼ壁際を全周するように巡らされているが、北東壁の南寄り部分のみ確認できなかった。この部分が出入り口として使用されていた可能性もあるが、床面が特に硬化するなどの特徴は確認できなかった。

[柱穴] Pit 1・2・5~13のピット11基(Pit 3・4は欠番)を検出した。このうち、壁溝の四隅とその中間にあるPit 5・7~9・11~13の7基が本竪穴建物跡に伴う主柱穴と思われる。主柱穴の各ピットの規模と平面形は、Pit 5は26×(23)cmのほぼ円形、深さ31cm、Pit 7は36×32cmの円形、深さ30cm、Pit 8は38×34cmの円形、深さ30cm、Pit 9は28×17cmの楕円形、深さ27cm、Pit 11は26×21cmの楕円形、深さ28cm、Pit 12は31×24cmの楕円形、深さ42cm、Pit 13は37×17cmの長楕円形、深さ31cmである。建物の中央やや南西寄りにあるPit 10は、主柱穴とみられるPit 1、Pit 13と柱筋が並ぶことから主柱穴とも考えられるが、深さが14cmとやや浅めである。Pit 1はPit 5の造り替えの可能性もある。Pit 1から土師器と須恵器、Pit 2・7から土師器がそれぞれごく少量出土している。

[カマド] 南西壁の南寄りに検出された。カマドは粘土で構築されている(カマドH-H' 5~7層)。袖部は比較的良好に遺存し、カマド底面から24cmの高さまで残存した。芯材は確認できなかった。袖の内側には被熱による赤色化が確認でき(5・6層)、内側(5層)は著しく被熱し、硬化していた。燃烧部には42×34cmの範囲で火床面を検出した(カマドG-G'・H-H' 8層)。赤色化はカマド底面から最大4cmの深さに及ぶ。火床面奥側で支脚として使用された土師器の甕底部(157)が逆位で出土している。煙道は半地下式で、調査区域外へ延びているため本来の長さは不明である。調査区内で確認した長さは(90)cmである。軸方向はN-113°-W、幅は39~57cmである。燃烧部から煙出しに向かって、緩やかな傾斜で立ち上がっているが、調査区壁際でやや下る様相が確認できることから、排煙部が若干低く造られている可能性がある。煙道部の壁は、カマド袖部から連続して粘土で構築されている。カマドと煙道の壁や天井部は崩落しており、内側は被熱により赤色化している(カマドG-G'・H-H' 2・3層)。

[その他の施設] 調査区域内では検出されなかった。

[堆積土] 1~6層は建物堆積土である。にぶい黄褐色~黒褐色土を基調とし、全体的にロームが一定量混入することから、人為的に埋め戻されたとみられる。8層は貼床である。堆積土には自然堆積層が認められないことから、廃絶後速やかに埋め戻されたものと推測される。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器、羽口、土製品、石器が出土している。このうち、土師器坏

(154)・小甕(155・158)・甕(156・157)、須恵器坏(159～161)・壺(162)、土玉(163)、縄文土器壺(164)・鉢(166)、石錐? (165)・石鏃(167)を図示した。157はカマド火床面の奥側で出土しており、カマドの支脚として使用されていた土師器の甕で、外面が被熱している。158は土師器小甕の底部で、SK34から出土した遺物と接合している。154と156は、それぞれ土師器の坏と甕で、建物堆積土から出土した遺物とPit 1、Pit 7から出土した遺物と接合している。159～161・164は床面直上から出土した遺物で、このうち須恵器の坏である160と161は、それぞれ体部外面と底外面に刻書がみられる。162は須恵器の壺で、胎土分析を行っている(第6編第1章第5節参照、S-11)。166と167は貼床出土である。
[小結] 出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相等から、10世紀前半頃までに廃絶されたものと思われる。

第17号竪穴建物跡(SI17、図84～86・130・131)

[位置・確認] 調査区中央、31-25・26グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.4～36.7m、第V層で確認した。SK20・23、SV03と重複し、本遺構はSK20・23より古く、SV03より新しい。

[平面形・規模] 遺構の南東側が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、南東壁(1.9)m・深さ50～52cm、南西壁(4.6)m・深さ33～34cm、北西壁(4.4)m・深さ35～46cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。建物の軸方向はN-154°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は掘方を有し、貼床(16層)によって平坦に整えられている。壁溝は幅14～23cm、深さ7～16cmで、北西壁と南西壁では確認できたが、カマドがある南東壁では確認できなかった。

[柱穴] Pit 1～3の3基を検出したが、支柱穴は不明である。各ピットの規模と平面形は、Pit 1は27×25cmのほぼ円形で深さ16cm、Pit 2は23×16cmの楕円形で深さ10cm、Pit 3は(43)×43cmの円形で深さ36cmである。Pit 3は柱痕が確認でき、カマド右袖脇で検出された。Pit 1から土師器破片1点が出土している。

[カマド] 南西壁の西寄りに検出された。重複する遺構SK23により、左側の袖と煙道の一部が壊されている。カマド袖は粘土で構築されており(カマドK-K'5層)、袖部の残存高は13cm程度と遺存状態が悪く、下部のみが残存している状態であった。芯材が用いられていたかどうかは不明である。袖の内側では、被熱による赤色化がほとんど確認できなかった。燃焼部には34×31cmの範囲で火床面を検出した(カマドJ-J'・K-K'7層)。赤色化はカマド底面から最大10cmの深さに及ぶ。支脚と推定できる遺物は認められなかった。煙道は半地下式で、建物外に約63cmまで延び、軸方向はN-158°-Eである。幅は46～64cmである。燃焼部から煙出しに向かって、緩やかな傾斜で立ち上がっている。煙道部の壁は、カマド袖部から連続して粘土で構築されている。カマドと煙道の壁や天井部は崩落しており、袖部と同じく、内側に被熱の痕跡は認められなかった。

[その他の施設] SK 4基が検出された(SK 1～4)。SK 1は57×50cmのほぼ円形で深さ36cm、SK 2は126×113cmのやや不整な円形で深さ40cm、SK 3は71×58cmの楕円形で深さ28cm、SK 4は60×54cmの円形で深さ18cmである。SK 4は黒褐色土を基調とし、その他のSK 1～3は黄褐色土を基調とする堆積が確認できた。いずれもロームの混入が確認でき、人為的に埋め戻されている。SK 1から土師器と須恵器、SK 2から土師器と縄文土器、SK 4から須恵器がごく少量出土している。いずれも機能は

不明である。

[堆積土] 1～15層は建物堆積土である。黒褐色土または暗褐色土を基調とし、全体的にロームが一定量混入することから、人為的に埋め戻されたとみられる。16層は貼床である。堆積土には自然堆積層が認められないことから、廃絶後速やかに埋め戻されたものと推測される。

北西壁の西寄りの場所で、焼土混じりの粘土が広がる状況を確認した。粘土は約140×110cmの範囲で広がり、建物内上部から床面まで厚く堆積していた。カマドに関連する堆積を想定して調査を行ったが、カマドに伴う施設は確認できなかった。遺物が比較的多く出土した。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器、土製品、石器が出土している。このうち、土師器坏(168・169)・鉢(170)・甕(171～175)・埴(176)、須恵器坏(177 a～178)・壺(179)、土玉(180)・土錘(181)、砥石(182)、縄文土器鉢(183)を図示した。174・175・176・179はカマドおよびカマド周辺から出土した遺物である。179は須恵器の壺で、胎土分析を行っている(第6編第1章第5節参照、S-12)。また、SI19から出土した195(図132)と、接合はしないが同一個体とみられる。170・172・173・182は建物内の北西側で確認した粘土範囲およびその周辺から出土した遺物である。170は、厚手で器高が低く、体部から口縁部にかけて内湾した器形の鉢状製品である。外面に指オサエ痕が残る。

[小結] 出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相から、10世紀前半頃までに廃絶されたものと思われる。

第18号竪穴建物跡(SI18、図87・131・132)

[位置・確認] 調査区中央、31-27・28グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.5～36.6m、第V層で確認した。SI19、SK37、SP96・131と重複し、いずれの遺構よりも本遺構が新しい。

[平面形・規模] 1辺が約2.4mの方形を呈する。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁2.2m・深さ12～28cm、南東壁2.2m・深さ13～19cm、南西壁2.4m・深さ13～26cm、北西壁2.6m・深さ26～30cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。建物の軸方向はN-146°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は掘方を有し、貼床(5層)によって平坦に整えられている。壁溝は幅14～22cm、深さ13～20cmで、北西壁際のみで検出された。

[柱穴] 検出されなかった。

[カマド] 南東壁の西寄りに検出された。カマドは粘土で構築されている(カマドD-D'7・8層)。袖部の残存高は約13cmで、比較的遺存状態が悪く、下部のみが残存している状態であった。芯材が用いられていたかどうかは不明である。袖の内側には被熱による赤色化がわずかに確認できた(8層)。燃焼部には28×27cmの範囲で火床面を検出した(カマドC-C'・D-D'6層)。赤色化はカマド底面から最大5cmの深さに及ぶ。支脚と推定できる遺物は認められなかった。煙道は半地下式である。煙道の軸方向はN-150°-Eで、建物外に40cm延びる。幅は約45cmである。燃焼部から煙出しに向かったの傾斜はほとんどみられない。煙道部の壁は、カマド袖部から連続して粘土で構築されていたとみられるが、ほとんど残存していなかった。2層は壁あるいは天井の崩落土である。カマド火床面から出土した炭化材1点について樹種同定を行った(第6編第1章第2節参照)。

[その他の施設] 調査区域内では検出されなかった。

[堆積土] 1～4層は建物堆積土である。暗褐色土を基調とし、全体的にロームが一定量混入するこ

とから、人為的に埋め戻されたとみられる。5層は貼床で、地山の黄褐色を基調としている。堆積土には自然堆積層が認められないことから、廃絶後早い段階で埋め戻されたと推測される。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器、土製品、石器が出土している。このうち、土師器坏(184・185)・小甕(186)・甕(187)、須恵器甕(188)・小鉢(189)、勾玉(190)、砥石(191)を図示した。191が床面直上から、その他は堆積土からの出土である。187は土師器甕の底部で、外面に被熱痕がみられる。189は須恵器の鉢で、外面の口縁部に刻書状の刻痕があるが、残存部が僅かであるため刻書かどうかは判別できない。188は、内面に鳥足状のあて具痕が残る須恵器甕の体部破片で、胎土分析を行っている(第6編第1章第5節参照、S-13)。

[小結] 出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、10世紀前半頃までに廃絶されたものと思われる。カマド火床面直上から出土した炭化物について炭素年代測定を行った(第6編第1章第4節参照、PLD-28330)結果、9世紀後半～10世紀後半の年代が示されている。

第19号竪穴建物跡(SI19、図88・132)

[位置・確認] 調査区中央、31-27・28グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.5m、第IV層で確認した。SI18、SP116と重複し、本遺構はSI18より古く、SP116より新しい。

[平面形・規模] 遺構の大半が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁(3.0)m・深さ36～38cm、南東壁(2.5)m・深さ27～34cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。建物の軸方向はN-142°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は掘方を有し、貼床(12層)によって平坦に整えられている。壁溝は幅13～18cm、深さ9～13cmで、壁際を全周するように巡らされているとみられるが、カマド部分は途切れているようである。

[柱穴] 調査区域内では検出されなかった。

[カマド] 南東壁の西寄り、調査区壁際でカマド左袖とみられる粘土範囲と煙道の一部が検出された。袖部とみられる粘土範囲が確認できたことから、カマドは粘土で構築されていたとみられるが、残存部が少なく詳細は不明である。粘土部分に被熱痕は確認できなかった。火床面は、調査区域内では検出されなかった。煙道は半地下式である。煙道の軸方向はN-154°-Eで、建物外に100cm延びる。燃烧部から煙出しに向かっては、緩やかな傾斜で立ち上がっている。煙道部で確認した粘土が残存する様相から、煙道部の壁は、カマド袖部から連続して粘土で構築されていたとみられるが、残存していなかった。

[その他の施設] SI19内からSK1基(SK1)とPit2基(Pit1・2)が検出された。SK1は120×(60)cmの半楕円形、深さ28cmで、人為的に埋め戻されている。機能は不明である。Pit1は43×32cmの不整な楕円形で深さ41cm、Pit2は43×17cmの半円形で深さ59cmの規模である。Pit1はSI19掘方掘削後に検出したことから、SI19より古い時期の別遺構の可能性もある。Pit2もカマド袖下から検出しており、古い段階あるいは別遺構の可能性もある。

[堆積土] 1～11層は建物堆積土、12層は貼床である。上位は暗褐色土、下位は褐色または黄褐色土を基調とし、全体的にロームが混入する。人為的に埋め戻されたとみられる。貼床は地山の黄褐色を基

調としている。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器が出土している。このうち、土師器坏(192)・甕(193)、須恵器壺(194・195)を図示した。192は内面に黒色処理を施した土師器坏で、堆積土から出土した。194・195は床面直上から出土した須恵器壺で、195は胎土分析を行っている(第6編第1章第5節参照、S-14)。また、SI17から出土した179(図131)と、接合はしないが同一個体とみられる。

[小結] 出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、9世紀後葉～10世紀初頭頃までに廃絶されたものと思われる。

第20号竪穴建物跡(SI20、図89・90・132・133)

[位置・確認] 調査区中央北部、31-20・21グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.8～36.9m、第V層で確認した。SI21、SK32と重複し、本遺構はSI21より新しく、SK32より古い。

[平面形・規模] 遺構の南西側が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁2.1m・深さ24～36cm、南東壁(2.1)m・深さ23～39cm、北西壁(1.8)m・深さ25～43cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。建物の軸方向はN-164°-Eである。

[床面・壁溝] 検出された床面は概ね地山をそのまま床面として使用していた。壁溝は検出されなかった。

[柱穴] 調査区域内では検出されなかった。

[カマド] 南東壁の西寄りに検出された。右袖の一部が調査区域外にある。カマドは粘土のみで構築されており、芯材は用いられていない(カマドE-E'1～3層)。袖部の残存高は約18cmで、比較的遺存状態は良い状態であった。袖の内側には被熱による赤色化が確認できた(2層)。燃焼部には39×34cmの範囲で火床面を検出した(カマドD-D'9層)。赤色化はカマド底面から最大3cmの深さに及ぶ。火床面奥側で支脚として使用された土師器の坏(196)が逆位で出土している。煙道は半地下式である。煙道の軸方向はN-161°-Eで、建物外に43cm延びる。幅は約40～45cmである。燃焼部から煙出しに向かって、緩やかな傾斜で立ち上がる。煙道部の壁は、カマド袖部から連続して粘土で構築されていたとみられる。

[その他の施設] SK1基が検出された。SK1は133×116cmの歪な楕円形、深さ34cmの規模である。

[堆積土] 1～12層は建物堆積土、13層は貼床である。暗褐色土や黒褐色土を基調とし、全体的にロームが一定量混入する。人為的に埋め戻されたとみられる。貼床は地山の黄褐色を基調としている。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器が出土している。このうち、土師器坏(196～198)・小甕(199)・甕(200～202)、小鉢(203)・埴(204)を図示した。196はカマド火床面の奥側で出土し、カマドの支脚として逆位で設置されていた土師器の坏である。外面が被熱している。201は煙道から出土した土師器甕の底部である。203は貼床から出土した土師器で、主に外面は指オサエ、内面はナデで整形した製品である。本遺構から出土した遺物では器形は不明瞭であるが、SK17から出土している282(図141)と、接合はしないが同一個体と思われ、282の器形から小鉢状の製品であったとみられる。

[小結] 堆積土の様相、遺構の形態、遺構の重複関係、出土遺物などから、10世紀前半頃までに廃絶されたものと思われる。

第21号竪穴建物跡(SI21、図90・133)

[位置・確認] 調査区中央北部、31-21グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.8~36.9m、第V層で確認した。SI20・21、SK18、SP43と重複し、いずれの遺構よりも本遺構が古い。

[平面形・規模] 他遺構との重複等によって壊されており、遺構の全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁2.1m・深さ47~58cm、南東壁(0.9)m・深さ45~47cm、南西壁(0.9)m・深さ46~50cm、北西壁2.4m・深さ51~58cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。南東壁にカマドがあるとすれば、建物の軸方向はN-156°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は掘方を有し、貼床(16層)で平坦に整えられている。壁溝は検出されなかった。

[柱穴・カマド等] 調査区域内では検出されなかった。

[堆積土] 全体的にロームを含む黒褐色土及び暗褐色土を基調としており、人為的に埋め戻されたとみられる。掘方は地山の黄褐色土を基調とする。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器、粘土塊が出土している。このうち、土師器坏(205)・甕(206・207)を図示した。

[小結] 出土遺物、遺構の重複関係、堆積土の様相などから、9世紀後葉~10世紀初頭頃までに廃絶されたものと思われる。

第22号竪穴建物跡(SI22、図91)

[位置・確認] 調査区北部、31-12・13グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.0~37.2m、第IV層で確認した。SI26、SK39・41・44・45、SD01と重複し、これらのいずれよりも本遺構が新しい。また、SP83・84・87・104より古く、SP128・129より新しい。本竪穴建物跡の北東側に約1.7~2.1m離れて平行するようにSD02a・02bが位置しており、付属する外周溝の可能性がある。

[平面形・規模] 遺構の南東側が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁(3.7)m・深さ11~17cm、南西壁(1.8)m・深さ2~7cm、北西壁(3.7)m・深さ5~12cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。南東壁にカマドがあるとすれば、建物の軸方向はN-146°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は掘方(貼床)がないため、SI26やSD09など他遺構と重複し沈み込んだ部分の床面のみが検出されている。壁溝は幅15~32cm、深さ14~28cmで、壁際を全周するように巡らされているようである。

[柱穴] SI22内からPit 7基が検出されたが、柱穴とみられるのは北隅で検出されたPit 7のみで、32×18cmの不整楕円形で、深さ28cmである。

[カマド] 調査区域内では検出されなかった。

[その他の施設] SI22内からピット 7基が検出され、柱穴と断定できないのはPit 1~6の6基である。各ピットの規模と平面形は、Pit 1が(49)×36cmの楕円形で深さ30cm、Pit 2が27×19cmの歪な円形で深さ24cm、Pit 3が35×23cmの歪な楕円形で深さ30cm、Pit 4が(36)×29cmの隅丸方形で深さ31cm、Pit 5が37×36cmの円形で深さ27cm、Pit 6が41×33cmの隅丸方形で深さ31cmである。また、位置的にSK39が本竪穴建物跡に伴う施設である可能性がある。

[堆積土] 中央部付近には粘土粒を含む褐灰色土が堆積しているが、他は全体的にローム粒を微量含む黒褐色土が主として堆積している。

[出土遺物] 土師器と須恵器、縄文土器がごく少量出土しているが、図示していない。

[小結] 堆積土の様相、遺構の形態、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代10世紀前半頃には廃絶されたものと思われる。

第23号竪穴建物跡(SI23、図92)

[位置・確認] 調査区北部、31-14・15グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.7~36.9m、SI13床面を除去し掘方の精査中に、本竪穴建物跡の壁溝と掘方を検出した。SI13と重複し、本遺構より新しい。

[平面形・規模] 重複によって壁溝と掘方みの検出で、かつ北側約4分の3が調査区外に延びているため遺構の全容は不明だが、平面形は方形と推定される。南東壁にカマドがあるとすれば、建物の軸方向はN-142°-Eである。

[床面・壁溝] 他遺構の重複により床面は検出されなかった。壁溝は幅18~24cm、深さ3~17cmで、壁際を全周するように巡らされているようである。

[柱穴] 南東壁際でPit 1が検出され、主柱穴の可能性はある。Pit 1は50×44cmの歪な円形で、深さ36cmの規模である。Pit 1から土師器と縄文土器、粘土塊がごく少量出土しているが、図示していない。

[カマド・その他の施設] 調査区域内では検出されなかった。

[堆積土] 壁溝にはローム粒・炭化物を含む黄褐色土が堆積し、掘方には黄褐色土を含む暗褐色土が堆積している。

[出土遺物] 上記Pit 1から出土した遺物のみである。

[小結] 遺構の形態、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代10世紀前半頃に廃絶されたものと思われる。

第24号竪穴建物跡(SI24、SD07a・07b・08、図92・133・134)

[位置・確認] 調査区北部中央、31-9~11グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.2~37.3m、第IV層で確認した。本竪穴建物跡の北東側にSD07a・07b、北西側にSD08が検出されており、位置的に本竪穴建物跡に伴う外周溝と考えられる。

[平面形・規模] 遺構の南側約3分の2が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁(2.7)m・深さ3~10cm、北西壁(2.9)m・深さ6~9cmを測る。いずれの壁も垂直に近い立ち上がりを見せている。南東壁にカマドがあるとすれば、建物の軸方向はN-134°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は掘方を有し、貼床によって平坦に整えられている。壁溝は幅28~40cm、深さ17~28cmで、壁際を全周するように巡らされているようである。

[柱穴・カマド] 調査区域内では検出されなかった。

[その他の施設] 竪穴建物跡中央付近にあたる、調査区壁際でPit 1が検出された。Pit 1は17×8cmの円形とみられ、深さ28cmの規模である。遺物は出土していない。

[堆積土] 上位にはローム粒を含む黒褐色土が堆積し、掘方には暗褐色土が堆積している。

[出土遺物] 建物本体から土師器と石器が出土している。このうち、壁溝から出土した砥石(208)を図示した。土師器は破片が4点出土しているが、図示していない。

【外周溝－第7号a・b溝跡(SD07a・07b)】

[位置・確認] 調査区北部中央、31-10・11グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.2m、第IV層で確認した。SI24北東壁から約1.3m離れて平行する、断続的に検出された弧状溝跡2条からなり、南東側をSD07a、北西側をSD07bとして調査を行った。

[平面形・規模・底面] 南東側が調査区外に延びていて遺構の全容は不明である。SD07aの確認できた長さは(1.5)m、幅は40～57cm、確認面からの深さは20～44cmである。地山をそのまま底面としており、断面形は上部が開くコ字状をなす。北西端と南東端では、溝底面の比高差は約20cmあり、南東側に傾斜して構築されている。SD07bで確認できた長さは(1.5)m、幅は31～34cm、確認面からの深さは10～33cmである。地山をそのまま底面としており、断面形は上部が開くコ字状をなす。SD07aの北西端とSD07bの南東端はいずれも緩やかに立ち上がっており、同一軸線上にあることから、本来は浅い溝でつながっていた可能性がある。

[堆積土] SD07aはローム粒を含んだ黒色土及び黒褐色土が堆積し、底面にはローム粒・暗褐色土を含んだ浅黄橙色土が堆積している。SD07bの上位にはローム粒を含む黒色土、下位には黒褐色土を含む黄橙色土が堆積している。いずれも粒径の大きなロームや粘土等が混入しており、人為的に埋め戻されたものとみられる。

[出土遺物] SD07aから土師器7点が出土している。このうち、土師器甕(209・210)・埴(211)を図示した。

【外周溝－第8号溝跡(SD08)】

[位置・確認] 調査区北部中央、31-9グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.2m、第IV層で確認した。SI24北西壁から約1.5m離れて平行する溝跡である。

[平面形・規模・底面] 南西部が調査区域外にあって、かつ北東側が自然に立ち上がっているため遺構の全容は不明だが、確認できた長さは(2.8)m、幅は46～68cm、確認面からの深さは23～39cmである。底面は平らに整えており、断面形はコ字状をなすが、北西側壁は上部が開いて立ち上がる。

[堆積土] 上位はローム粒を含む黒色土が堆積し、下位には黒褐色土を含む黄橙色ロームブロック主体土が堆積している。下位は廃絶後に埋め戻された可能性もあるが、溝が機能する前の掘方である可能性もある。

[出土遺物] 遺物は出土していない。

【小結】 北西側と北東側に断続的な外周溝を有する竪穴建物跡で、堆積土の様相、遺構の形態、出土遺物などから、平安時代10世紀前半頃に廃絶されたものと思われる。

第25号竪穴建物跡(SI25→SI22)

[位置・確認] 調査区北部の31-12・13グリッドにおいて、調査時はSI25と想定していた竪穴建物跡であったが、SI22と同一であることが判明したためSI22に名称を変更し、そちらで報告している。なお本竪穴建物跡で検出されたPit 1・2・3は、それぞれSI22Pit 4・5・6に改称している。

第26号竪穴建物跡(SI26、図93・134)

[位置・確認] 調査区北部、31-12グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.1m、第IV層で確認した。SI22、SK39・41・44・45、SP104・128・129と重複し、SK44・45より本遺構が新しく、SI22、SK39・41、SP104・128・129より本遺構が古い。本竪穴建物跡の北東側に約1.5～1.8m離れて平行するようにSD02a・02bが位置しており、付属する外周溝の可能性はある。

[平面形・規模] 他遺構との重複等によって壊されており、不明な点が多い。また、遺構の大半が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁(3.1)m・深さ3～8cm、南西壁(1.7)m・深さ8～15cm、北西壁2.6m・深さ3～11cmを測る。いずれの壁も丸みを帯びながら湾曲して立ち上がる。南東壁にカマドがあるとすれば、建物の軸方向はN-140°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は掘方を有し、貼床で概ね平坦に整えられている。壁溝は検出されなかった。

[柱穴] 調査区域内では検出されなかった。

[カマド] 調査区域内では検出されなかったが、調査区南壁の西寄りに深さ2cmまで被熱が及んで赤色化した20×18cmの火床面が検出されたことから、カマドが存在していた可能性がある。他の竪穴建物跡では南東壁にカマドが作られるものが多いことから、調査区域外の南東壁にカマドが作られている可能性が高い。

[その他の施設] SI26内からは、Pit 1～4のピット4基が検出された。各ピットの規模と平面形は、Pit 1が43×33cmの隅丸方形で深さ23cm、Pit 2が32×(15)cmの円形で深さ15cm、Pit 3が31×30cmの円形で深さ15cm、Pit 4が19×15cmの楕円形で深さ13cmである。図示していないが、Pit 1から土師器5点が出土している。また、位置的にSK45が本竪穴建物跡に伴う施設である可能性がある。西側には南西壁に沿うようにSD09が位置しており、この溝跡も本竪穴建物跡と何らかの関連性が想定されるが、断定できない。

[堆積土] ローム粒・炭化物を含んだ黒褐色土及び暗褐色土が堆積し、貼床及び掘方には黒褐色土が堆積している。

[出土遺物] 土師器と縄文土器が出土している。このうち、土師器坏(212)・甕(213～215)・小甕(216)、縄文土器浅鉢(217)・鉢(218)を図示した。212は台部とみられる。このうち、212・213・217はSI22に属する遺物の可能性もある。

[小結] 堆積土の様相、遺構の形態、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代9世紀後半～10世紀前半頃に廃絶されたものと思われる。

2 掘立柱建物跡・柱穴

農道31号では、柱穴が133基検出され、そのうち44基は掘立柱建物跡10棟を構成するものと考えられる。したがって掘立柱建物跡や竪穴建物跡と関係性のない単独の柱穴は89基ある。各柱穴の位置は図49の遺構配置図や図94～102等に、計測値等は表4に示した。

竪穴建物跡に付属することが明らかとなった掘立柱建物跡は、それぞれの竪穴建物跡に記載している。ここでは単独の掘立柱建物跡、もしくは主屋の竪穴建物跡が検出されていない掘立柱建物跡5棟について記載していく。

表4 農道31号 柱穴計測表

SP 番号	図版番号	グリッド	標高 (m)	規模(cm)			備考
				長さ	幅	深さ	
SP01	図99	N31-34	36.3	38	33	29	
SP02	図99	N31-33	36.3	42	38	31	
SP03	図99	N31-33	36.3	42	38	37	
SP04	図51・99	N31-33	36.3	50	47	41	
SP05	図51	N31-33	36.3	40	33	52	SB02を構成するピット。
SP06	図51・99	N31-32・33	36.3	38	31	30	柱痕あり。
SP07	図94	N31-36	36.1	82	70	81	SB01を構成するピット。SK10より新しい。柱痕あり。
SP08	図94	N31-36	36.1	76	75	79	SB01を構成するピット。柱痕あり。縄文後期土器深鉢片出土。
SP09	図94	N31-36	36.1	67	66	69	柱痕あり。縄文後期～晩期土器深鉢片出土。SK05・10とともに掘立柱建物跡？
SP10	図94	N31-37	36.1	81	78	108	SB01を構成するピット。柱痕あり。
SP11	図95	N31-29・30	36.4	48	(40)	71	SB03を構成するピット。柱痕あり。
SP12	図94	N31-36・37	36.1	86	83	113	SB01を構成するピット。柱痕あり。
SP13	図94	N31-36・37	36.1	(90)	(46)	91	SB01を構成するピット。SK03より新しい。柱痕あり。縄文後期土器鉢片(図135-219)出土。
SP14	図51	N31-32	36.2	36	32	36	SB02を構成するピット。
SP15	図51・99	N31-32	36.3	43	36	26	土師器甕(図135-221)、須恵器甕片出土。
SP16	図51	N31-32	36.2	30	29	64	SB02を構成するピット。
SP17	図51	N31-33	36.3	31	31	67	SB02を構成するピット。
SP18	図99	N31-41	35.7	39	38	13	須恵器甕片出土。SI07a・07bより新しい。
SP19	図51	N31-32	36.2	68	50	56	SB02を構成するピット。
SP20	図95	N31-29	36.4	54	50	73	SB03を構成するピット。SI04より新しい。柱痕あり。縄文中・後・晩期土器片出土。
SP21	図99	N31-38	35.8	24	23	34	磨製石斧(図135-222)出土。
SP22	図51	N31-32	36.2	32	22	37	SB02を構成するピット。
SP23	図51・99	N31-32	36.2	23	22	34	
SP24	図99	N31-33	36.3	26	24	24	
SP25	図97	N31-18	37.0	34	29	40	SB05を構成するピット。柱痕あり。
SP26	図99	N31-17	37.0	41	30	49	
SP27	図99	N31-17	37.0	31	27	25	SP28より新しい。
SP28	図97	N31-17	37.0	(32)	32	54	SB05を構成するピット。SP27より古い。
SP29	図99	N31-17	37.0	42	29	44	土師器甕片出土。
SP30	図75	N31-16	37.1	41	34	40	SB06を構成するピット。
SP31	図71・73・75	N31-17	37.0	54	(34)	29	SB06・09を構成するピット。2時期あってSP34の前後に使用。
SP32	図71・73・99	N31-16	37.0	48	41	58	SB09を構成するピット。
SP33	図71・73	N31-16	37.1	(44)	30	41	SB09を構成するピット。SP36より新しい。土師器甕(図127-133)出土。
SP34	図74	N31-17	37.0	35	29	49	SB07を構成するピット。2時期あるSP31の中間期に使用。
SP35	図74	N31-16	37.0	48	31	59	SB07を構成するピット。
SP36	図74	N31-16	37.1	30	(16)	32	SB07を構成するピット。SP33より古い。
SP37	図97	N31-17	37.1	37	(31)	35	SB05を構成するピット。
SP38	図71・73・74・75・99	N31-16	37.0	27	22	39	
SP39	図99	N31-45	35.3	43	31	22	
SP40	図99	N31-45	35.3	32	26	12	
SP41	図99	N31-45	35.3	33	25	17	
SP42	図99・105	N31-38	35.5	33	29	42	SK12より古い。
SP43	図90・99	N31-21	36.9	33	32	37	SI21より新しい。
SP44	図75	N31-16	37.0	43	37	48	SB06を構成するピット。
SP45	図99	N31-44	35.4	78	77	33	
SP46	図100	N31-44	35.4	64	64	22	
SP47	図100	N31-24	36.7	39	39	20	
SP48	図59・62・100	N31-41	35.7	28	25	42	
SP49	図59・62・100	N31-41	35.7	27	25	20	
SP50	図59・62・100	N31-41	35.7	28	26	21	
SP51	図59・62・100	N31-41	35.7	31	24	31	土師器甕(図135-223)、須恵器甕(図135-224・225)出土。
SP52	図59・62・100	N31-41	35.7	31	26	40	
SP53	図59・62・100	N31-42	35.7	26	24	31	
SP54	図97	N31-13	37.2	28	22	42	SB08を構成するピット。SD02bより新しい。土師器甕(図135-220)、須恵器壺片出土。
SP55	図97	N31-13	37.2	32	31	39	SB08を構成するピット。
SP56	図100	N31-13	37.2	22	21	49	土師器甕片出土。
SP57	図97	N31-13	37.1	30	26	33	SB08を構成するピット。土師器甕片、縄文中期(円上b)土器深鉢片出土。
SP58	図100	N31-13	37.2	22	18	18	
SP59	図100	N31-13	37.2	23	22	25	
SP60	図100	N31-13	37.1	26	(11)	12	SP64より古い。
SP61	図100	N31-28	36.5	36	33	25	SP62より新しい。縄文土器片出土。

SP 番号	図版番号	グリッド	標高 (m)	規模(cm)			備考
				長さ	幅	深さ	
SP62	図96	N31-28	36.5	(103)	85	97	SB04を構成するピット。SK31、SP61より古い。柱痕あり。
SP63	図100	N31-28	36.5	39	35	29	土師器坏(図135-226)出土。
SP64	図97	N31-13	37.2	33	27	51	SB08を構成するピット。SP60より新しい。
SP65	図100	N31-16	37.0	(28)	25	31	SK28より古い。土師器甕片出土。
SP66	図63	N31-42	35.6	28	24	12	
SP67	図63	N31-42	35.6	24	20	23	
SP68	図100	N31-40	35.7	22	22	23	
SP69	図59・62	N31-41	35.7	29	24	19	
SP70	図63	N31-42	35.6	23	21	33	
SP71	-	-	-	-	-	-	欠番
SP72	図100	N31-27	36.6	29	28	21	
SP73	図100	N31-27	35.6	36	26	18	
SP74	図98	N31-4	37.3	28	22	51	SB10を構成するピット。
SP75	図98	N31-3	37.5	37	33	54	SB10を構成するピット。柱痕あり。
SP76	図98	N31-3	37.5	29	22	16	
SP77	図98	N31-3	37.5	24	23	18	
SP78	図100	N31-1	37.7	26	22	28	
SP79	図101	N31-13	37.2	32	28	10	
SP80	図101	N31-13	37.2	45	35	46	
SP81	図101	N31-12	37.2	25	18	27	
SP82	図101	N31-12	37.2	23	22	10	
SP83	図101	N31-12	37.1	28	19	21	
SP84	図101	N31-12	37.2	36	35	10	SI22・26より新しい。
SP85	図80	N31-20	36.9	29	27	38	
SP86	図101	N31-12	37.2	32	27	18	
SP87	図101	N31-12	37.1	24	16	16	SI22、SK39より新しい。須恵器甕片出土。
SP88	図101	N31-12	37.2	26	21	26	
SP89	図101	N31-12	37.2	22	18	23	
SP90	図101	N31-12	37.2	29	22	30	須恵器片出土。
SP91	図101	N31-12	37.2	44	40	31	土師器甕片出土。
SP92	図101	N31-11・12	37.1	33	30	17	
SP93	図101	N31-22	36.9	34	30	18	
SP94	図101	N31-25	36.7	41	32	17	
SP95	図101	N31-28	36.5	54	47	27	
SP96	図96	N31-28	36.4	71	69	99	SB04を構成するピット。SI18より古い。柱痕あり。
SP97	図96	N31-28	36.3	(71)	(38)	79	SB04を構成するピット。柱痕あり。縄文後期土器深鉢片出土。
SP98	-	-	-	-	-	-	欠番
SP99	図101	N31-26	36.6	25	24	29	
SP100	図101	N31-27	36.6	22	20	22	
SP101	図101	N31-10	37.2	39	33	32	土師器甕片出土。柱痕あり。
SP102	図101	N31-10	37.2	31	30	34	SP103より新しい。柱痕あり。
SP103	図101	N31-10	37.2	33	(24)	34	SP102より古い。柱痕あり。
SP104	図101・102	N31-12	37.2	28	21	30	SI22・26より新しい。
SP105	図97	N31-12	37.2	36	29	33	SB08を構成するピット。
SP106	図95	N31-29	36.5	54	46	90	SB03を構成するピット。柱痕あり。
SP107	図102	N31-29	36.5	(60)	(40)	33	SP115より新しい。土師器甕片出土。
SP108	図102	N31-28	36.5	32	22	20	
SP109	図102	N31-29	36.5	38	30	20	土師器甕片出土。
SP110	図102	N31-29	36.5	45	35	25	
SP111	図102	N31-29	36.5	52	(30)	20	SP112より古い。
SP112	図102	N31-29	36.5	40	38	24	SP111より新しい。
SP113	図102	N31-28・29	36.5	44	42	32	SP114より新しい。
SP114	図102	N31-28・29	36.5	53	(39)	31	SP113より古い。
SP115	図95・102	N31-29	36.5	43	41	70	SB03を構成するピット。SP107より古い。柱痕あり。縄文後期～晩期土器片出土。
SP116	図96	N31-28	36.4	(72)	(18)	100	SB04を構成するピット。SI19より古い。柱痕あり。
SP117	図102	N31-23	36.7	30	(26)	25	SK21より古い。
SP118	図102	N31-1	37.6	25	22	33	
SP119	図98	N31-3	37.4	38	34	45	SB10を構成するピット。土師器甕片出土。
SP120	図98	N31-4	37.3	27	25	12	SB10を構成するピット。
SP121	図98	N31-4	37.3	36	34	31	SB10を構成するピット。
SP122	図102	N31-1	37.5	32	29	32	柱痕あり。土師器甕片出土。
SP123	図102	N31-1	37.6	(28)	22	29	
SP124	図102	N31-13	37.1	43	34	11	
SP125	図102	N31-12	37.1	23	22	15	
SP126	図97	N31-12・13	37.1	26	25	23	SB08を構成するピット。土師器片出土。

SP 番号	図版番号	グリッド	標高 (m)	規模(cm)			備考
				長さ	幅	深さ	
SP127	図102	N31-12	37.1	23	20	16	
SP128	図102	N31-12	37.0	25	22	32	SI22より古くSI26より新しい。土師器瓦片出土。
SP129	図102	N31-12	37.1	(30)	(18)	8	SI22より古くSI26より新しい。
SP130	図92	N31-10	37.2	25	21	43	
SP131	図96	N31-27	36.4	103	92	95	旧SI18内SK1。SB04を構成するピット。SI18より古い。柱痕あり。縄文後期土器深鉢片出土。
SP132	図97	N31-13	37.0	32	24	15	SB08を構成するピット。SD02bより新しい。
SP133	図98	N31-2	37.5	33	(16)	不明	SB10と関連あり。

第1号掘立柱建物跡(SB01、図94・135)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-36・37グリッドに位置する。同規模のSP07、SP08、SP10、SP12、SP13が亀甲形に位置することから、掘立柱建物跡と認定した。遺構確認面の標高は35.9~36.1m、第IV層で確認した。なお、北東隅の柱穴は付近を十分に精査したものの、検出されなかったことから、調査区外に位置するものと考えられる。SP07がSK10より新しく、SP13がSK03より新しい。

[平面形・規模] 6本柱の亀甲形で、主軸方向はN-110°-Eである。柱穴は5基検出し、いずれも柱穴中央付近に柱痕跡が残存する。SP07は82×70cmの不整楕円形で、確認面からの深さは81cmである。底面は55×53cmの不整円形である。断面で柱痕跡を確認し(1層)、残存する西半部で柱痕を検出した。柱痕の最大径は36cmで、円形と推定される。底面では、断面の柱痕跡に対応して、東半部でややグライ化し、硬化した半円形の範囲を検出したことから、柱あたりに該当すると判断した。SP08は76×75cmの隅丸方形で、確認面からの深さは79cmである。底面は57×47cmの不整円形である。断面で柱痕跡を確認し、残存する北半部で柱痕を検出した。柱痕の最大径は30cmである。底面では明確な柱あたりの範囲は抽出できなかったものの、部分的にグライ化する。SP10は81×78cmの不整円形で、確認面からの深さは108cmである。底面は50×49cmの不整円形である。断面で柱痕跡を確認し、残存する北半部で柱痕を検出した。柱痕の最大径は28cmである。柱あたりは確認できなかった。SP12は86×83cmの円形で、確認面からの深さは113cmである。底面は53×48cmの不整円形である。断面で柱痕跡を確認し、残存する東半部で柱痕を検出した。柱痕の最大径は24cmである。柱あたりは確認できなかった。SP13は西半分が調査区外に位置するものの、検出部分から径は90cm程度と推定される。確認面からの深さは91cmで、断面で柱痕跡の一部を確認した。底面では断面の柱痕跡に対応して、グライ化した円形の範囲を検出したことから、この範囲を柱あたりと判断した。平面では柱痕を確認できなかったものの、柱あたりの形状から柱の太さは径35cm程度と推定される。

[堆積土] 柱痕にはいずれも暗褐色土が堆積する。掘方はSP08、SP12はV層由来の褐色土とII層由来の黒褐色土の互層状、SP07、SP10、SP13はV層由来の褐色~黄褐色土が堆積する。

[出土遺物・遺構の時期等] SB01を構成する柱穴であるSP08から縄文土器3点、SP13から縄文時代後期前葉の鉢底部(219)が出土している。時期は、SP13出土遺物より縄文時代後期前葉と考えられる。柱痕が確認できることから、柱の下部が残存した状態で廃絶されたと復元できる。

第2号掘立柱建物跡(SB02、図51)

[位置・確認] 調査区中央、31-32・33グリッドに位置し、第V層で検出された。本遺構は、SI02aの付属施設であることが判明したため、そちらで報告している。

第3号掘立柱建物跡(SB03、図95)

[位置・確認] 調査区中央、31-29グリッドに位置する。ほぼ同規模の柱穴であるSP11・SP20・SP106・SP115の4基が亀甲形に配置されることから掘立柱建物跡と認定した。遺構確認面の標高は36.4~36.5m、第V層で検出された。SI04と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 亀甲形になるとみられ、主軸方向はN-102°-Eである。柱穴は、いずれにも柱痕がみられる。SP11は48×(40)cmで、確認面からの深さは71cmである。底面は41×(35)cm、柱痕の最大径は25cmで、いずれも円形と推定される。底面では硬化した円形の黄橙色粘土(4層)を検出しており、これが柱あたりに該当する。SP20は54×50cmの円形で、確認面からの深さは73cmである。底面は36×35cmの円形である。断面で柱痕跡を確認し、柱痕の最大径は32cmである。SP106は54×46cmの円形で、確認面からの深さは90cmである。底面は32×25cmの楕円形である。断面で柱痕跡を確認し、柱痕の最大径は25cmである。SP115は43×41cmの円形で、確認面からの深さは70cmである。底面は32×28cmのほぼ円形である。断面で柱痕跡を確認し、柱痕の最大径は27cmである。

[堆積土] いずれの柱穴も、柱痕は黒褐色または暗褐色を基調とし、掘方はV層由来の褐色土~黄褐色土を基調とする。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、SB03を構成する柱穴であるSP20から縄文土器6点(中・後・晩期)が出土している。出土遺物、遺構の重複関係などから、縄文時代晩期の遺構と考えられる。

第4号掘立柱建物跡(SB04、図96)

[位置・確認] 調査区中央、31-27・28グリッドに位置する。同規模のSP62・SP96・SP97・SP116・SP131(旧SI18SK1)の5基が1×2間で配置されることから、掘立柱建物跡と認定した。遺構確認面の標高は36.4~36.5m、第V層で検出された。SI18・19、SK31、SP61と重複し、本遺構が古い。なお、SP131は、調査当初SK18内の土坑SK1として精査を進めたが、遺構の形態や周辺遺構の配置状況から、精査途中でSI18とは別遺構のSPと判断した遺構である。

[平面形・規模] 現状では梁行2間×桁行1間の長方形の掘立柱建物跡と推定される。主軸方向はN-153°-Eである。いずれの柱穴からも柱痕が検出されている。

SP62は(103)×85cmの楕円形で、確認面からの深さは97cmである。底面は79×76cmの円形である。重複した攪乱掘削時に、誤って柱痕も掘削したため、柱痕は底面近くでのみ確認した。残存部での柱痕の最大径は54cmである。底面では、断面の柱痕に対応する50×49cmの硬化した円形の柱あたりを確認した。SP96は71×69cmの円形で、確認面からの深さは99cmである。底面は61×49cmの楕円形である。断面で柱痕を確認し、柱痕の最大径は39cmである。底面では明確な柱あたりの範囲は検出できなかった。SP97は(71)×(38)cmで、大部分が調査区域外にあるため平面形は不明、確認面からの深さは79cmである。底面は(59)×(28)cmで、平面形は不明である。断面で柱痕を確認し、柱痕の最大径は44cmである。柱あたりは確認できなかった。SP116は(72)×(18)cmで、大部分が調査区域外にあるため平面形は不明、確認面からの深さは100cmである。底面は(47)×(13)cmで、平面形は不明である。断面で柱痕を確認し、柱痕の最大径は37cmである。柱あたりは確認できなかった。SP131は103×92cmのほぼ円形で、確認面からの深さは95cmである。底面は77×77cmの円形である。断面で柱痕を確認したが、抜

き取りなどによって柱痕の断面が崩れ、本来の柱痕の規模をとどめていないとみられる。底面では、断面の柱痕に対応する45×34cmの硬化した楕円形の柱あたりを確認した。

[堆積土] いずれも柱痕は黒褐色または暗褐色を基調とし、掘方にはV層由来の褐色土～黄褐色土、またはV層と黒色系土との混合土が堆積する。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、SB04を構成する柱穴であるSP97から縄文土器5点、SP131から縄文時代後期土器が出土している。出土遺物や周辺遺構との関係から、遺構の時期は縄文時代後期と考えられる。

第5号掘立柱建物跡(SB05、図97)

[位置・確認] 調査区北部、31-17・18グリッドに位置する。ほぼ同規模の柱穴であるSP25・SP28・SP37が1×1間で配置されることから、掘立柱建物跡と認定した。遺構確認面の標高は36.9～37.0m、第V層で検出された。SP27と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 現状では梁行1間×桁行1間以上の長方形の掘立柱建物跡と推定される。主軸方向はN-143°-Eである。SP25のみ柱痕を確認した。SP25は34×29cmの円形で、確認面からの深さは40cmである。底面は18×14cmの楕円形である。断面で柱痕を確認し、柱痕の最大径は25cmである。SP28は(32)×32cmの円形で、確認面からの深さは54cmである。底面は22×15cmの楕円形である。SP37は37×(31)cmの円形で、確認面からの深さは35cmである。底面は17×13cmの楕円形である。

[堆積土] いずれも褐色土～黄褐色土を基調とする。

[出土遺物・遺構の時期等] SB05を構成する柱穴からは遺物は出土しておらず、遺構の時期は不明であるが、周辺遺構の配置状況から平安時代の遺構の可能性が高いと考えられる。

第6号掘立柱建物跡(SB06、図75)

[位置・確認] 調査区北部、31-16・17グリッドに位置し、第V層で検出された。本遺構は、SI13cの付属施設であることが判明したため、SI13cの中で報告している。

第7号掘立柱建物跡(SB07、図74)

[位置・確認] 調査区北部、31-16・17グリッドに位置し、第V層で検出された。本遺構は、SI13bの付属施設であることが判明したため、SI13bの中で報告している。

第8号掘立柱建物跡(SB08、図97・135)

[位置・確認] 調査区北部、31-12・13グリッドに位置する。ほぼ同規模の柱穴であるSP54・SP55・SP57・SP64・SP105・SP126・SP132の7基が2×2間で配置されるとみられることから、掘立柱建物跡と認定した。遺構確認面の標高は37.0～37.2m、第IV層で検出された。SD02と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 現状では、梁行2間×桁行2間のほぼ正方形の掘立柱建物跡と推定される。主軸方向はN-145°-Eである。いずれの柱穴からも柱痕は検出されていない。SP54は28×22cmの不整形で、確認面からの深さは42cmである。底面は18×10cmの楕円形である。SP55は32×31cmの円形で、確

認面からの深さは39cmである。底面は14×12cmの円形である。SP57は30×26cmの円形で、確認面からの深さは33cmである。底面は15×11cmの楕円形である。SP64は33×27cmのほぼ円形で、確認面からの深さは51cmである。底面は13×9cmの楕円形である。SP105は36×29cmの楕円形で、確認面からの深さは33cmである。底面は15×7cmの楕円形である。SP126は26×25cmの円形で、確認面からの深さは23cmである。底面は15×13cmの円形である。SP132は32×24cmの楕円形で、確認面からの深さは15cmである。底面は16×12cmの楕円形である。

[堆積土] 黒褐色～黄褐色土の堆積が確認できた。

[出土遺物・遺構の時期等] SB08を構成する柱穴であるSP54から土師器1点・須恵器3点、SP57から土師器1点・縄文土器1点、SP126から土師器1点出土しており、SP54の堆積土上位から出土した土師器甕(220)を図示した。出土遺物や遺構の重複関係から平安時代以降の遺構と考えられる。

第9号掘立柱建物跡(SB09、図71・73)

[位置・確認] 調査区北部、31-16・17グリッドに位置し、第V層で検出された。本遺構は、SI13aの付属施設であることが判明したため、SI13aの中で報告している。

第10号掘立柱建物跡(SB10、図71)

[位置・確認] 調査区北部西側、31-2～4グリッドに位置する。ほぼ同規模の柱穴であるSP74・75・119・121の4基が1×2間で配置されるとみられることから、掘立柱建物跡と認定した。遺構確認面の標高は37.3～37.5m、第IV層で検出された。

[平面形・規模] 現状では、梁行1間×桁行2間の長方形の掘立柱建物跡と推定される。主軸方向はN-140°-Eで、柱間寸法は、梁行約4.0m、桁行約2.2mを測る。SP75でのみ柱痕が検出された。SP74は28×22cmの楕円形で、確認面からの深さは51cmである。底面は17×14cmの楕円形である。SP75は36×32cmの楕円形で、確認面からの深さは54cmである。底面は24×22cmの円形である。SP119は37×34cmの不整形で、確認面からの深さは45cmである。底面は16×16cmの方形である。SP121は33×32cmの円形で、確認面からの深さは37cmである。底面は20×17cmの楕円形である。

[その他の施設] 本掘立柱建物跡周辺にはSP76・77・120・133が検出されている。SP120はSP121の南東に延びる軸線上にあることから、本掘立柱建物跡の間柱となる可能性がある。SP133はSP75・119のほぼ軸線上にあり、桁行が北西へ1間延びる可能性もあるが、竪穴建物部分が狭小になってしまうため、その可能性は低いと思われる。したがってSP133は竪穴建物跡の主柱穴である可能性が高いと考えられ、その場合はSP76・77が壁柱穴と想定できる。竪穴建物部分は一辺が約4.0～4.5mの規模が想定できる。なお調査区壁の土層断面では、硬化面、貼床層、焼土等カマド痕跡などは確認できなかった。また本掘立柱建物跡北西側にはSD03～05があり、位置的に外周溝とみられる。主屋となる竪穴建物部分が調査区域外にあって未検出であることから、個別に記載している。

[堆積土] ロームを含む黒色土もしくは黒褐色土が堆積している。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、SP119とSP122の堆積土からそれぞれ土師器甕片が1点ずつ出土した。周辺で検出されている遺構の状況や出土遺物から平安時代の遺構と考えられる。

その他(図94)

31-36グリッドに位置するSP09、SK05・10で掘立柱建物跡を構成する可能性がある。SP09とSK05には柱痕あるいは柱あたりが検出されており、SK05には柱の抜き取り痕とみられるものもある。SK10は抜き取り痕部分に類似する形状であることから、西側調査区域外に柱穴部分が検出される可能性がある。したがってSK05・10、SP09で亀甲形掘立柱建物跡の南東辺を構成するものと推測され、その規模はSB03と同程度、柱間寸法が約1.8mと想定される。SP09から縄文土器1点が出土している。柱穴の規模、柱間寸法などがSB03と類似することから、SB03と同時期とみられる。ただしSK10の柱穴部分が検出されていないことから、今回は掘立柱建物跡の可能性を提示するにとどめておく。

単独ピットからの出土遺物(図99~102・135)

掘立柱建物跡等に属さない単独ピットは図101~102に平面図と断面図を掲載した。また、出土遺物を図135に示した。SP15から出土した土師器甕(221)、SP21から出土した磨製石斧(222)、SP51から出土した土師器甕(223)、須恵器甕(224・225)、SP63から出土した土師器坏(226)である。その他、図示していない遺物の出土状況については、表4柱穴計測表にまとめた。

3 土坑

45基の土坑が検出された。時期は平安時代のものが大半であるが、縄文時代土坑も8基(SK02・03・05・10・12・15・19・35)ある。

第1号土坑(SK01、図103・136)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-33グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.2~36.3m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は、長軸91cm、短軸82cmの円形を呈し、確認面からの深さは35~40cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は歪な播り鉢状をなしている。

[堆積土] ローム粒を微量含む黒褐色土及び暗褐色土が堆積し、底面付近には褐色土が堆積している。人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器3点、須恵器3点が出土しており、このうち底面から出土した須恵器の長頸壺(227)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、平安時代の遺構とみられるが、その機能は不明である。

第2号土坑(SK02、図103・136)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-30グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.4m、第V層で、SI01の精査中に確認した。SI01と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は、長軸145cm、短軸96cmの楕円形を呈し、深さ53~73cmである。底面にはやや起伏がみられ、内湾しながら壁が立ち上がる。全体の断面形は丸底状をなしている。

[堆積土] 全体的にローム粒・炭化物を含む黒褐色土及び暗褐色土が堆積し、底面付近には褐色土もしくは黄褐色土が互層状に堆積している。人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 多量の縄文土器と縄文時代の土製品2点が出土した。このうち、縄文土器深鉢(228～234)、鉢(235a～237)・壺(238)・台付鉢(239)、耳栓(240)、鐸形土製品(241)を図示した。228が縄文時代後期初頭だが、土器の大半が縄文時代後期の十腰内I式土器とみられる。240は中軸に貫通孔がある耳栓である。鐸形土製品の241頂部には欠損しているものの紐通し孔の痕跡が確認できるが、他の装飾や文様等は施文されていない。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物などから、縄文時代後期十腰内I式期の遺構である。その機能は、湾曲する壁の形状等からフラスコ状土坑の可能性があり、貯蔵であった可能性がある。

第3号土坑(SK03、図103・137)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-37グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.0～36.1m、第IV層で確認した。SP13と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 西半が調査区域外にあって遺構の全容は不明である。確認できた規模は、長軸(133)cm、短軸(111)cmで、平面形は不整な半円形である。確認面からの深さは34～70cmで、地山をそのまま底面としている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、底面は丸みを帯びて、断面形はU字状であるが、壁、底面ともに不定形の凹凸が認められる。

[堆積土] 5層に分層した。上位(1・2層)には暗褐色～にぶい黄褐色土が堆積する。1層と3層の層界には黄褐色土が面的に堆積する。中～下位には黒褐色土(3層)と黄褐色～明黄褐色土(4・5層)が堆積する。2層はブロック状の堆積であり、3層が2層を抱え込む形となっている。

[出土遺物・遺構の時期等] 少量の縄文土器と縄文時代の土製品が、6点出土している。このうち縄文土器深鉢(242)・鉢(243)・ミニチュア鉢?(244)、四脚土製品(245)、貫通孔のある不明土製品(246)を図示した。245・246は底面直上(3層)から出土した。いずれも時期は特定しがたいが、縄文時代後期の可能性が考えられる。4層から出土した炭化物1点について炭素年代測定を行った(第6編第1章第4節参照、PLD-28331)結果、縄文時代後期前葉の値が得られた。土器からみた遺構の年代観と相違なく、本遺構を掘り込んで構築されるSP13が縄文時代後期の所産と考えられることから、本遺構は縄文時代後期前葉と推定される。壁や底面に不定形の凹凸があることや、堆積が不自然であることから、風倒木痕の可能性も考えられるが特定には至らなかった。

第4号土坑(SK04、図103・137)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-36グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.1～36.2m、第IV層で確認したSK05と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 西半が調査区域外にあるため遺構の全容は不明である。確認できた規模は、長軸136cm、短軸(62)cmである。遺構の半分以上が調査区域外にあるとみられ、平面形は円形の可能性がある。確認面からの深さは58～70cmで、底面はやや丸みを帯びている。壁はやや開いて立ち上がり、断面形はコ字状を呈する。

[堆積土] 6層に分層した。褐色～黄褐色土(1・3・5層)と黒褐色～暗褐色土(2・4・6層)が互層状に堆積し、いずれもロームブロックが混入し、自然堆積層は認められないことから、一括の人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器24点、須恵器1点、粘土塊1点、縄文土器8点、縄文時代の土製品1点が出土している。このうち、土師器甕(247・248)・埴(249)、円盤状土製品(250)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第5号土坑(SK05、図103)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-36グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.1~36.2m、第IV層で確認した。SK04と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は長軸140cm、短軸75cmの歪な楕円形である。確認面からの深さは37~53cmである。地山をそのまま底面とするが、底面は西側が円形に深く、東側に高く傾斜する。西側の底面は61×48cmの不整楕円形で、38×31cmの範囲でグライ化し、硬化する。これは第1号掘立柱建物跡の柱あたりと類似することから、同様に柱あたりと判断した。

[堆積土] 7層に分層した。黒色~黄褐色土が堆積する。いずれもロームブロックが混入し、自然堆積層は認められないことから一括の人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、縄文土器4点が出土している。土坑として精査を行ったが、形状及び柱あたりが検出されたことから本遺構は柱穴であり、東方向へ柱の抜き取りが行われたものと考えられる。そうであった場合、SK05・10、SP09で亀甲形の掘立柱建物跡の南東辺を構成するものと推測され、ちょうどSB03と同規模で縄文時代晩期のものである可能性がある。

第6号土坑(SK06、図104・137)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-35グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.1~36.2m、第V層で確認した。SI03と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] SI03との重複により遺構の全容は不明である。確認できた規模は長軸(135)cm、短軸80~101cmで、北東側がすぼまる隅丸長方形を呈するとみられる。確認面からの深さは71cmで、地山をそのまま底面としている。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はコ字状を呈する。隅丸長方形の底面四隅にPit4基(Pit1~4)が検出された。Pit1は29×22cmの楕円形で、深さ21cm、Pit2は26×20cmの楕円形で、深さ21cm、Pit3は22×18cmのほぼ円形で、深さ22cm、Pit4は31×19cmの楕円形で、深さ32cmである。Pit1~3には柱痕が伴うことから、屋根など何らかの建造物の存在が示唆される。

[堆積土] 上位はロームを主体とする黄褐色土が堆積し、下位は暗褐色土が、底面付近は黒褐色土が堆積している。人為堆積の様相を呈している。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と須恵器、縄文土器が少量と、土製品、石器1点が出土している。このうち、土師器甕(251)、土玉(252)、削器(253)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代の遺構であるが、その機能は不明である。Pitの存在と土玉の出土が、機能を推定する手がかりになるものと思われる。

第7号土坑(SK07、図104・138・139)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-29・30グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.4~36.5m、第

V層で確認した。SI04、SR01と重複し、いずれよりも本遺構が新しい。

[平面形・規模] 北西部の一部が攪乱によって壊されている。確認できた規模は、長軸211cm、短軸200cmで、平面形は歪な円形である。確認面からの深さは74～80cmであるが、北西部が一段低くなっており、確認面からの深さは85～101cmを測る。底面は地山をそのまま底面としており、概ね平坦であるが壁際は湾曲し、断面形は丸みを帯びたフラスコ状をなしている。

[堆積土] 焼土・ローム粒・炭化物を含んだ暗褐色土及び黒褐色土が主として堆積し、床面直上層には黒褐色土を含む黄褐色粘土が堆積している。下位は人為的に埋め戻されたものとみられるが、上位にはレンズ状に堆積する火山灰層(第2層)が検出されて、その上下層との層理面は漸移していることから、自然堆積の可能性がある。この第2層から出土した火山灰について火山灰分析を行ったところ、B-TmとTo-aの混合層との結果を得た(第6編第1章第1節参照、灰8)。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器、須恵器、縄文土器、土製品、鉄製品、石器など多くの遺物が出土している。このうち、土師器坏(254)・甕(255～258)、須恵器坏(259～261)、土錘(262)、縄文土器深鉢(263～270)、搔器(271)を図示した。遺物は主に堆積土中位から下位で出土しているが、257の土師器甕は底面に近い場所から出土した。259の須恵器坏は、外面に「十」字状の刻書がみられる。263はSI04出入り口部分の底面直上から出土した破片と、本土坑出土遺物とが接合したものである。遺構の新旧関係から本来は、SI04に帰属していたものとみられる。堆積土の様相、火山灰の検出状況、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代の遺構であるが、その機能は貯蔵の可能性が考えられる。

第8号土坑(SK08、図104・140)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-32・33グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.2～36.3m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は、長軸72cm、短軸61cmの不整な円形を呈する。確認面からの深さは30～36cmで、地山をそのまま底面としている。断面形は、東側がフラスコ状となっている。

[堆積土] ロームを含む暗褐色土及び黒褐色土が堆積し、第2層には拳大の浅黄橙色粘土と炭化物を含む黒褐色土が堆積しており、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器が少量出土したうち、深鉢(272)を図示したが、混入したものと考えられる。堆積土の様相、遺構の形状などから、平安時代の遺構である可能性が高い。拳大の粘土が出土していることやSB02の中央付近に位置していることなどから、SB02と何らかの関連があるものと考えられるが、具体的な機能は不明である。

第9号土坑(SK09、図103)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-30グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.3m、SI01床面の精査中に確認した。SI01と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は、長軸101cm、短軸73cmの不整な楕円形である。確認面からの深さは49～54cmで、底面は平坦である。壁は垂直に近い立ち上がりで、断面形は歪なコ字状をなしている。

[堆積土] 粒径の比較的大きなローム粒や炭化物を含むにぶい黄褐色土が堆積していることから、人

為的に埋め戻されたものと考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器1点、縄文土器1点が出土している。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物等から平安時代の遺構である可能性がある。その機能は不明であるが、位置的にSI01の中央部にあることから、SI01構築時に何らかの関連で作られた土坑の可能性も想定できる。

第10号土坑(SK10、図104・140)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-36グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.0m、第IV層で確認した。SP07と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 西半が調査区域外にあるものの、検出した部分より、長軸82cm、短軸61cmの楕円形を呈している可能性がある。確認面からの深さは37～50cmである。底面は丸みを帯び、東側がやや深い。壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 6層に分層した。暗褐色～黄橙色土が堆積する。いずれもIV～V層由来であり、ロームブロックが混入する。自然堆積層は認められないことから、一括の人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器3点が出土しており、このうち鉢(273)を図示した。形状が北側にあるSK05東側(抜き取り痕部分)に類似することから、柱穴の抜き取り痕の可能性も考えられる。そうであった場合、SK05・10、SP09で亀甲形の掘立柱建物跡の南東辺を構成するものと推測され、ちょうどSB03と同規模のもので縄文時代晩期のものである可能性がある。

第11号土坑(SK11、図104)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-30グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.4m、第V層で確認した。SI04、SR01と重複し、いずれよりも本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は、長軸68cm、短軸55cmの楕円形を呈する。確認面からの深さは20～26cmである。地山をそのまま底面とし、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] ローム粒・炭化物を含む暗褐色土が堆積しており、人為堆積と思われる。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器1点が出土している。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第12号土坑(SK12、図105・140)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-38グリッドに位置する。遺構確認面の標高は35.7m、第IV層で確認した。SI06、SP42と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 北西部の一部がSI06に掘り込まれている。確認できた規模は、長軸110cm、短軸71cmで、平面形は不整な円形を呈する。確認面からの深さは16～24cmで、地山をそのまま底面とする。壁はほぼ垂直に立ち上がり、断面形は上部がやや開く浅いコ字状をなしている。

[堆積土] 4層に分層した。暗褐色～黄褐色土が堆積し、いずれもIV～V層由来土が含まれることから、一括の人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 多量の縄文土器が出土している。このうち縄文土器壺(275)・深鉢(276)を

図示した。275は図上復元したもので、口縁部が無文の壺で、頸部下端に沈線が1条巡ってその下部の胴部にはLRが回転施文されている。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物などから、縄文時代晩期前半の遺構とみられるが、その機能は不明である。

第13号土坑(SK13、図105)

[位置・確認] 調査区北部、31-18グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.0m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は、長軸130cm、短軸101cmの楕円形を呈する。確認面からの深さは11~25cmで、地山をそのまま底面とする。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 上位はローム粒を含む暗褐色土が堆積し、底面付近にはローム粒を含む黒褐色土がみられる。人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器4点、須恵器1点が出土している。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第14号土坑(SK14、図105)

[位置・確認] 調査区北部、31-16・17グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.0~37.1m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は、長軸135cm、短軸87cmの長方形を呈する。確認面からの深さは27~34cmで、地山をそのまま平坦な底面とする。東・南壁は急角度で立ち上がるものの、西・北壁は比較的緩やかに立ち上がっている。断面形は浅いコ字状をなしている。

[堆積土] ローム粒・黒褐色土を含む褐色土が堆積し、人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器7点が出土している。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから平安時代の遺構であるが、その機能は不明である。

第15号土坑(SK15、図105・140)

[位置・確認] 調査区南部、31-47グリッドに位置する。遺構確認面の標高は35.4m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は、長軸97cm、短軸96cmの不整な円形を呈する。確認面からの深さは29~32cmで、地山をそのまま底面とし、底面はほぼ平坦である。壁は西壁の上位が開くものの、他はほぼ垂直に立ち上がり、断面形はやや不整なコ字状をなしている。

[堆積土] 暗褐色土の単一層である。ロームブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器3点が出土しており、そのうち深鉢(274)を図示した。縄文時代後期、十腰内I式土器の口縁部片であるが、小破片であることから、混入したものとみられる。堆積土の様相や、SK12と類似する遺構の形状などから、縄文時代晩期の遺構である可能性があるが、その機能は不明である。

第16号土坑(SK16、図105・141)

[位置・確認] 調査区北部、31-15グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.9～37.0m、第V層で確認した。SI13・SI14と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 他遺構との重複によって上部の大部分が壊されている。確認できた規模は、長軸125cm、短軸(43)cmで、平面形は楕円形を呈する。確認面からの深さは55～58cmで、掘方(4層)を有し、底面は平坦に整えられている。断面形は上部が開くコ字状をなしている。

[堆積土] ロームブロック・炭化物を含む褐色土もしくは黄褐色土が主体としており、人為堆積である。掘方には炭化物を含む黄褐色ロームを用い、平坦に整えている。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と土製品が出土しており、土師器小甕(277)・甕(278～280)・壺(281)を図示した。279・280は底面から出土した土師器甕である。278は土師器甕で、外面の口頸部に刻書がみられるが欠損のため刻書の全容は不明である。281は内面に黒色処理が施された土師器の壺で、全体的にゆがみがみられる。なお、278・281の接合した破片の一部は、底面から出土している。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物等から、平安時代の遺構とみられるが、その機能は不明である。

第17号土坑(SK17、図106・141)

[位置・確認] 調査区中央北部、31-21・22グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.8～36.9m、第IV層で確認した。SK22と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 東半が調査区域外にあるものの、検出した部分から、平面形は不整形と推定される。確認できた規模は、長軸307cm、短軸(158)cmである。確認面からの深さは73～80cmで、底面はほぼ平坦である。壁は中位で大きく外側に開き、断面形は底が広いすり鉢状となっている。

[堆積土] 上位は黒褐色土及び暗褐色土が自然堆積しているが、底面付近には、人為堆積とみられる暗褐色土を含む黄褐色土及び明黄褐色土が堆積する。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と須恵器、土製品、縄文土器、粘土塊などが出土している。このうち、土師器小鉢(282)・小甕(283)、須恵器坏(284)、羽口(285)を図示した。282は土師器の小鉢で、主に外面は指オサエとナデ、内面はナデで整形した小型の製品である。体部はやや内傾して立ち上がる。底部は欠損により不明である。SI20から出土している203(図133)と、接合はしないが同一個体と思われる。堆積土の様相、出土遺物などから、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第18号土坑(SK18、図106・141・142)

[位置・確認] 調査区中央北部、31-21グリッドに位置する。構確認面の標高は36.7～36.8m、第IV層で確認した。SI21と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は、長軸268cm、短軸244cmの不整形な円形である。確認面からの深さは74～78cmで、底面はやや起伏がみられるが概ね平坦である。断面形は上部が開くコ字状をなしているが、北壁と南壁では、壁中位が開口部よりも袋状に入り込んでフラスコ状となっている部分が確認できた。

[堆積土] 黒褐色および暗褐色土を基調とする土層と、褐色土及びにぶい黄褐色土を基調とする土層が堆積しているが、全体的にロームや炭化物、焼土などを多く含んでおり、人為堆積である。3層中

では、土師器や須恵器、縄文土器などの破片が比較的まとまった状態で出土しており、遺物周辺には焼土や粘土、炭化物の広がりを確認した。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器28点、須恵器8点、縄文土器6点が出土している。このうち土師器小甕(286)・甕(287~290)、須恵器坏(291)・甕(292)、縄文土器深鉢(293)を図示した。遺物の多くは堆積土中位で出土しているが、290は底面から出土した土師器甕の底部である。外面は全体的に被熱している。292は須恵器甕の頸~肩部の破片で、胎土分析を行っている(第6編第1章第5節参照、S-15)。堆積土の様相、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第19号土坑(SK19、図107・142)

[位置・確認] 流末水路調査区西部、31-R7グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.8~33.9m、第V層で確認した。

[平面形・規模] 遺構の大部分が調査区域外にあるとみられ、遺構の全容は不明である。確認できた遺構の規模は、長軸148cm、短軸(82)cmである。平面形は円形または楕円形を呈しているとみられる。確認面からの深さは35~39cmで、底面は概ね平坦で、壁は内湾してオーバーハングし、全体の断面形はフラスコ状をなしている。

[堆積土] 下位はローム粒を含む黒褐色土及び暗褐色土が堆積していて人為堆積とみられるが、上位の第1・2層は混入物が少なく漸移していることから、自然堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器2点が出土しており、深鉢(294・295)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、縄文時代のフラスコ状土坑と思われ、その機能は貯蔵の可能性があるとみられる。

第20号土坑(SK20、図107・142)

[位置・確認] 調査区中央、31-26グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.6~36.7m、第IV層で確認した。SI17と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は、長軸175cm、短軸115cmの隅丸方形である。確認面からの深さは14~19cmで、底面はほぼ平坦である。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は浅いコ字状である。

[堆積土] ローム粒・炭化物を含む黒褐色土及び暗褐色土が堆積している。自然堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器5点、須恵器2点、土製品1点、粘土塊1点が出土しており、土師器甕(296・297)、土錐(298)を図示した。堆積土の様相、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第21号土坑(SK21、図107・142)

[位置・確認] 調査区中央、31-23グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.7~36.8m、第IV層で確認した。SP117と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 西部が調査区域外にあるため、遺構の全容は不明である。確認できた規模は、長軸183cm、短軸(131)cmである。平面形は、円形または楕円形を呈しているとみられる。確認面からの

深さは49～60cmで、底面にはやや起伏がみられる。断面形は、上部が開くコ字状をなしている。

[堆積土] ロームブロックを含む黒褐色土及び暗褐色土や、地山由来のにぶい黄褐色土が堆積している。人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と須恵器、縄文土器が出土しており、土師器坏(299)・甕(300・301)を図示した。堆積土の様相、出土遺物から平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第22号土坑(SK22、図106)

[位置・確認] 調査区中央北部、31-22グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.8m、第V層で確認した。SK17と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 重複によって東側が壊されている。確認できた規模は、長軸69cm、短軸(44)cmである。平面形は不整円形を呈していたとみられる。確認面からの深さは50～53cmで、底面は中央が一段深く凹んでいる。

[堆積土] 黒褐色土やロームを含むにぶい黄褐色ローム及び明黄褐色ロームが堆積している。人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土していない。堆積土の様相、遺構の重複関係などから、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第23号土坑(SK23、図107・142)

[位置・確認] 調査区中央、31-26グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.5～36.7m、第IV層で確認した。SI17と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 東部が調査区域外にあるため、遺構の全容は不明である。確認できた規模は、長軸124cm、短軸(117)cmで、平面形は円形を呈するとみられる。確認面からの深さは39～46cmで、底面には凹凸がみられる。壁は垂直気味に立ち上がる。

[堆積土] 主にロームや炭化物を含む黒褐色土及び暗褐色土が堆積しており、最下層は地山由来の明黄褐色ロームを基調とする。人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と須恵器が少量、石器1点が出土しており、土師器甕(302)、敲磨器(303)を図示した。堆積土の様相、出土遺物などから、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第24号土坑(SK24、図107・143)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-29グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.5m、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は、長軸61cm、短軸52cmの楕円形である。確認面からの深さは9～13cmで、地山をそのまま底面としている。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] ローム粒を微量含む黒褐色土あるいは暗褐色土が堆積し、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と縄文土器が少量出土しており、底面から出土した土師器甕(304)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、平安時代の遺構である可能性があるが、

その機能は不明である。

第25号土坑(SK25、図107・143)

[位置・確認] 調査区北部、31-13グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.0～37.1m、第IV層で確認した。SD02aと重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 検出部分が少なく、遺構の全容は不明である。確認できた規模は、長軸(79)cm、短軸(23)cmで、平面形は円形をなすものと推定される。確認面からの深さは75～80cmで、底面は中央部分がやや深くなる丸底状で、壁はオーバーハングして上部がすぼまり、全体の断面形はフラスコ状をなしている。

[堆積土] 全体的にローム・焼土を微量含む黒褐色土が堆積しており、人為堆積の可能性はある。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と須恵器、縄文土器、粘土塊が少量出土しており、土師器坏(305)・小甕(306)を図示した。堆積土の様相、遺構の重複関係、底面や堆積土から20点以上の土師器・須恵器が出土している状況などから、平安時代の遺構とみられる。ただし遺構の形状はフラスコ状をなしていることから、その機能は貯蔵の可能性はある。

第26号土坑(SK26、図108)

[位置・確認] 調査区北部、31-14グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.9～37.0m、SI13床面で確認した。SI13と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 南部が調査区域外にあるため、遺構の全容は不明である。確認できた規模は、長軸101cm、短軸(56)cmで、平面形は円形または楕円形を呈しているとみられる。確認面からの深さは41～44cmで、底面は平坦である。断面形は上部が開くコ字状をなしている。

[堆積土] 全体的にロームブロック主体の褐色土もしくは黄褐色土が堆積しており、上位には黒褐色土が比較的多く含まれる。人為的に埋め戻されたものとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土していない。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係などから、平安時代の遺構である可能性があるが、その機能は不明である。

第27号土坑(SK27、図108・143)

[位置・確認] 調査区北部、31-13グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.1m、第IV層で確認した。SD01と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 他遺構と重複し、南部が調査区域外にあるため、遺構の全容は不明である。確認できた規模は、長軸154cm、短軸(116)cmで、平面形は楕円形を呈するとみられる。確認面からの深さは60～64cmで、底面はやや凹凸がみられる。断面形は上部がやや開くコ字状をなすが、部分的にオーバーハングする部分もある。

[堆積土] 堆積土の大半がローム粒・炭化物を含む黒褐色土もしくは暗褐色土が堆積しており、人為的に埋め戻されたものと思われる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器6点、須恵器1点、石器1点が出土しており、このうち須恵器坏(307)と石匙(308)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代

の遺構とみられるが、その機能は不明である。

第28号土坑(SK28、図108)

[位置・確認] 調査区北部、31-16グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.0～37.1m、第IV層で確認した。SK29、SP65と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 確認できた規模は、長軸159cm、短軸(84)cm、平面形は楕円形である。確認面からの深さは16～20cmで、底面はやや起伏がみられる。断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 炭化物・焼土を含む褐色土が堆積しており、人為堆積と思われる。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器5点が出土している。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代の遺構とみられるが、その機能は不明である。

第29号土坑(SK29、図108・143)

[位置・確認] 調査区北部、31-16グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.0～37.1m、第IV層で確認した。SK28と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 他遺構と重複し、攪乱によって壊されているため、遺構の全容は不明である。確認できた規模は、長軸136cm、短軸(58)cmで、平面形は楕円形を呈するとみられる。確認面からの深さは75～78cmで、底面にはやや起伏がみられる。断面形は上部が開くコ字状をなしている。

[堆積土] ローム粒・炭化物を含む暗褐色土及び褐色土が堆積しており、人為堆積の可能性はある。底面付近は黒褐色土が堆積している。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と須恵器が少量出土しており、このうち土師器甕(309・310)、須恵器坏(311)を図示した。310は土師器甕の体部上半で、外面全体に炭化物が付着している。311は還元やや軟質焼成の須恵器坏で、外面に刻書状の刻みがみられるが、刻書かどうか定かでない。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物から平安時代の遺構であるが、その機能は不明である。

第30号土坑(SK30、図108)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-28グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.4～36.5m、第IV層で確認した。

[平面形・規模] 東部が調査区域外にあるため、遺構の全容は不明である。確認できた規模は、長軸97cm、短軸(80)cmで、平面形は不整形を呈しているとみられる。確認面からの深さは24～31cmで、底面はやや起伏がみられる。断面形は皿状である。

[堆積土] 上位はロームを含む暗褐色土及び褐色土が堆積し、下位にはロームを含む黒褐色土が堆積している。人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器2点、須恵器1点、縄文土器1点が出土している。堆積土の様相、出土遺物などから、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第31号土坑(SK31、図108)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-28グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.5m、第V層で確認

した。SP62と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 東部が調査区域外にあるため、遺構の全容は不明である。確認できた規模は、長軸74cm、短軸(19)cmで、平面形は不明である。確認面からの深さは30～42cmで、底面はやや起伏がある。壁は直立気味に立ち上がり、断面形は浅いU字状である。

[堆積土] 上位は黒褐色土が堆積しているが、底面付近には暗褐色土が堆積している。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、底面から土師器甕の破片1点が出土している。堆積土の様相、出土遺物などから、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第32号土坑(SK32、図108)

[位置・確認] 調査区中央北部、31-20・21グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.6m、第V層で確認した。SI20と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 平面形は、長軸57cm、短軸(42)cmの円形である。確認面からの深さは26～28cmで、底面はやや起伏がある。東側の壁はフラスコ状となっている。

[堆積土] 上位は暗褐色土及び褐色土が堆積し、底面付近にはにぶい黄褐色土が堆積する。人為堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器甕体部破片1点が出土している。堆積土の様相、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第33号土坑(SK33、図108・143)

[位置・確認] 調査区北西部、31-1グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.6～37.7m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は、110×105cmの不整隅丸方形である。確認面からの深さは最深部で31cm、底面はほぼ平坦である。壁は北壁と東壁がオーバーハングし、南壁と西壁はほぼ垂直に立ち上がる。

[堆積土] 9層に分層した。下位(7～9層)には黄褐色～明黄褐色土が堆積し、上位南西側(1～3・6層)には黒～黒褐色土、北東側(4・5層)には暗褐色土が堆積する。4・8層は焼土ブロックを多く含む。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器が少量出土しており、坏(312)と甕(313)を図示した。堆積土に焼土ブロックが多く含まれるものの、遺構底面および壁に被熱痕は認められない。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第34号土坑(SK34、図109・143)

[位置・確認] 調査区中央、31-24グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.8m、第IV層で確認した。SI16と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 東側半分以上が調査区外にあるとみられ、遺構の全容は不明である。確認できた規模は、長軸187cm、短軸(21)cmで、平面形は不明である。確認面からの深さは71～78cmで、底面はほぼ平坦である。壁は緩やかに開いて立ち上がり、断面形は逆台形状をなしている。

[堆積土] 焼土・ローム粒・炭化物を含んだ暗褐色土あるいは褐色土が主として堆積している。人為堆

積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と須恵器、土製品が少量出土しており、このうち土師器甕(314・315)、土錘(316)、土玉(317)を図示した。堆積土の様相、出土遺物などから、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第35号土坑(SK35、図109・144)

[位置・確認] 調査区中央、31-24グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.4～36.5m、第V層で確認した。SI16と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] SI16との重複によって上部が大きく壊されている。確認できた規模は、長軸158cm、短軸136cmで、平面形はやや不整な円形を呈する。確認面からの深さは8～11cmで、底面は平坦である。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 焼土、ローム粒、炭化物を含む黒褐色土が堆積している。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器2点が出土しており、深鉢(318)を図示した。堆積土の様相、遺構の重複関係、出土遺物などから、縄文時代後期の遺構の可能性が高い。その機能は不明である。

第36号土坑(SK36、図109・144)

[位置・確認] 調査区北部中央、31-7グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.0m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は、長軸216cm、短軸181cmの楕円形である。確認面から約190cmの深さまで調査したが、それより下位は湧水のため調査を行うことができなかった。壁は、下位はほぼ直立して立ち上がり、上部は開いて立ち上がる。

[堆積土] ローム粒を含んだ黒色土が主で、第3・6・7・9層で火山灰が検出され、第3・9層出土火山灰について火山灰分析を行ったところ、B-Tmであることが確認された(第6編第1章第1節、灰9・10)。10層以下は人為的に埋め戻されたと思われるが、第9層より上位層は、自然堆積したものが、土圧によって沈み込んだものと考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と須恵器、縄文土器、石器が出土している。このうち土師器坏(319～321)・甕(322・323)・埴(324)、須恵器坏(325)・壺(326)・甕(327)、砥石(328)を図示した。319はB-Tm堆積層より下位の10層から出土した土師器坏で、内面に黒色処理が施されている。320は堆積土上位から出土した土師器坏で、口縁部が大きくゆがんでいる。323は土師器甕の底部で、底外面に木葉痕がみられる。325は須恵器坏で、外面に刻書が確認できる。327は堆積土上位から出土した須恵器甕の体部破片で、胎土分析を行っている(第6編第1章第5節、S-16)。その他、第11～12層からは自然木等の木片が少量出土しているが、図示し得なかった。また、確認面付近の壁直上(裏込土)から出土した炭化物について炭素年代測定を行った(第6編第1章第4節参照、PLD-28332)結果、8世紀後半～9世紀後半の年代が示されている。堆積土の様相、火山灰の検出状況、遺構の形状、出土遺物などから、平安時代の遺構と考えられ、その機能は井戸である。

第37号土坑(SK37、図110)

[位置・確認] 調査区中央南部、31-27・28グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.6m、第IV層で確認した。SI18と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] SI18と重複し、東側が調査区域外にあるため、遺構の全容は不明である。確認できた規模は、長軸102cm、短軸(46)cmである。平面形は不整な楕円形を呈するとみられる。確認面からの深さは28～37cmで、底面には凹凸がみられる。

[堆積土] 上位の1層はロームを含む黒褐色土、下位の2～4層は地山由来の褐色～黄橙色土を基調とする。人為堆積とみられるが、1層は自然堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器4点、縄文土器2点が出土している。堆積土の様相、出土遺物などから、平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第38号土坑(SK38、図110)

[位置・確認] 調査区北部、31-14グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.9～37.0m、第V層で確認した。SI13a・13b・13cと重複し、いずれよりも本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は、長軸53cm、短軸47cmの不整円形を呈する。確認面からの深さは18～29cmで、地山をそのまま底面とし、底面はやや丸みがみられる。壁はやや開きながら立ち上がり、断面形は播り鉢状をなしている。

[堆積土] 炭化物を含んだ褐色もしくは黄褐色のロームが堆積しており、人為的に埋め戻されたものである。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土していない。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係などから平安時代の遺構とみられるが、その機能は不明である。

第39号土坑(SK39、図110)

[位置・確認] 調査区西側北部、31-12グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.0～37.1m、SI22の精査中に確認した。SI22・26、SP87と重複し、本遺構はSI22、SP87より古く、SI26より新しい。

[平面形・規模] 平面形は、長軸88cm、短軸83cmの円形を呈する。確認面からの深さは32～37cmで、底面は平坦である。断面形は上部が開くコ字状をなしている。

[堆積土] 粘土・ローム粒を含む黒色土及び黒褐色土が堆積しており、人為的に埋め戻されたものと思われる。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器が少量出土している。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代の遺構である。その機能は不明だが、SI22の初期段階での付属施設である可能性がある。

第40号土坑(SK40、図110)

[位置・確認] 調査区北西部、31-1グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.6～37.7m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は、76×69cmの楕円形である。確認面からの深さは最深部で18～23cmで、底面

は部分的に凹凸がある。壁はやや開いて立ち上がり、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 4層に分層した。黒褐色土を基調とし、底面直上(4層)にはロームブロックが堆積する。

1～3層にも小粒のロームブロックが含まれることから、人為堆積と推定される。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、須恵器1点が出土している。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代の遺構と思われるが、その機能は不明である。

第41号土坑(SK41、図110・145)

[位置・確認] 調査区北部、31-12グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.0～37.1m、第V層で確認した。SI22・26と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 南部が調査区域外にあるため、全容は不明である。確認できた規模は、長軸110cm、短軸(102)cmで、平面形は円形を呈するとみられる。確認面からの深さは42～48cmで、地山をそのまま底面とし、底面は平坦である。断面形はフラスコ状をなしている。

[堆積土] ローム粒・炭化物を含んだ黒褐色土が主として堆積しており、人為的に埋め戻されたものと思われる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と須恵器、縄文土器が出土しており、このうち須恵器坏(329)・甕(330)を図示した。330は内面に矢羽根状のあて具痕が確認できる須恵器甕の体部破片で、胎土分析を行っている(第6編第1章第5節参照、S-17)。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代の遺構であるとみられるが、その機能は不明である。

第42号土坑(SK42、図110)

[位置・確認] 調査区北部中央、31-8グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.0～37.1m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 調査区際に位置するため、全容は不明である。確認できた規模は、長軸82cm、短軸(38)cmである。確認面からの深さ約130cmまで調査を行ったが、それより下位は、狭小なため調査できなかった。壁は、下位は垂直に立ち上がり、上部は大きく開いて立ち上がる。

[堆積土] 粘土・ローム粒を含んだ黒色土が主として堆積し、第6層には黒色土を含んだ浅黄橙色粘土が堆積している。人為的に埋め戻されたものと考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、須恵器1点が出土している。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから、平安時代の遺構と考えられ、その機能は井戸である可能性が高い。

第43号土坑(SK43、図110・145)

[位置・確認] 調査区北部中央、31-8・9グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.2m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 平面形は、長軸86cm、短軸84cmのほぼ円形を呈する。確認面からの深さは11cmで、地山をそのまま底面とし、底面は概ね平坦である。壁は開いて立ち上がり、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 炭化物を含んだ黒色土が堆積している。自然堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器3点、須恵器2点が出土しており、土師器坏(331)と須恵器甕(332)を図示した。331は、内外面全体的にタール状の黒色付着物がみられる。底面直上から出土した炭化物について炭素年代測定を行った(第6編第1章第4節参照、PLD-28333)結果、8世紀後半～10世紀後半の年代が示されている。また、本土坑跡から出土した炭化材9点について、樹種同定を行った(第6編第1章第2節参照)。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから平安時代の遺構であるとみられるが、その機能は不明である。

第44号土坑(SK44、図110・145)

[位置・確認] 調査区北部、31-12グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.0m、SI26の精査中に確認した。SI22・26と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は、長軸61cm、短軸45cmの楕円形を呈する。確認面からの深さは37～41cmで、地山をそのまま底面とし、底面は平坦である。断面形は上部が開くコ字状をなしている。

[堆積土] ローム粒を含んだ黒色土及び黒褐色土が堆積し、人為的に埋め戻されたものと思われる。

[出土遺物・遺構の時期等] 底面から土師器甕1点(333)が出土しており、図示した。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代の遺構であると思われるが、その機能は不明である。

第45号土坑(SK45、図110・145)

[位置・確認] 調査区北部、31-12グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.0m、SI26の精査中に確認した。SI22・26と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模] 平面形は、長軸93cm、短軸71cmの楕円形を呈する。確認面からの深さは16～34cmで、地山をそのまま底面とし、底面は丸みを帯びる。壁は開いて立ち上がり、断面形は掘り鉢状をなしている。

[堆積土] ローム粒・炭化物を含んだ黒褐色土が堆積し、人為的に埋め戻されたものとみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器が少量出土している。図示した土師器小甕(334)はSI26掘方や床面直上などから出土した遺物と接合している。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代の遺構であり、出土遺物の接合状況や、位置的にSI26の付属施設である可能性が考えられる。

4 溝跡

農道31号からは合計9条の溝跡が検出された。SD06は調査区中央で検出されたが、その他の溝跡は調査区北西部の31-1～31-14グリッドにまとまりがみられる。溝跡には、円形周溝1基(SD01)、外周溝もしくはその可能性が高いもの7条(02～05・07～09)、その他1条(SD06)があり、いずれも平安時代と思われる。

第1号溝跡(SD01、図111・146)

[位置・確認] 調査区北部、31-13・14グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.1～37.2m、第IV

層で確認した。SI13、SK27と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模・底面] 南側が調査区域外へと延びているため全容は不明であるが、平面形は環状もしくは一部が途切れる環状を呈するものと思われる。確認できた長さは(8.8)m、幅は46～81cm、概ね幅60～70cmの半円状で、溝の内径は約4.8mである。確認面からの深さは38～48cmで、掘方はなく、地山もしくは下位遺構の堆積土をそのまま底面としている。底面は丸みを有して開きながら壁が立ち上がり、断面形は掘り鉢状をなしている。

[堆積土] 微量のローム粒・炭化物を含んだ黒色土及び黒褐色土が堆積しており、自然堆積とみられる。白頭山苦小牧火山灰は確認されなかった。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と須恵器が出土しており、土師器坏(335)、須恵器長頸壺(336)を図示した。335は底外面がヘラケズリによって調整されている土師器坏である。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物等から平安時代のものと考えられる。本遺構の機能は、その形状等から円形周溝とみられることから墓と考えられる。

第2号a・b溝跡(SD02a・02b、図111)

[位置・確認] 調査区北部、31-13・14グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.2m、第IV層で確認した。途中途切れているが、形状から同一溝と判断できたことから、南側をSD02a、北側をSD02bとして調査を行った。SD02aはSK25と、SD02bはSP54・132と重複し、SK25より新しくSP54・132より古い。

[平面形・規模・底面] 南側のSD02aは、南側が調査区域外に延びているため、遺構の全容は不明である。北西-南東方向に長軸をもつ溝跡で、確認できた長さは(1.4)m、幅57～73cm、確認面からの深さは17cmである。底面は第V層中であって、やや凹凸がみられ、北西端より南東端の方が約10cm低く、南東端へ傾斜している。断面形は皿状をなしている。

北側のSD02bは、北西側が調査区域外に延びているため遺構の全容は不明である。北西-南東方向に長軸をもつ溝跡で、確認できた長さは(3.3)m、幅53～66cm、確認面からの深さは23～28cmである。底面は第V層中であって、やや凹凸がみられ、南東端より北西端の方が約10cm低く、北西端へ傾斜している。断面形は皿状をなしている。

これら2条の溝跡は同軸線上にあって、SD02aは北西端が、SD02bは南東端が緩やかに立ち上がってきている。このことから、両者は浅い溝でつながっていたものと推測される。

[堆積土] SD02aは焼土・ローム粒を含んだ暗褐色土が堆積し、SD02bはロームブロックを含んだ黒褐色土が主に堆積している。SD02bの南側(Bセクション)付近は人為堆積の可能性はあるが、他は自然堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、SD02aからは須恵器1点が、SD02bからは土師器と須恵器が少量出土している。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物等から平安時代のものと考えられる。本溝跡の南西方向約1.5～2.1mにSI22とSI26が位置しており、本遺構の機能はその形状や位置、走行方向などからSI22もしくはSI26の外周溝の可能性が考えられる。

第3号溝跡(SD03、図112・146)

[位置・確認] 調査区北西部、31-2グリッドに位置する。遺構確認面の標高は南東部で37.4~37.5m、北西部で37.6~37.7m、第IV層で確認した。本遺構はSD04・05より新しい。

[平面形・規模・底面] 平面形は弧状であり、南端が円形の土坑状に掘り込まれる。北端は調査区外に延びる。検出した長さは(6.4)m、幅は47~197cmで南側ほど広い。壁は垂直に近い状態でやや開いて立ち上がる。確認面からの深さは35~49cmであり、底面には凹凸が見られる。北端と南端の高低差は約20cmで南側に低く傾斜する。南端部の土坑は、確認面からの深さ67cm、溝底面からの高低差は47cmである。壁は開いて立ち上がり、底面は丸みを帯びる。

[堆積土] 下位にはロームブロックを多量に含む層が堆積する(B-B'2層、C-C'6層)。底面上に堆積することから、掘削後まもなく堆積したと推定される。上位層(B-B'1層、C-C'1~5層)はII層由来の黒色~黒褐色土が堆積する。小~中粒のロームブロックが一定量含まれることから、人為堆積の可能性が高い。南端の土坑には、下位(A-A'7・9・10層)にII層由来の黒色土が堆積する。比較的均質であることから、自然堆積と推定される。8層はV層由来土で、北東壁際に堆積する。対応する部分の壁が抉れていることから、壁崩落土と判断できる。中位(A-A'5・6層)には灰を多量に含む層が堆積し、炭化種子も含まれる。上位(A-A'2~4層)には小粒のロームブロックを含むII層由来の黒色土が堆積する。堆積要因は定かではない。検出面では火山灰が検出されている(A-A'1層)。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器と須恵器、土製品が出土しており、このうち土師器坏(337~339)・甕(340~342)、須恵器坏(343)、土玉(344・345)、焼成粘土(346)を図示した。337は南端土坑部の東壁に接した状態で出土したほぼ完形の土師器坏で、内外面にタール状の黒色物が付着する。検出層位は7層上面であることから、灰層(A-A'5・6層)とほぼ同じタイミングで放置されたものと考えられる。溝跡内の土坑中位に灰が検出される例は、農道30号のSD12でも確認されていることから、この灰は土坑の機能を示す可能性が高い。灰を用いる作業の一例としては、堅果や山菜のアク抜きが想定されるものの、調査段階ではこれら土坑部分を含む溝跡は比較的水はけが良好であり、それらの作業に適していたか否かは不明瞭である。

堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物等から平安時代のものと考えられ、本遺構の機能は、その形状や走行方向から竪穴建物跡の外周溝の可能性が考えられる。本溝跡の南東部に付属する掘立柱建物跡(SB10)が検出されていることから、その北西側、かつ本溝跡東側の調査区域外に竪穴建物跡が存在するものと思われる。また本溝跡はSD04・05と重複しており、SD04もしくはSD05で機能していた外周溝が機能を果たせなくなったために本溝跡を作ったものと考えられる。SD03・05は北西部分を共有していることから、SD03の直前期にSD05が使われ、それより古い時期にSD04が使われていたものと推測できる。したがってSD04、SD05、SD03の順で新しくなるものと考えられる。

第4号溝跡(SD04、図112・146)

[位置・確認] 調査区北西部、31-1・2グリッドに位置する。遺構確認面の標高は南東部で37.5~37.6m、北西部で37.7~37.8m、第IV層で確認した。本遺構はSD03より古い。

[平面形・規模・底面] 平面形は弧状であり、北端は調査区外に延びる。南端はSD03に掘り込まれ、残存していない。検出した長さは5.2m、幅は26~65cmである。壁はやや開いて立ち上がる。確認面か

らの深さは7～26cmで、底面には凹凸が見られる。顕著な傾斜は認められない。

[堆積土] 下位にはロームブロックを多量に含む層が堆積する(2層)。底面上に堆積することから、掘削後まもなく堆積したと推定される。上位層(1層)はⅡ層由来の黒褐色土が堆積する。小～中粒のロームブロックが一定量含まれることから、人為堆積の可能性が高い。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器が少量出土しており、このうち坏(347)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物等から平安時代のものと考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向からSB10と関連する竪穴建物跡の外周溝とみられ、SD03が作られる前の時期に機能していたものである。

第5号溝跡(SD05、図112)

[位置・確認] 調査区北西部、31-2グリッドに位置する。遺構確認面の標高は南東部で37.5m、北西部で37.6m、第Ⅳ層で確認した。本遺構はSD03より古い。

[平面形・規模・底面] 平面形は直線状であり、北端はSD03に掘り込まれ、残存していない。検出した長さは(3.8)m、幅は31～47cmである。壁は垂直に近い状態でやや開いて立ち上がる。確認面からの深さは10～21cmで、底面には凹凸が見られる。顕著な傾斜は認められない。

[堆積土] 下位にはロームブロックを多量に含む層が堆積する(2層)。底面上に堆積することから、掘削後まもなく堆積したと推定される。上位層(1層)はⅡ層由来の黒褐色土が堆積する。小～中粒のロームブロックが一定量含まれることから、人為堆積の可能性が高い。

[出土遺物・遺構の時期等] 図示していないが、土師器が少量出土している。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物等から平安時代のものと考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向からSB10と関連する竪穴建物跡の外周溝とみられ、北西側がSD03と共有していることからSD03の直前期に機能していたものと考えられる。

第6号溝跡(SD06、図113)

[位置・確認] 調査区中央、31-27グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.7m、第Ⅳ層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面] 調査区壁際に位置し、遺構の大部分が調査区域外にあるため遺構の全容は不明であるが、北東-南西方向に長軸をもつとみられる。確認できた長さは(60)cm、幅は39cm、確認面からの深さは49～53cmである。地山をそのまま底面としており、西端では深さ13cmのピット状の落ち込み(Pit 1)が検出された。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土していない。堆積土の様相、遺構の形状から平安時代の遺構である可能性が高いが、検出部分が少なく、本遺構の機能や詳細は不明である。

第7号a・b溝跡(SD07a・07b、図92・133・134)

[位置・確認] 調査区北部中央、31-10・11グリッドに位置する。SI24の外周溝であることから、SI24の中で報告を行っている。

第8号溝跡(SD08、図92)

[位置・確認] 調査区北部中央、31-9グリッドに位置する。SI24の外周溝であることから、SI24の中で報告を行っている。

第9号溝跡(SD09、図113)

[位置・確認] 調査区北部、31-12グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.1~37.2m、第V層で確認した。SI22と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模・底面] 北側が削平によって残存せず、南側は調査区域外へ延びているため、遺構の全容は不明である。北西-南東方向に長軸を持ち、緩やかに湾曲しながら延びる溝跡で、確認できた長さは(2.9)m、幅は18~45cm、確認面からの深さは4~13cmである。底面は第V層中であって、概ね平坦で、北西端と南東端で比高差がほとんどなく、水平である。断面形は皿状をなしている。

[堆積土] ローム粒を含んだ黒褐色土が堆積しており、掘方等の人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土していない。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係などから、平安時代のもと考えられる。本遺構はSI26の南西壁に沿うように作られていることから、SI26に関連する溝跡である可能性がある。

5 溝状土坑

農道31号からは5基の溝状土坑が検出された。14~47グリッドの尾根頂部に散在している。

第1号溝状土坑(SV01、図114)

[位置・確認] 調査区南部、31-41グリッドに位置する。遺構確認面の標高は35.5~35.7m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面] 確認面での平面形は、長さ3.0m、幅31~46cmの溝状を呈する。確認面からの深さは94~98cmである。底面は幅11~17cmで水平に整えてあり、長さは3.3mである。壁は、両端ともオーバーハングしている。主軸方向はN-7°-Eである。

[堆積土] ローム粒を含む黒褐色土及び褐色土が堆積し、底面には黒色土を含む明黄褐色土が堆積し、自然堆積土と思われる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土していない。遺構の形状から縄文時代の落とし穴と考えられる。

第2号溝状土坑(SV02、図114)

[位置・確認] 調査区北部、31-18グリッドに位置する。遺構確認面の標高は37.0m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面] 確認面での平面形は、長さ3.2m、幅36~50cmの溝状を呈する。確認面からの深さは93cmである。底面は幅6~23cmで水平に整えてあり、長さは3.3mで、長軸端部の壁は両端ともオーバーハングしている。主軸方向はN-118°-Eである。

[堆積土] 堆積土は3層に分層されるが、いずれも暗褐色土及び黒褐色土が堆積しており、自然堆積土

と思われる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土していない。遺構の形状から縄文時代の落とし穴と考えられる。

第3号溝状土坑(SV03、図114・147)

[位置・確認] 調査区中央、31-26・27グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.6m、第IV層で確認した。SI17、SK20と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模・底面] SI17との重複により、北側の約3分の1は上部が削平され、底面近くしか残存していなかった。確認できた平面形は、長さ3.4m、幅34~43cmの溝状を呈する。確認面からの深さは80~84cmである。底面は幅8~10cmで水平に整えてあり、長さは3.3mである。南端はオーバーハングしている。北端の形状は、上端が残存していないため不明である。主軸方向はN-147°-Eである。

[堆積土] 堆積土は9層に分層される。黒褐色土が主として堆積しており、部分的に地山に由来する黄褐色土の堆積が確認できる。壁の崩落を伴う自然堆積土と思われる。

[出土遺物・遺構の時期等] 縄文土器深鉢1点(348)と敲石1点(349)が出土しており、図示した。348は堆積土上位から、349は底面近くから出土している。遺構の形状、出土遺物から縄文時代の落とし穴と考えられる。

第4号溝状土坑(SV04、図115)

[位置・確認] 調査区南部、31-46グリッドに位置する。遺構確認面の標高は34.7m、SI12掘方底面で確認した。SI12と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模・底面] 検出したのは北端部のみであり、大部分が調査区外に位置する。短軸長は34cm、長軸は不明である。確認面からの深さは40~56cmである。壁はやや開いて立ち上がり、底面は平坦である。主軸方向はN-40°-Eである。

[堆積土] 2層に分層した。いずれも黒褐色土を基調とし、ロームブロックが混入する。遺構の上位がSI12により大きく削平されており、ロームブロックの由来が壁崩落土の可能性も考えられることから、堆積要因は特定しがたい。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土していない。遺構の形状から縄文時代の落とし穴と考えられる。検出当初はSI12のピットと推測したが、SI12の貼床の下面で検出したこと、平面形の長軸がSI12と異なることから、別遺構と認定した。検出した部分の形状及び深さが、近接するSV01と類似することから、本遺構を溝状土坑と認定した。

第5号溝状土坑(SV05、図115)

[位置・確認] 調査区北部、31-15グリッドに位置する。遺構確認面の標高は36.6~36.7m、SI14の掘方底面で確認した。SI14と重複し、本遺構が古い。

[平面形・規模・底面] 東側が調査区域外に延びており、かつ上部がSI14によって壊されており、不明な点が多い。確認できた平面形は、長さ(1.6)m、幅14~22cmの溝状を呈する。確認面からの深さは

49～62cmである。底面は幅5～8cmで水平に整えてあり、長さは(1.7)mである。長軸西端の壁はオーバーハングしていることから、東端も同様であると思われる。主軸方向はN-86°-Eである。

[堆積土] 堆積土は5層に分層される。黒褐色土と地山由来の褐色または黄褐色土が互層に堆積しており、壁の崩落を伴う自然堆積土と思われる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土していない。遺構の形状から縄文時代の落とし穴と考えられる。

6 埋設土器遺構

農道31号からは2基の埋設土器遺構が、26・30グリッドにおいて検出された。

第1号埋設土器遺構(SR01、図116・147)

[位置・確認] 31-30グリッドに位置し、SI04上面で確認した。単独で存在するが、SI04、SK07・11と重複し、SI04より新しく、SK07・11より古い。

[埋設方法・掘方・堆積土] 深鉢(350)が、南東側に寄せられて逆位で埋置されている。南東壁と土器の間には、敲磨器(351)が置かれていた。土器の底部は欠損し、口縁部の波頂部も欠失している。掘方は径約40cmの円形で、深さは約20cmである。掘方堆積土は、下位に黒褐色、上位ににぶい黄褐色土が堆積しており、土器内部には黒褐色土が堆積していた。

[土器の詳細と時期等] 口縁部に側面圧痕で山形状のモチーフが押圧される深鉢形土器(350)で、縄文時代中期初頭(円筒上層a2式)に比定されるものと考えられる。その他、敲磨石(351)が出土している。

第2号埋設土器遺構(SR02、図116・147)

[位置・確認] 31-26グリッドに位置し、第V層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[埋設方法・掘方・堆積土] 深鉢の体部下半が正位に埋置されていたとみられるが、残存状態が悪く、詳細は不明である。掘方は径約20cmで、土器の直径よりやや大きかったとみられる。深さ約20cmである。堆積土は黒褐色土と暗褐色土を基調とする。

[土器の詳細と時期等] 深鉢形土器(352)の胴部破片で、外面に結束第1種の縄文を施す。縄文時代中期前半に比定されるものと考えられる。

第2節 遺構外の出土遺物

遺構外の遺物には縄文時代のものと平安時代のものがある。段ボール箱で約5箱分出土した。

1 縄文時代の出土遺物(図148)

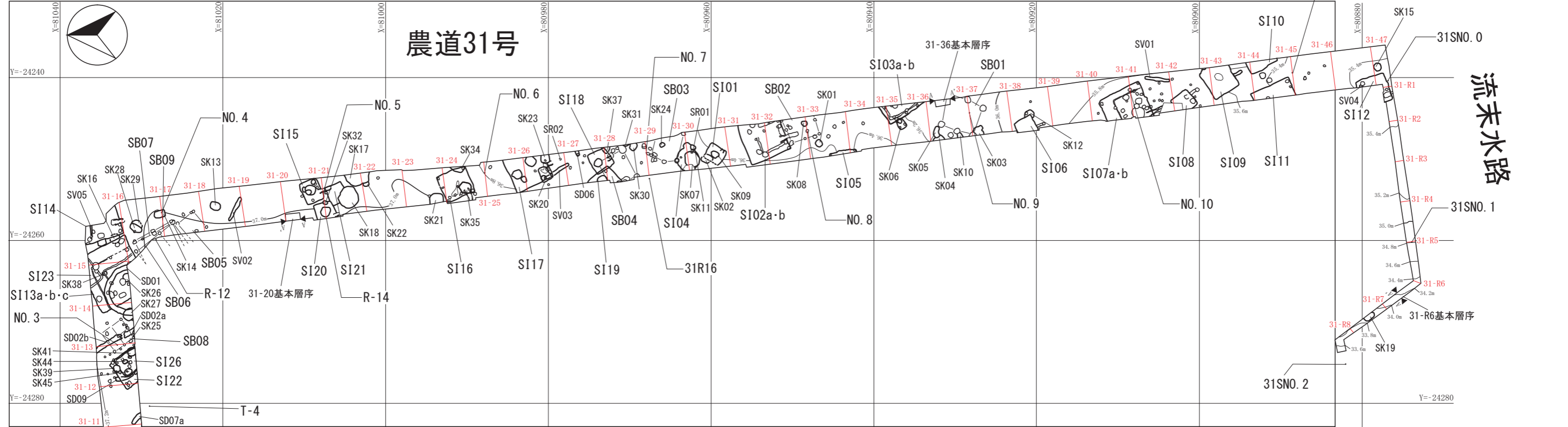
土器は晩期の台坏鉢(353)を図示した。台部が剥落しているが、外面は丁寧なミガキ調整がなされている。石器は、搔器(354)、削搔器(355)、磨製石斧(356)、石錘(357)、円盤状石製品(358)を図示している。356は欠損しているが花崗岩製の磨製石斧である。358は円盤状石製品としたが外周の約3分の1に加工を施しているが、残りの約3分の2は自然面を残している。

2 平安時代の出土遺物(図148・149)

土器は、土師器坏(359～361)・甕(362)・小鉢(363)・ミニチュア甕(364・365)、須恵器坏(366～369)・鉢(370)・壺(371・372)・甕(373)を図示した。359～361は土師器坏で、359は体部がやや丸みをもって立ち上がる器形で、内面にミガキと黒色処理が施されている。361は体部下半に丸みがあり、内外面ともに表面が剥落している部分がみられる。362は土師器甕の底部で、外面に木葉痕が残る。363は体部から口縁部に向かって直線的に開いて立ち上がり、口縁部が僅かに直立する器形で、口径9.0cmの小型の製品である。内外面は主にナデ調整が施されている。体部下半の状態が不明であるが、小鉢状の製品とみられる。364・365はミニチュア甕で、主に指オサエで整形されており、365の内外面にはオサエに伴う爪痕が明瞭に残る。366～369は須恵器坏で、366・368・369は外面に刻書がみられる。367は還元やや軟質焼成で、胎土分析を行っている(第6編第1章第5節、S-18)。370は頸部が短く立ち上がっている須恵器鉢で、外面に「田」の字状の刻書が見られる。371・372は須恵器壺である。371は口縁部破片で、内外面が被熱している。372は底部破片で、底外面に菊花状の調整がみられる。373は須恵器甕の口縁部で、頸部に絞り痕とみられる薄い斜走線が確認できる。

土石製品は勾玉(374)、土錘(375)、不明土製品(376)、羽口(377)を図示した。不明土製品(374)は、棒状であるが一端は強く湾曲し断面が円形、もう一端は弱く湾曲し断面が扁平となっている。土錘(375)は、6点出土したSI11と同じグリッド(31-44)から出土したものである。

全体図 (11~46グリッドのSP番号を除く)



農道31号
下石川平野遺跡

11~46グリッドのSP配置図 (SP番号入り)

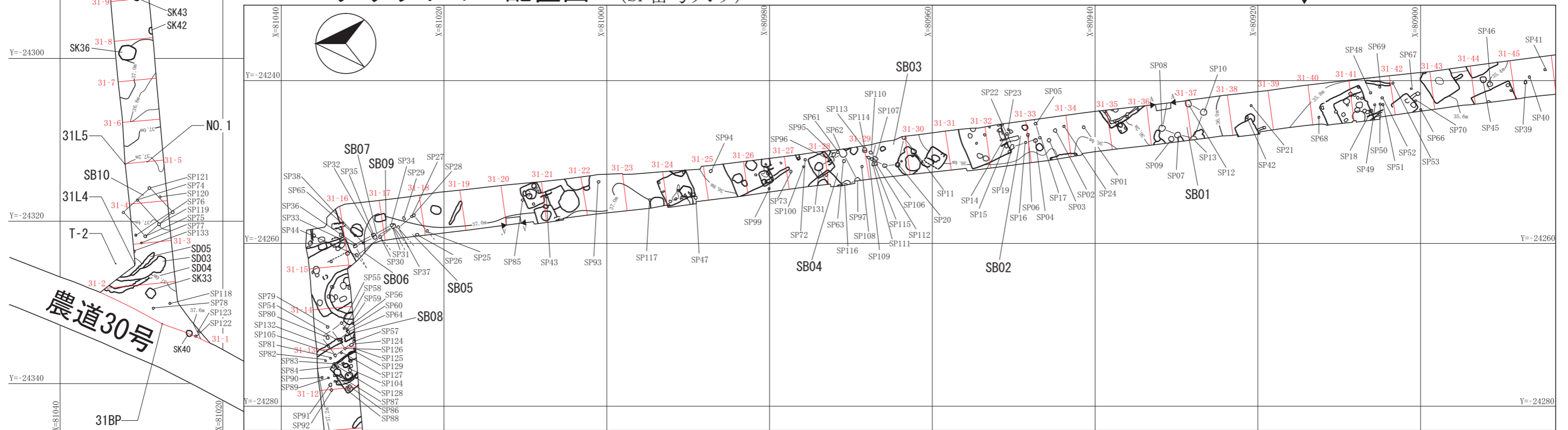
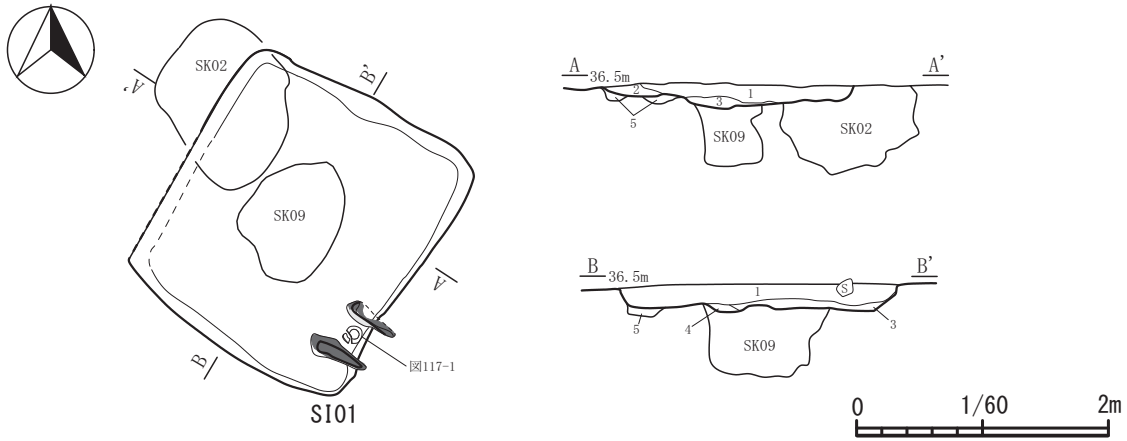
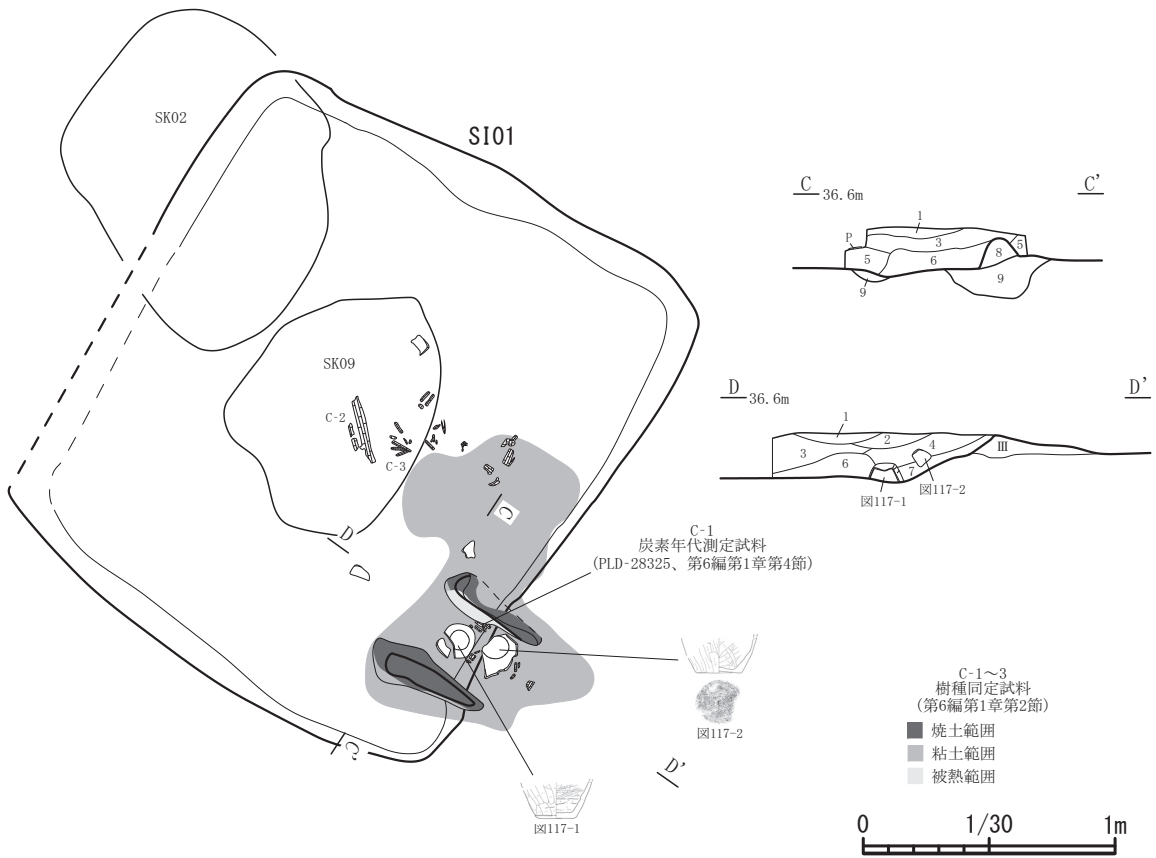


図49 農道31号遺構配置図



S101 (A-A'・B-B')

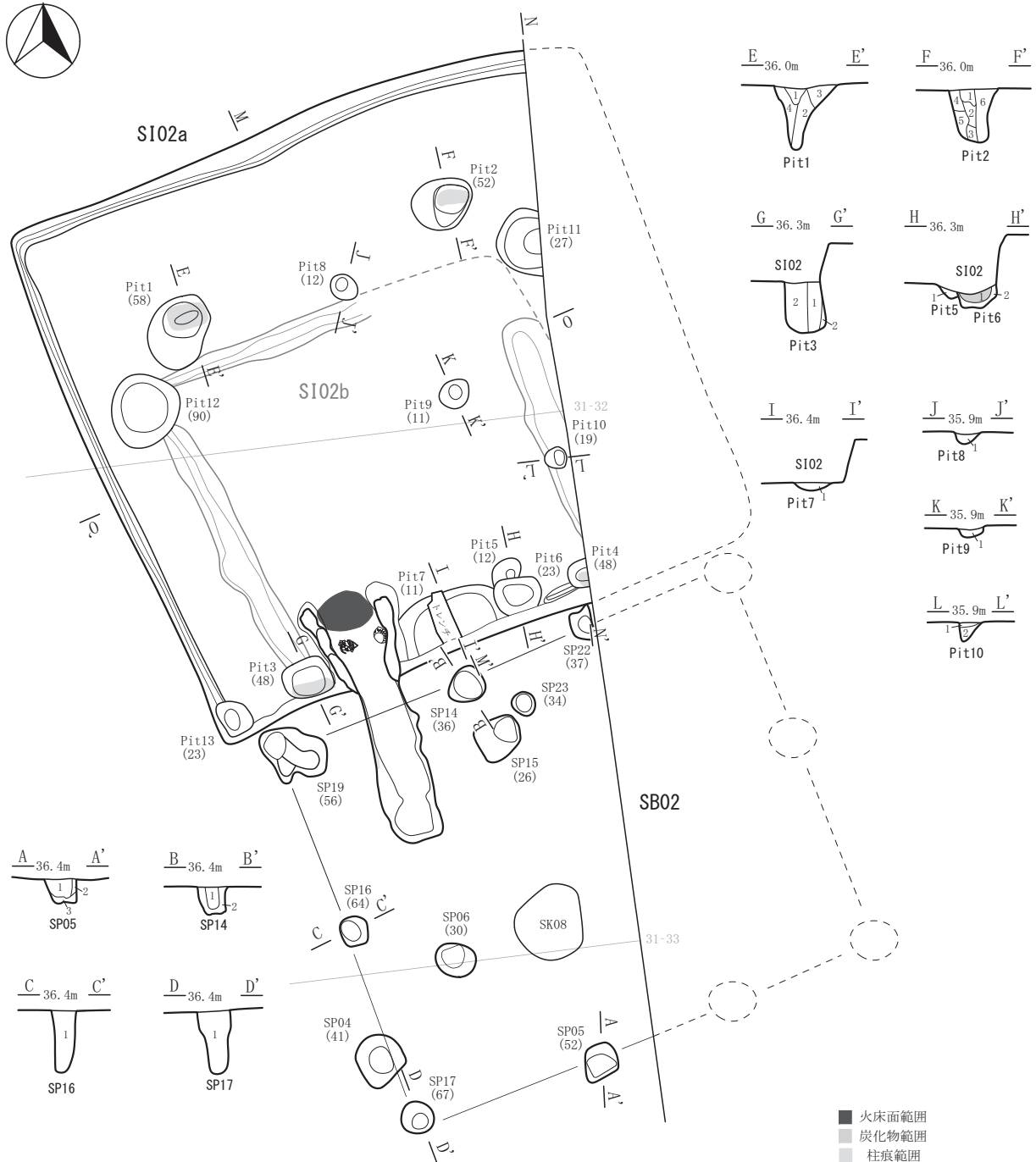
- 1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1~50mm)10%、炭化物(φ1~20mm)5%。
- 2層 10YR5/4 濃い黄褐色土 カマド部材のロームが混入。10YR4/3にぶい黄褐色土40%、ローム粒(φ1~3mm)1%、炭化物(φ1~40mm)1%。
- 3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~50mm)15%、炭化物(φ1~5mm)5%。
- 4層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~20mm)5%、炭化物(φ1~10mm)1%。
- 5層 10YR6/6 明黄褐色土と10YR3/4暗褐色土の混合層。建物掘方。



S101カマド(C-C'・D-D')

- 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/6明褐色ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
- 2層 10YR4/4 褐色土 10YR6/6明褐色ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~20mm)2%。
- 3層 10YR3/4 暗褐色土 10YR6/6明褐色ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%。
- 4層 10YR5/6 黄褐色土 10YR6/6明褐色ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~20mm)3%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1~3mm)1%。
- 5層 10YR3/4 暗褐色土 10YR6/6明褐色ローム粒(φ1~10mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
- 6層 10YR3/3 暗褐色土 5YR4/8赤褐色焼土(φ1~10mm)3%、10YR6/6明褐色ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
- 7層 10YR3/2 黒褐色土 炭化物(φ10mm)2%、10YR6/6明褐色ローム粒(φ1mm)1%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1mm)1%。
- 8層 10YR5/6 黄褐色土 カマド袖。袖内側は被熱により5YR5/6明赤褐色を呈す。
- 9層 10YR6/6 明黄褐色土と10YR3/4暗褐色土の混合層。建物掘方。

図50 第1号竪穴建物跡

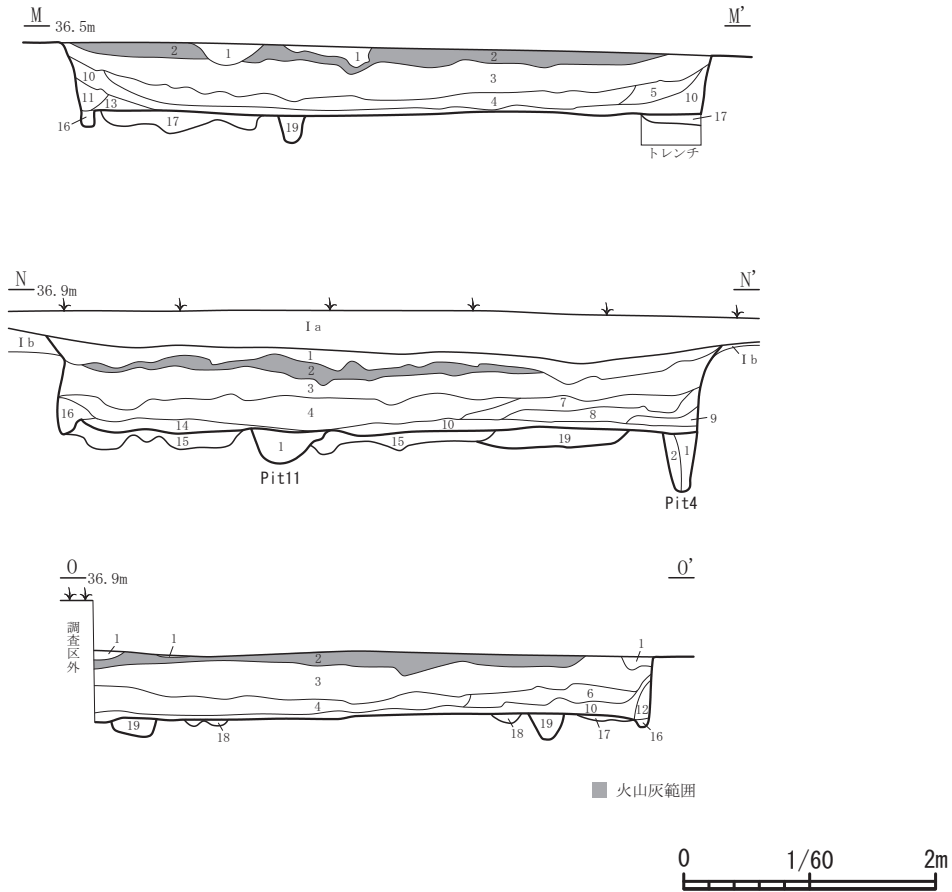


SB02 (A-A'・B-B'・C-C'・D-D')

- SP05 (A-A')**
 1層 10YR4/4 褐色土
 2層 10YR4/6 褐色土
 3層 10YR4/3 に近い黄褐色土
- SP14 (B-B')**
 1層 10YR5/6 黄褐色土
 2層 10YR2/3 黒褐色土
- SP16 (C-C')**
 1層 10YR4/6 褐色土
- SP17 (D-D')**
 1層 10YR4/6 褐色土
- Pit1 (E-E')**
 1層 10YR3/4 暗褐色土
 2層 10YR4/6 褐色土
 3層 10YR5/8 黄褐色土
 4層 10YR5/6 黄褐色土
- Pit2 (F-F')**
 1層 10YR3/4 暗褐色土
 2層 10YR4/6 褐色土
- Pit3 (G-G')**
 1層 10YR4/3 に近い黄褐色土
 2層 10YR4/6 褐色土
- Pit5 (H-H')**
 1層 10YR4/6 褐色土
 2層 10YR2/1 黒色土
 3層 10YR4/6 褐色土
- Pit6 (H-H')**
 1層 10YR2/1 黒色土
 2層 10YR4/6 褐色土
- Pit7 (I-I')**
 1層 10YR4/6 褐色土
- Pit8 (J-J')**
 1層 10YR4/6 褐色土
- Pit9 (K-K')**
 1層 10YR3/3 暗褐色土
- Pit10 (L-L')**
 1層 10YR3/2 黒褐色土
 2層 10YR6/8 明黄褐色土
- ローム粒 (φ 1~10mm) 5%、炭化物 (φ 1~3mm) 1%。
 ローム粒 (φ 1~20mm) 5%。
 ローム粒 (φ 1~10mm) 5%、炭化物 (φ 1~10mm) 1%。
 抜き取り痕? ローム粒 (φ 2~25mm) 10%、炭化物 (φ 1~7mm) 1%。
 掘方。ローム10YR6/6明黄褐色土15%、炭化物 (φ 2~3mm) 1%。
 ローム粒 (φ 3~15mm) 1%。
 10YR5/8黄褐色土20%、ローム粒 (φ 2~10mm) 1%、炭化物 (φ 5mm) 1%。
 ローム粒 (φ 1~30mm) 5%、炭化物 (φ 1mm) 2%。
 10YR5/4に多い黄褐色粘土20%、ローム粒 (φ 1~5mm) 2%、炭化物 (φ 1mm) 1%。
 ローム粒 (φ 1~5mm) 2%、炭化物 (φ 1~3mm) 2%。
 ローム粒 (φ 1~3mm) 2%、炭化物 (φ 1mm) 1%。
 ローム粒 (φ 1~10mm) 3%、炭化物 (φ 1~3mm) 2%。
 ローム粒 (φ 1~3mm) 2%、炭化物 (φ 1~3mm) 1%。
 ローム粒 (φ 1~3mm) 1%、炭化物 (φ 1mm) 1%。
 ローム粒 (φ 1~10mm) 3%、炭化物 (φ 1~5mm) 2%。

- Pit3 (G-G')**
 1層 10YR4/3 に近い黄褐色土
 2層 10YR4/6 褐色土
- Pit5 (H-H')**
 1層 10YR4/6 褐色土
 2層 10YR2/1 黒色土
 3層 10YR4/6 褐色土
- Pit6 (H-H')**
 1層 10YR2/1 黒色土
 2層 10YR4/6 褐色土
- Pit7 (I-I')**
 1層 10YR4/6 褐色土
- Pit8 (J-J')**
 1層 10YR4/6 褐色土
- Pit9 (K-K')**
 1層 10YR3/3 暗褐色土
- Pit10 (L-L')**
 1層 10YR3/2 黒褐色土
 2層 10YR6/8 明黄褐色土
- 柱痕。
 10YR5/8明黄褐色ローム粒 (φ 1~3mm) 2%、炭化物 (φ 1mm) 1%。
 10YR4/6褐色土5%、炭化物 (φ 1mm) 1%。
 10YR6/8明黄褐色ローム粒 (φ 1mm) 1%。
 10YR6/8明黄褐色ローム粒 (φ 1~5mm) 3%、炭化物 (φ 1mm) 2%。
 炭化物 (φ 1mm) 1%。
 10YR4/6褐色土20%、炭化物 (φ 5~10mm) 3%、10YR7/8黄褐色ローム粒 (φ 2~10mm) 2%。

図51 第2号a竪穴建物跡 (1)



SI02(M-M'・N-N'・O-O')

- 1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR4/4褐色土20%、10YR3/4暗褐色土10%、炭化物(φ5mm)1%。
- 2層 10YR4/4 褐色土 ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~15mm)2%、B-Tmと思われる火山灰1%。
- 3層 10YR4/6 褐色土 ローム粒(φ1~70mm)10%、炭化物(φ1~20mm)3%。
- 4層 10YR4/4 褐色土 10YR5/8黄褐色土ローム粒(φ3~170mm)15%、10YR2/3黒褐色土10%、10YR6/4にぶい黄橙色土ローム粒(φ10~20mm)1%。
- 5層 10YR4/4 褐色土 10YR3/4暗褐色土30%、ローム粒(φ1~30mm)3%、炭化物(φ2~3mm)1%。
- 6層 10YR4/6 褐色土 10YR6/8明黄褐色土ローム粒(φ1~30mm)5%。
- 7層 10YR4/4 褐色土 ローム粒(φ1~30mm)10%、炭化物(φ1~15mm)3%。
- 8層 10YR5/6 黄褐色土 ローム粒(φ1~20mm)5%。
- 9層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 10YR2/2黒褐色土30%、ローム粒(φ1~3mm)10%、炭化物(φ1~3mm)2%。
- 10層 10YR3/4 暗褐色土 10YR4/6褐色土20%、ローム粒(φ1~15mm)1%。
- 11層 10YR3/3 暗褐色土 ローム粒(φ1~25mm)1%。
- 12層 10YR4/6 褐色土 ローム粒(φ2~3mm)1%。
- 13層 10YR4/4 褐色土 10YR5/6黄褐色土ローム15%。
- 14層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 ローム粒(φ1~30mm)5%、炭化物(φ1~10mm)2%、焼土(φ1mm)1%。
- 15層 10YR6/6 明黄褐色土 SI02a貼床。ローム粒(φ1~3mm)13%、炭化物(φ1~4mm)1%。
- 16層 10YR4/6 褐色土 SI02a壁溝。炭化物(φ1mm)1%。
- 17層 10YR8/6 黄橙色土 SI02a掘方。10YR8/3浅黄橙色粘土5%。
- 18層 10YR7/8 黄橙色土 SI02a掘方。
- 19層 10YR7/6 明黄褐色土 SI02b壁溝。10YR3/4暗褐色土20%。

Pit4(N-N')

- 1層 10YR2/1 黒色土 柱痕。10YR3/2黒褐色土15%、ローム粒(φ1~10mm)3%。
- 2層 10YR4/6 褐色土 掘方。ローム粒(φ1~20mm)2%、炭化物(φ1~5mm)2%。

Pit11(N-N')

- 1層 10YR4/6 褐色土 炭化物(φ1~3mm)3%、ローム粒(φ1~20mm)2%。

図52 第2号a竪穴建物跡(2)

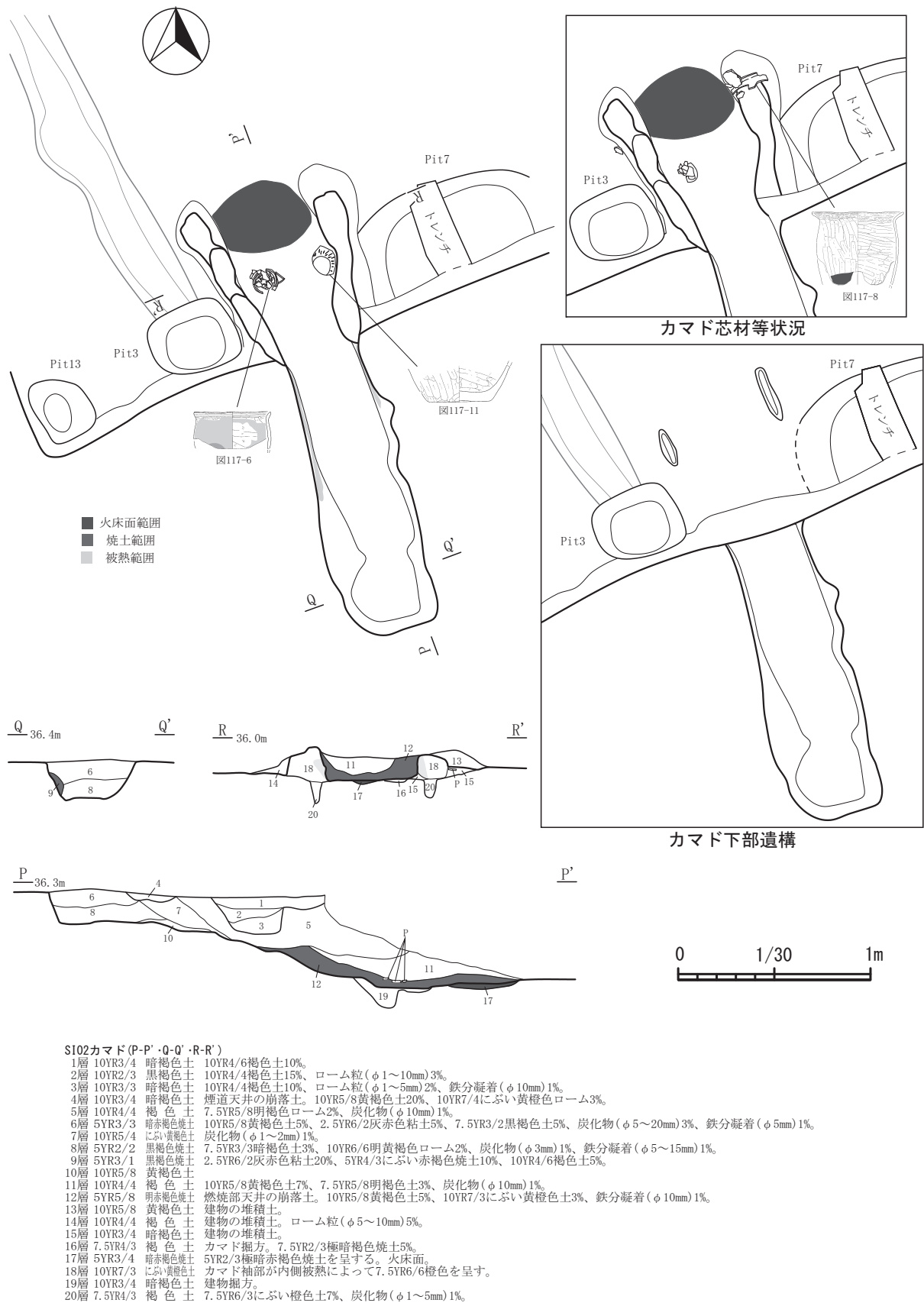


図53 第2号a竈穴建物跡(3)

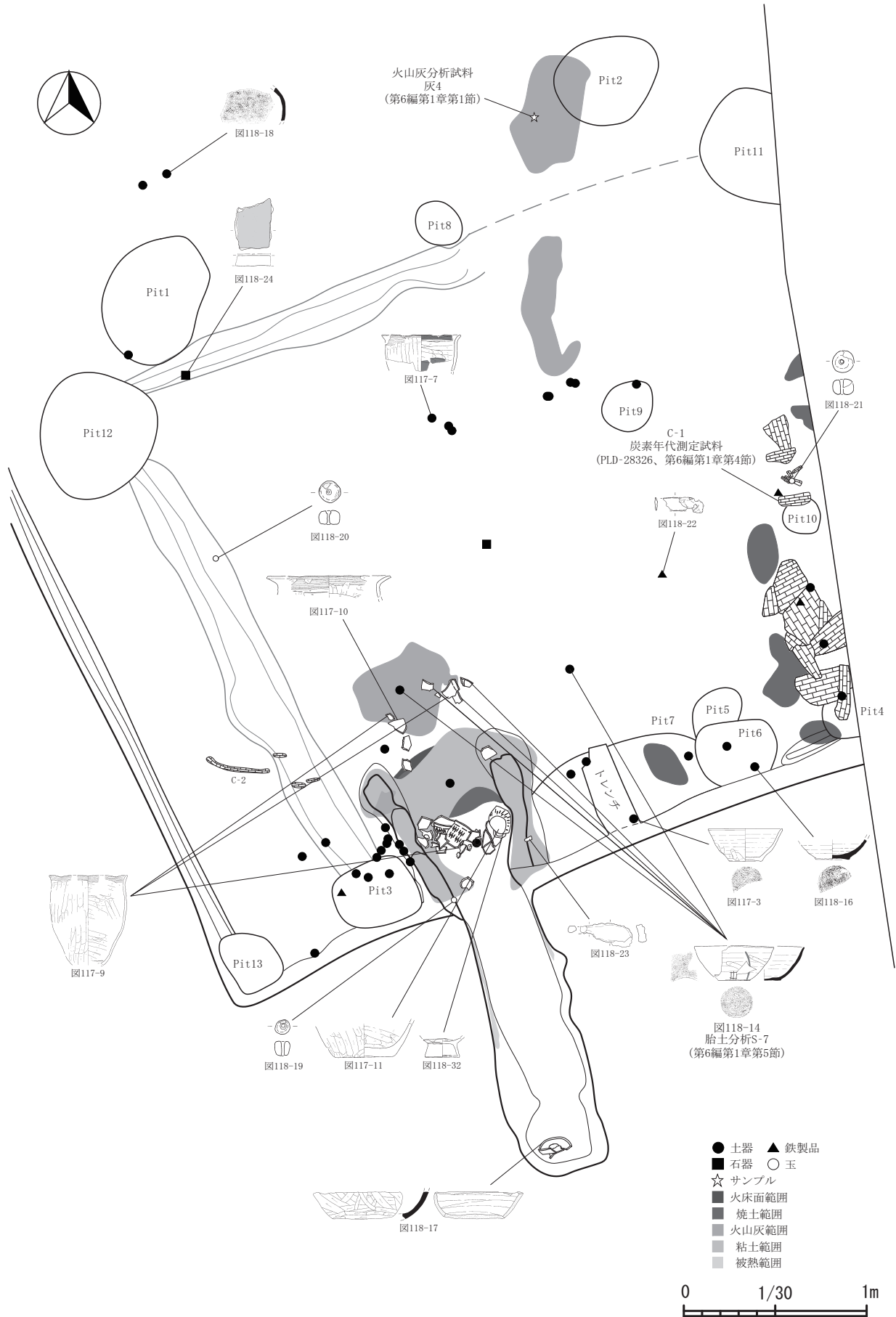


図54 第2号a竪穴建物跡(4)

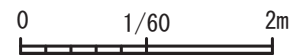
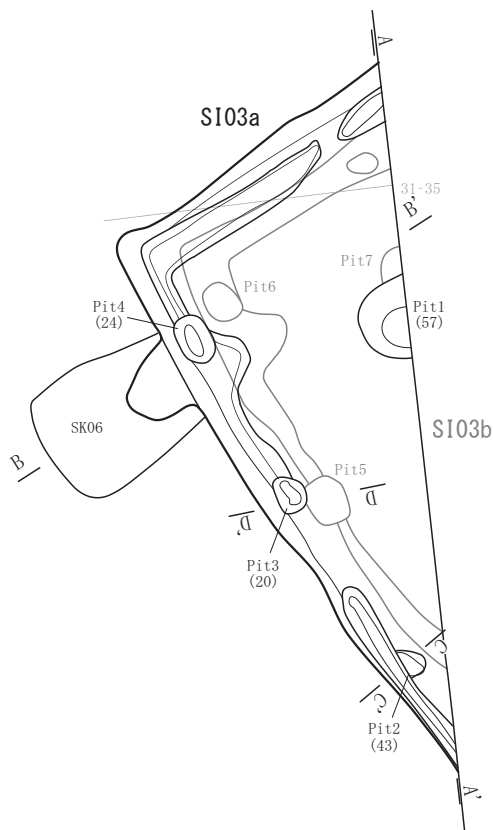
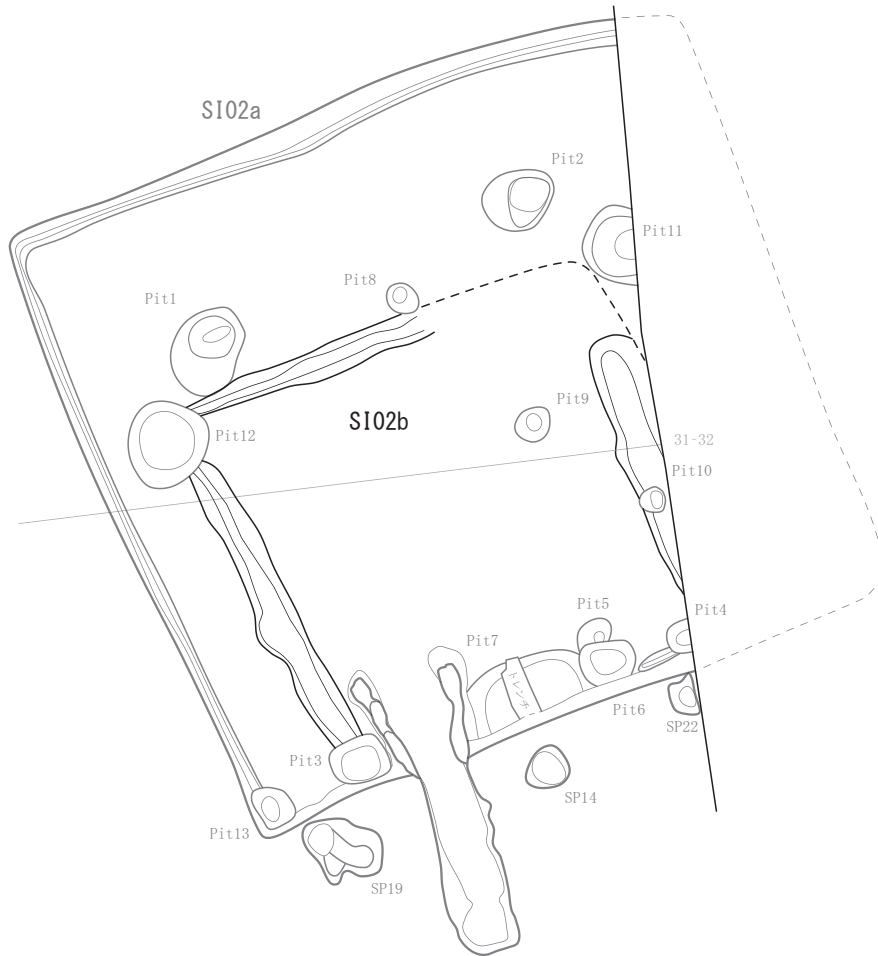
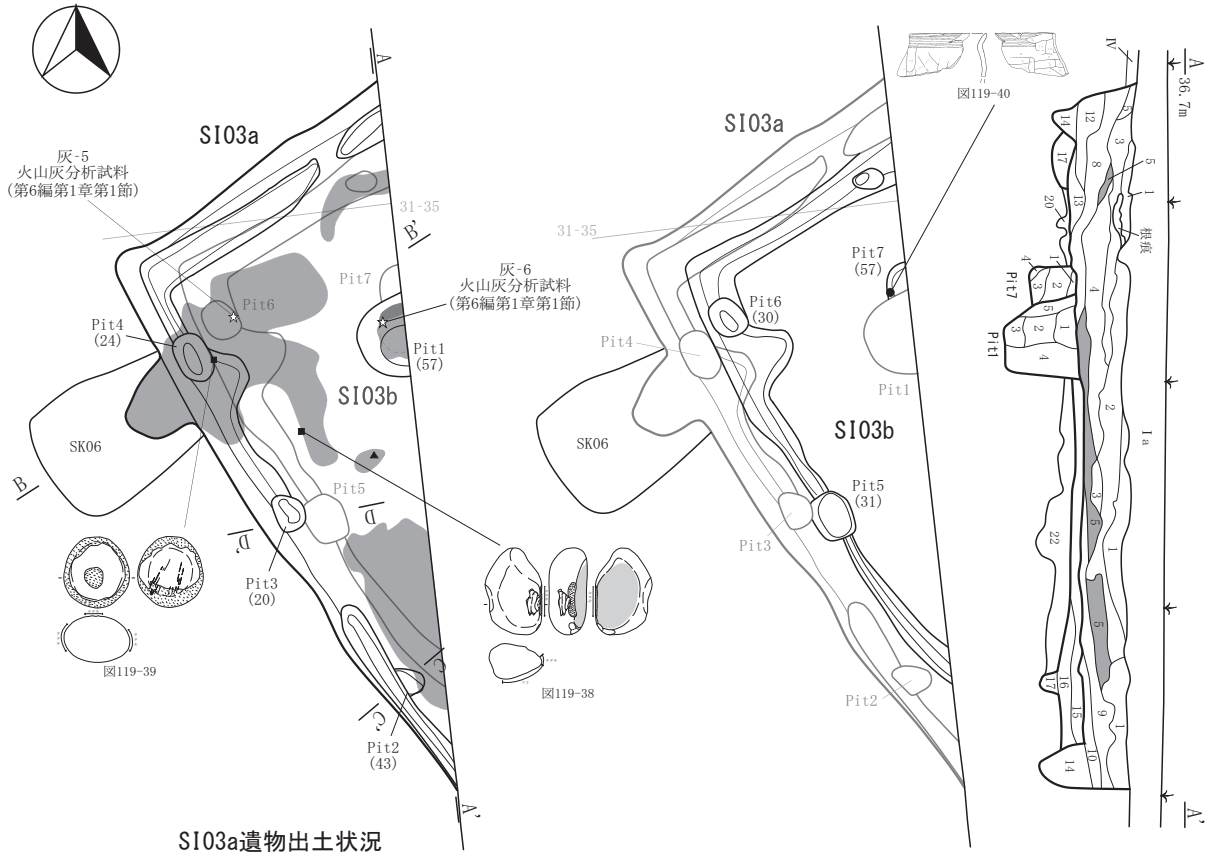
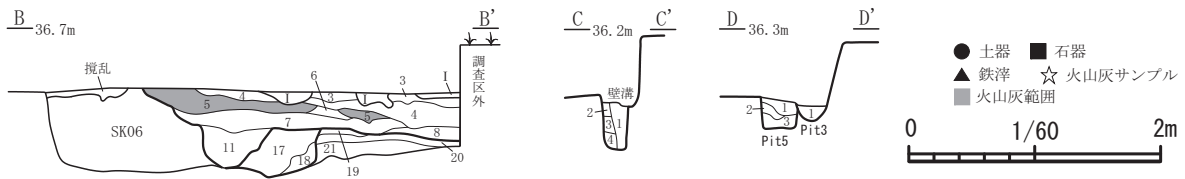


図55 第2号b竖穴建物跡・第3号a竖穴建物跡(1)



SI03a遺物出土状況



SI03 (A-A'・B-B')

- 1層 10YR3/2 黒褐色土
- 2層 10YR2/3 黒褐色土
- 3層 10YR3/3 暗褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土
- 5層 10YR3/4 暗褐色土
- 6層 10YR4/6 褐色土
- 7層 10YR3/4 暗褐色土
- 8層 10YR4/6 褐色土
- 9層 10YR3/4 暗褐色土
- 10層 10YR4/4 褐色土
- 11層 10YR3/3 暗褐色土
- 12層 10YR5/8 黄褐色土
- 13層 10YR5/6 黄褐色土
- 14層 10YR5/4 にぶい黄褐色土
- 15層 10YR5/6 黄褐色土
- 16層 10YR4/6 褐色土
- 17層 10YR4/6 褐色土
- 18層 10YR5/8 黄褐色土
- 19層 10YR4/4 褐色土
- 20層 10YR5/6 黄褐色土
- 21層 10YR5/8 黄褐色土
- 22層 10YR5/6 黄褐色粘土

Pit1 (A-A')

- 1層 10YR4/4 褐色土
- 2層 10YR4/4 褐色粘土
- 3層 10YR6/6 明黄褐色土
- 4層 10YR5/8 黄褐色土
- 5層 10YR5/6 黄褐色土

Pit7 (A-A')

- 1層 10YR5/6 黄褐色粘土
- 2層 10YR3/4 暗褐色土
- 3層 10YR6/4 にぶい黄褐色土
- 4層 10YR5/4 にぶい黄褐色土

Pit2 (C-C')

- 1層 10YR5/6 黄褐色土
- 2層 10YR6/6 明黄褐色土
- 3層 10YR5/6 黄褐色土
- 4層 10YR6/4 にぶい黄褐色土

Pit3 (D-D')

- 1層 10YR6/8 明黄褐色土

Pit5 (D-D')

- 1層 10YR6/8 明黄褐色土
- 2層 10YR6/4 にぶい黄褐色土
- 3層 10YR6/6 明黄褐色土

- SI03a堆積土。ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1mm)2%、焼土(φ1mm)1%。
- SI03a堆積土。ローム粒(φ1~3mm)3%、炭化物(φ1mm)1%、焼土(φ1mm)1%。
- SI03a堆積土。ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~3mm)3%。
- SI03a堆積土。ローム粒(φ1~20mm)3%、炭化物(φ1~3mm)2%。
- SI03a堆積土。B-Tm20%混入。ローム粒(φ1~3mm)3%、炭化物(φ1mm)2%。
- SI03a堆積土。ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%。
- SI03a堆積土。ローム粒(φ1~30mm)10%、炭化物(φ1~5mm)3%。
- SI03a堆積土。ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1~5mm)2%、焼土(φ10mm)1%。
- SI03a堆積土。ローム粒(φ1~30mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%。
- SI03a堆積土。ローム粒(φ1~30mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
- SI03a堆積土。壁溝。ローム粒(φ1~30mm)5%、粘土ブロック(φ30mm)3%、炭化物(φ1~5mm)3%。
- SI03a堆積土。炭化物(φ1~10mm)3%、焼土(φ1mm)1%。
- SI03a堆積土。炭化物(φ1~5mm)3%。
- SI03a壁溝堆積土。ローム粒(φ1~50mm)20%、炭化物(φ1~5mm)3%。
- SI03a貼床。炭化物(φ1~5mm)3%。
- SI03a貼床。ローム粒(φ1~10mm)3%、炭化物(φ1~3mm)2%。
- SI03b壁溝堆積土。10YR6/4にぶい黄褐色粘土ローム粒(φ1~50mm)10%、炭化物(φ1~3mm)3%。
- SI03b壁溝堆積土。10YR6/4にぶい黄褐色粘土20%、炭化物(φ1~3mm)2%。
- SI03b貼床。ローム粒(φ1~30mm)5%、炭化物(φ1~3mm)3%。
- SI03b貼床。炭化物(φ1~3mm)2%。
- SI03b貼床。ローム粒(φ1~30mm)20%、10YR5/6黄褐色粘土10%、炭化物(φ1~5mm)10%。
- SI03b貼床。10YR4/6褐色土40%、ローム粒(φ1~20mm)15%、炭化物(φ1~20mm)10%。

- 柱痕。ローム粒(φ1~15mm)10%、炭化物(φ1~10mm)5%。
- 柱痕。炭化物(φ1~4mm)4%、ローム粒(φ1~15mm)3%。
- 柱痕。ローム粒(φ1~60mm)30%、炭化物(φ1~7mm)2%、10YR7/2にぶい黄褐色粘土1%。
- 掘方。10YR7/2にぶい黄褐色粘土30%、炭化物(φ1~10mm)7%、ローム粒(φ1~10mm)5%。
- 掘方。ローム粒(φ1~10mm)2%。

- 炭化物(φ1~10mm)3%。
- ローム粒(φ1~40mm)20%、10YR5/6黄褐色粘土15%、炭化物(φ1~10mm)10%。
- 炭化物(φ1~5mm)2%。
- 下に10YR4/4褐色土帯状10%。

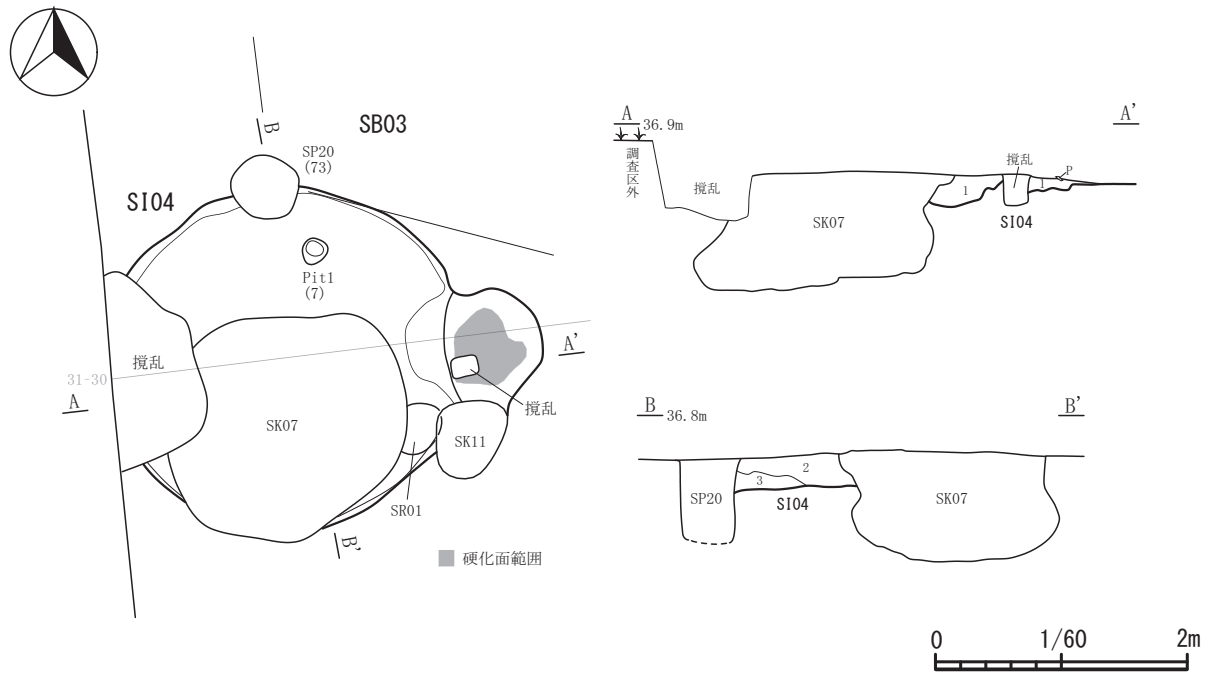
- 柱痕。炭化物(φ1~7mm)1%。
- 掘方。炭化物(φ1~2mm)1%。
- 掘方。
- 掘方。

- 10YR6/4にぶい黄褐色粘土30%、炭化物(φ3~4mm)2%。

- 10YR6/3にぶい黄褐色粘土3%、ローム粒(φ1~7mm)3%、炭化物(φ1~3mm)2%。
- 10YR5/6黄褐色土20%。

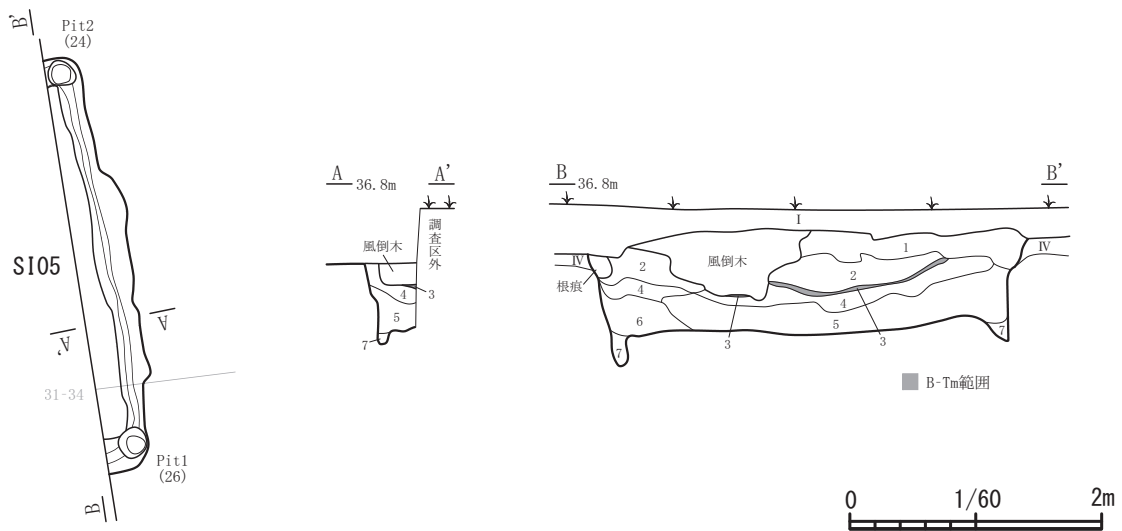
図56 第3号a竪穴建物跡(2)・第3号b竪穴建物跡

農道31号
下石川平野遺跡



S104 (A-A'・B-B')

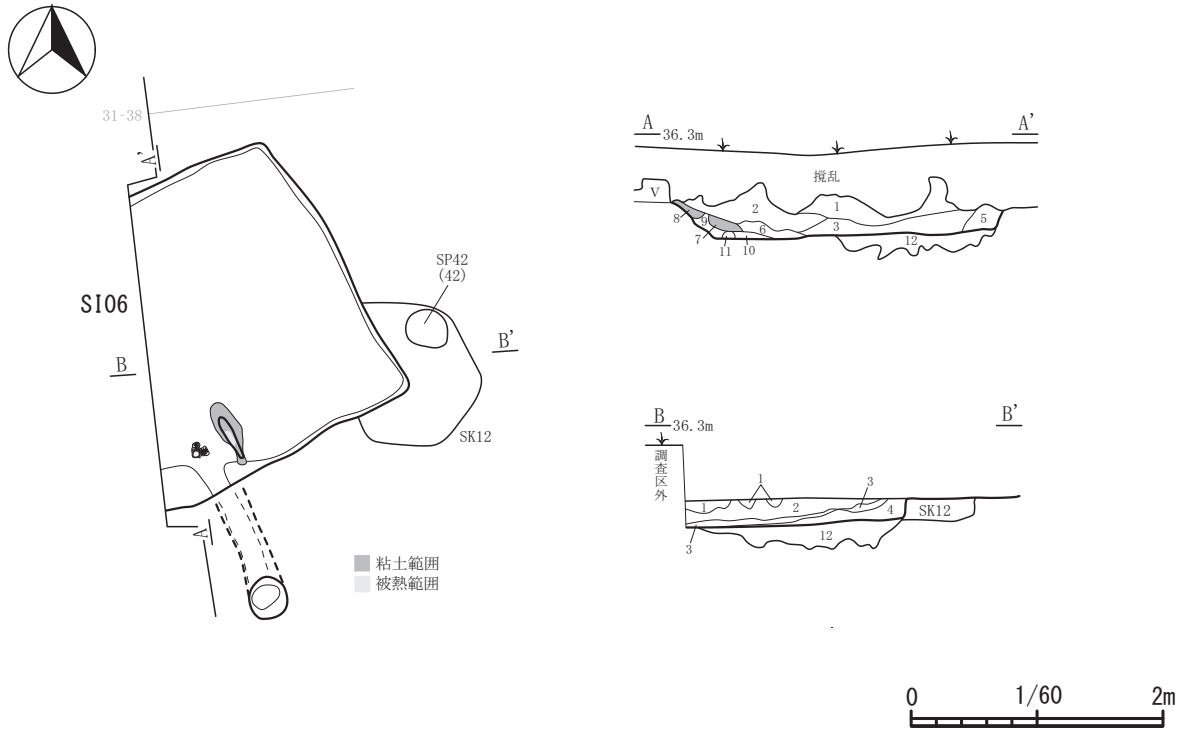
- | | |
|--------------------|--|
| 1層 10YR4/4 褐色土 | 10YR5/4にぶい黄褐色土30%、ローム粒(φ1~20mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%。 |
| 2層 10YR6/3 にぶい黄褐色土 | 10YR5/4にぶい黄褐色土20%、ローム粒(φ1~12mm)15%、炭化物(φ1~10mm)3%。 |
| 3層 10YR3/4 暗褐色土 | ローム粒(φ1~10mm)10%、炭化物(φ1~3mm)1%。 |



S105 (A-A'・B-B')

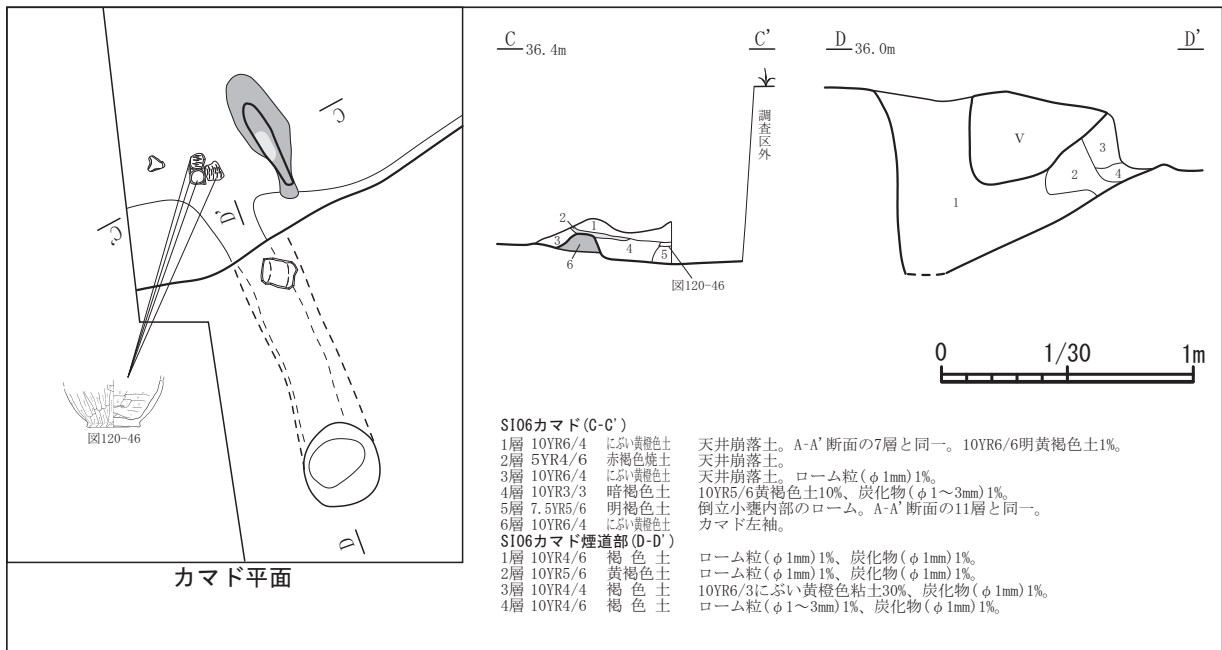
- | | |
|------------------|------------------------------------|
| 1層 10YR2/3 黒褐色土 | ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。 |
| 2層 10YR3/3 暗褐色土 | ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%。 |
| 3層 10YR4/4 褐色土 | B-Tm5%、ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。 |
| 4層 10YR3/4 暗褐色土 | ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。 |
| 5層 10YR3/3 暗褐色土 | ローム粒(φ1~30mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%。 |
| 6層 10YR4/6 褐色土 | ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1~5mm)1%。 |
| 7層 10YR5/6 黄褐色土 | 壁溝、炭化物(φ1~30mm)3%。 |
| 風倒木 10YR2/2 黒褐色土 | ローム粒(φ1~50mm)5%、炭化物(φ1~3mm)1%。 |

図57 第4号豎穴建物跡・第5号豎穴建物跡



SI06 (A-A'・B-B')

- | | |
|-------------------|---|
| 1層 10YR2/3 黒褐色土 | ローム粒 (φ1~40mm) 3% |
| 2層 10YR4/3 濃い黄褐色土 | ローム粒 (φ1~40mm) 5% |
| 3層 10YR3/2 黒褐色土 | ローム粒 (φ1~20mm) 2% |
| 4層 10YR3/3 暗褐色土 | ローム粒 (φ1~5mm) 3%、炭化物 (φ1~2mm) 1% |
| 5層 10YR4/4 褐色土 | ローム粒 (φ1~10mm) 5%、炭化物 (φ1~3mm) 1% |
| 6層 10YR4/3 濃い黄褐色土 | 10YR5/8黄褐色ローム粒 (φ2~10mm) 2%、7.5YR4/6褐色焼土ブロック (φ10~15mm) 2%、炭化物 (φ1~2mm) 1%。 |
| 7層 10YR5/6 黄褐色土 | カマド天井崩落土。下位被熱により赤変。7.5YR5/6明褐色土15%。 |
| 8層 10YR4/6 褐色土 | カマド天井崩落土。破壊激しい。10YR5/6黄褐色土30%、ローム粒 (φ5~15mm) 3%、炭化物 (φ1~10mm) 1%。 |
| 9層 10YR4/3 濃い黄褐色土 | 10YR4/4褐色土15%、炭化物 (φ1~5mm) 1%。 |
| 10層 10YR4/4 褐色土 | 7.5YR4/6褐色焼土ブロック (φ2~8mm) 2%、炭化物 (φ6~10mm) 1%。 |
| 11層 7.5YR5/6 明褐色土 | 倒立小甕内部のローム。 |
| 12層 10YR3/4 暗褐色土 | 貼床。ローム粒 (φ1~100mm) 20%、炭化物 (φ1~5mm) 2%。 |



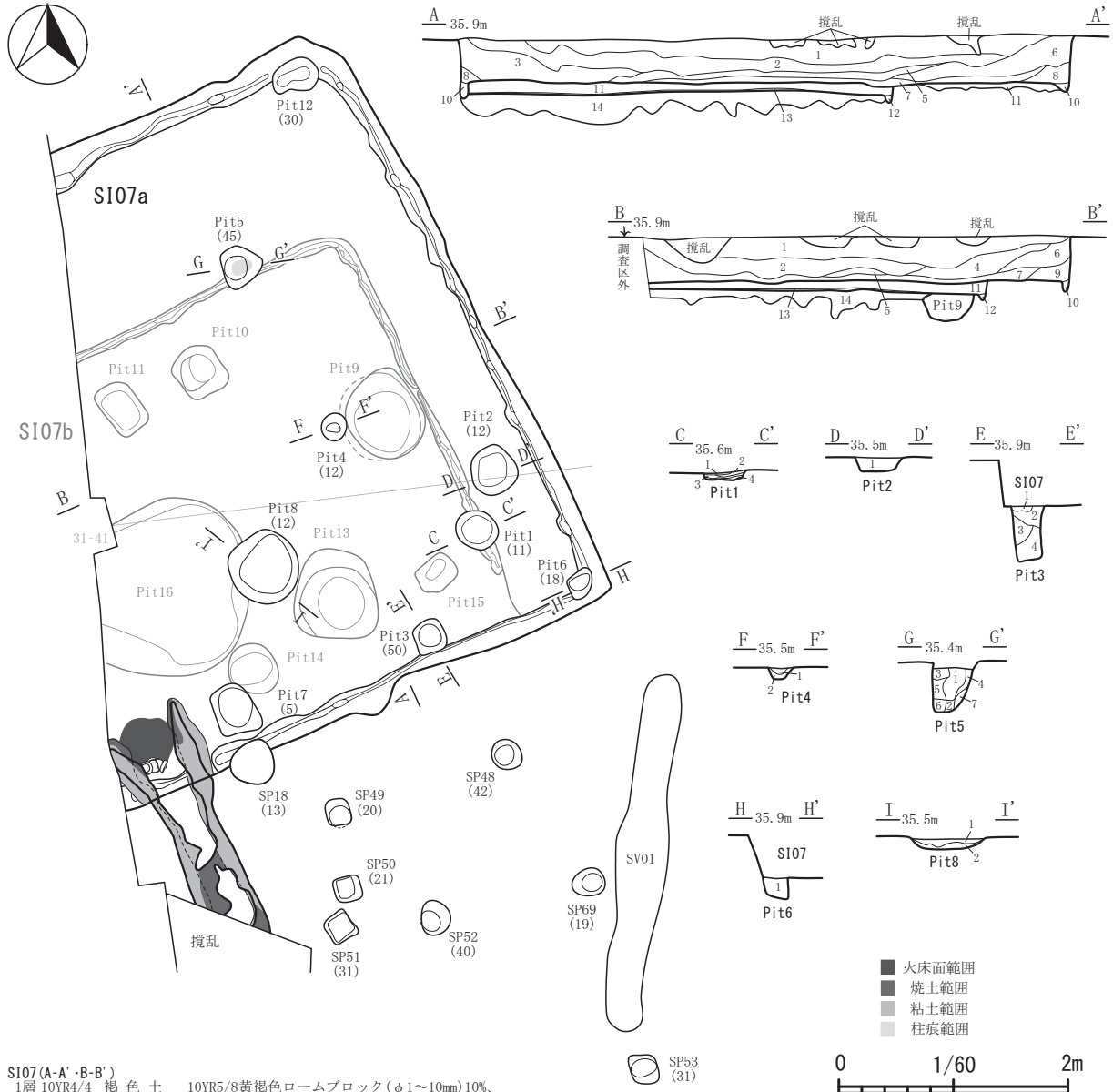
SI06カマド (C-C')

- | | |
|-------------------|------------------------------------|
| 1層 10YR6/4 濃い黄褐色土 | 天井崩落土。A-A'断面の7層と同一。10YR6/6明黄褐色土1%。 |
| 2層 5YR4/6 赤褐色焼土 | 天井崩落土。 |
| 3層 10YR6/4 濃い黄褐色土 | 天井崩落土。ローム粒 (φ1mm) 1%。 |
| 4層 10YR3/3 暗褐色土 | 10YR5/6黄褐色土10%、炭化物 (φ1~3mm) 1%。 |
| 5層 7.5YR5/6 明褐色土 | 倒立小甕内部のローム。A-A'断面の11層と同一。 |
| 6層 10YR6/4 濃い黄褐色土 | カマド左袖。 |

SI06カマド煙道部 (D-D')

- | | |
|-----------------|-----------------------------------|
| 1層 10YR4/6 褐色土 | ローム粒 (φ1mm) 1%、炭化物 (φ1mm) 1%。 |
| 2層 10YR5/6 黄褐色土 | ローム粒 (φ1mm) 1%、炭化物 (φ1mm) 1%。 |
| 3層 10YR4/4 褐色土 | 10YR6/3に濃い黄褐色粘土30%、炭化物 (φ1mm) 1%。 |
| 4層 10YR4/6 褐色土 | ローム粒 (φ1~3mm) 1%、炭化物 (φ1mm) 1%。 |

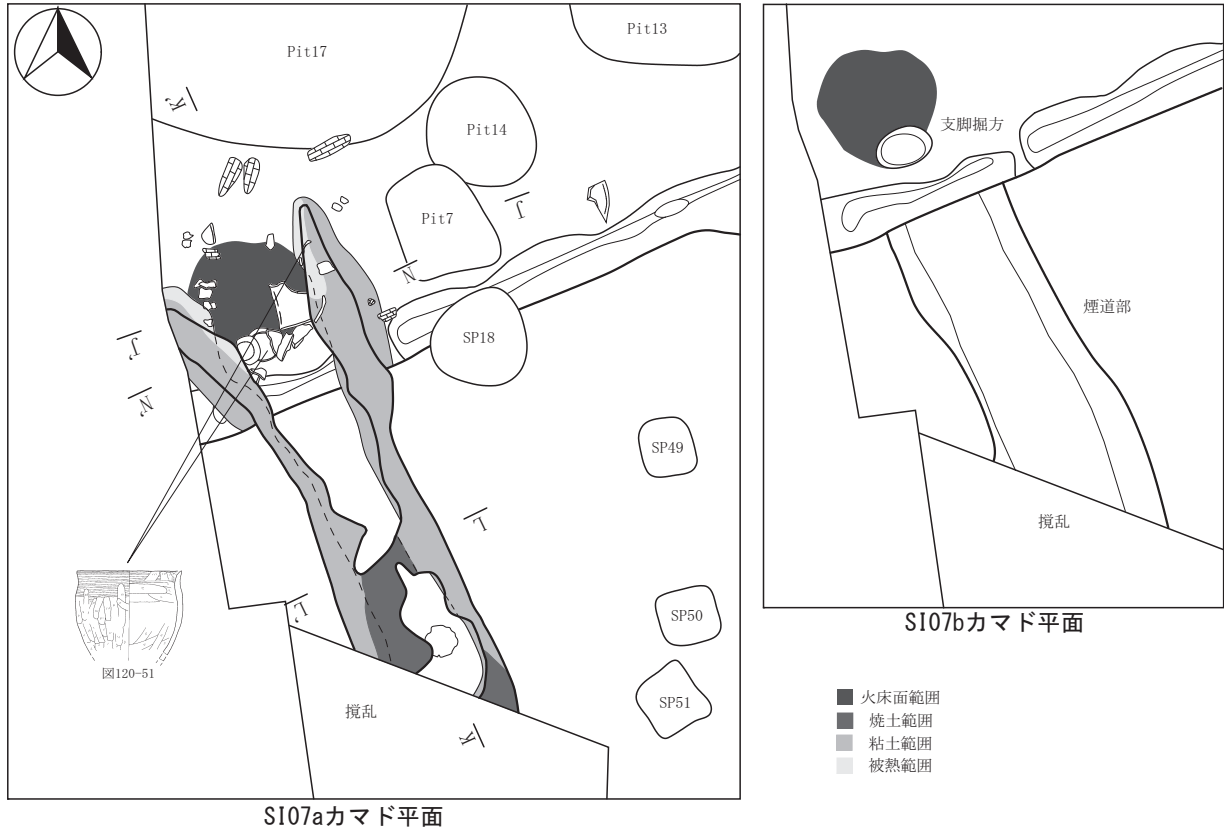
図58 第6号竪穴建物跡



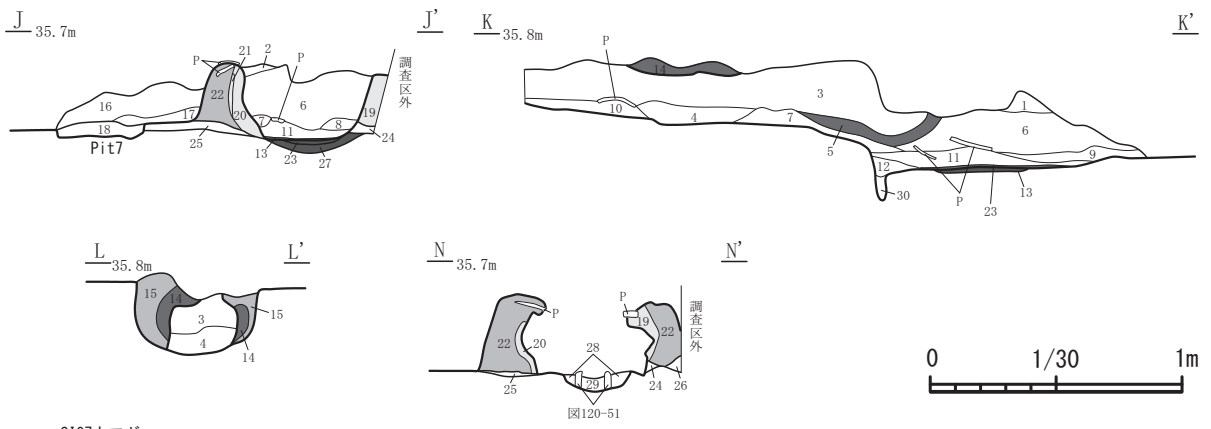
- S107 (A-A'・B-B')**
- 1層 10YR4/4 褐色土 10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ1~10mm)10%、炭化物(φ1~3mm)5%、5YR4/8赤褐色焼土(1mm)1%。
 - 2層 10YR4/6 褐色土 10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ1~30mm)15%が南側に多い。炭化物(φ1~5mm)3%。
 - 3層 10YR3/4 暗褐色土 10YR6/6明黄褐色粘土1%が南側主体にブロックで混入。10YR7/8黄褐色ロームブロック(φ1~30mm)10%、炭化物(φ1~20mm)1%。
 - 4層 10YR4/4 褐色土 10YR3/3暗褐色土が層の上位に部分的に混入。10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ1~30mm)15%、炭化物(φ1~5mm)1%。
 - 5層 10YR3/3 暗褐色土 10YR6/8明褐色ロームブロック(φ1~20mm)5%、炭化物(φ1~10mm)1%。
 - 6層 10YR5/6 黄褐色土 10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ1~20mm)3%、炭化物(φ1~5mm)1%。
 - 7層 10YR4/6 褐色土 10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ1~10mm)15%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1~10mm)3%、炭化物(φ1~10mm)1%。
 - 8層 10YR4/6 褐色土 10YR5/8黄褐色ロームと10YR7/8黄褐色ロームブロック(φ5~20mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
 - 9層 10YR5/6 黄褐色土 10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ1~10mm)10%、炭化物(φ1~5mm)1%。
 - 10層 10YR5/8 黄褐色土 S107a壁溝。
 - 11層 10YR4/6 褐色土 S107a貼床。10YR6/4にぶい黄褐色粘土(φ1~10mm)7%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)5%、10YR2/2黒褐色土2%。
 - 12層 10YR5/8 黄褐色土 S107b壁溝。
 - 13層 7.5YR1.7/1 黒色土 炭化物(φ1~30mm)7%、7.5YR2/3極暗褐色焼土ブロック(φ1~3mm)1%。
 - 14層 10YR4/6 褐色土 S107b貼床。7.5YR5/4にぶい黄褐色粘土(5~50mm)15%、10YR2/1黒色土5%、2.5Y6/4にぶい橙色ロームブロック(φ5~30mm)5%。
- Pit1 (C-C')**
- 1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 10YR7/6明黄褐色土30%、炭化物(φ1~3mm)3%、ローム粒(φ1~7mm)2%、5YR5/8明赤褐色(φ5~10mm)2%。
 - 2層 10YR5/8 黄褐色土
 - 3層 10YR1.7/1 黒色土と10YR5/8黄褐色土の混合層。
 - 4層 10YR6/8 明黄褐色土 10YR1.7/1黒色土5%。

- Pit2 (D-D')**
- 1層 10YR5/6 黄褐色土 ロームブロック(φ10~20mm)5%、炭化物(φ1~3mm)3%、ローム粒(φ2~3mm)2%、2.5YR5/8明赤褐色焼土(2~5mm)1%。
- Pit3 (E-E')**
- 1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/4にぶい黄褐色粘土10%、ローム粒(φ1~10mm)3%、焼土(1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
 - 2層 10YR4/6 褐色土 10YR5/4にぶい黄褐色粘土7%、ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
 - 3層 10YR5/8 黄褐色土と10YR3/2暗褐色土の混合層。ローム粒(φ1~3mm)1%。
 - 4層 10YR6/8 明黄褐色土 ロームブロック(φ1~20mm)5%、10YR5/4にぶい黄褐色粘土ブロック(φ5~15mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%。
- Pit4 (F-F')**
- 1層 10YR4/4 褐色土 炭化物(φ1~5mm)3%、ローム粒(φ3~5mm)2%。
 - 2層 10YR5/8 黄褐色土 10YR7/4にぶい黄褐色粘土5%、炭化物(φ1mm)1%。
- Pit5 (G-G')**
- 1層 10YR4/6 褐色土 10YR6/8明黄褐色土30%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 - 2層 10YR5/6 黄褐色土
 - 3層 10YR6/8 明黄褐色土 10YR4/6褐色土15%、炭化物(φ1mm)1%。
 - 4層 10YR4/6 褐色土 10YR7/3にぶい黄褐色粘土5%、炭化物(φ1mm)1%。
 - 5層 10YR5/8 黄褐色土 10YR7/3にぶい黄褐色粘土ブロック(φ20~40mm)30%。
 - 6層 10YR4/6 褐色土と10YR7/3にぶい黄褐色土の混合層。
 - 7層 10YR7/3 にぶい黄褐色土 10YR6/8明黄褐色土10%。
- Pit6 (H-H')**
- 1層 10YR4/4 褐色土 10YR6/4にぶい黄褐色粘土(φ5~20mm)15%、ローム粒(φ1~10mm)3%。
- Pit8 (I-I')**
- 1層 5YR3/3 暗赤褐色土 5YR4/8赤褐色焼土7%、10YR7/8黄褐色粘土2%、7.5YR3/4暗褐色土2%、炭化物(φ2~8mm)1%。
 - 2層 7.5YR4/6 褐色土 5YR3/6暗赤褐色焼土30%、10YR6/6明黄褐色粘土30%、炭化物(φ1~20mm)2%。

図59 第7号a竪穴建物跡(1)



農道31号
下石川平野遺跡



S107カマド

- 1層 10YR5/6 黄褐色土 天井崩落土。5YR5/6明赤褐色焼土10%、炭化物(φ1~2mm)1%。
- 2層 10YR5/6 黄褐色土 天井崩落土含む堆積土。10YR4/2灰黄褐色土5%、炭化物(φ1~5mm)3%。
- 3層 10YR4/4 褐色土 天井崩落土含む堆積土。5YR4/6赤褐色焼土15%、ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~3mm)2%。
- 4層 10YR4/4 褐色土 天井崩落土含む堆積土。10YR6/6明黄褐色粘土ブロック(φ20mm)3%、ローム粒(φ1~2mm)1%。
- 5層 5YR4/6 赤褐色焼土と10YR2/2黒褐色土の混合層。天井崩落土含む堆積土。
- 6層 10YR4/4 褐色土 天井崩落土含む堆積土。10YR5/6黄褐色土30%、にぶい黄橙色粘土5%、ローム粒(φ5~15mm)3%、炭化物(φ1~2mm)1%。
- 7層 10YR3/4 暗褐色土 天井崩落土含む堆積土。5YR4/6赤褐色焼土10%、炭化物(φ1~2mm)1%。
- 8層 10YR3/4 暗褐色土 天井崩落土含む堆積土。炭化物(φ1mm)1%。
- 9層 10YR3/3 暗褐色土 天井崩落土含む堆積土。10YR5/6黄褐色粘土30%、5YR5/6明赤褐色焼土20%、炭化物(φ5~10mm)2%。
- 10層 10YR3/4 暗褐色土 機能時、煙だしからの自然堆積。焼土(φ3~5mm)2%、ローム粒(φ1~2mm)1%。
- 11層 10YR3/4 暗褐色土 5YR5/6明赤褐色焼土(φ1~2mm)1%、5YR5/6明赤褐色焼土(φ30mm)1%。
- 12層 10YR3/3 暗褐色土 建物壁崩落土。10YR6/6明黄褐色土5%、ローム粒(φ1~2mm)1%。
- 13層 7.5YR2/3 極暗褐色土
- 14層 7.5YR4/6 褐色焼土と10YR4/4褐色土の混合層。煙道構築材。
- 15層 10YR5/6 黄褐色土 煙道構築材。10YR4/4褐色土5%、10YR7/3にぶい橙色粘土3%。
- 16層 10YR5/6 黄褐色土 建物内堆積土。10YR3/3暗褐色土10%、炭化物(φ1mm)1%。
- 17層 10YR3/4 暗褐色土 建物内堆積土。7.5YR4/6褐色粘土ブロック(φ1~20mm)7%、ローム粒(φ1~2mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%。
- 18層 10YR3/4 暗褐色土 Pit7堆積土。7.5YR4/6褐色粘土粒(φ1~3mm)3%、ローム粒(φ1~2mm)2%。
- 19層 5YR4/8 赤褐色焼土 カマド袖。7.5YR4/4褐色土10%、10YR3/4暗褐色土10%、炭化物(φ5mm)1%。
- 20層 7.5YR4/6 褐色土 カマド袖。7.5YR5/8明褐色土3%、焼土(φ5mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%。
- 21層 10YR4/6 褐色土 カマド袖。炭化物(φ1~40mm)15%。
- 22層 10YR5/6 黄褐色土 カマド袖。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ2~30mm)10%、10YR4/6褐色土5%、焼土(φ1~10mm)1%、炭化物(φ2~15mm)1%。
- 23層 7.5YR5/8 明褐色焼土 火床面。炭化物(φ1~5mm)7%。
- 24層 7.5YR2/3 極暗褐色土 つくりかえ時の堆積土。焼土(φ2~5mm)1%。
- 25層 10YR5/8 黄褐色土 つくりかえ時の堆積土。10YR3/4暗褐色土20%、7.5YR4/6褐色土15%、5YR4/8赤褐色焼土10%。
- 26層 7.5YR4/6 褐色土 つくりかえ時の堆積土。ロームブロック(φ5~15mm)3%、5YR4/8赤褐色焼土3%。
- 27層 5YR3/6 暗赤褐色焼土 旧カマドの火床面。
- 28層 10YR4/4 褐色土 5YR4/8赤褐色焼土3%、炭化物(φ1~2mm)1%。
- 29層 7.5YR3/4 暗褐色土 10YR6/6明黄褐色土10%、5YR4/8赤褐色焼土1%。
- 30層 10YR5/8 黄褐色土 S107a壁溝。

図60 第7号a竅穴建物跡(2)・第7号b竅穴建物跡(1)

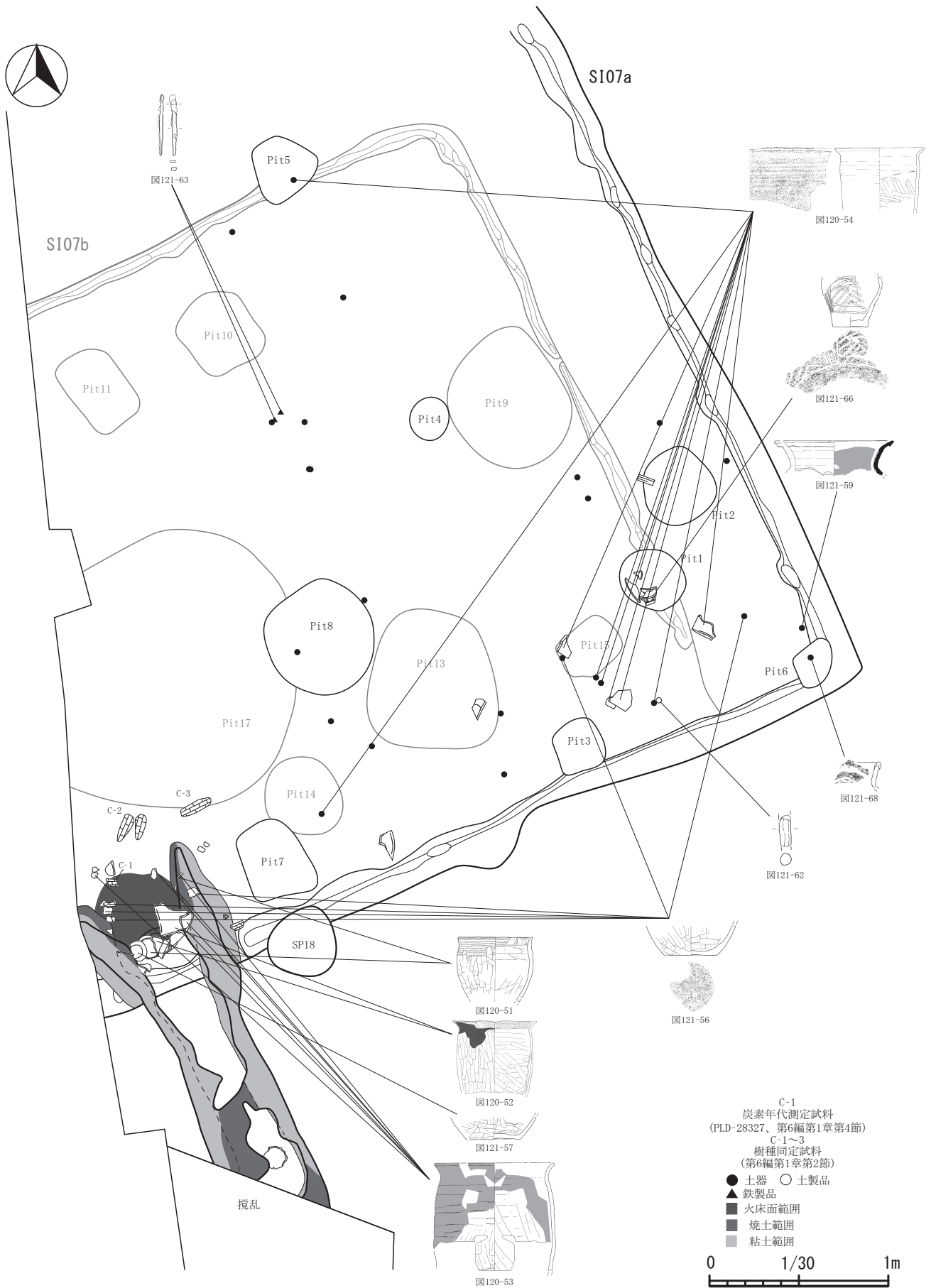
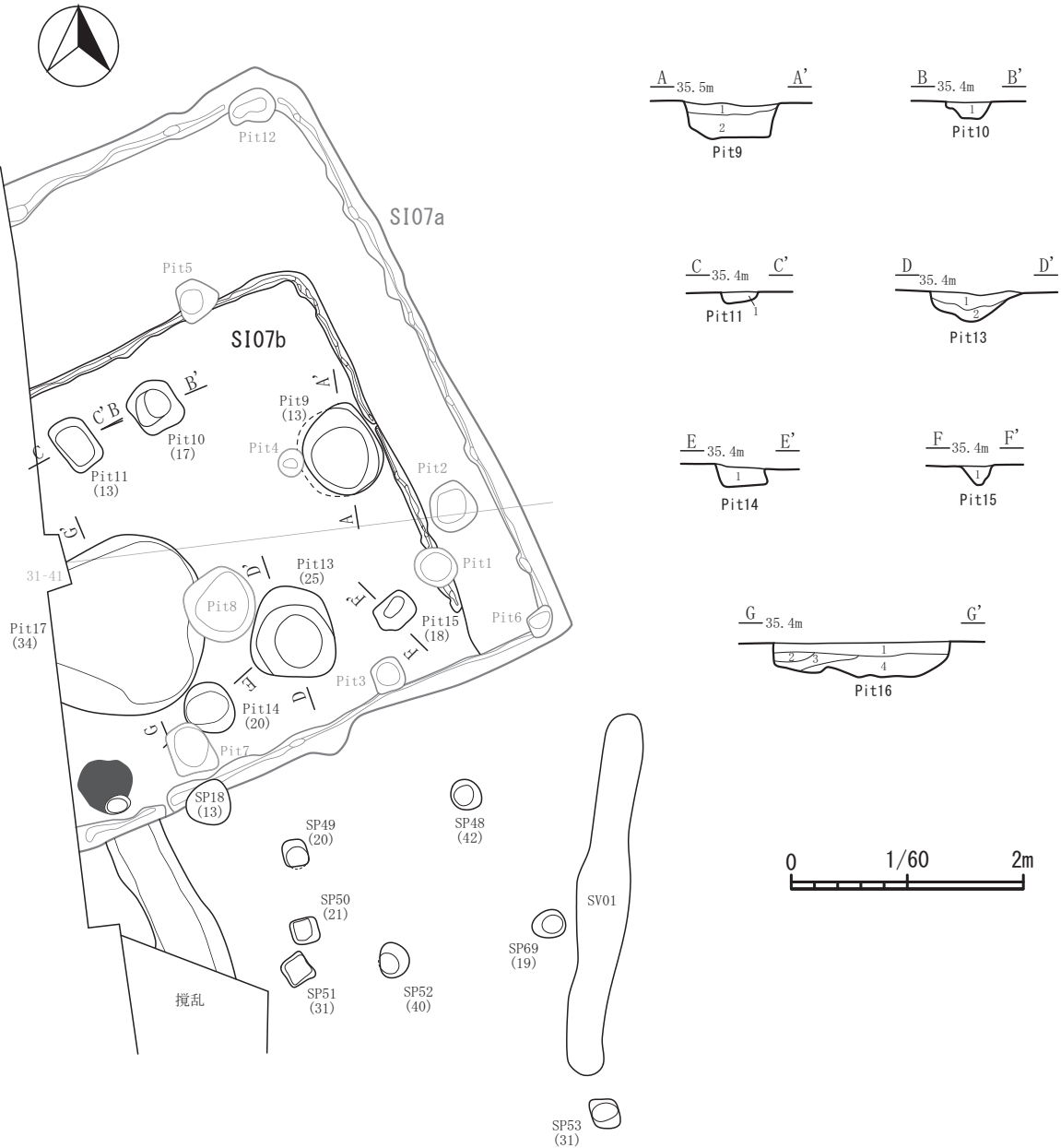


図61 第7号a竪穴建物跡(3)



農道31号
下石川平野遺跡

- Pit9 (A-A')**
 1層 7.5YR4/6 褐色土 7.5YR4/4褐色土15%、7.5YR4/6褐色粘土10%、7.5YR3/2黒褐色土5%、炭化物(φ2~10mm)1%。
 2層 7.5YR4/4 褐色土 7.5YR4/4褐色粘土(φ5~10mm)5%、炭化物(φ1~10mm)1%。
- Pit10 (B-B')**
 1層 10YR5/6 黄褐色土 10YR5/2灰黄褐色粘土(φ1~15mm)5%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- Pit11 (C-C')**
 1層 7.5YR5/6 明褐色土 10YR5/2灰黄褐色粘土(φ1~5mm)7%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~15mm)5%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- Pit13 (D-D')**
 1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/6黄褐色粘土(φ5~50mm)30%、5YR3/6暗赤褐色焼土(φ3~30mm)20%、10YR7/1灰白色粘土15%、炭化物(φ1~5mm)10%。
 1層はカマドの残骸に由来すると考える。
- Pit14 (E-E')**
 2層 10YR3/4 暗褐色土 ロームブロック(φ5~50mm)30%。
- Pit15 (F-F')**
 1層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~2mm)1%。
- Pit16 (G-G')**
 1層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック(φ10~30mm)30%、10YR6/2灰黄褐色粘土(10~30mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
- Pit16 (G-G')**
 1層 10YR5/8 黄褐色土 SI07b貼床。10YR5/6黄褐色粘土20%、10YR6/4にぶい黄褐色粘土10%、ローム粒(φ1~15mm)10%、炭化物(φ1~5mm)2%。
 2層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/6黄褐色粘土20%、10YR5/8黄褐色粘土15%、炭化物(φ1~10mm)8%、10YR6/4にぶい黄褐色粘土5%。
 3層 10YR4/4 褐色土 10YR5/8黄褐色粘土5%、ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~3mm)2%。
 4層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/8黄褐色粘土30%、ローム粒(φ1~40mm)10%、炭化物(φ1~5mm)5%、10YR2/2黒褐色土3%。

図62 第7号b縦穴建物跡(2)

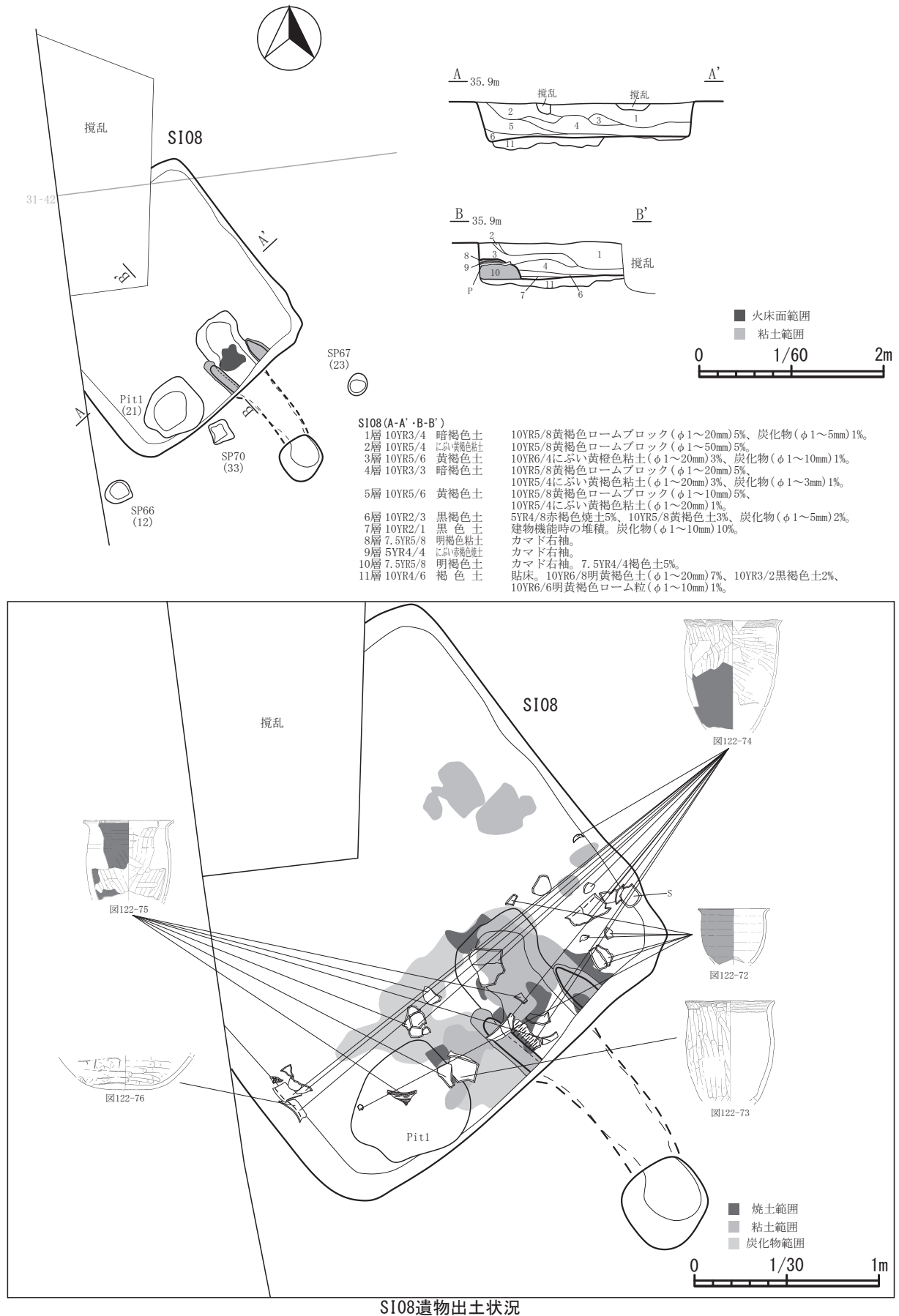
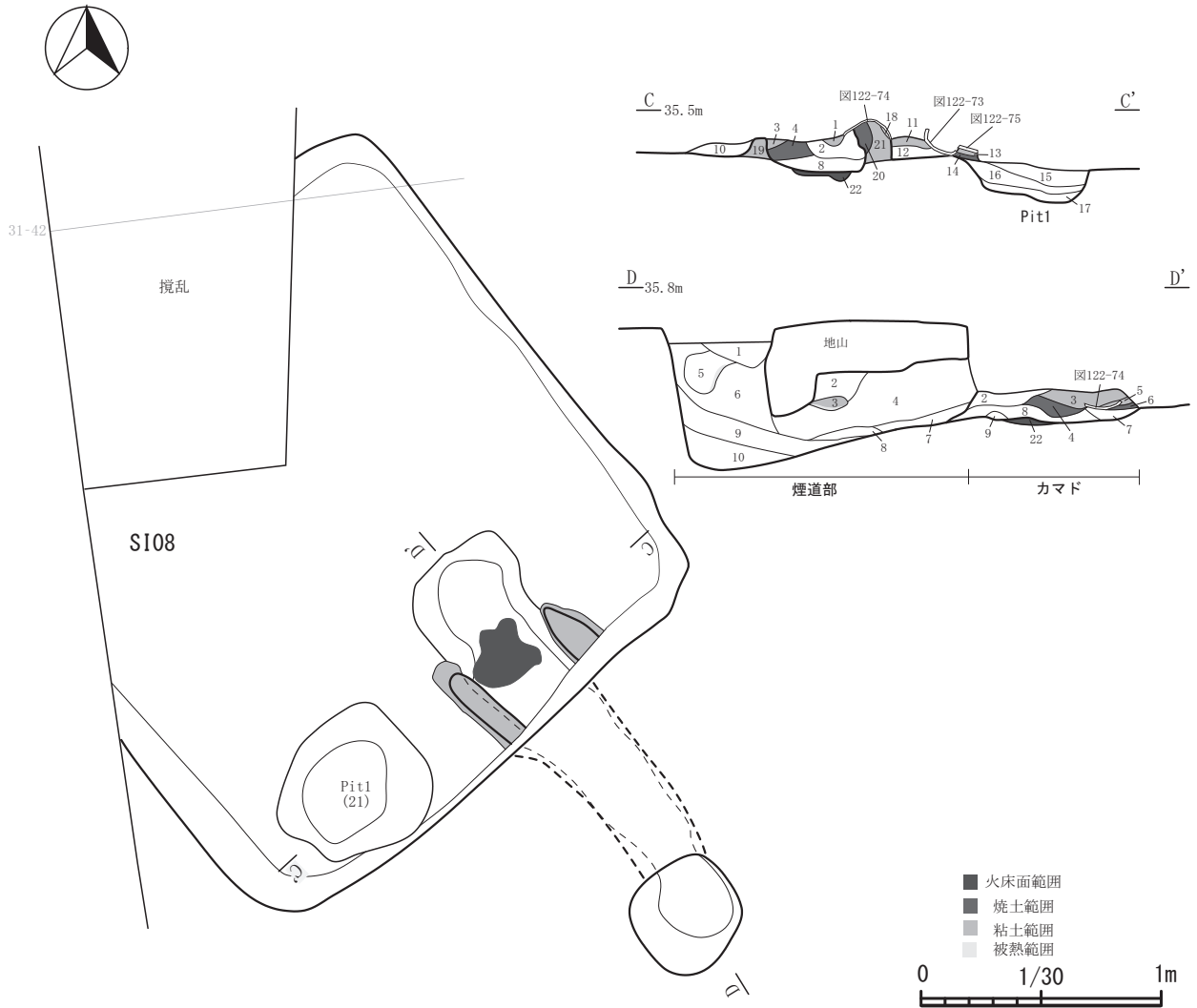


図63 第8号竪穴建物跡(1)



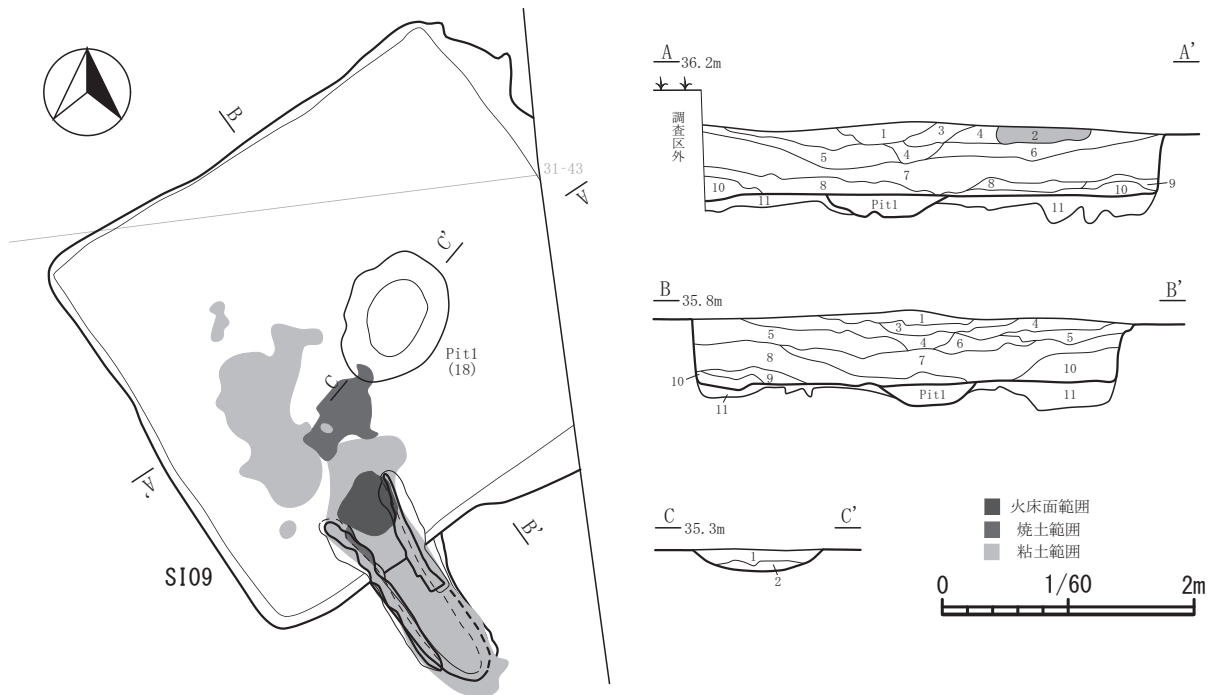
S108カマド(C-C'・D-D')

- | | | | |
|-----|-----------|---------|--|
| 1層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 天井崩落土。炭化物(φ1mm)1%。 |
| 2層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 10YR明黄褐色土10%、5YR4/8赤褐色焼土2%、炭化物(φ1~10mm)1%。 |
| 3層 | 10YR5/8 | 黄褐色土 | カマド崩落土。10YR4/6褐色土3%、炭化物(φ1mm)1%。 |
| 4層 | 5YR3/6 | 暗赤褐色焼土 | カマド崩落土。3層の被熱部分。10YR3/4暗褐色土3%、10YR6/8明黄褐色焼土2%。 |
| 5層 | 10YR4/6 | 褐色土 | カマド崩落土。10YR6/8明黄褐色土5%。 |
| 6層 | 10YR3/4 | 暗褐色焼土 | カマド崩落土。5層の被熱部分。7.5YR4/6褐色粘土30%、10YR3/4暗褐色焼土5%、炭化物(φ2~3mm)1%。 |
| 7層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 7.5YR4/6褐色土3%。 |
| 8層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 5YR3/6暗赤褐色焼土5%。 |
| 9層 | 10YR5/8 | 黄褐色土 | 地山ブロック。炭化物(φ10mm)2%。 |
| 10層 | 10YR5/8 | 黄褐色土 | カマド構築材崩落土。 |
| 11層 | 10YR4/4 | 褐色土 | カマド構築材崩落土。10YR5/6黄褐色土20%、10YR3/2黒褐色土5%。 |
| 12層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | 炭化物、焼土ブロックを含む。10YR5/8黄褐色土3%、炭化物(φ1~5mm)2%、5YR4/8赤褐色焼土1%。 |
| 13層 | 10YR5/8 | 黄褐色土 | カマド構築材崩落土。5YR4/4にぶい赤褐色焼土30%、炭化物(φ1~10mm)10%。 |
| 14層 | 7.5YR3/2 | 黒褐色土 | カマド構築材崩落土。14層の被熱部分。7.5YR4/3褐色土20%、焼土(φ2~3mm)1%。 |
| 15層 | 10YR4/6 | 褐色土 | Pit1堆積土。10YR6/8明黄褐色土30%、5YR4/4にぶい赤褐色焼土3%、炭化物(φ2~15mm)1%。 |
| 16層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | Pit1堆積土。10YR5/6黄褐色土10%、10YR6/6明黄褐色ローム5%、5YR4/8赤褐色土2%。 |
| 17層 | 10YR5/6 | 黄褐色土 | Pit1堆積土。5YR4/8赤褐色焼土3%。 |
| 18層 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | 植物繊維が炭化したもの。 |
| 19層 | 7.5YR5/8 | 明褐色土 | カマド袖。炭化物(φ1mm)1%。 |
| 20層 | 5YR4/4 | にぶい赤褐色土 | カマド袖。22層の被熱部分。7.5YR4/4褐色土15%、7.5YR5/6明褐色土10%、炭化物(φ10mm)1%。 |
| 21層 | 7.5YR5/8 | 明褐色土 | カマド袖。7.5YR4/4褐色土5%。 |
| 22層 | 7.5YR6/4 | にぶい褐色土 | 火床面。 |

S108カマド煙道部(D-D')

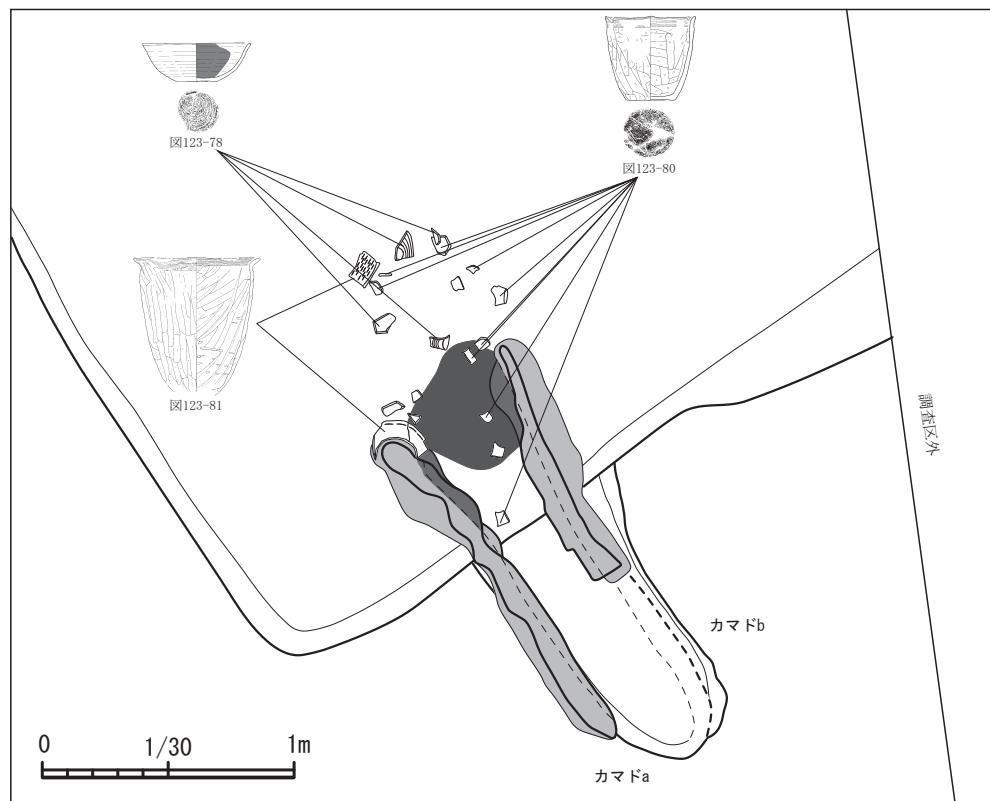
- | | | | |
|-----|---------|---------|-----------------------------------|
| 1層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。 |
| 2層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 天井崩落土。10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~50mm)30%。 |
| 3層 | 10YR5/4 | にぶい赤褐色土 | 5YR5/6明赤褐色焼土(φ1~20mm)15%。 |
| 4層 | 10YR5/4 | 暗褐色土 | 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~10mm)3%。 |
| 5層 | 10YR3/3 | 褐色土 | 崩落土。5YR3/6暗明赤褐色焼土(φ1~10mm)7%。 |
| 6層 | 10YR4/6 | 褐色土 | 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~7mm)3%。 |
| 7層 | 10YR2/1 | 暗褐色土 | 5YR5/6明赤褐色焼土(φ1~10mm)10%。 |
| 8層 | 10YR3/3 | 暗褐色土 | 天井崩落土。5YR5/6明赤褐色焼土(φ1~10mm)7%。 |
| 9層 | 10YR2/3 | 黒褐色土 | |
| 10層 | 10YR3/4 | 暗褐色土 | |

図64 第8号竪穴建物跡(2)



S109 (A-A' - B-B')

- | | |
|------------------|--|
| 1層 10YR3/3 暗褐色土 | ローム粒 (φ1~10mm) 10%、焼土 (φ1~2mm) 1%。 |
| 2層 10YR6/1 褐灰色粘土 | 10YR3/4暗褐色土40%、ローム粒 (φ1~2mm) 5%、炭化物 (φ1~10mm) 3%。 |
| 3層 10YR4/4 褐色土 | ローム粒 (φ1~50mm) 30%、10YR5/8黄褐色土20%、炭化物 (φ1~7mm) 3%、焼土 (φ1~5mm) 1%。 |
| 4層 10YR4/3 黄褐色土 | ローム粒 (φ1~20mm) 5%、炭化物 (φ1~5mm) 2%。 |
| 5層 10YR3/4 暗褐色土 | 10YR5/4にぶい黄褐色粘土30%、ローム粒 (φ1~20mm) 20%、炭化物 (φ1~25mm) 3%、焼土 (φ1~2mm) 1%。 |
| 6層 10YR3/3 暗褐色土 | 10YR6/6明黄褐色粘土10%、ローム粒 (φ1~45mm) 5%、炭化物 (φ1~5mm) 2%、焼土 (φ1~5mm) 1%。 |
| 7層 10YR4/3 黄褐色土 | 中層に10YR3/4暗褐色土が層状にある。ローム粒 (φ1~90mm) 30%、10YR6/6明黄褐色粘土20%、炭化物 (φ1~10mm) 2%。 |
| 8層 10YR3/4 暗褐色土 | ローム粒 (φ1~40mm) 30%、10YR5/4にぶい黄褐色粘土10%、炭化物 (φ1~10mm) 3%。 |
| 9層 10YR2/3 黒褐色土 | ローム粒 (φ1~20mm) 5%、焼土 (φ3~5mm) 1%、炭化物 (φ1~2mm) 1%。 |
| 10層 10YR3/3 暗褐色土 | ローム粒 (φ1~40mm) 30%、10YR5/8黄褐色粘土5%、炭化物 (φ1~3mm) 2%。 |
| 11層 10YR3/4 暗褐色土 | ローム粒 (φ1~50mm) 30%、10YR2/3黒褐色土7%、10YR5/4にぶい黄褐色土7%、炭化物 (φ1~10mm) 5%、焼土2%。 |
- Pit1 (C-C')
- | | |
|-----------------|--|
| 1層 10YR4/4 褐色土 | 7.5YR5/6明褐色ローム25%、10YR5/8黄褐色ローム15%、5YR4/8赤褐色焼土3%、炭化物 (φ5~10mm) 1%。 |
| 2層 10YR3/4 暗褐色土 | 7.5YR5/8明褐色ローム10%、10YR5/8黄褐色ローム5%。 |
- ※1層は非常に固く締まるため、廃絶段階で上面が床面として機能していたものと考えられる。



遺物出土状況

図65 第9号竪穴建物跡 (1)

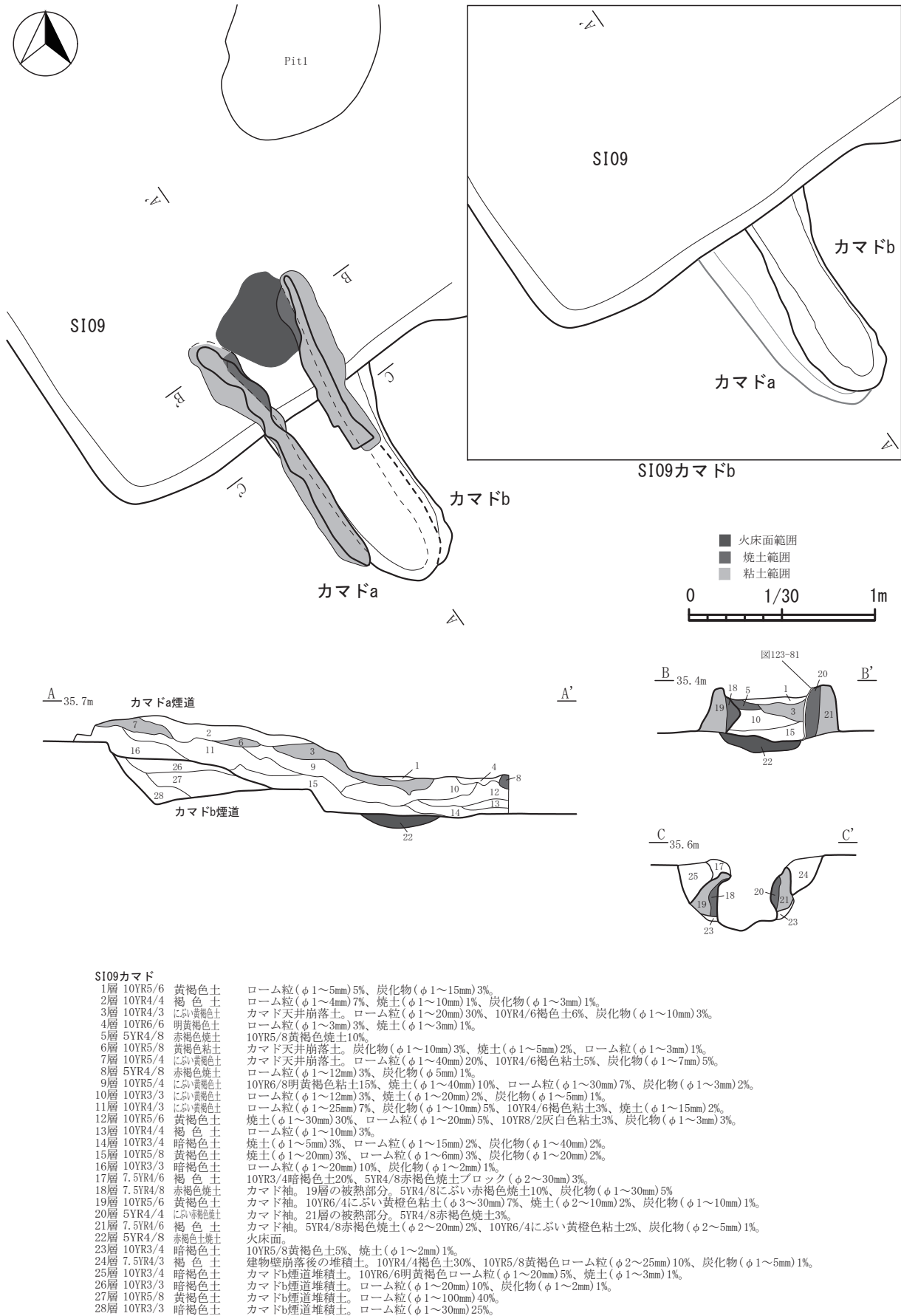
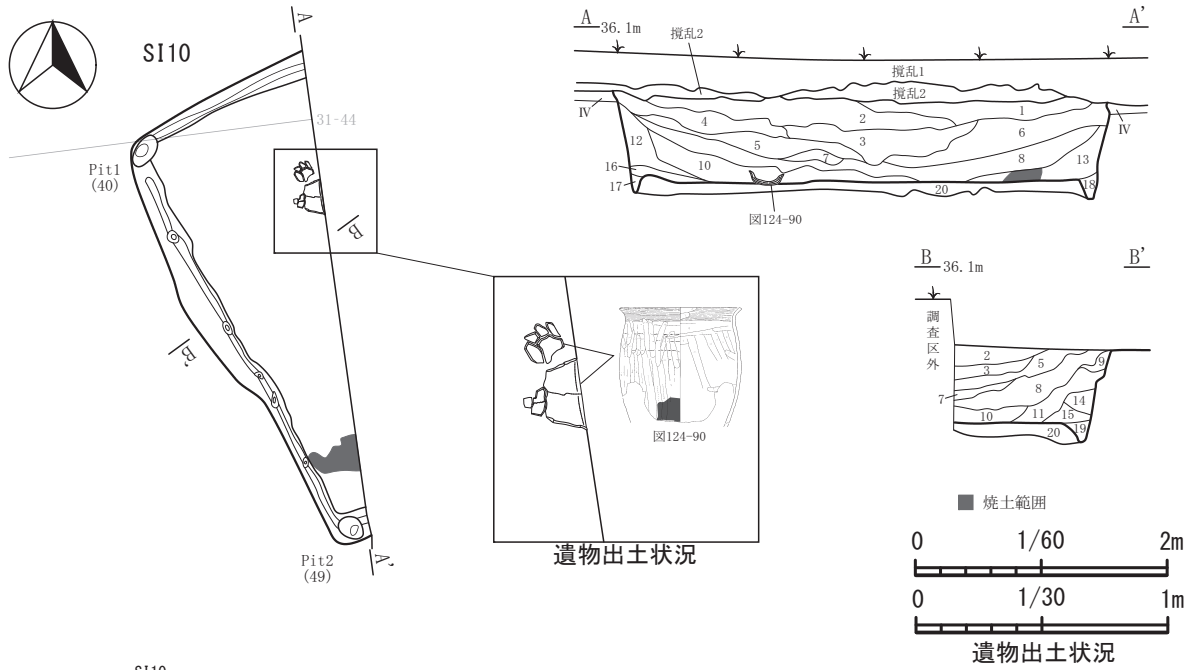


図66 第9号竪穴建物跡 (2)



層	土質	成分
1層	10YR2/2 黒褐色土	ローム粒 (φ 1~10mm) 3%、炭化物 (φ 1mm) 1%。
2層	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒 (φ 1~50mm) 20%、炭化物 (φ 1~5mm) 2%。
3層	10YR2/3 黒褐色土	ローム粒 (φ 1~100mm) 30%、炭化物 (φ 1~5mm) 2%。
4層	10YR3/4 暗褐色土	ローム粒 (φ 1~300mm) 40%、炭化物 (φ 1~5mm) 3%、焼土 (1~3mm) 1%。
5層	10YR3/2 黒褐色土	ローム粒 (φ 1~100mm) 20%、炭化物 (φ 1~10mm) 2%。
6層	10YR3/3 暗褐色土	ローム粒 (φ 1~300mm) 40%、炭化物 (φ 1~10mm) 3%、焼土 (1~10mm) 1%。
7層	10YR2/3 暗褐色土	ローム粒 (φ 1~10mm) 3%、炭化物 (φ 1~3mm) 1%。
8層	10YR5/6 黄褐色土	10YR4/6褐色土40%、ローム粒 (φ 1~300mm) 20%、7.5YR5/4にぶい褐色粘土5%、炭化物 (φ 1~5mm) 3%。
9層	10YR4/6 褐色土	ローム粒 (φ 1~5mm) 3%、炭化物 (φ 1mm) 1%。
10層	10YR5/8 黄褐色土	10YR3/4暗褐色土30%、ローム粒 (φ 1~300mm) 20%、7.5YR5/4にぶい褐色粘土3%、炭化物 (φ 1~5mm) 3%。
11層	10YR2/3 黒褐色土	ローム粒 (φ 1~10mm) 5%、炭化物 (φ 1~3mm) 2%。
12層	10YR4/6 褐色土	ローム粒 (φ 1~10mm) 10%、炭化物 (φ 1~5mm) 3%。
13層	10YR3/2 黒褐色土	ローム粒 (φ 1~200mm) 10%、炭化物 (φ 1~5mm) 2%、焼土 (φ 1~5mm) 1%。
14層	10YR6/8 明黄褐色ローム	壁崩落土、炭化物 (φ 1~3mm) 1%。
15層	10YR4/4 褐色土	ローム粒 (φ 1~10mm) 2%、炭化物 (φ 1mm) 1%。
16層	10YR2/1 黒色土	ローム粒 (φ 1~3mm) 3%、炭化物 (φ 1mm) 1%。
17層	10YR5/6 黄褐色土	壁溝。ローム粒 (φ 1~10mm) 5%、炭化物 (φ 1~3mm) 2%。
18層	10YR5/6 黄褐色土	壁溝。ローム粒 (φ 1~5mm) 3%、炭化物 (φ 1mm) 1%。
19層	10YR5/6 黄褐色土	壁溝。炭化物 (φ 1mm) 1%。
20層	7.5YR4/4 褐色土	貼床。7.5YR5/4にぶい褐色粘土30%、炭化物 (φ 2~10mm) 1%。

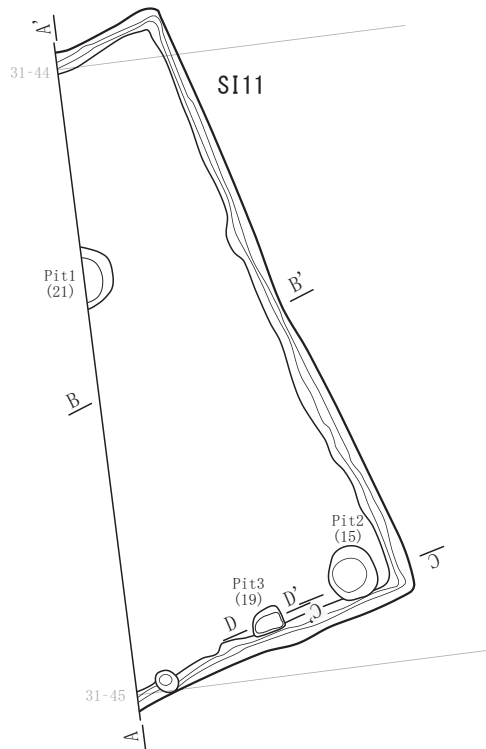


図67 第10号竪穴建物跡・第11号竪穴建物跡 (1)

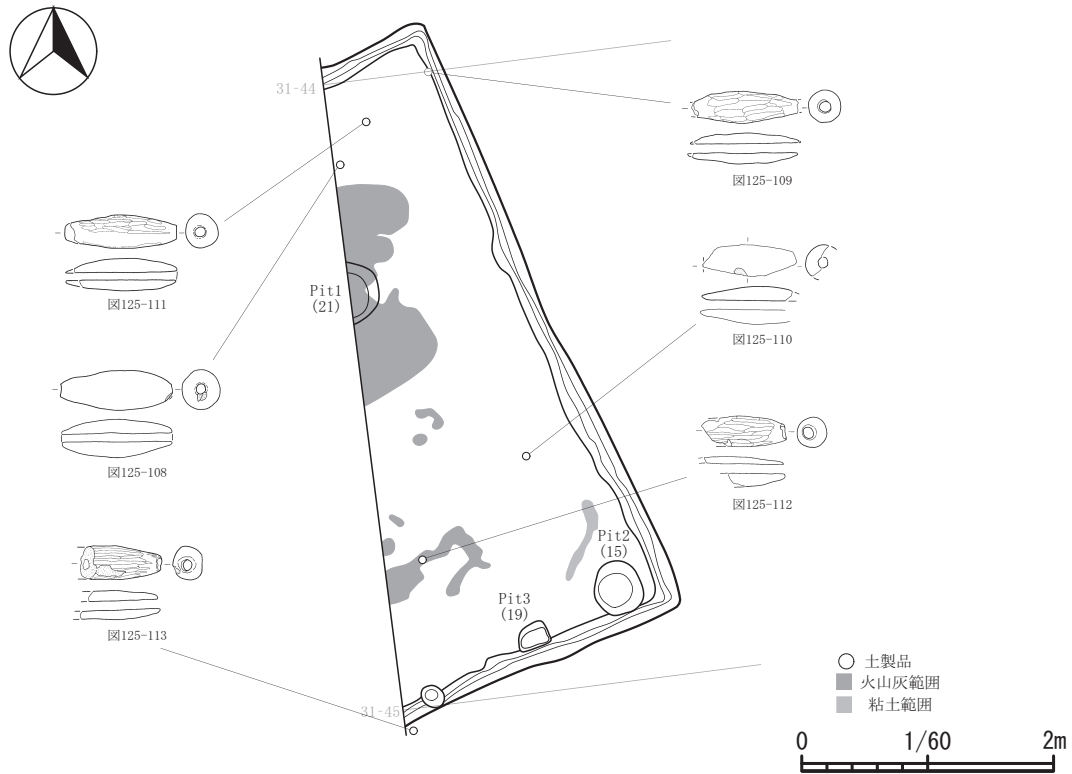
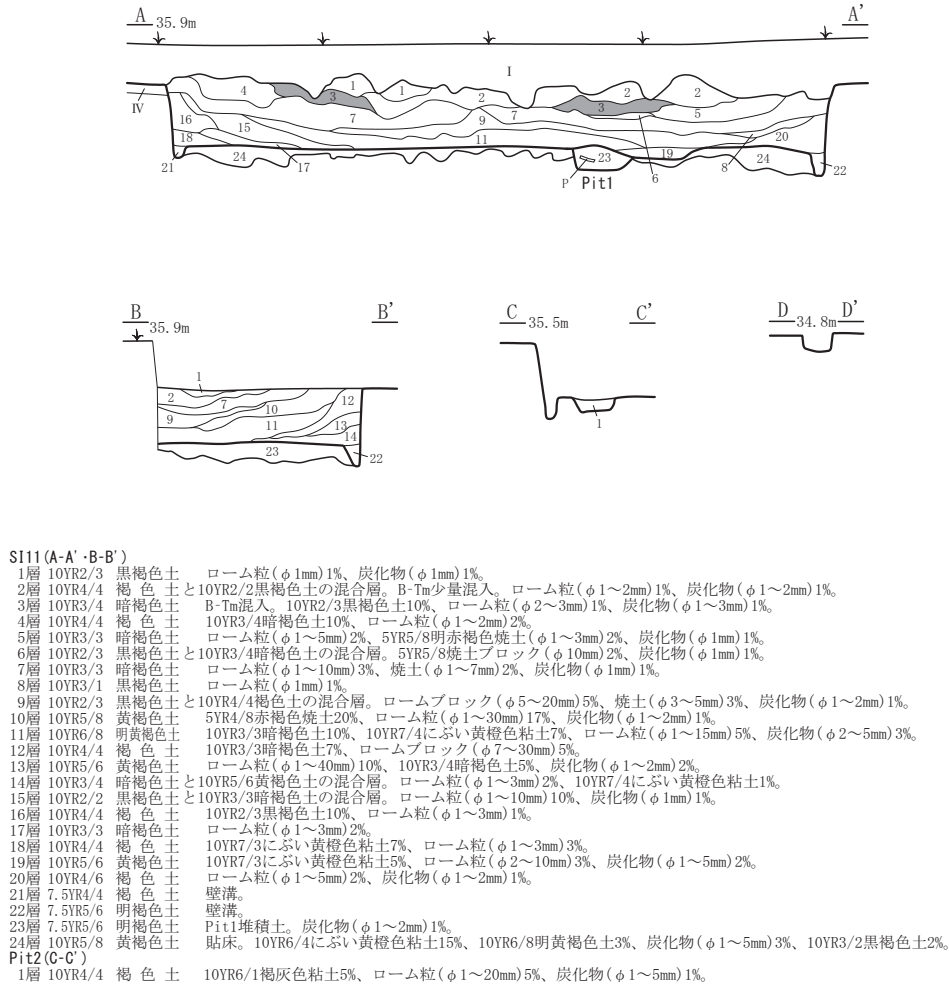


図68 第11号豎穴建物跡 (2)

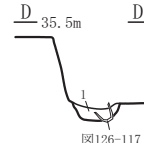
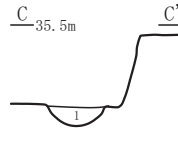
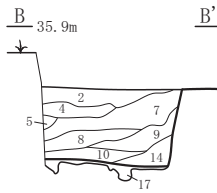
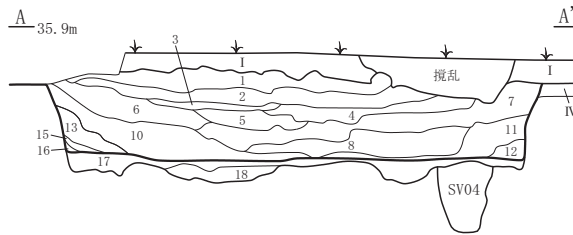
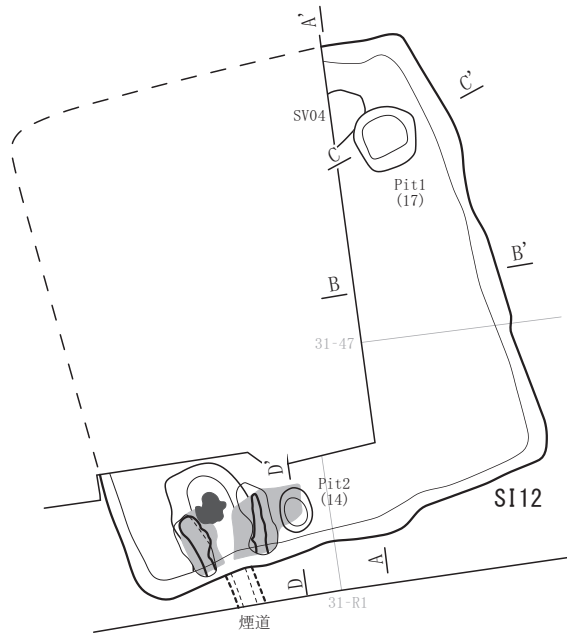
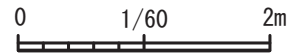


図126-117

■ 火床面範囲
■ 粘土範囲



SI12 (A-A' - B-B')

- | | |
|------------------|--|
| 1層 10YR3/4 暗褐色土 | 10YR4/3にぶい黄褐色土30%、10YR5/6黄褐色土3%、炭化物(φ1~20mm)2%、 |
| 2層 10YR3/4 暗褐色土 | 7.5YR5/6明褐色土5%、ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ2~10mm)1%、 |
| 3層 10YR4/4 褐色土 | 10YR6/6明黄褐色土5%、10YR3/4暗褐色土3%、 |
| 4層 10YR4/6 褐色土 | 10YR3/4暗褐色土5%、ローム粒(φ1~20mm)5%、10YR5/8黄褐色土2%、 |
| 5層 10YR4/6 褐色土 | 10YR5/8黄褐色土15%、10YR3/4暗褐色土3%、ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%、 |
| 6層 10YR4/4 褐色土 | 7.5YR5/6明褐色土20%、10YR6/8明黄褐色土5%、炭化物(φ1~20mm)2%、 |
| 7層 10YR4/6 褐色土 | 7.5YR5/6明褐色土15%、10YR6/8明黄褐色土7%、7.5YR6/4にぶい橙色土2%、 |
| 8層 10YR3/4 暗褐色土 | 7.5YR4/6褐色土15%、10YR6/8明黄褐色土10%、7.5YR5/4にぶい褐色土5%、 |
| 9層 10YR4/6 褐色土 | 7.5YR5/6明褐色土10%、 |
| 10層 10YR3/4 暗褐色土 | 10YR5/8黄褐色土10%、7.5YR5/8明褐色土2%、7.5YR4/6褐色土1%、 |
| 11層 10YR4/4 褐色土 | 10YR5/6黄褐色土10%、7.5YR5/8明褐色土5%、7.5YR6/6橙色土2%、 |
| 12層 10YR4/6 褐色土 | 10YR5/8黄褐色土10%、7.5YR5/6明褐色土10%、炭化物(φ2~10mm)1%、 |
| 13層 10YR4/4 褐色土 | 10YR4/6褐色土15%、10YR5/6黄褐色土10%、炭化物(φ1~10mm)1%、 |
| 14層 10YR4/6 褐色土 | 10YR6/8明黄褐色土5%、7.5YR5/8明褐色土5%、10YR3/3暗褐色土5%、 |
| 15層 10YR5/6 黄褐色土 | 10YR4/6褐色土10%、10YR3/4暗褐色土2%、7.5YR5/8明褐色土1%、 |
| 16層 10YR4/6 褐色土 | 10YR5/6黄褐色土10%、炭化物(φ10mm)1%、 |
| 17層 10YR5/8 黄褐色土 | 掘方。7.5YR4/6褐色土15%、10YR4/4褐色土10%、7.5YR5/4にぶい褐色粘土5%、炭化物(φ1~10mm)1%、 |
| 18層 10YR4/6 褐色土 | 10YR6/8明黄褐色土ローム粒(φ1~5mm)2%、 |
| Pit1 (C-C') | |
| 1層 10YR4/4 褐色土 | 10YR6/8明黄褐色土ローム粒(φ2~30mm)5%、7.5YR5/8明褐色土ローム粒(φ1~20mm)2%、10YR2/3黒褐色土2%、 |
| Pit2 (D-D') | |
| 1層 10YR4/6 褐色土 | 7.5YR4/6褐色土20%、7.5YR5/6明褐色土15%、 |

図69 第12号竪穴建物跡(1)

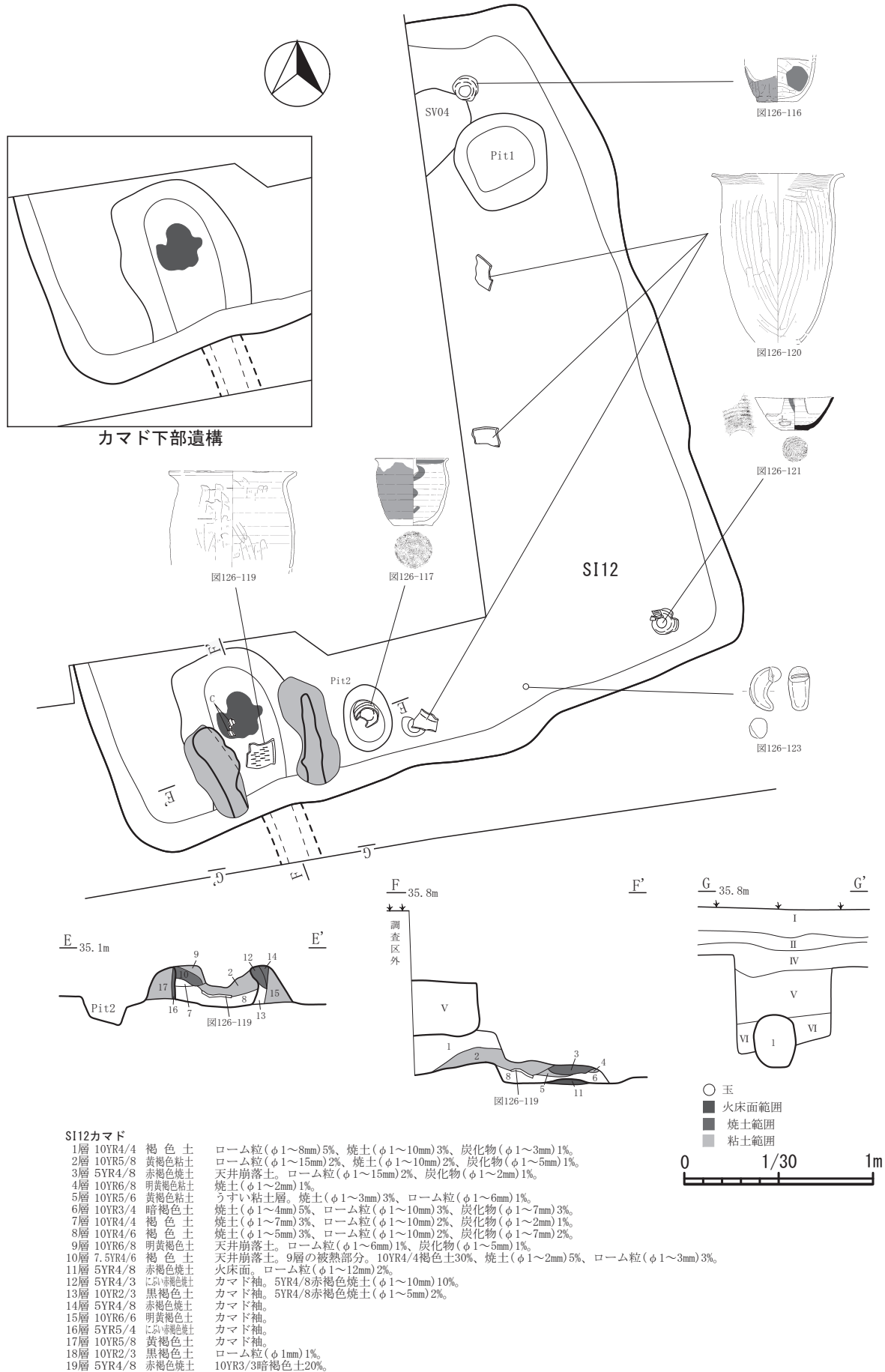
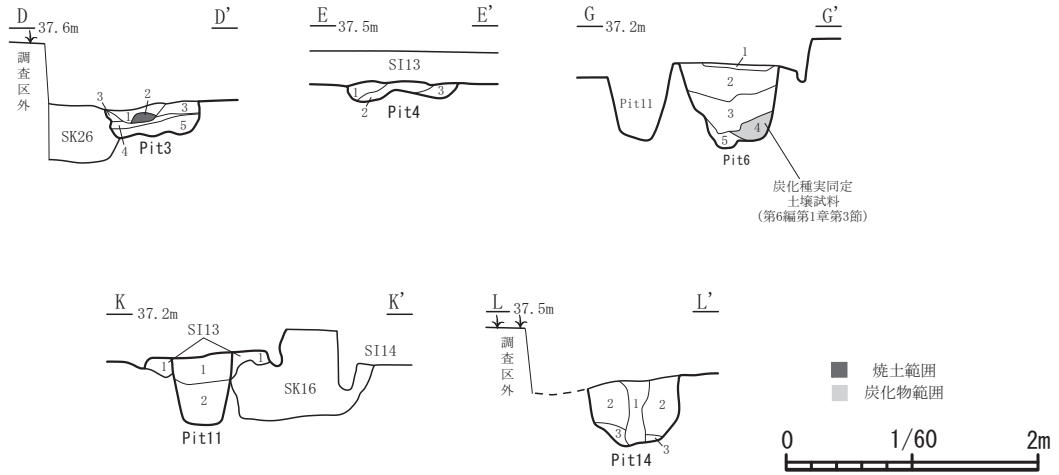


図70 第12号竪穴建物跡(2)



- Pit3 (D-D')**
 1層 10YR3/2 黒褐色土
 2層 5YR3/4 暗赤褐色焼土
 3層 10YR5/8 黄褐色土
 4層 10YR5/6 黄褐色土
 5層 10YR5/8 黄褐色土
- Pit4 (E-E')**
 1層 10YR3/3 暗褐色土
 2層 10YR5/6 黄褐色土
 3層 10YR3/3 暗褐色土
- Pit6 (G-G')**
 1層 10YR5/6 黄褐色土
 2層 7.5YR5/8 明褐色土
 3層 7.5YR3/6 明褐色土
 4層 炭化物主体
 5層 10YR5/8 黄褐色土
- SI13 (K-K')**
 1層 10YR7/8 黄褐色土
- Pit11 (K-K')**
 1層 10YR7/8 黄褐色土
 2層 10YR4/6 褐色土
- Pit14 (L-L')**
 1層 10YR2/2 黒褐色土
 2層 10YR5/6 黄褐色土
 3層 10YR6/6 明黄褐色土
- 10YR4/4褐色土15%、10YR5/6黄褐色土ローム粒(φ1~60mm)3%、焼土(φ2~12mm)1%、炭化物(φ1~10mm)1%。
 炭化物(φ1~100mm)40%、10YR4/6褐色土10%。
 10YR4/4褐色土15%、焼土(φ1~10mm)1%、炭化物(φ1~10mm)1%。
 焼土(φ1~3mm)3%、10YR3/4暗褐色土2%。
 10YR4/6褐色土10%、炭化物(φ2~10mm)1%。
 ローム粒(φ2~40mm)10%、炭化物(φ1~5mm)2%。
 10YR3/2黒褐色土5%、7.5YR5/8明褐色土1%。
 ローム粒(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~10mm)1%。
 10YR7/4こぶい黄褐色粘土(φ1~30mm)5%、10YR6/8明黄褐色粘土(2~20mm)5%、焼土2%、炭化物(φ2~15mm)1%。
 10YR7/4こぶい黄褐色粘土(φ2~30mm)3%、焼土1%、炭化物(φ2~5mm)1%。
 10YR2/1黒色土5%、10YR7/4こぶい黄褐色粘土(φ2~30mm)2%、焼土1%、炭化物(φ1~2mm)1%。
 7.5YR5/8明褐色土10%。
 7.5YR5/8明褐色土3%、10YR8/4浅黄褐色土1%。
 掘方。10YR5/8黄褐色土3%、10YR6/8明黄褐色土ローム粒(φ1~3mm)1%。
 10YR6/6明黄褐色土ローム粒(φ20~70mm)7%が層左側に多い。炭化物(φ1~5mm)1%。
 10YR7/2こぶい黄褐色粘土(φ1~2mm)3%、10YR6/8明黄褐色土ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 柱痕。10YR7/6明黄褐色土ローム粒(φ1~3mm)10%、炭化物(φ1~3mm)2%。
 掘方。炭化物(φ1~5mm)5%、10YR6/8明黄褐色土ローム粒(φ1~3mm)2%。
 掘方。炭化物(φ1~3mm)2%。

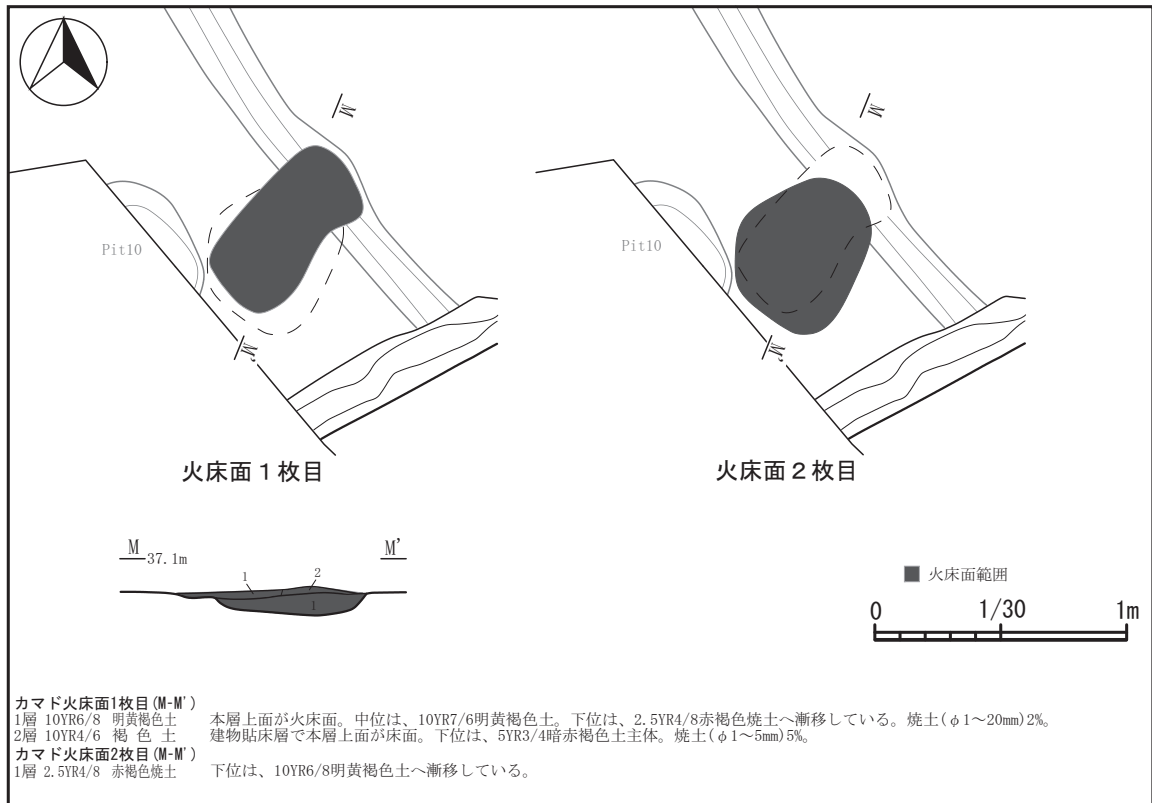


図72 第13号a竪穴建物跡(2)



図73 第13号a竪穴建物跡 (3)

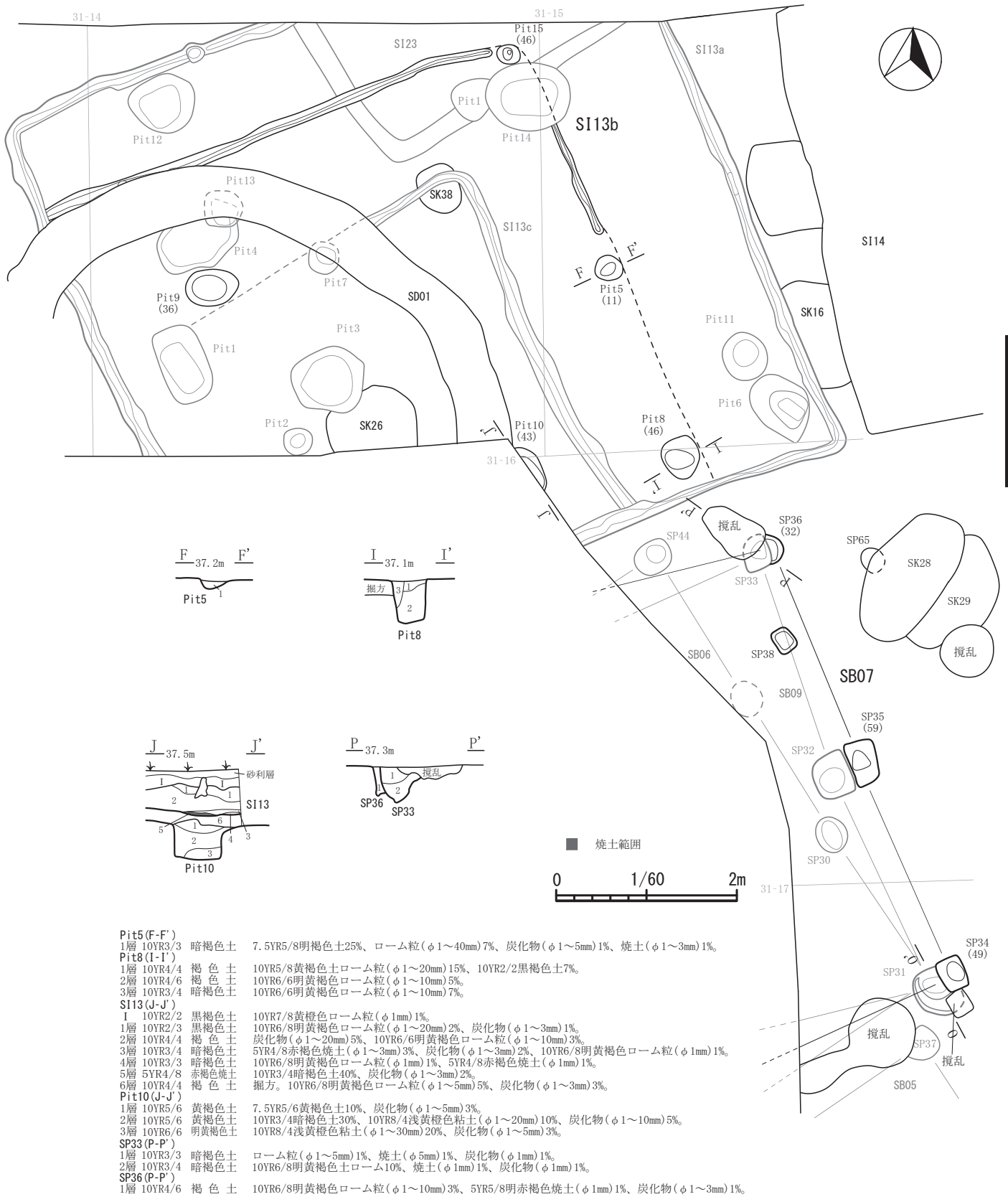
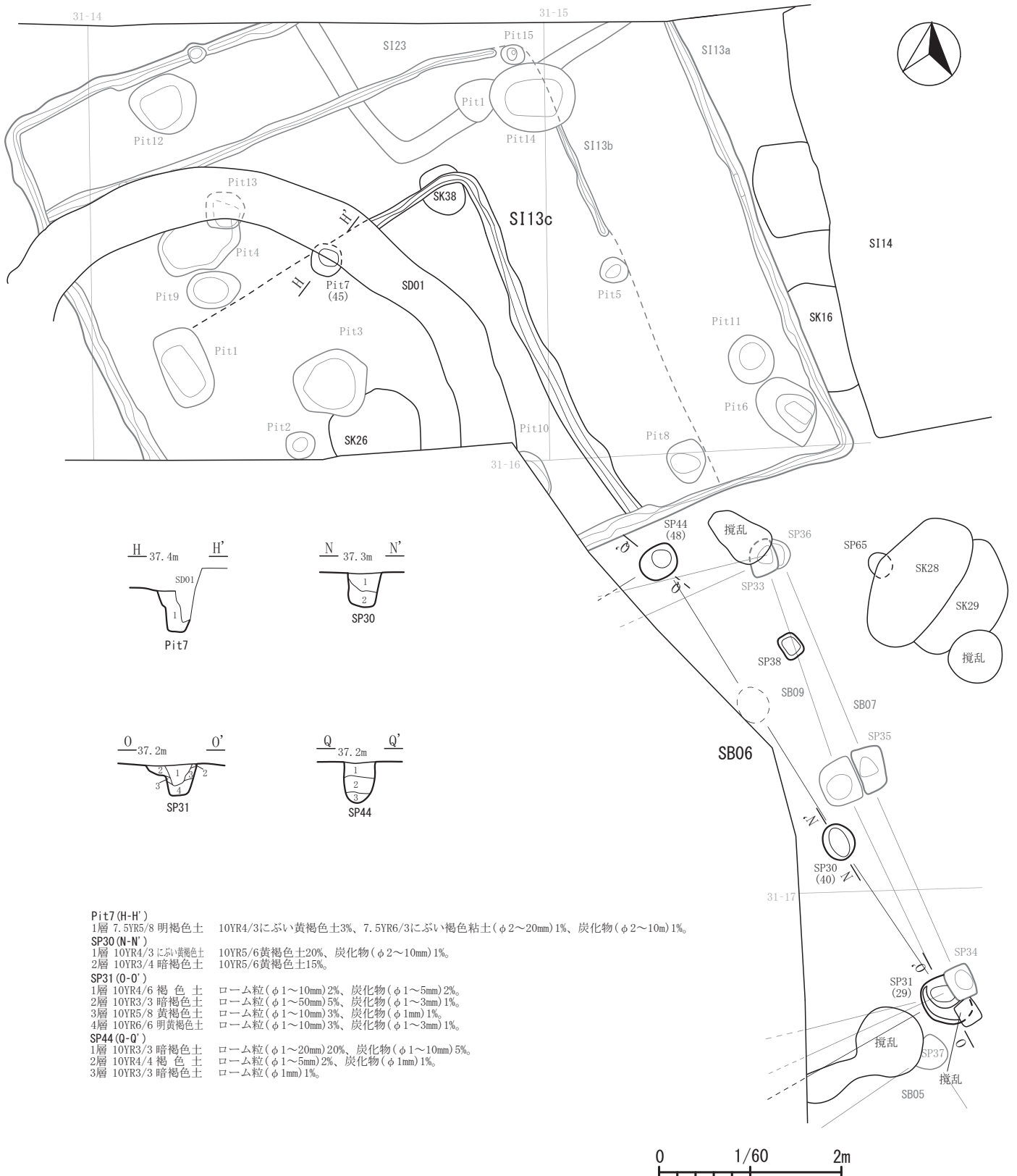
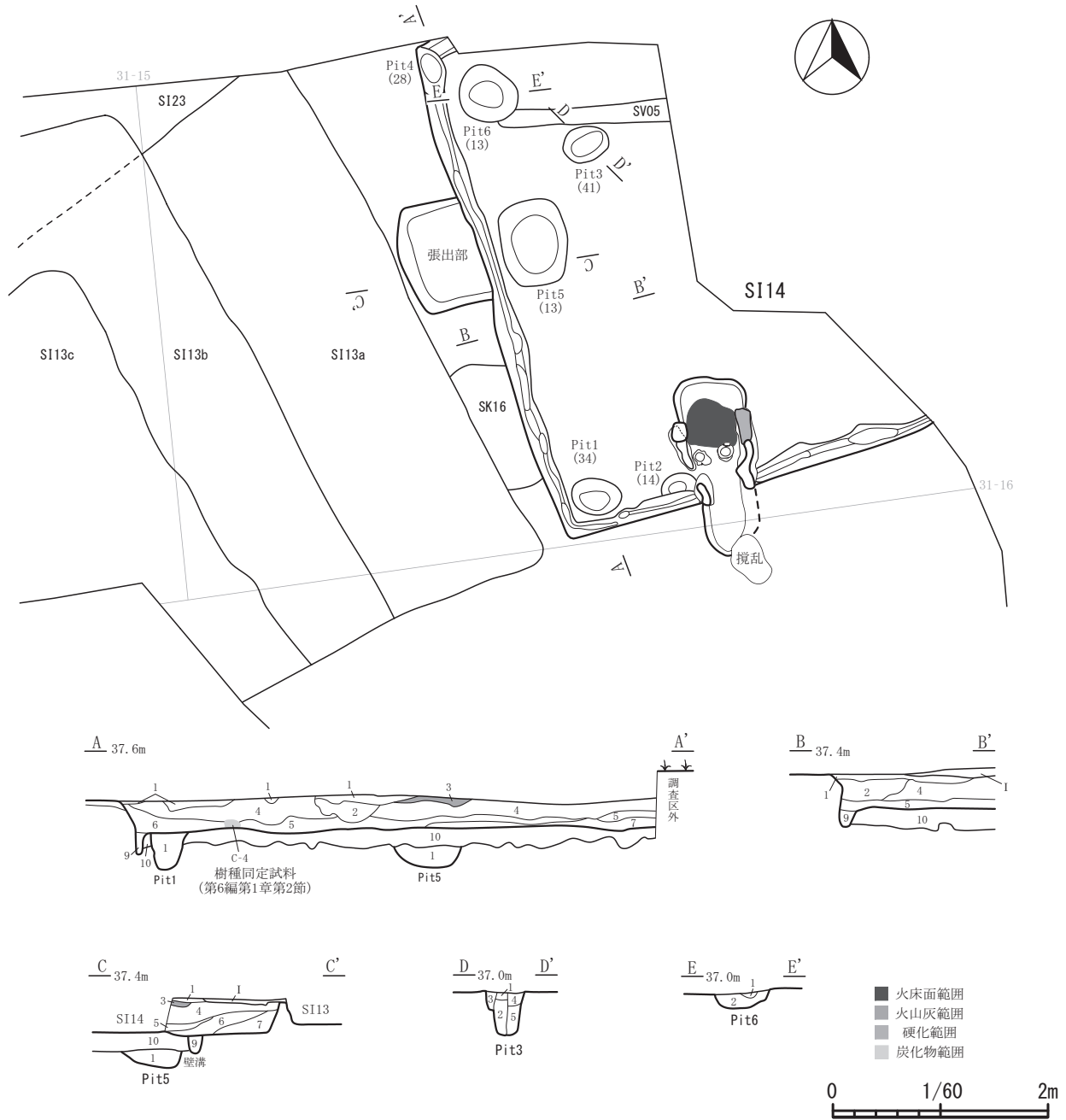


図74 第13号b罫穴建物跡



- Pit7 (H-H')**
 1層 7.5YR5/8 明褐色土 10YR4/3にぶい黄褐色土3%、7.5YR6/3にぶい褐色粘土(φ2~20mm)1%、炭化物(φ2~10mm)1%。
- SP30 (N-N')**
 1層 10YR4/3にぶい黄褐色土 10YR5/6黄褐色土20%、炭化物(φ2~10mm)1%。
 2層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/6黄褐色土15%。
- SP31 (O-O')**
 1層 10YR4/6 褐色土 □-△粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~5mm)2%。
 2層 10YR3/3 暗褐色土 □-△粒(φ1~50mm)5%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 3層 10YR5/8 黄褐色土 □-△粒(φ1~10mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
 4層 10YR6/6 明黄褐色土 □-△粒(φ1~10mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%。
- SP44 (Q-Q')**
 1層 10YR3/3 暗褐色土 □-△粒(φ1~20mm)20%、炭化物(φ1~10mm)5%。
 2層 10YR4/4 褐色土 □-△粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
 3層 10YR3/3 暗褐色土 □-△粒(φ1mm)1%。

図75 第13号c竪穴建物跡



- SI14(A-A'・B-B'・C-C')**
- 1層 10YR2/2 黒褐色土
 - 2層 10YR4/3 にぶい黄褐色土
 - 3層 10YR3/4 暗褐色土
 - 4層 10YR4/4 褐色土
 - 5層 10YR2/1 黒色土
 - 6層 10YR4/6 褐色土
 - 7層 10YR3/3 暗褐色土
 - 8層 10YR4/6 褐色土
 - 9層 10YR6/8 明黄褐色土
 - 10層 10YR6/8 明黄褐色土
- Pit1(A-A')**
- 1層 10YR4/6 褐色土
- Pit5(A-A'・C-C')**
- 1層 10YR4/6 褐色土
- Pit3(D-D')**
- 1層 10YR3/3 暗褐色土
 - 2層 10YR3/4 暗褐色土
 - 3層 10YR4/4 褐色土
 - 4層 10YR3/4 暗褐色土
 - 5層 10YR5/8 黄褐色土
- Pit6(E-E')**
- 1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土
 - 2層 10YR2/2 黒褐色土
- 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~3mm)2%、7.5YR5/8明褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
 10YR2/3黒褐色土40%、10YR4/4褐色土10%、ローム粒(φ1~30mm)5%、焼土粒(φ1~20mm)1%、炭化物(φ1~20mm)1%。
 B-Tm3%混入。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
 10YR6/8明黄褐色土10%、7.5YR4/6褐色土5%、10YR5/4にぶい黄褐色ローム粒(φ2~10mm)1%、10YR2/2黒褐色土1%、炭化物(φ1~200mm)1%、焼土粒(φ1~15mm)1%。
 10YR4/2灰黄褐色土10%、5YR4/4にぶい赤褐色焼土10%、7.5YR5/6明褐色土5%、炭化物(φ1~20mm)25%。
 10YR7/8黄橙色ロームブロック(φ10×20mm)5%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)10%、炭化物(φ1~10mm)3%、炭化物(φ1~5mm)2%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~3mm)1%。
 10YR5/6黄褐色土7%、10YR4/2灰黄褐色土5%、炭化物(φ1~15mm)1%、焼土(φ1~20mm)1%、ローム粒(φ1~7mm)1%、壁溝。ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
 10YR8/4浅黄橙色粘土10%、10YR2/3黒褐色土5%。
 10YR5/8黄褐色ロームブロック15%、焼土3%、10YR3/3暗褐色土2%、炭化物(φ1~10mm)1%。
 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~10mm)3%。
 10YR7/8明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
 10YR6/6明黄褐色土15%、炭化物(φ1~3mm)2%。
 10YR5/8黄褐色土の混合層。10YR8/4浅黄橙色粘土5%、炭化物(φ1mm)1%。
 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
 10YR7/6明黄褐色ロームブロック(φ10~20mm)10%、ローム粒(φ1~3mm)3%、炭化物(φ1~5mm)2%。
 10YR4/4褐色土10%、炭化物(φ1~5mm)3%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~3mm)2%。

図76 第14号竪穴建物跡(1)

農道31号
下石川平野遺跡

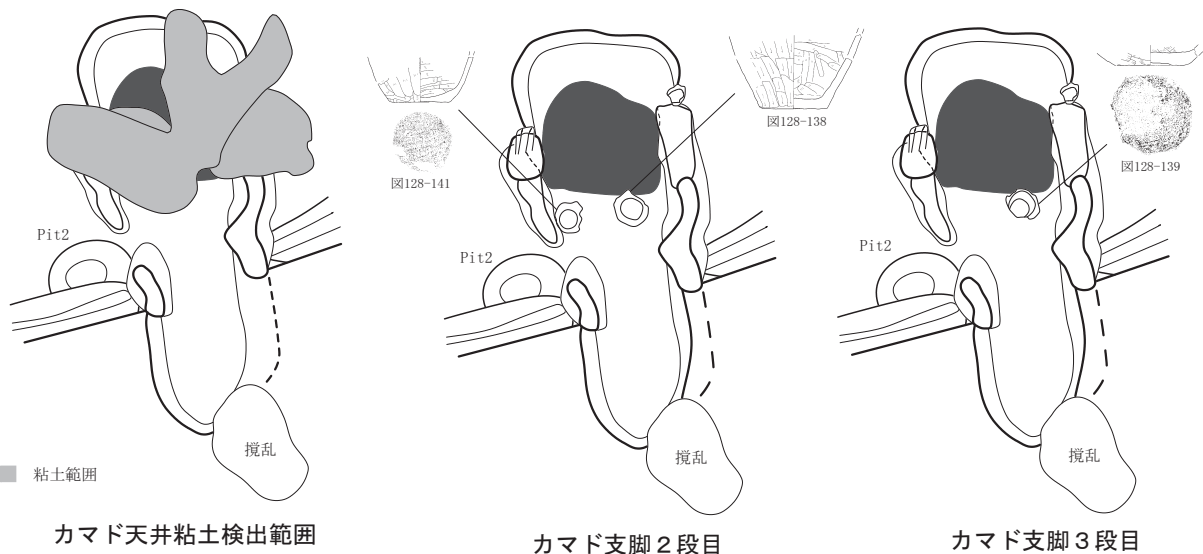
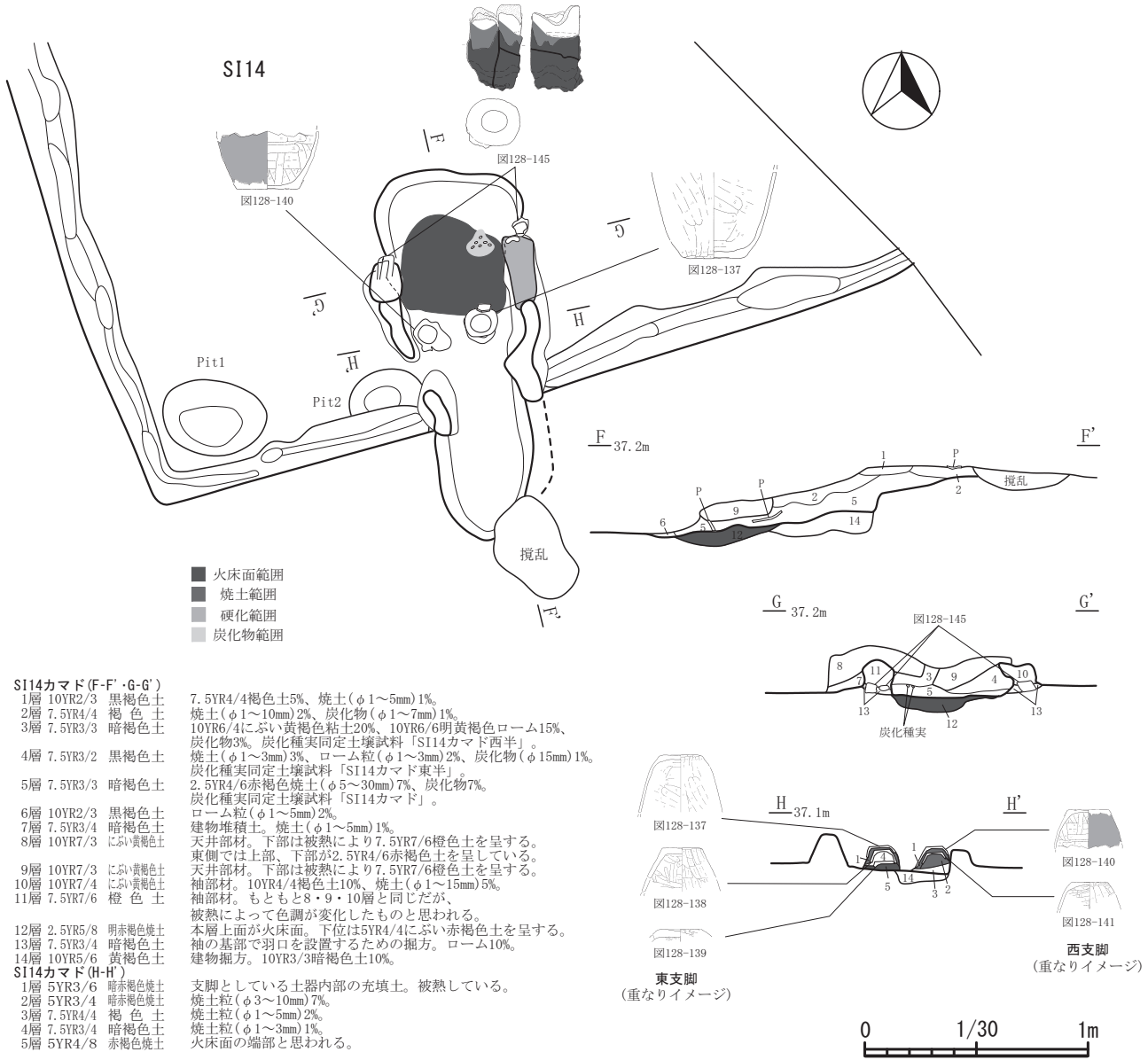
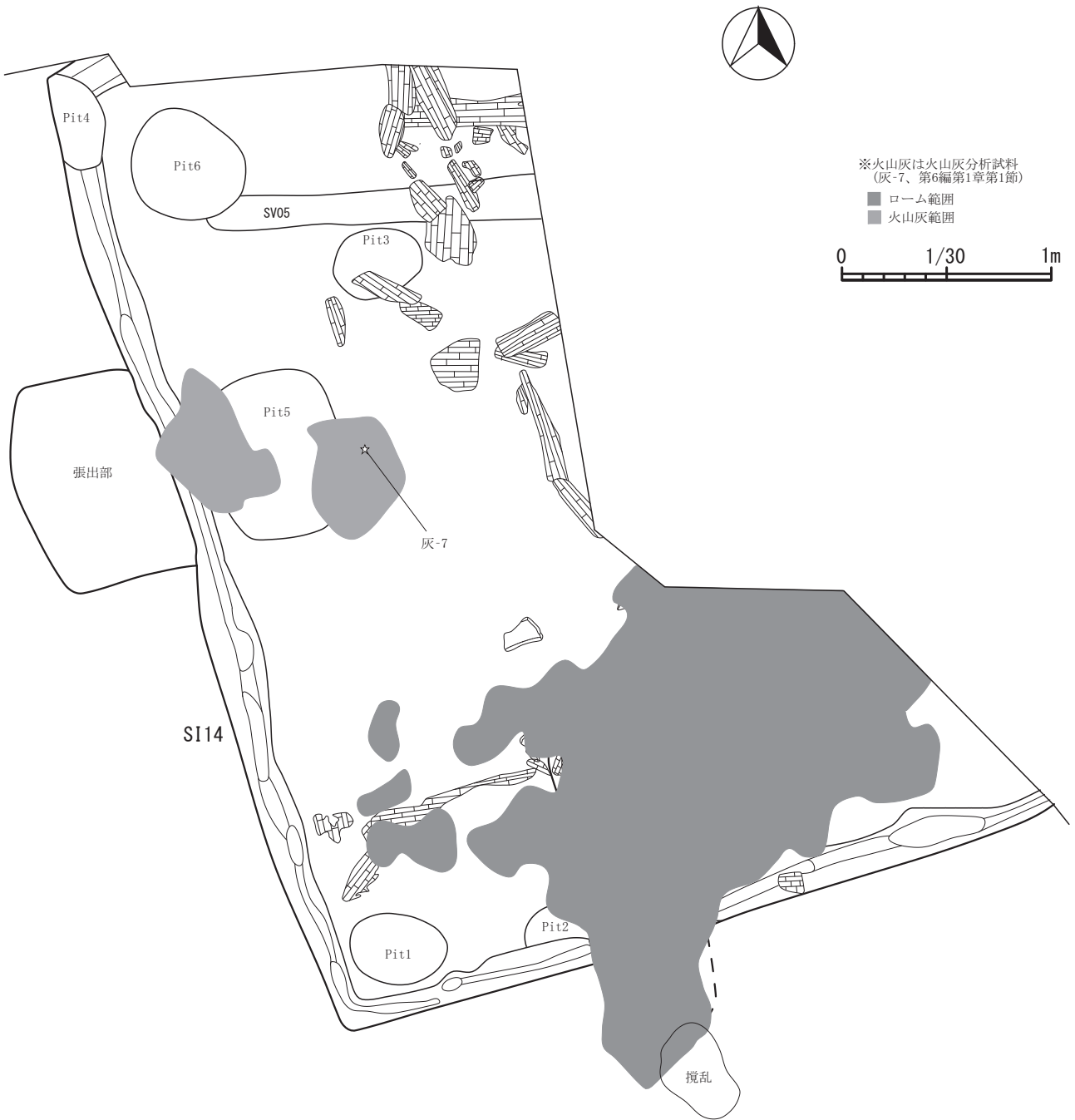


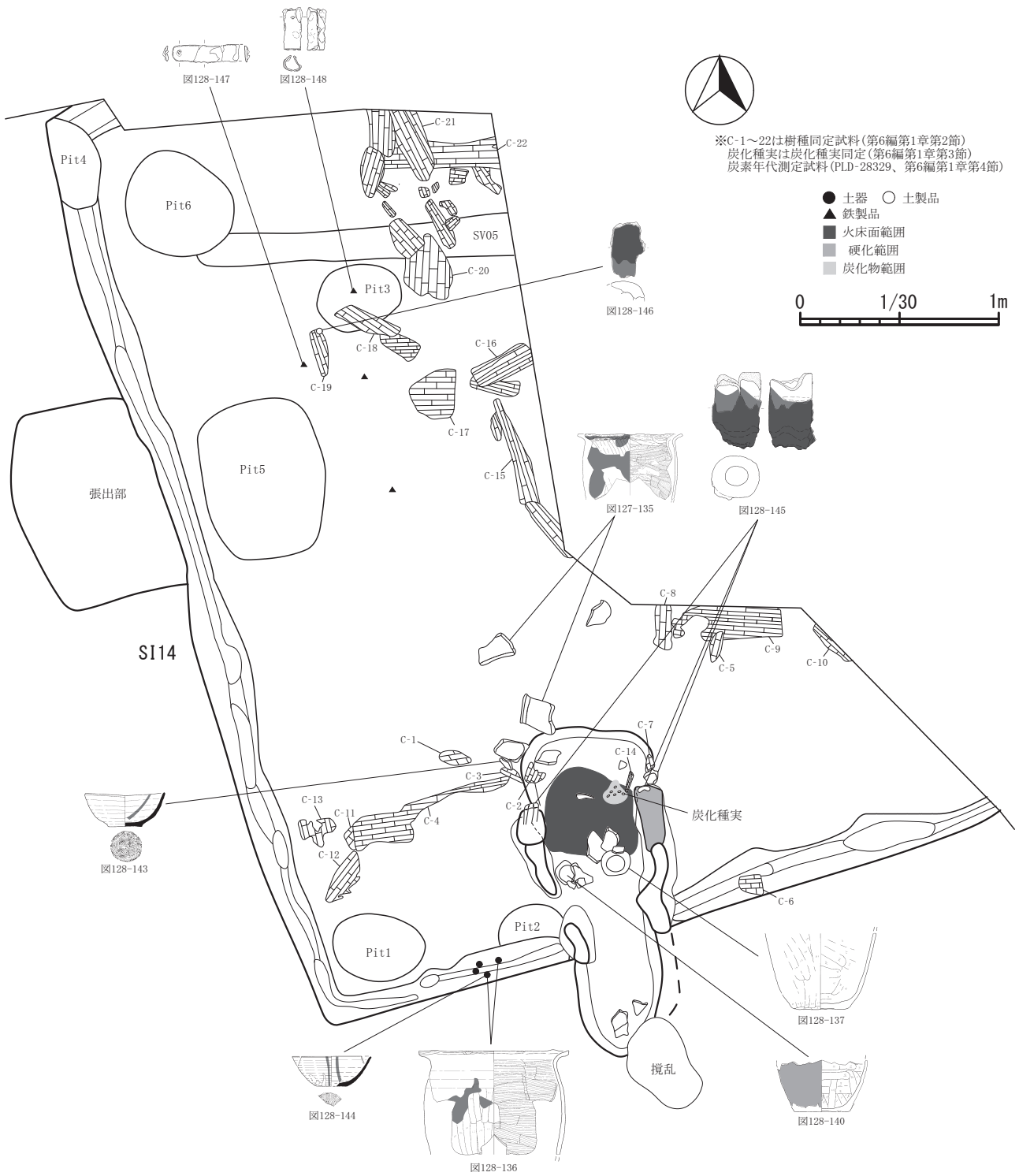
図77 第14号竪穴建物跡(2)



農道31号
下石川平野遺跡

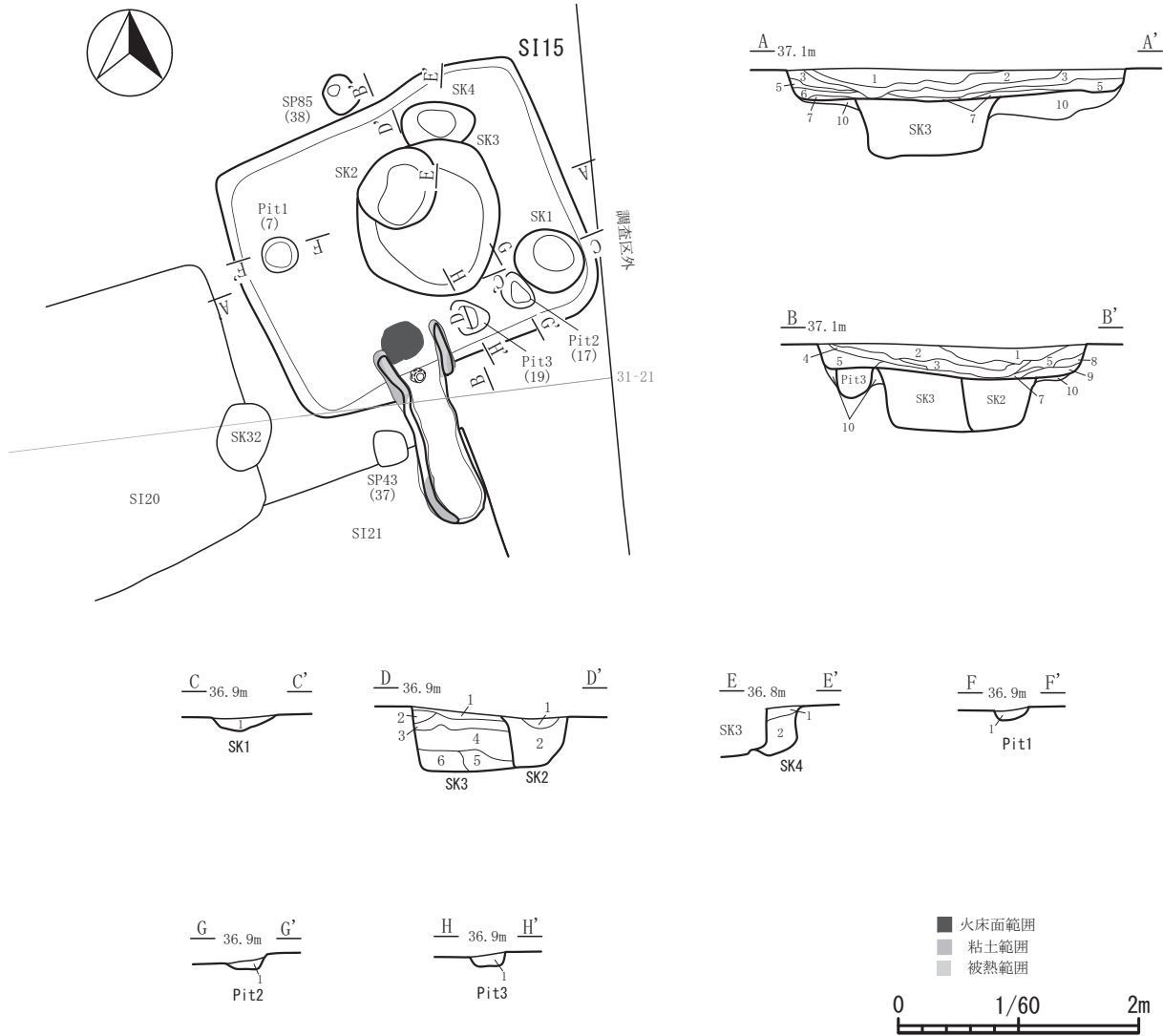
火山灰・ローム等検出状況

図78 第14号竪穴建物跡 (3)



床面・床面直上遺物出土状況図

図79 第14号竪穴建物跡(4)



SI15 (A-A'・B-B')

- | | |
|-------------------|--|
| 1層 10YR3/3 暗褐色土 | 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10~50mm)5%、焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ2×5mm)1%。 |
| 2層 10YR4/4 褐色土 | 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10~90mm)7%、10YR3/2黒褐色土がブロック状(φ10mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%。 |
| 3層 10YR3/3 暗褐色土 | 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10~30mm)5%、焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%。 |
| 4層 10YR5/4 にい黄褐色土 | 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~5mm)1%。 |
| 5層 10YR3/3 暗褐色土 | 下に10YR6/2灰黄褐色土が層状に入る。ローム粒(φ1~5mm)1%。 |
| 6層 10YR5/6 黄褐色土 | と10YR3/3暗褐色土の混合層。10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~5mm)7%。 |
| 7層 10YR2/1 黒色土 | 炭化物(φ1~3mm)3%。 |
| 8層 10YR4/4 褐色土 | 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~20mm)5%。 |
| 9層 10YR4/4 褐色土 | 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~20mm)3%、焼土(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。 |
| 10層 10YR5/6 黄褐色土 | 掘方。10YR3/3暗褐色土3%が部分的に混入。 |

SK1 (C-C')

- 1層 10YR4/6 褐色土 ローム粒(φ1~10mm)3%、粘土(φ10mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%。

SK2 (D-D')

- 1層 10YR4/6 褐色土 10YR2/2黒褐色土(φ1~10mm)7%、10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~15mm)5%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1~5mm)1%。
2層 10YR5/6 黄褐色土 10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~20mm)7%、10YR2/1黒色土(φ1~5mm)1%、10R5/8赤色焼土(φ1~5mm)1%。

SK3 (D-D')

- 1層 10YR5/4 にい黄褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)7%、10YR2/2黒褐色土(φ1~5mm)2%、黄褐色土(φ1~5mm)1%。
2層 10YR8/8 黄褐色土 10YR3/3暗褐色土(φ1~5mm)2%。
3層 10YR3/3 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~20mm)5%、10YR5/4にい黄褐色土(φ1~10mm)5%。
4層 10YR5/4 にい黄褐色土 10YR6/8明黄褐色土(φ1~20mm)5%、10YR6/3にい黄褐色粘土(φ1~20mm)2%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1~5mm)1%。
5層 10YR5/4 にい黄褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)10%。
6層 10YR5/8 黄褐色土 10YR2/3黒褐色土(φ1~10mm)2%。

SK4 (E-E')

- 1層 10YR4/6 褐色土 10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)5%。
2層 10YR6/6 明黄褐色土 10YR2/1黒色土(φ1~5mm)1%、5YR5/6明赤褐色土(φ1~5mm)1%。

Pit1 (F-F')

- 1層 10YR5/8 黄褐色土 ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。

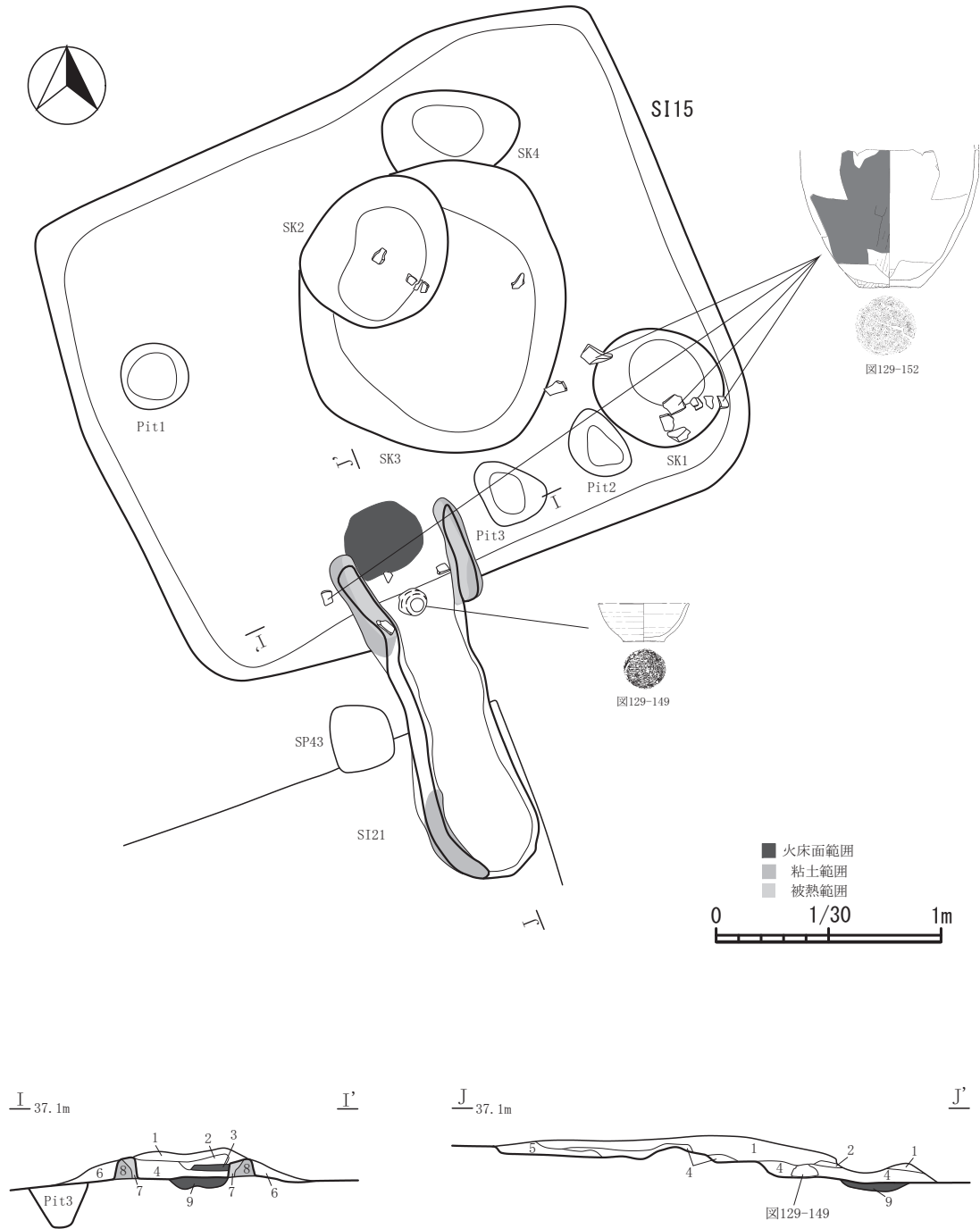
Pit2 (G-G')

- 1層 10YR4/6 褐色土 ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。

Pit3 (H-H')

- 1層 10YR4/4 褐色土 ローム粒(φ1~10mm)3%、焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%。

図80 第15号豎穴建物跡 (1)



S115カマド

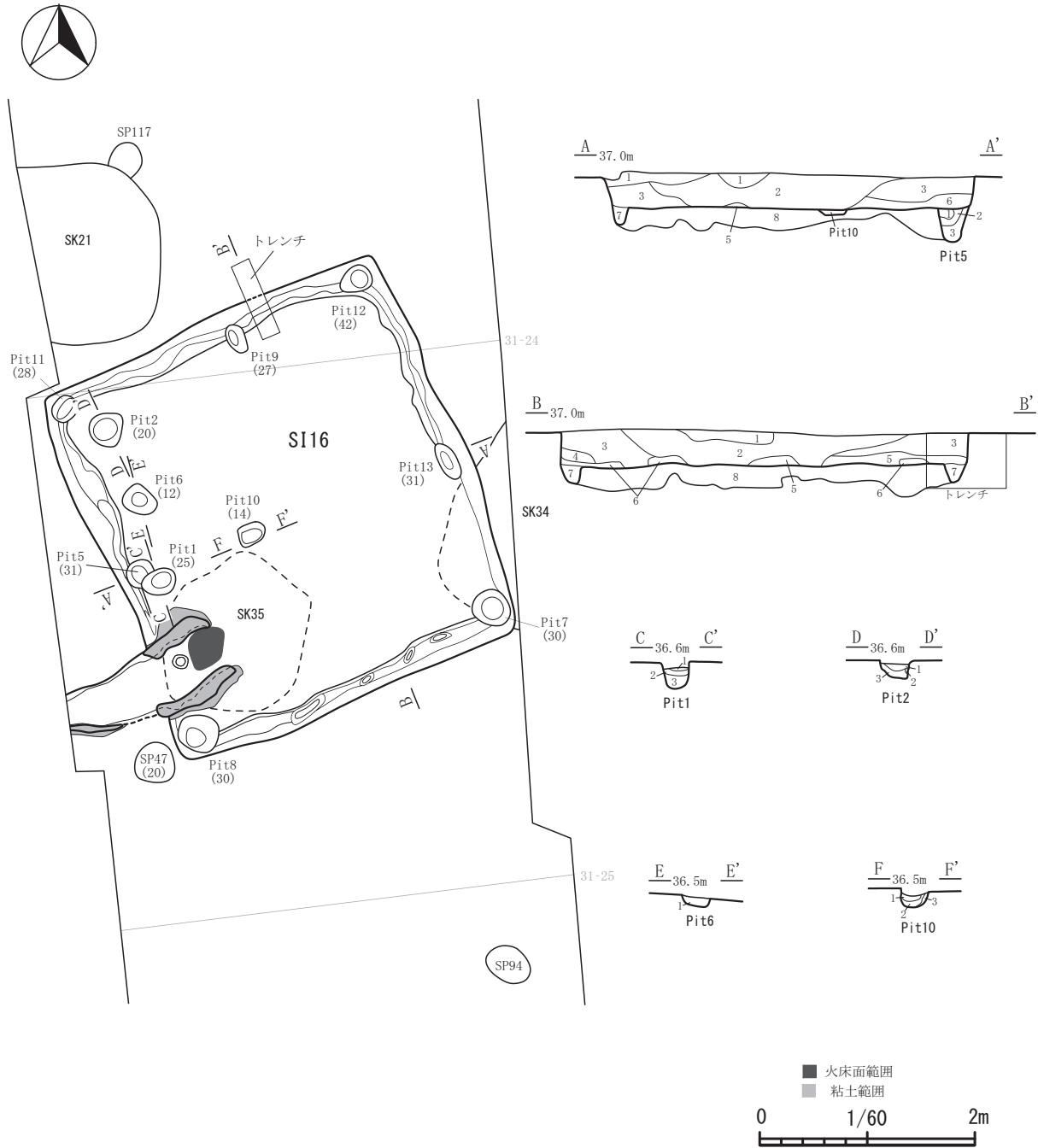
- 1層 10YR5/6 黄褐色ローム
- 2層 10YR2/2 黒褐色土
- 3層 5YR4/8 赤褐色焼土
- 4層 7.5YR3/3 暗褐色土
- 5層 10YR4/3 に近い黄褐色土
- 6層 10YR3/2 黒褐色土
- 7層 5YR3/6 暗赤褐色焼土
- 8層 10YR5/4 に近い黄褐色土
- 9層 5YR4/3 に近い赤褐色焼土

天井崩落土。10YR3/3暗褐色土が層上位にうすく堆積。焼土(φ1~5mm)1%、炭化物30%が層全体に混入。

5YR4/8赤褐色焼土7%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%、ローム粒(φ1~2mm)1%、焼土(φ1~2mm)1%、炭化物(φ1~10mm)1%。

建物堆積土。
カマド袖。
カマド袖。
火床面。

図81 第15号竪穴建物跡 (2)



S116(A-A'・B-B')

- 1層 10YR2/2 黒褐色土
- 2層 10YR3/3 暗褐色土
- 3層 10YR4/4 褐色土
- 4層 10YR4/4 褐色土
- 5層 10YR4/3 にぶい黄褐色土
- 6層 10YR6/4 にぶい黄褐色土
- 7層 10YR4/4 褐色土
- 8層 10YR6/8 明黄褐色土と10YR2/2 黒褐色土の混合層。貼床。
- 10YR6/8 明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)1%、焼土(φ1~3mm)1%。
- 10YR6/8 明黄褐色ローム粒(φ10~60mm)3%、焼土(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- 10YR6/8 明黄褐色ローム粒(φ10~100mm)3%、焼土(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~5mm)1%、7.5YR6/6 橙色粘土1%がブロック状に混入。
- 10YR6/8 明黄褐色ローム粒(φ1~20mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- 10YR3/2 黒褐色土が層の上位に層状に堆積。10YR6/8 明黄褐色ローム粒(φ1~20mm)2%、焼土(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- 壁溝。10YR3/3 暗褐色土10%、10YR6/8 明黄褐色ローム粒(φ1~20mm)5%。
- 壁溝。10YR3/3 暗褐色土10%。

Pit1(C-C')

- 1層 10YR4/4 褐色土
- 2層 10YR3/3 暗褐色土
- 3層 10YR4/4 褐色土
- 10YR5/6 黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%、5YR4/8 赤褐色焼土(φ1~5mm)1%。
- 炭化物(φ1~5mm)1%。
- 10YR5/6 黄褐色ローム粒10%、炭化物(φ1~5mm)1%。

Pit2(D-D')

- 1層 10YR4/6 褐色土
- 2層 10YR6/8 明黄褐色土
- 3層 10YR4/6 褐色土
- 10YR7/8 黄褐色ローム粒10%(φ1~10mm)1%。

Pit6(E-E')

- 1層 10YR5/6 黄褐色土
- 10YR3/4 暗褐色土(φ1~5mm)3%。
- 10YR7/4 にぶい黄褐色粘土20%。

Pit10(F-F')

- 1層 10YR3/3 暗褐色土
- 2層 10YR2/2 黒褐色土
- 3層 10YR6/8 明黄褐色土
- 柱痕。10YR7/8 黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
- 柱痕。10YR7/8 黄褐色ローム粒7%。
- 掘方。

図82 第16号竪穴建物跡(1)

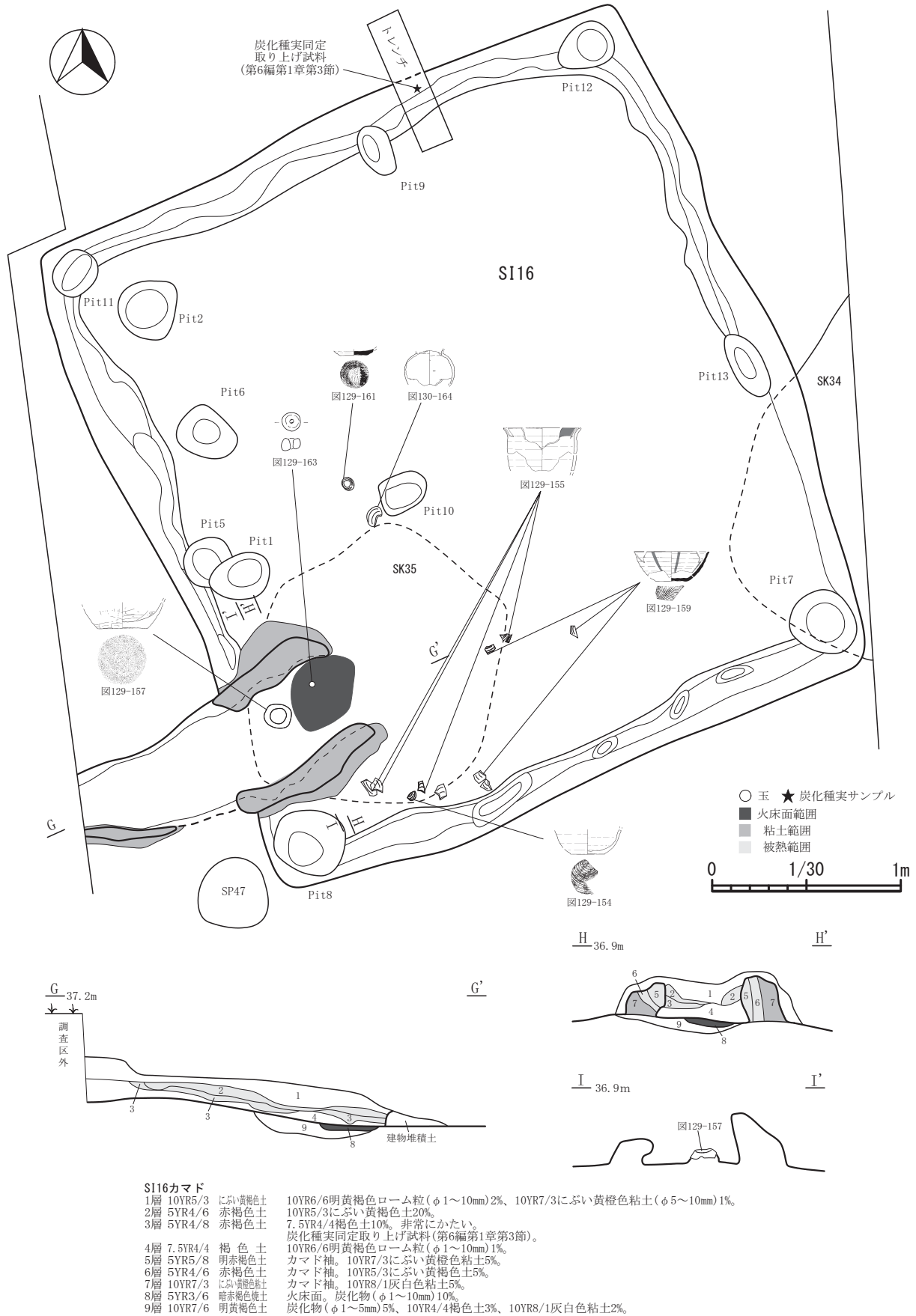
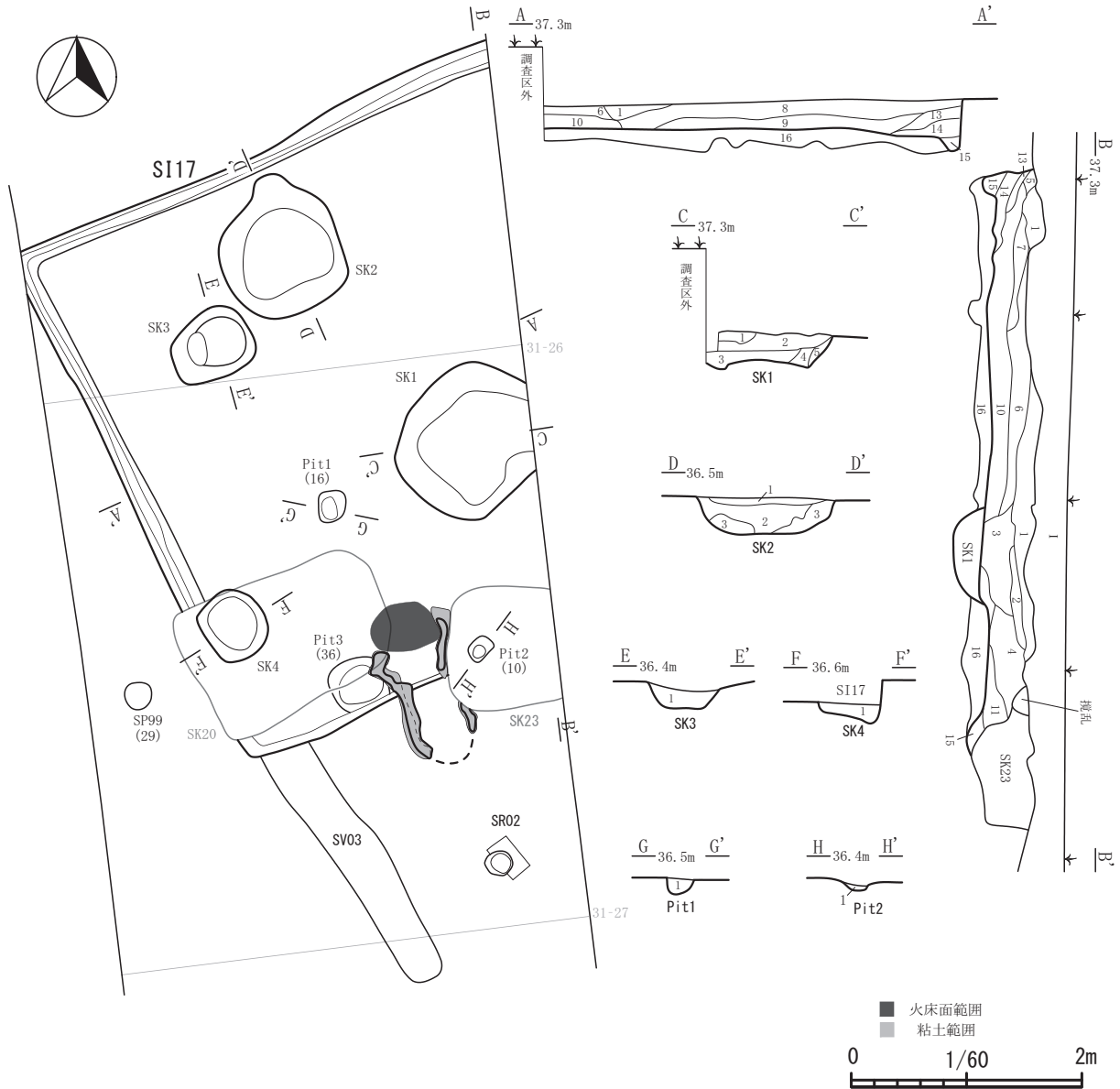


図83 第16号竪穴建物跡 (2)



SI17(A-A'・B-B')

- | | |
|--|--|
| 1層 10YR3/2 黒褐色土 | 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ5~10mm)1%、炭化物(φ5mm)1%。 |
| 2層 10YR4/3 赤褐色土 | 10YR3/2暗褐色土20%が部分的に混入。10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ20~50mm)15%。 |
| 3層 10YR4/4 褐色土 | 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ30~70mm)20%、炭化物(φ1~5mm)1%。 |
| 4層 10YR3/2 黒褐色土 | 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ30~50mm)10%、炭化物(φ1~10mm)1%。 |
| 5層 10YR4/4 褐色土 | 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)1%。 |
| 6層 10YR3/2 黒褐色土 | 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ5~10mm)1%。 |
| 7層 10YR5/4 赤褐色土 | 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5~20mm)10%、炭化物(φ1~5mm)1%。 |
| 8層 10YR4/3 赤褐色土 | 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10~40mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%。 |
| 9層 10YR3/2 黒褐色土 | 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10~30mm)2%。 |
| 10層 10YR3/3 暗褐色土 | 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10~30mm)3%、炭化物(φ5~10mm)1%。 |
| 11層 10YR6/6 明黄褐色土 | |
| 12層 10YR3/3 暗褐色土 | 壁溝。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ5~15mm)5%、10YR6/4にぶい黄褐色粘土(φ20~30mm)1%。 |
| 13層 10YR4/3 赤褐色土 | 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。 |
| 14層 10YR3/4 暗褐色土 | 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10~20mm)5%。 |
| 15層 10YR4/3 赤褐色土 | 壁溝。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。 |
| 16層 10YR6/6 明黄褐色土と10YR2/2黒褐色土の混合層。貼床。10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ5~20mm)2%。 | |

SK1(C-C')

- | | |
|------------------|--|
| 1層 10YR3/4 暗褐色土 | 5YR5/6明赤褐色焼土(φ1~30mm)10%、10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)3%。 |
| 2層 10YR3/3 暗褐色土 | 10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~40mm)7%、10YR4/6褐色土(φ1~10mm)3%。 |
| 3層 10YR6/8 明黄褐色土 | 10YR3/2黒褐色土7%、10YR7/3にぶい黄褐色粘土7%。 |
| 4層 10YR7/2 赤褐色土 | 10YR3/2黒褐色土5%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1~5mm)1%。 |
| 5層 10YR5/6 黄褐色土 | 10YR7/2にぶい黄褐色粘土(φ1~5mm)1%。 |

SK2(D-D')

- | | |
|---|---|
| 1層 10YR4/3 赤褐色土 | ローム粒(φ2~30mm)25%、7.5YR5/6明褐色土5%、炭化物(φ3~10mm)1%。 |
| 2層 10YR6/6 明黄褐色土 | 7.5YR5/6明褐色土5%、10YR3/3暗褐色土3%、10YR7/3にぶい黄褐色粘土2%。 |
| 3層 10YR5/8 黄褐色土と7.5YR5/6明褐色土の混合層。10YR7/6明黄褐色粘土5%、炭化物(φ1mm)1%。 | |

SK3(E-E')

- 1層 10YR5/8 黄褐色土と10YR6/8明黄褐色土の混合層。10YR4/4褐色土10%、10YR6/6明黄褐色粘土5%、鉄分凝着3%。

SK4(F-F')

- 1層 10YR3/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色土15%。

Pit1(G-G')

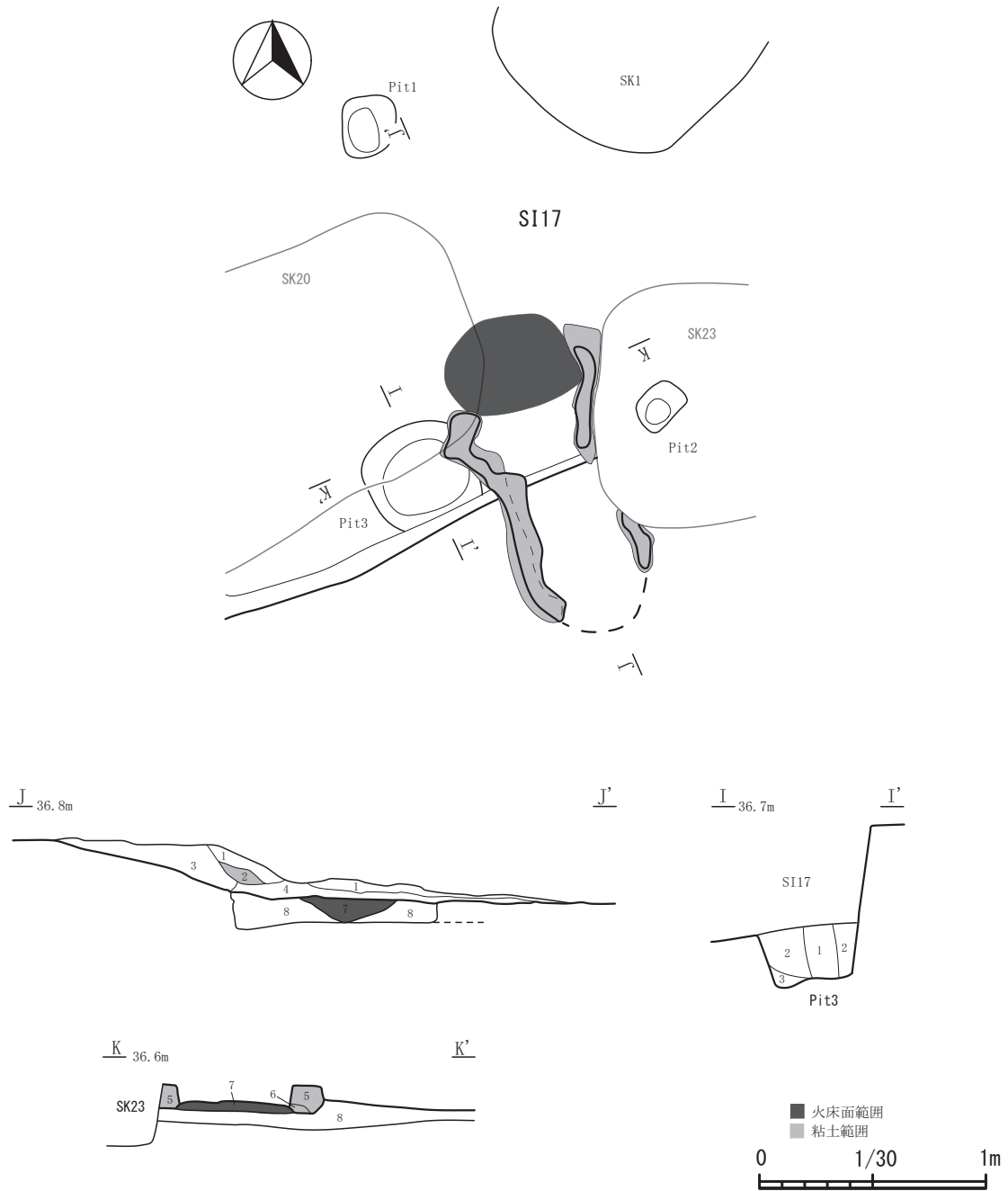
- 1層 7.5YR5/6 明褐色土と10YR5/8黄褐色土の混合層。10YR2/3黒褐色土3%。

Pit2(H-H')

- 1層 7.5YR4/6 褐色土 10YR3/3暗褐色土7%、10YR6/8明黄褐色土5%、炭化物(φ2~3mm)2%。

図84 第17号竪穴建物跡(1)

農道31号
下石川平野遺跡



Pit3 (I-I')

- 1層 10YR4/4 褐色土
- 2層 10YR5/6 黄褐色土
- 3層 10YR4/4 褐色土

柱痕。ローム粒(φ2~15mm)3%、炭化物(φ2mm)1%。
掘方。10YR3/3暗褐色土5%、10YR7/3にぶい黄橙色粘土5%、鉄分凝着3%。
掘方。10YR3/3暗褐色土10%、7.5YR5/8明褐色土7%、10YR7/3にぶい黄橙色粘土3%。

SI17カマド (J-J'・K-K')

- 1層 10YR4/4 褐色土
- 2層 10YR4/4 褐色土
- 3層 10YR4/4 褐色土
- 4層 10YR3/4 暗褐色土
- 5層 10YR4/6 褐色土
- 6層 7.5YR4/4 褐色土
- 7層 7.5YR4/4 褐色土
- 8層 10YR3/3 暗褐色土

10YR5/6黄褐色土30%、炭化物(φ1~10mm)10%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1~5mm)1%。
天井崩落土。粘質土。10YR6/3にぶい黄橙色土(φ1~10mm)7%。
10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1~10mm)1%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。
10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1~5mm)1%。
カマド袖。10YR6/4にぶい黄橙色ローム粒(φ1~10mm)3%、焼土1%。
カマド袖。7.5YR5/8明褐色土30%。
火床面。10YR6/2灰黄褐色土10%。
暗褐色土と10YR5/8黄褐色土との混合層。建物掘方。10YR6/8明黄褐色ローム15%、焼土5%。

図85 第17号竪穴建物跡 (2)

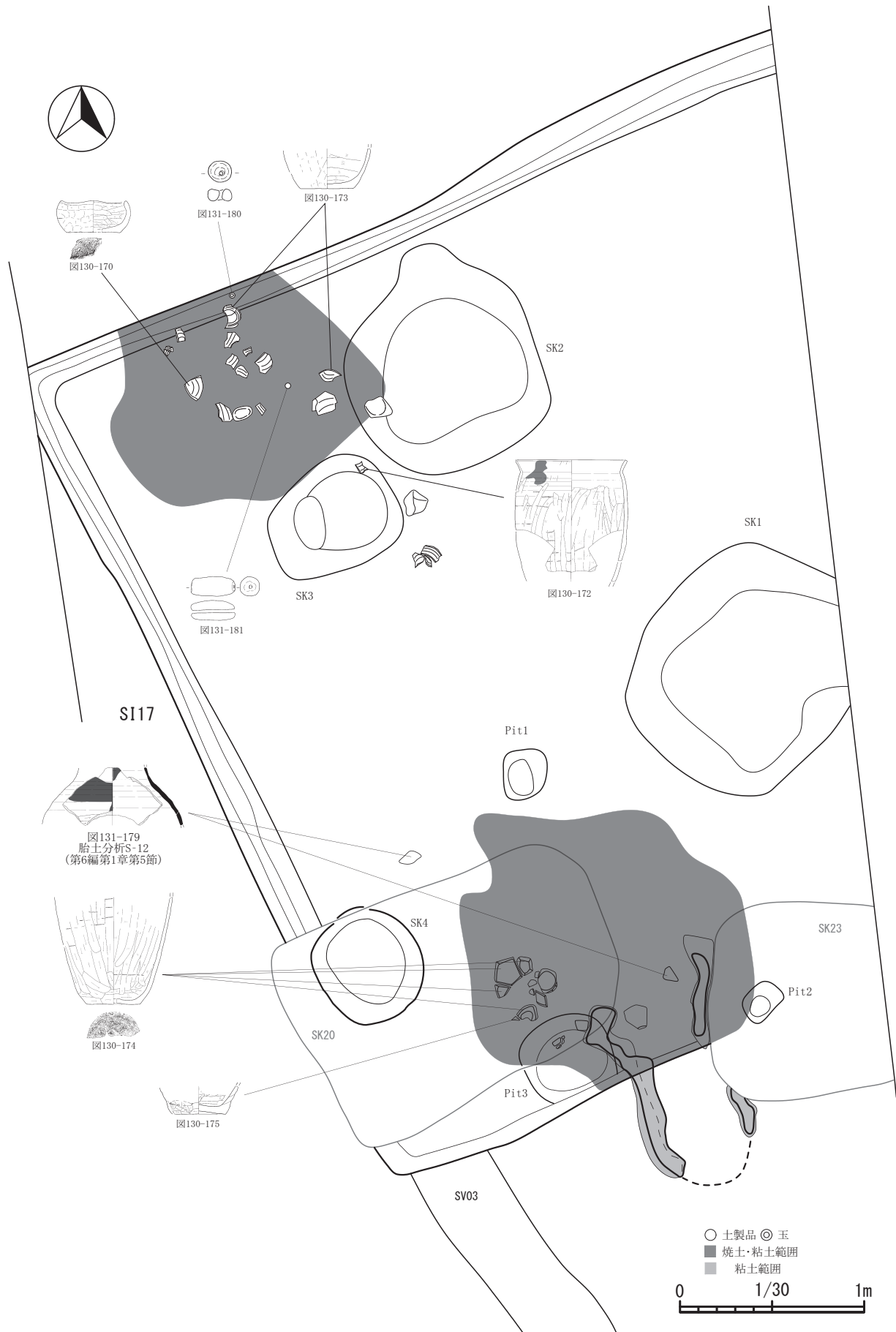
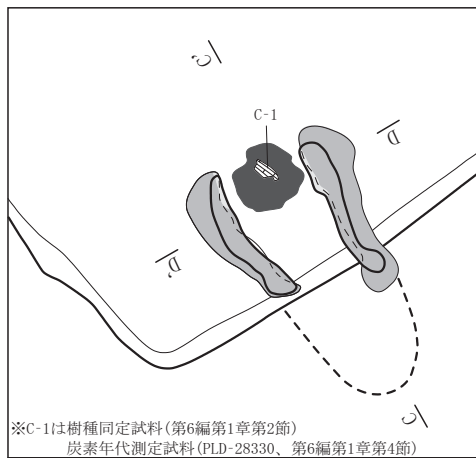
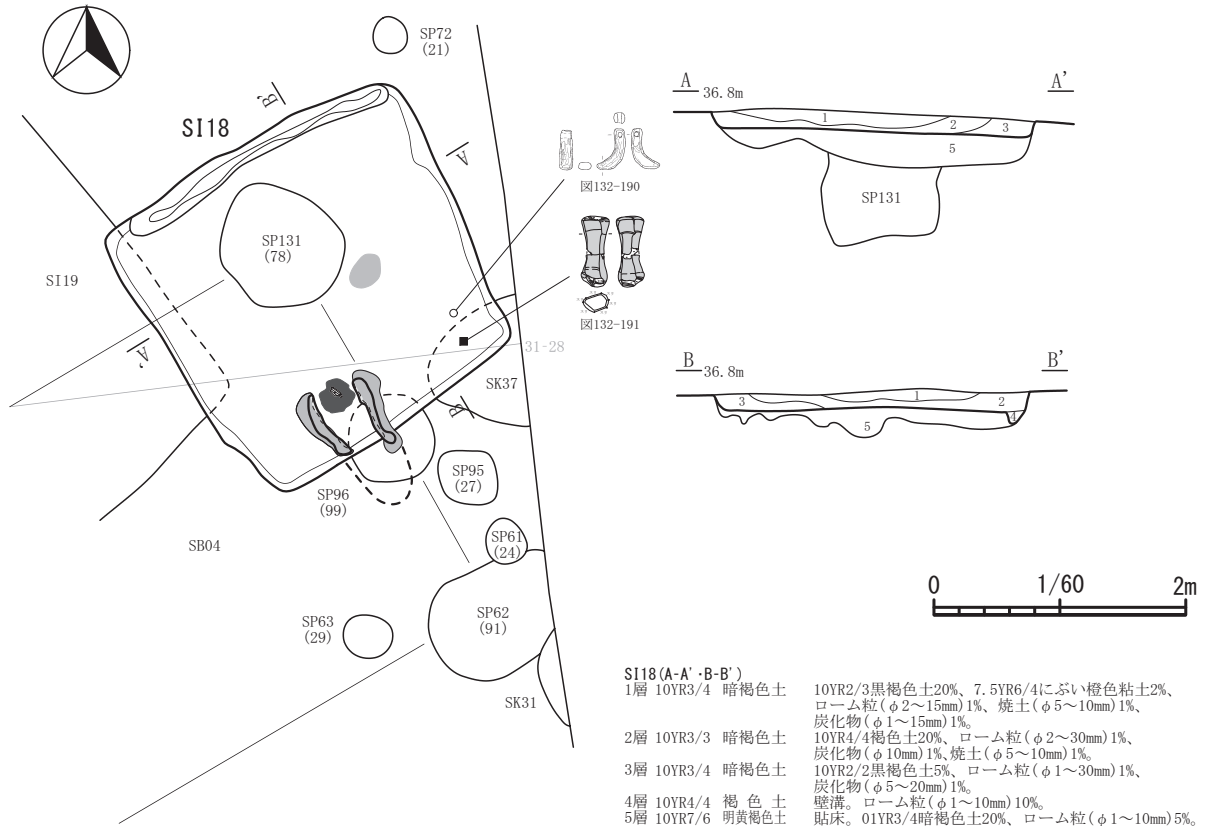


図86 第17号竪穴建物跡 (3)



S118カマド

- | | |
|--------------------|--|
| 1層 10YR3/2 黒褐色土 | 10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。 |
| 2層 10YR6/3 にぶい黄褐色土 | 崩落土。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1~5mm)1%。 |
| 3層 10YR3/4 暗褐色土 | 炭化物(φ1~5mm)2%、5YR5/8赤褐色土(φ1~5mm)1%。 |
| 4層 10YR4/4 褐色土 | 10YR5/2灰黄褐色土(φ1~10mm)3%。 |
| 5層 10YR3/3 暗褐色土 | 10YR5/2灰黄褐色土(φ1~5mm)1%、10YR6/8黄褐色土(φ1~5mm)1%。 |
| 6層 5YR5/4 にぶい黄褐色土 | 火床面。 |
| 7層 10YR6/3 にぶい黄褐色土 | カマド袖。 |
| 8層 10YR5/6 黄褐色粘土 | カマド袖。(7層が被熱した部分。) |
| 9層 10YR4/4 褐色土 | カマド掘方。10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5~15mm)3%。 |

図87 第18号竪穴建物跡

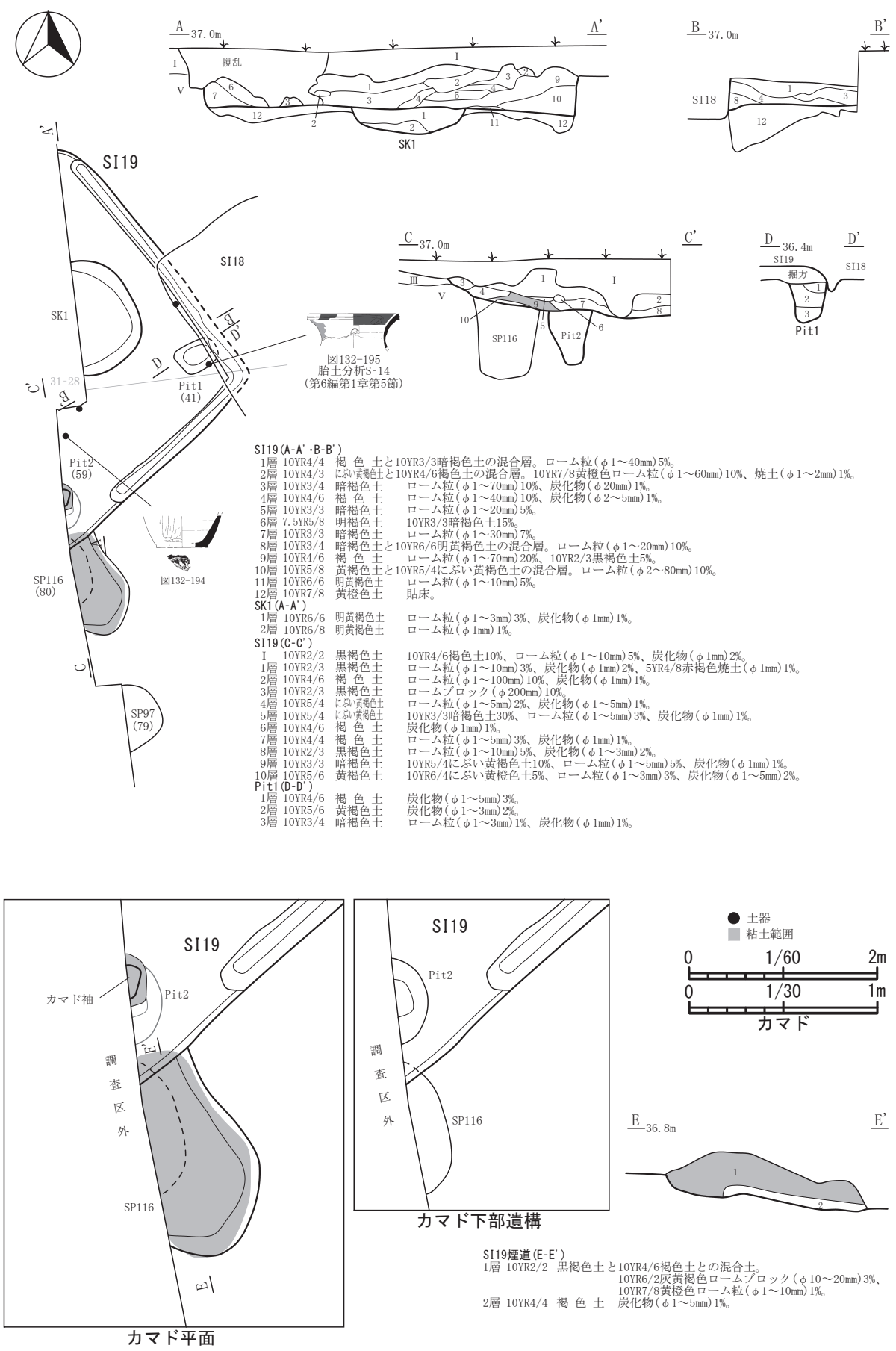
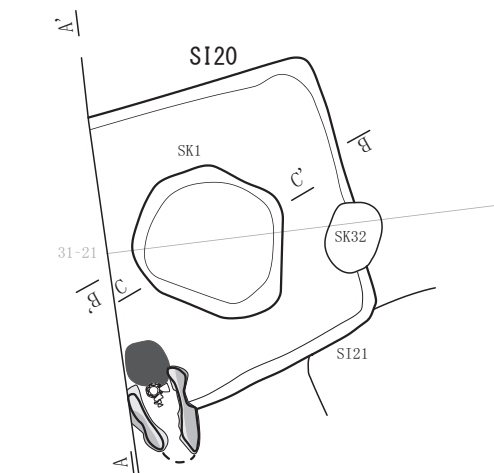
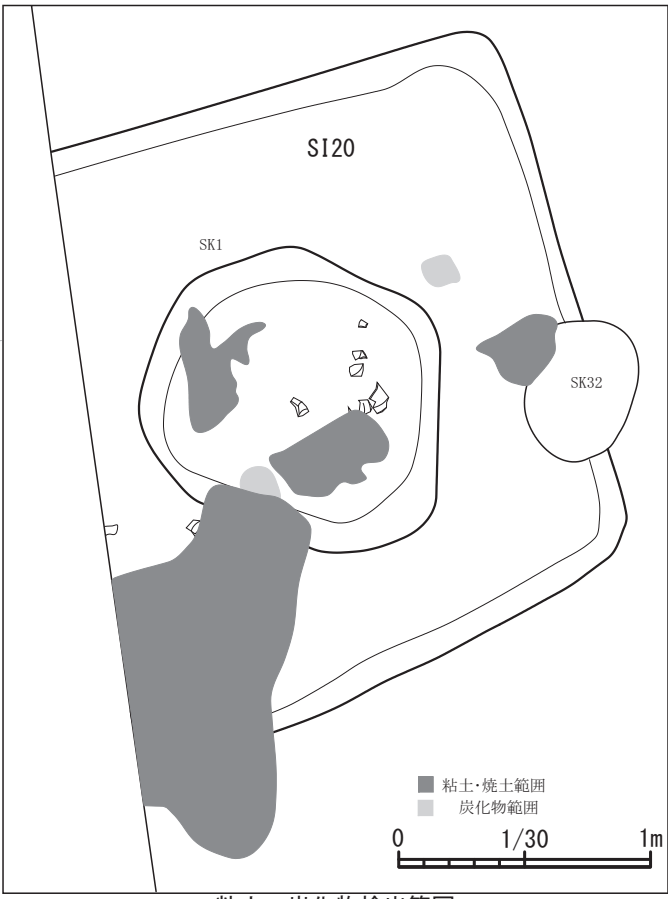


図88 第19号竪穴建物跡

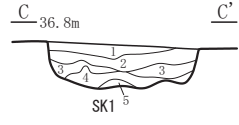
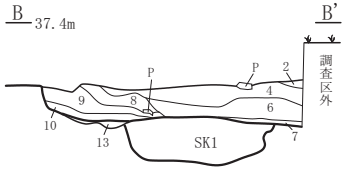
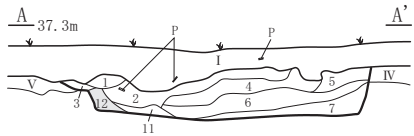


■ 火床面範囲
 ■ 粘土範囲
 ■ 被熱範囲



■ 粘土・焼土範囲
 ■ 炭化物範囲

粘土・炭化物検出範囲



0 1/60 2m

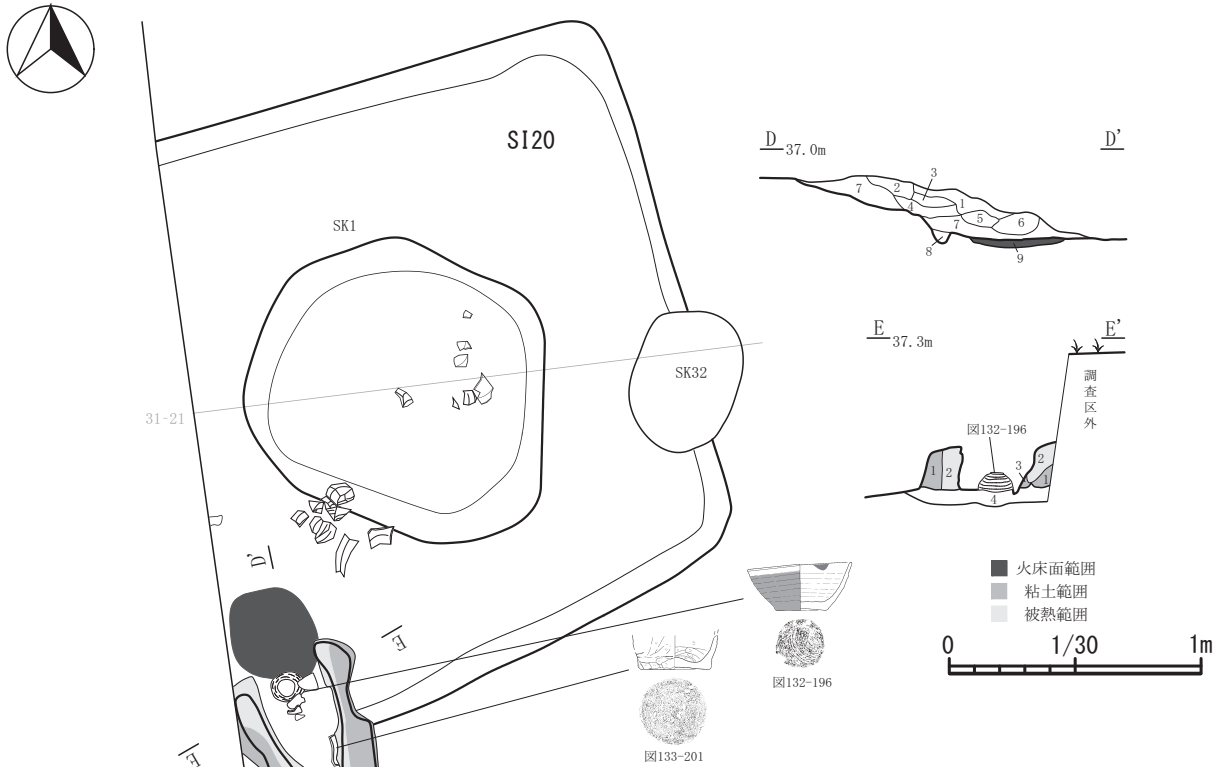
SI20 (A-A'・B-B')

- 1層 10YR3/4 暗褐色土と10YR5/8黄褐色土の混合層。10YR2/3黒褐色土10%、7.5YR4/6褐色土1%。
- 2層 10YR3/3 暗褐色土 10YR5/4にぶい黄褐色土30%、ローム粒(φ1~20mm)5%、焼土1%、炭化物(φ1~20mm)2%。
- 3層 10YR4/4 褐色土 10YR3/3暗褐色土2%、ロームブロック(φ5~7mm)1%。
- 4層 10YR3/3 黒褐色土 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10~15mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- 5層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(φ1~10mm)1%。
- 6層 10YR3/3 暗褐色土 10YR5/3にぶい黄褐色土がまだらに混入する。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ5~10mm)1%、焼土(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- 7層 10YR4/4 褐色土 ロームブロック(φ1~40mm)2%、炭化物(φ1~10mm)1%。
- 8層 10YR4/4 褐色土 10YR5/6黄褐色粘土が層の下位に混入する。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ5~10mm)1%。
- 9層 10YR3/4 暗褐色土 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5~10mm)1%、焼土(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- 10層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5~15mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%。
- 11層 7.5YR5/6 明褐色土と7.5YR4/6褐色土の混合層。カマド天井崩落土。10YR4/4褐色土10%。
- 12層 7.5YR5/8 明褐色土 カマド袖(被熱層)。7.5YR3/4暗褐色土15%。
- 13層 10YR4/6 褐色土と10YR3/2黒褐色土の混合土。貼床。10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5~10mm)2%。

SK1 (C-C')

- 1層 10YR4/4 褐色土 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~30mm)15%、10YR5/6黄褐色粘土(φ1~40mm)2%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- 2層 10YR4/4 褐色土 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~15mm)7%、10YR6/4にぶい黄褐色土(φ1~10mm)3%。
- 3層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/6黄褐色土30%、10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~15mm)7%。
- 4層 10YR4/6 褐色土 10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~15mm)2%、10YR3/2黒褐色土(φ1~15mm)2%。
- 5層 10YR4/6 褐色土 10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。

図89 第20号竪穴建物跡(1)



S120カマド (D-D')

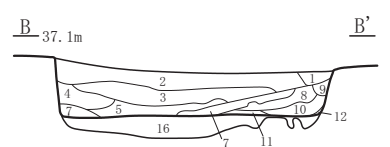
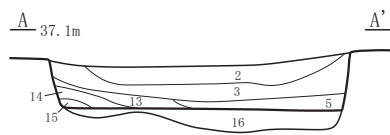
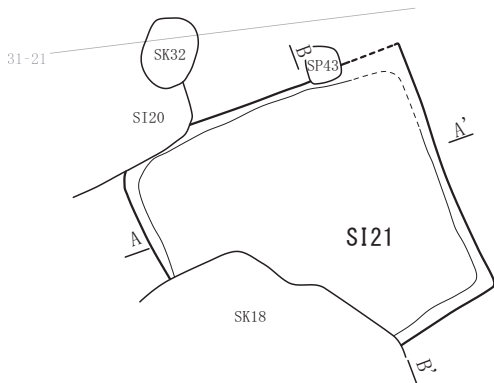
- 1層 10YR4/6 褐色土
- 2層 10YR3/4 暗褐色土
- 3層 10YR3/3 暗褐色土
- 4層 10YR4/4 褐色土
- 5層 10YR4/6 褐色土
- 6層 10YR5/6 黄褐色土
- 7層 10YR3/2 黒褐色土
- 8層 10YR5/8 黄褐色土
- 9層 5YR4/6 赤褐色焼土

- 10YR2/2黒褐色土5%、5YR4/6赤褐色焼土(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
- 5YR4/6赤褐色焼土(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- 10YR2/2暗褐色土10%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~10mm)3%、5YR4/6赤褐色焼土(φ1~5mm)1%。
- 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)2%、5YR4/6赤褐色焼土(φ1~5mm)1%。
- 5YR4/6赤褐色焼土30%、10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
- 5YR5/8明赤褐色焼土(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- 10YR4/4褐色土15%、5YR4/6赤褐色焼土ブロック(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~5mm)1%。

S120カマド (E-E')

- 1層 10YR4/6 褐色土
- 2層 2.5YR5/8 明赤褐色焼土
- 3層 7.5YR4/3 褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土

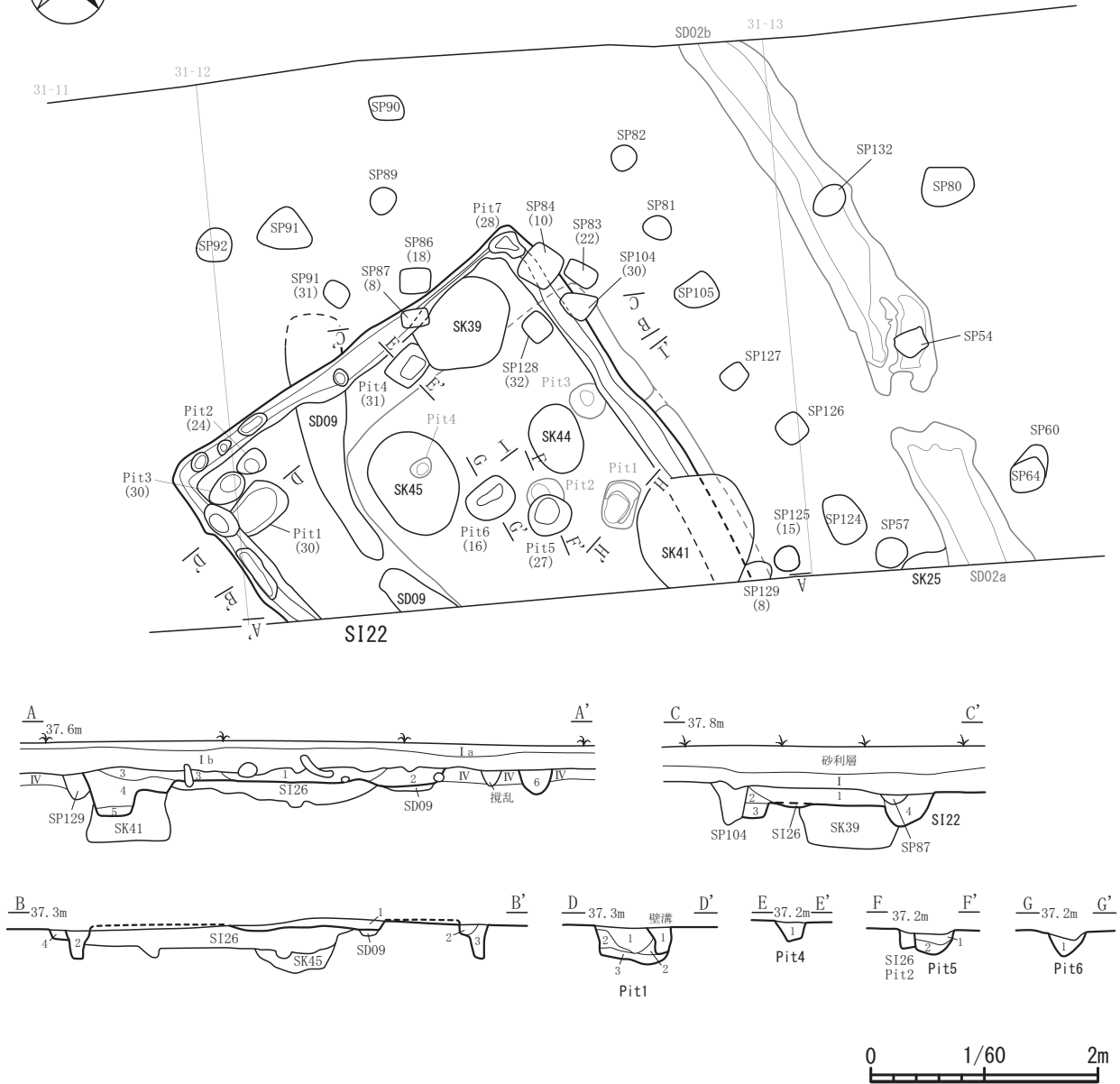
- 火床面。焼土(φ1~10mm)5%、ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- カマド袖。10YR3/4暗褐色土3%、10YR6/4いぶい黄褐色ローム1%。
- カマド袖。1層の被熱層。
- カマド袖。10YR5/8黄褐色土2%。
- 掘方。本層上面が火床面。10YR5/8黄褐色ローム15%。



S121 (A-A' - B-B')

- 1層 10YR4/6 褐色土
- 2層 10YR2/3 黒褐色土
- 3層 10YR3/4 暗褐色土
- 4層 10YR3/2 黒褐色土
- 5層 10YR2/3 黒褐色土
- 6層 10YR6/8 明黄褐色ローム
- 7層 10YR3/3 暗褐色土
- 8層 10YR3/3 暗褐色土
- 9層 10YR7/8 黄褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合層。
- 10層 10YR4/4 褐色土
- 11層 10YR3/3 暗褐色土
- 12層 10YR4/4 褐色土
- 13層 10YR3/4 暗褐色土
- 14層 10YR3/3 暗褐色土
- 15層 10YR3/3 暗褐色土
- 16層 10YR5/6 黄褐色土
- 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- 10YR6/6明黄褐色土(φ1~30mm)5%、10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~20mm)3%、10YR5/2灰黄褐色土(φ1~5mm)1%。
- 10YR5/4いぶい黄褐色土5%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)2%。
- 10YR5/4いぶい黄褐色土5%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~15mm)3%。
- 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~20mm)5%、5YR5/8明赤褐色焼土(φ1~5mm)1%。
- 10YR3/2黒褐色土15%、10YR6/3いぶい黄褐色粘土1%。
- 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
- 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~30mm)10%。
- 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)3%、5YR5/8明赤褐色焼土ブロック(φ1~15mm)2%、炭化物(φ1~10mm)1%。
- 10YR7/6明黄褐色土30%。
- 10YR7/4いぶい黄褐色土30%、10YR8/8黄褐色ローム粒(φ1~30mm)5%。
- 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%。
- 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- 10YR6/2灰黄褐色粘土(φ1~30mm)7%、10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~30mm)5%、炭化物(φ1~10mm)1%。

図90 第20号竪穴建物跡(2)・第21号竪穴建物跡



- S122 (A-A')**
- | | |
|-----------------|--|
| 1層 10YR4/1 褐灰色土 | 2. 5YR7/2 灰黄色粘土 (φ 1~50mm) 7%、10YR6/8 明黄褐色ローム粒 (φ 1mm) 1%。 |
| 2層 10YR2/2 黒褐色土 | 10YR6/8 明黄褐色ローム粒 (φ 1~5mm) 3%。 |
| 3層 10YR2/3 黒褐色土 | 10YR6/8 明黄褐色ローム粒 (φ 1mm) 1%。 |
| 4層 10YR2/2 黒褐色土 | 10YR5/8 黄褐色ローム粒 (φ 1~20mm) 5%。 |
| 5層 10YR2/1 黒色土 | 10YR5/8 黄褐色ローム粒 (φ 1mm) 1%。 |
| 6層 10YR2/2 黒褐色土 | 壁溝。10YR6/8 明黄褐色ローム粒 (φ 1~10mm) 3%。 |
- S122 (B-B')**
- | | |
|-----------------|--|
| 1層 10YR2/1 黒色土 | 10YR5/8 黄褐色ローム粒 (φ 1~3mm) 2%、炭化物 (φ 1~3mm) 2%、5YR4/8 赤褐色粘土 (φ 1~3mm) 1%。 |
| 2層 10YR2/2 黒褐色土 | 壁溝。10YR6/8 明黄褐色ローム粒 (φ 1~20mm) 7%。 |
| 3層 10YR2/3 黒褐色土 | 壁溝。10YR6/8 明黄褐色ローム粒 (φ 1mm) 1%。 |
- S122 (C-C')**
- | | |
|-----------------|---------------------------------------|
| 1層 10YR2/2 黒褐色土 | ローム粒 (φ 1~40mm) 10%。 |
| 2層 10YR3/2 黒褐色土 | ローム粒 (φ 1~20mm) 15%、炭化物 (φ 1~5mm) 2%。 |
| 3層 10YR4/3 赤褐色土 | 壁溝。ローム粒 (φ 1~15mm) 30%。 |
| 4層 10YR3/3 暗褐色土 | 壁溝。ローム粒 (φ 1~10mm) 3%。 |
- S122 (D-D')**
- | | |
|-----------------|------------------------------------|
| 1層 10YR2/2 黒褐色土 | 壁溝。10YR6/8 明黄褐色ローム粒 (φ 1~20mm) 7%。 |
|-----------------|------------------------------------|
- Pit1 (D-D')**
- | | |
|-----------------|--|
| 1層 10YR2/2 黒褐色土 | 10YR6/8 明黄褐色ローム粒 (φ 1~20mm) 10%。 |
| 2層 10YR2/3 黒褐色土 | 10YR6/8 明黄褐色ローム粒 (φ 1~10mm) 3%。 |
| 3層 10YR2/2 黒褐色土 | 10YR5/8 黄褐色土 10%、10YR6/8 明黄褐色ローム粒 (φ 1~10mm) 5%。 |
- Pit4 (E-E')**
- | | |
|-----------------|--------------------------------|
| 1層 10YR2/2 黒褐色土 | 10YR6/8 明黄褐色ローム粒 (φ 1~5mm) 2%。 |
|-----------------|--------------------------------|
- Pit5 (F-F')**
- | | |
|-----------------|--|
| 1層 10YR2/2 黒褐色土 | 10YR6/8 明黄褐色ローム粒 (φ 1~3mm) 2%、炭化物 (φ 1mm) 1%。 |
| 2層 10YR3/2 黒褐色土 | 10YR5/8 黄褐色土 10%、炭化物 (φ 1~5mm) 2%、10YR8/3 浅黄橙色粘土 1%。 |
- Pit6 (G-G')**
- | | |
|-----------------|---|
| 1層 10YR3/3 暗褐色土 | 10YR6/8 明黄褐色ローム粒 (φ 1~30mm) 15%、炭化物 (φ 1~5mm) 5%。 |
|-----------------|---|

図91 第22号竪穴建物跡

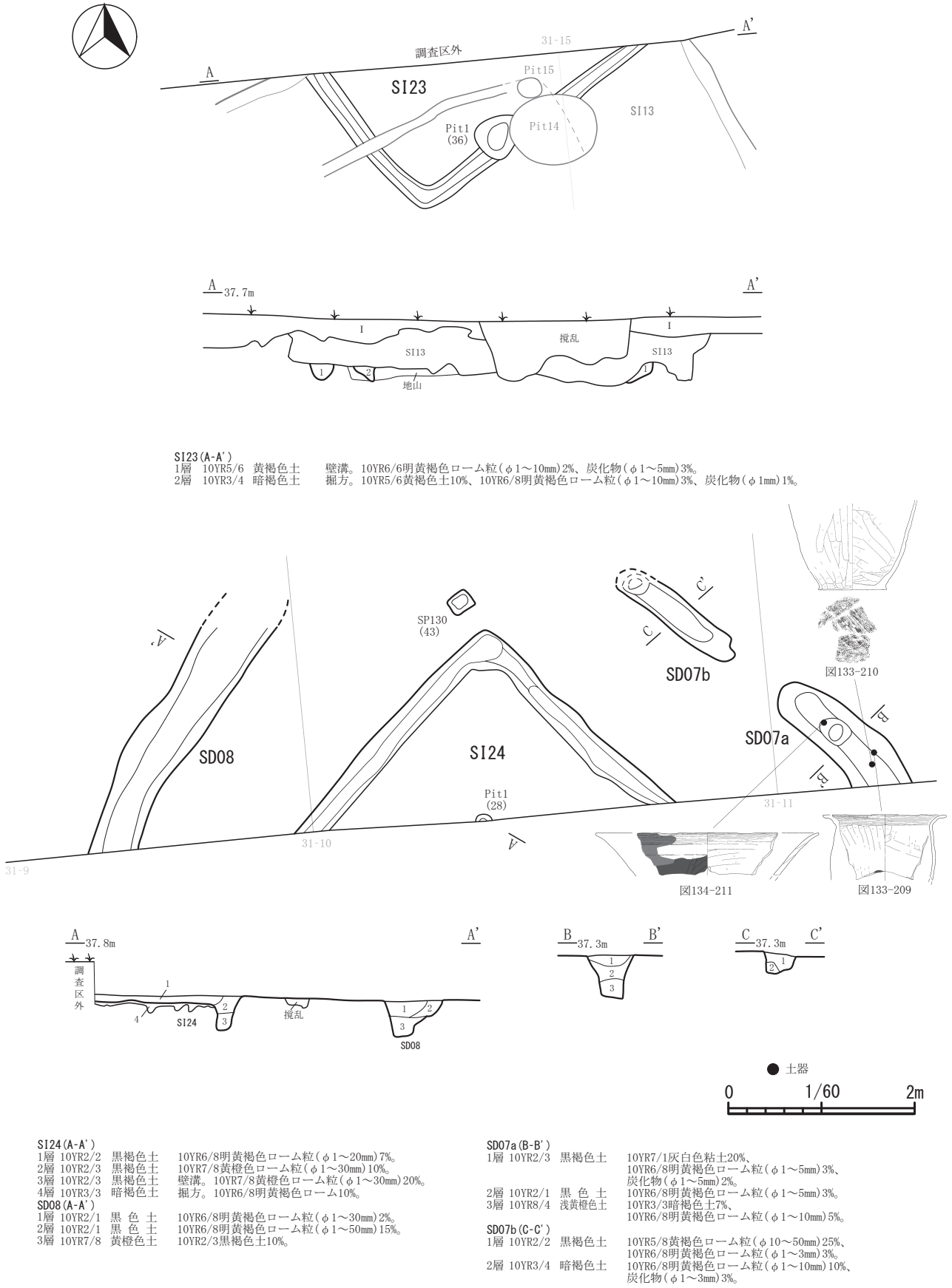
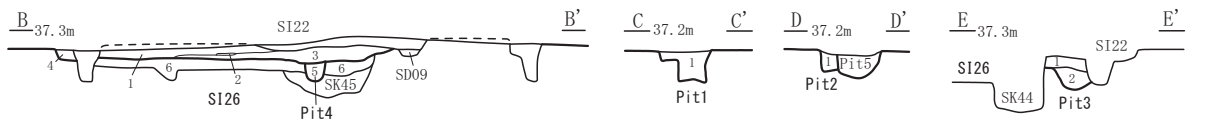
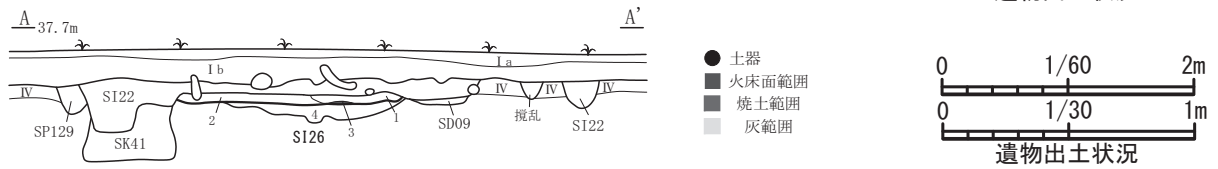
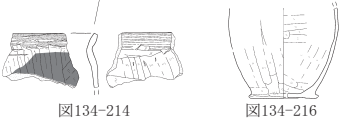
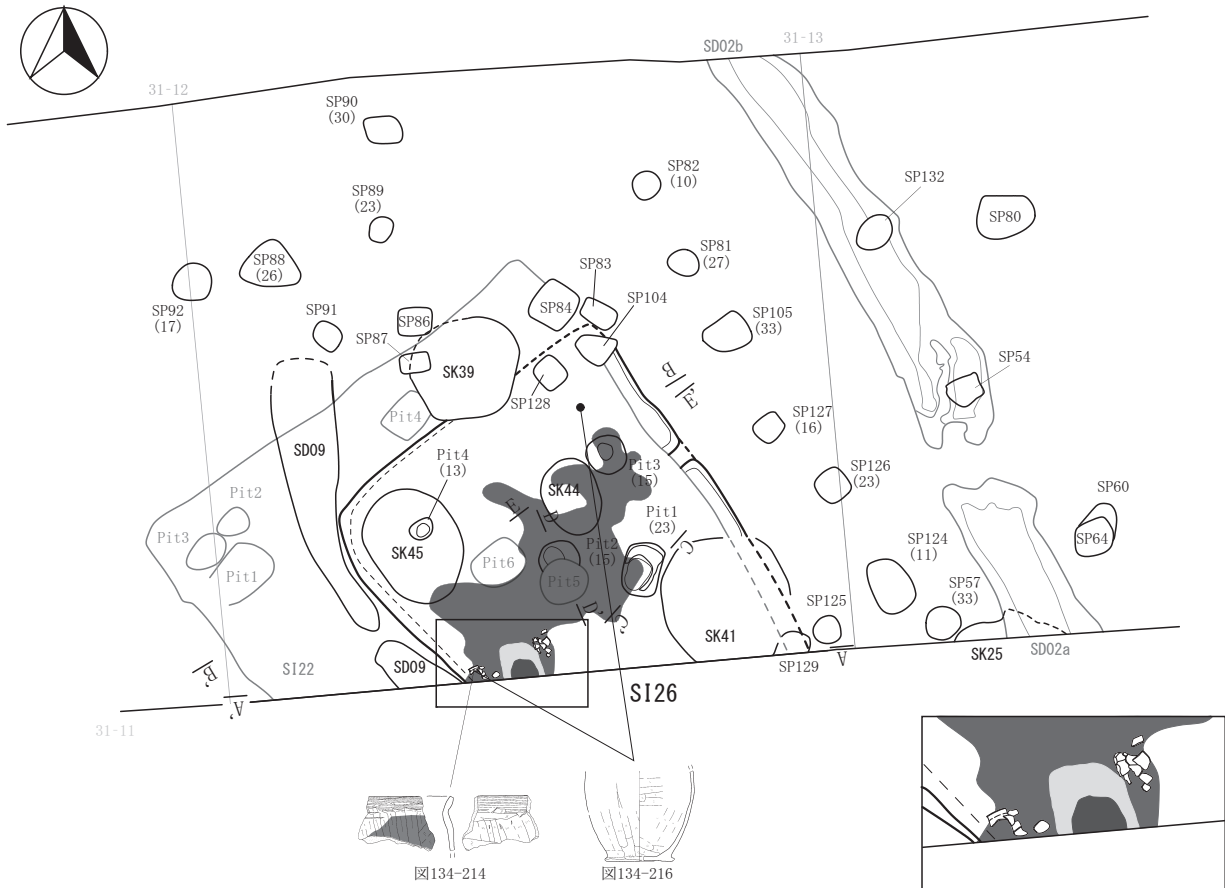
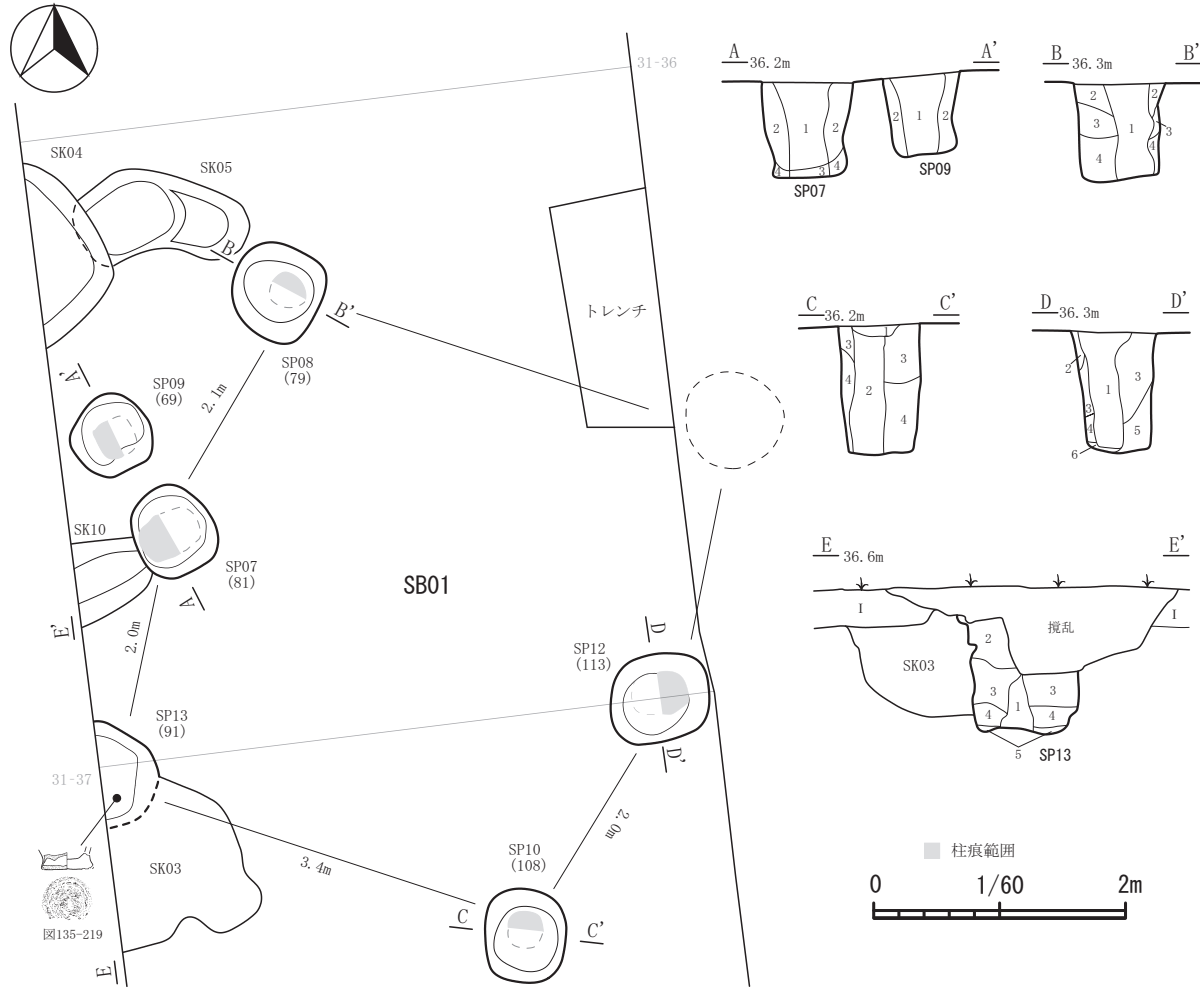


図92 第23号竪穴建物跡・第24号竪穴建物跡



- SI26 (A-A')**
 1層 10YR3/3 暗褐色土 5YR5/8明赤褐色焼土7%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~5mm)2%
 2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)3%
 3層 7.5YR3/4 暗褐色焼土 火床面。7.5YR5/8明褐色ローム粒(φ1~20mm)7%、炭化物(φ1~5mm)2%
 4層 10YR2/2 黒褐色土 掘方。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~50mm)20%。
- SI26 (B-B')**
 1層 10YR2/1 黒色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1mm)2%、10YR7/1灰白色粘土(φ1~20mm)1%
 2層 10YR3/3 暗褐色土 5YR5/8明赤褐色焼土20%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%
 3層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%
 4層 10YR2/3 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ10×50mm)20%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%
 5層 10YR2/1 黒色土 Pit4堆積土。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~3mm)1%
 6層 10YR2/3 黒褐色土 掘方。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~30mm)20%、炭化物(φ1~5mm)5%。
- Pit1 (C-C')**
 1層 10YR3/4 暗褐色土 5YR4/8赤褐色焼土20%、10YR2/2黒褐色土10%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)5%、炭化物(φ1~5mm)1%。
- Pit2 (D-D')**
 1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~50mm)20%、炭化物(φ1~3mm)2%。
- Pit3 (E-E')**
 1層 10YR2/1 黒色土 SI26貼床層。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)5%、5YR3/6暗赤褐色焼土5%、炭化物(φ1~5mm)2%
 2層 7.5YR4/6 褐色土 Pit3堆積土。5YR3/6暗赤褐色焼土7%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~3mm)2%、10YR8/1灰白色粘土(φ1~10mm)1%。

図93 第26号竪穴建物跡



- SP07 (A-A')**
- 1層 10YR3/4 暗褐色土と10YR4/6褐色土の混合層。柱痕。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
- 2層 10YR4/6 褐色土と10YR3/4暗褐色土の混合層。掘方。ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
- 3層 10YR5/6 黄褐色土
- 4層 10YR4/6 褐色土
- SP09 (A-A')**
- 1層 10YR3/4 暗褐色土 柱痕。ローム粒(φ1~10mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
- 2層 10YR4/6 褐色土 掘方。ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
- SP08 (B-B')**
- 1層 10YR3/4 暗褐色土 柱痕。ローム粒(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
- 2層 10YR4/4 褐色土と10YR2/3黒褐色土の混合層。掘方。ローム粒(φ1mm)1%。
- 3層 10YR4/6 褐色土 掘方。ローム粒(φ1~3mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
- 4層 10YR4/4 褐色土 掘方。ローム粒(φ1~3mm)3%。
- SP10 (C-C')**
- 1層 10YR2/2 黒褐色土
- 2層 10YR4/4 褐色土 柱痕。ローム粒(φ1~10mm)3%。
- 3層 10YR4/6 褐色土 掘方。10YR3/3暗褐色土40%、ローム粒(φ1~20mm)10%、炭化物(φ1~2mm)1%。
- 4層 10YR5/6 黄褐色土 掘方。ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~3mm)2%。
- SP12 (D-D')**
- 1層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 柱痕。ローム粒(φ1~3mm)3%、炭化物(φ1~20mm)3%。
- 2層 10YR5/8 黄褐色土 掘方。ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~3mm)2%。
- 3層 10YR5/6 黄褐色土 掘方。ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1~30mm)1%。
- 4層 10YR2/3 黒褐色土 掘方。ローム粒(φ1~30mm)5%、炭化物(φ1~3mm)1%。
- 5層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 掘方。ローム粒(φ1~20mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
- 6層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 掘方。黒褐色土10%。
- SP13 (E-E')**
- 1層 10YR3/3 暗褐色土と10YR6/6明黄褐色土の混合層。柱痕。炭化物(φ3~10mm)2%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
- 2層 10YR4/4 褐色土 掘方。10YR2/3黒褐色土20%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~13mm)3%。
- 3層 10YR4/6 褐色土と10YR6/4にぶい黄褐色土の混合層。掘方。ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%。
- 4層 10YR5/6 黄褐色土 掘方。10YR7/4にぶい黄褐色粘土5%、炭化物(φ7~15mm)2%。
- 5層 10YR2/1 黒色土 掘方。上面で柱痕が確認あり。ローム粒(φ15~25mm)15%。

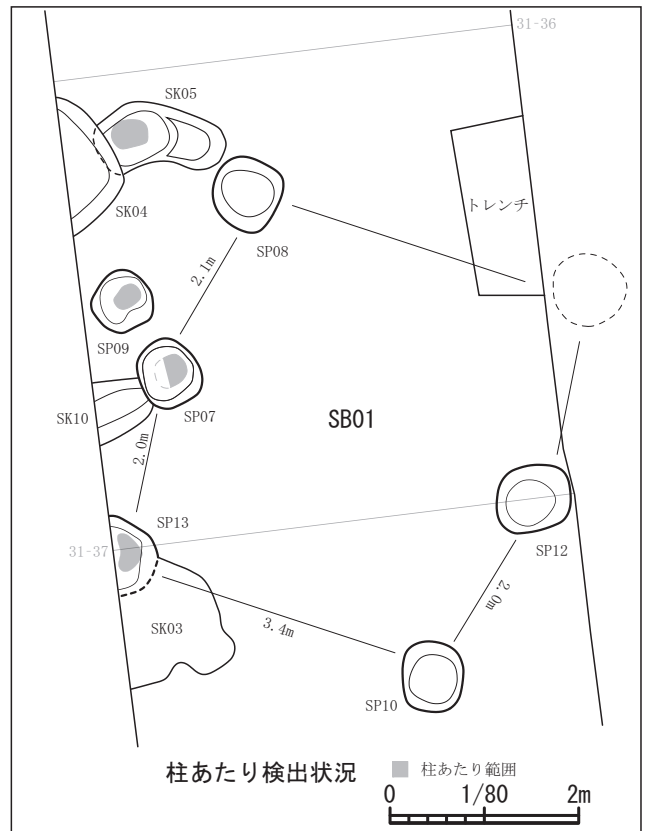
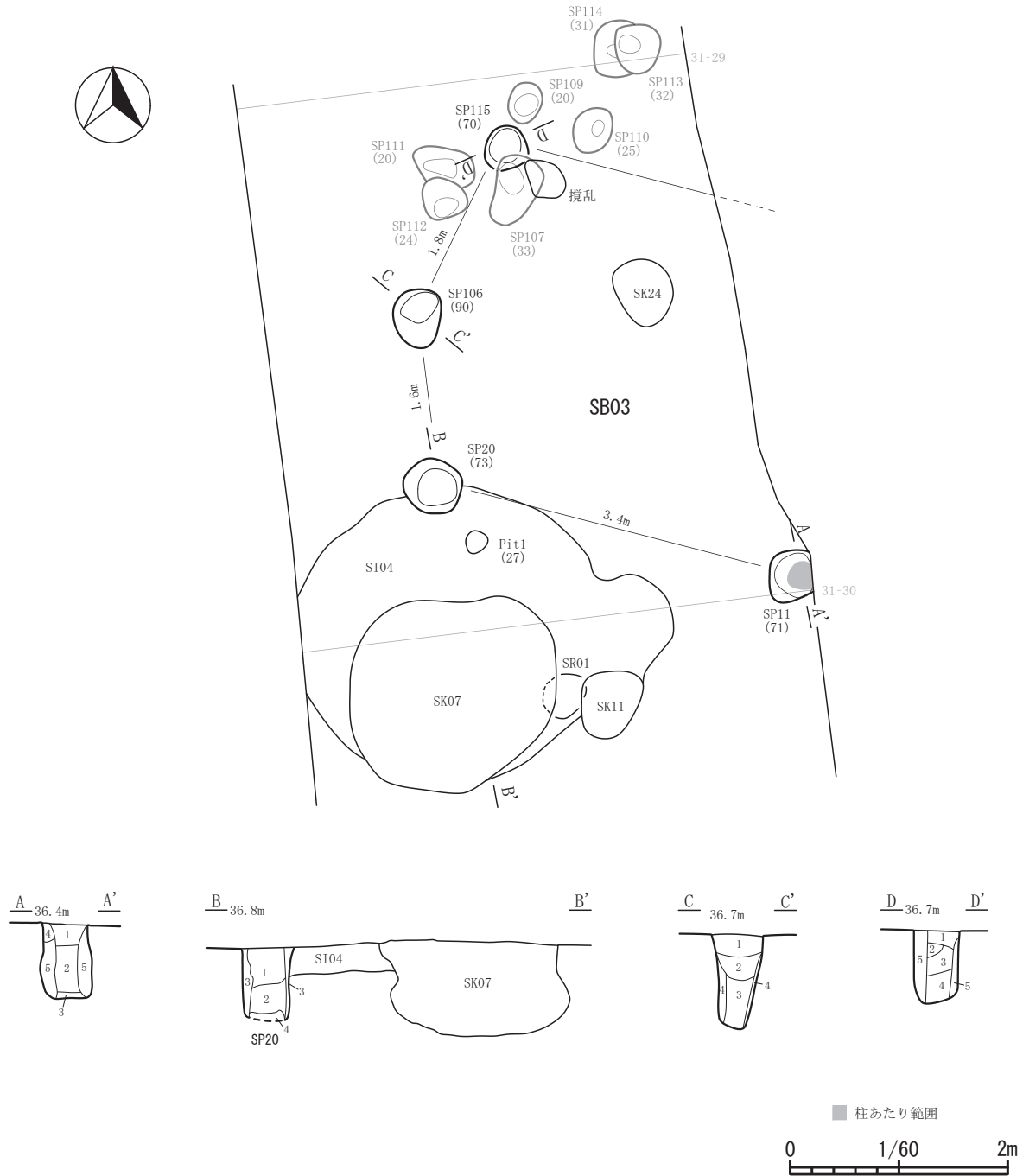
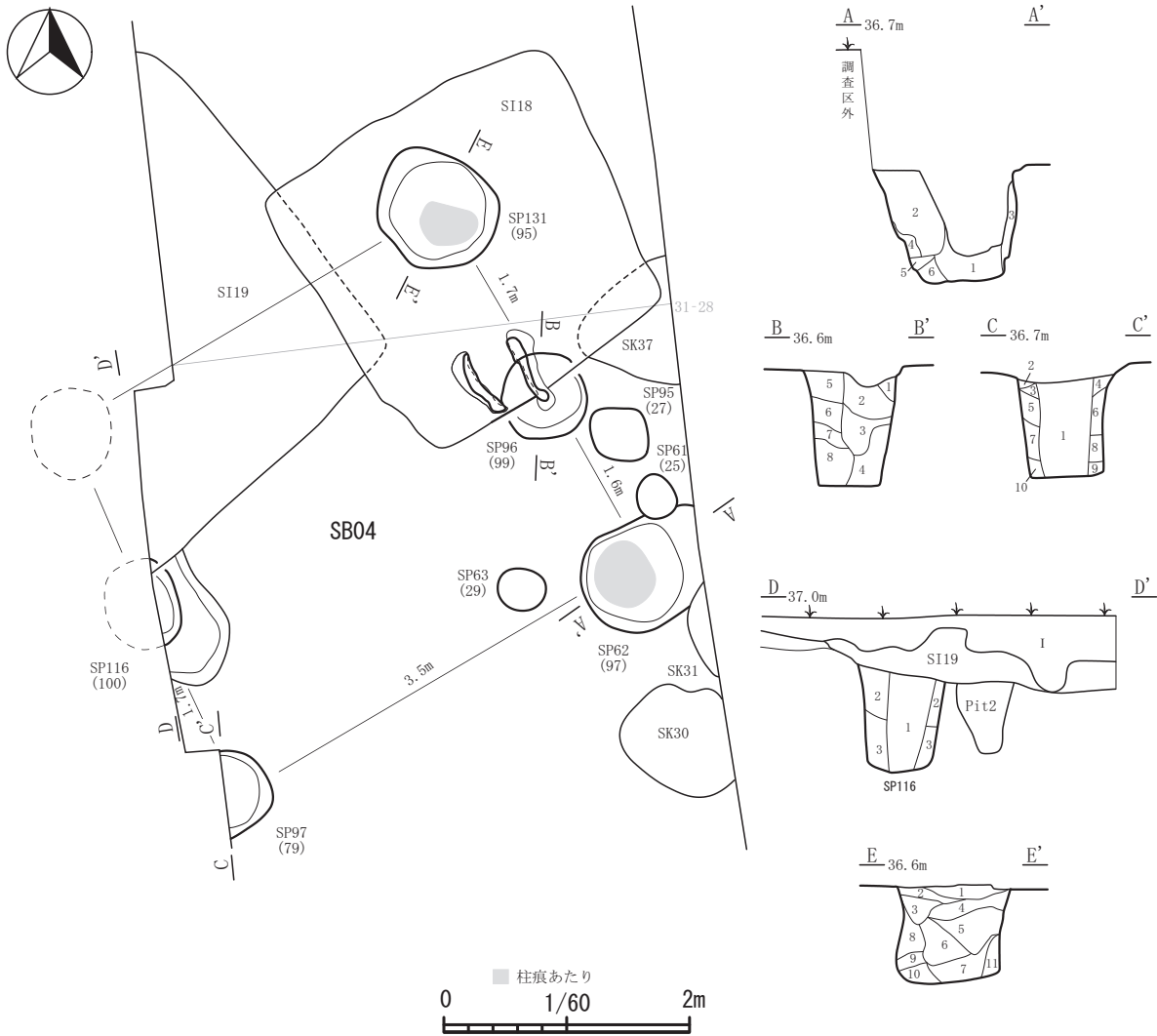


図94 第1号掘立柱建物跡



- SP11 (A-A')**
- 1層 10YR3/4 暗褐色土 柱痕。10YR4/4褐色土20%、ローム粒(φ1~20mm)15%、炭化物(φ1~7mm)2%、焼土(φ1mm)1%。
 - 2層 10YR4/6 褐色土 柱痕。ローム粒(φ1~5mm)5%、炭化物(φ1~5mm)1%。
 - 3層 10YR7/4 にぶい黄褐色土 柱あたり。下位約2cmは10YR2/3黒褐色土が薄層をなしている。
 - 4層 10YR4/4 褐色土 掘方。ローム粒(φ1~10mm)10%、炭化物(φ1~10mm)2%、焼土(φ1mm)1%。
 - 5層 10YR5/6 黄褐色土 掘方。ローム粒(φ1~5mm)15%、10YR4/4褐色土10%、炭化物(φ1~20mm)2%。
- SP20 (B-B')**
- 1層 10YR3/4 暗褐色土 柱痕。ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~3mm)2%。
 - 2層 10YR3/3 暗褐色土 柱痕。ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
 - 3層 10YR4/6 褐色土 掘方。ローム粒(φ1~30mm)10%、炭化物(φ1~3mm)2%。
 - 4層 10YR6/4 にぶい黄褐色土 柱あたり。ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
- SP106 (C-C')**
- 1層 10YR3/3 暗褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合層。柱痕。10YR4/6褐色土7%、ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 - 2層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 柱痕。10YR5/8黄褐色土7%、ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ2~3mm)1%。
 - 3層 10YR3/4 暗褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合層。柱痕。
 - 4層 7.5YR5/6 明褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合層。掘方。
- SP115 (D-D')**
- 1層 10YR3/2 黒褐色土 柱痕。10YR4/4褐色土15%、ローム粒(φ1~10mm)1%、炭化物(φ1~8mm)1%。
 - 2層 10YR4/4 褐色土 柱痕。10YR3/4暗褐色土20%、ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
 - 3層 10YR3/3 暗褐色土 柱痕。10YR4/6褐色土20%、炭化物(φ3~8mm)1%。
 - 4層 10YR2/3 黒褐色土 柱痕。10YR4/4褐色土25%、ローム粒(φ1~10mm)3%。
 - 5層 7.5YR4/6 褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合層。掘方。10YR4/6褐色土10%。

図95 第3号掘立柱建物跡



農道31号
下石川平野遺跡

- SP62 (A-A')**
- 1層 10YR2/3 黒褐色土
 - 2層 10YR4/3 灰黄褐色土
 - 3層 10YR5/6 黄褐色土
 - 4層 10YR4/4 褐色ローム
 - 5層 10YR3/3 暗褐色土
 - 6層 10YR3/1 黒褐色土
- SP96 (B-B')**
- 1層 10YR3/2 黒褐色土
 - 2層 10YR2/3 黒褐色土
 - 3層 10YR4/2 灰黄褐色土
 - 4層 10YR3/1 黒褐色土
 - 5層 10YR3/3 暗褐色土
 - 6層 10YR3/3 暗褐色土
 - 7層 10YR7/8 黄褐色土
 - 8層 10YR7/8 黄褐色土
- SP97 (C-C')**
- 1層 10YR2/1 黒色土
 - 2層 10YR2/2 黒褐色土
 - 3層 10YR5/6 黄褐色土
 - 4層 10YR2/2 黒褐色土
 - 5層 10YR3/1 黒褐色土
 - 6層 10YR3/3 暗褐色土
 - 7層 10YR3/3 暗褐色土
 - 8層 10YR4/6 褐色土
 - 9層 10YR2/2 黒褐色土
 - 10層 10YR2/1 黒色土
- SP116 (D-D')**
- 1層 10YR3/3 暗褐色土
 - 2層 10YR3/4 暗褐色土
 - 3層 10YR4/6 褐色土
- SP131 (E-E')**
- 1層 10YR2/3 黒褐色土
 - 2層 10YR3/2 黒褐色土
 - 3層 10YR3/2 黒褐色土
 - 4層 10YR2/2 黒褐色土
 - 5層 10YR2/2 黒褐色土
 - 6層 10YR2/3 黒褐色土
 - 7層 10YR3/3 暗褐色土
 - 8層 10YR3/3 暗褐色土
 - 9層 10YR6/6 明黄褐色ローム
 - 10層 10YR2/1 黒色土
 - 11層 10YR3/3 暗褐色土
- 柱痕**
- 10YR6/8明黄褐色ロームブロック(しまりがなく非常にもろい)。
 - 10YR5/6明褐色ローム粒(φ1~50mm)30%、10YR7/8黄橙色土(φ1~20mm)5%。
 - 10YR6/4にぶい黄橙色粘土(φ1~10mm)5%、10YR3/1黒褐色土(φ1~10mm)3%。
 - 10YR7/8黄橙色ローム粒(φ1~5mm)2%。
 - 10YR1.7/1黒色土(φ1~15mm)15%、10YR7/6明黄褐色土(1~10mm)7%。
 - 10YR7/6明黄褐色ローム25%。
 - 10YR5/6黄褐色ローム粒(1~25mm)3%、炭化物(φ1~10mm)1%。
 - 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)7%、炭化物(φ1~5mm)2%。
 - 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
 - 10YR5/6黄褐色ローム粒(1~40mm)20%、炭化物(φ1mm)1%。
 - 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~30mm)10%、炭化物7%。
 - 10YR6/4にぶい黄褐色ローム粒(φ1~15mm)2%、炭化物(1~5mm)1%。
 - 炭化物15%、10YR6/4にぶい黄褐色ローム粒(φ1~10mm)7%。
 - 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
 - 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
 - 10YR2/2黒褐色土5%、10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)1%。
 - 10YR6/8明黄褐色土10%。
 - 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)1%。
 - 10YR6/3にぶい黄褐色粘土(φ1~20)mm7%、10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
 - 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~15mm)5%。
 - 10YR8/6黄褐色粘土ローム粒(φ1~20mm)5%。
 - 10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~20mm)7%、10YR6/3にぶい黄褐色粘土ローム粒(φ1~10)mm1%。
 - ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1mm)2%。
 - 10YR5/8黄褐色土30%、10YR2/1黒色土20%、ローム粒(φ1~5mm)2%。
 - ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
 - 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10~15mm)3%。
 - 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5~10mm)5%、10YR5/3にぶい黄褐色粘土1%。
 - 10YR6/6明黄褐色ローム5%、10YR5/3にぶい黄褐色粘土5%。
 - 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~5mm)3%。
 - 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~5mm)1%。
 - 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5~10mm)1%。
 - 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10~15mm)1%。
 - 10YR6/6明黄褐色ロームの混合層。掘方。
 - 10YR2/2黒褐色土10%。
 - 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ20~30mm)1%。
 - 10YR6/6明黄褐色ロームの混合層。掘方。

図96 第4号掘立柱建物跡

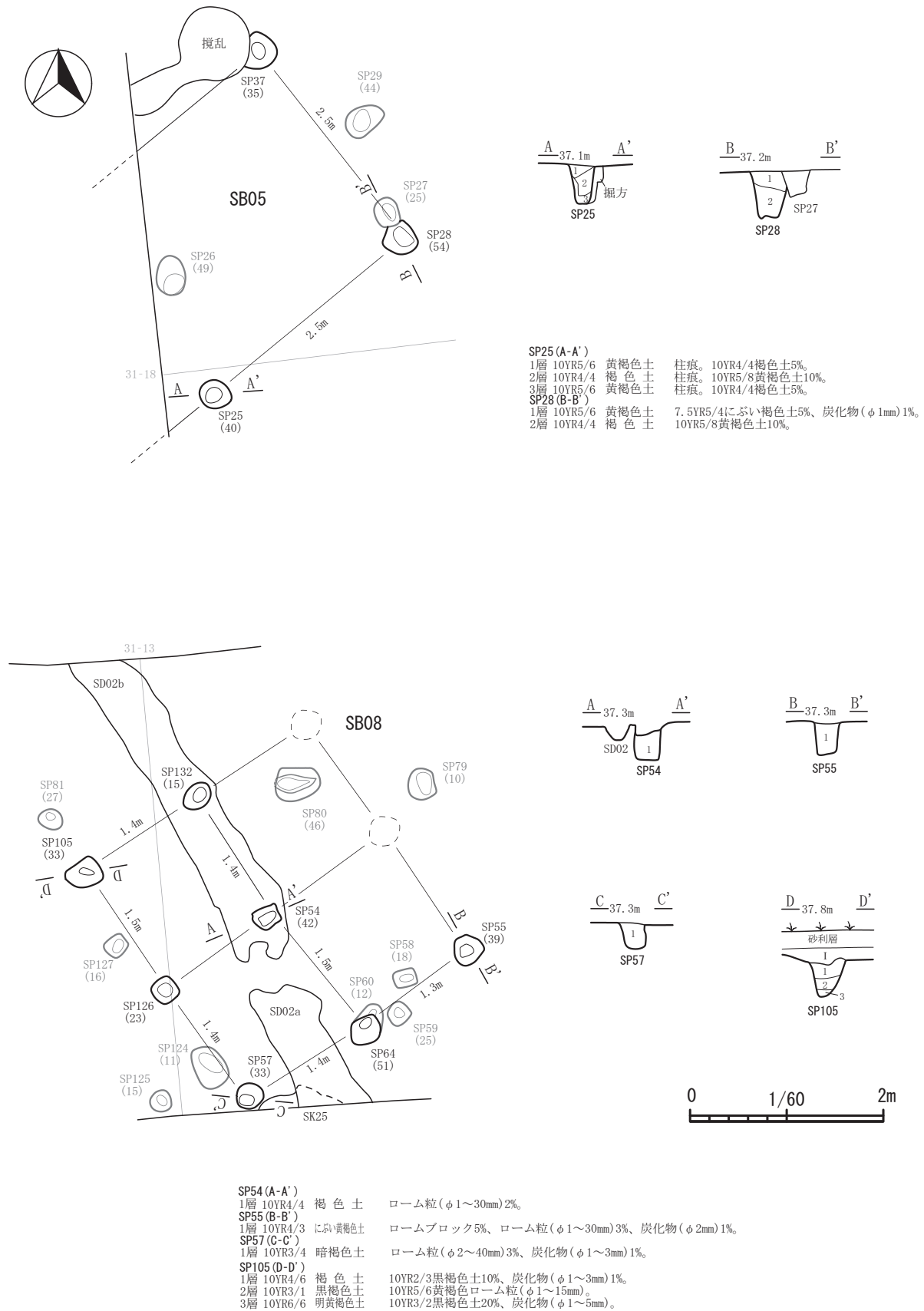
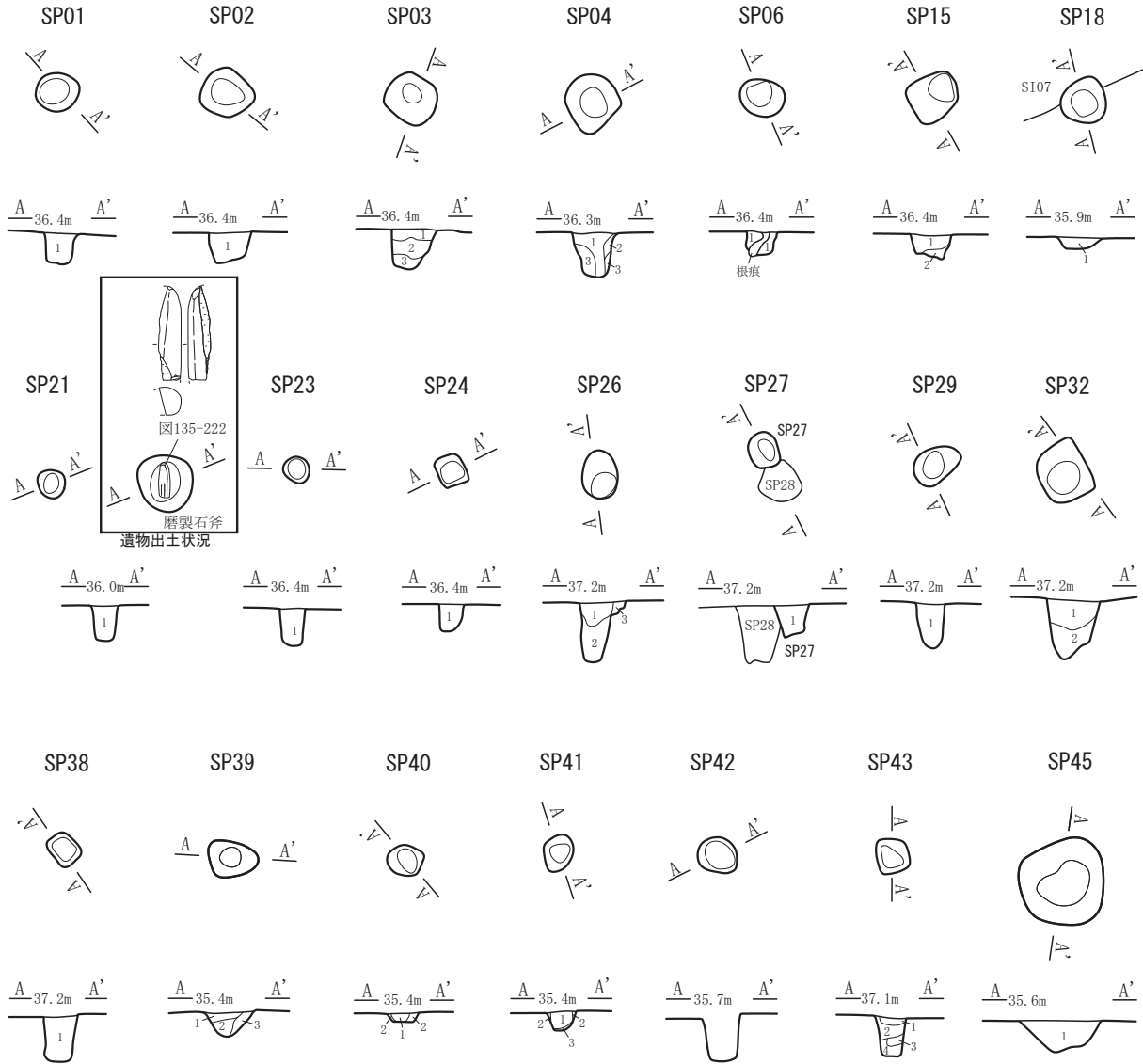


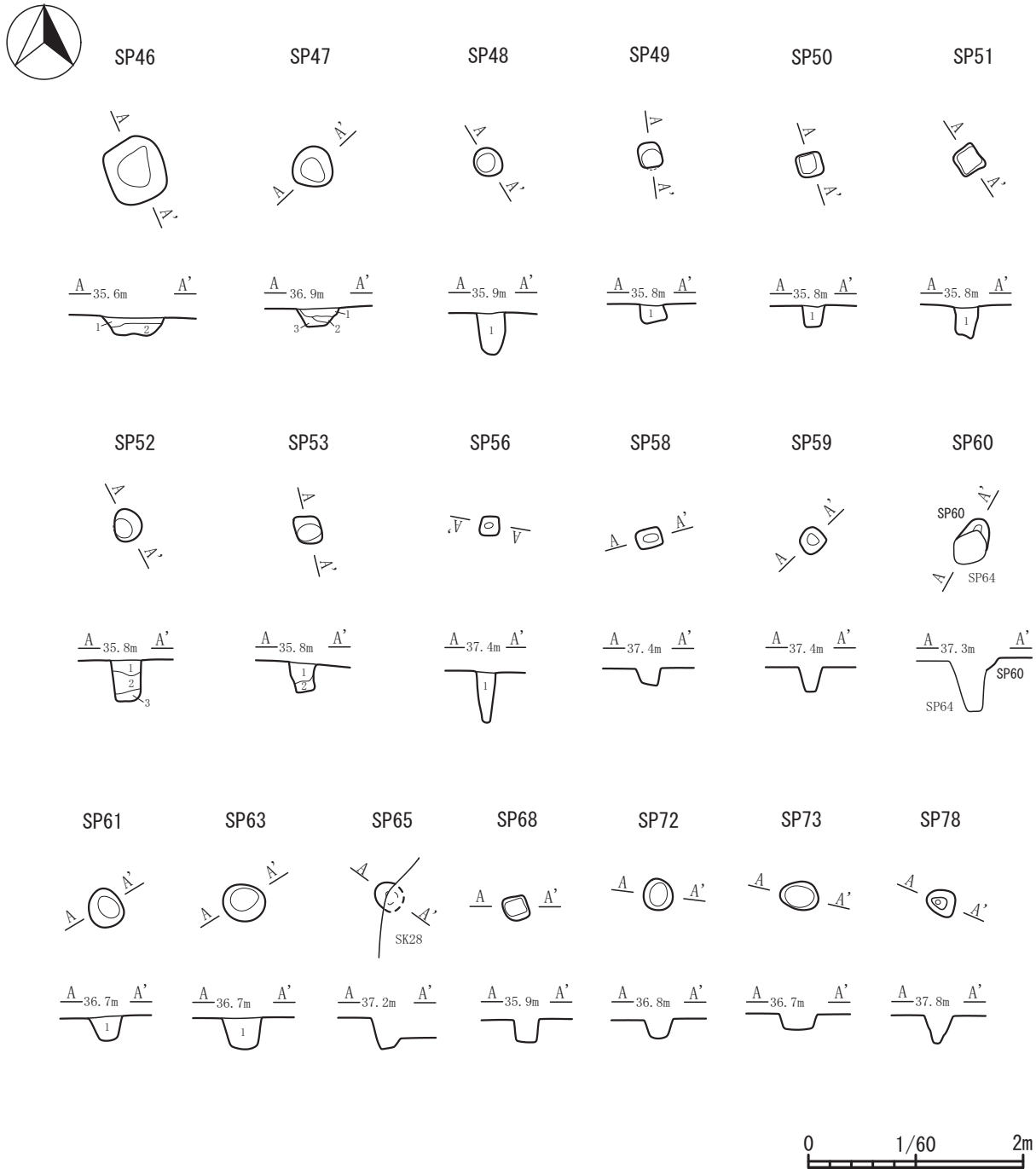
図97 第5号掘立柱建物跡・第8号掘立柱建物跡



- SP01**
1層 10YR3/3 暗褐色土
ローム粒 (φ 1~20mm) 5%。
- SP02**
1層 10YR3/4 暗褐色土
ローム粒 (φ 1~20mm) 5%、炭化物 (φ 1~3mm) 1%。
- SP03**
1層 10YR3/4 暗褐色土
2層 10YR5/3 黄褐色土
3層 10YR3/3 暗褐色土
ローム粒 (φ 1~40mm) 5%、炭化物 (φ 1mm) 1%。
ローム粒 (φ 1~20mm) 5%。
ローム粒 (φ 1~40mm) 30%。
- SP04**
1層 10YR4/4 褐色土
2層 10YR4/6 褐色土
3層 10YR5/4 黄褐色土
ローム粒 (φ 1~20mm) 5%、炭化物 (φ 1~2mm) 1%。
ローム粒 (φ 1~20mm) 5%。
ローム粒 (φ 1~5mm) 1%、炭化物 (φ 1~2mm) 1%。
- SP06**
1層 10YR4/4 褐色土
ローム粒 (φ 1~50mm) 10%。
- SP15**
1層 10YR3/4 暗褐色土
2層 10YR6/6 明黄褐色土
ローム粒 (φ 1~20mm) 5%、炭化物 (φ 1~3mm) 1%。
- SP18**
1層 10YR3/4 暗褐色土
土柱。ローム粒 (φ 1~30mm) 3%、炭化物 (φ 1mm) 1%。
- SP21**
1層 10YR5/6 黄褐色土
ローム粒 (φ 1~7mm) 10%、炭化物 (φ 1~7mm) 3%。
- SP23**
1層 10YR3/4 暗褐色土
ローム粒 (φ 1~5mm) 2%、炭化物 (φ 1~3mm) 1%。
- SP24**
1層 10YR3/2 黒褐色土
ローム粒 (φ 1mm) 1%、炭化物 (φ 1mm) 1%。
- SP26**
1層 10YR4/6 褐色土
2層 10YR5/8 黄褐色土
3層 10YR5/6 黄褐色土
10YR5/8黄褐色土10%。
10YR4/4褐色土10%、7.5YR5/8明褐色土5%。
掘方。炭化物 (φ 2~5mm) 1%。

- SP29**
1層 10YR4/4 褐色土
10YR3/3暗褐色土10%、ローム粒 (φ 2~40mm) 5%。
- SP32**
1層 10YR3/3 暗褐色土
2層 10YR4/6 褐色土
10YR5/8黄褐色土10%、ローム粒 (φ 1~20mm) 3%、炭化物 (φ 1~3mm) 1%。
10YR3/3暗褐色土10%、ローム粒 (φ 1~50mm) 5%、炭化物 (φ 1~5mm) 2%。
- SP38**
1層 10YR3/3 暗褐色土
ローム粒 (φ 1~5mm) 3%、炭化物 (φ 1mm) 2%。
- SP39**
1層 10YR4/6 褐色土
2層 10YR4/3 黄褐色土
3層 10YR5/4 明黄褐色土
ローム粒 (φ 1~10mm) 2%。
ローム粒 (φ 1~10mm) 3%。
ローム粒 (φ 1~15mm) 7%、炭化物 (φ 1~3mm) 3%。
- SP40**
1層 10YR4/4 褐色土
2層 10YR5/6 黄褐色土
ローム粒 (φ 1~7mm) 3%。
ローム粒 (φ 1~8mm) 5%。
- SP41**
1層 10YR4/3 黄褐色土
2層 10YR7/8 黒褐色土
3層 10YR7/6 明黄褐色土
ローム粒 (φ 1~10mm) 4%、炭化物 (φ 1~2mm) 2%。
ローム粒 (φ 1~20mm) 10%。
ローム粒 (φ 1~5mm) 7%、炭化物 (φ 1~5mm) 2%。
- SP43**
1層 10YR3/3 暗褐色土
2層 10YR2/2 黒褐色土
3層 10YR2/2 黒褐色土
4層 10YR3/3 暗褐色土
ロームブロック (φ 5~30mm) 3%。
10YR6/6明黄褐色土ロームブロック10%。
10YR6/6明黄褐色土との混合層。
ロームブロック (φ 1~10mm) 3%。

図99 柱穴 (1)



- | | | | |
|---|--|---|--|
| <p>SP45
1層 10YR2/3 黒褐色土</p> <p>SP46
1層 10YR2/3 黒褐色土
2層 10YR3/4 暗褐色土</p> <p>SP47
1層 10YR3/2 黒褐色土
2層 10YR3/4 暗褐色土
3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土</p> <p>SP48
1層 10YR4/2 灰黄褐色土
2層 10YR4/4 褐色土
3層 10YR3/3 暗褐色土</p> <p>SP49
1層 10YR4/4 褐色土</p> <p>SP50
1層 7.5YR3/2 黒褐色土</p> <p>SP51
1層 10YR2/2 黒褐色土</p> | <p>10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~30mm)3%、
10YR7/4にぶい黄褐色ローム(φ5mm)1%。</p> <p>10YR5/8黄褐色ローム粒(φ3~50mm)7%、
10YR6/8明黄褐色土(φ3~50mm)7%。</p> <p>10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)1%、
炭化物(φ1~3mm)1%、
10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~15mm)5%、
10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~20mm)10%。</p> <p>10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%、
10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%、
7.5YR6/6橙色土(φ1~10mm)5%、
10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。</p> | <p>SP52
1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土
2層 10YR4/4 褐色土
3層 10YR4/3 にぶい黄褐色土</p> <p>SP53
1層 10YR3/1 黒褐色土
2層 10YR4/4 褐色土</p> <p>SP56
1層 10YR4/4 褐色土</p> <p>SP61
1層 10YR3/3 暗褐色土</p> <p>SP63
1層 10YR3/3 暗褐色土</p> <p>SP79
1層 10YR3/3 暗褐色土</p> <p>SP80
1層 10YR2/1 黒色土と10YR5/6黄褐色土の混合層。
10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)3%。</p> | <p>10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%、
10YR5/4にぶい黄褐色ローム粒(φ1~20mm)3%、
10YR3/2黒褐色土10%。</p> <p>10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%、
10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。</p> <p>ローム粒(φ2~30mm)5%。</p> <p>10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ5~10mm)1%、
10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ5~15mm)1%、
10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~20mm)10%、
炭化物(φ1mm)1%。</p> |
|---|--|---|--|

図100 柱穴(2)

農道31号
下石川平野遺跡

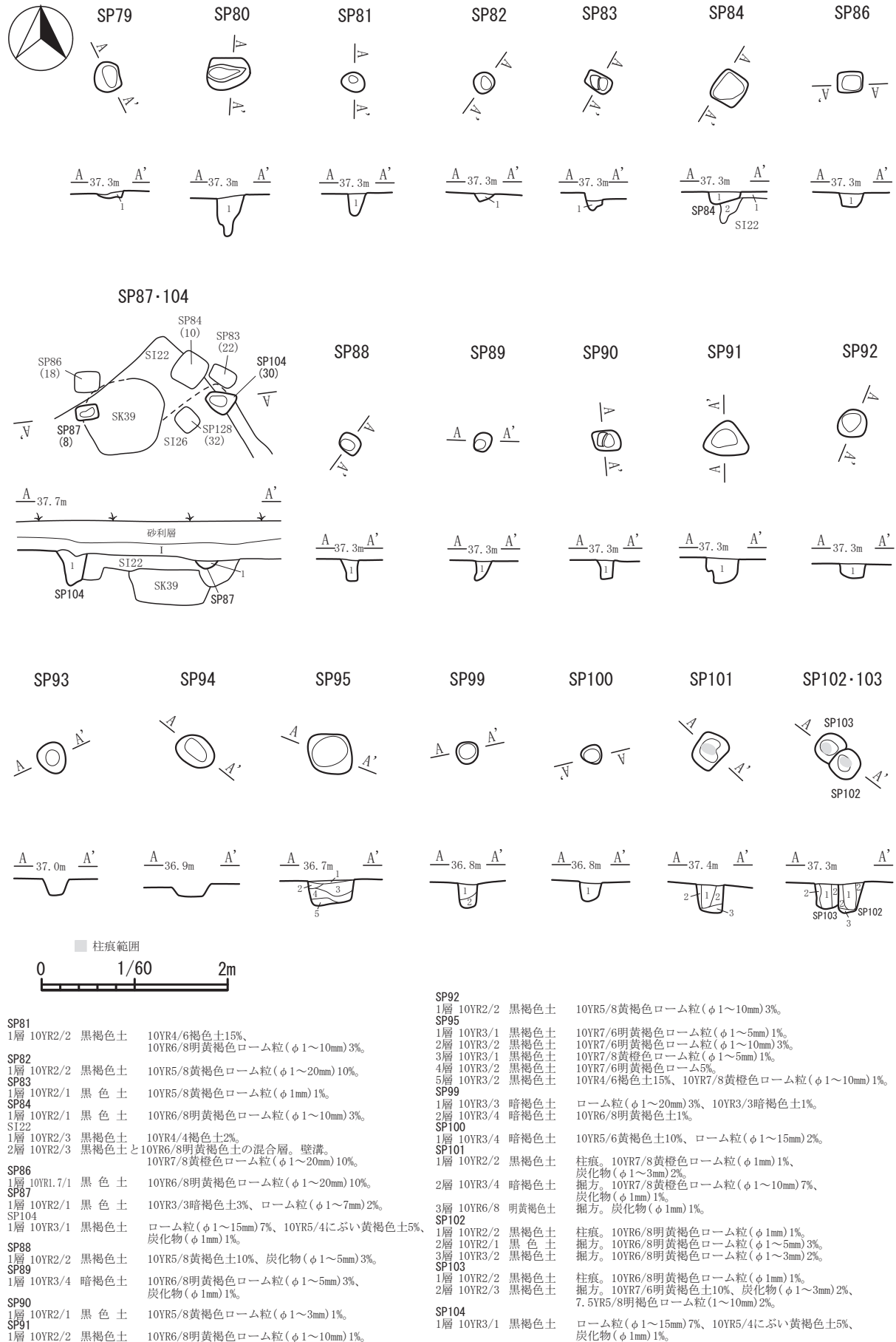


図101 柱穴 (3)

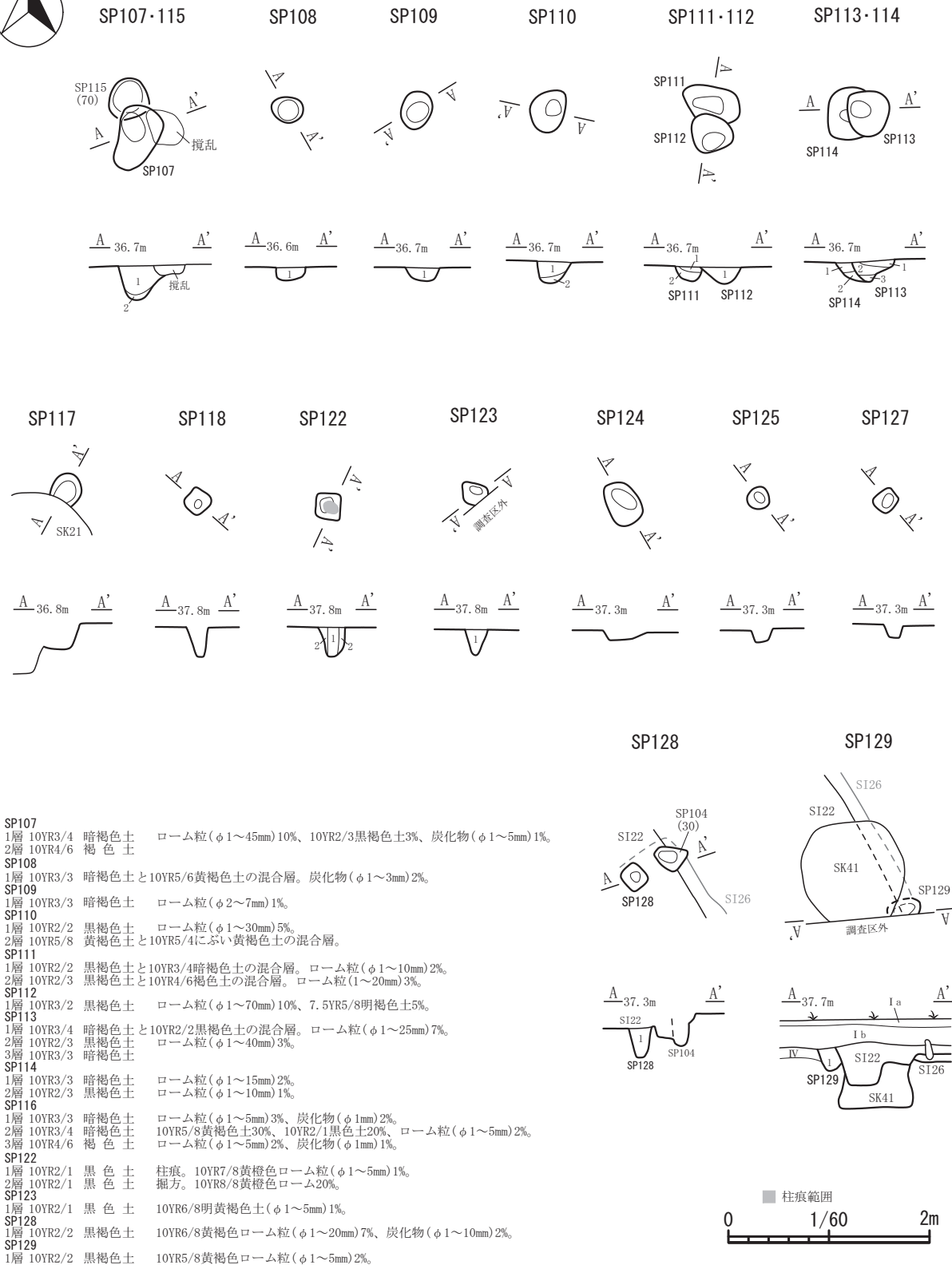


図102 柱穴 (4)

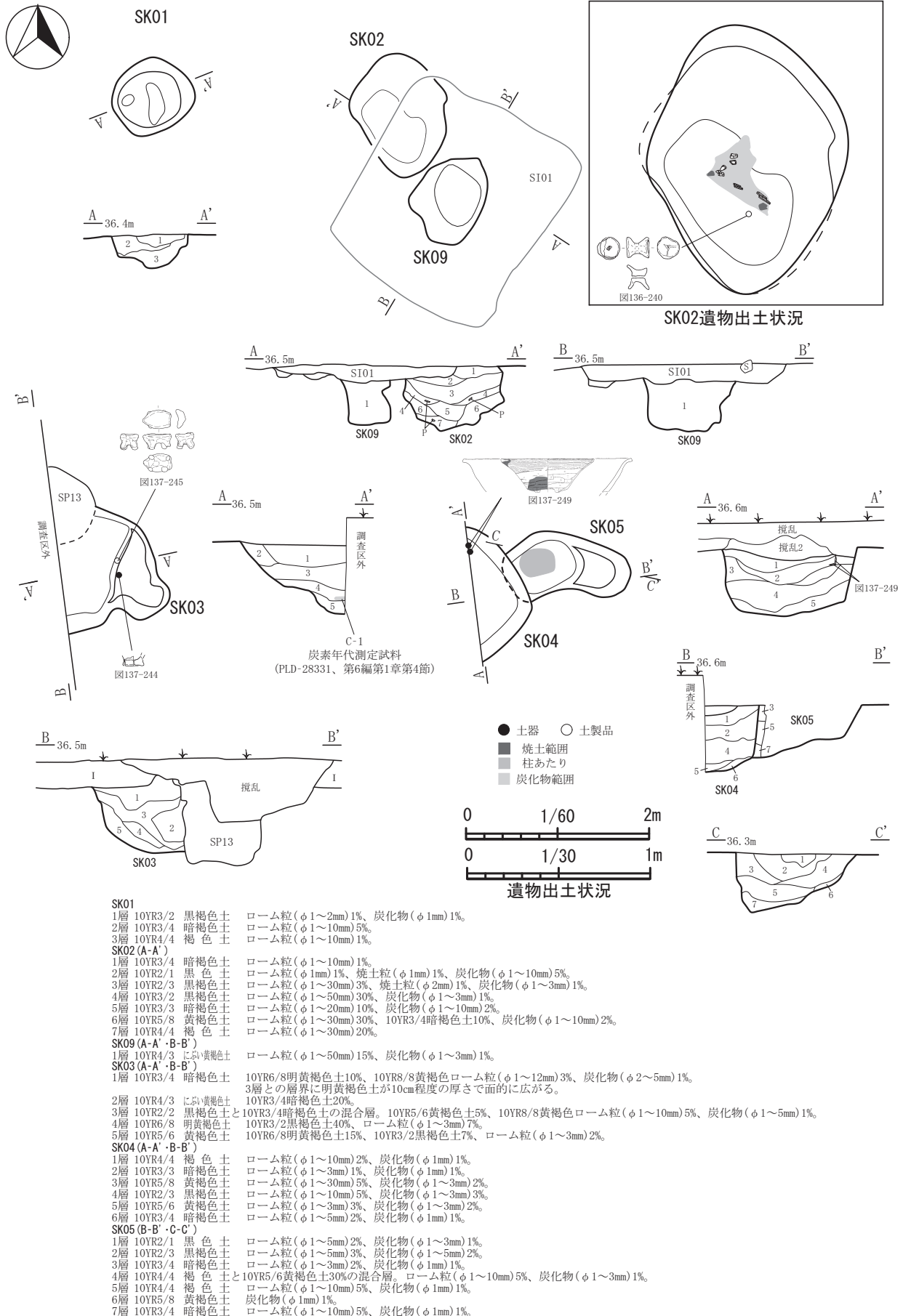
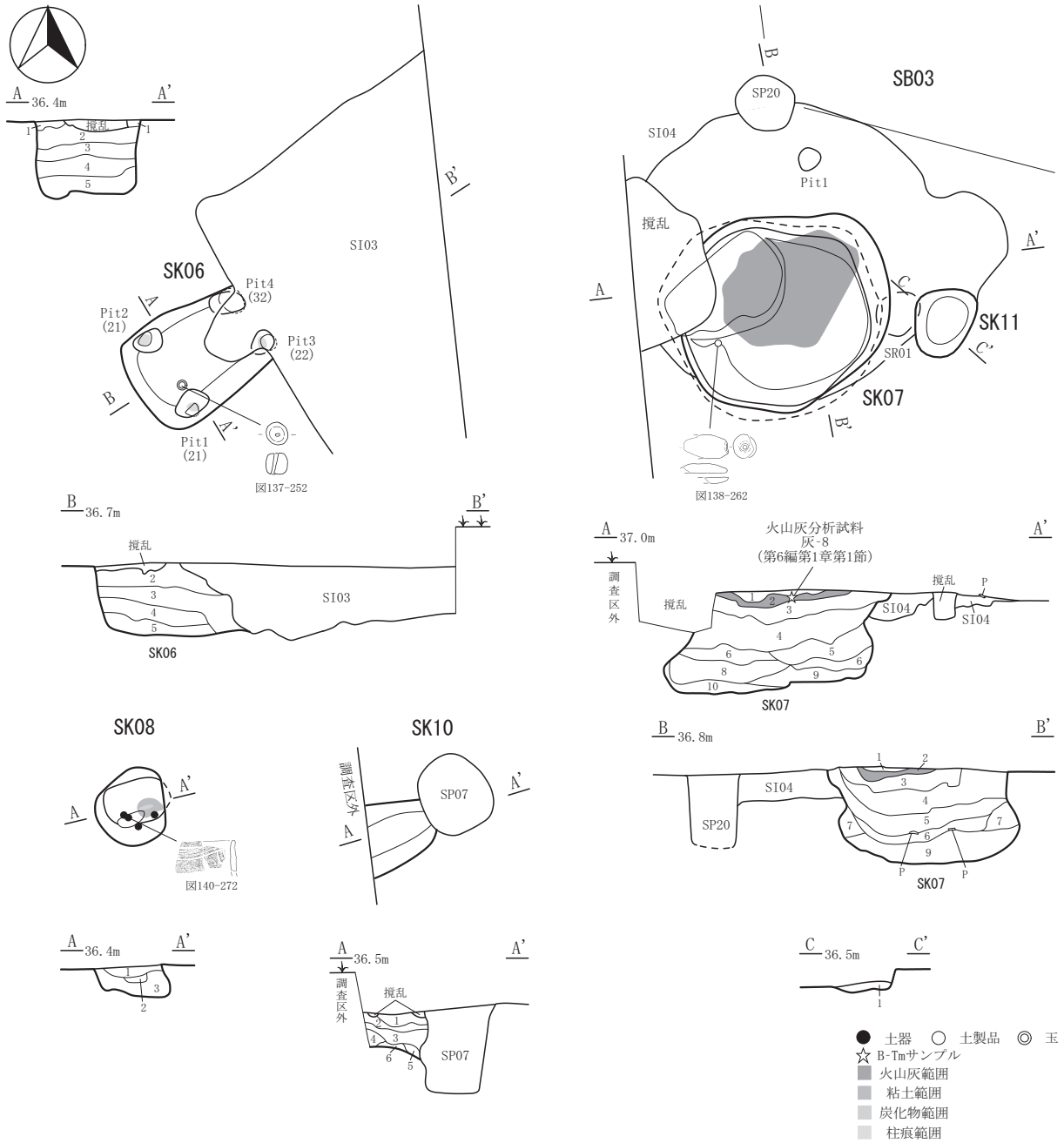
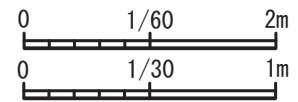
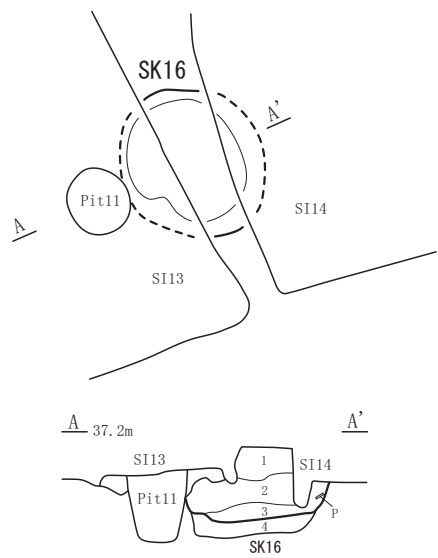
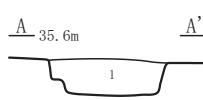
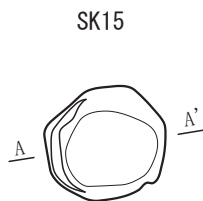
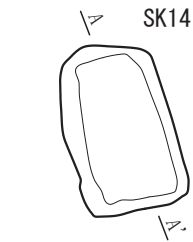
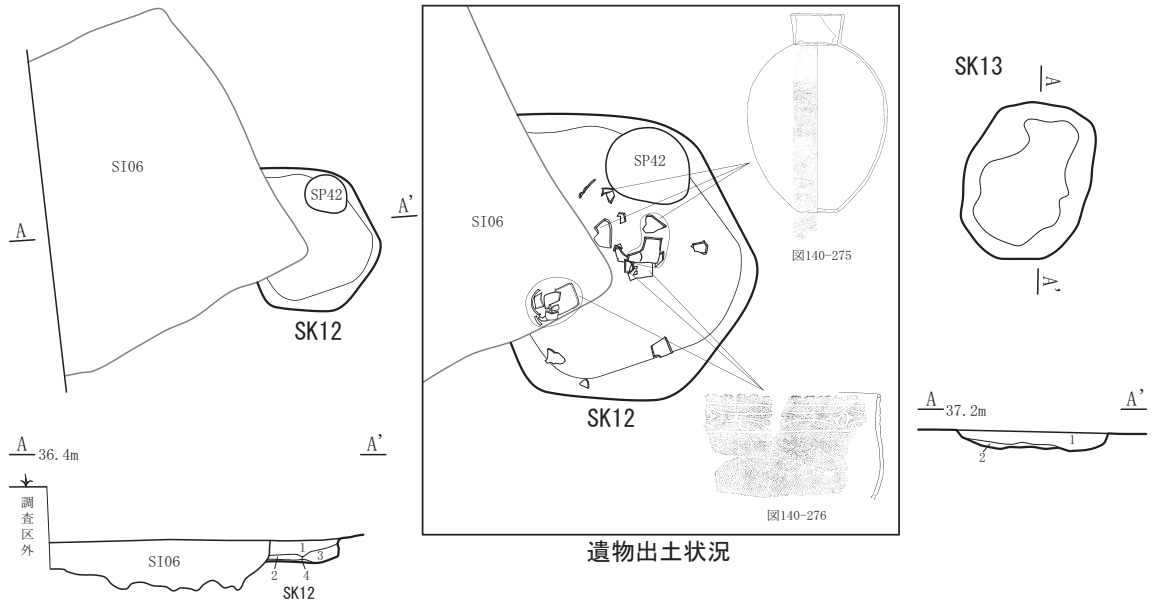


図103 土坑 (1)



- 土器 ○ 土製品 ◎ 玉
 ☆ B-Tmサンプル
 ■ 火山灰範囲
 ■ 粘土範囲
 ■ 炭化物範囲
 ■ 柱痕範囲
- 0 1/60 2m
- SK06 (A-A'・B-B')**
 1層 10YR4/4 褐色土
 2層 10YR5/8 黄褐色土
 3層 10YR3/4 暗褐色土
 4層 10YR3/4 暗褐色土
 5層 10YR2/3 黒褐色土
- 10YR6/8明黄褐色ローム(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
 10YR6/8明黄褐色ローム(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1~3mm)2%。
 10YR6/8明黄褐色ローム(φ1~5mm)5%、炭化物(φ1~5mm)2%。
 10YR6/8明黄褐色ローム(φ1~3mm)3%、炭化物(φ1~3mm)2%。
 10YR6/8明黄褐色ローム(φ1~3mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%。
- SK07 (A-A'・B-B')**
 1層 10YR3/4 暗褐色土
 2層 10YR5/4 にい黄褐色土
 3層 10YR4/4 褐色土
 4層 10YR4/3 にい黄褐色土
 5層 10YR3/4 暗褐色土
 6層 10YR3/3 暗褐色土
 7層 10YR3/3 暗褐色土
 8層 10YR2/3 黒褐色土
 9層 10YR3/2 黒褐色土
 10層 10YR5/8 黄褐色粘土
- ローム粒(φ1~2mm)1%、焼土(φ1~2mm)1%。
 B-Tm7%、ローム粒(φ1~30mm)3%、焼土(φ1~2mm)2%、炭化物(φ1~2mm)1%。
 ローム粒(φ1~10mm)20%、10YR5/6黄褐色土10%、焼土(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~5mm)1%。
 ローム粒(φ1~10mm)20%、炭化物(φ1~15mm)4%、焼土(φ1~10mm)2%。
 ローム粒(φ1~40mm)30%、炭化物(φ1~20mm)5%、焼土(φ1~20mm)3%。
 ローム粒(φ1~25mm)20%、炭化物(φ1~10mm)2%、焼土(φ1~20mm)1%。
 ローム粒(φ1~20mm)10%、炭化物(φ1~4mm)2%、焼土(φ1~2mm)1%。
 ローム粒(φ1~20mm)15%、10YR6/8明黄褐色土5%、焼土(φ1~3mm)1%、炭化物(φ1~8mm)1%。
 ローム粒(φ1~40mm)30%、10YR7/4にい黄褐色粘土5%、炭化物(φ1~2mm)5%、焼土(φ1~2mm)1%。
 10YR2/2黒褐色土20%、ローム粒(φ1~7mm)2%、炭化物(φ1~4mm)2%、焼土(φ1~10mm)1%。
- SK11 (C-C')**
 1層 10YR3/4 暗褐色土
- ローム粒(φ1~50mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
- SK08**
 1層 10YR3/3 暗褐色土
 2層 10YR3/2 黒褐色土
 3層 10YR3/2 黒褐色土
- 10YR6/8明黄褐色ローム5%、鉄分凝着。
 7.5YR/4浅黄褐色粘土20%、10YR5/6黄褐色土5%。
 10YR5/8黄褐色ローム10%、炭化物(φ10~25mm)2%。
- SK10**
 1層 10YR5/4 にい黄褐色土
 2層 10YR5/6 黄褐色土
 3層 10YR7/8 黄褐色土
 4層 10YR5/6 黄褐色土
 5層 10YR3/4 暗褐色土
 6層 7.5YR5/6 明褐色土
- 10YR5/8黄褐色土20%、ローム粒(φ2~10mm)3%。
 7.5YR4/6褐色土5%、ローム粒(φ2~10mm)2%。
 7.5YR4/6褐色土10%。
 10YR4/4褐色土5%。
 10YR6/6明黄褐色土5%。
 10YR5/8黄褐色土7%。

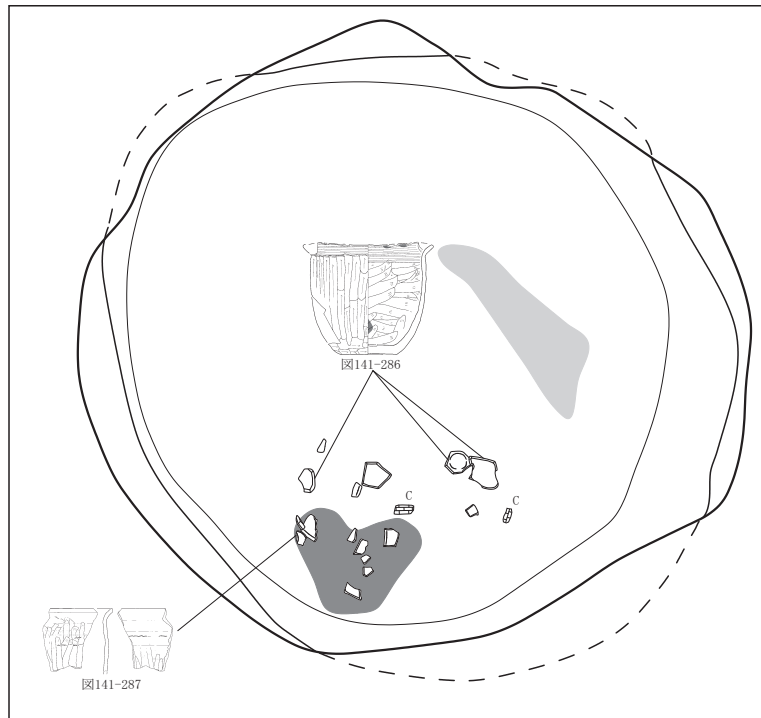
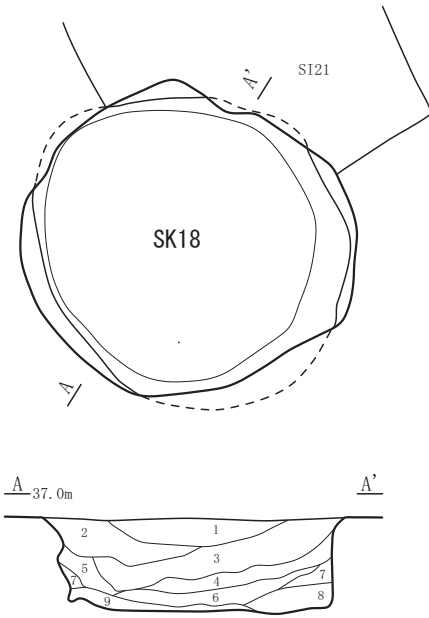
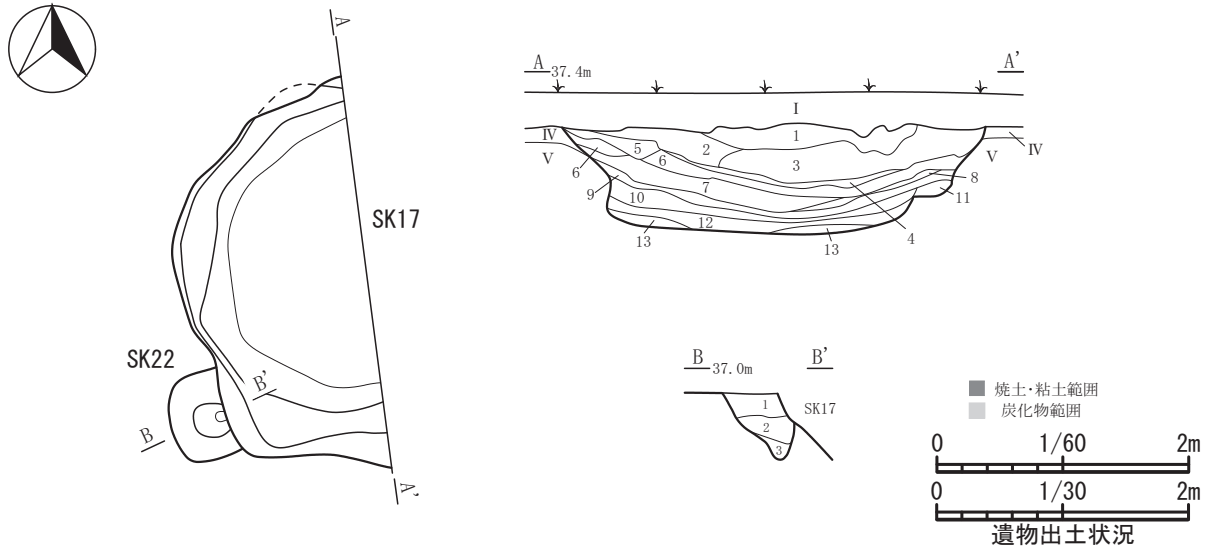
図104 土坑(2)



遺物出土状況

- SK12**
 1層 10YR3/4 暗褐色土と10YR5/4にぶい黄褐色土の混合層。炭化物(φ1~15mm)1%。
 2層 10YR5/6 黄褐色土 10YR4/4褐色土5%。
 3層 10YR5/8 黄褐色土 10YR4/4褐色土20%。
 4層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/6黄褐色土15%。
- SK13**
 1層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ2~50mm)5%。
 2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ2~10mm)5%。
- SK14**
 1層 10YR4/4 褐色土 ローム粒(φ1~50mm)30%、10YR2/3黒褐色土10%、炭化物(φ1~3mm)1%。
- SK15**
 1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR5/6黄褐色土ローム粒(φ2~20mm)7%、10YR4/4褐色土5%。
- SK16**
 1層 10YR4/4 褐色土と10YR2/3黒褐色土の混合層。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~30mm)15%、炭化物(φ1~5mm)5%。
 2層 10YR4/4 褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~40mm)20%、炭化物(φ1~20mm)10%、10YR3/3暗褐色土5%。
 3層 10YR5/6 黄褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)5%、炭化物(φ1~3mm)2%。
 4層 10YR5/8 黄褐色土 掘方。10YR8/4浅黄橙色土7%、炭化物(φ1~5mm)2%。

図105 土坑 (3)



SK18遺物出土状況

- SK17 (A-A')**
- 1層 10YR2/2 黒褐色土
 - 2層 10YR3/4 暗褐色土
 - 3層 10YR3/3 暗褐色土
 - 4層 10YR3/3 暗褐色土
 - 5層 10YR3/3 暗褐色土
 - 6層 10YR3/4 暗褐色土
 - 7層 10YR3/3 暗褐色土
 - 8層 10YR4/3 に近い黄褐色土
 - 9層 10YR3/4 暗褐色土
 - 10層 10YR3/3 暗褐色土
 - 11層 10YR4/3 に近い黄褐色土
 - 12層 10YR6/6 明黄褐色ローム
 - 13層 10YR5/6 黄褐色ローム
- SK22 (B-B')**
- 1層 10YR4/3 に近い黄褐色土
 - 2層 10YR4/4 明黄褐色ローム
 - 3層 10YR6/6 明黄褐色ローム
- SK18**
- 1層 10YR3/2 黒褐色土
 - 2層 10YR3/3 暗褐色土
 - 3層 10YR4/3 に近い黄褐色土
 - 4層 10YR4/4 褐色土
 - 5層 10YR3/3 暗褐色土
 - 6層 10YR4/3 に近い黄褐色土
 - 7層 10YR5/4 に近い黄褐色土
 - 8層 10YR4/4 褐色土
 - 9層 10YR3/3 暗褐色土
- 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~10mm)2%、焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。
 10YR5/6黄褐色~10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~30mm)7%、炭化物(φ1~4mm)2%、焼土(φ1~5mm)1%。
 10YR5/6黄褐色~10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~50mm)3%、炭化物(φ20mm)3%。
 炭化物(φ1~10mm)3%、10YR5/6黄褐色~10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~10mm)2%、焼土(φ1~5mm)1%。
 10YR5/6黄褐色ロームブロック(φ1~10mm)1%、焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 10YR6/6~10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ1~80mm)15%、焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 10YR6/6~10YR6/8明黄褐色ロームブロック(φ1~50mm)10%、焼土(φ1mm)1%、炭化物(φ1~10mm)1%。
 10YR6/1褐灰色粘土(φ1~10mm)1%、焼土ブロック(φ10mm)1%。
 10YR5/2灰黄褐色粘土(φ1~10mm)1%、焼土(φ1~3mm)1%。
 10YR6/6~10YR6/8明黄褐色ロームブロックの混合層。暗褐色主体土とローム主体土が互層状に堆積。炭化物(φ1~10mm)1%。
 壁崩落土。10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~20mm)20%。
 10YR5/6明黄褐色ロームブロック(φ1~20mm)1%、10YR3/3暗褐色土1%。
 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~30mm)1%。10YR3/3暗褐色土1%。
- 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~50mm)5%、炭化物(φ1~20mm)1%、10YR2/2黒色ブロック(φ1~20mm)1%。
 10YR4/3に近い黄褐色土20%、10YR2/2黒褐色土20%。
 10YR2/2黒褐色土10%。
- 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~30mm)3%、炭化物(φ1~5mm)1%。
 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~30mm)1%、焼土(φ1~3mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~70mm)5%、焼土(φ1~3mm)1%、10YR6/3に近い黄褐色粘土(φ1~75mm)1%、炭化物(φ1~10mm)1%。
 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~40mm)5%、焼土(φ1~10mm)1%、炭化物(φ1~10mm)1%。
 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~20mm)1%。
 10YR5/6黄褐色ローム(φ1~70mm)7%、7.5YR6/4に近い橙色粘土3%、焼土(φ2~3mm)1%、炭化物(φ1~12mm)1%。
 ローム粒(φ1~15mm)1%、炭化物(φ1~10mm)1%。
 7.5YR5/6明褐色ローム粒(φ1~70mm)10%、焼土1%、炭化物(φ1~10mm)1%。
 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~70mm)2%、焼土(φ2~10mm)1%、炭化物(φ1~4mm)1%。

図106 土坑(4)

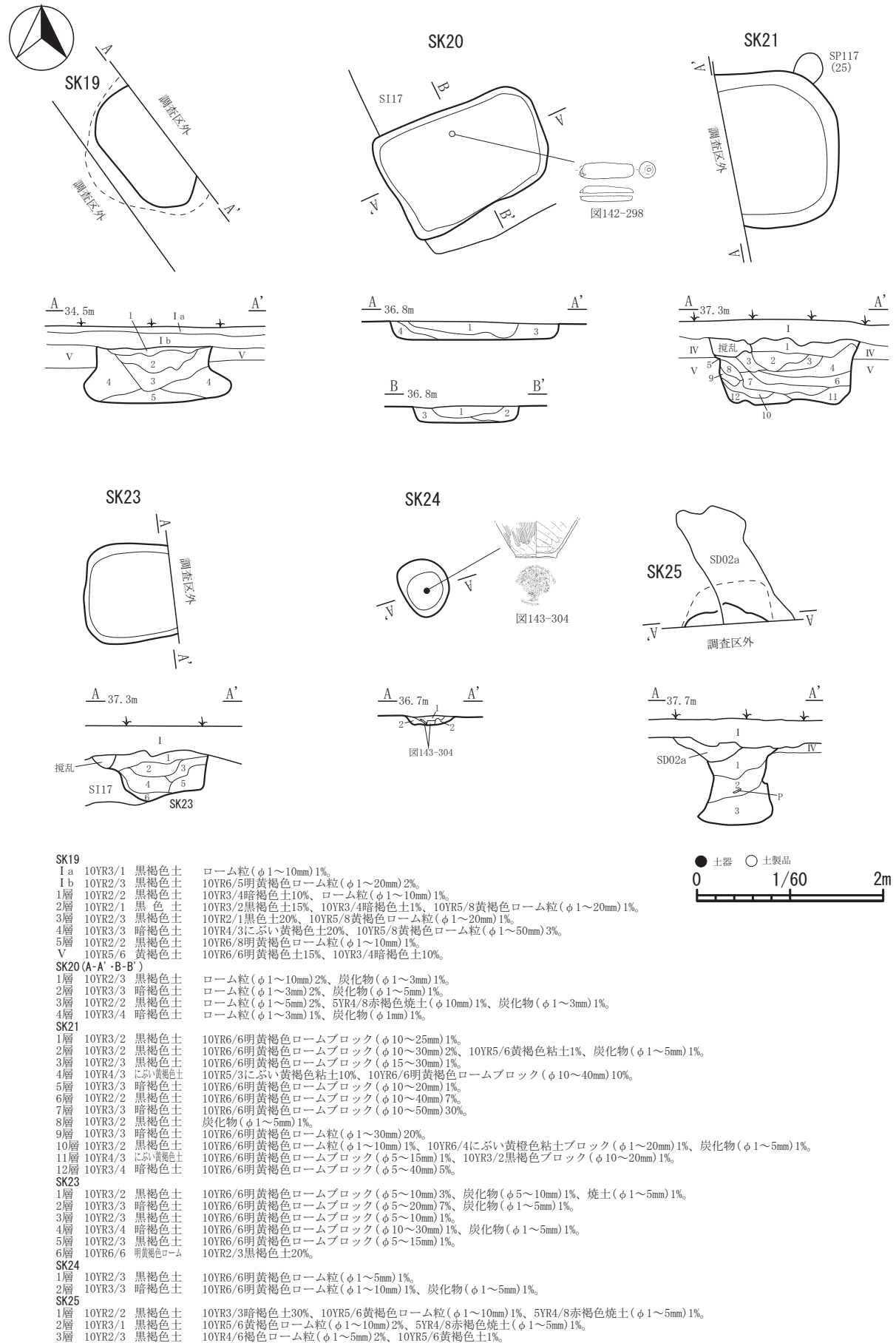
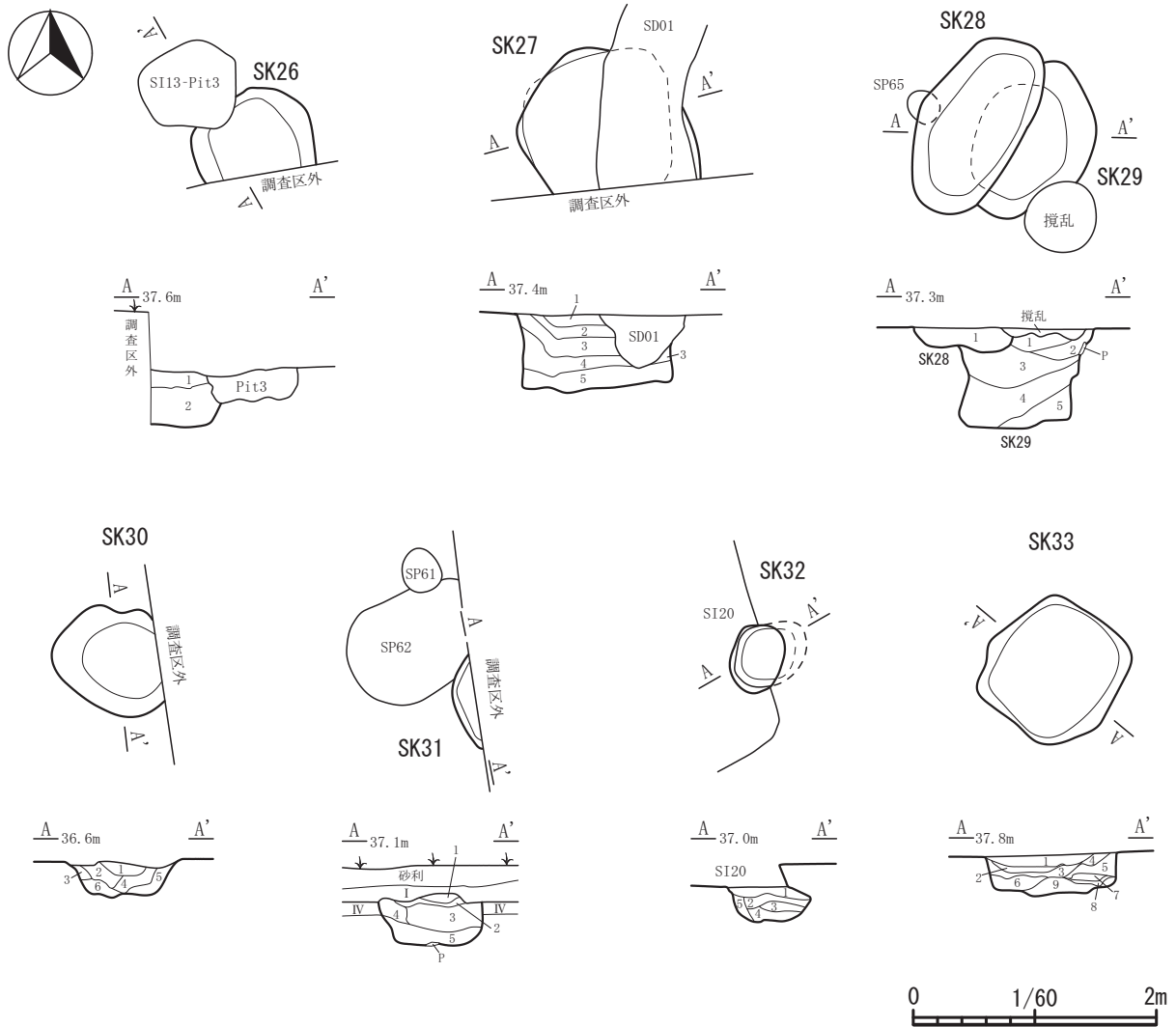
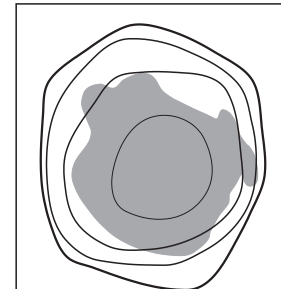
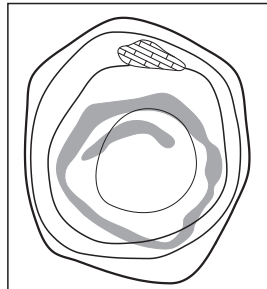
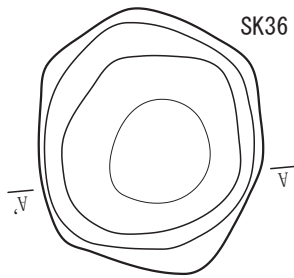
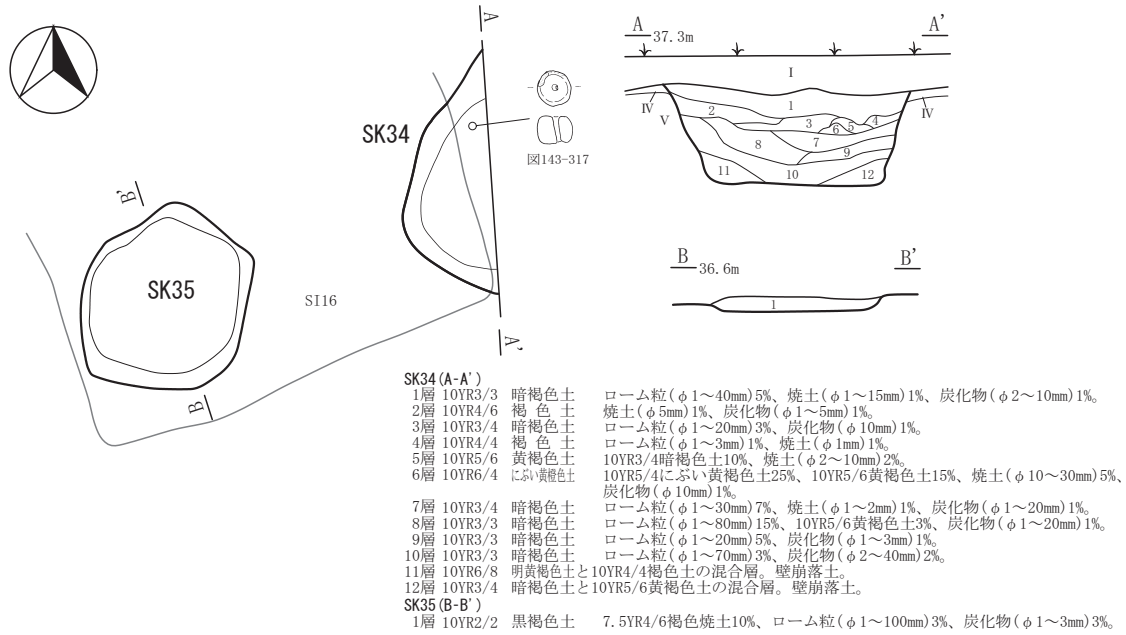


図107 土坑(5)



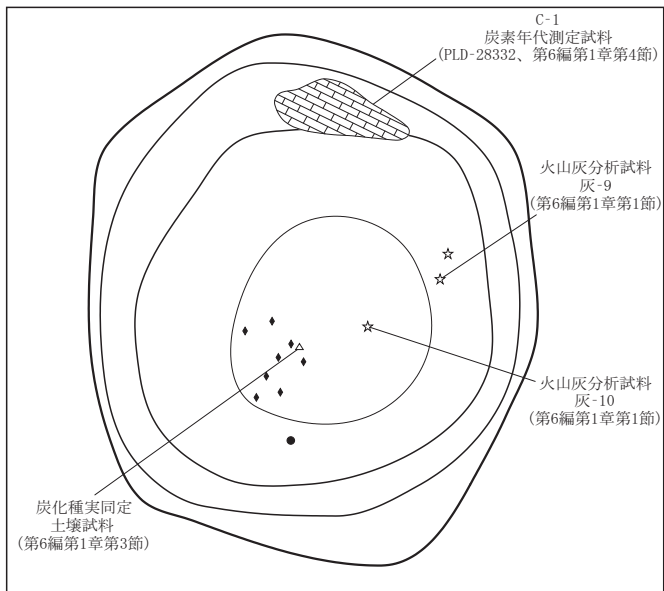
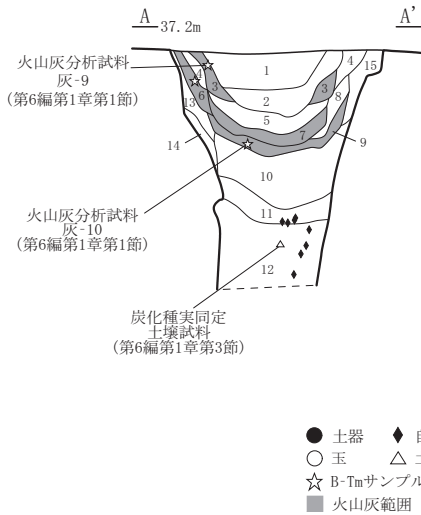
- SK26**
 1層 10YR4/4 褐色土
 2層 10YR5/8 黄褐色土
- SK27**
 1層 10YR2/2 黒褐色土
 2層 10YR3/2 黒褐色土
 3層 10YR3/4 暗褐色土
 4層 10YR3/4 暗褐色土
 5層 10YR2/3 黒褐色土
- SK28**
 1層 10YR4/6 褐色土
- SK29**
 1層 10YR3/4 暗褐色土
 2層 10YR3/3 暗褐色土
 3層 10YR4/4 褐色土
 4層 10YR4/6 褐色土
 5層 10YR2/3 黒褐色土
- SK30**
 1層 10YR4/4 褐色土
 2層 10YR3/3 暗褐色土
 3層 10YR5/6 黄褐色ローム
 4層 10YR2/3 黒褐色土
 5層 10YR3/2 黒褐色土
 6層 10YR3/2 黒褐色土
- SK31**
 1層 10YR2/2 黒褐色土
 2層 10YR2/3 黒褐色土
 3層 10YR3/2 黒褐色土
 4層 10YR3/3 暗褐色土
 5層 10YR3/4 暗褐色土
- SK32**
 1層 10YR4/6 褐色土
 2層 10YR3/3 暗褐色土
 3層 10YR5/6 黄褐色ローム
 4層 10YR3/3 暗褐色土
 5層 10YR3/3 暗褐色土
- SK33**
 1層 10YR2/1 黒色土
 2層 10YR2/2 黒褐色土
 3層 10YR3/1 黒褐色土
 4層 10YR3/4 暗褐色土
 5層 10YR3/3 暗褐色土
 6層 10YR3/2 黒褐色土
 7層 10YR7/6 明黄褐色土
 8層 10YR5/8 黄褐色土
 9層 10YR5/6 黄褐色土
- 10YR2/3黒褐色土30%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 10YR6/6明黄褐色ローム20%、7.5YR橙色土10%、炭化物(φ2mm)1%。
 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)3%。
 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~50mm)30%、炭化物(φ1~5mm)1%。
 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~30mm)15%、炭化物(φ1~5mm)1%。
 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~10mm)7%、炭化物(φ1~10mm)1%。
 10YR6/8明黄褐色土20%、ローム粒(φ1~300mm)20%、炭化物(φ1~200mm)10%、5YR4/8赤褐色焼土粒(φ1~3mm)1%。
 ローム粒(φ1mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 ローム粒(φ1~200mm)10%、炭化物(φ1~10mm)5%、焼土粒(φ1~3mm)2%。
 ローム粒(φ1~100mm)20%、炭化物(φ1~50mm)5%、焼土粒(φ1~5mm)3%。
 ローム粒(φ1~3mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%、焼土(φ1~3mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。
 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5~10mm)1%、焼土(φ1~3mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 10YR6/6明黄褐色ロームと10YR3/3暗褐色土の混合層。
 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ5~10mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ50mm)1個。
 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ10~20mm)1%。
 炭化物(φ1~5mm)1%。
 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~10mm)1%。
 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~3mm)1%。
 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~3mm)1%。
 10YR6/6明黄褐色ロームブロック(φ1~10mm)1%、炭化物(φ1~5mm)1%。
 10YR3/3暗褐色土30%。
 10YR5/6黄褐色ローム40%。
 ローム粒(φ2~30mm)3%、焼土(φ2~10mm)1%。
 ローム粒(φ1~15mm)5%、焼土(φ5mm)1%。
 ローム粒(φ1~15mm)2%。
 焼土(φ1~20mm)10%、7.5YR5/6明褐色土5%、10YR5/3にぶい黄褐色土2%、炭化物(φ5~10mm)1%。
 ローム粒(φ1~20mm)5%、炭化物(φ2~10mm)5%、焼土(φ1~5mm)1%。
 10YR4/4褐色粘土(φ50mm)5%、10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
 10YR3/4暗褐色土2%。
 10YR3/4暗褐色土15%、7.5YR4/4褐色焼土粘土(φ40mm)10%、炭化物(φ1~3mm)5%。
 10YR7/2にぶい黄褐色粘土(φ2~15mm)5%、10YR3/2黒褐色土3%、炭化物(φ2~3mm)1%。

図108 土坑(6)



B-Tm(上層)検出状況

B-Tm(中層~下層)検出状況



SK36遺物出土状況

- SK36**
- | | | | |
|-----|-----------|------|--|
| 1層 | 10YR2/1 | 黒色土 | ぼろぼろしている。ローム粒(φ1~5mm)1%。 |
| 2層 | 10YR1.7/1 | 黒色土 | ローム粒(φ1~5mm)1%。 |
| 3層 | 10YR2/1 | 黒色土 | B-Tm上層(サンプル-1)。B-Tm5%、ローム粒(φ1~5mm)2%。 |
| 4層 | 10YR2/1 | 黒色土 | ローム粒(φ1~5mm)2%。 |
| 5層 | 10YR2/1 | 黒色土 | ローム粒(φ1~15mm)5%。 |
| 6層 | B-Tm主体 | | B-Tm中層(サンプル-2)。10YR1.7/1黒色土15%、ローム粒(φ1~5mm)3%。 |
| 7層 | 10YR2/1 | 黒色土 | B-Tm中層(サンプル-2)。ローム粒(φ1~10mm)7%、B-Tm5%。 |
| 8層 | 10YR2/1 | 黒色土 | ローム粒(φ1~3mm)2%。 |
| 9層 | B-Tm主体 | | B-Tm下層(サンプル-3)。10YR1.7/1黒色土5%、ローム粒(φ1~5mm)2%。 |
| 10層 | 5YR1.7/1 | 黒色土 | 湿性あり。ローム粒(φ1~20mm)5%。 |
| 11層 | 7.5YR3/1 | 黒褐色土 | 湿性あり。ローム粒(φ1~5mm)15%、鉄分凝着。 |
| 12層 | 5YR1.7/1 | 黒色土 | 湿性あり。ローム粒(φ1~20mm)7%、鉄分凝着。 |
| 13層 | 10YR2/1 | 黒色土 | ローム粒(φ1~7mm)5%、鉄分凝着。 |
| 14層 | 10YR2/1 | 黒色土 | ローム粒(φ1~5mm)3%、鉄分凝着。 |
| 15層 | 10YR2/1 | 黒色土 | ローム粒(φ1~7mm)7%、鉄分凝着。 |

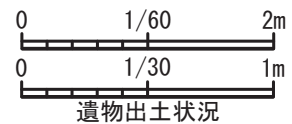
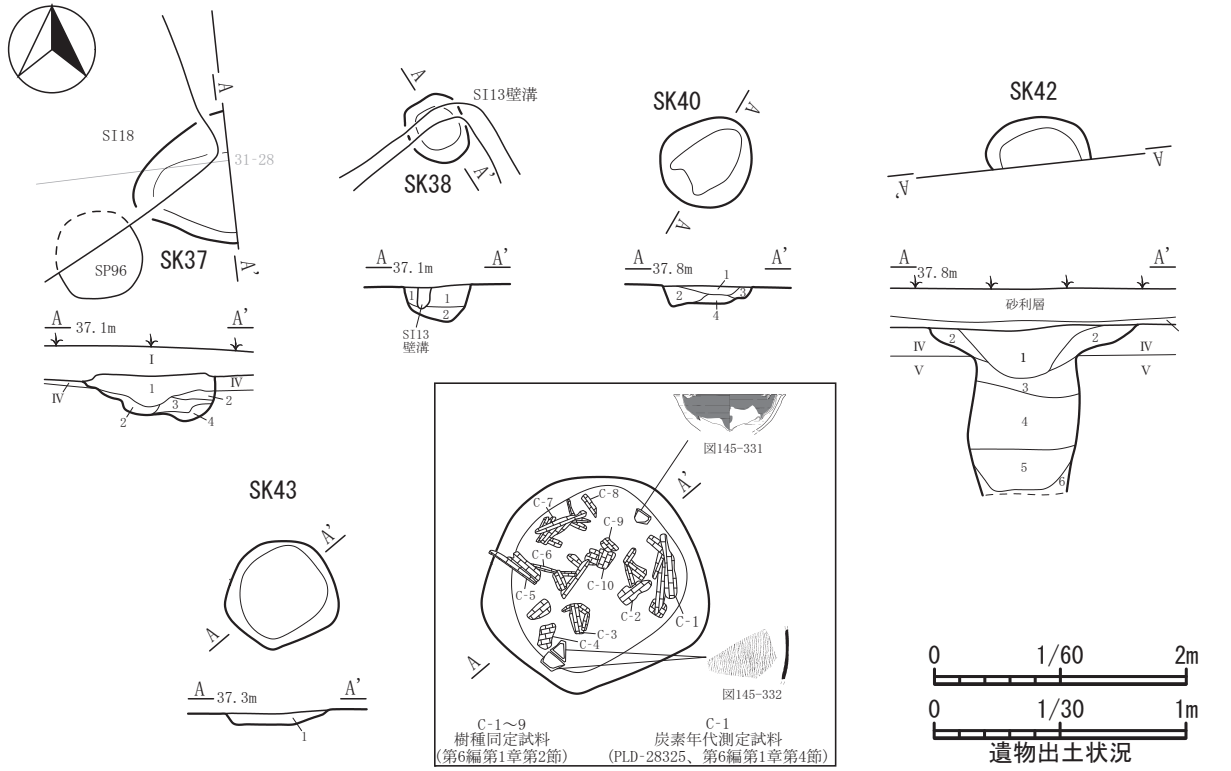


図109 土坑(7)



SK43遺物出土状況

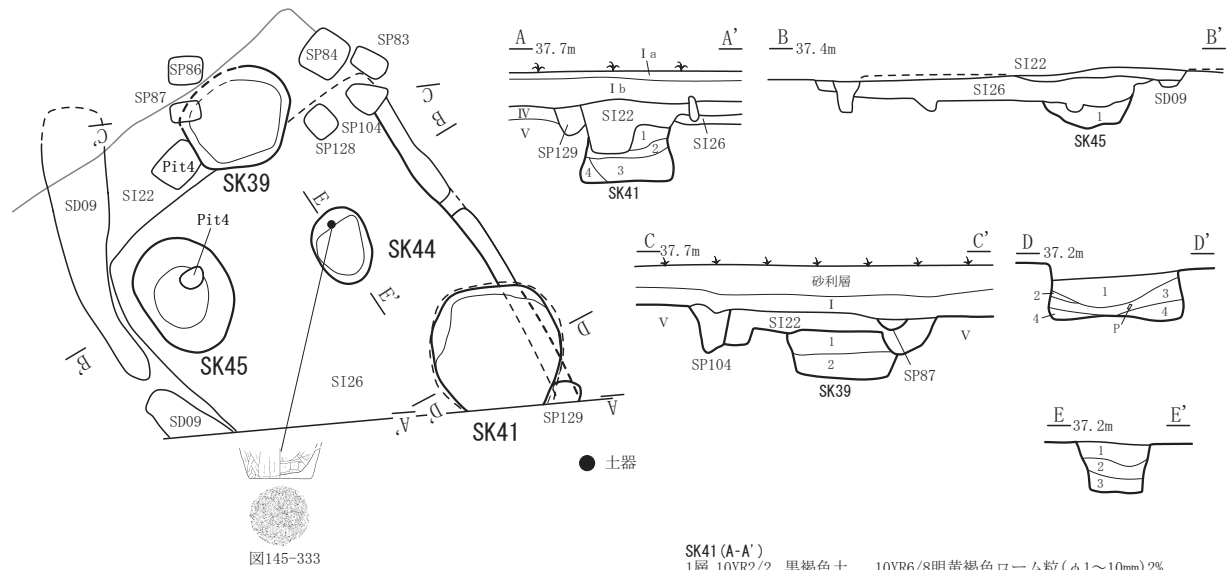


図145-333

- SK37**
 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)1%。
 2層 10YR7/8 黄褐色土 10YR2/2黒褐色土40%。
 3層 10YR2/1 黒色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~20mm)3%。
 4層 10YR4/4 褐色土 10YR7/8黄褐色土(φ1~20mm)7%。
- SK38**
 1層 10YR4/6 褐色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~30mm)20%、炭化物(φ1mm)1%。
 2層 10YR5/8 黄褐色土 炭化物(φ1~3mm)3%。
- SK40**
 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%。
 2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR3/4暗褐色土15%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)5%。
 3層 10YR2/3 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
 4層 10YR5/8 黄褐色土 10YR2/3黒褐色土3%。
- SK42**
 1層 10YR2/1 黒色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~50mm)15%、
 10YR7/2にぶい黄褐色粘土7%。
 2層 10YR1.7/1 黒色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)5%、
 10YR7/2にぶい黄褐色粘土3%。
 3層 10YR2/1 黒色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%、
 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)5%、
 10YR7/2にぶい黄褐色粘土2%。
 4層 10YR1.7/1 黒色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
 5層 10YR1.7/1 黒色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
 6層 10YR8/3 浅黄褐色粘土 10YR2/1黒色土5%。
- SK43**
 1層 10YR2/1 黒色土 炭化物(φ1~10mm)20%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。

- SK41 (A-A')**
 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)2%。
 2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~30mm)15%、
 層左側に含まれている。 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)10%。
 3層 10YR2/1 黒色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)10%。
 4層 10YR6/6 明黄褐色土 10YR2/2黒褐色土5%。
- SK41 (D-D')**
 1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~20mm)2%、
 炭化物(φ1~2mm)1%。
 2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)10%。
 3層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~20mm)5%、
 10YR8/4浅黄褐色粘土2%、
 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~50mm)20%、
 炭化物(φ1~5mm)2%。
- SK45 (B-B')**
 1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~50mm)25%、
 炭化物(φ1~5mm)2%。
- SK39 (C-C')**
 1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR4/3にぶい黄褐色土5%、
 ローム粒(φ1~15mm)3%、
 10YR4/4褐色粘土(φ20~30mm)3%。
 2層 10YR2/1 黒色土 10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~60mm)30%、
 10YR7/2にぶい黄褐色粘土(φ30mm)3%、
 炭化物(φ1~5mm)2%。
- SK44 (E-E')**
 1層 10YR2/1 黒色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~10mm)3%、
 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~50mm)10%。
 2層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~3mm)1%。
 3層 10YR3/2 黒褐色土

図110 土坑(8)

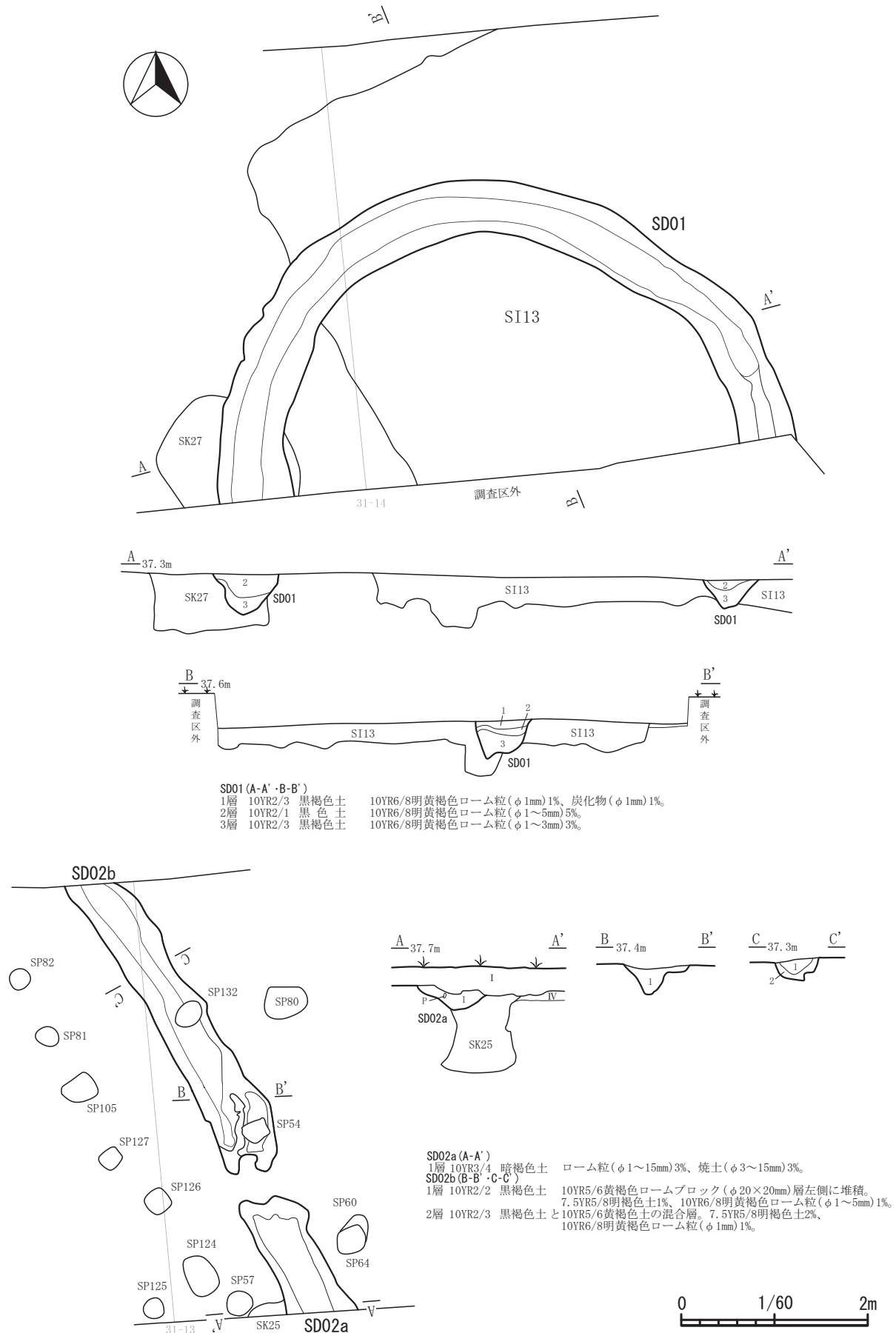
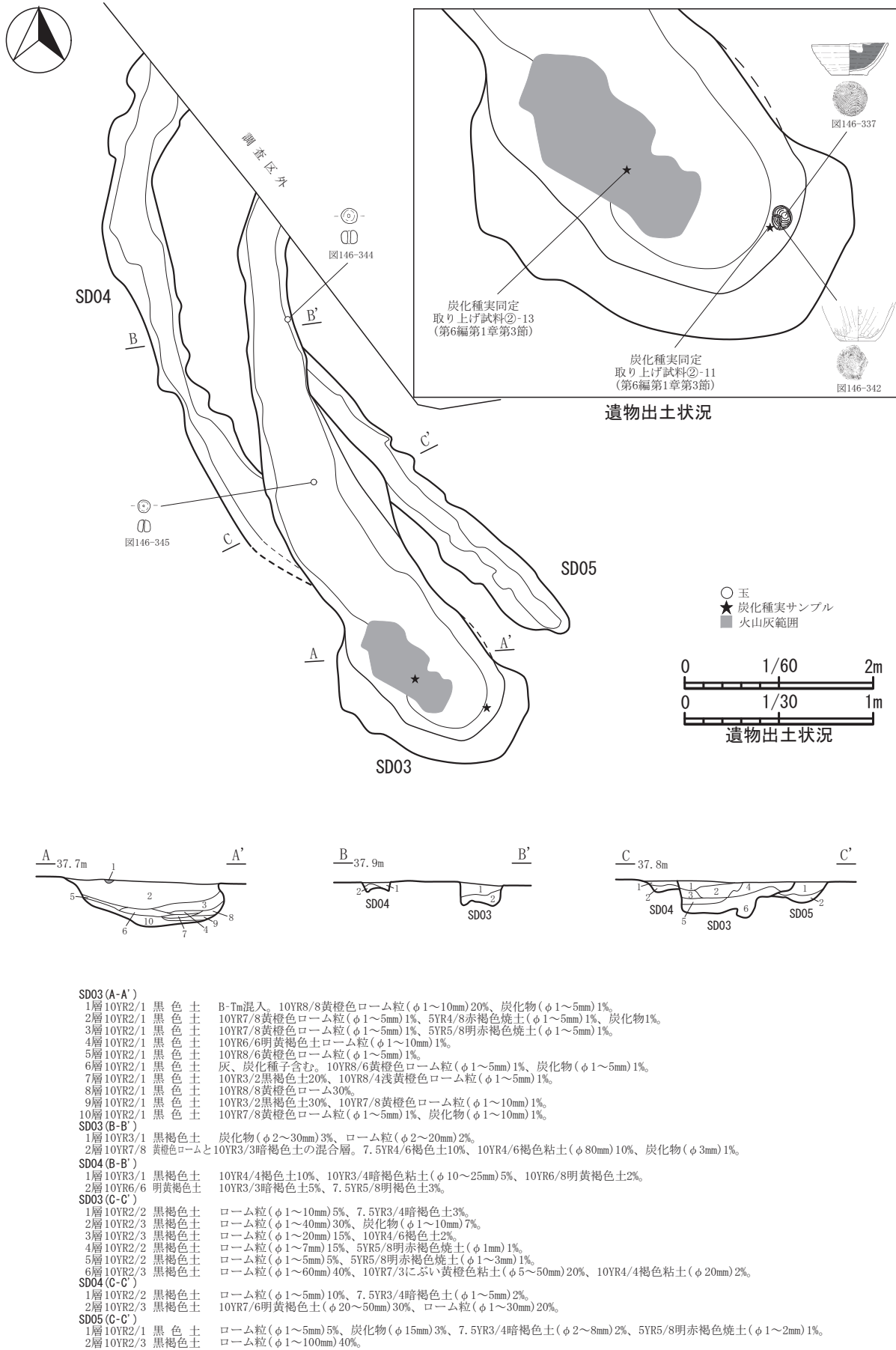
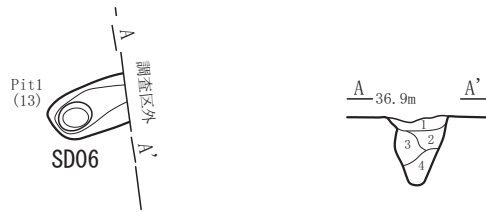


図111 溝跡(1)



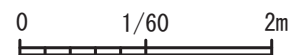
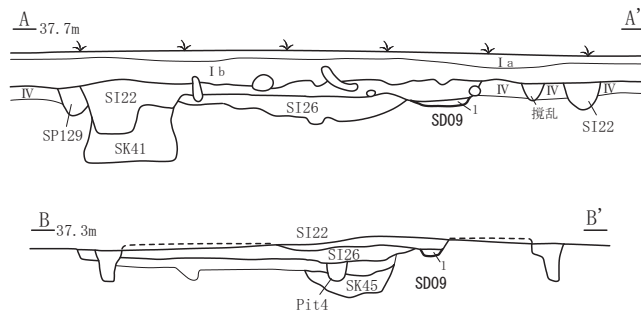
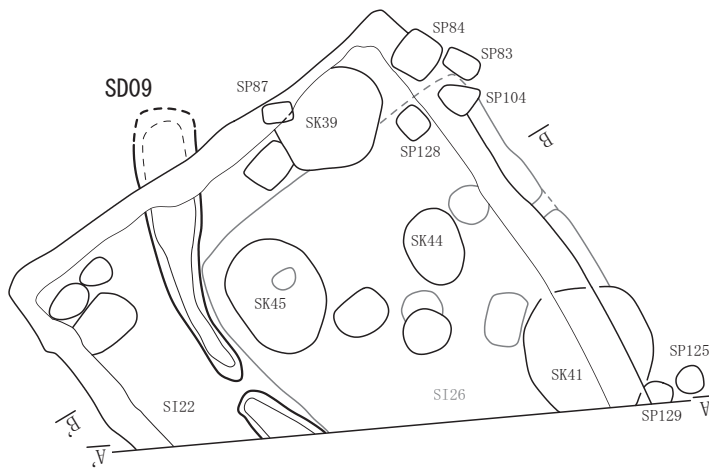
農道31号
下石川平野遺跡

図112 溝跡 (2)



SD06 (A-A')

- | | |
|-----------------|-----------------------------------|
| 1層 10YR3/4 暗褐色土 | □-△粒 (φ 1~5mm) 2% |
| 2層 10YR4/4 褐色土 | □-△粒 (φ 1~3mm) 2%、炭化物 (φ 1mm) 2% |
| 3層 10YR4/6 褐色土 | □-△粒 (φ 1~10mm) 3%、炭化物 (φ 1mm) 1% |
| 4層 10YR3/3 暗褐色土 | □-△粒 (φ 1~3mm) 2%、炭化物 (φ 1mm) 1% |



SD09 (B-B')

- | | |
|-----------------|-------------------|
| 1層 10YR2/2 黒褐色土 | □-△粒 (φ 1~5mm) 7% |
|-----------------|-------------------|

図113 溝跡 (3)

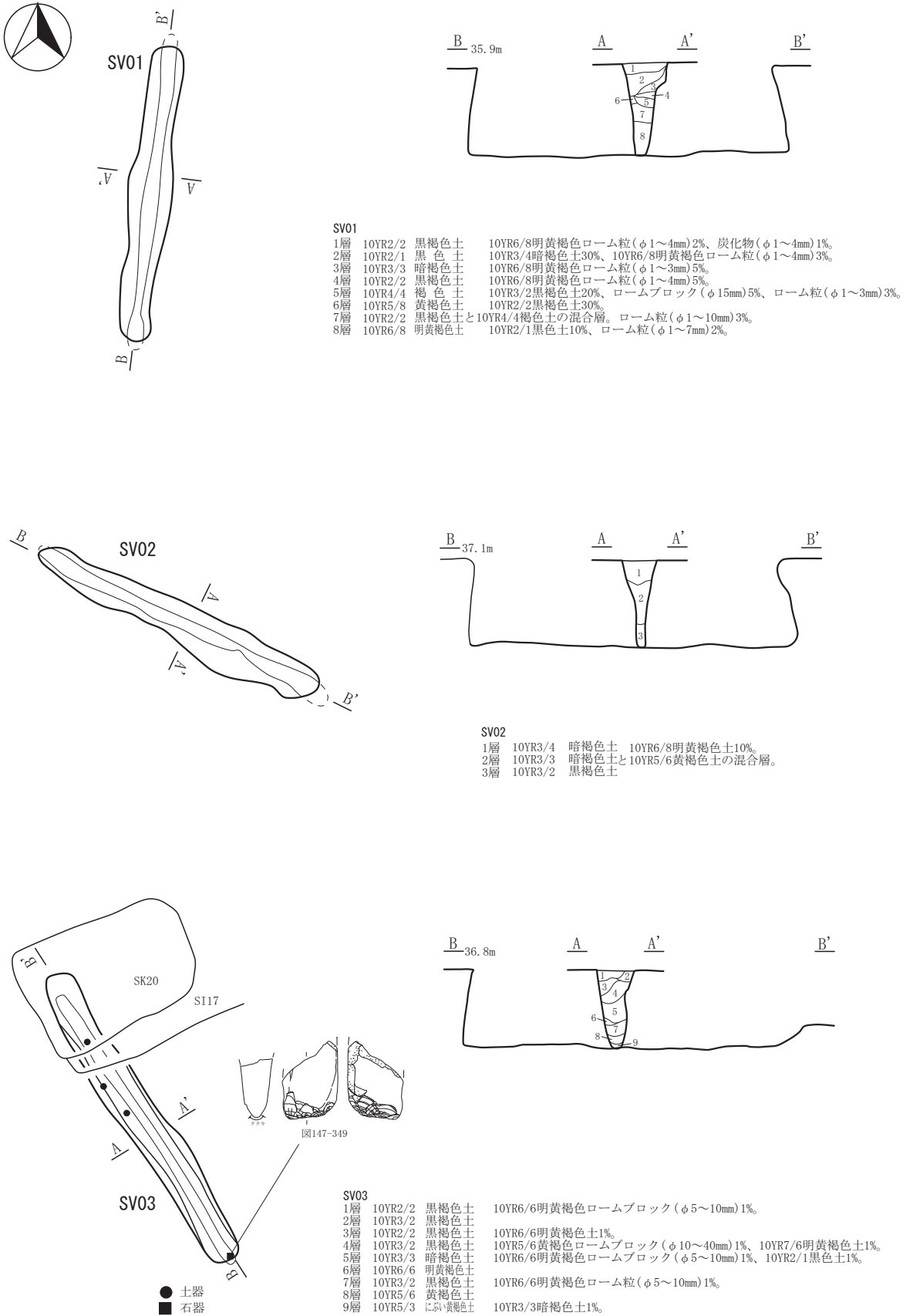
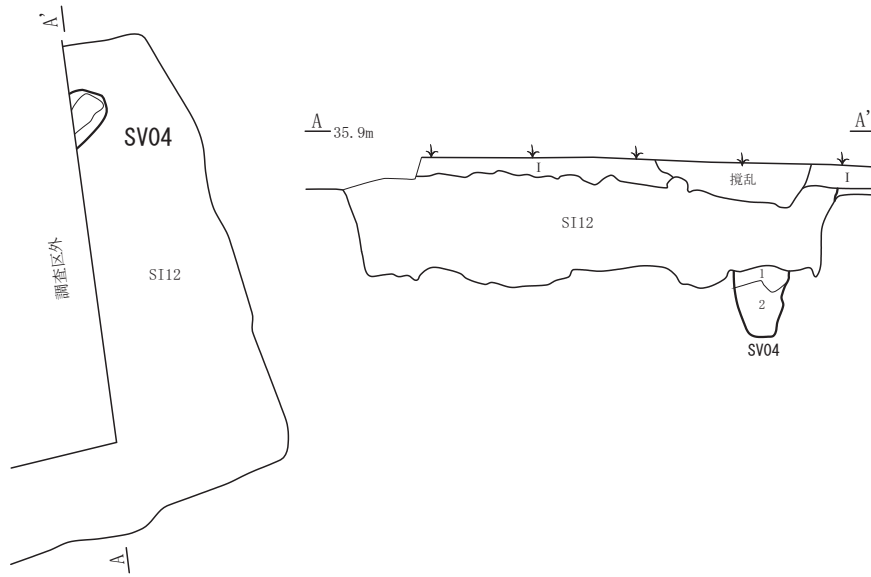
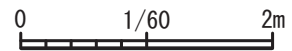
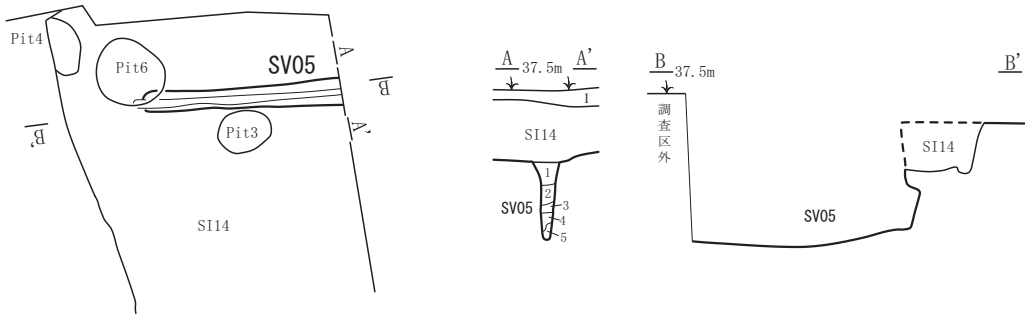


図114 溝状土坑(1)

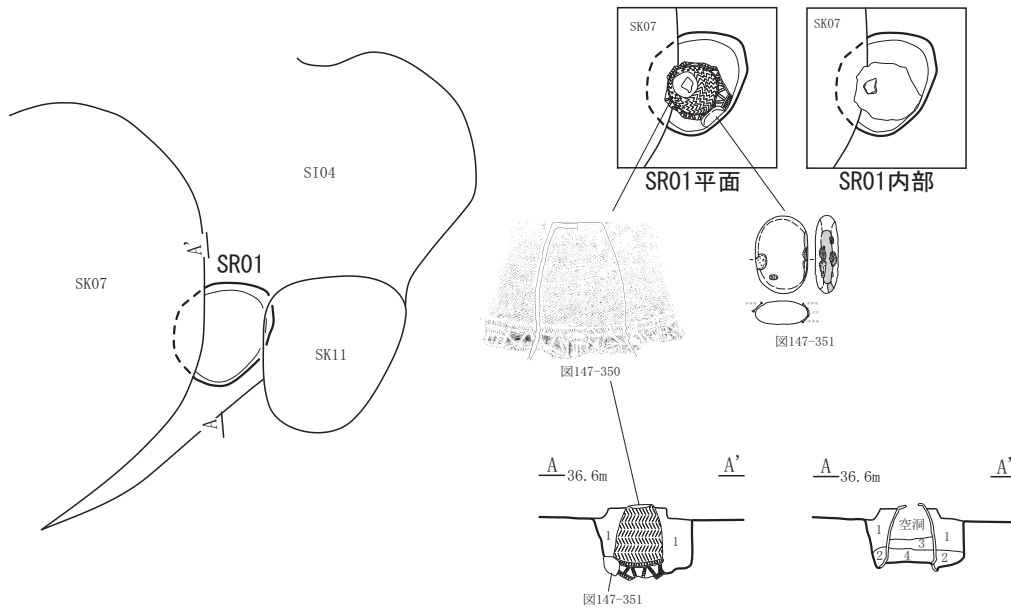


SV04
 1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/8黄褐色土20%、10YR6/8明褐色ローム粒(φ1~3mm)5%。
 2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR4/6褐色土3%、10YR6/8明褐色ローム粒(φ1~3mm)3%。



SV05
 1層 10YR3/3 暗褐色土 10YR8/6黄褐色土7%、炭化物(φ1~5mm)3%。
 2層 10YR5/8 黄褐色土 10YR4/6褐色土3%、炭化物(φ1mm)1%。
 3層 10YR2/3 黒褐色土 炭化物(φ1~3mm)2%。
 4層 10YR4/6 褐色土 10YR2/3黒褐色土3%。
 5層 10YR2/2 黒褐色土 10YR8/6黄褐色土7%、炭化物(φ1~5mm)3%。

図115 溝状土坑(2)



- SR01**
- | | |
|--------------------|--------------------------------------|
| 1層 10YR4/3 にぶい黄褐色土 | ローム粒 (φ 1~8mm) 5%、炭化物 (φ 1~20mm) 3%。 |
| 2層 10YR2/2 黒褐色土 | ローム粒 (φ 1~5mm) 1%。 |
| 3層 10YR3/2 黒褐色土 | ローム粒 (φ 1~2mm) 1%。 |
| 4層 10YR2/3 黒褐色土 | |

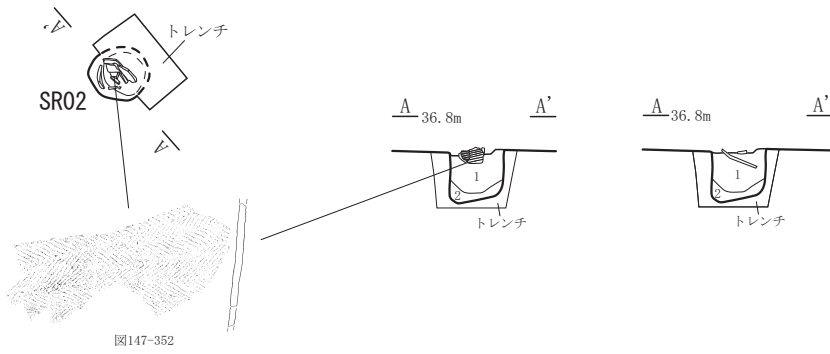


図147-352

- SR02**
- | | |
|---------------------------------|---------------------|
| 1層 10YR2/3 黒褐色土と10YR4/6褐色土の混合層。 | ローム粒 (φ 1~25mm) 3%。 |
| 2層 10YR3/4 暗褐色土と10YR4/4褐色土の混合層。 | ローム粒 (φ 1~20mm) 1%。 |

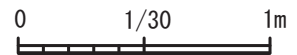


図116 埋設土器遺構

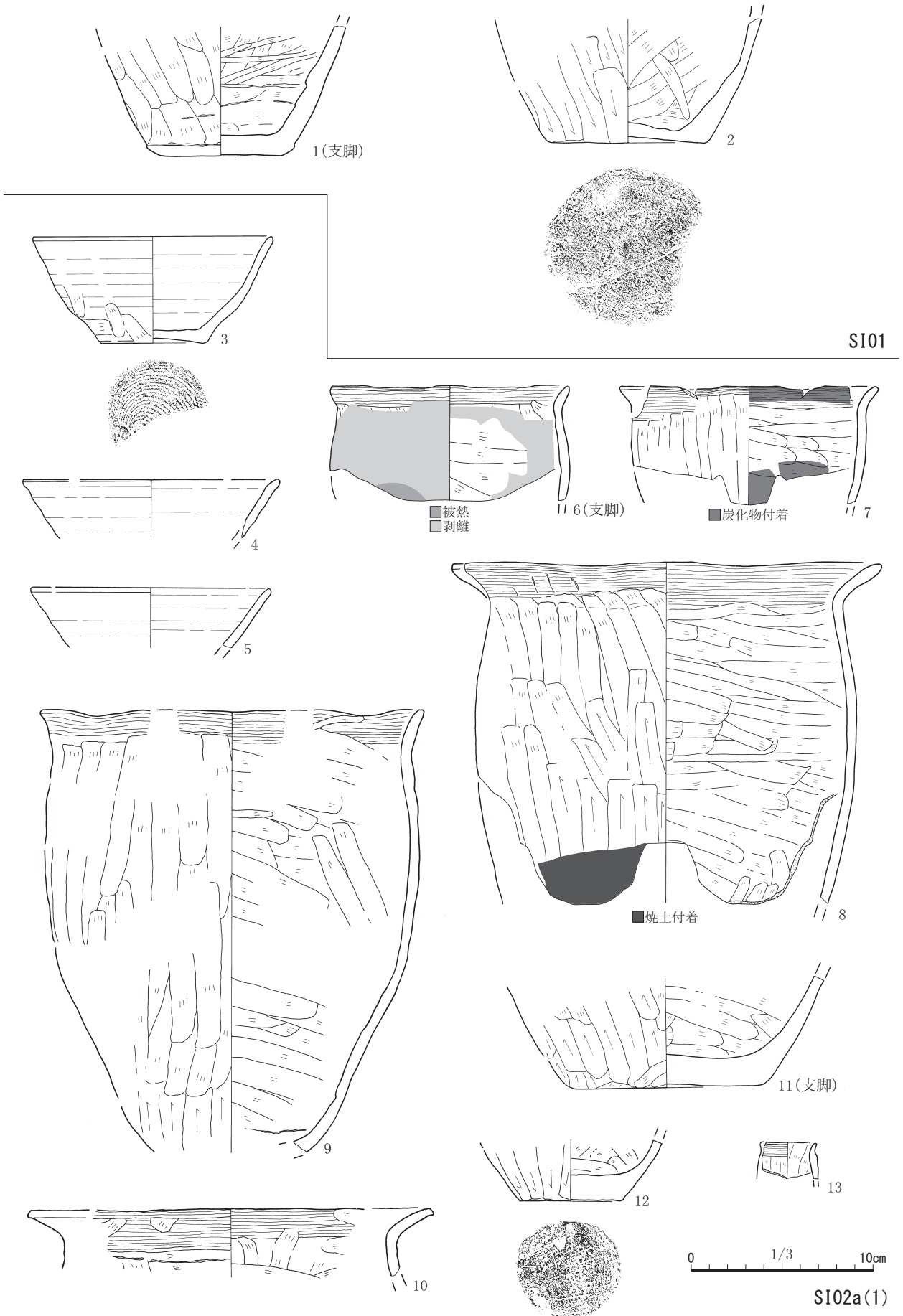


図117 第1号豎穴建物跡・第2号a豎穴建物跡(1) 出土遺物

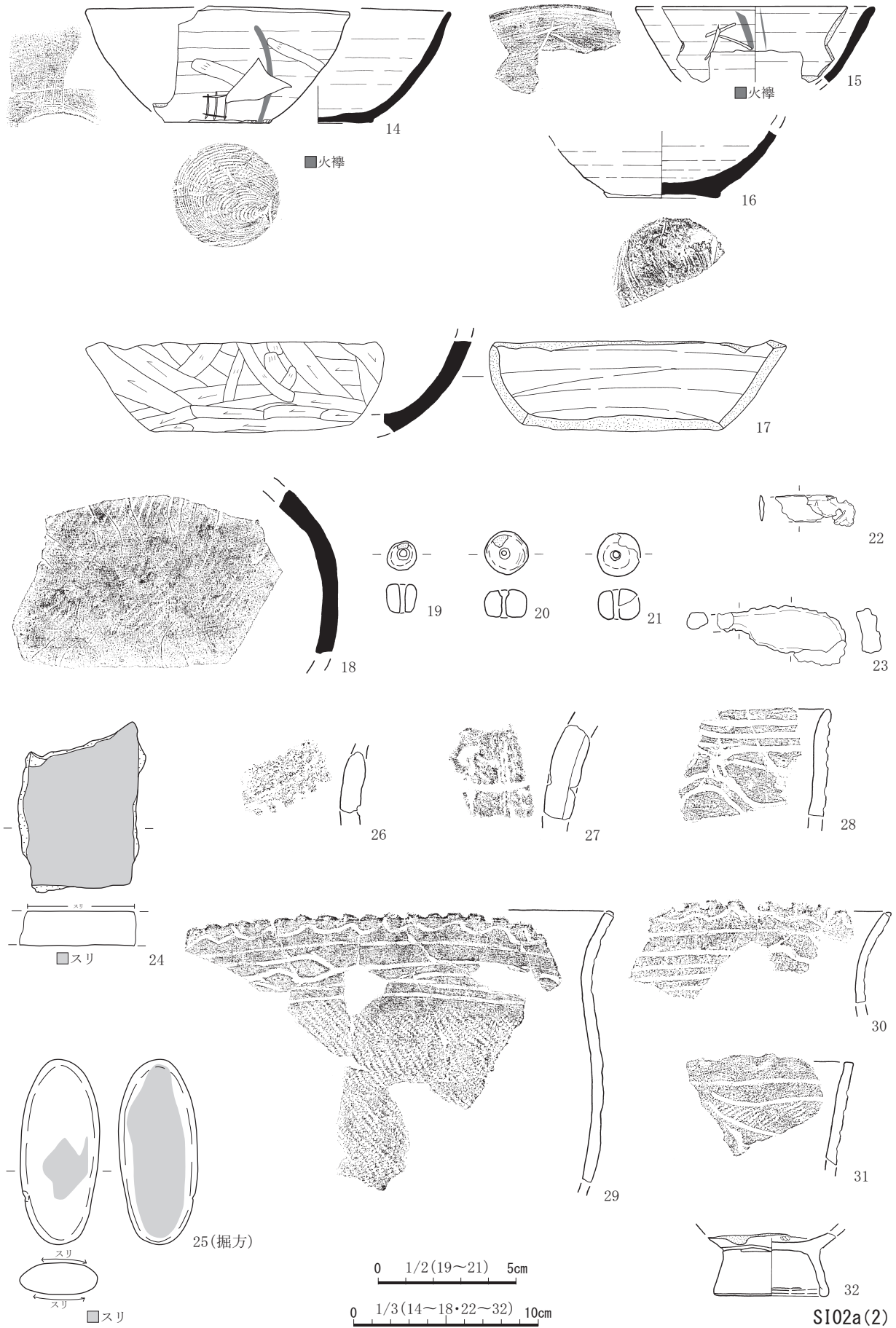


図118 第2号a竪穴建物跡(2) 出土遺物

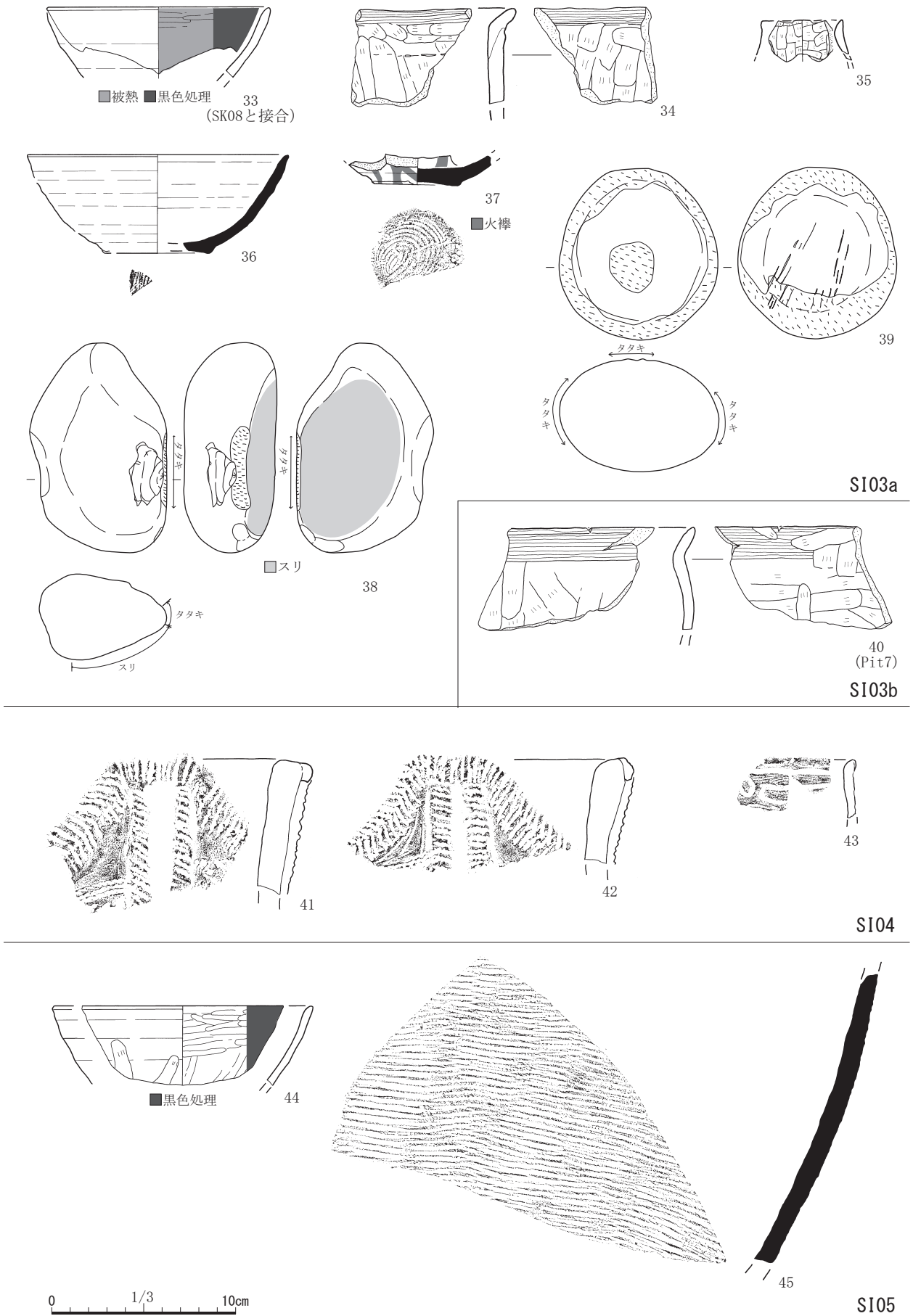


図119 第3号a竪穴建物跡・第3号b竪穴建物跡・第4号竪穴建物跡・第5号竪穴建物跡 出土遺物

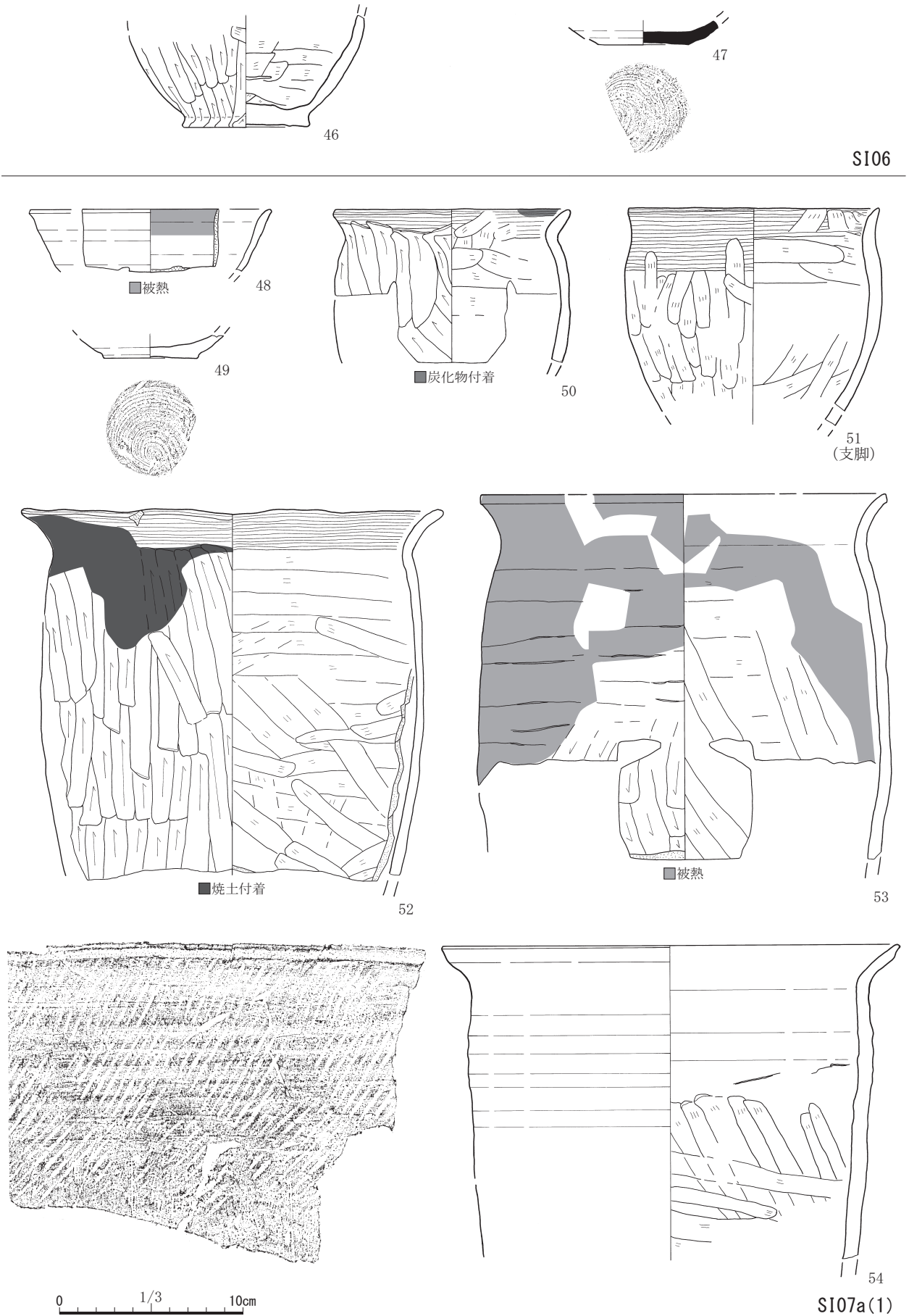


図120 第6号竪穴建物跡・第7号a竪穴建物跡(1) 出土遺物

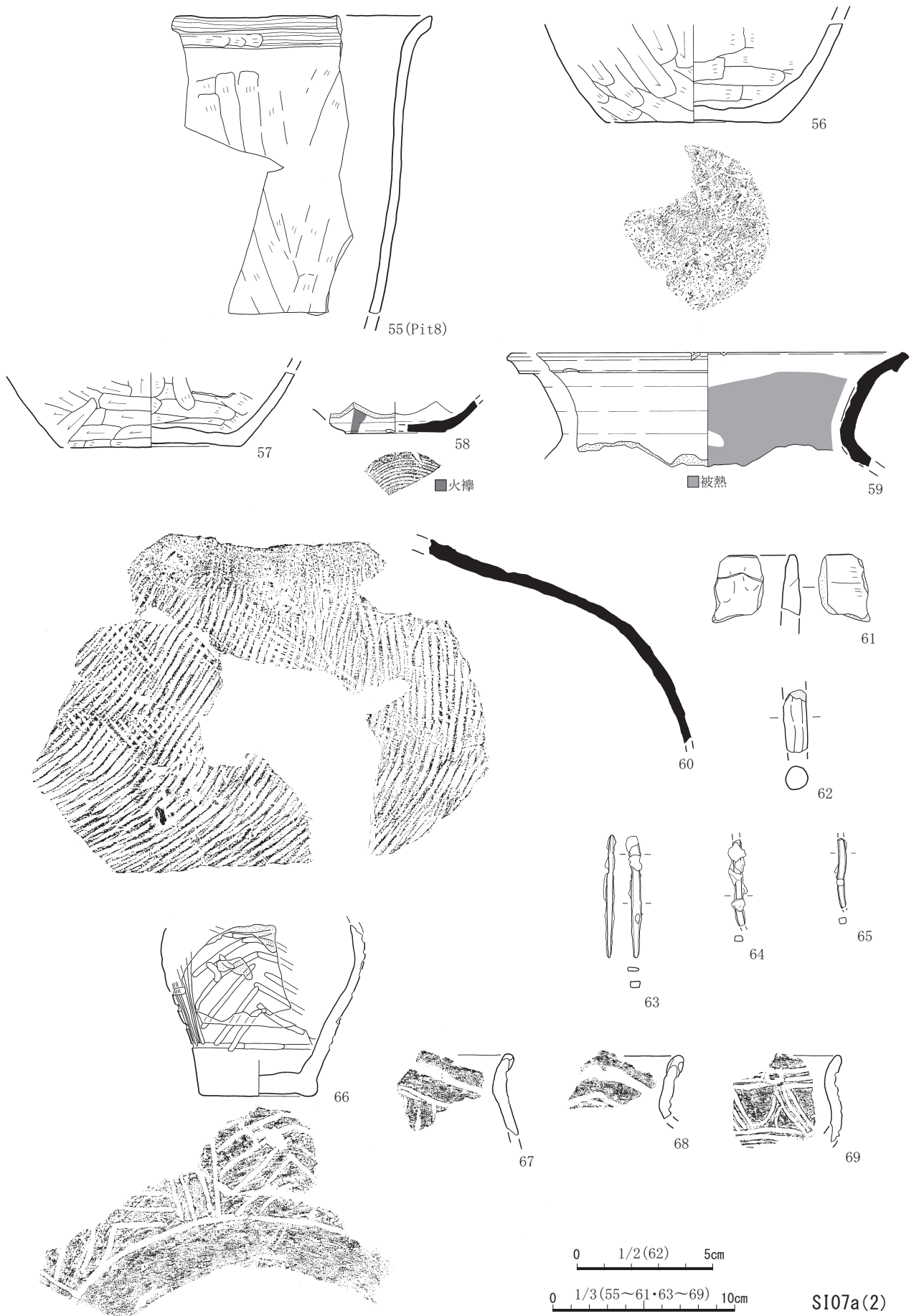


图121 第7号a竖穴建物跡(2) 出土遺物

農道31号
下石川平野遺跡

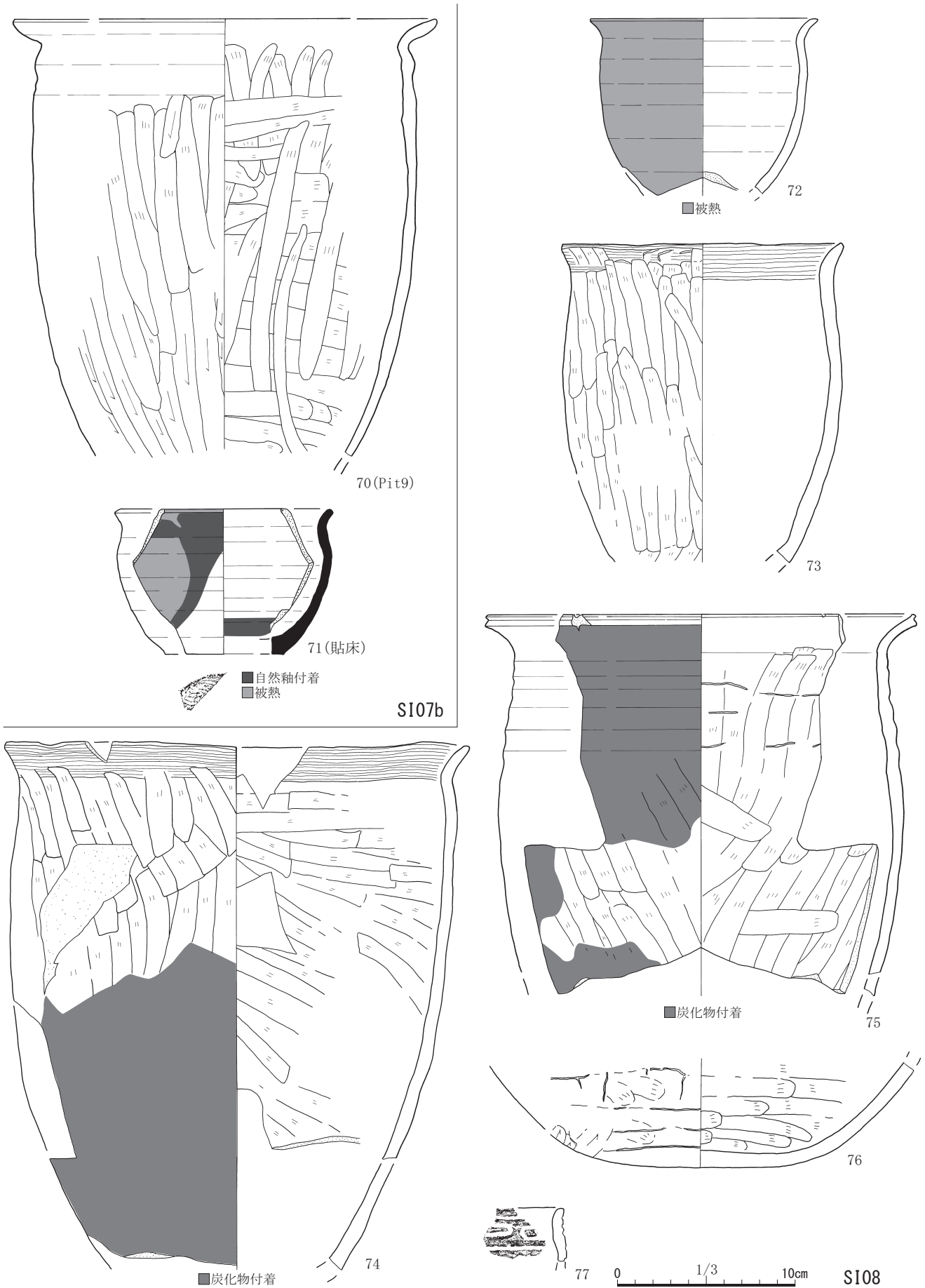


图122 第7号b竖穴建物跡・第8号竖穴建物跡 出土遺物



S109

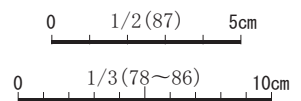


图123 第9号竖穴建物跡 出土遺物

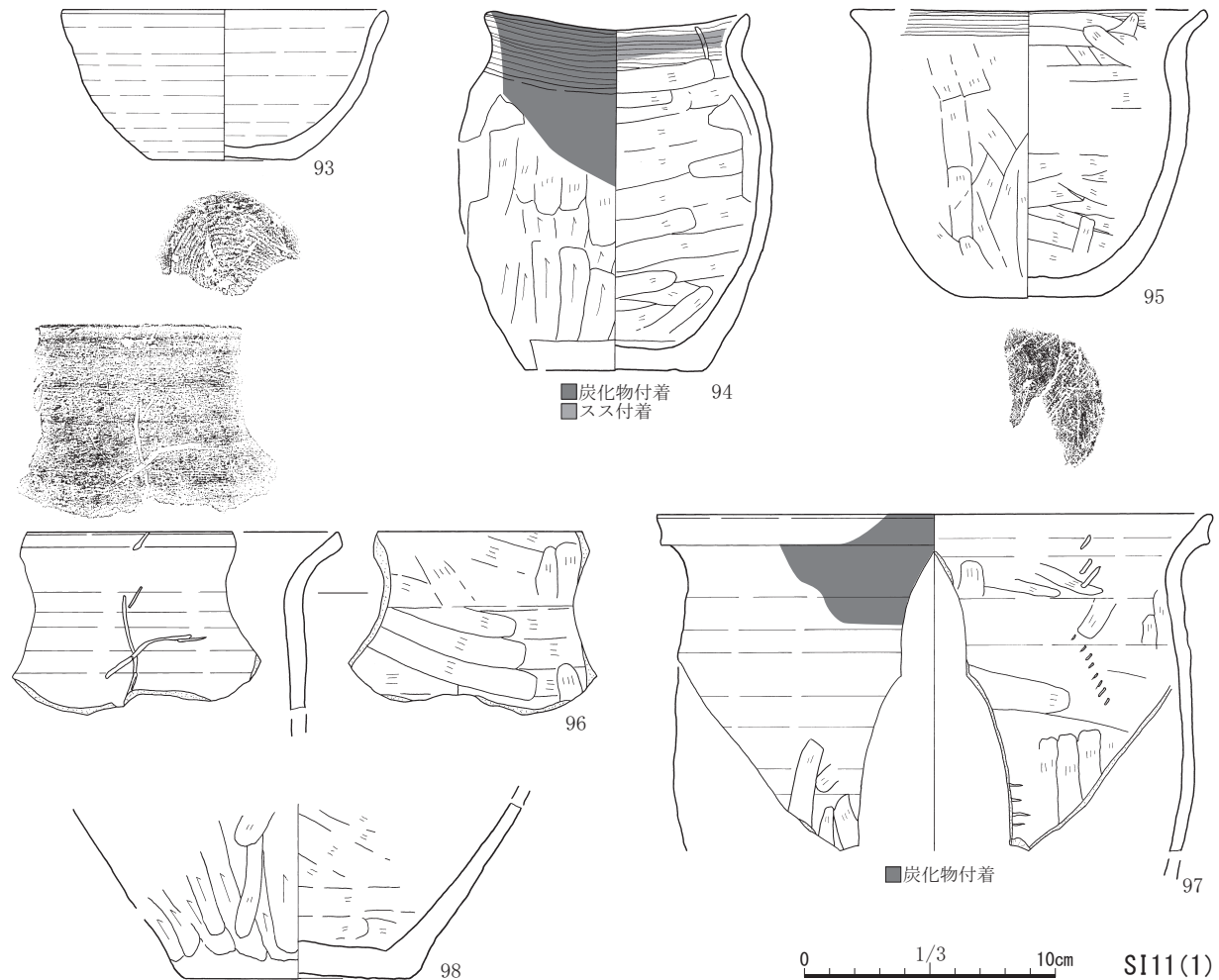
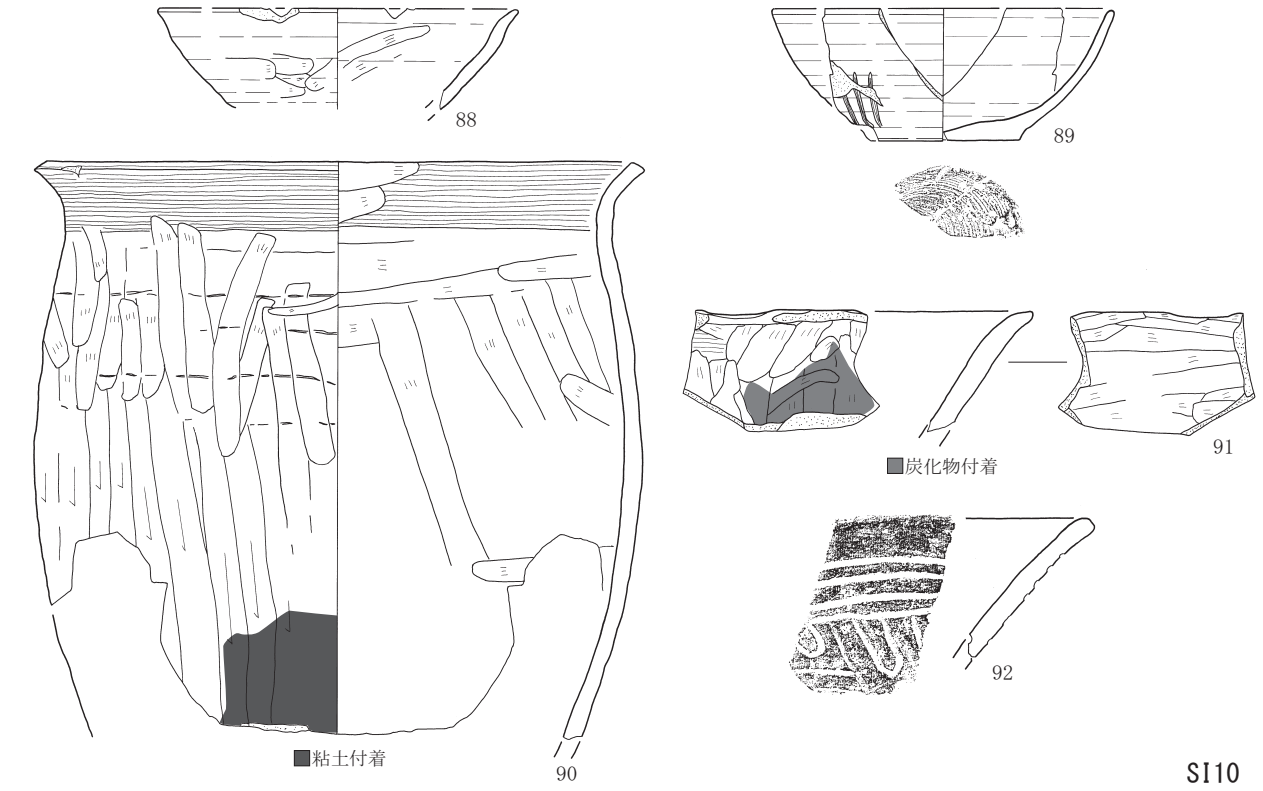


図124 第10号竪穴建物跡・第11号竪穴建物跡（1） 出土遺物

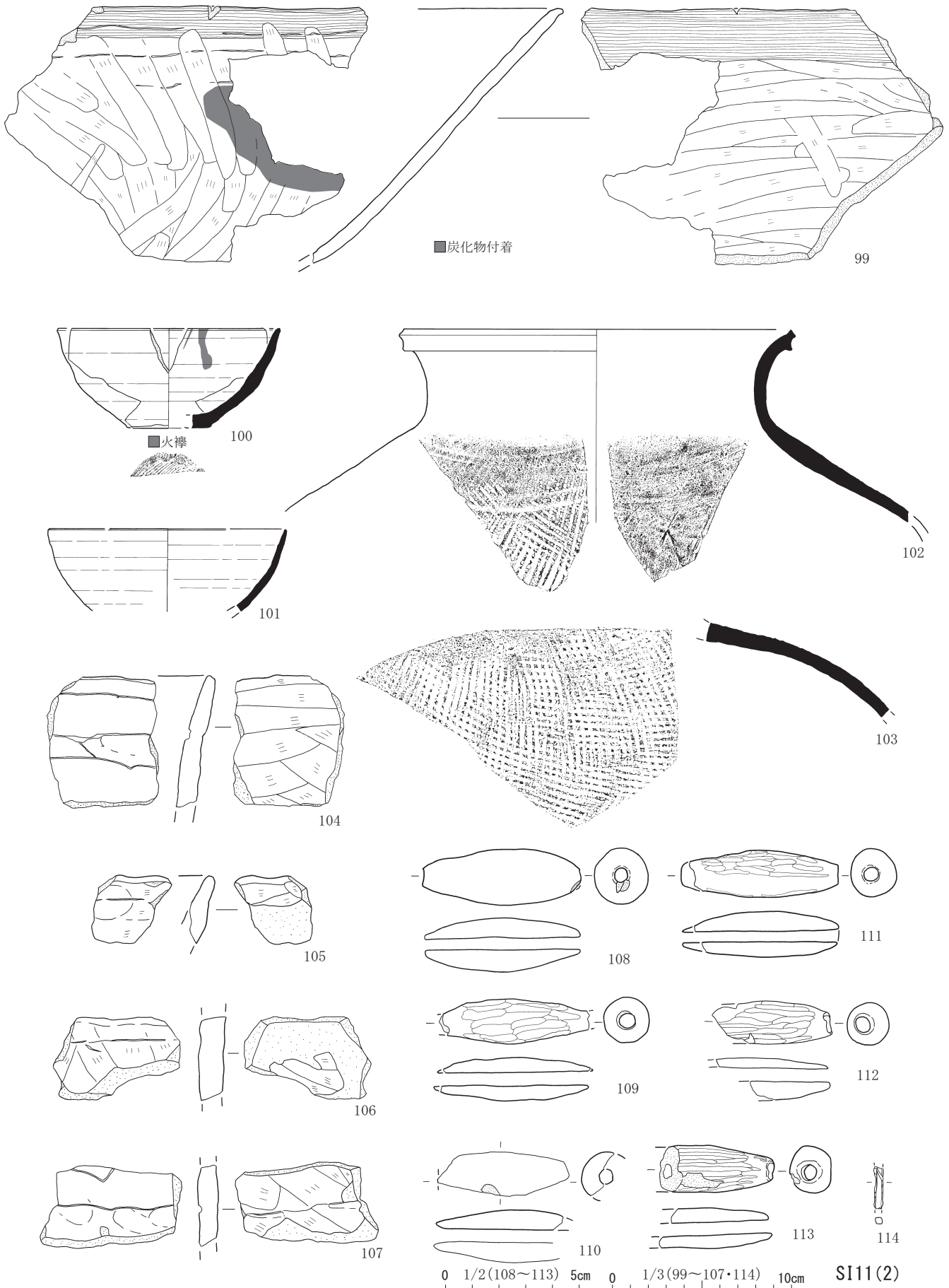
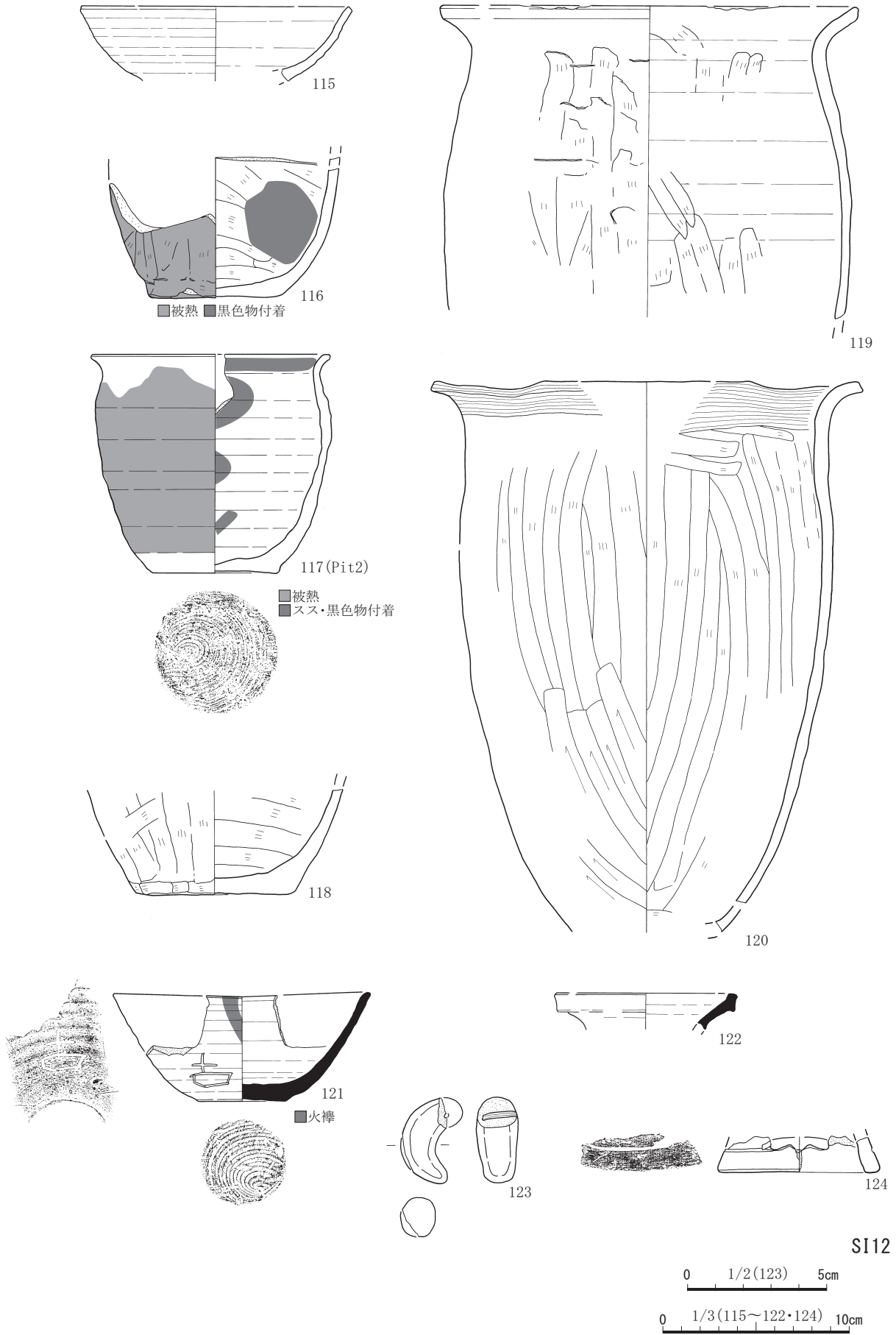


图125 第11号竖穴建物跡(2) 出土遺物



農道31号
下石川平野遺跡

図126 第12号竪穴建物跡 出土遺物

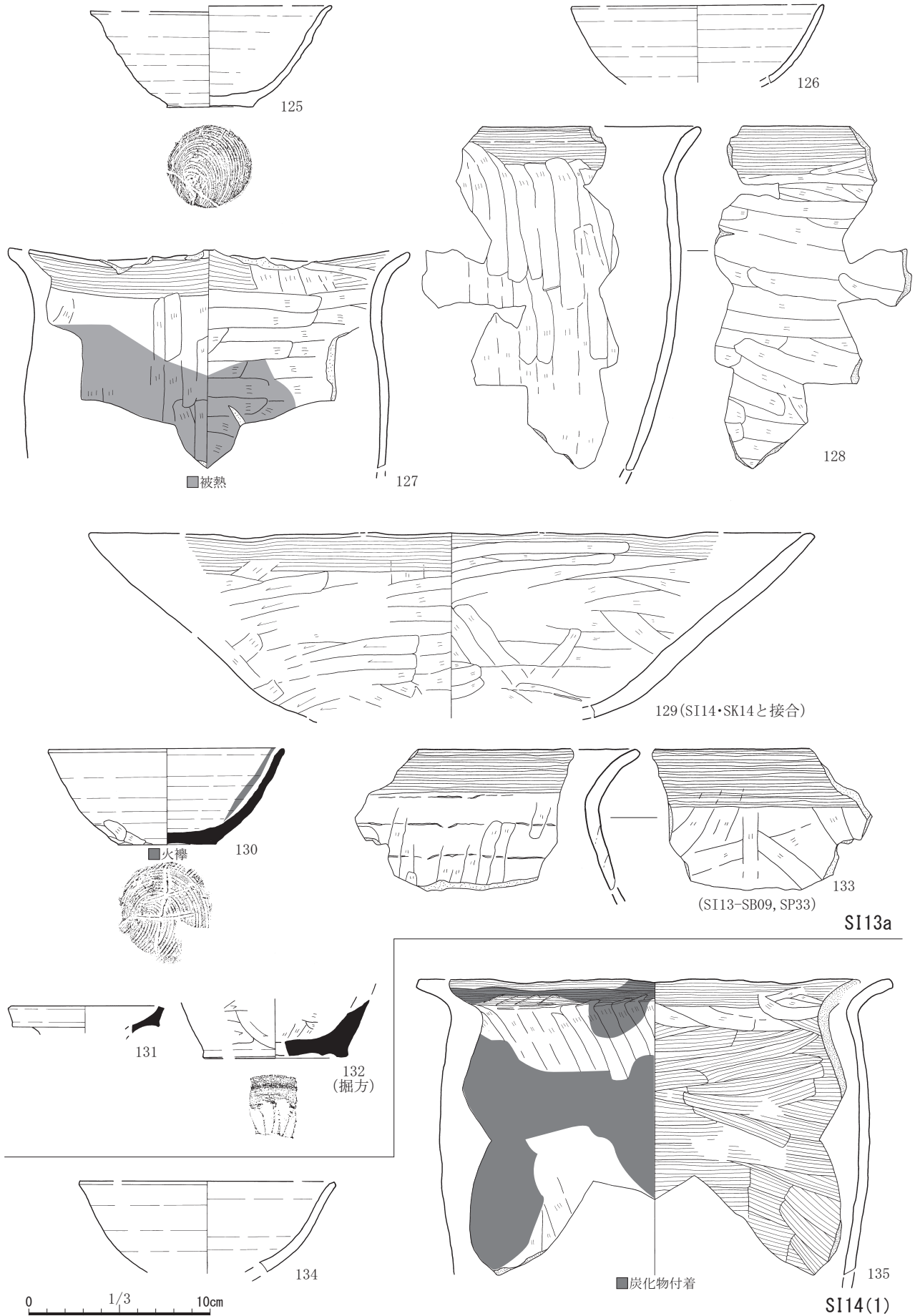
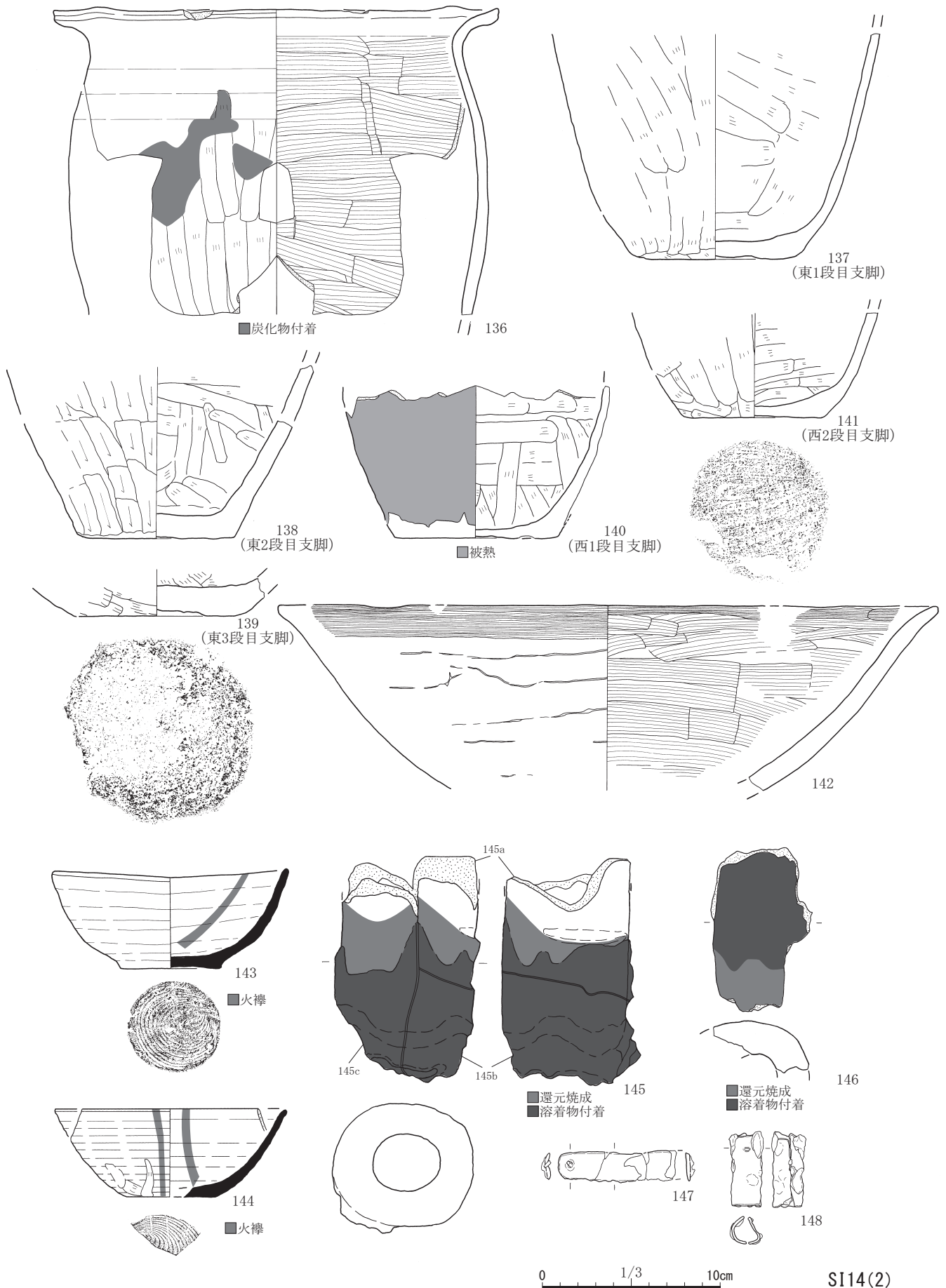


図127 第13号a竪穴建物跡・第14号竪穴建物跡(1) 出土遺物



農道31号
下石川平野遺跡

図128 第14号竪穴建物跡 (2) 出土遺物

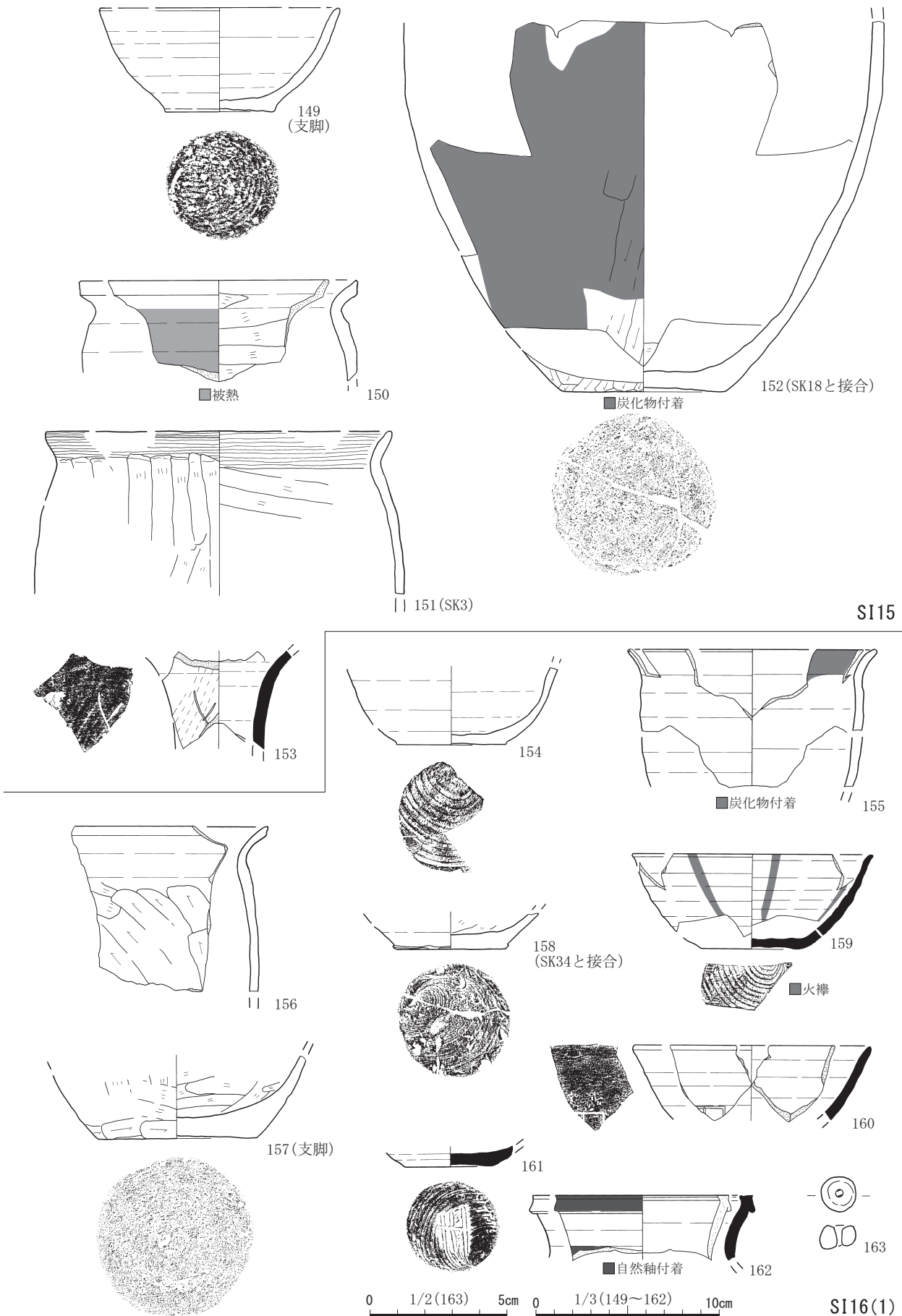
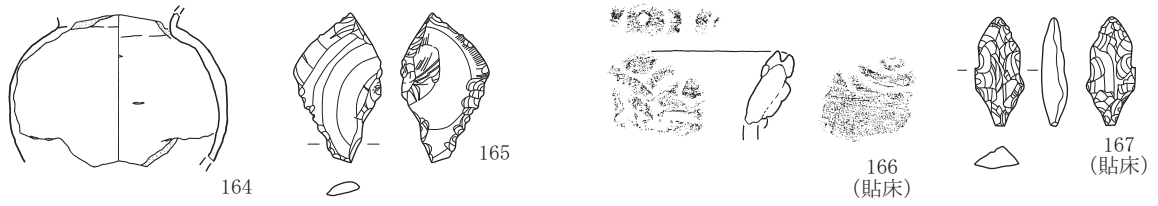
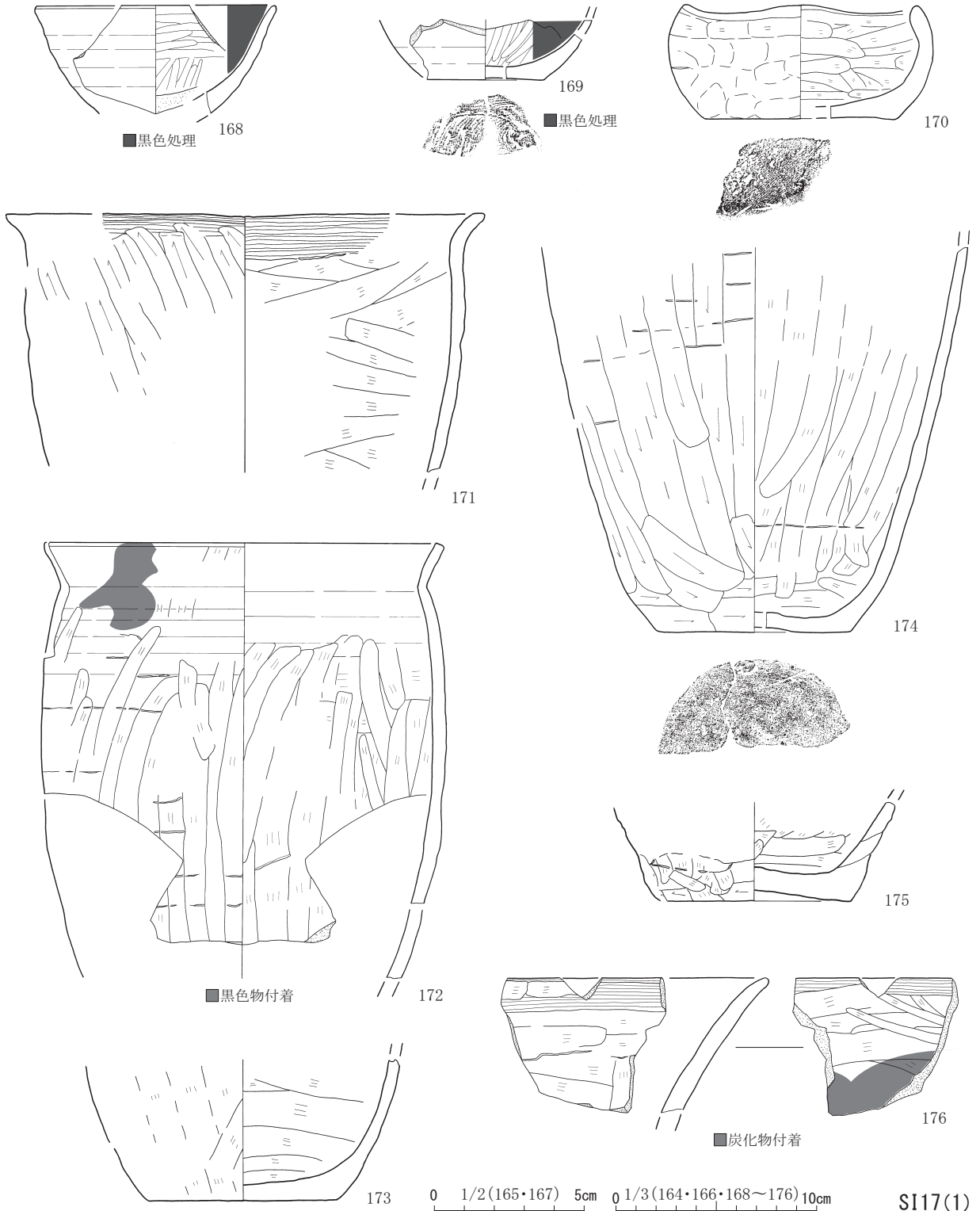


图129 第15号竖穴建物跡・第16号竖穴建物跡 (1) 出土遺物

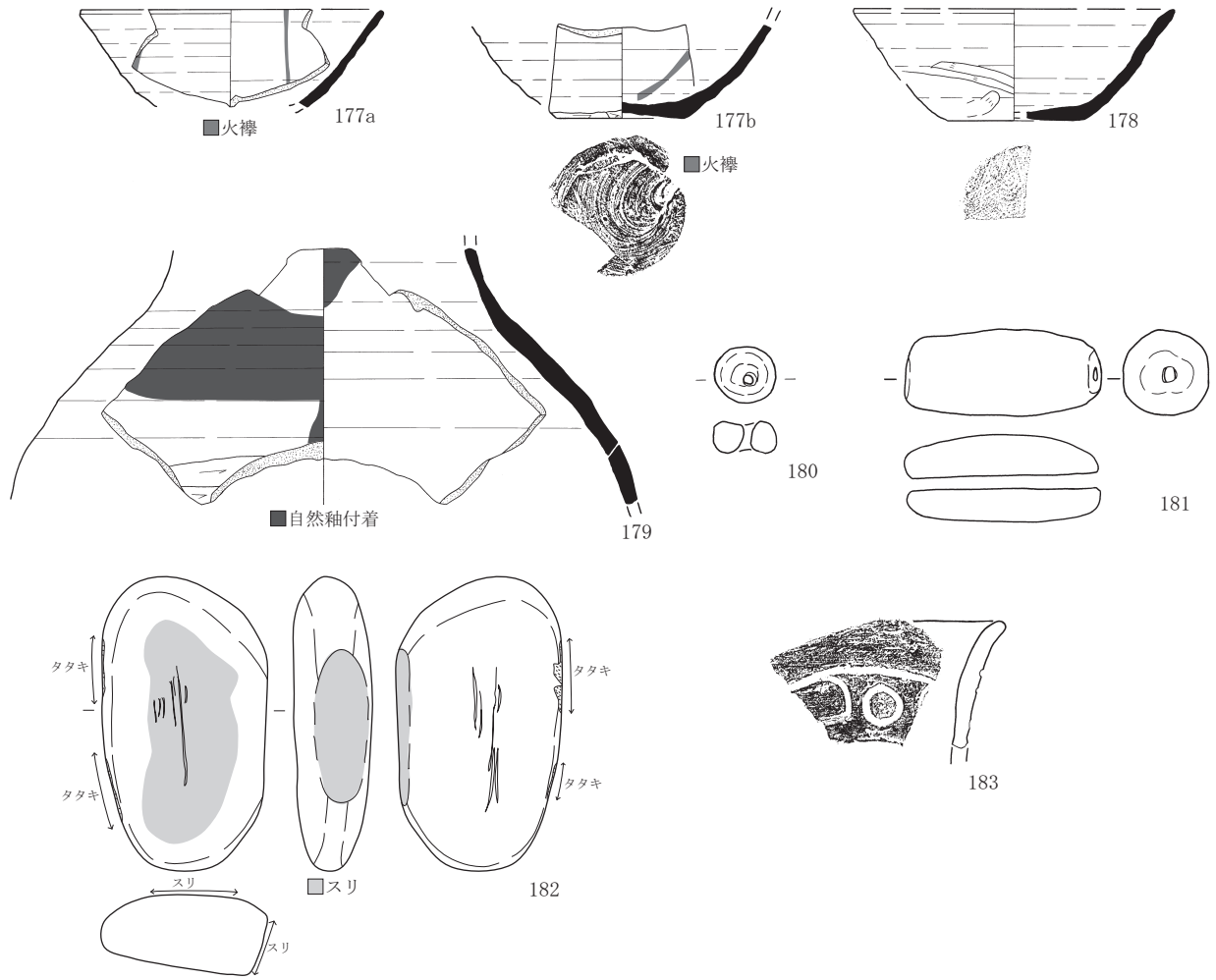


SI16(2)

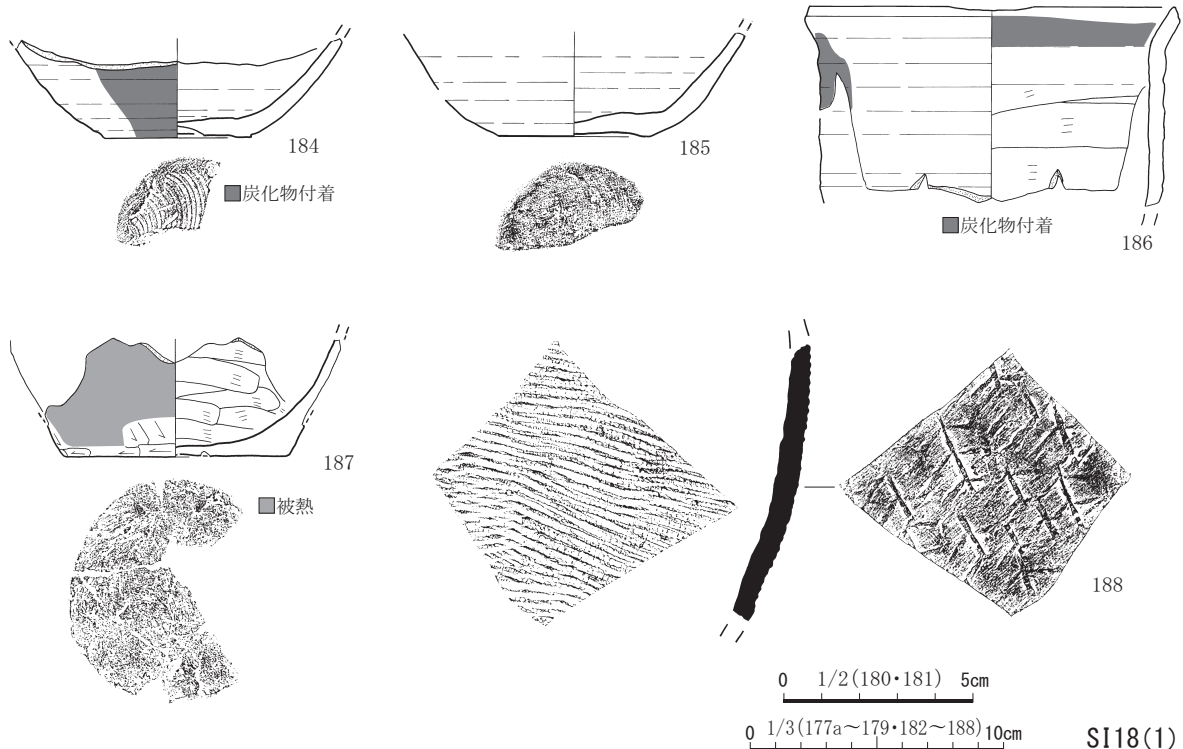


農道31号
下石川平野遺跡

図130 第16号竪穴建物跡(2)・第17号竪穴建物跡(1) 出土遺物

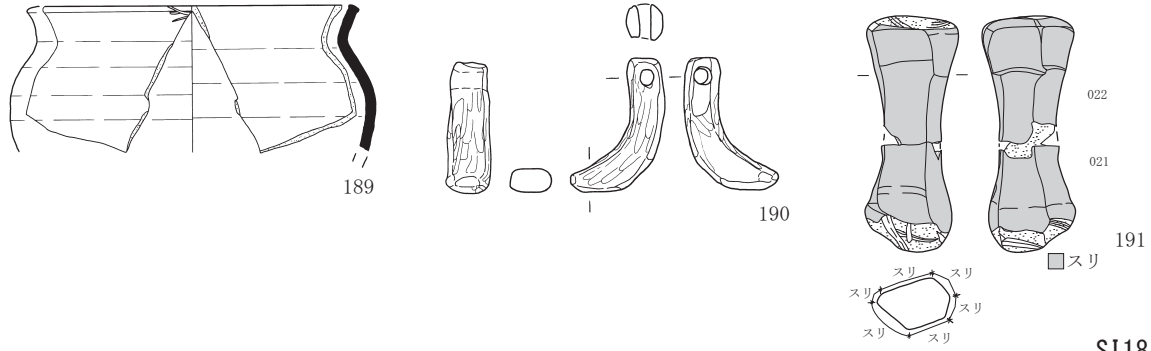


SI17(2)

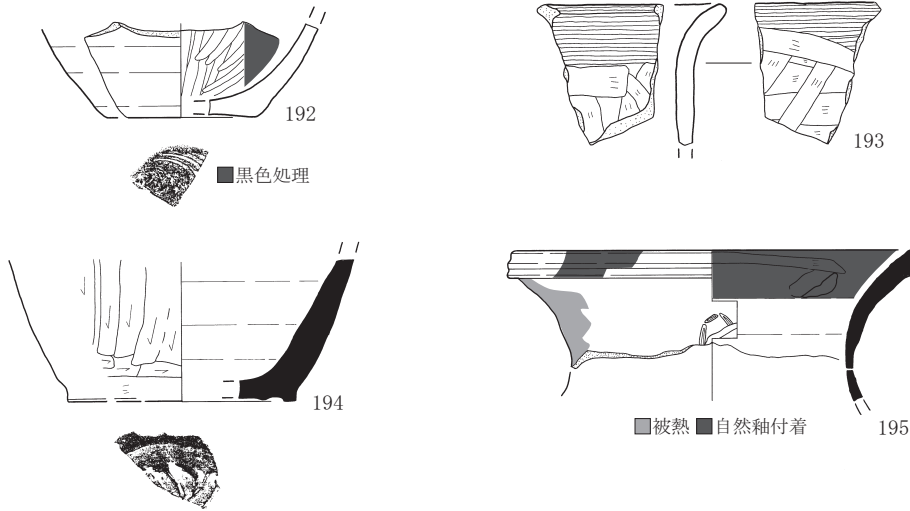


SI18(1)

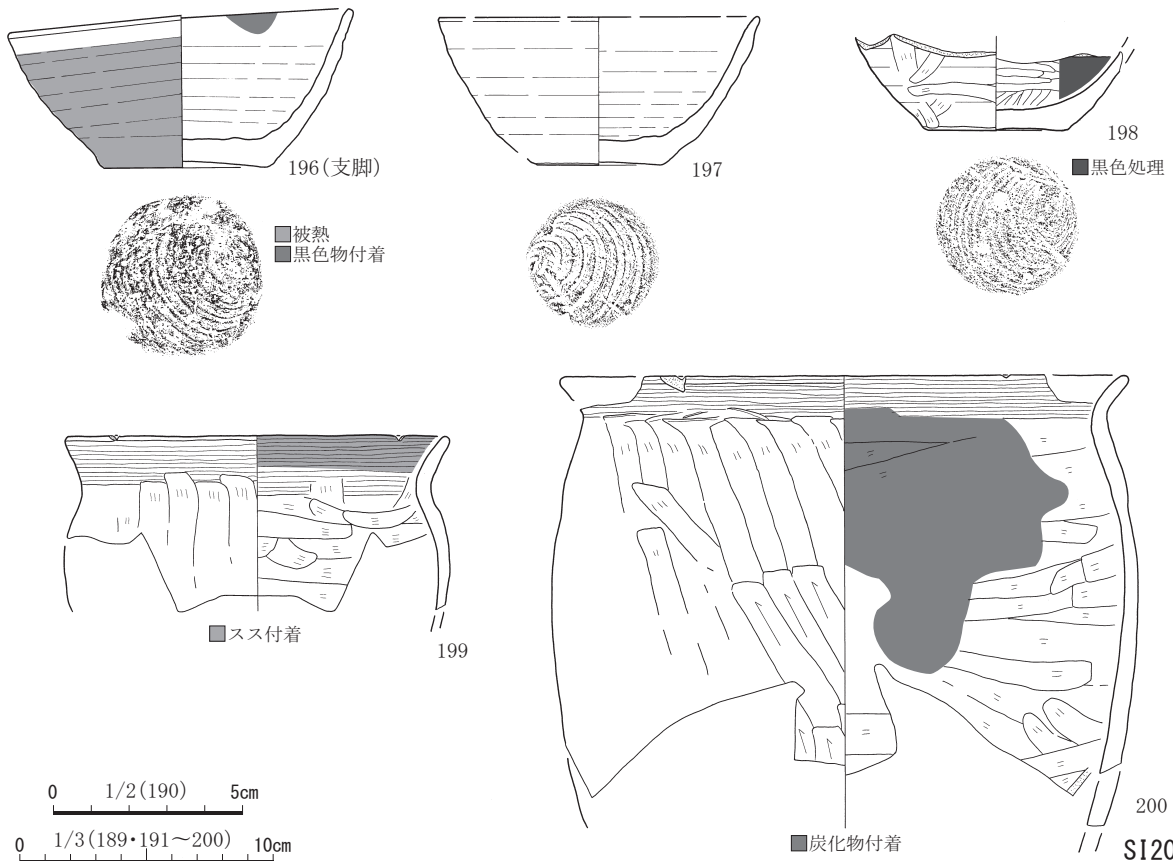
図131 第17号竪穴建物跡 (2)・第18号竪穴建物跡 (1) 出土遺物



SI18(2)



SI19



SI20(1)

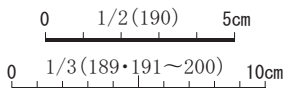
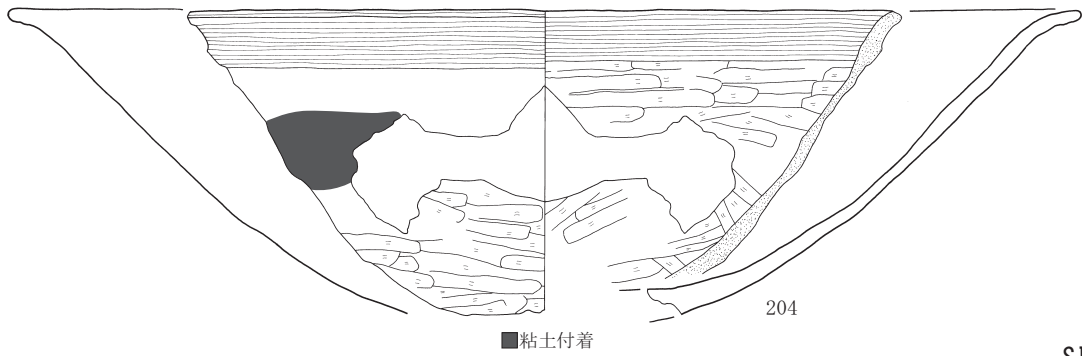
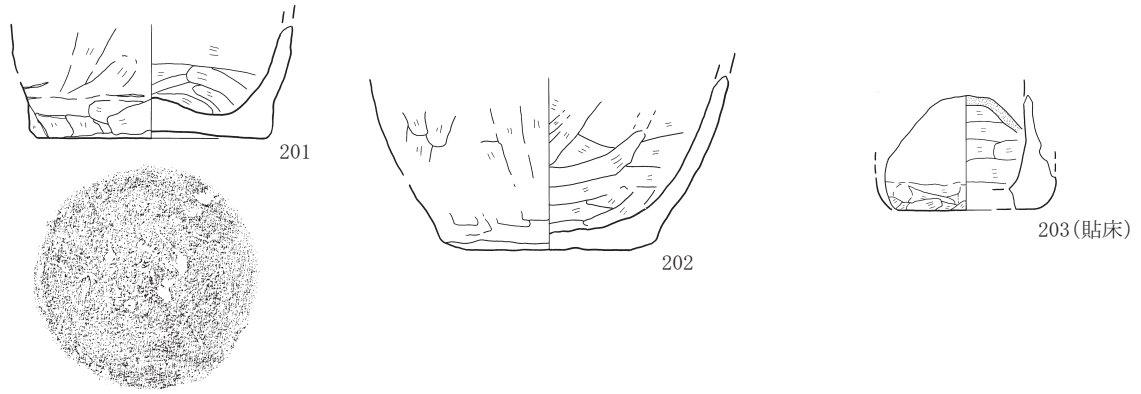
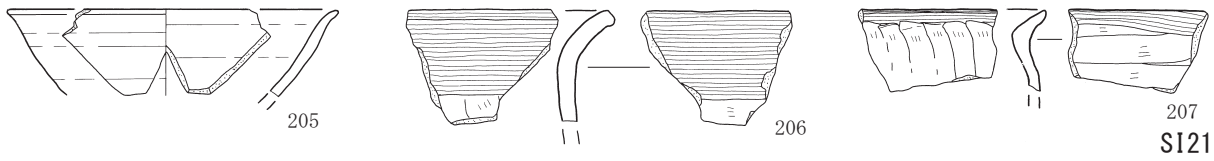


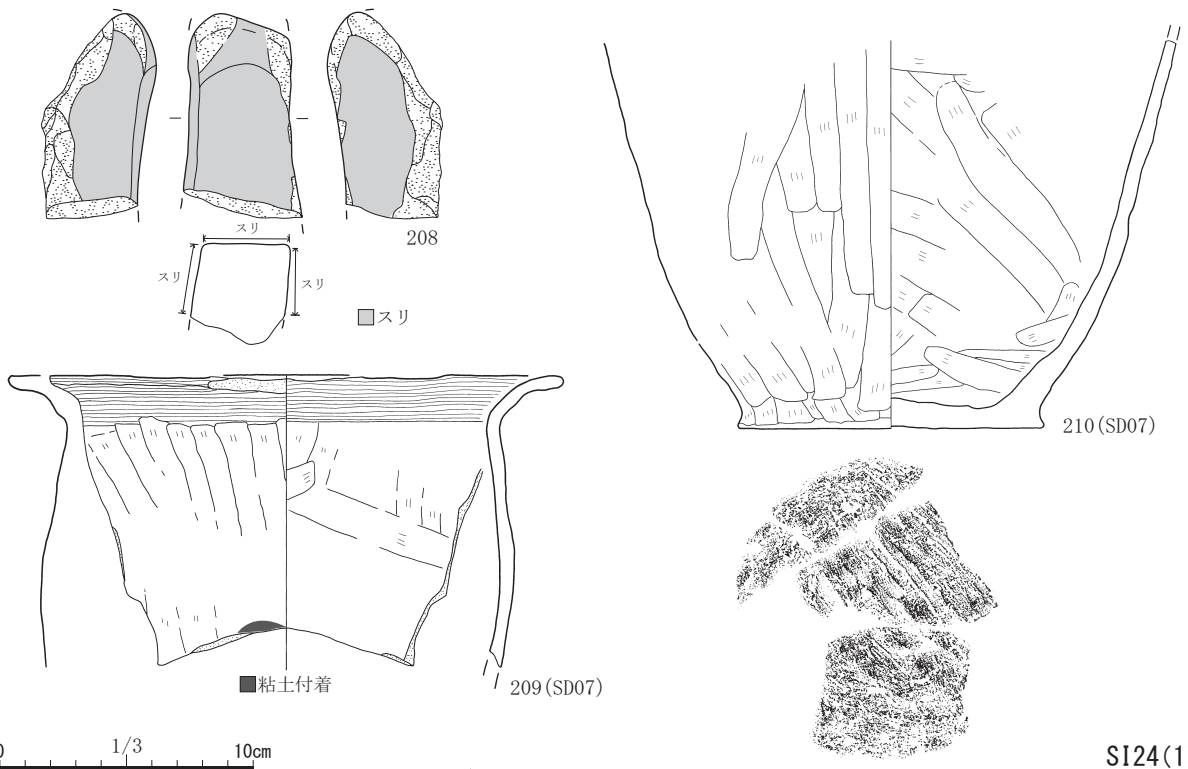
図132 第18号豎穴建物跡 (2)・第19号豎穴建物跡・第20号豎穴建物跡 (1) 出土遺物



SI20(2)

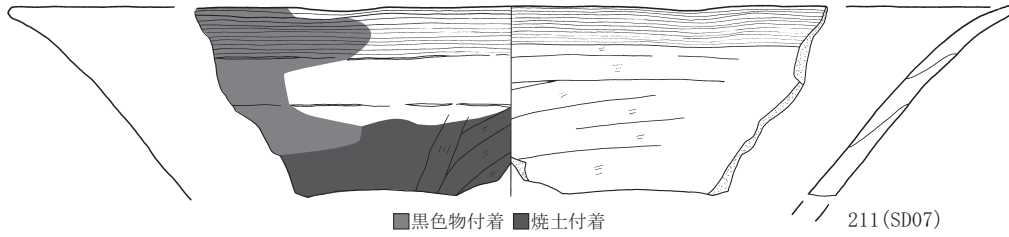


SI21

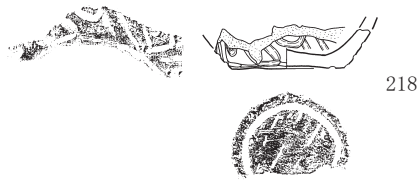
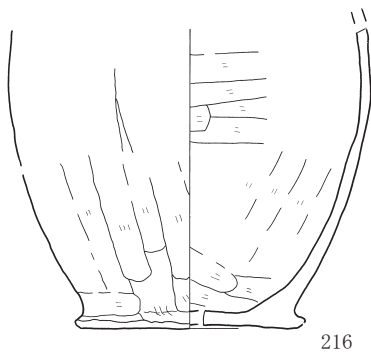
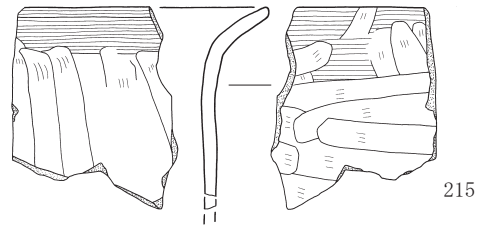
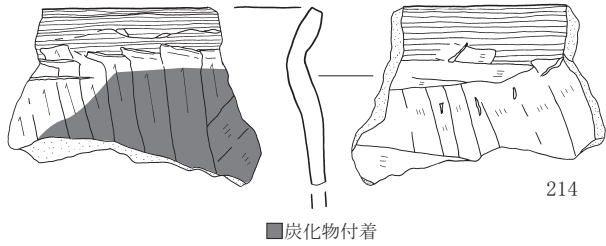
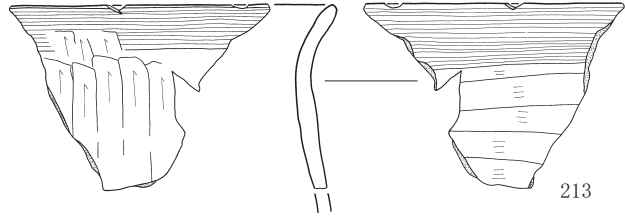
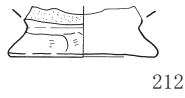


SI24(1)

図133 第20号竪穴建物跡 (2)・第21号竪穴建物跡・第24号竪穴建物跡 (1) 出土遺物



SI24(2)



SI26

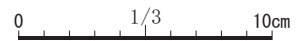


図134 第24号豎穴建物跡 (2)・第26号豎穴建物跡 出土遺物

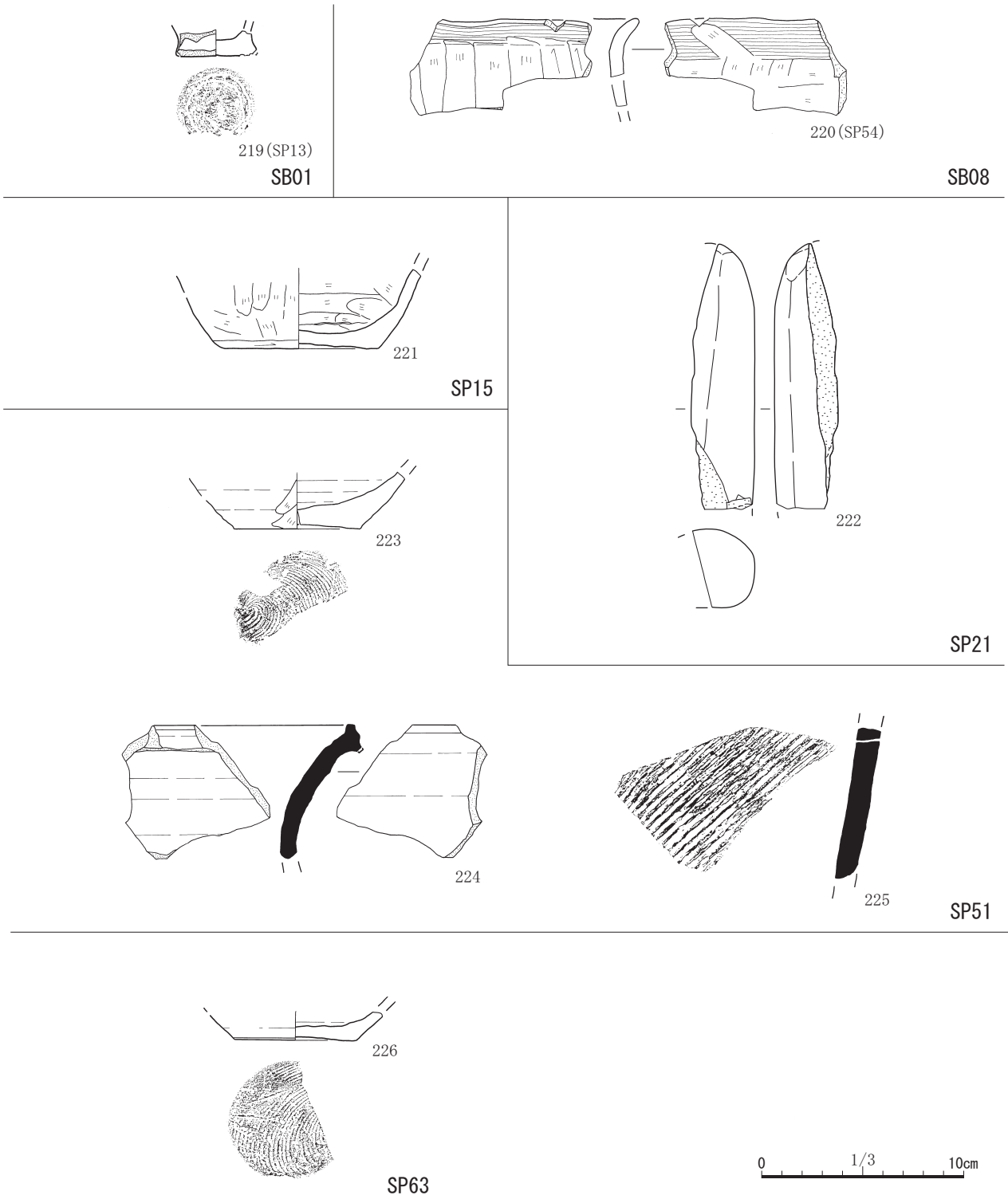


図135 第1号掘立柱建物跡・第8号掘立柱建物跡・柱穴 出土遺物

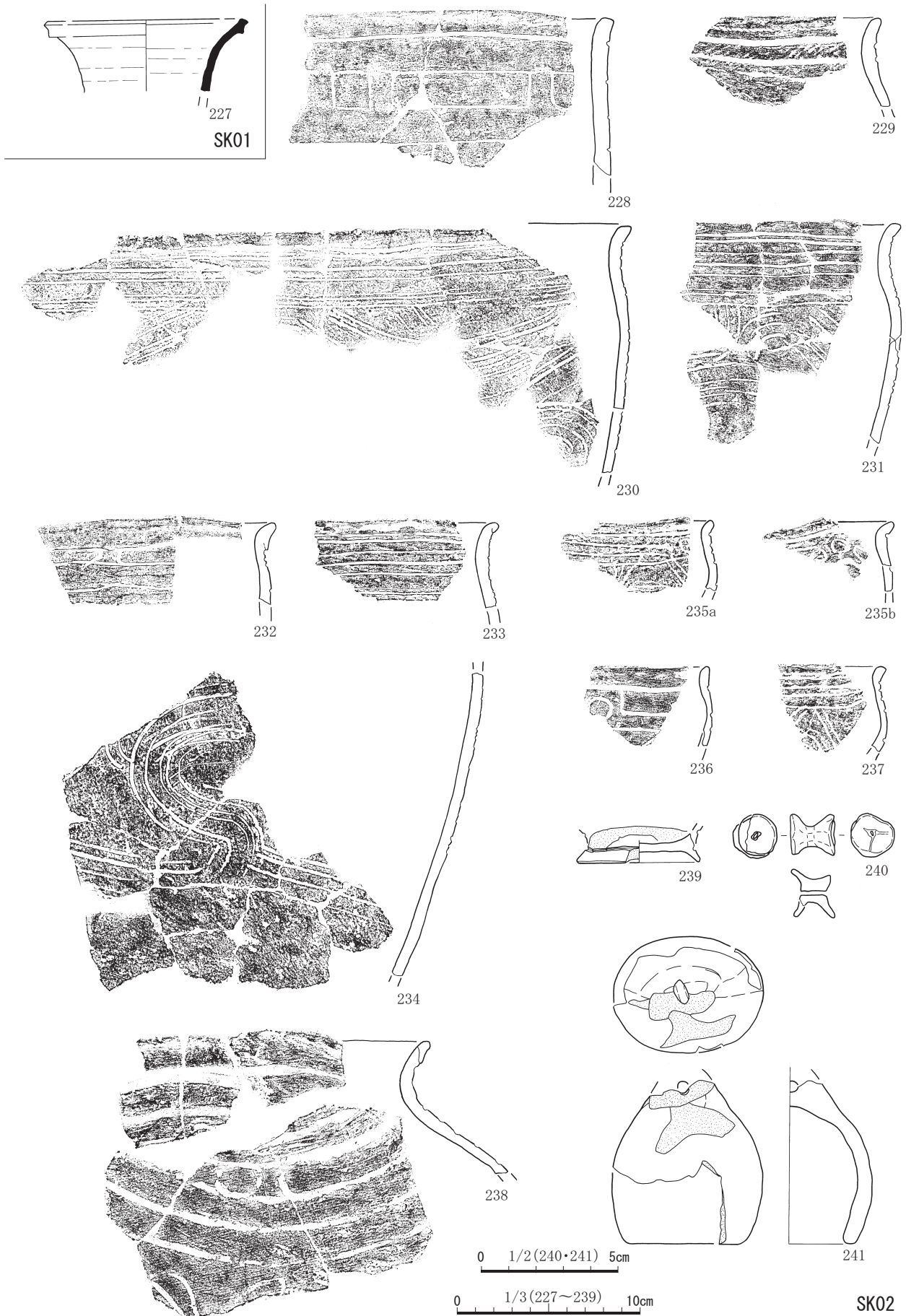
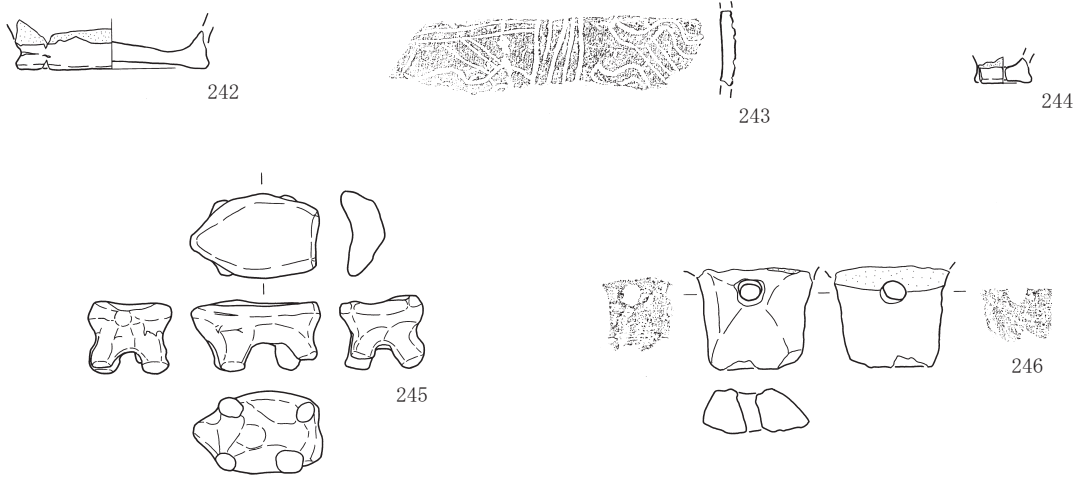
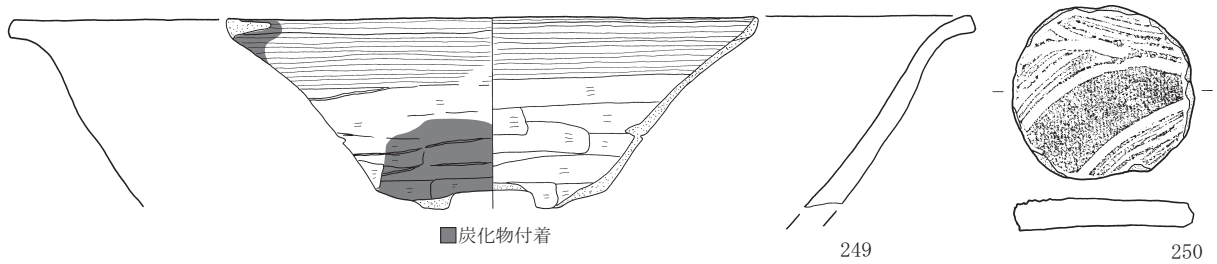
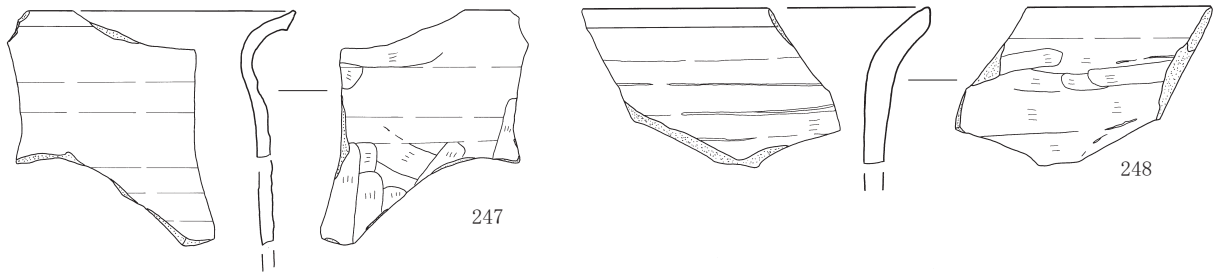


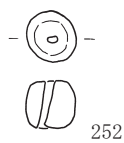
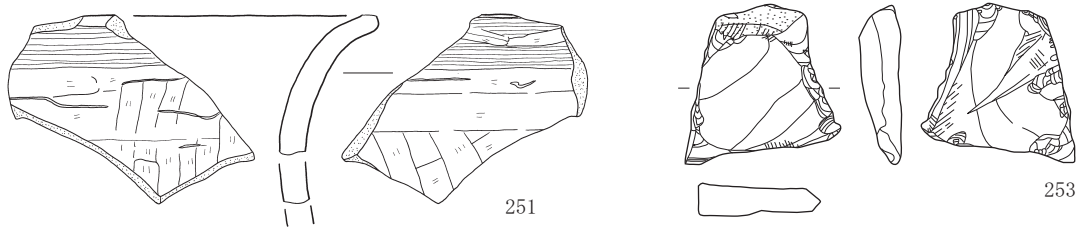
図136 土坑 出土遺物 (1)



SK03



SK04



SK06

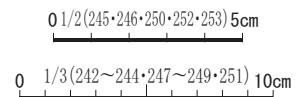


図137 土坑 出土遺物 (2)

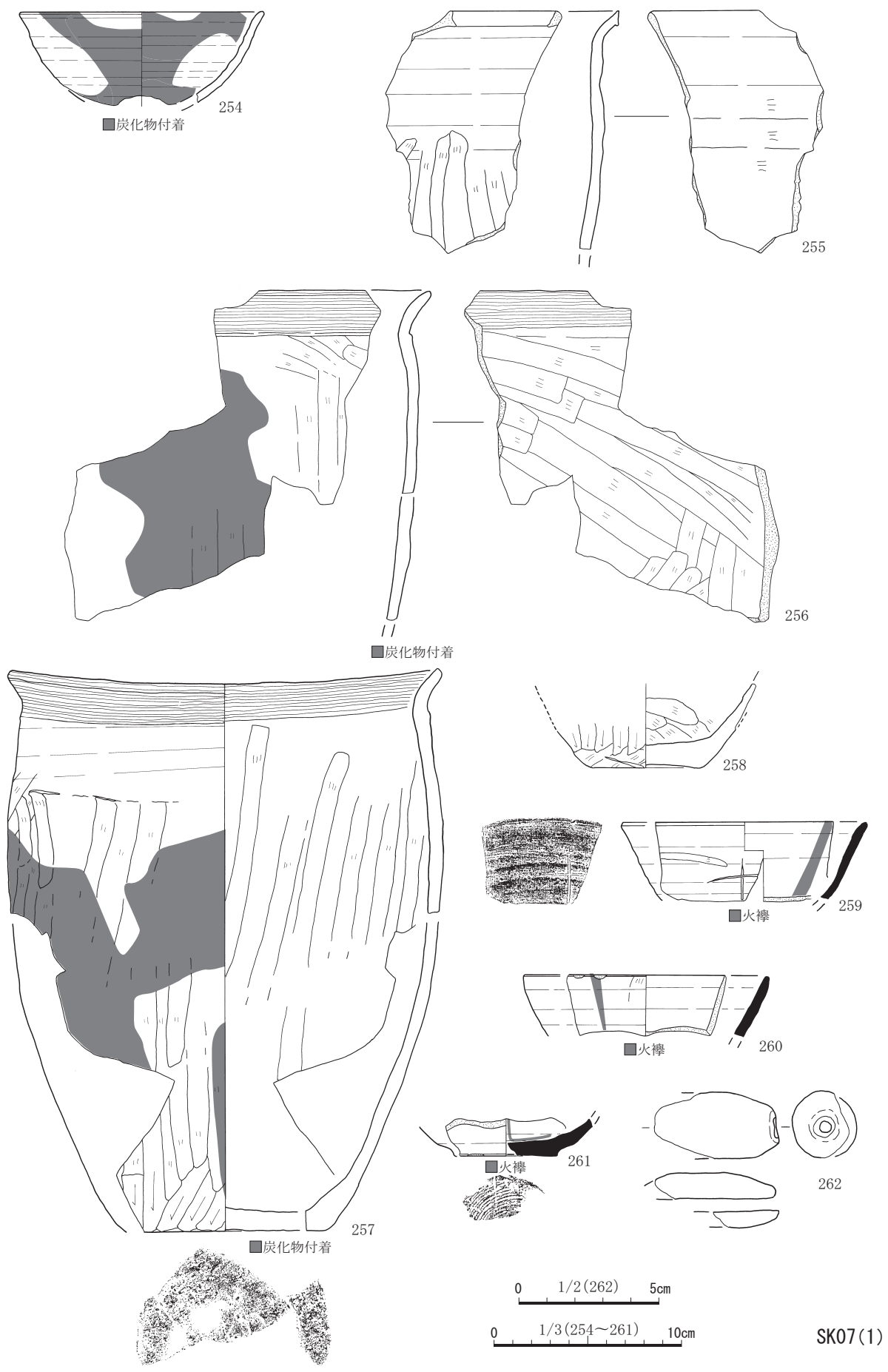


図138 土坑 出土遺物 (3)

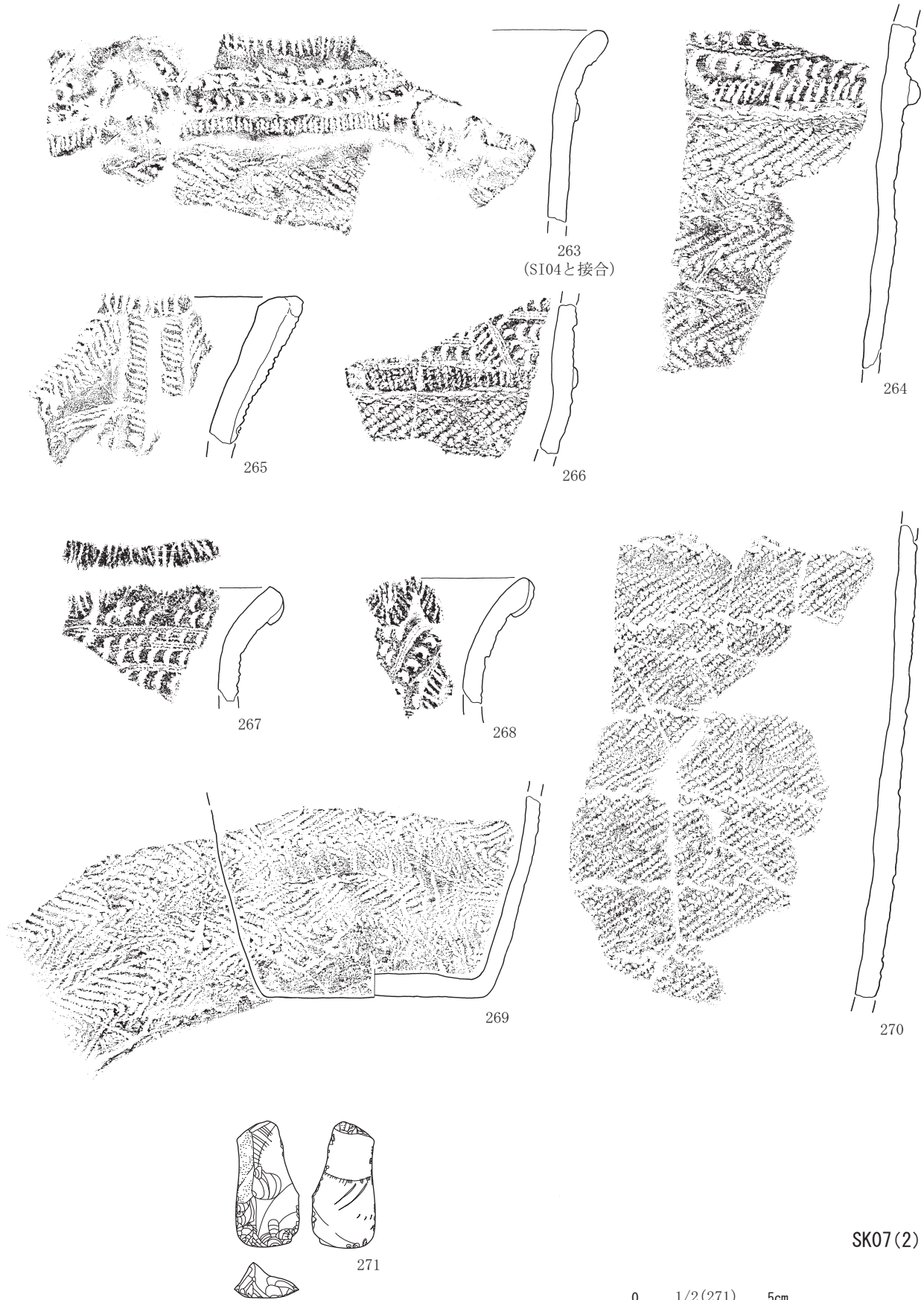


図139 土坑 出土遺物 (4)



272
SK08

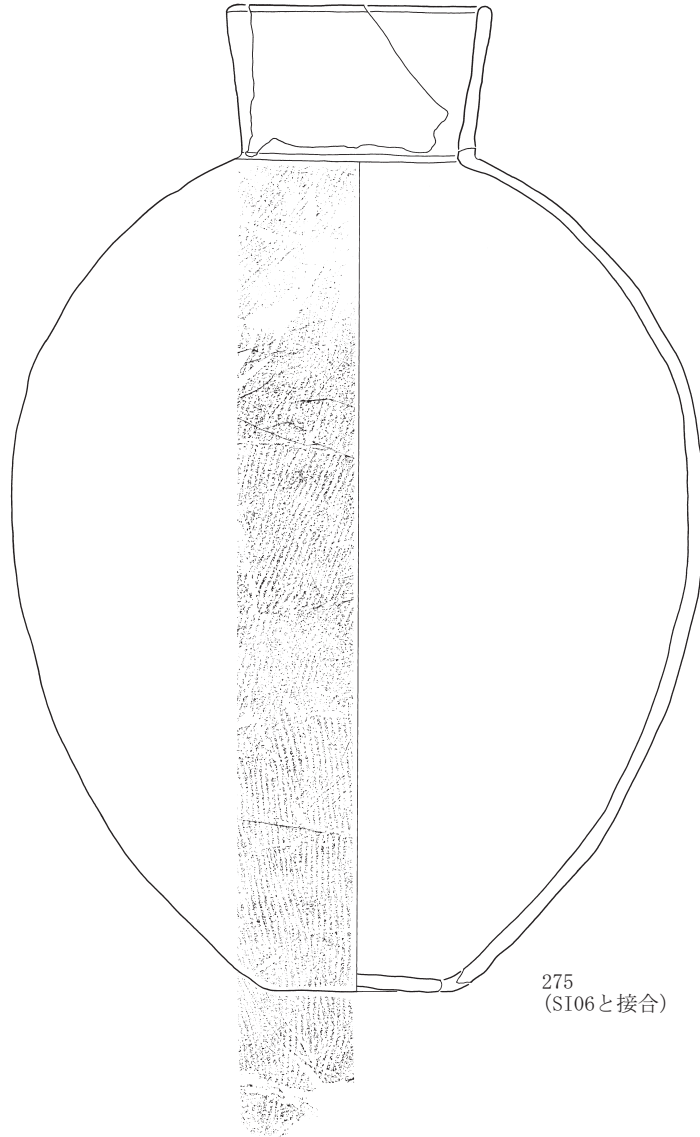


273
SK10

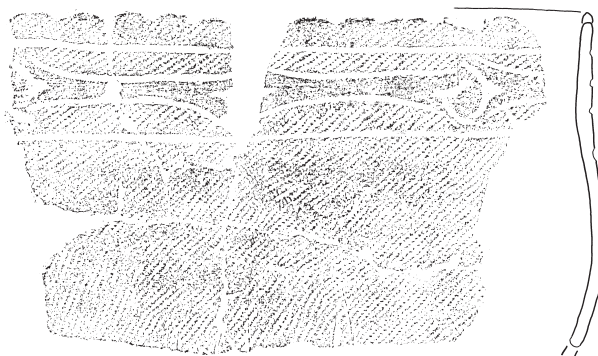


274

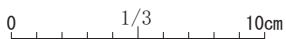
SK15



275
(SI06と接合)

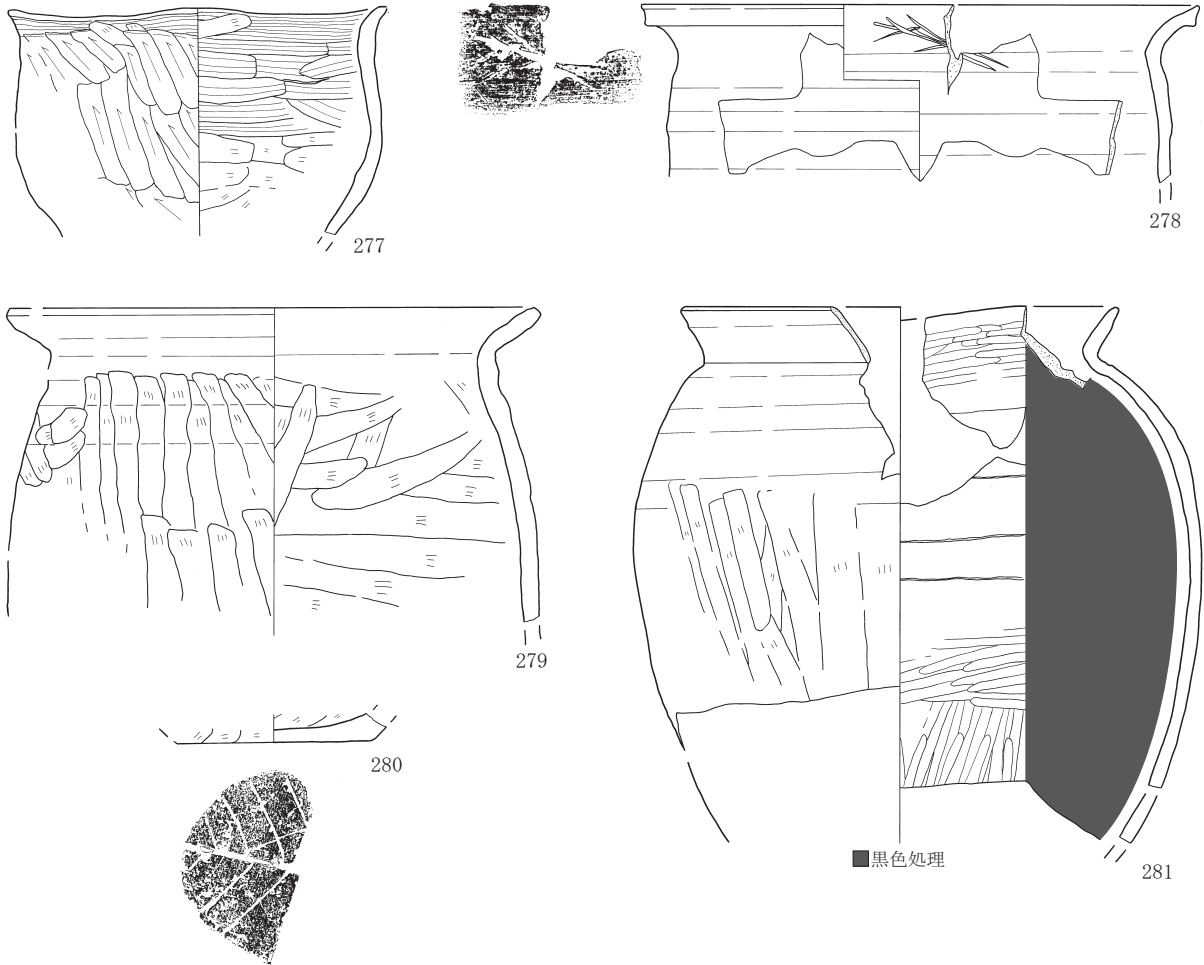


276

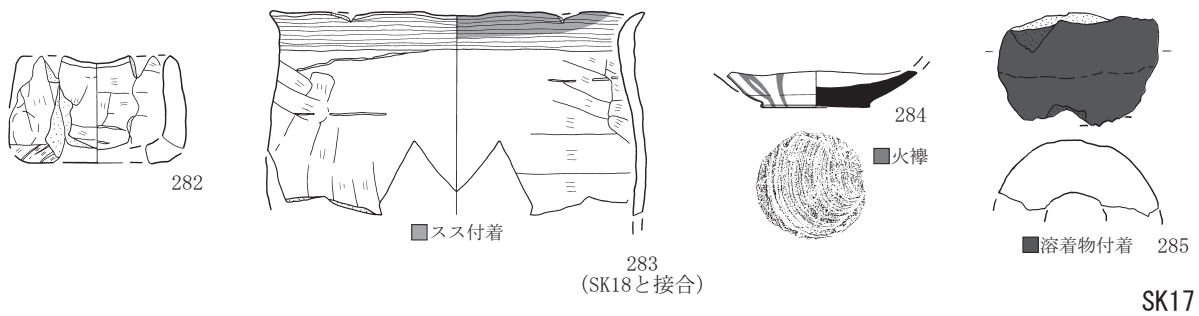


SK12

図140 土坑 出土遺物 (5)



SK16



SK17

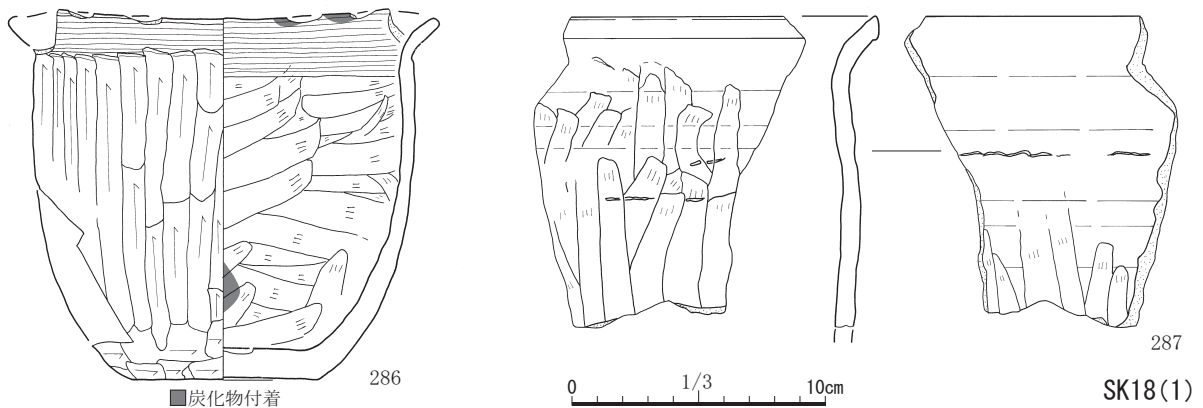


図141 土坑 出土遺物 (6)

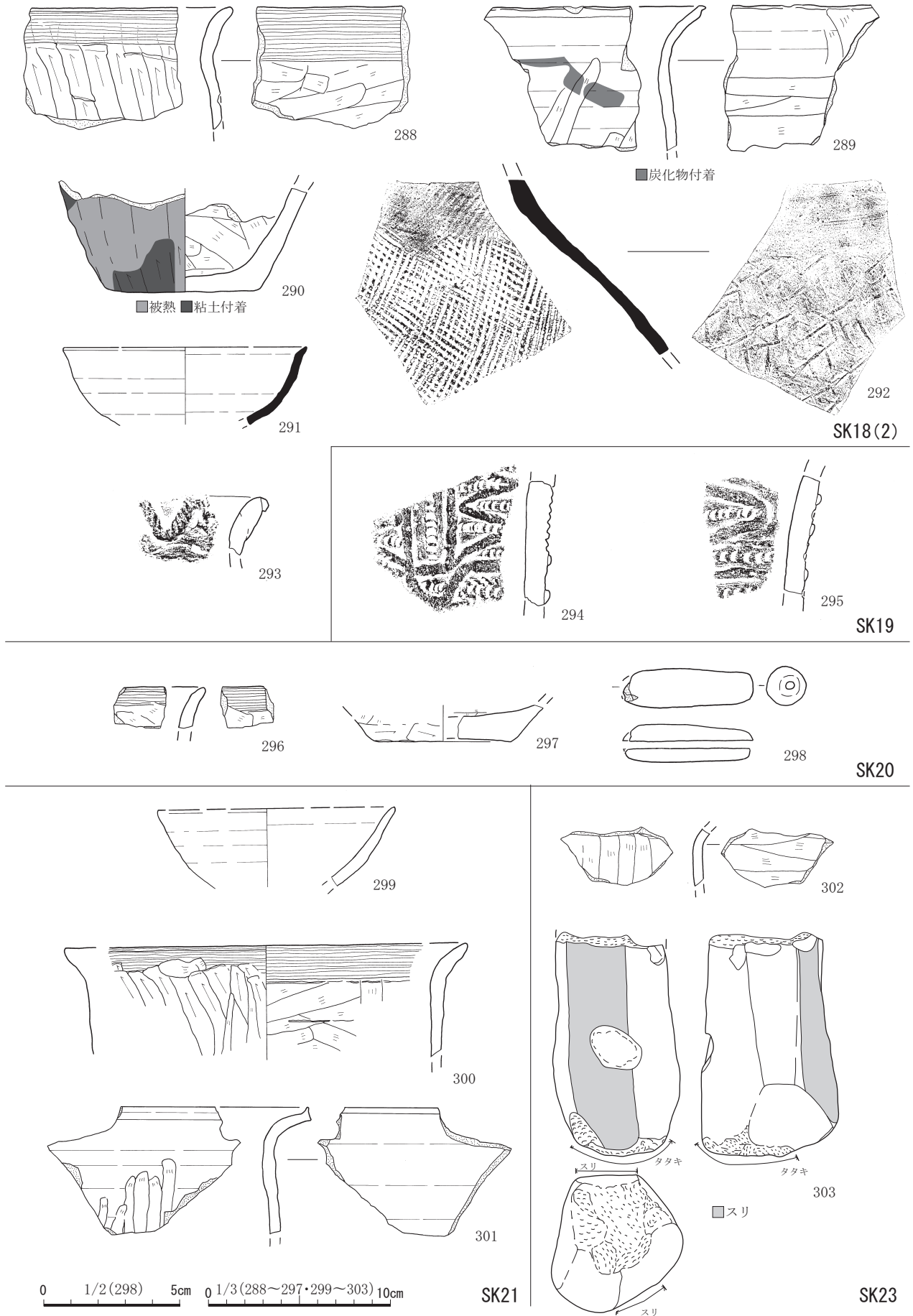


図142 土坑 出土遺物 (7)

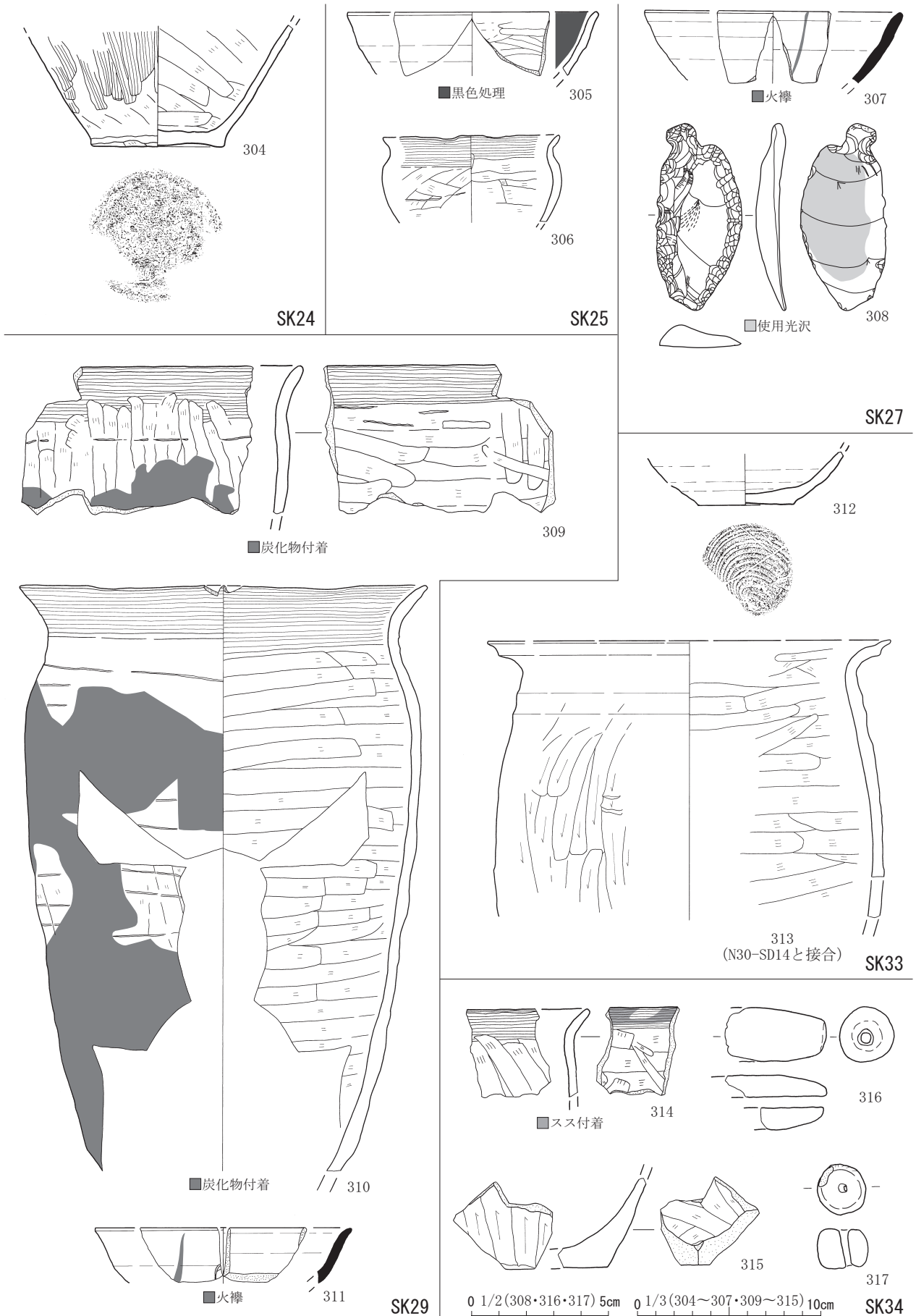


図143 土坑 出土遺物 (8)

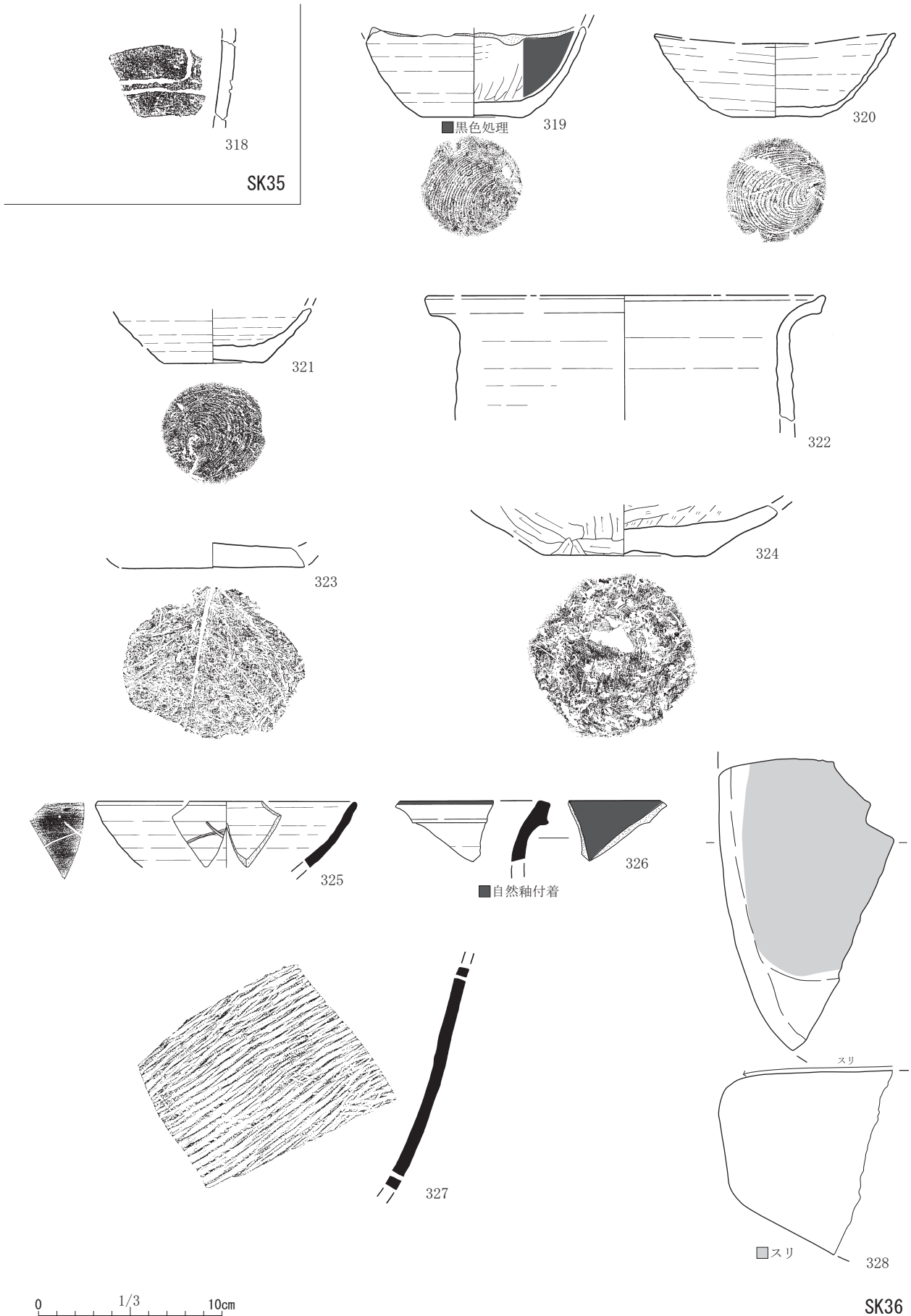
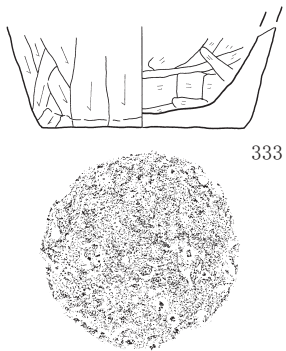
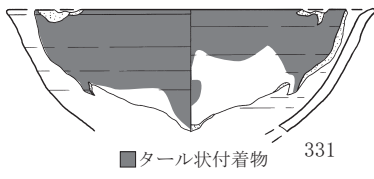
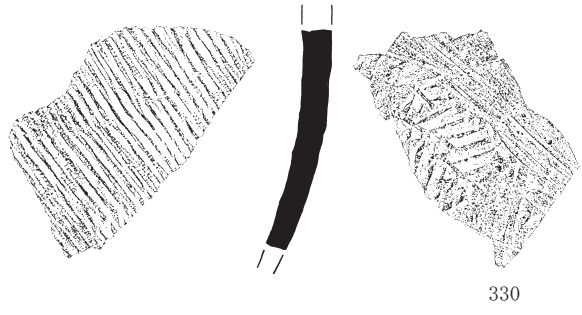
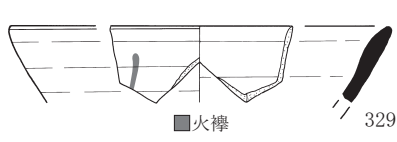
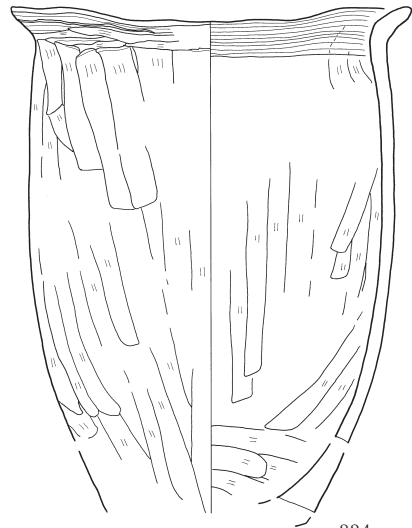


図144 土坑 出土遺物 (9)



SK44



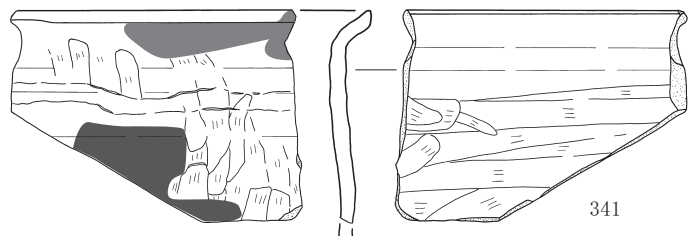
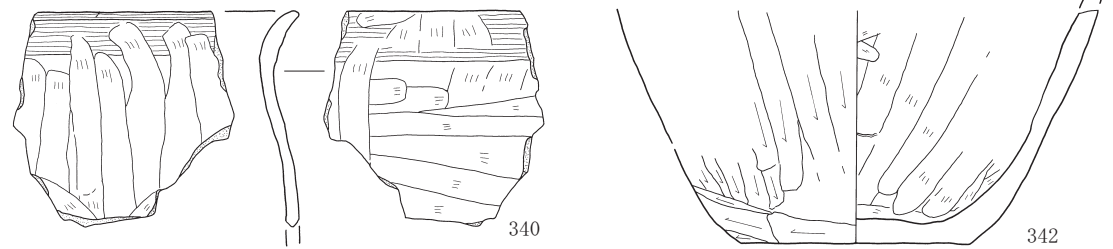
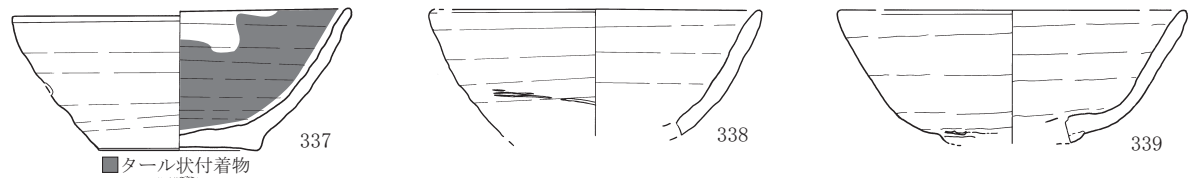
SK45

0 1/3 10cm

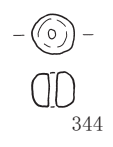
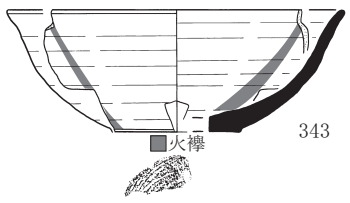
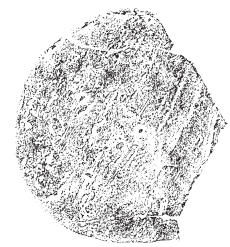
図145 土坑 出土遺物 (10)



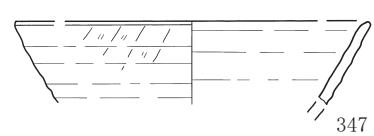
SD01



■黒色物付着 ■粘土付着



SD03



SD04

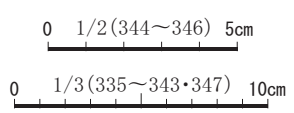
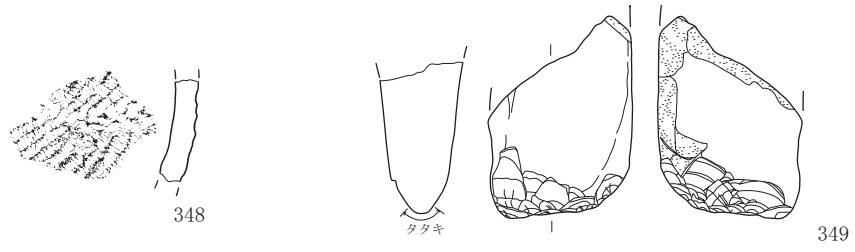
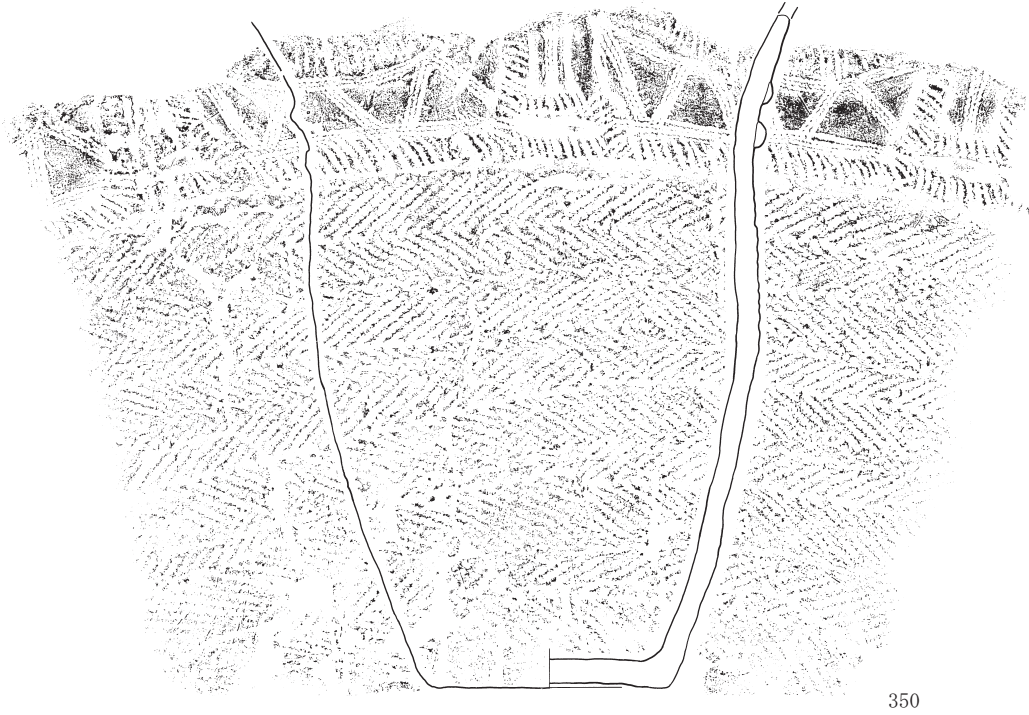


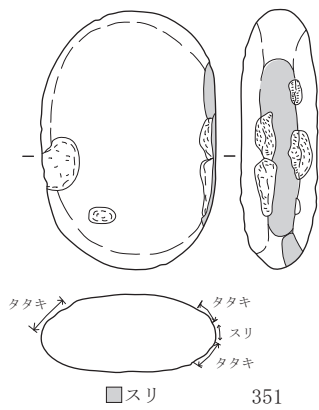
図146 溝跡 出土遺物



SV03



SR01



SR02

0 1/3 10cm

図147 溝状土坑・埋設土器遺構 出土遺物

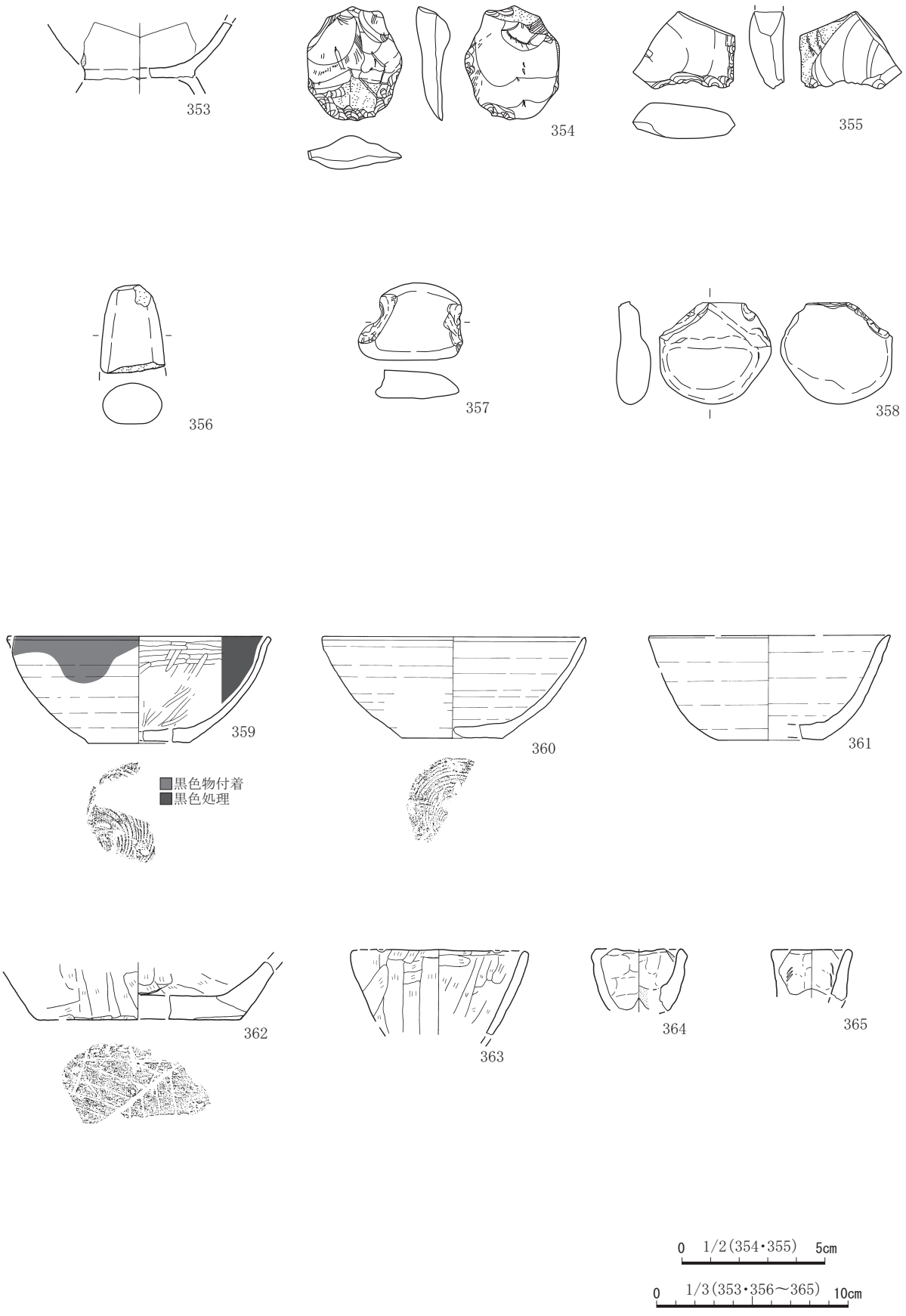


図148 遺構外 出土遺物 (1)

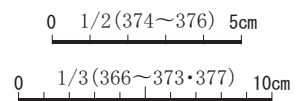
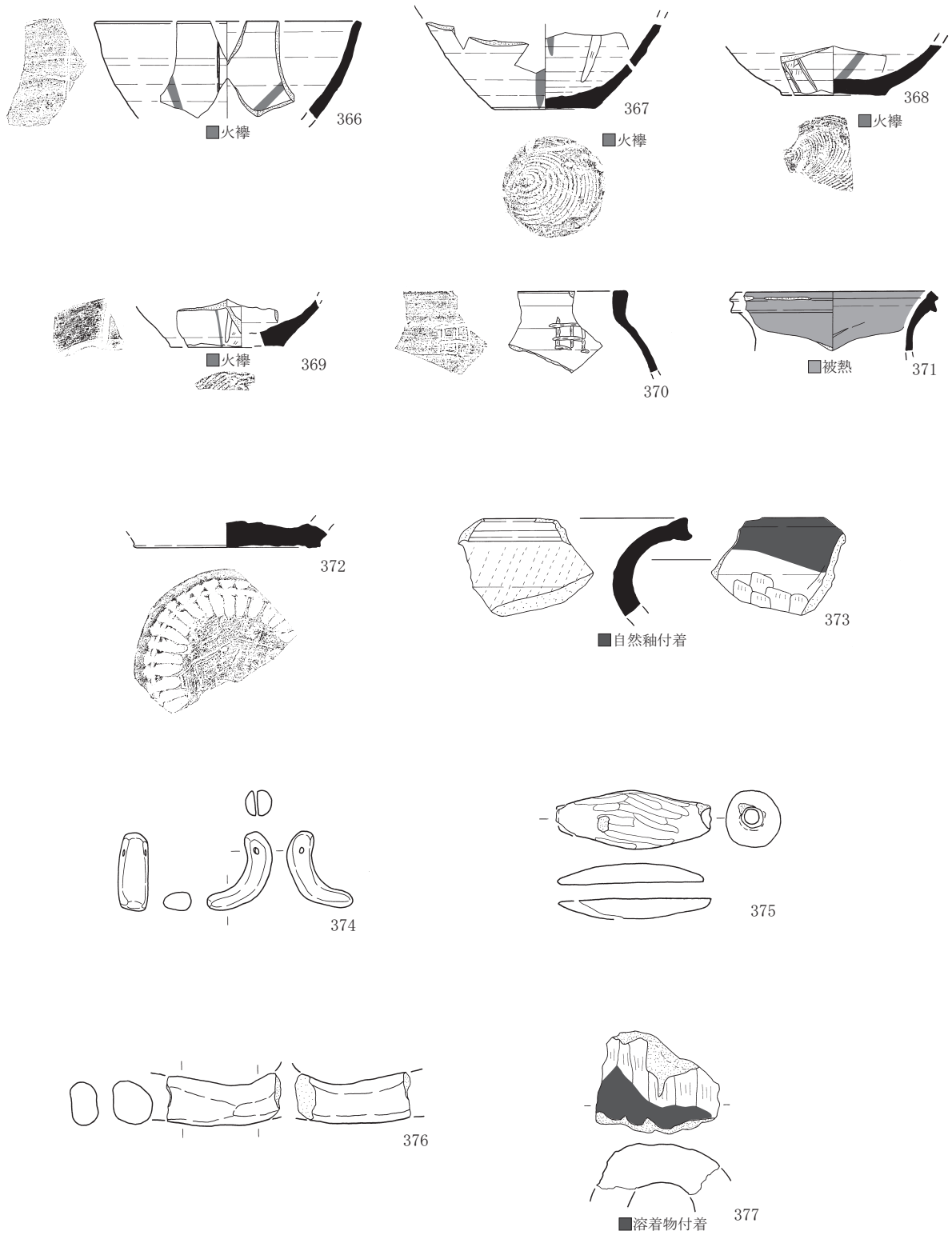


図149 遺構外 出土遺物(2)

第3編 旭(1)遺跡

第1章 調査方法と調査経過、基本層序

第1節 旭(1)遺跡での調査方法

旭(1)遺跡での発掘調査方法は、「第1編第2章 共通する調査方法」で記した方法を用いている。なお、ピットはグリッド毎に番号を付している。

〔測量基準点・水準点の設置・グリッド設定〕旭(1)遺跡で使用した、主な基準点の国土座標値(世界測地系)及び標高値等の一覧表は表5に、調査路線(農道)と公共座標軸との位置関係や基準主要点、グリッドの設定状況・名称については図152の遺構配置図に示してある。

表5 農道35号 主要点の国土座標値及び標高値一覧

地区名	点名	国土座標値 (世界測地系・JGD2011)		標高値 (m)
		X	Y	
農道35号	NO.3	80827.178	-23550.738	-
	NO.9	80848.914	-23432.722	-
	NO.13	80919.930	-23451.746	-
	LN05	80837.573	-23511.973	37.011
	RN010	80865.232	-23426.964	34.804
	LN016	80974.950	-23475.927	38.889
	KBM-2	81020.570	-23491.874	39.424

※各点の位置は、遺構配置図に示している。

第2節 発掘調査の経過

〔平成26年度〕

- 4月上旬 青森県東青地域県民局地域農林水産部水利防災課、青森県教育庁文化財保護課と打合せを行い、今年度調査対象とする路線や発掘作業の進め方、障害物の有無等について確認した。
- 5月中旬 青森県東青地域県民局地域農林水産部水利防災課、青森県教育庁文化財保護課と調査直前の打合せを行い、調査対象路線の状況や障害物の有無等について再度確認した。
- 5月下旬 農道35号南側付近の空き地を借地し、調査事務所、器材庫、発掘作業員休憩所や仮設トイレの設置、駐車場の整備等、事前の準備作業を行った。また、調査時の迂回路となる鉄板を敷設した。
- 6月3日 発掘器材等を調査事務所や器材庫に搬入し、発掘調査を開始した。環境整備を行い、調査区の確認後、粗掘り作業に着手した。
- 6月上旬 重機を使用して東西方向調査区西側から農道部分の碎石除去及び表土掘削を進めた。表土除去後、人力により遺構確認を行ったところ、遺構が検出されたため、精査を進めた。これ以降、農道部分では、調査が終了し次第埋め戻す、通路確保のために敷鉄板を移設、重機で碎石等の表土除去作業、人力による遺構の確認・精査、という手順を繰り返すこととなる。また、流末水路の調査を並行して行った。
- 6月中旬 流末水路部分の調査が終了したため、埋め戻し、農道部分の調査に専念した。遺構密度は高くなかったため、調査の進捗は早く、ほぼ東西方向調査区の表土除去が終了したが、迂回路に敷く鉄板が不足したため、追加して借上げることとした。また、溝跡(SD01)が調査区外に延伸していたため、調査区を遺跡範囲西端まで拡張したところ、竪穴建物跡(SI03)を確認した。

- 7月上旬 東西方向調査区の東側は基本層序の第Ⅱ～Ⅲ層が残っており、焼失家屋であるSI04・06をはじめ、遺構が多く検出される。
- 7月中～下旬 東西方向調査区東側の遺構精査に引き続き、南北方向調査区の南半の調査に着手した。南北方向調査区は迂回路が確保できないため、調査区を縦に半分ずつ調査することとなった。7月25日には島口調査員による現地指導を受けた。
- 8月上～中旬 南北方向調査区北半の調査に着手した。連日の豪雨によって調査区が幾度も水没するが、水汲みと遺構精査を繰り返し進めた。調査終了の目処が立ったことから協議を行い、旭(1)遺跡農道35号の調査期間を9月上旬までに短縮することとした。
- 8月下旬 南北方向調査区北半の遺構精査に引き続き、東西方向調査区と南北方向調査区とのコーナー部分の調査に着手した。
- 9月上旬 調査と並行して、出土遺物や図面類・記録データなどの収納、調査器材等の洗浄や梱包などの片付け作業を行った。
- 9月5日 出土遺物、記録類、調査器材等をトラックにて搬出し、旭(1)遺跡農道35号の調査を終了した。発掘作業員は下石川平野遺跡に移した。
- 9月中旬 調査区の埋め戻し作業、碎石を敷き均す農道の復旧作業を行った。
- 12月 竪穴建物跡から出土した炭化材について、株式会社パレオ・ラボへ放射性炭素年代測定を委託した。

第3節 地形と基本層序

1 旭(1)遺跡の地形

旭(1)遺跡の発掘調査は、遺跡中央部の農道35号が調査対象区域となった。

旭(1)遺跡は、青森市役所浪岡事務所から北西へ約4kmの梵珠山南西裾野に広がる段丘斜面上、吉野田新溜池の南に位置する。津軽半島の南東部にある梵珠山(標高468m)の裾野に広がる高位段丘上であり、遺跡の東～南東側は開析谷に面している。この開析谷は蛇行しながら遺跡西側の開析谷に続いており、遺跡は二つの開析谷に挟まれて舌状に突出した丘陵端部の東縁に立地しているとも言える。遺跡東側の開析谷途中には堰堤が築かれ、梵珠山の伏流水が堰き止められて吉野田新溜池を形成しており、農業用水として利用されている。遺跡北方に位置する旭(2)遺跡の農道37号とは同一丘陵の東縁辺上に立地している。

農道35号は、遺跡南部を東西に直線的に横断し、北西方向へやや鋭角に屈折するL字状の調査対象区域となった。標高約39～31mの丘陵平坦面の東端に位置し、北西から南東へ向かって傾斜している。なお、調査時に35-47・48グリッドから埋没沢が検出されている。調査区南東部には流末水路が計画されており、吉野田新溜池へ通じる開析谷へ向かう斜面地となっている。

2 基本層序

旭(1)遺跡における基本層序は、図151にあるとおり35-17及び35-32グリッドで確認した。巨視的には下石川平野遺跡の基本層序と同様の土質・色調であり、部分的にリング畑の造成や農道整備等

によって第Ⅱ～Ⅲ層が失われていることや、表土直下が遺構確認面であることが多いことも同様である。

- 第Ⅰ層 現在もしくはかつての表土で、草根が多くみられる。
- 第Ⅱ層 東西方向調査区東側でのみ確認できた。島口氏による「薄く長いレンズ状の明らかに黒味に乏しい黒褐色土」に該当する。
- 第Ⅲ層 縄文時代から古代までの土層とみられるが丘陵上では削平されているところが多い。
- 第Ⅳ層 シルト質の第Ⅲ層とローム質の第Ⅴ層との漸移層であり、本層で大半の遺構が確認された。丘陵上や農道部分では、表土を除去するとすぐ本層が表出するが多い。
- 第Ⅴ層 いわゆるローム層であり、本層上面が最終遺構確認面である。十和田八戸テフラの再堆積層と考えられる。本遺跡では色調によって a・b に細分される。
- 第Ⅴ a 層 島口氏による黄褐色砂質火山灰層の「黄色味が強い上部」に該当する。
- 第Ⅴ b 層 島口氏による黄褐色砂質火山灰層の「白っぽい下部」に該当する。
- 第Ⅵ層 ローム層で、十和田八戸テフラの再堆積層と考えられる。島口氏による「黄橙色砂質ローム層」に該当する。

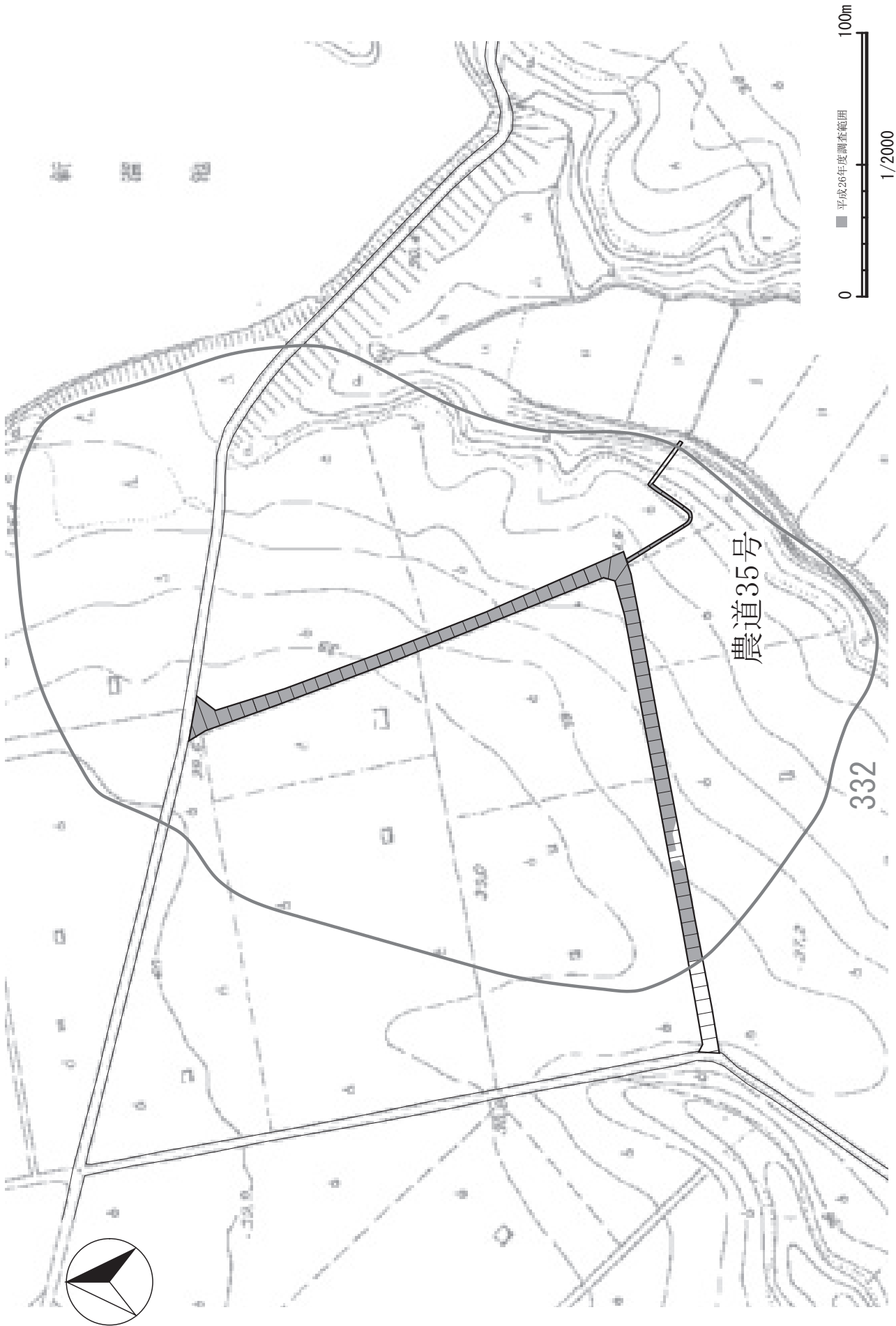
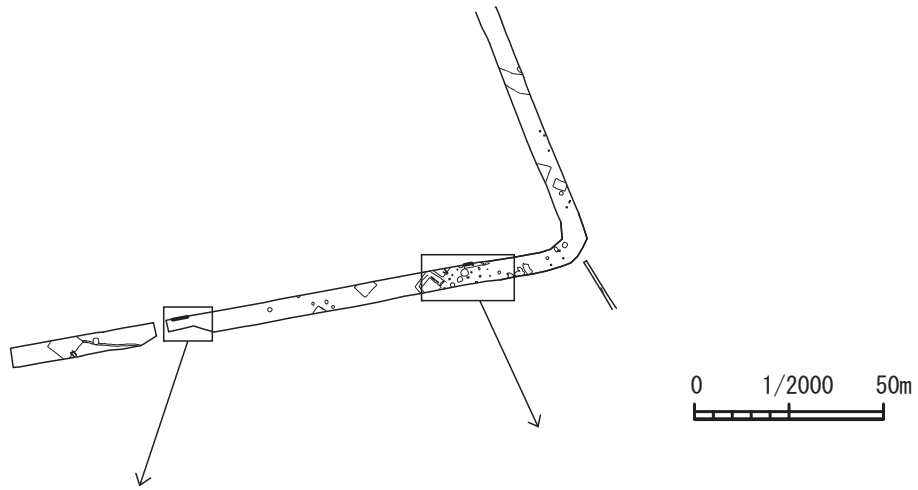
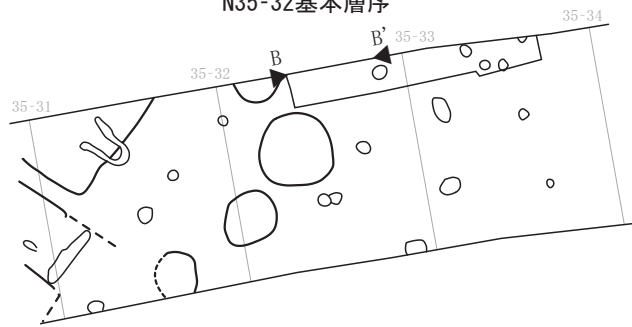
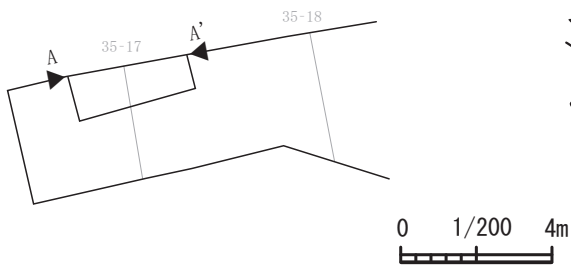


図150 農道35号 地形図



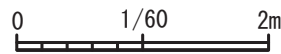
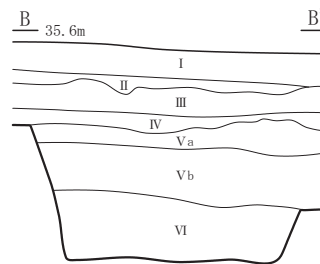
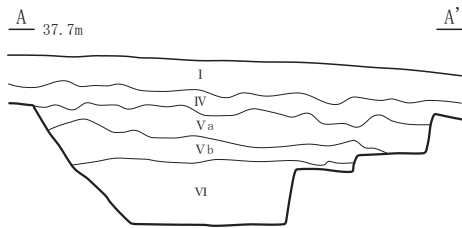
N35-17基本層序

N35-32基本層序



N35-17基本層序

N35-32基本層序



N35-17基本層序

- I層 10YR2/1 黒色土 ロームブロック(φ5~15mm)微量、炭化物(φ3~5mm)微量。
- IV層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)少量、炭化物(φ5~10mm)微量。
- Va層 10YR5/6 黄褐色土 ローム粒(φ5~10mm)少量。
- Vb層 10YR5/8 黄褐色土 ローム粒(φ5~10mm)少量。
- VI層 10YR4/6 褐色土 粘性あり。

N35-32基本層序

- I層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%。
- II層 10YR3/4 暗褐色土と10YR3/2黒褐色土3%の混合層。
- III層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~8mm)1%、炭化物(φ1~3mm)1%。
- IV層 10YR3/3 暗褐色土と10YR6/8明黄褐色土の混合層。ローム粒(φ1~20mm)2%、炭化物(φ1~3mm)2%。
- Va層 10YR7/8 黄橙褐色土と10YR3/3暗褐色土5%の混合層。ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%。
- Vb層 10YR8/8 黄橙褐色土 酸化鉄(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~15mm)5%。
- VI層 10YR6/4 黄褐色土と酸化鉄ブロックの混合層。

図151 基本層序

第2章 農道35号の検出遺構と出土遺物

第1節 検出遺構

農道35号の調査区は農道部分と流末水路部分からなる。農道部分は幅約5mで、東西方向に長さ約150m、南北方向に約175mの逆L字状の調査区で、流末水路部分は幅約0.5m、南北方向に約30m、東西方向に長さ約20mのL字状の調査区であり、合計2,000㎡の調査を行った。

農道35号で検出された遺構は、竪穴建物跡13棟、柱穴43基、土坑25基、溝跡7条である。なお、調査時に第8号竪穴建物跡としたものは精査検討の結果、欠番となった。

1 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡(SI01、図153・154・175・176)

[位置・確認] 東西方向調査区のほぼ中央、35-26・27グリッドに位置する。平成24年の試掘調査で確認されており、標高約36.5m地点の黄褐色ローム質土である第V層に全体プランを検出した。

[平面形・規模] 建物跡の北側隅が調査区外に残るが平面形状は長方形である。壁長は南東壁で4.4m、南西壁が3.8mある。確認面から床までの深さは東北壁で40cm、南東壁と南西壁は35cmあり、南東壁はほぼ垂直に立ち上がり南西壁は開くように立ち上がる。建物跡の軸方向はN-133°-Eである。

[床面・壁溝] 第V層を床面としている。ほぼ平坦で、床の中央部はおよそ2mの範囲で硬化している。壁溝は幅10~40cm、深さ8~20cmで東壁と南壁のカマドの東側につくられている。南壁の壁溝は長さ60~80cmの掘り込みが断続してある。

[柱穴] 建物跡内部から柱穴は検出されなかった。

[カマド] 南東壁の西寄りに天井部が崩壊した状態で検出された。半地下式カマドで、煙道部は幅30~36cm、長さ約90cmが壁外に延びており、煙道の軸方向はN-137°-Eである。燃焼部の幅は約30cmと狭く、褐色土と粘土で構築された袖の基部の一部が残存する。左袖部に検出された倒立した土師器小甕(2)は、構築時に芯材として埋められたものである。火床面は20×35cmの範囲で地下8cmの厚さで赤褐色に被熱している。煙道部から燃焼部までの土層は、破壊された天井部および袖部の構築土で4層に分層された。

[その他の施設] カマドの東側に3基の土坑を検出した。SK1は1m×1.1mの楕円形で、床からの深さは40cm、堆積土は2層で埋土である。底面から土師器片が図示したように出土している。これら破片の一部はカマド袖部の土師器小甕(2)と接合することから、建物跡廃棄時にSK1は開口しており、カマド破壊と共に埋められたと判断される。SK2は50×55cmのほぼ円形で、床からの深さは最大25cm、堆積土は4層で埋土である。SK1との関係は不明である。SK3は壊されているため形状は不明確であるがほぼ円形であったと思われる。床からの深さは10cmで堆積土は2層で埋土である。これらの他に、建物跡の外部に2基のPitを検出した。Pit1は25×30cmの大きさで深さ20cm、Pit2は30×40cmの大きさで深さが30cmあり、煙道を間にはさみ2mの間隔で位置している。機能について言及できないが本建物跡に付随する柱穴と思われる。

[堆積土] 堆積土は9層に分けられ褐色および暗褐色土が堆積する。各層に第V層および第VI層の黄褐色ローム質土の細ブロックや土粒と炭化物が混合する。第7層~9層はレンズ状の堆積で周壁の崩

落とも考えられ、第2層～6層も倒壊時の崩落土の可能性もある。自然堆積なのか人為堆積なのか迷うところであるが、土質および各層から多数遺物が出土しており、特に第8層出土の須恵器皿(17)は廃棄された可能性があることから、人為堆積と判断した。

[出土遺物] 前述のとおり堆積土の各層から遺物は出土しており、位置的にも図示したように建物跡内にくまなく分布している。遺物は土師器7035.4g、須恵器570.9g、石器2点が出土した。

そのうち、土師器坏(1)・甕(2～8)・埴(9・10)・小坏(18・19)、須恵器坏(11～13)・壺(14・15)・甕(16)・皿(17)、羽口(20)、石器(21)を図示した。2はカマド芯材として使われた甕、4は内面黒色処理された大甕、5の内面には刻書が施されている。9・10は埴でカマドとカマド脇のSK1の接合破片である。17は第8層出土の須恵器皿で外面に刻書が施されている。また内面の中央が摩耗しており硯としても使用された可能性がある。11の須恵器坏にも刻書が施されているが破損により内容は不明である。14・15は須恵器壺で15の内面には自然釉がみられる。15・16は胎土分析を行っている(第6編第2章第4節参照、A-1・2)。21は縄文時代の石匙である。

[小結] 出土遺物から9世紀後半～10世紀前半頃の建物跡と捉えられ、同時期に人為に埋められ廃棄されている。

第2号竪穴建物跡(SI02、図155・183)

[位置・確認] 東西方向調査区の中央、35-24グリッドに位置する。標高約36.3m地点の第V層で検出した。建物跡の大部分が調査区外にある。

[平面形・規模] 検出された範囲は、建物跡の北隅部分だけで北東壁と北西壁の約2.6mである。確認面から床までの深さは共に約35cmあり、西側は垂直に、東側は開くように立ち上がる。平面形状は断定できないが方形ないしは長方形と思われる。南東壁にカマドがあるとすれば、建物跡の軸方位はN-127°-E前後と思われる。

[床面・壁溝] 床面は掘方を有し、貼床により平坦に整えられている。壁溝は幅20～32cm、深さ10～14cmで壁際を巡るものと思われる。

[柱穴] 検出されなかった。

[カマド] 調査区内には検出されなかった。南側調査区外にあるものと思われる。

[その他の施設] 検出されなかった。

[堆積土] 堆積土は4層に分けられる。黒褐色土を主体にした土で、第3層には黄褐色ローム質土のブロックが多量に混合する。全体的にレンズ状の堆積状態を示すが、土質から第3層は廃棄または屋根材の崩落の可能性があり、第1・2層は自然堆積と判断される。掘方埋土および貼床土は、黒色土と黄褐色ローム質土のブロックを混合する土である。

[出土遺物] 堆積土および床面直上から土師器231.7gが出土している。このうち、土師器甕(91)を図示した。他に第3層の上位から炭化材が出土しているが、焼失建物跡かどうか断定できない。

[小結] 出土遺物から9世紀後半～10世紀初め頃の遺構と捉えられ、廃棄後の完全埋没まで多少時間があったものと思われる。

第3号竪穴建物跡(SI03、図156～158・177～179)

[位置・確認] 東西方向調査区の西端部、35-10・11グリッドに位置する。標高約37.5m地点の第V層で検出した。

[平面形・規模] 本調査で検出された遺構のうち最大の建物跡で、建物跡の北側と南端隅が調査区外にある。壁長は南東壁で約6m、南西壁が5.4m、北東壁2.4m、北西壁1.8mあり、全体の規模は一辺が約6.4～6.8m程の方形の建物跡と思われる。検出面から床までの壁高は35～40cmあり、開くように立ち上がる。建物跡の軸方向はN-130°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は掘方を有し最大42cmの深さがあり、貼床により平坦に整えられている。図化していないが床の中央部は硬化している。壁溝は幅12～30cm、深さ12～32cmで壁際を全周するものと思われる。

[柱穴] 床面に6基のPitを検出した。形状は楕円形および不整形で、規模は最小がPit4の径22cmから最大がPit6の40×48cm、深さは最小14cmからPit5の最大40cmまでである。これらのPitに規則的な配置はなくPit1～3が建物跡の西側に、Pit4～6がカマド東側にまとまるが支柱穴としての機能は感じられない。Pit5・6は他の建物跡にあるようなカマド脇の小土坑の可能性が高い。

[カマド] 南東壁のほぼ中央につくられている。破壊により、燃焼部から煙道までの天井と袖部が崩落した状態で検出された。半地下式カマドで、壁となる第V層を内側に突き出るように掘り残した上につくられている。煙道部の幅は40～55cm、長さ約1mが壁外に延びており煙道の軸方向はN-136°-Eである。燃焼部の幅は約60～70cmあったものと思われ、袖部は掘り残した壁の上に粘土を貼付け構築されており基底が残存する。燃焼部と煙道内から出土した土師器片は、支脚ないしは袖部構築時に芯材として用いられたものの可能性がある。火床面は44×50cmの楕円形で、6cmの厚さで赤褐色に被熱している。煙道部から燃焼部までの土層は、壊された天井部と袖部の構築土で13層に分層した。

[その他の施設] 2基の土坑と建物の外に延びる溝跡が1条ある。SK1は建物跡内の中央よりやや北側に位置する。約80cm×1mの楕円形で床面からの深さは20cmほどあり、底面はすり鉢状である。埋められており土師器片が4点出土している。SK2は床面西隅に、長さ1.6m、幅50cmの長方形プランで検出された。床面から最大30cmの深さがあり底面には起伏がある。黄色ローム質土の塊を多量に混ぜた土で埋められている。土坑の他に、本建物跡の東隅から東に延びる溝がつくられている。SD01として建物跡より先に検出され、精査により本建物跡に伴うものと判明した。この溝(外延溝)の幅は40～70cm、深さは20～46cmあり調査区内に15.5mの長さで検出され、さらに調査区外へと延びている。またSK3と重複し本溝跡の方が古い。溝の堆積土および底面からは土師器等が出土している。

[堆積土] 堆積土は5層に分けられる。黒褐色土を主体にし、黄色ローム質土のブロックを多量に混合する第3層が壁際の、特に西側に厚く堆積する。カマドの破壊と第3層の状態から第3層以下は人為堆積であるが、第1・2層は自然堆積と判断され完全に埋没するまで時間を要したものと思われる。掘方埋土および貼床土は、黒色土と黄色ローム質土のブロックを混合する土である。

[出土遺物] 遺物は、カマド周辺のほか建物跡東隅と西隅に集中して出土している。カマド周辺の遺物は袖の芯材ないしは支脚に用いられた可能性があるもので、カマド破壊により散乱したものと捉えている。建物跡西隅の遺物はPit2とPit3の間に集中しており、東隅の遺物は炭化材と共に出土している。また、建物跡東側の床面からは炭化材が集中して出土している。炭化材は棒状のものが多く、

建物跡全体に広がっているわけではなく断定できないが、本建物跡が焼失建物跡であった可能性も捨てきれない。

付帯施設であるSD01出土遺物も合わせて、土師器10951.6g、須恵器427.2g、縄文土器690.5g、石器、玉3点、鉄器2点が出土した。そのうち、土師器坏(22・39)・甕(23~27・29~31・40)・壺(28)・小坏(32)、須恵器坏(33~35)・壺(36~38)、土製玉(41・42)、石製玉(43)、鉄製品(44・45)、石器(46・47)、縄文土器(48~51)を図示した。22は床面出土で、ロクロ成形・外底面回転糸切りの土師器坏である。28は内面黒色処理が施された壺で、外底面は砂底である。29も砂底で支脚に使用されていた。32は小杯で外底面に線刻されている。34・35の須恵器坏には回転糸切り痕と火襷の痕跡がみられる。34は胎土分析を行っている(第6編第2章第4節参照、A-3)。36~38は須恵器壺で36・37には自然釉がみられる。41~43は床面から出土した玉で41・42は土製、43は石製である。44は刀子、45は鉄鏃である。46は砥石で器面には弱い擦り痕跡がみられる。47は両側縁に剝離が施されている。48~51は縄文時代後期の土器で沈線文が施される。

[小結] 出土遺物から9世紀後半~10世紀前半頃の遺構と捉えている。堆積土出土の縄文土器やカマド破壊から廃棄時の人為な埋め戻しが考えられ、加えて炭化材の状態から廃棄の際に火を放たれた建物跡の可能性が考えられる。

第4号竪穴建物跡(SI04、図159・160・179・180)

[位置・確認] 東西方向調査区の東寄り、35-29~31グリッドに位置する。標高約35.6m地点の第V層で検出した。検出当初は、重複の無い一棟の大型建物跡と捉えていたが、調査により複数建物跡の重複と判明した。その際、重複遺構にSI04・SI06・SI07・SI08と番号を付けたが、精査によりSI08が風倒木と判明したため欠番とした。新旧関係は古い方から、SI07 → 風倒木(SI08) → SI04 → SI06の順である。

[平面形・規模] 建物跡の北端隅と南側が調査区外にあり、ほぼ中央をSI06が掘り抜いている。確認できた壁の立ち上がりは、北西壁が5m、南西壁2.4m、北東壁が約3.8mである。南東壁は確認できなかったが、北東壁先端の南側に検出された溝を含め、全体の規模は一辺が約5.6~6m程の建物跡と推測される。検出面から床までの壁高は26~30cmである。南東壁にカマドがあるとすれば、建物跡の軸方位はN-126° - E前後と思われる。

[床面・壁溝] 北と西側は第V層を床面としているが、北東側は風倒木上にあり掘方としたが明確ではない。面的にはやや起伏があり南側に緩く傾斜している。壁溝は北西壁と南西壁で幅18~34cm、深さ8~30cm、北東壁先端南側の溝跡で幅26~40cm、深さ17cmである。

[柱穴] 重複によりテラス状に残る床面に6基のPitを検出した。形状は楕円形および不整形で、規模は最小がPit6の18×22cmから最大がPit2の38×40cm、深さは最小10cmから最大Pit3の64cmである。

[カマド] 検出された建物範囲内には確認されなかった。建物跡南東壁側につくられたと思われるが重複により壊された可能性がある。

[その他の施設] 調査区内には検出されなかった。

[堆積土] 暗褐色土を主体に3層に分けられる。各層に黄褐色ローム質土のブロックと多量の炭化物粒、焼土粒を混合する。

[出土遺物] 図示したように、床面および床直上より炭化材が多量に出土しており、火災により倒壊した焼失建物跡と判断される。火災が、建物の廃棄を意図したものかは不明である。炭化材は建物の北西側に多く残っており、樹種同定からはアスナロ材の結果が得られている(第6編第2章第2節参照、C-3)。遺物は西壁際から須恵器壺が、南東壁側床面から土師器甕が集中して出土している。

遺物は、堆積土および床面から土師器4332.7g、須恵器2624.6g、石器が出土した。そのうち、土師器坏(52・53)・甕(54~57)・埴(58~60)、須恵器坏(65)・壺(61~64)・甕(66)、石器(67)を図示した。52・53はロクロ成形の坏で、53は内面黒色処理されている。56は外底面砂底の甕である。58~60の埴は外面ナデもしくはケズリ、内面ナデ整形である。65の須恵器坏の内外面には火嚢痕がみられる。61~64は長頸壺で61には「又」が刻書されており、62・64は輪高台の底部で62の外底面には菊花状調整が施されている。62~64は胎土分析を行っている(第6編第2章第4節参照、A-4~6)。66の外表面はタタキ、内面当て具痕がみられる。67は棒状礫の端部を使用した敲き石である。

[小結] 出土遺物から9世紀後半~10世紀初め頃の遺構と捉えられ、炭化材の年輪年代測定の結果からも9世紀後葉の年代が得られている。堆積土の状態から人為な埋め戻しが考えられ、加えて炭化材の状態から廃棄の際に火を放たれた建物跡の可能性が高い。

第5号竪穴建物跡(SI05、図161・181)

[位置・確認] 東西方向調査区の東寄り、35-30・31グリッドに位置する。標高約35.0m地点の第V層で検出した。建物跡の大部分が調査区外にある。

[平面形・規模] 検出された範囲は、建物跡の南隅部分で北東壁と北西壁を共に約3.2m検出した。確認面から床までの深さは約30~40cmあり、ほぼ垂直に立ち上がる。平面形状は断定できないが方形ないしは長方形と思われる。建物跡の軸方向はN-125°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は掘方を有し、貼床により平坦に整えられている。壁溝は幅15~20cm、深さ約20cmで南西壁際につくられている。

[柱穴] カマド袖部脇に2基のPitを検出した。Pit1は大きさ約30×40cm、深さ20cmで、右袖部に接するようにあり、Pit2は30×30cm、深さ30cmで左袖部から約50cm離れて位置している。建物跡の支柱穴として機能したか不明である。

[カマド] 南東壁につくられており、破壊により天井および袖部が崩落した状態で検出された。半地下式カマドで煙道部は幅40cm、長さ約1mが壁外に延びており煙道の軸方向はN-129°-Eである。燃焼部の幅は約60cm、袖部は粘土を貼付け構築されており基底が残存する。右袖部に検出された土師器甕は、構築時に芯材として埋められたものである。火床面は径が40cmの円形で、8~10cmの厚さで赤褐色に被熱している。焼成の度合いから3層に分けられる。煙道部から燃焼部までの土層は、壊された天井部および袖部の構築土で9層に分層した。

[その他の施設] カマド左袖脇に小土坑を検出した。大きさは径が約50cmのほぼ円形で、床からの深さは20cmある。

[堆積土] 堆積土は褐色土と黄色ローム質土のブロックが混合する単一層である。人為に埋められたものと判断される。掘方埋土および貼床土は、黒色土と黄色ローム質土ブロックの混合土である。

[出土遺物] 床面および堆積土の他に、カマド燃焼部と周辺から出土している。図示したものは支脚

ないしはカマド構築時に芯材として用いられたもので、カマド破壊とともに遺棄されたものと思われる。

遺物は土師器1812.3g、須恵器9.6gが出土し、そのうち、土師器坏(70)・甕(68・69・72)、須恵器壺(73)、土鈴(71)を図示した。70は堆積土出土のロクロ成形で底部回転糸切りの坏、69は底部砂底の甕、71は土鈴の鈴部である。

[小結] 出土遺物から9世紀後半～10世紀前半の遺構と捉えられ、廃棄の際に人為に埋められている。

第6号竪穴建物跡(SI06、図159・162・181・182)

[位置・確認] 東西方向調査区の東寄り、35-30グリッドに位置する。標高約35.2m地点の第V層で検出したSI04とした大型プランを掘り下げ、土層面で重複を確認した。重複関係は前述のとおりである。

[平面形・規模] SI04を掘り込んで構築しており、本建物跡の南側が調査区外にある。確認できた壁の立ち上がりは、北西壁と北東壁が約3.8m、南西壁が1.5mである。南東壁は確認できなかったが、一辺が約4m弱の竪穴建物跡と推測される。検出面から床までの壁高は26～30cmである。南東壁にカマドがあるとすれば、建物跡の軸方位はN-130°-E前後と思われる。

[床面・壁溝] 床面は掘方を有し、貼床により整えられている。壁溝は南東壁側を除く三方の壁際につくられており、幅は16～22cm、深さ約10cmである。

[柱穴] 建物跡西隅に1基検出した。規模は45×50cmで深さは約10cmである。

[カマド] 検出された建物範囲内には確認されなかった。調査区外に延びる建物跡南東壁側につくられているものと思われる。

[その他の施設] 建物跡東隅に相当する床面に土坑1基を検出した。規模は約70×80cmのほぼ楕円形で、深さは47cmある。堆積土は、ローム塊、焼土粒、炭化物粒が混入する暗褐色土である。この他に、土坑検出前のほぼ同位置に、焼土を伴う土の盛り上がりを検出している。当初、カマドの可能性があるものとみて精査したが焼土塊、炭化物粒が混入する土だけであった。カマドまたは建物の天井部の崩落土ないしは廃棄土と思われる。

[堆積土] 暗褐色土を主体に5層に分けられる。各層はSI04と同じく、黄褐色ローム質土のブロックと炭化物粒、焼土粒を混合し、また同じく床面および直上から多量の炭化材を出土している。SI04と同じく火災により倒壊した焼失建物跡と判断されるが、建物の廃棄を意図したものは不明である。

[出土遺物] SI04と同じく、床面および床直上より炭化材が多量に出土しており、火災により倒壊した焼失建物跡と判断される。火災が、建物の廃棄を意図したものは不明である。

炭化材は板材のものが建物の北西側に多く残っており、樹種同定からはクリ材の結果が得られている(第6編第2章第2節参照、C-2・3)。遺物は南東側床面に集中して出土している。

遺物は、土師器8285g、須恵器186.8g、石器、土製品が出土し、そのうち土師器坏(80)・甕(74～77・81・82)・鉢(78)・小坏(79)・埴(83)、須恵器鉢(84)・壺(85)・甕(86)、土製品(87)、石器(88)を図示した。

図示した土師器甕は床面および直上から出土した、外面ケズリ、口縁部横ナデ、内面ナデ整形されるもので、外底面もナデ整形される。埴も同様な成形であり、80の坏はロクロ成形される。84は須恵器の鉢で火摺がみられる。85は外面ケズリ整形の壺。88は砥石で器面が摩耗している。87は掘方から

出土した土製品である。欠損品で全体形状は不明であるが、僧具の錫杖頭に似ることから錫杖頭状土製品とする。粘土で、棒状の柄を模した先端に、心葉形を模したと思われる環が2個つくられていたようであるが、片方は欠損している。僧具ではあるものの、本遺物が祭祀的意味をもって埋められたものか、混入したものか不明である。

[小結] 出土遺物や遺構の重複関係から9世紀末～10世紀前半頃の遺構と捉えられるほか、炭化材の年輪年代測定の結果では9世紀後葉の年代が得られている。SI04と同じく、廃棄に伴う人為な埋め戻しと廃棄の際に火を放たれた建物跡の可能性が高い。

第7号竪穴建物跡(SI07、図159・163・182)

[位置・確認] 35-30グリッドに位置する。SI04およびSI06精査時に、2棟の建物跡の間に溝跡を検出し、前述の建物跡とは異なる建物跡と判断した。重複関係は前述したとおりである。

[平面形・規模] 詳細にないが、検出された溝跡から3.5～4mの建物跡と推定される。南東壁にカマドがあるとすれば、建物跡の軸方位はN-129° - E前後と思われる。

[床面・壁溝] 床面の状態は不明である。壁溝は、建物跡の西隅がL字状に検出されたほか、SI04およびSI06の北東壁溝の間に検出された、断続的に並ぶ溝跡も本建物跡の壁溝として含めた。幅は14～30cm、深さは8～30cmと起伏がある。

[柱穴] 西隅壁溝内に径が約15cmの小穴を1基検出している。深さは不明である。

[カマド] SI04に破壊されたものと思われる。

[その他の施設] それらしき痕跡も確認されなかった。

[堆積土] 掘方だけの検出で堆積土は不明である。土層図A-A'の第1・2層は掘方埋土である。

[出土遺物] 掘方埋土から土師器256.4gが出土し、うち、土師器坏(89)・甕(90)を図示した。

[小結] 重複および攪乱に破壊され詳細でないが、出土遺物と遺構の重複関係から9世紀後半頃の遺構と捉えられる。

第8号竪穴建物跡 欠番

第9号竪穴建物跡(SI09、図164・183)

[位置・確認] 南北方向調査区南側の35-42・43グリッドに位置し、標高34.7～35.0mの第IV層で確認した。

[平面形・規模] 西半が調査区域外に延びていて全容は不明だが、平面形は方形もしくは長方形と推定される。壁長は北東壁が(4.0)m、南東壁が(4.4)mである。確認面から床面までの深さは7～19cmで、壁はやや開きながら立ち上がる。南東壁にカマドがあるとすれば、建物跡の軸方位はN-110° - Eである。

[床面・壁溝] 確認された範囲では、床面は全面に掘方を有し、貼床によって平坦に整えられている。壁溝は検出されなかった。

[柱穴] 南東壁の壁際からピットが1基検出された。Pit 1は38×24cmの楕円状で深さ39cmである。ピット中から土師器片が2点5.3g出土したが、図示していない。

[カマド] 調査区域内では検出されなかったが、建物跡南側の調査区壁面の観察で、カマド煙道と思われる粘土層を確認した。

[その他の施設] 確認されなかった。

[堆積土] 暗褐～褐色土主体で10層に分層された。8層はカマド構築土・9層は煙道堆積土・10層は掘方埋土である。ローム粒や炭化物を混入することから、人為的に埋め戻されたものと思われる。

[出土遺物] 土師器589.9g(堆積土377.0g・掘方207.6g・ピット5.3g)、須恵器2点49.1g(堆積土38.5g・掘方10.6g)、石器1点1,785.1g(掘方)が出土し、うち土師器杯(92)・甕(94)・小杯(96)、須恵器坏(93)・壺(95)、石器(97)を図示した。石器は掘方中から出土した台石で、縄文時代のものと考えられる。

[小結] 堆積土の様相、遺構の形態、出土遺物などから、9世紀後半～10世紀前半頃の建物跡と捉えられ、人為的に埋められ廃棄されている。

第10号竪穴建物跡(SI10、図164)

[位置・確認] 南北方向調査区中央の35-54グリッドに位置し、標高は37.1～37.3mである。第V層で焼土と炭化物が混合する黒色土の広がりとして確認したが、調査区壁面の土層観察では、第IV層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模] 本遺構の東側大半が調査区域外に延びていて全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長は北西壁が(1.8)m、南西壁が(3.1)mで、確認面から床面までの深さは10cm前後である。南東壁にカマドがあるとすれば、建物跡の軸方位はN-127°-E前後と思われる。

[床面・壁溝] 確認された範囲では、床面は全面に掘り方を有し、貼床によって平坦に整えられている。また、貼床精査時に幅12～30cm・深さ2～11cmの壁溝が確認された。

[柱穴・カマド・その他の施設] いずれも検出されなかった。

[堆積土] 黒～黒暗褐色土主体で6層に分層された。6層は掘方埋土である。調査時には、2層中に平安時代の降下火山灰がブロック状に混入していると考えていたが、理化学的分析の結果、十和田-八戸テフラと推定された(第6章第2節参照)。全体にローム粒やブロック、炭化物が混入し、人為堆積と考えられる。底面直上の4層および炭化材の上部には焼土がみられた。

[出土遺物] 土師器片が床面直上から1点2.7g出土したが、小片のため図示しなかった。また、床面および床面直上から多量の炭化材が出土しており、火災により倒壊した焼失建物跡と判断される。火災が建物の廃棄を意図したものかは不明である。炭化材は北西壁付近と建物の南半に多く残っており、樹種同定からはクリ材の結果が得られている(第6編第2章第2節参照、C-6・10)。

[小結] 堆積土の様相、遺構の形態と出土遺物などから、9世紀後半～10世紀前半頃の建物跡と捉えられ、炭化材の状態から廃棄の際に火を放たれた建物跡の可能性が高い。

第11号竪穴建物跡(SI11、図165・183)

[位置・確認] 南北方向調査区中央の35-57グリッドに位置し、標高37.9mの第V層で確認した。

[平面形・規模] 北西隅が攪乱に切られ、また、南東隅が調査区域外にあるものの、平面形はほぼ方形である。壁長及び確認面から床面までの深さは、北西壁(3.2)m・深さ20～26cm、北東壁(2.7)m・深

さ14~25cm、南東壁(2.9)m・深さ14~19cm、南西壁(3.2)m・深さ15~21cmを測る。建物跡の軸方向はN-131°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は全面に掘り方を有し、貼床によって平坦に整えられている。壁溝は幅14~23cm・深さ19~27cmで、壁際を全周するように巡らされている。カマド部分でも壁溝が確認できたことから、一旦壁溝を掘削した後、埋め戻してカマドを構築した可能性が高い。

[柱穴] 建物の北東隅と南東隅付近からピットが2基検出された。Pit 1は74×63cmの円状で深さ27cm・Pit 2は32×27cmの楕円状で深さ16cmである。ピット中から遺物は出土しなかった。

[カマド] 南東壁の南西隅寄りから袖部のみが確認された。煙道は削平されたものと考えられる。火床面は確認されなかったため、被熱が顕著でなかったと推測され、使用期間が短い、もしくは使用頻度が高くなかった可能性が考えられる。

[その他の施設] 建物跡の南西隅に溝(SD02)が接続している。溝の規模は長さ450cm・幅23cm・深さ26cmで、長軸方位はN-32°-Wである。北西から南東方向に向かって若干弧を描くように伸びており、建物床面より5cm程高い。SK14と56SP03と重複し、前者より新しく後者より古い。堆積土は黒褐色土の単層で、ロームブロックを混入する。遺物は出土しなかった。

[堆積土] 黒褐色~暗褐色土主体で7層に分層された。6層は壁溝堆積土、7層は掘方埋土である。全体にローム粒・ブロックや炭化物粒が混入し、人為堆積と考えられる。

[出土遺物] 土師器が1,219.8g(床面直上102.7g・カマド370.7g・堆積土746.4g)・須恵器が1点3.3g(堆積土)出土し、うち土師器杯(99)・甕(98)、須恵器壺(100)を図示した。

[小結] 堆積土の様相、遺構の形態などから、9世紀後半~10世紀前半頃の建物跡と捉えられ、人為に埋められ廃棄されている。

第12号竪穴建物跡(SII2、図166・183)

[位置・確認] 南北方向調査区中央の35-58・59グリッドに位置し、標高は37.9~38.1mである。第IV層で確認したが、調査区壁面の土層観察では、第III層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模] 本遺構の西側が調査区域外に延びていて全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長は、北東壁が4.0m、南東壁が(4.3)m、北西壁が(1.4)mで、確認面から床面までの深さは5~25cmである。南東壁にカマドがあるとすれば、建物跡の軸方位はN-127°-Eと思われる。

[床面・壁溝] 確認された範囲では、床面は掘り方を有し、貼床によって平坦に整えられている。掘方精査時に壁溝を検出した。幅12~20cm・深さ13~28cmで、壁際を全周するように巡らされていたものと推測される。

[柱穴] 建物の北東隅と南東隅、および北東壁と南東壁の壁際からピットが4基検出された。Pit 1は北東壁の中央に位置しているため、Pit 3も南東壁のほぼ中央に位置しているものと推測される。各ピットの規模は、Pit 1が31×26cm・深さ25cm・Pit 2が30×26cm・深さ25cm・Pit 3が29×22cm・深さ19cm・Pit 4が21×(13)cm・深さ8cmである。ピット中から遺物は出土しなかった。

[カマド] 確認されなかった。

[その他の施設] 南東壁の外側にL字状に配置する柱穴を3基検出した。建物に伴う可能性が高い。

[堆積土] 黒色土主体で4層に分層された。4層は掘方埋土である。全体にローム粒・ブロックが混

入し、人為堆積と考えられる。

[出土遺物] 床面直上から土師器が145.0g出土し、うち土師器杯(101)を図示した。

[小結] 堆積土の様相、遺構の形態などから、9世紀後半～10世紀前半頃の建物跡と捉えられ、人為に埋められ廃棄されたものと思われる。

第13号竪穴建物跡(SI13、図167・183)

[位置・確認] 南北方向調査区北側の35-68・69グリッドに位置し、標高は38.9～39.0mの第IV層で確認した。

[平面形・規模] 本遺構の西側が調査区域外に延びていて全容は不明だが、平面形は方形と推定される。壁長及び確認面から床面までの深さは、北東壁(3.1)m・深さ13cm、南東壁(1.6)m・深さ14cmを測る。南東壁にカマドがあるとすれば、建物跡の軸方位はN-139°-Eである。

[床面・壁溝] 確認された範囲では、床面は掘方を有し、貼床によって平坦に整えられている。掘方精査時に壁溝を検出した。壁溝は幅17～23cm・深さ2～13cmで、壁際を全周するように巡らされていたものと推測される。

[柱穴] 南東壁の壁際からピットが1基検出された。規模は39×(25)cm・深さ34cmである。ピット中からは遺物は出土しなかった。

[カマド・その他の施設] 確認されなかった。

[堆積土] 黒褐色土主体で5層に分層された。ローム粒・ブロックが混入し、人為堆積と考えられる。

[出土遺物] 堆積土中から土師器が161.5g出土し、うち土師器甕(102)を図示した。

[小結] 堆積土の様相、遺構の形態などから、9世紀後半～10世紀前半頃の建物跡と捉えられ、人為に埋められ廃棄されたものと思われる。

第14号竪穴建物跡(SI14、図167)

[位置・確認] 南北方向調査区北側の35-64・65グリッドに位置し、標高は38.4～38.5mである。第IV層で確認したが、調査区壁面の土層観察では、第III層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模] 本遺構の西側が調査区域外に延びていて全容は不明だが、平面形は方形と推定される。確認できた壁長は、北西壁が0.9m、北東壁が3.2m、南東壁が2.5mである。南東壁にカマドがあるとすれば、建物跡の軸方位はN-135°-Eである。

[床面・壁溝] 確認された範囲では、床面は掘方を有し、貼床によって平坦に整えられている。壁溝は幅11～31cm・深さ12～24cmで、壁際を全周するように巡らされていたものと推測される。

[柱穴・カマド・その他の施設] 確認されなかった。

[堆積土] 黒褐色土主体で6層に分層された。4・5層は壁溝堆積土、6層は掘方埋土である。全体にローム粒・ブロックが混入し、人為堆積と考えられる。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

[小結] 堆積土の様相、遺構の形態などから、9世紀後半～10世紀前半頃の建物跡と捉えられ、人為に埋められ廃棄されたものと思われる。

2 柱穴

農道35号からは合計43基の柱穴が検出された。うち、建物跡に付属すると考えられるもの以外には、掘立柱建物跡や柱穴列等、構造物を構成すると見込まれるものは確認できなかった。各柱穴の位置や計測値等諸特徴は、図168の柱穴図や表6の計測表に示した。

表6 農道35号 柱穴計測表

グリッド	SP 番号	図版番号	標高 (m)	規模(cm)			備考
				長さ	幅	深さ	
35-31	SP01	図168	35.0	43	28	21	土師器
	SP02	図168	35.3	45	40	64	
	SP03	図168	34.9	28	26	30	
35-32	SP01	図168	34.8	40	35	37	
	SP02	図168	34.6	35	31	10	>SP03
	SP03	図168	34.6	(31)	30	13	<SP02
	SP04	図168	-	-	-	-	欠番
	SP05	図168	34.4	52	(36)	14	
	SP06	図168	34.7	38	31	16	
	SP07	図168	34.8	27	24	28	
35-33	SP01	図168	34.4	23	18	11	
	SP02	図168	34.5	29	18	13	
	SP03	図168	34.7	30	18	24	
	SP04	図168	34.7	26	18	14	
	SP05	図168	34.7	28	18	30	
	SP06	図168	34.7	34	18	11	
	SP07	図168	34.7	73	18	34	
	SP08	図168	34.5	58	18	13	
35-34	SP01	図168	34.2	40	18	32	>SK21
	SP02	図168	34.3	81	18	22	
35-35	SP01	図168	34.4	28	18	31	
35-36	SP01	図168	34.0	38	18	23	土師器片出土
	SP02	図168	34.2	75	18	26	土師器(図184-103)出土
35-37	SP01	図168	34.2	48	18	18	
	SP02	図168	34.1	44	18	18	土師器片出土
35-40	SP01	図168	34.5	69	18	30	
	SP02	図168	34.5	45	18	35	
35-43	SP01	図168	34.8	38	18	31	
35-44	SP01	図168	35.1	43	18	54	
	SP02	図168	35.2	46	18	36	
35-56	SP01	図168	-	-	-	-	欠番
	SP02	図168	37.8	31	27	36	
	SP03	図168	37.7	20	(18)	20	>SD02・SK14
35-57	SP01	図168	38.0	43	37	29	
35-58	SP01	図168	38.1	37	33	21	
	SP02	図168	38.1	31	29	23	
	SP03	図168	38.1	52	48	25	
35-60	SP01	図168	37.8	26	22	30	<攪乱(SD03)
35-63	SP01	図168	38.6	44	63	33	
35-64	SP01	図168	38.7	31	28	37	
	SP02	図168	38.6	36	26	不明	
35-67	SP01	図168	38.8	42	37	27	土師器(図184-104)出土
	SP02	図168	38.9	37	37	30	
	SP03	図168	38.6	(36)	(32)	38	<攪乱(SD03)、土師器片出土
35-68	SP01	図168	39.0	43	29	36	
	SP02	図168	38.9	36	31	38	<攪乱(SD03)

3 土坑

25基の土坑が検出された。時期は平安時代と思われる。なお調査時にSN01とした遺構について、第25号土坑に変更した。

第1号土坑(SK01、図169・184)

[位置・確認] 東西方向調査区中央、35-21グリッドに位置し、確認面は第V層で、標高は36.2mである。他遺構との重複は認められなかった。掘方のみを検出したと考えられる。

[平面形・規模] 確認できた規模は長軸120cm、短軸110cmの不整形円で、確認面からの深さは19cmである。底面は起伏があり、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 黒褐色土の単層で、ローム粒・炭化物・黄褐色土を含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土中から土師器坏の底部片が1点13.1g出土した(105)。堆積土の様相、遺構の形状、遺跡の状況などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第2号土坑(SK02、図169)

[位置・確認] 流末水路部の35-R3グリッドに位置し、遺構確認面の標高は33.3m、第V層で確認したが、調査区壁面の土層観察では、第IV層を掘り込んで構築されている。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 西半が調査区域外に延びており、全体の形状は不明であるが、確認できた規模は長軸173cm、短軸(33)cmの方形～長方形を呈するものと思われる。確認面からの深さは24cmである。底面は全面に掘り方を有する。断面形は箱状をなしている。

[堆積土] 黒褐～暗褐色土主体で4層に分層された。2～4層は掘方埋土である。ロームブロックや炭化物を含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土中から土師器片が1点22.4g出土したが、図示しなかった。堆積土の様相、遺構の形状、遺跡の状況などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第3号土坑(SK03、図169・184)

[位置・確認] 東西方向調査区西側、35-12グリッドに位置し、遺構確認面の標高は37.4m、第V層で確認した。SI03に付帯するSD01と重複し、本土坑のほうが新しい。

[平面形・規模] 長軸184cm、短軸181cmの隅円方形状で、確認面からの深さは58cmである。地山をそのまま底面としており、断面形は逆台形状をなしている。底面にピットを有する。

[堆積土] 黒褐色土主体で7層に分層された。ロームブロックや炭化物を含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土中から土師器648.4g・須恵器1点8.9gが出土し、うち、土師器坏(106)・甕(107・108)、須恵器坏(109)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、重複関係、出土遺物などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第4号土坑(SK04、図169)

[位置・確認] 東西方向調査区中央、35-25グリッドに位置し、確認面の標高は36.3m、第V層で確認した。

[平面形・規模] 長軸78cm、短軸68cmの円形で、確認面からの深さは23cmである。地山をそのまま底面としており、断面形は逆台形状をなしている。

[堆積土] 暗褐色土と褐色土の混合層の単層で、ローム粒を含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状などから平安時代の遺構の可能性が考えられるが、その機能は不明である。

第5号土坑(SK05、図169)

[位置・確認] 東西方向調査区中央、35-24・25グリッドに位置し、確認面は第V層で標高は36.4mである。

[平面形・規模] 長軸101cm、短軸79cmの楕円形状で、確認面からの深さは33cmである。地山をそのまま底面としており、断面形は逆台形状をなしている。

[堆積土] 黒褐色土と暗褐色土の混合層主体で3層に分層された。ローム粒や炭化物を含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土中から土師器片1点5.3gが出土したが図示しなかった。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第6号土坑(SK06、図169)

[位置・確認] 東西方向調査区中央、35-24グリッドに位置し、確認面は第V層で標高は36.4mである。

[平面形・規模] 長軸77cm、短軸66cmの楕円状で、確認面からの深さは20cmである。地山をそのまま底面としており、断面形は逆台形状をなしている。

[堆積土] 暗褐色土の単層で、ローム粒や炭化物を含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状などから平安時代の遺構である可能性があるが、その機能は不明である。

第7号土坑(SK07、図169)

[位置・確認] 東西方向調査区中央、35-23グリッドに位置し、遺構確認面の標高は36.5m、第V層で確認したが、調査区壁面の土層観察では、第三層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模] 遺構北半が調査区域外に延びているため、全体の形状は不明であるが、確認できた規模は長軸97cm、短軸(51)cmの円形を呈するものと思われる。確認面からの深さは20cmである。地山をそのまま底面としており、断面形は逆台形状をなしている。

[堆積土] 暗褐色土と黒褐色土もしくは褐色土の混合層主体で2層に分層された。ローム粒や炭化物を含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状などから平安時代の遺構の可能性が高いが、その機能は不明である。

第8号土坑(SK08、図169・184)

[位置・確認] 東西方向調査区東側、35-32グリッドに位置し、確認面の標高は34.8m、第V層で確認した。

[平面形・規模] 径200cm程の円形状で、確認面からの深さは163cmである。地山をそのまま底面とし

ており、断面形は逆台形状をなしている。

[堆積土] 黒～黒褐色土主体で6層に分層された。ローム粒や炭化物、焼土粒を含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器が944.7g(底面527g・堆積土416.9g)、須恵器が3点127.9g(堆積土)出土し、うち、土師器坏(110)・甕(111・112)、須恵器壺(113)・甕(114)を図示した。堆積土の様相、出土遺物などから平安時代の遺構と考えられ、遺構の形状から井戸として機能していた可能性がある。

第9号土坑(SK09、図170・185)

[位置・確認] 東西方向調査区東側、35-32グリッドに位置し、確認面の標高は35.0m、第Ⅳ層で確認したが、調査区壁面の土層観察では、第Ⅱ層を掘り込んで構築されている。

[平面形・規模] 遺構北半が調査区域外に延びているため、全体の形状は不明であるが、確認できた規模は長軸132cm、短軸(59)cmの円形を呈するものと思われる。

[堆積土] 黒褐～暗褐色土主体で5層に分層された。ローム粒や炭化物、焼土粒を含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土中から土師器316.8g・須恵器1点22.69g・鉄滓2点241.1gが出土し、うち、土師器坏(115)・甕(116)、須恵器甕(117)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから平安時代の遺構と考えられ、遺構の形状から井戸として機能していた可能性がある。

第10号土坑(SK10、図170・185)

[位置・確認] 南北方向調査区南側、35-41・42グリッドに位置し、確認面の標高は34.6m、第Ⅴ層で確認した。掘方のみを検出したと考えられる。

[平面形・規模] 北東隅が調査区域外にあるものの、長軸343cm、短軸224cmの隅円長形状で、確認面からの深さは37cmである。底面は起伏があり、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 黒褐色土の単層で、ロームブロックや赤灰色粘土ブロック含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土中から土師器55.2gが出土し、うち、土師器坏(118)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第11号土坑(SK11、図170)

[位置・確認] 南北方向調査区南側、35-41グリッドに位置し、確認面の標高は34.4m、第Ⅴ層で確認した。

[平面形・規模] 長軸106cm、短軸101cmの不整円形状で、確認面からの深さは26cmである。地山をそのまま底面としており、底面は傾斜しているが断面形は逆台形状に近い。

[堆積土] 黒褐色の単層で、ロームブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状などから平安時代の遺

構の可能性はあるが、その機能は不明である。

第12号土坑(SK12、図170・185)

[位置・確認] 東西方向調査区東側、35-31グリッドに位置し、確認面の標高は34.9m、第Ⅲ層で確認した。

[平面形・規模] 遺構南端が調査区域外に延びているため、全体の形状は不明であるが、確認できた規模は長軸(120)cm、短軸108cmの楕円状を呈するものと思われる。確認面からの深さは38cmである。底面は起伏があり、断面形は逆台形状をなしている。

[堆積土] 黒褐色土と暗褐色土の混合層主体で4層に分層された。ローム粒・ブロックや炭化物を含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土中から土師器635.3g・須恵器1点16.2g出土し、うち、土師器坏(119・120)・甕(122・123)、須恵器坏(121)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第13号土坑(SK13、図170・185)

[位置・確認] 南北方向調査区南側、35-48グリッドに位置し、確認面の標高は35.5m、第Ⅴ層で確認した。

[平面形・規模] 遺構東半が調査区域外に延びているため、全体の形状は不明であるが、確認できた規模は長軸157cm、短軸(73)cmの楕円状を呈するものと思われる。確認面からの深さは53cmである。地山をそのまま底面としており、断面形は逆台形状に近い。

[堆積土] 黒褐色土主体で5層に分層された。ロームブロックや炭化物を含み、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 須恵器坏が37.2g(底面23.7g・堆積土13.5g)出土し、全てを図示した(124・125)。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから平安時代の遺構と考えられるが、機能は不明である。

第14号土坑(SK14、図170)

[位置・確認] 南北方向調査区中央、35-56グリッドに位置し、確認面の標高は37.7m、第Ⅴ層で確認した。SD02と56SP03重複し、本土坑の方が古い。

[平面形・規模] 北東隅がSD02に切られているものの、長軸140cm、短軸123cmのほぼ円形で、確認面からの深さは60cmである。地山をそのまま底面としており、断面形は箱状をなしている。

[堆積土] 黒褐色土主体で5層に分層された。ローム粒やブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状、重複関係などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第15号土坑(SK15、図170・185)

[位置・確認] 南北方向調査区北側、35-63グリッドに位置し、確認面の標高は38.3m、第V層で確認した。

[平面形・規模] 遺構東半が調査区域外に延びているため、全体の形状は不明であるが、確認できた規模は長軸199cm、短軸(66)cmの楕円状を呈するものと思われる。確認面からの深さは52cmである。地山をそのまま底面としており、断面形は逆台形状をなしている。

[堆積土] 黒褐色土主体で3層に分層された。ロームブロックや炭化物を含み、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土中から土師器が209.1g出土し、うち、土師器坏甕(126・127)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから平安時代の遺構と考えられるが、機能は不明である。

第16号土坑(SK16、図171・185)

[位置・確認] 南北方向調査区と東西方向調査区のコーナー部分35-38グリッドに位置し、確認面の標高は34.1m、第V層で確認した。

[平面形・規模] 長軸146cm、短軸129cmのほぼ円形で、確認面からの深さは26cmである。地山をそのまま底面としており、断面形は逆台形状をなしている。底面にピット状の凹みを有する。

[堆積土] 黒色土主体で2層に分層された。ローム粒や炭化物、焼土粒を含み、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土中から土師器140.6g・須恵器1点11.3gが出土し、うち、須恵器甕(128)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第17号土坑(SK17、図171・186)

[位置・確認] 南北方向調査区北側、35-69グリッドに位置し、確認面の標高は38.8m、第V層で確認した。SK18と重複し、本土坑の方が新しい。また、2基の土坑が重複していたものと考えられる。

[平面形・規模] 長軸151cm、短軸141cmのほぼ円形状の土坑(SK17A)に、長軸(79)cm、短軸59cmの小土坑(SK17B)が達磨状に貼り付いたよう形状である。確認面からの深さはSK17Aが59cm、SK17Bが39cmである。地山をそのまま底面としており、若干の起伏がみられるものの、断面形は逆台形状をなしている。

[堆積土] 黒褐～暗褐色土主体で4層に分層された。ロームブロックや炭化物を、焼土ブロックを含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器が1,205.1g(底面745.1g・堆積土460.0g)出土し、うち、土師器坏甕(129～132)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、重複関係、出土遺物などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第18号土坑(SK18、図171・186)

[位置・確認] 南北方向調査区北側、35-69グリッドに位置し、確認面の標高は38.8m、第V層で確認

した。SK17と重複し、本土坑の方が古い。また、2基の土坑が重複していたものと考えられる。

[平面形・規模] 長軸143cm、短軸114cmのほぼ円形状の土坑(SK18A)に、長軸81cm、短軸(67)cmの小土坑(SK18B)が達磨状に貼り付いたよう形状である。確認面からの深さはSK18Aが52cm、SK18Bが18cmである。地山をそのまま底面としており、若干の起伏がみられるものの、断面形は逆台形状をなしている。

[堆積土] SK18Aは6層、SK18Bは4層に分層された。ロームブロックや炭化物を含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土中から土師器85.6g・鉄製品1点58.1gが出土し、うち、土師器甕(133)、鉄製品(134)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、重複関係、出土遺物などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第19号土坑(SK19、図171)

[位置・確認] 東西方向調査区東側、35-35グリッドに位置し、確認面の標高は34.1m、第V層で確認した。掘方のみを検出したと考えられる。

[平面形・規模] 遺構南端が調査区域外に延びているため、全体の形状は不明であるが、確認できた規模は長軸(289)cm、短軸141cmの不整形を呈するものと思われる。確認面からの深さは75cmである。底面は起伏があり、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 黒色土の単層で、ローム粒を含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第20号土坑(SK20、図172・186・187)

[位置・確認] 東西方向調査区東側、35-34・35グリッドに位置し、確認面の標高は34.1m、第V層で確認した。1基の土坑として調査したが、3基の土坑が重複していたものと考えられる。

[平面形・規模] 遺構南端が調査区域外に延びているため、全体の形状は不明であるが、確認できた規模は長軸238cm、短軸(221)cmの不整形を呈するものと思われる。確認面からの深さは84cmである。断面形は逆台形状をなしている。

[堆積土] 黒～黒褐色土主体で7層に分層された。ローム粒・ブロックや炭化物を含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土中から土師器3,227.8g・須恵器154.6g、鉄製品1点18.7g、粘土焼成塊3点64.8g、縄文土器1点42.5gが出土し、うち、土師器坏(135・136)・甕(137～139)・埴(140)、須恵器坏(141・142)・壺(143)・甕(144)、鉄製品(145)、縄文土器(146)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第21号土坑(SK21、図172)

[位置・確認] 東西方向調査区東側、35-34グリッドに位置し、確認面の標高は34.1m、第V層で確認した。34SP01と重複し、これに切られている。

[平面形・規模] 遺構南半が調査区域外に延びているため、全体の形状は不明であるが、確認できた規模は長軸142cm、短軸(113)cmの楕円状を呈するものと思われる。確認面からの深さは46cmである。断面形は逆台形状をなしている。

[堆積土] 黒色土の単層で、ローム粒を含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第22号土坑(SK22、図172)

[位置・確認] 南北方向調査区北側、35-63グリッドに位置し、確認面の標高は38.6m、第V層で確認した。遺構西半が攪乱によって削平されている。

[平面形・規模] 遺構西半が攪乱によって削平されているため、全体の形状は不明であるが、確認できた規模は長軸(101)cm、短軸90cmの楕円形を呈するものと思われる。確認面からの深さは22cmである。断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 黒褐～暗褐色土主体で2層に分層された。ローム粒や炭化物・黄褐色土を含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第23号土坑(SK23、図172)

[位置・確認] 南北方向調査区中央、35-60・61グリッドに位置し、確認面の標高は38.5m、第V層で確認した。遺構西半は攪乱によって削平されている。

[平面形・規模] 遺構西半が攪乱によって削平されているため、全体の形状は不明であるが、確認できた規模は長軸295cm、短軸(46)cmの楕円形を呈するものと思われる。確認面からの深さは31cmである。底面は起伏があり、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 2層に分層された。堆積土のほとんどは褐色土と黄褐色土の混合層である2層が占める。ロームを含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第24号土坑(SK24、図172・187)

[位置・確認] 東西方向調査区と南北方向調査区とのコーナー部分、35-37グリッドに位置し、確認面の標高は34.2m、第V層で確認した。

[平面形・規模] 長軸(129)cm、短軸80cmの長方形を呈するものと思われる。確認面からの深さは12cmである。底面は起伏があり、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] 黒色土と褐色土主体の2層に分層された。ローム粒や暗褐色土を含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土中から粘土焼成塊1点16.6g(154)が出土した。堆積土の様相、遺

構の形状、出土遺物などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

第25号土坑(SN01、図173・187)

[位置・確認] 東西方向調査区東側、35-31・32グリッドに位置し、確認面の標高は34.8m、第Ⅲ層で確認した。当初は焼土遺構として調査したものである。

[平面形・規模] 規模は長軸158cm、短軸136cmのほぼ円形である。確認面からの深さは40cmである。断面形は逆台形状をなしている。

[堆積土] 黒褐色土主体で6層に分層された。焼土層と混合土層が互層に堆積しており、また、ローム粒・ブロックや炭化物を含むことから、人為堆積と考えられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土中から土師器1,172.9g・須恵器11.0g、粘土焼成塊96.0gが出土し、うち、土師器坏(147)・甕(148)・壺(149)・埴(152)、須恵器坏(150)・壺(151)、粘土焼成塊(153)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物などから平安時代の遺構と考えられるが、その機能は不明である。

4 溝跡

農道35号からは合計7条の溝跡が検出された。そのうち2条(SD01・02)は竪穴建物跡に付属する外延溝とみられるため、そちらに記載している。なお、調査時にSD03とした溝跡は、攪乱であることが判明したため欠番とした。

第1号溝跡(SD01、図158)

[位置・確認] 東西方向調査区西側、35-11~14グリッドに位置するが、竪穴建物跡の外延溝であることが判明したため、第3号竪穴建物跡で報告している。

第2号溝跡(SD02、図165)

[位置・確認] 南北方向調査区中央、35-56・57グリッドに位置するが、竪穴建物跡の外延溝であることが判明したため、第11号竪穴建物跡で報告している。

第3号溝跡(SD03)欠番

[位置・確認] 南北方向調査区北半の35-55~72グリッドに位置するが、堆積土の様相と出土遺物から近現代の溝(攪乱)であることが判明したため、欠番とした。

第4号溝跡(SD04、図174)

[位置・確認] 南北方向調査区中央、35-59グリッドに位置し、遺構確認面の標高は38.1mである。第Ⅴ層で確認したが、調査区壁面の土層観察では、第Ⅳ層を掘り込んで構築されている。北側にSD05が平行して位置している。等高線に対し直行している。

[平面形・規模・底面] 北西-南東に伸びる直線状の溝跡で、南端が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(3.2)m、幅は43cm・深さは13~32cmである。地山第Ⅴ層を底面

とし、南東側に傾斜する。断面形は逆台形状をなす。長軸方位はN-50°-Wである。

[堆積土] 堆積土は黒色土の単層で、ローム粒・炭化物・焼土が混入する。層下位にロームブロックが混入する。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状等から平安時代以降のものと考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画等の可能性が考えられる。

第5号溝跡(SD05、図174)

[位置・確認] 南北方向調査区中央、35-59グリッドに位置し、遺構確認面の標高は38.1mである。第V層で確認したが、調査区壁面の土層観察では、第IV層を掘り込んで構築されている。南側にSD04が平行して位置しているが、他遺構との重複は認められなかった。等高線に直行している。

[平面形・規模・底面] 北西-南東に伸びる直線状の溝跡で、南端が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(157)cm、幅は38cm、確認面からの深さは12~36cmである。底面は地山第V層をそのまま使用し、南東側に傾斜する。断面形は逆台形状をなす。

[堆積土] 堆積土は黒色土の単層で、ローム粒・炭化物・焼土が混入する。層下位にロームブロックが混入する。第4号溝跡とほとんど同じである。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状等から平安時代以降のものと考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画等の可能性が考えられる。

第6号溝跡(SD06、図174・187)

[位置・確認] 南北方向調査区中央、35-60グリッドに位置し、遺構確認面の標高は38.2mである。第V層で確認したが、調査区壁面の土層観察では、第IV層を掘り込んで構築されている。他遺構との重複は認められなかった。等高線に対し平行して延びている。

[平面形・規模・底面] 南西-北東に伸びる直線状の溝跡で、北端が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(90)cm、幅は47cm、確認面からの深さは14~29cmで、南西側がやや深い。底面は地山第V層をそのまま使用しており、断面形は上部が開口する逆台形状に近い。

[堆積土] 堆積土は黒色土の単層で、ローム粒・ロームブロック・焼土が混入する。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土中から土師器片が46.8g出土し、うち土師器坏(155)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物等から平安時代以降のものと考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画等の可能性が考えられる。

第7号溝跡(SD07、図174)

[位置・確認] 南北方向調査区北側、35-70・71グリッドで検出された。遺構確認面の標高は39.0mで、第IV層で確認した。等高線に対し直行して延びている。

[平面形・規模・底面] 北西-南東向かって若干弧状に伸びる溝跡で、北端が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(6.3)m、幅は100cmである。確認面からの深さは23~30cmである。底面は地山をそのまま使用しており、断面形は上部が開口する逆台形状をなす。

[堆積土] 黒色土と明黄褐色土との混合層で、ローム粒・ブロックが混入する。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器1点19.1gが出土したが、図示しなかった。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物等から平安時代以降のものと考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画等の可能性が考えられる。

第8号溝跡(SD08、図174・187)

[位置・確認] 南北方向調査区北側、35-71・72グリッドで検出された。遺構確認面の標高は38.7~35.5mである。第Ⅳ層で確認したが、調査区壁面の土層観察では、第Ⅲ層を掘り込んで構築されている。等高線に対し直行して延びている。

[平面形・規模・底面] 調査区を北西-南東に横切る直線状の溝跡で、両端が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(4.2)m、幅は1.3m程で、確認面からの深さは30~48cmである。底面は地山をそのまま使用しており、南東側に傾斜している。断面形は上部が開口するU字状をなす。長軸方位はN-43°-Wである。

[堆積土] 黒色土主体で10層に分層された。8・10層は灰黄褐色土との混合土である。

[出土遺物・遺構の時期等] 堆積土中から土師器301.1g・須恵器1点16.5gが出土しており、うち土師器甕(156)・小杯(157)、須恵器坏(158)を図示した。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物等から平安時代以降のものと考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画等の可能性が考えられる。

第2節 遺構外の出土遺物

遺構外から出土した遺物には、縄文時代のものと平安時代のものがある。合計8,038.8gが出土した。なお、遺構外からは石器は出土しなかった。

1 縄文時代の出土遺物(図188)

遺構外から出土した縄文土器の総量は498.9gである。出土層位による内訳は、I層・表採471.8g、Ⅲ層15.0g、攪乱・層位不明12.1gである。また、出土場所による内訳は、本線部分27.1g・流末水路部分471.8gである。このことから、本遺跡から出土した縄文土器は、ほとんどが原位置を保っていないものの、縄文時代の遺跡の主体は流末水路部分周辺にあると推測される。

(1) 縄文時代早期の土器

159は器面に貝殻腹縁押引文が施された胴部片である。早期中葉の根井沼式もしくは寺の沢式土器と推測される。

160・161は内外面に縄文が施された胴部片である。早期後葉の赤御堂式と推測される。

162・163は器面にLRが施され、胎土に繊維を混入するものである。163の内面は条痕文が施されている。焼成の特徴などから、早期末葉の早稲田5類と推測される。

(2) 縄文時代前期の土器

164は単軸絡条体第1類を縦位施文するもので、胎土に繊維を混入する。前期末葉の円筒下層d式に比定される。

(3) 縄文時代後期の土器

主に無文地に沈線が施された土器である。165は口縁部突起の下部、166は沈線が輪状に施されたものである。167・168は壺の口縁部で、167沈線は口縁部付近に横位の沈線が施されたもの、168は無文であるが、補修孔が施されたものである。これらは十腰内I式土器に比定される。

2 平安時代の出土遺物(図188・189)

遺構外から出土した平安時代の遺物総量は7,539.9gである。土師器・須恵器の他に、焼成粘土塊10点69.2gや鉄滓を含む鉄製品2点5.0gが出土しているが、土師器・須恵器について図示した。

(1) 土師器

遺構外から出土した土師器の総量は7,096.1gである。出土層位による内訳は、I層・表採4,173.6g、Ⅲ層2,474.2g、攪乱・層位不明448.3gである。また、出土場所による内訳は、本線部分5,567.4g・流末水路部分1,528.7gである。

坏：169～171の3点を図示した。いずれもロクロ坏で、169・170は口縁、171は底部である。

甕：172・173・175～177の5点を図示した。小甕もしくは中甕である。172・173は口縁部、175～177は底部で、172・176はロクロ甕である。176は被熱が顕著で、器表面が剥落している。底外面は、175は砂底、176は回転糸切、177はナデである。

埴：174の1点を図示した。口縁～胴部で、胴部の外面調整は上方から下方へのヘラケズリの後に縦位にヘラナデが、内面調整は横位にヘラナデが施されたものである。

小杯：178の1点を図示した。略完形で、胴部の外面調整は下位から上位にヘラケズリが、内面調整は横位にナデが施されたものである。

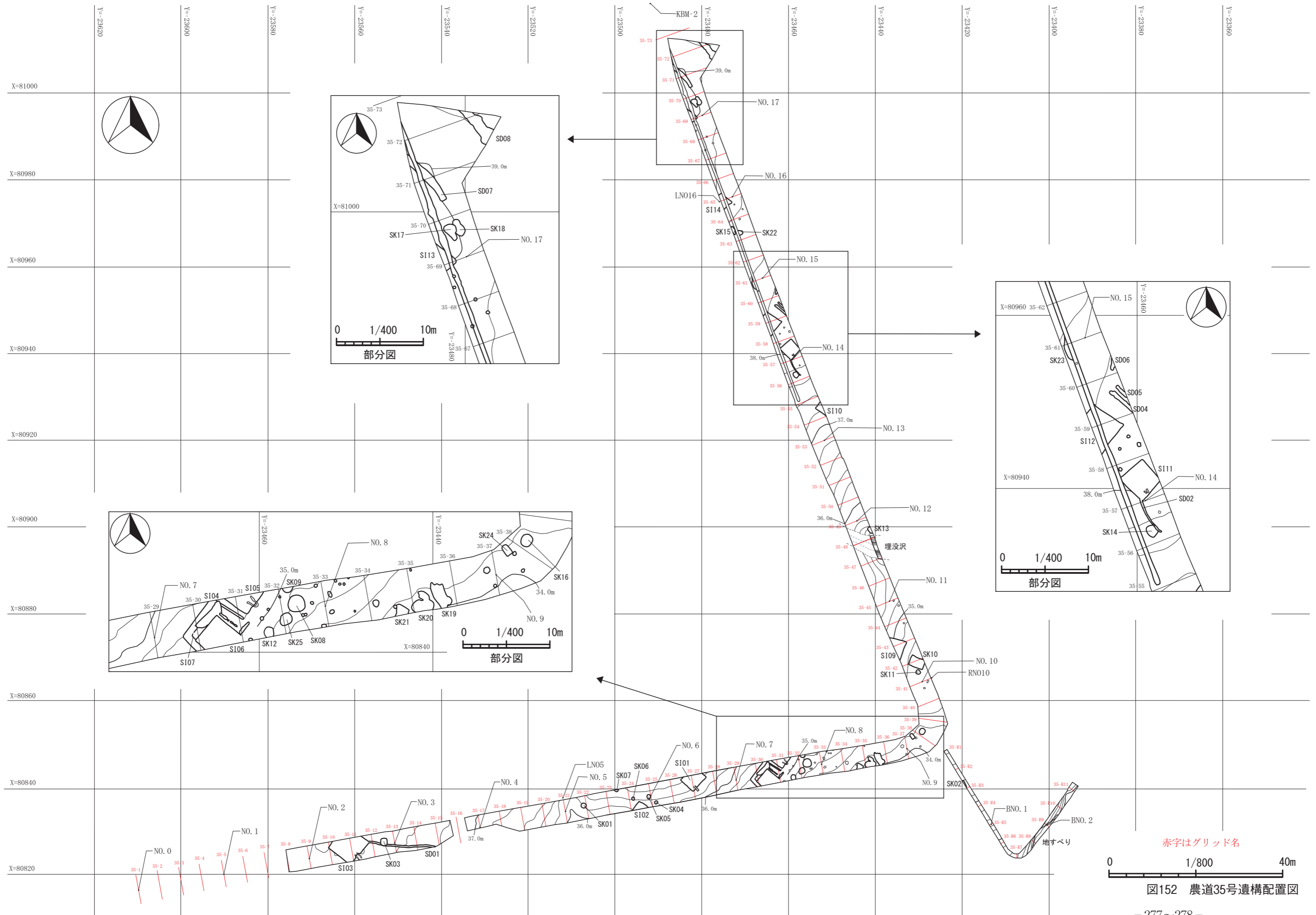
(2) 須恵器

遺構外から出土した須恵器の総数は25点369.6gである。出土層位による内訳は、I層・表採：18点253.1g、Ⅲ層：7点116.5gである。また、出土場所による内訳は、本線部分：17点216.7g・流末水路部分：8点152.9gである。

坏：179・180の2点を図示した。179は口縁部、180は底部である。

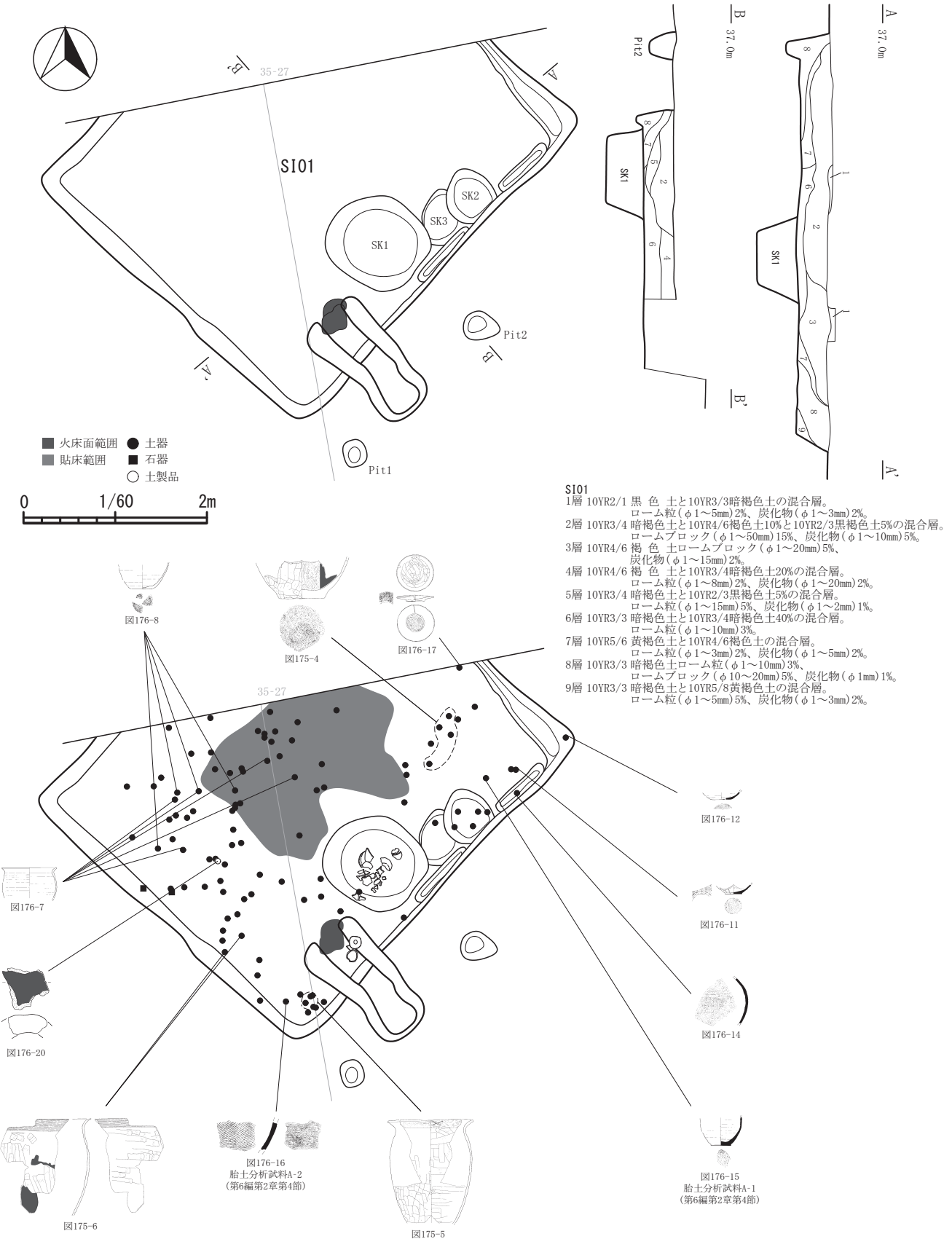
壺：181の1点を図示した。輪高台の底部で、底外面に菊花状調整が施されている。

甕：182・183の2点を図示した。182は口縁部、183は胴部である。前者にはタタキの後に横ナデが施されている。



旭(1)遺跡 農道35号

図152 農道35号遺構配置図



旭
 (1)
 遺跡
 農道35号

図153 第1号竪穴建物跡(1)

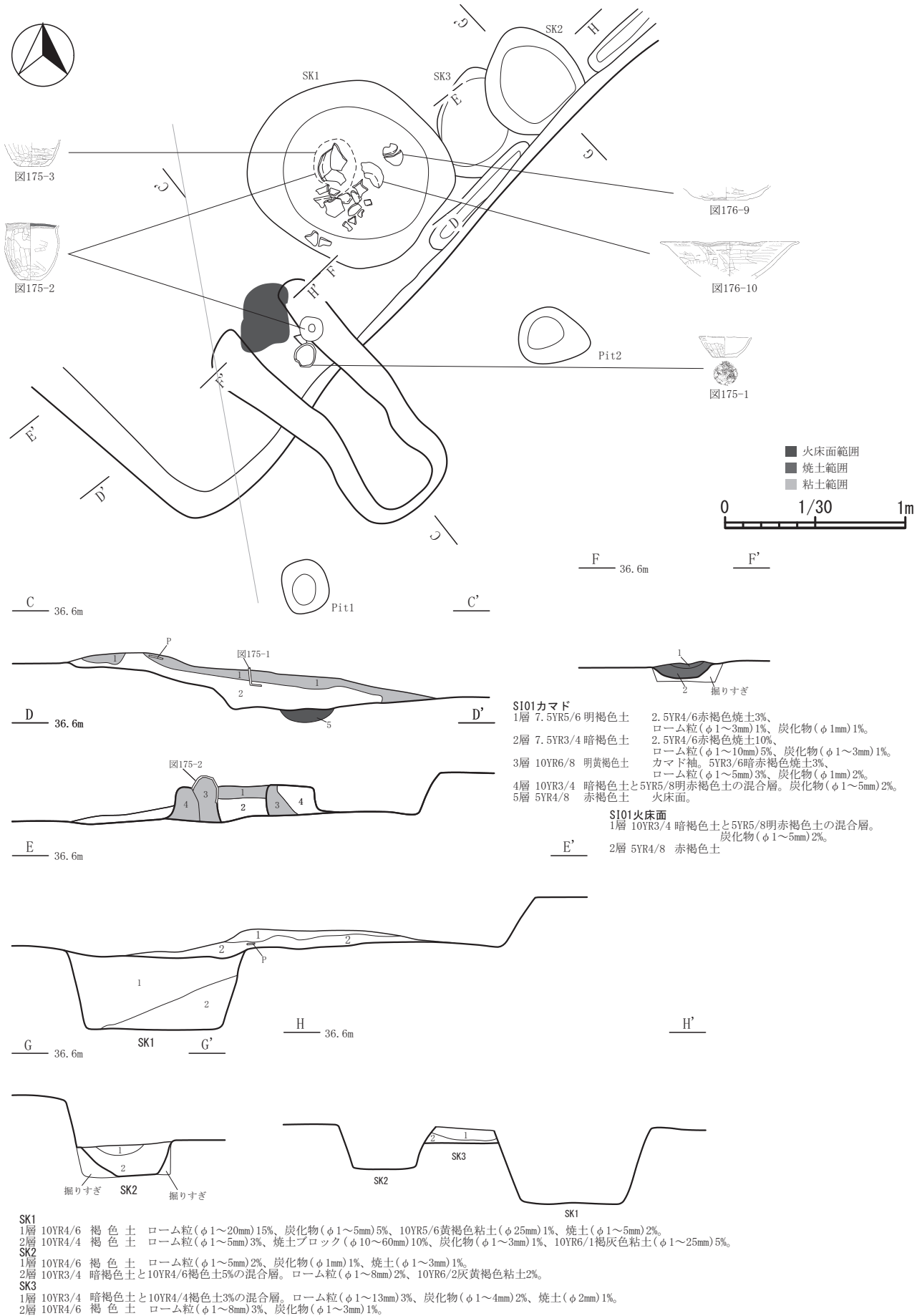
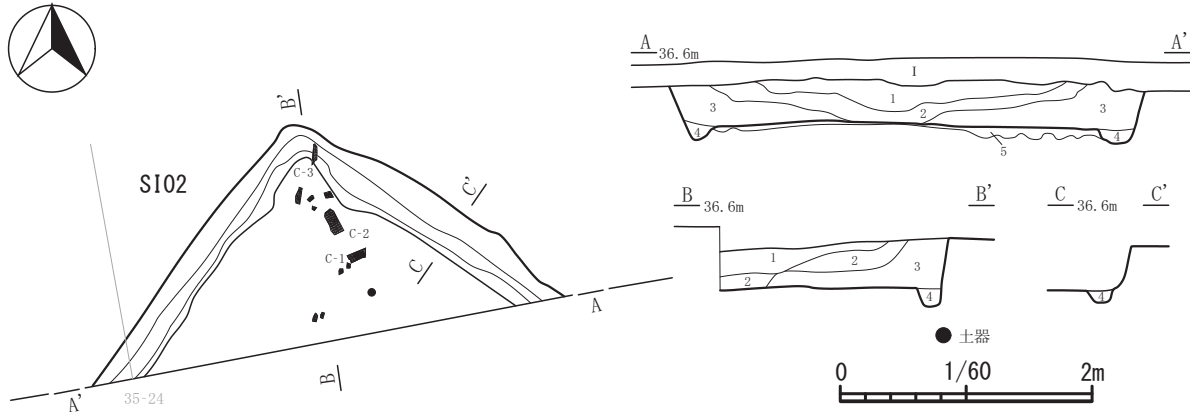
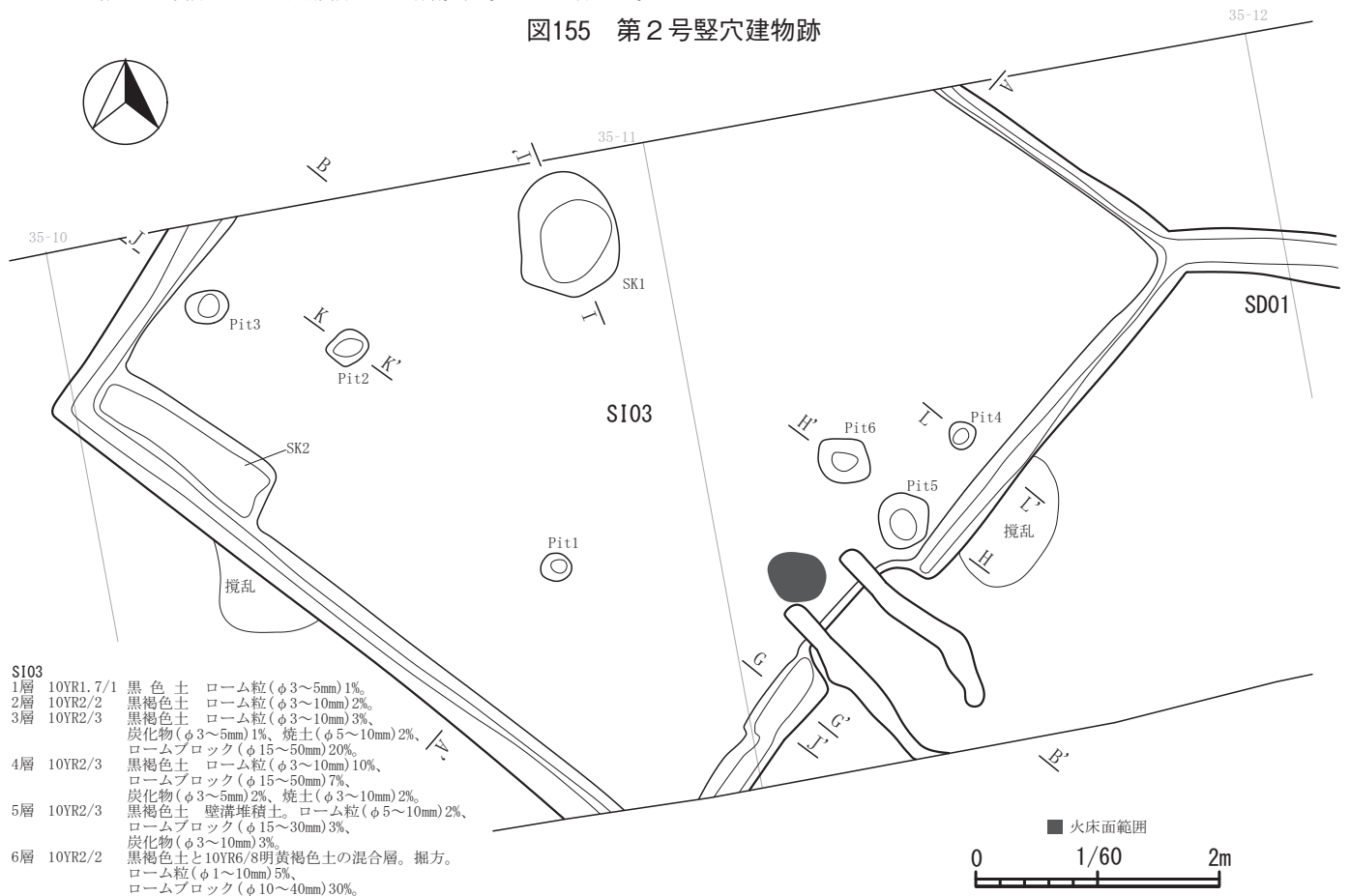


図154 第1号竪穴建物跡(2)



- SI02**
 1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~10mm)3%、10YR4/3にぶい黄褐色土ブロック(φ~50mm)、炭化物(φ1~3mm)2%、焼土(φ1mm)1%未満。
 2層 10YR2/3 黒褐色土と10YR4/6褐色土10%の混合層。ロームブロック(φ1~35mm)15%、10YR6/6明黄褐色粘土(φ1~20mm)1%、炭化物(φ1~3mm)2%。
 3層 10YR2/3 黒褐色土と10YR4/6褐色土40%の混合層。ロームブロック(φ1~50mm)20%、炭化物(φ1~2mm)1%。
 4層 10YR2/1 黒色土 壁溝堆積土。ローム粒(φ2~10mm)2%、ロームブロック(φ10~15mm)7%、粘土ブロック(φ20~30mm)5%。
 5層 10YR5/8 黄褐色土と10YR7/6明黄褐色土の混合層。掘方。10YR3/1黒褐色土7%。

図155 第2号竪穴建物跡



- SI03**
 1層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ3~5mm)1%。
 2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ3~10mm)2%。
 3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ3~10mm)3%、炭化物(φ3~5mm)1%、焼土(φ5~10mm)2%、ロームブロック(φ15~50mm)20%。
 4層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ3~10mm)10%、ロームブロック(φ15~50mm)7%、炭化物(φ3~5mm)2%、焼土(φ3~10mm)2%。
 5層 10YR2/3 黒褐色土 壁溝堆積土。ローム粒(φ5~10mm)2%、ロームブロック(φ15~30mm)3%、炭化物(φ3~10mm)3%。
 6層 10YR2/2 黒褐色土と10YR6/8明黄褐色土の混合層。掘方。ローム粒(φ1~10mm)5%、ロームブロック(φ10~40mm)30%。

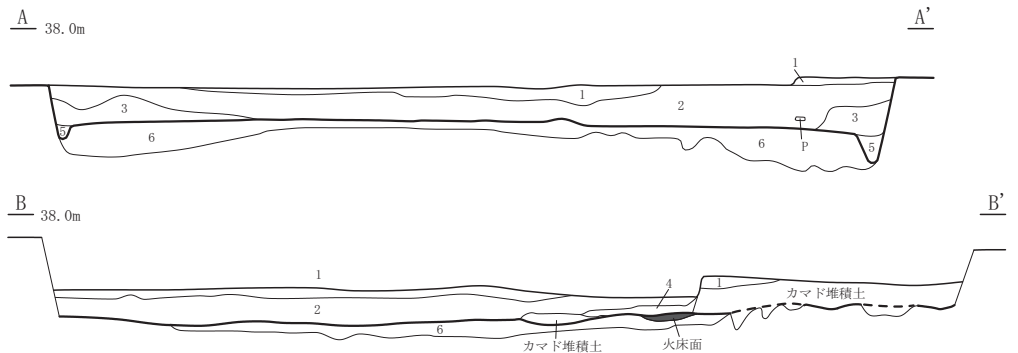
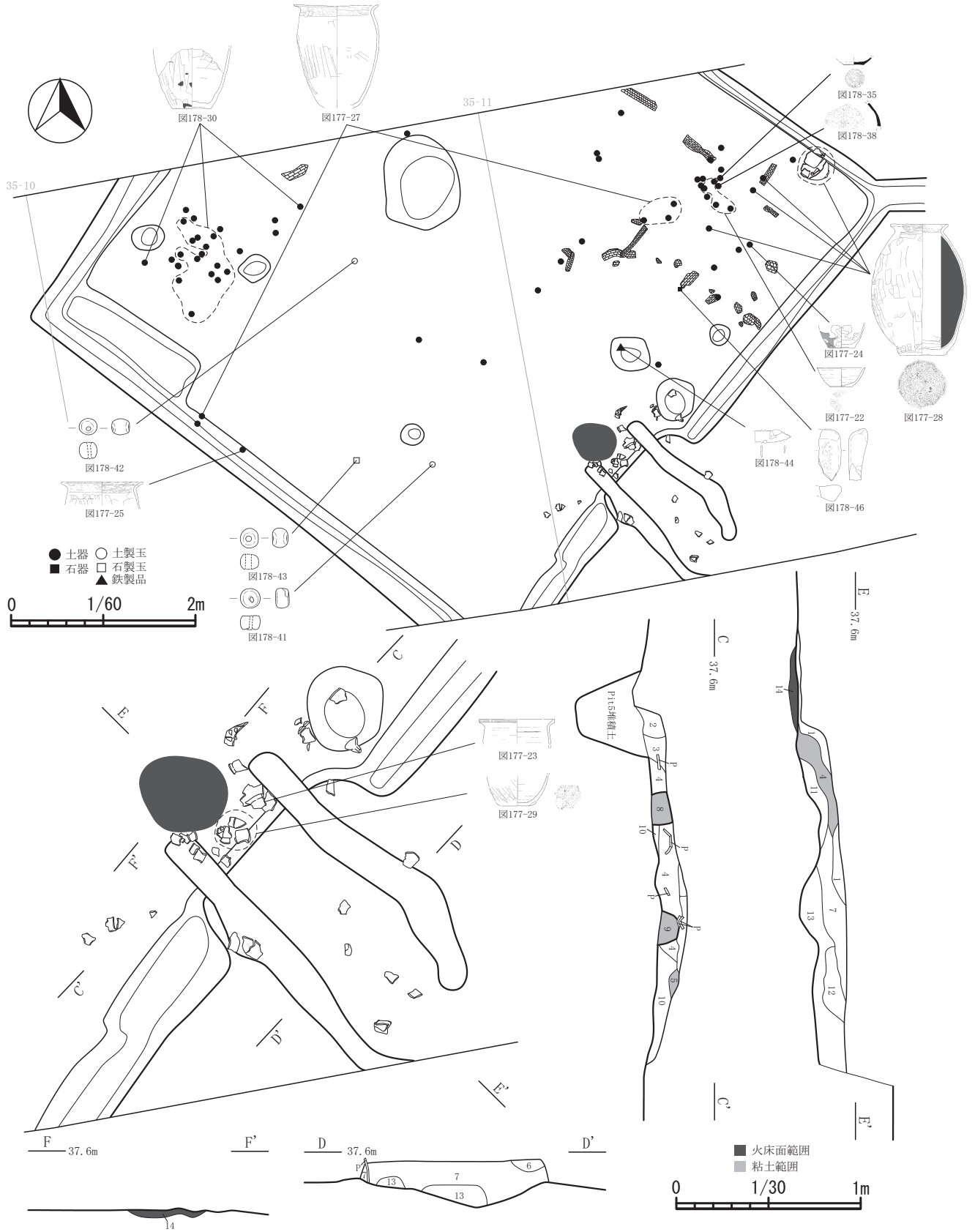


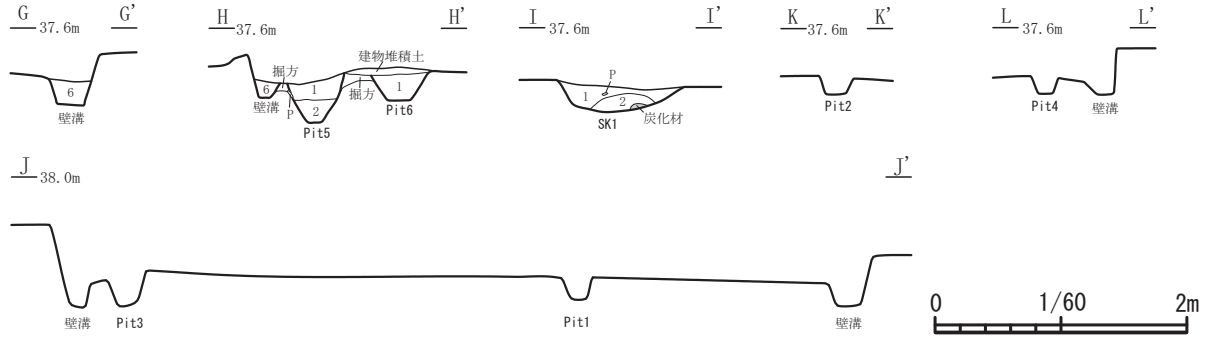
図156 第3号竪穴建物跡(1)

旭
(1)
遺跡
農道35号

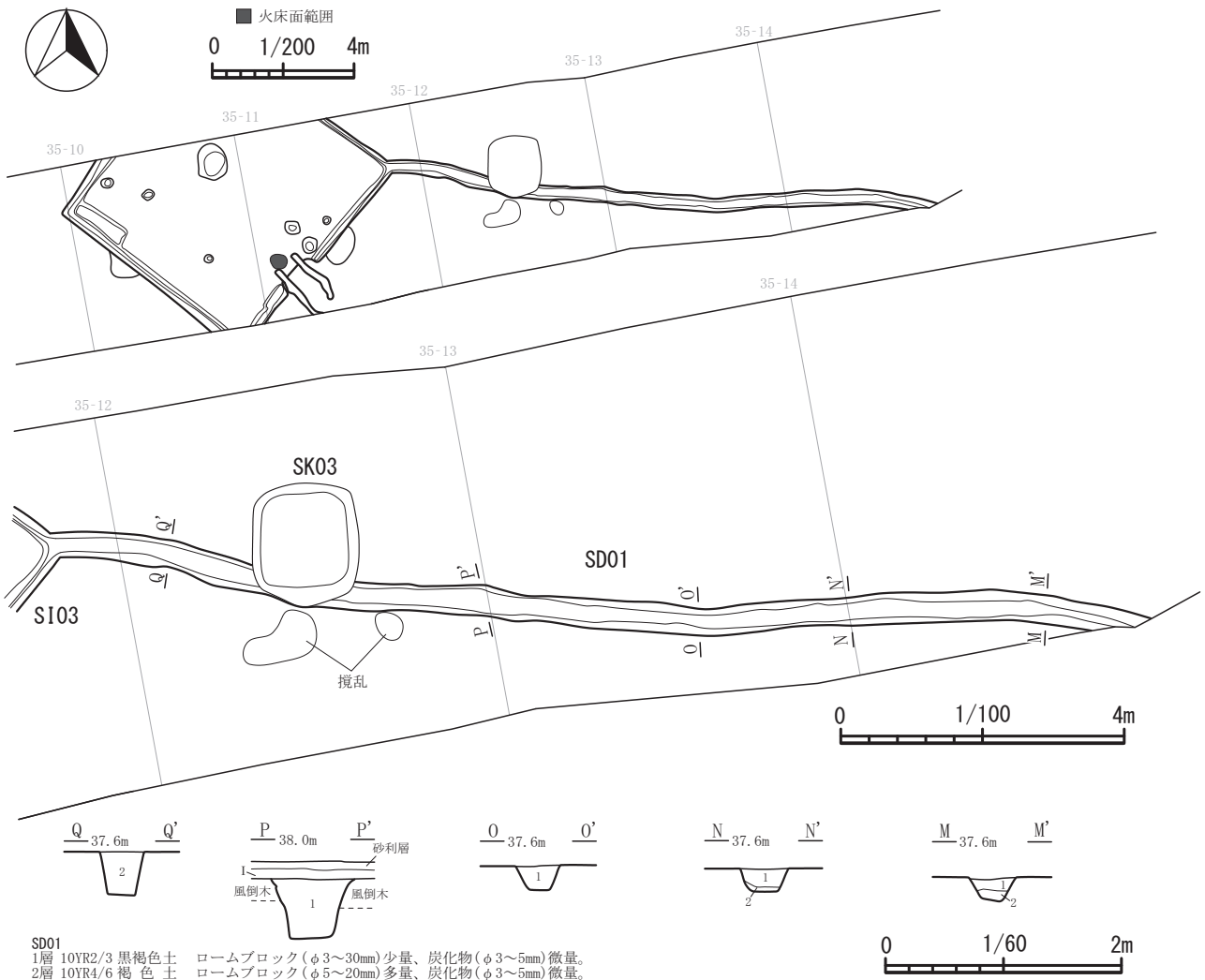


S103 竪穴			
1層 10YR2/3 黒褐色土	ローム粒 (φ5~10mm) 2%、炭化物 (φ3~5mm) 2%、焼土 (φ3~10mm) 2%。	8層 10YR6/4 に赤褐色土	カマド袖。ローム粒 (φ5mm) 1%、炭化物 (φ5mm) 2%、焼土 (φ3~5mm) 1%。
2層 10YR3/4 暗褐色土	ローム粒 (φ5~10mm) 2%、ロームブロック (φ15~20mm) 2%、炭化物 (φ3~5mm) 2%。	9層 10YR5/8 黄褐色土	カマド袖。ローム粒 (φ5~10mm) 2%、炭化物 (φ5mm) 2%。
3層 10YR2/2 黒褐色土	ローム粒 (φ5~10mm) 3%、炭化物 (φ3~10mm) 2%。	10層 10YR2/2 黒褐色土	ローム粒 (φ5~10mm) 2%。
4層 10YR3/4 暗褐色土	ローム粒 (φ5~10mm) 3%、焼土 (φ5~10mm) 3%。	11層 10YR3/3 暗褐色土	ローム粒 (φ5~10mm) 1%、炭化物 (φ3~5mm) 2%、焼土ブロック (φ30mm) 5%。
5層 10YR3/3 暗褐色土	ローム粒 (φ5~10mm) 3%、炭化物 (φ3~10mm) 3%。	12層 10YR3/4 暗褐色土	ローム粒 (φ3~10mm) 3%、焼土 (φ5~10mm) 3%、焼土ブロック (φ50mm) 5%。
6層 10YR4/4 褐色土	ローム粒 (φ5~10mm) 2%、炭化物 (φ5~10mm) 2%、焼土 (φ5~10mm) 2%。	13層 10YR2/2 黒褐色土	ローム粒 (φ3~10mm) 5%、ロームブロック (φ15~30mm) 7%、炭化物 (φ3~5mm) 2%。
7層 10YR2/3 黒褐色土	ローム粒 (φ5~10mm) 2%、焼土 (φ5~10mm) 1%。	14層 5YR4/8 赤褐色土	火床面。

図157 第3号竪穴建物跡 (2)



- SK1**
 1層 10YR3/3 暗褐色土と10YR5/8黄褐色土の混合層。ローム粒(φ3~10mm)3%、ロームブロック(φ15~50mm)7%、炭化物(φ5~10mm)3%。
 2層 10YR5/6 黄褐色土 ローム粒(φ5~10mm)2%、ロームブロック(φ15~30mm)5%、炭化物(φ5~10mm)3%。
- Pit5**
 1層 10YR3/3 暗褐色土と10YR5/8黄褐色土の混合層。ローム粒(φ3~10mm)3%、ロームブロック(φ15~50mm)7%、炭化物(φ5~10mm)3%。
 2層 10YR5/6 黄褐色土 ローム粒(φ5~10mm)2%、ロームブロック(φ15~30mm)5%、炭化物(φ5~10mm)3%。
- Pit6**
 1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ5~10mm)2%、ロームブロック(φ15~35mm)7%、炭化物(φ5~10mm)2%。



- SD01**
 1層 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック(φ3~30mm)少量、炭化物(φ3~5mm)微量。
 2層 10YR4/6 褐色土 ロームブロック(φ5~20mm)多量、炭化物(φ3~5mm)微量。

旭
(1)
遺跡
農道35号

図158 第3号竪穴建物跡(3)

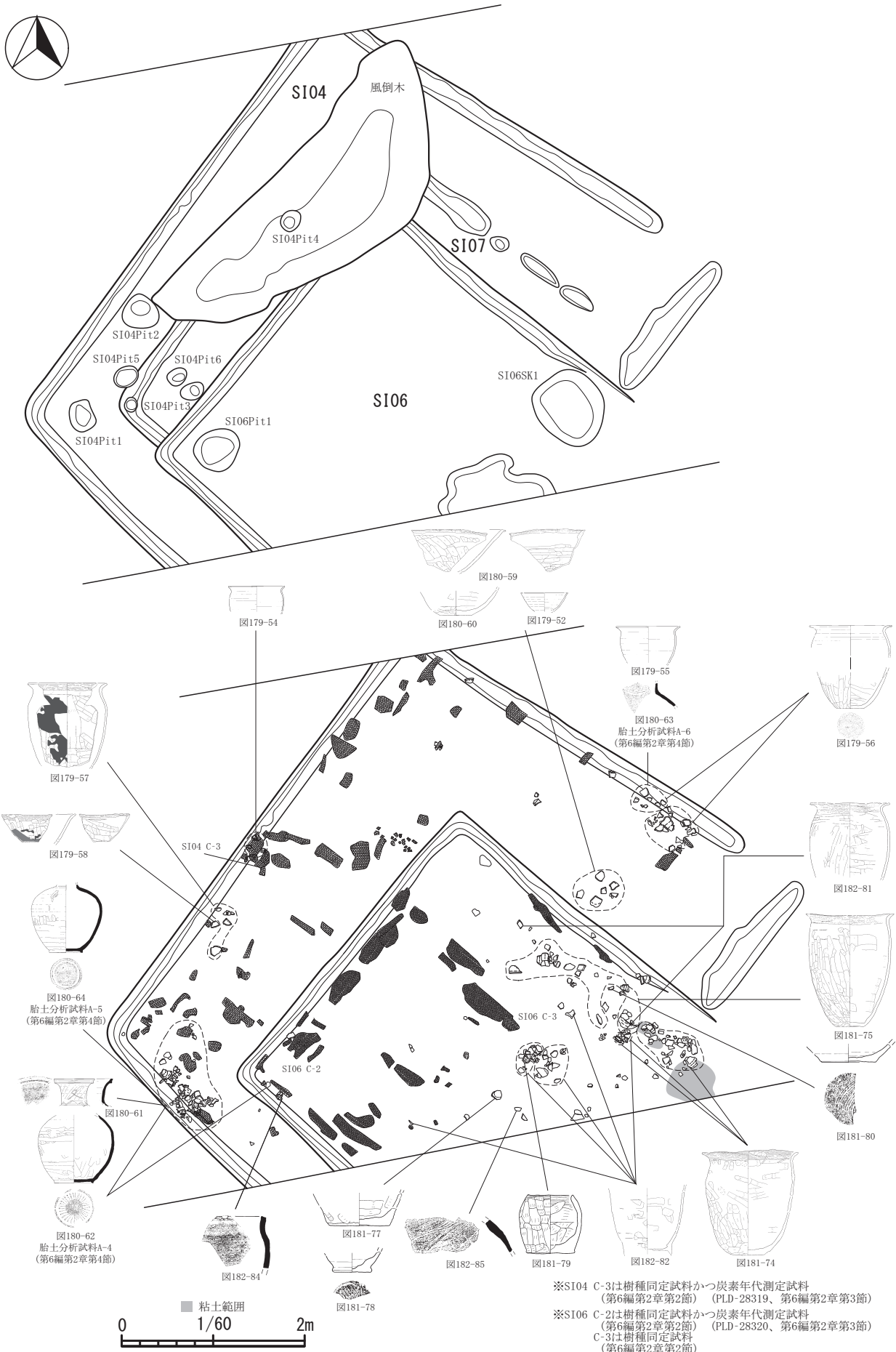
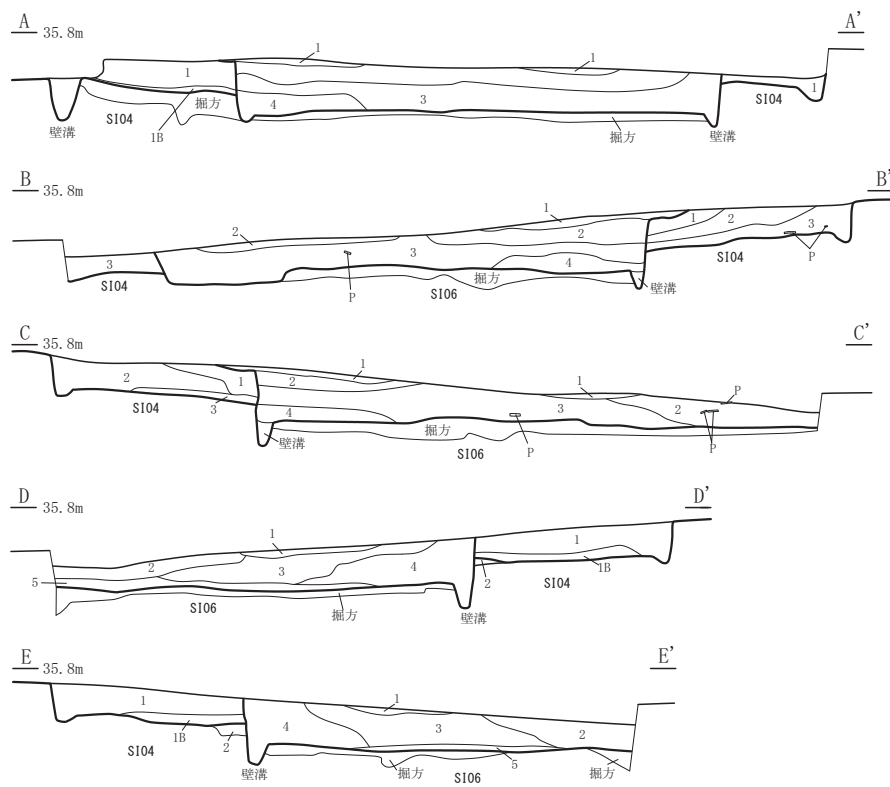
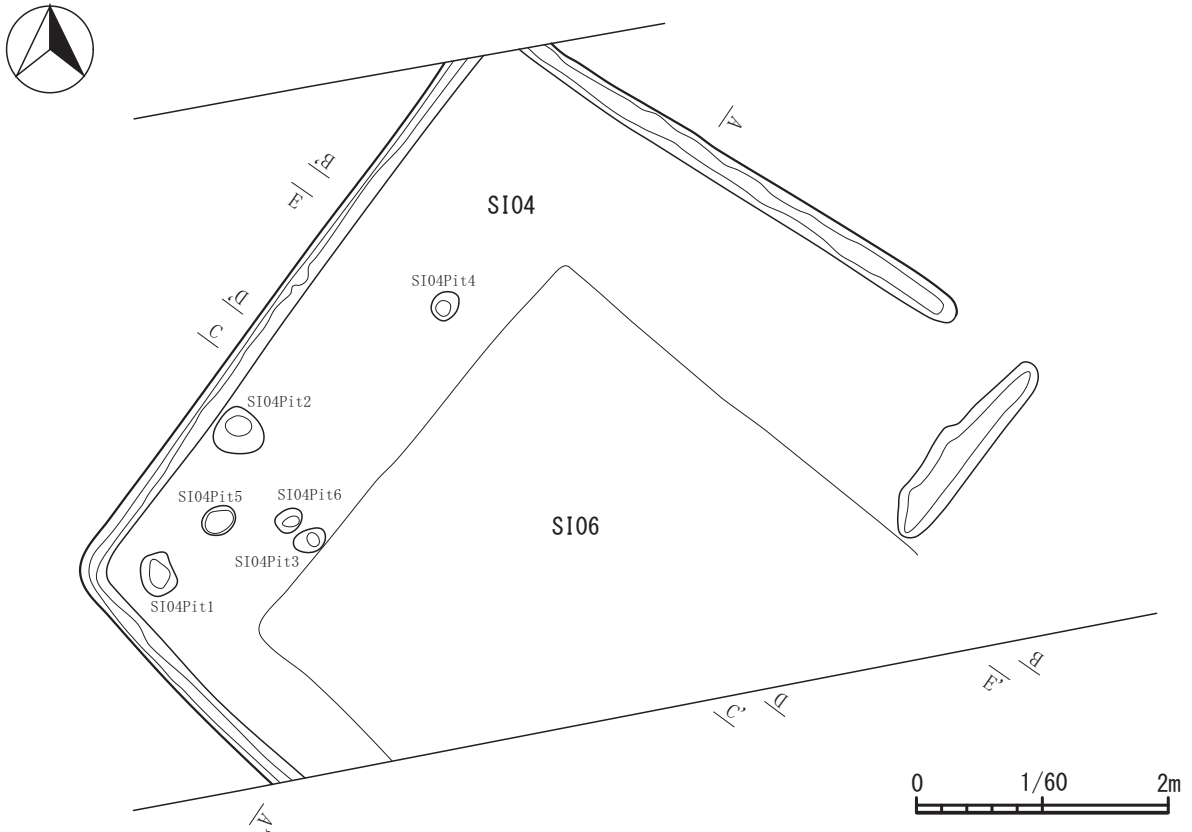


図159 第4号竪穴建物跡(1)・第6号竪穴建物跡(1)・第7号竪穴建物跡(1)



- S104**
- 1層 10YR3/4 暗褐色土。ロームブロック(φ1~12mm)3%、炭化物(φ1~10mm)2%。
 - 1B層 10YR3/4 暗褐色土と10YR4/6褐色土3%の混合層。ローム粒(φ1mm)2%、炭化物(φ1~10mm)2%。
 - 2層 10YR3/3 暗褐色土と10YR5/8黄褐色土30%の混合層。焼土(φ1~7mm)1%、炭化物(φ3mm)1%。
 - 3層 10YR2/3 黒褐色土と10YR5/8黄褐色土10%の混合層。ローム粒(φ1~10mm)3%、炭化物(φ1~3mm)2%。

図160 第4号竪穴建物跡(2)

旭
(1)
遺跡
農道35号

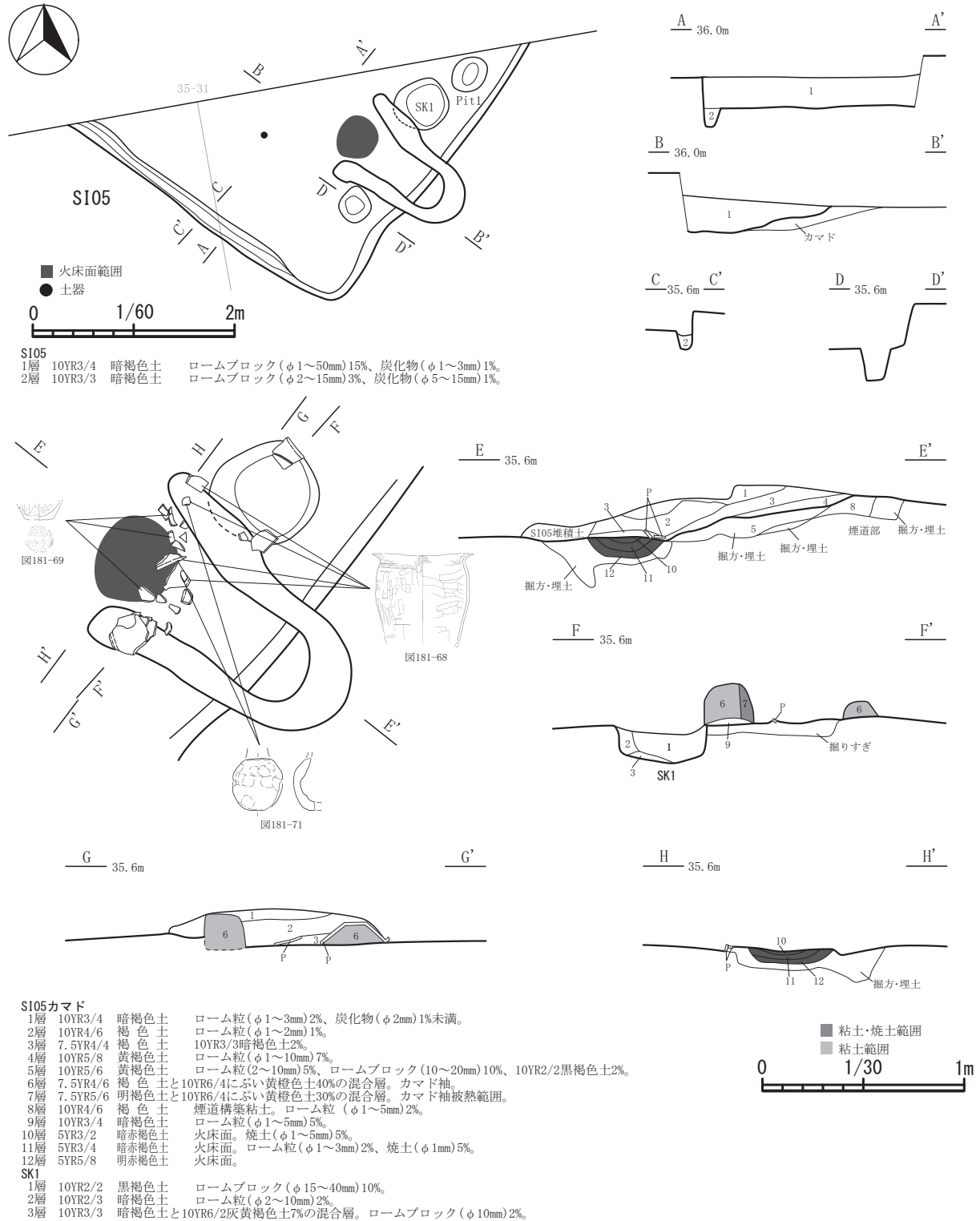
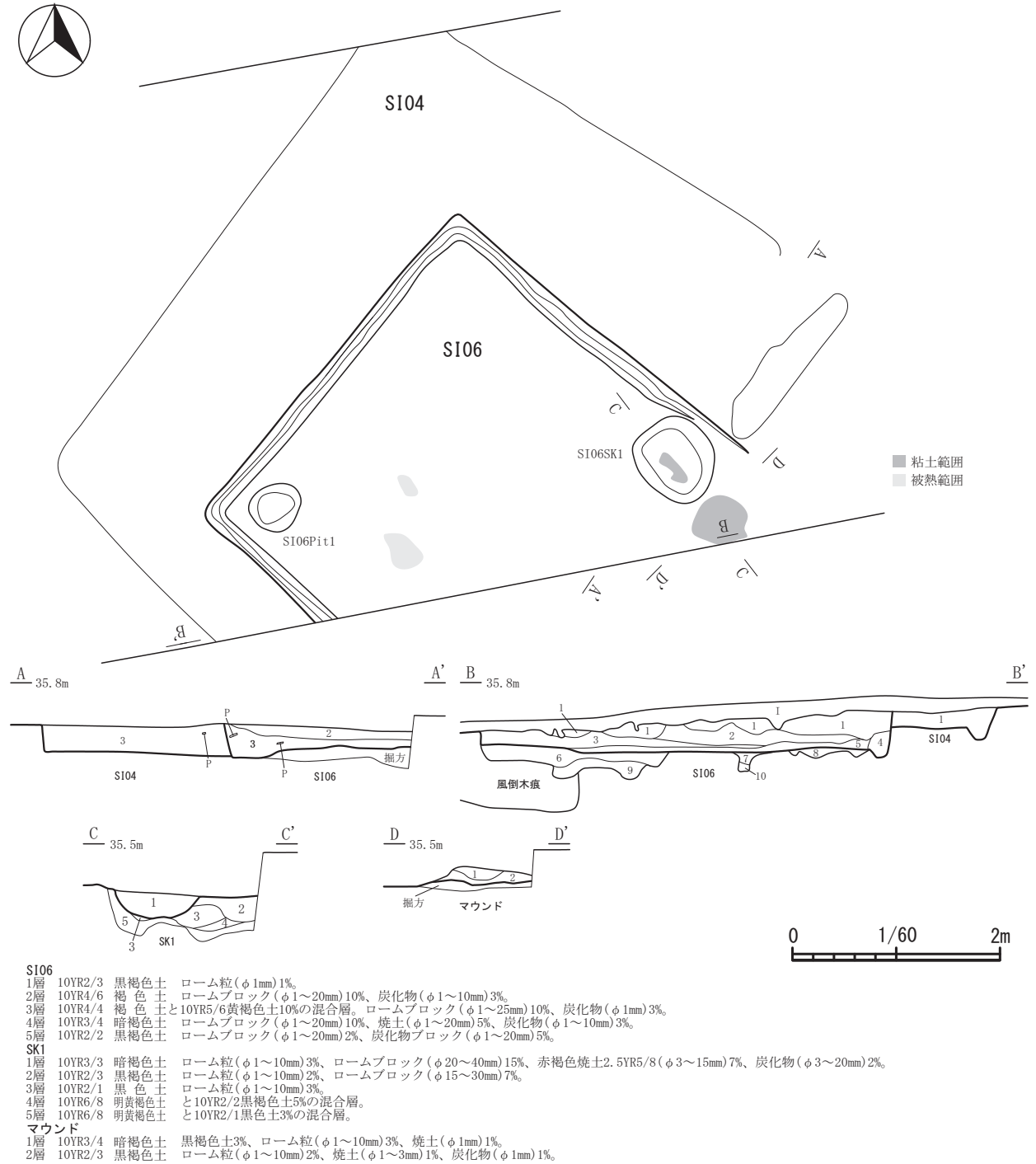


図161 第5号竪穴建物跡



旭
(1)
遺跡
農道35号

図162 第6号竪穴建物跡(2)

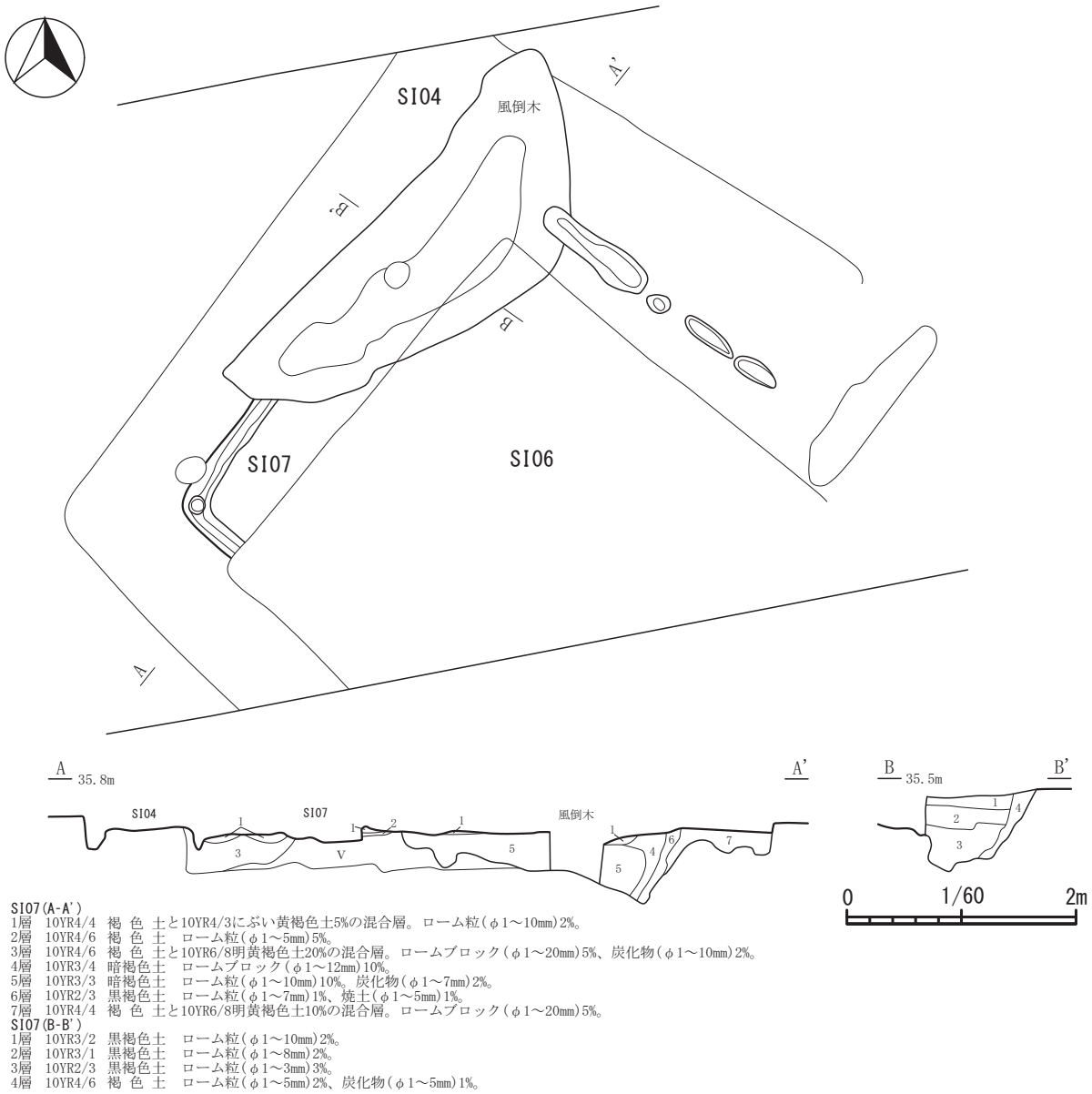


図163 第7号竪穴建物跡(2)

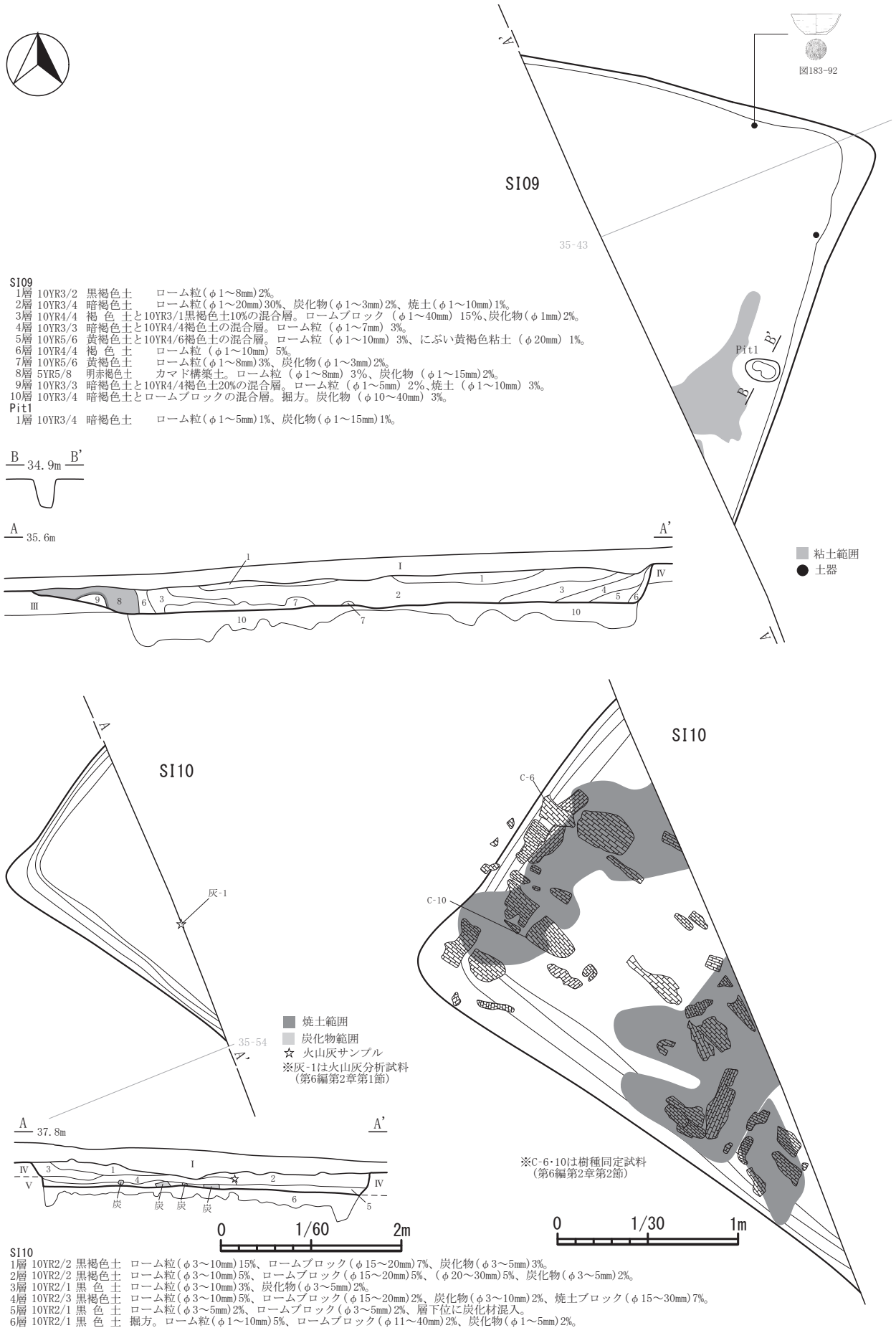


図164 第9号竪穴建物跡・第10号竪穴建物跡

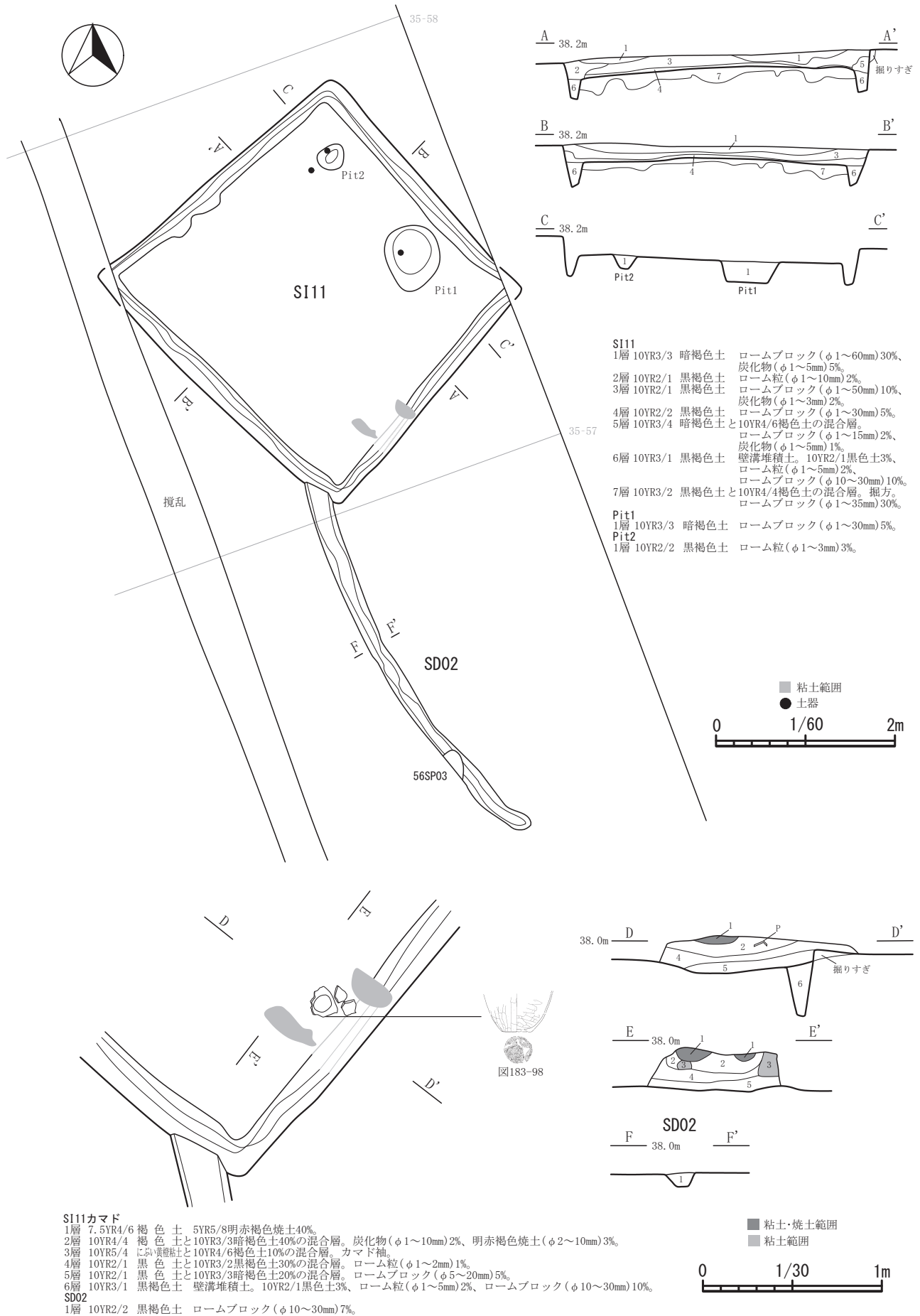
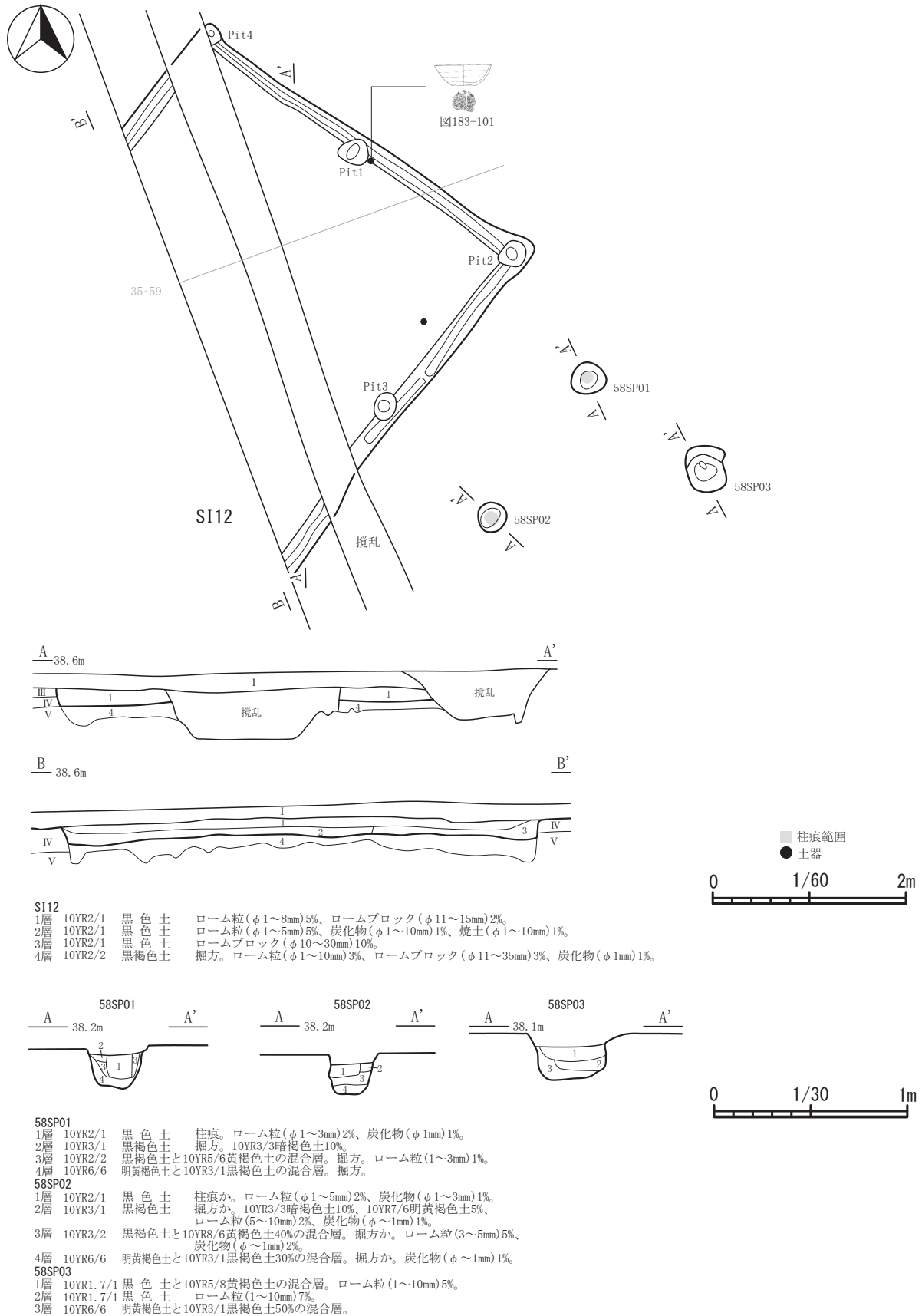
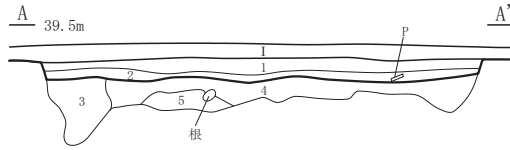
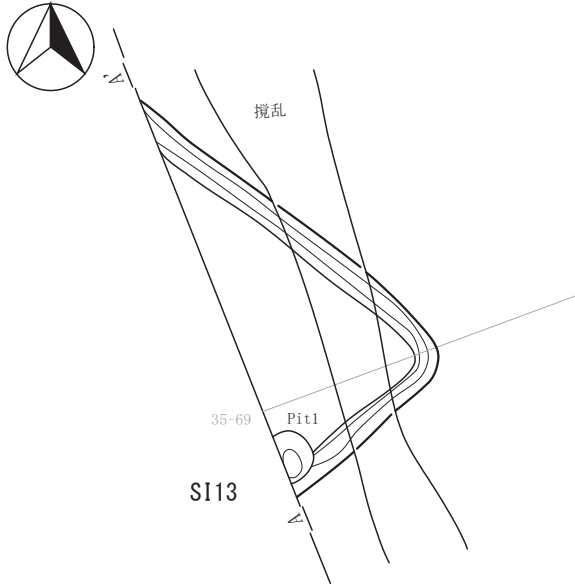


図165 第11号竪穴建物跡

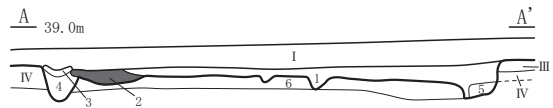
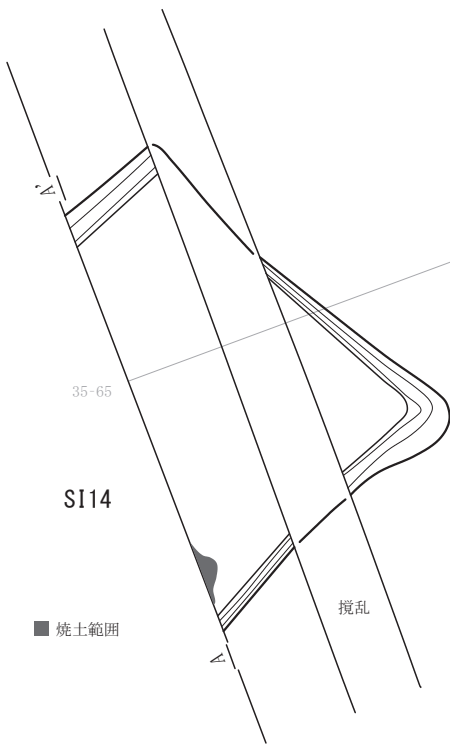


旭
(1)
遺跡
農道35号

図166 第12号竪穴建物跡



- SI13**
- 1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~2mm)1%、7.5YR5/8明褐色焼土(φ1~2mm)1%。
 - 2層 10YR2/2 黒褐色土と7.5YR5/8明褐色焼土の混合層。ローム粒(φ1~8mm)3%。
 - 3層 10YR3/2 黒褐色土と10YR5/8黄褐色土の混合層。ローム粒(φ1~10mm)3%、ロームブロック(φ15~30mm)5%。
 - 4層 10YR2/2 黒褐色土と10YR6/8明黄褐色土10%の混合層。ローム粒(φ1~10mm)2%、ロームブロック(φ20~40mm)7%、7.5YR5/8明褐色焼土(φ1~10mm)5%。
 - 5層 10YR7/6 明黄褐色土と10YR3/3暗褐色土40%の混合層。



- SI14**
- 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/8黄褐色ローム5%、炭化物(φ2~5mm)1%、焼土2%。
 - 2層 5YR4/8 赤褐色土 5YR2/1黒褐色土3%。
 - 3層 10YR2/3 黒褐色土と10YR5/8黄褐色ロームの混合層。
 - 4層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック(φ2~30mm)2%。
 - 5層 10YR2/2 黒褐色土と10YR5/8黄褐色ロームの混合層。炭化物(φ1~2mm)1%、焼土(φ2~3mm)1%。
 - 6層 10YR2/2 黒褐色土と10YR5/8黄褐色ロームの混合層。掘方。炭化物(φ1~2mm)1%、焼土(φ2~3mm)1%。

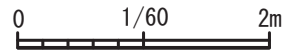
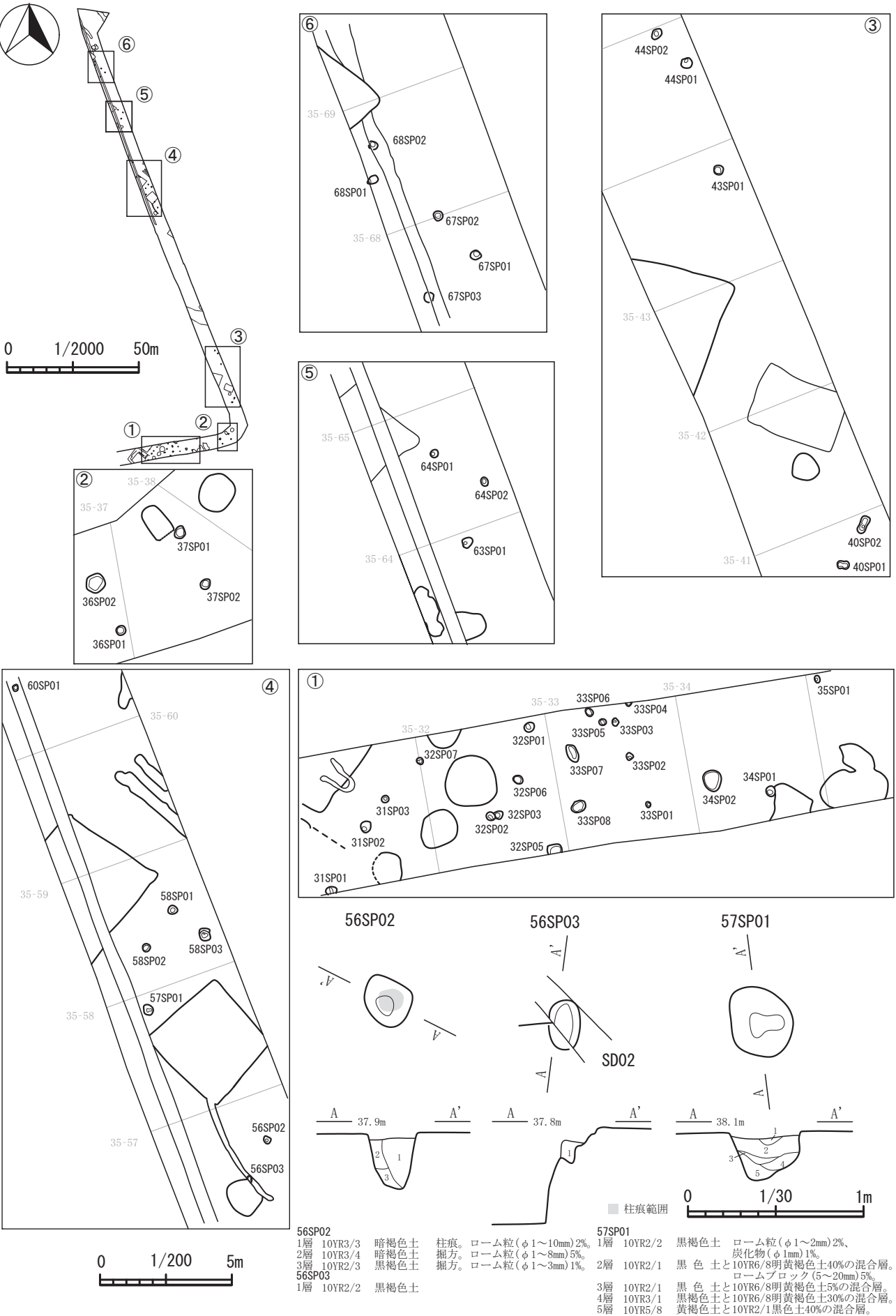
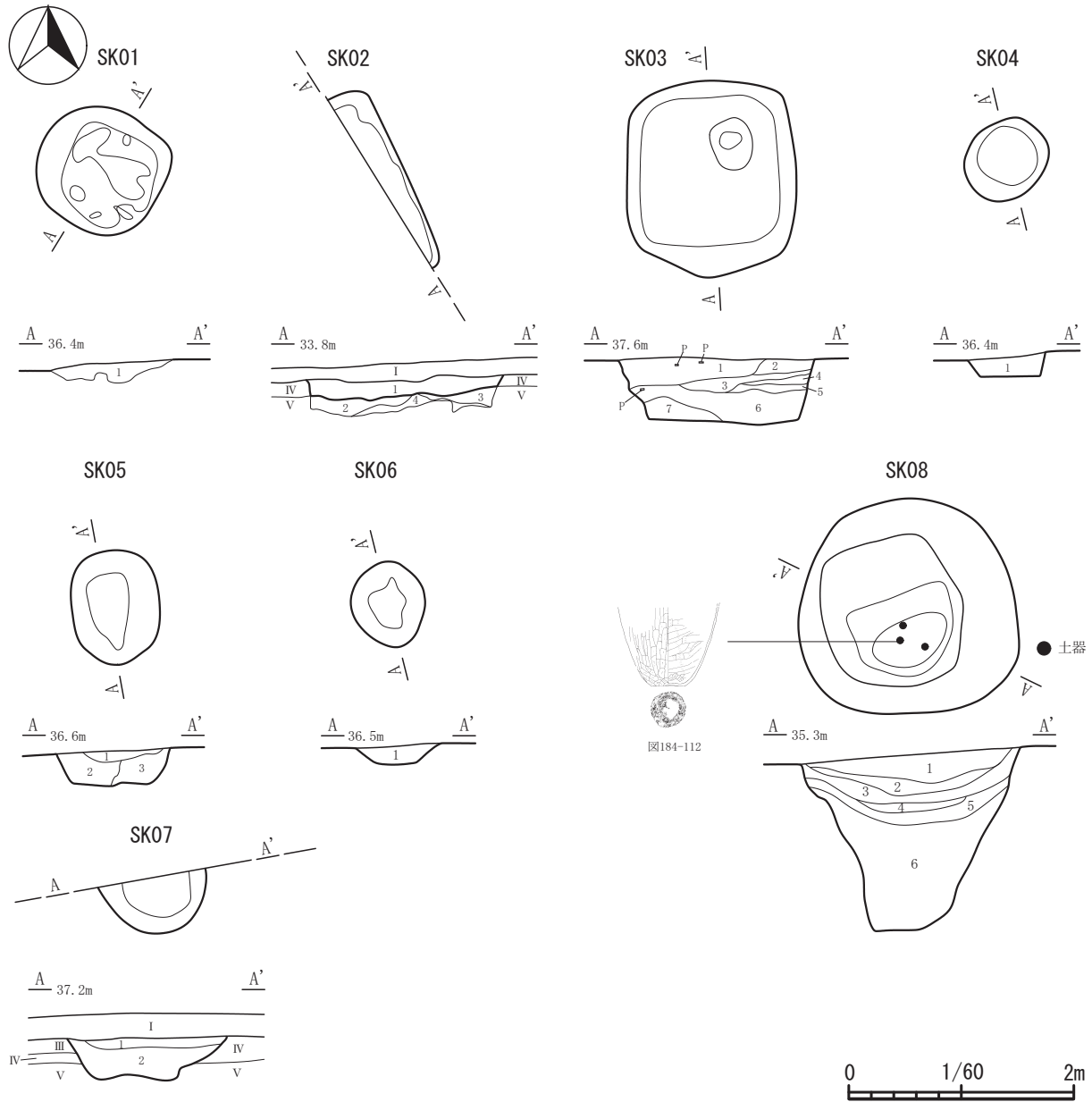


図167 第13号竪穴建物跡・第14号竪穴建物跡



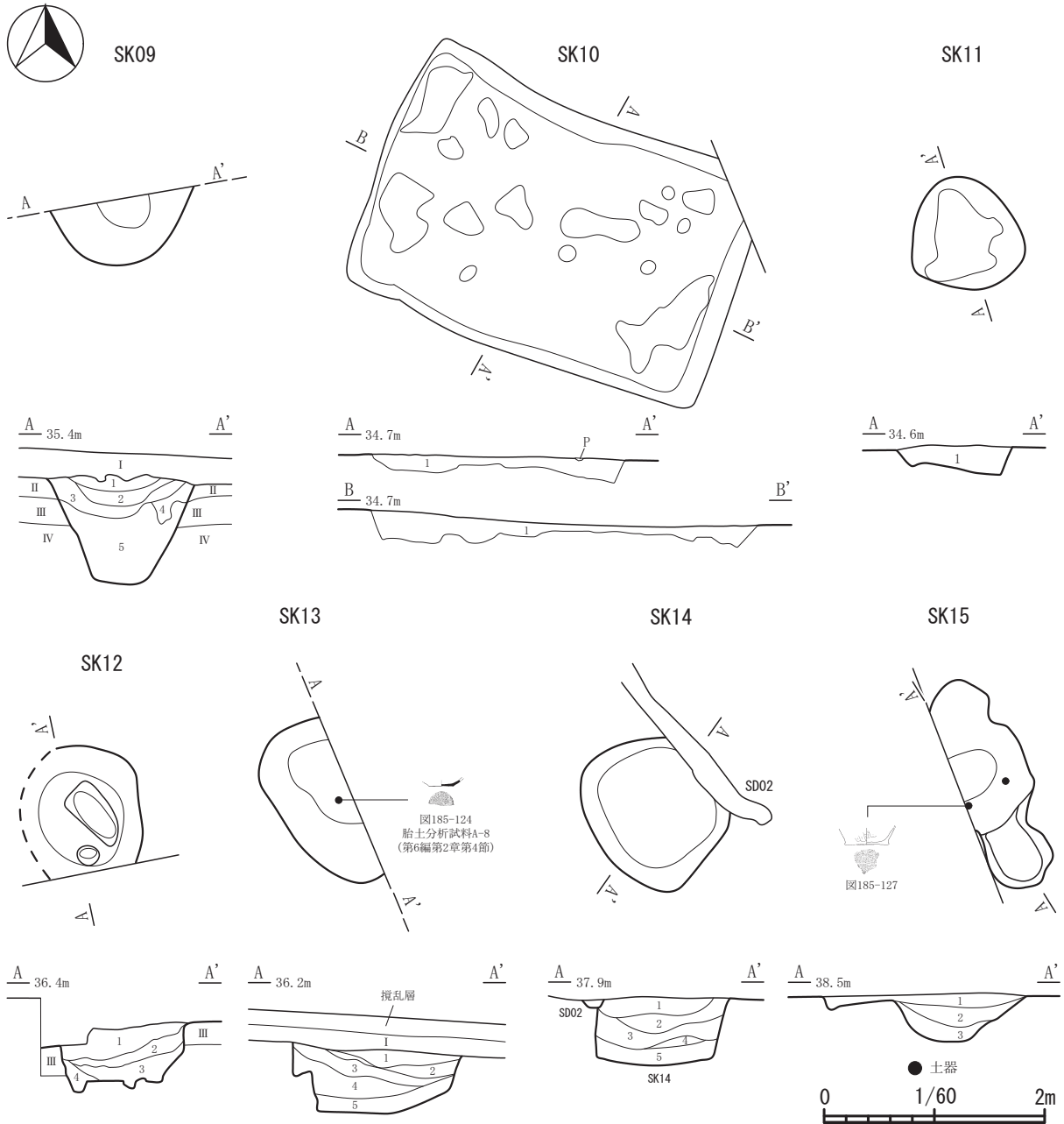
旭
(1)
遺跡
農道35号

図168 柱穴



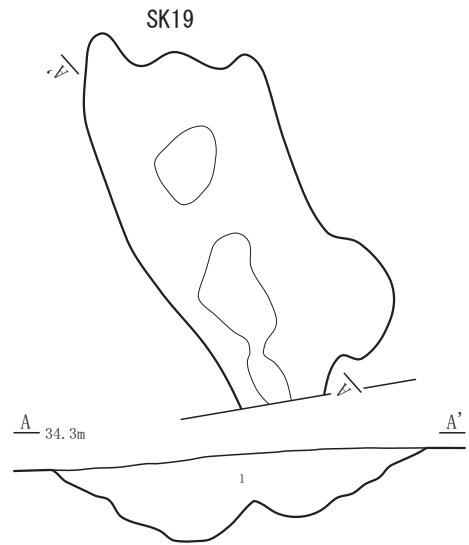
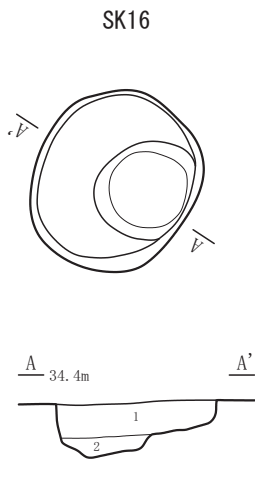
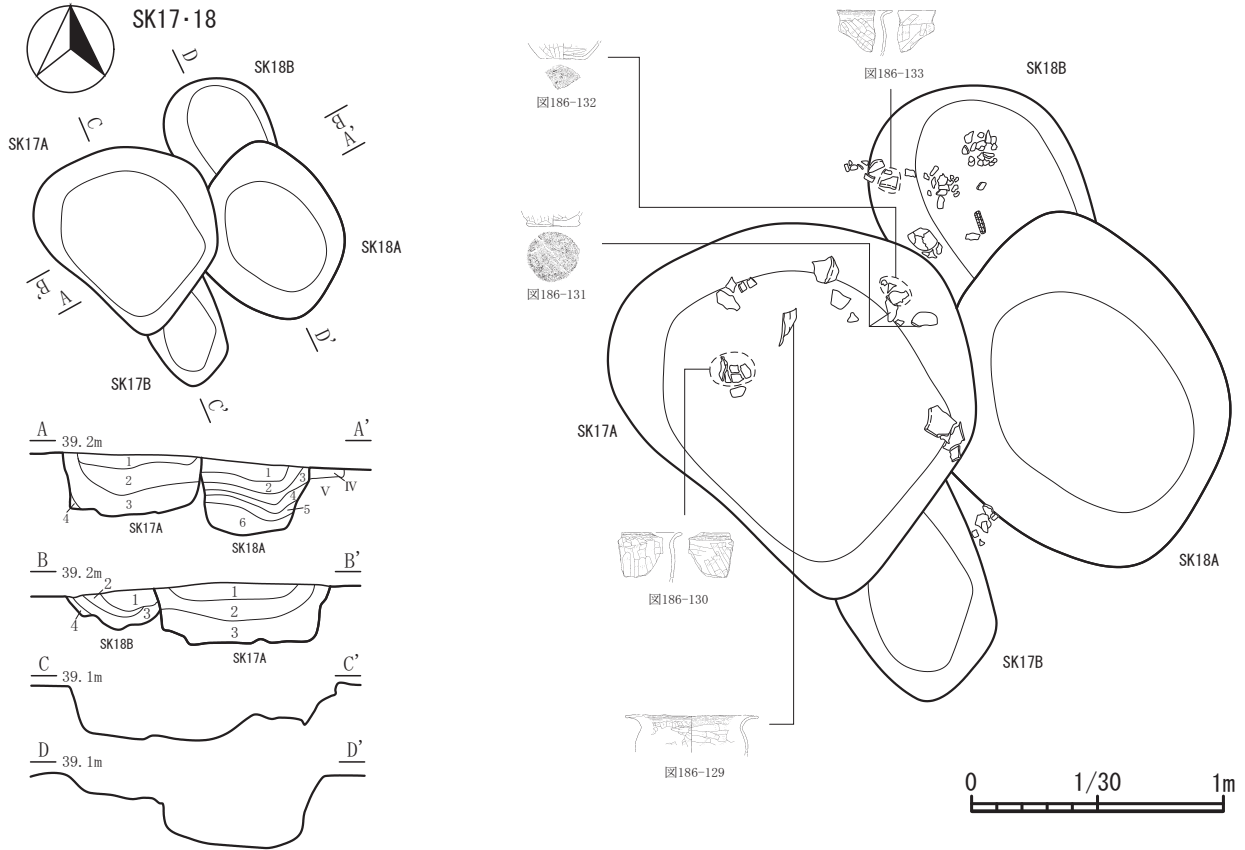
- SK01**
 1層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ5~10mm)微量、炭化物(φ5mm)微量、層下位に10YR4/6褐色土が混入。
- SK02**
 1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ3~10mm)3%、ロームブロック(φ15~20mm)5%、炭化物(φ5~10mm)2%。
 2層 10YR2/3 黒褐色土 掘方。ローム粒(φ5~10mm)3%、炭化物(φ3~5mm)2%。
 3層 10YR2/3 黒褐色土 掘方。ローム粒(φ3~10mm)3%、ロームブロック(φ15~20mm)1%、炭化物(φ3~5mm)1%。
 4層 10YR4/6 褐色土 掘方。ローム粒(φ5~10mm)2%、ロームブロック(φ15~20mm)5%、炭化物(φ5~10mm)3%。
- SK03**
 1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ3~10mm)10%、ロームブロック(φ15~35mm)5%、炭化物(φ5~10mm)3%。
 2層 10YR4/4 褐色土 ローム粒(φ5~10mm)3%、ロームブロック(φ15~20mm)5%、炭化物(φ3~5mm)3%。
 3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ3~10mm)3%、ロームブロック(φ15~20mm)3%、炭化物(φ3~10mm)2%。
 4層 10YR5/8 黄褐色土 ローム粒(φ3~10mm)3%、炭化物(φ3~5mm)2%。
 5層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ3~10mm)3%、ロームブロック(φ15~20mm)3%、炭化物(φ3~5mm)2%。
 6層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ3~10mm)7%、ロームブロック(φ15~20mm)5%、炭化物(φ3~10mm)3%。
 7層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ3~10mm)5%、ロームブロック(φ15~20mm)7%、炭化物(φ3~10mm)2%。
- SK04**
 1層 10YR3/4 暗褐色土と10YR4/6褐色土10%の混合層。ローム粒(φ1~10mm)5%。
- SK05**
 1層 10YR2/2 黒褐色土と10YR3/3暗褐色土5%の混合層。ローム粒(φ1~5mm)混入。
 2層 10YR3/4 暗褐色土と10YR2/3黒褐色土15%の混合層。ローム粒(φ1~10mm)、炭化物(φ1~3mm)1%。
 3層 10YR3/4 暗褐色土と10YR4/6褐色土の混合層。ローム粒(φ1~15mm)15%、炭化物(φ1~3mm)3%。
- SK06**
 1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
- SK07**
 1層 10YR2/3 黒褐色土と10YR3/3暗褐色土の混合層。ローム粒(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%。
 2層 10YR4/6 褐色土と10YR3/4暗褐色土20%の混合層。ローム粒(φ1~3mm)10%、炭化物(φ1~3mm)2%。
- SK08**
 1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%、5YR4/8赤褐色焼土(φ1mm)1%。
 2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
 3層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1mm)1%。
 4層 10Y1.7/1 黒色土 ローム粒(φ1~5mm)1%。
 5層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~10mm)5%。
 6層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ1~10mm)2%。

図169 土坑(1)



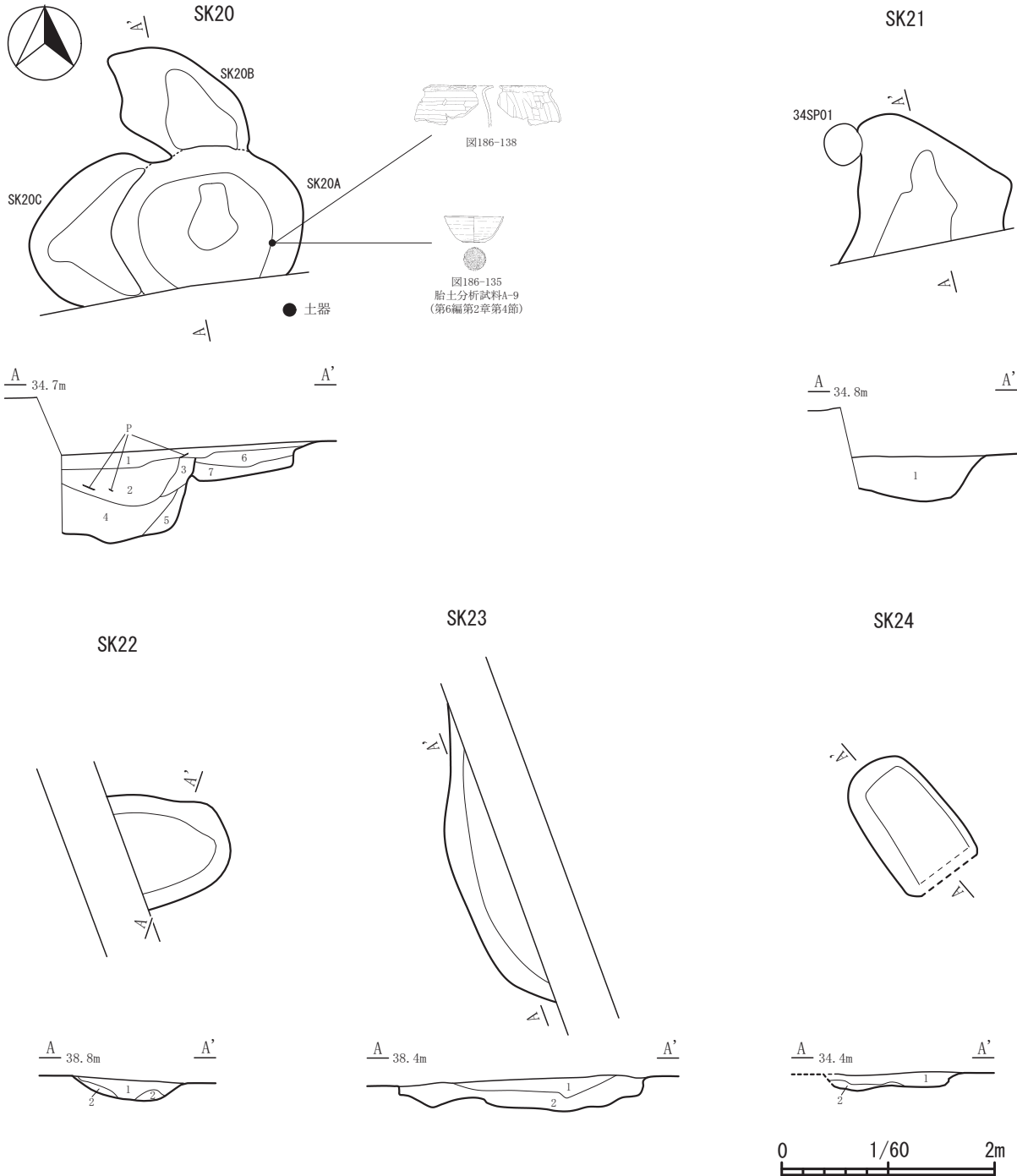
- SK09**
 1層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1~2mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
 2層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~10mm)2%。
 3層 10YR3/3 暗褐色土と10YR4/6褐色土10%の混合層。ローム粒(φ1~15mm)3%、炭化物(φ1mm)1%、焼土(φ1~3mm)1%。
 4層 10YR4/4 褐色土 ローム粒(φ1mm)1%。
 5層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~15mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
- SK10**
 1層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック(φ1~40mm)30%、2.5YR6/1赤灰色粘土ブロック(φ20mm)1%。
- SK11**
 1層 10YR2/1 黒色土 ロームブロック(φ1~20mm)3%。
- SK12**
 1層 10YR3/2 黒褐色土と10YR3/4暗褐色土5%の混合層。ローム粒(φ1~10mm)3%、炭化物(φ1~3mm)2%。
 2層 10YR4/6 褐色土 ロームブロック(φ1~20mm)5%、炭化物(φ1mm)2%。
 3層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~10mm)2%、明黄褐色粘土10YR7/6(φ1~20mm)1%。
 4層 10YR5/8 黄褐色土と10YR3/3暗褐色土30%の混合層。ローム粒(φ1~3mm)3%。
- SK13**
 1層 10YR3/1 黒褐色土 ロームブロック(φ1~40mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
 2層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック(φ1~15mm)2%。
 3層 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ1~30mm)10%、炭化物(φ1~3mm)2%。
 4層 10YR2/3 黒褐色土 ロームブロック(φ1~35mm)5%、炭化物(φ1~7mm)2%。
 5層 10YR2/1 黒色土 ロームブロック(φ1~20mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
- SK14**
 1層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック(φ1~30mm)3%。
 2層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)3%。
 3層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック(φ1~45mm)5%。
 4層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)2%。
 5層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック(φ1~15mm)5%。
- SK15**
 1層 10YR2/1 黒色土 ロームブロック(φ1~20mm)1%、炭化物(φ2~8mm)1%。
 2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム5%、10YR7/6明黄褐色粘土1%。
 3層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム10%。

図170 土坑(2)



- SK16**
 1層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ3~5mm)2%、炭化物(φ3~10mm)2%、焼土(φ5mm)1%。
 2層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ3~5mm)3%、炭化物(φ3~5mm)2%。
- SK17**
 1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)1%、炭化物(φ1~2mm)1%未満。
 2層 10YR3/3 暗褐色土 10YR2/3黒褐色土15%、ロームブロック(φ1~40mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 3層 10YR2/2 黒褐色土 10YR2/3黒褐色土10%、ロームブロック(φ1~15mm)1%、炭化物(φ1~10mm)1%、焼土ブロック(φ50mm)1%。
 4層 10YR3/3 暗褐色土 10YR6/8明黄褐色土15%。
- SK18A**
 1層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック(φ1~20mm)2%、炭化物(φ1~3mm)1%。
 2層 10YR2/3 暗褐色土 10YR3/3暗褐色土25%、ローム粒(φ1~15mm)3%。
 3層 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ1~50mm)3%。
 4層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~8mm)1%未満。
 5層 10YR3/3 暗褐色土と10YR6/8明黄褐色土の混合層。ローム粒(φ1~15mm)3%。
 6層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック(φ1~40mm)2%。
- SK18B**
 1層 10YR3/2 黒褐色土 ロームブロック(φ1~30mm)2%、焼土(φ2mm)1%。
 2層 10YR5/4 にい黄褐色土 10YR2/3黒褐色土15%、炭化物(φ2~10mm)1%。
 3層 10YR3/3 暗褐色土 ロームブロック(φ2~20mm)1%。
 4層 10YR4/4 褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合層。
- SK19**
 1層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ3~10mm)2%。

図171 土坑(3)



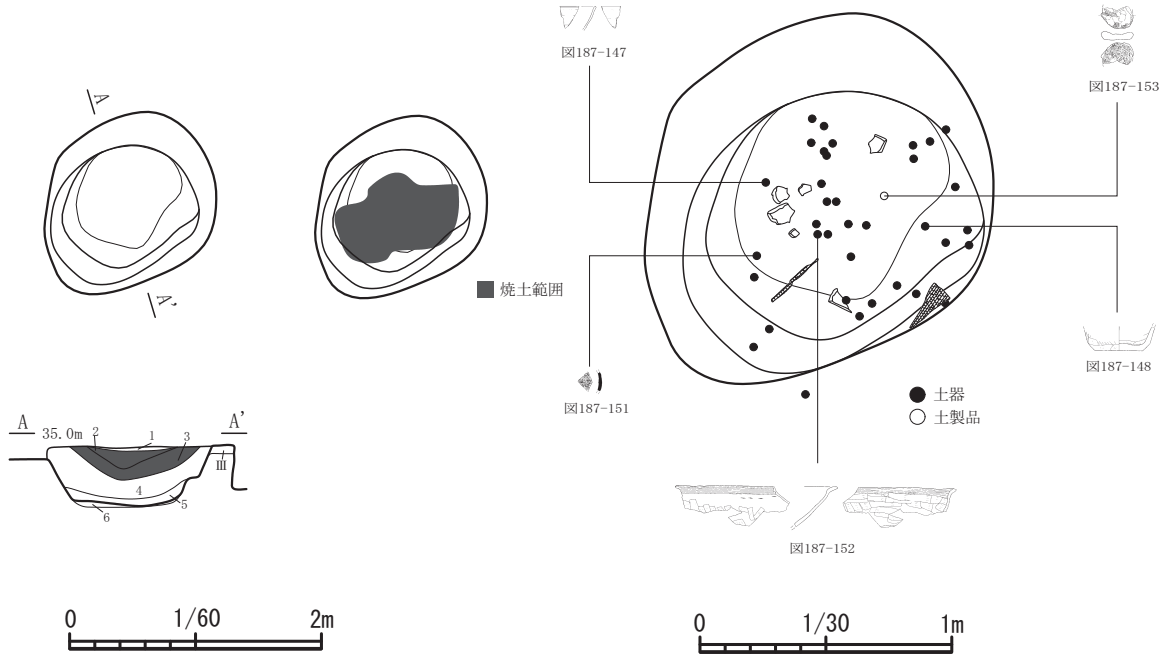
- SK20**
 1層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ3~5mm)1%、炭化物(φ3~10mm)1%。
 2層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ3~10mm)3%、ロームブロック(φ15~20mm)2%、炭化物(φ5~10mm)2%、焼土(φ5~10mm)3%。
 3層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ3~5mm)1%。
 4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ3~10mm)2%、ロームブロック(φ20~60mm)2%、炭化物(φ3~10mm)3%。
 5層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ3~10mm)3%、ロームブロック(φ15~20mm)2%、炭化物(φ3~10mm)2%。
 6層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ3~10mm)1%。
 7層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ3~10mm)、ロームブロック(φ15~50mm)2%。
- SK21**
 1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ3~10mm)1%。
- SK22**
 1層 10YR3/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色土5%、ローム粒(φ1~5mm)、炭化物(φ2~5mm)1%。
 2層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/6黄褐色土30%、10YR6/8明黄褐色土10%。
- SK23**
 1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR3/3暗褐色土15%。
 2層 10YR4/6 褐色土と10YR5/6黄褐色土の混合層。10YR6/8明黄褐色土ローム20%。
- SK24**
 1層 10YR2/1 黒色土 ローム粒(φ2~10mm)1%。
 2層 10YR4/6 褐色土 10YR3/4暗褐色土10%。

図172 土坑(4)

旭
(1)
遺跡
農道35号



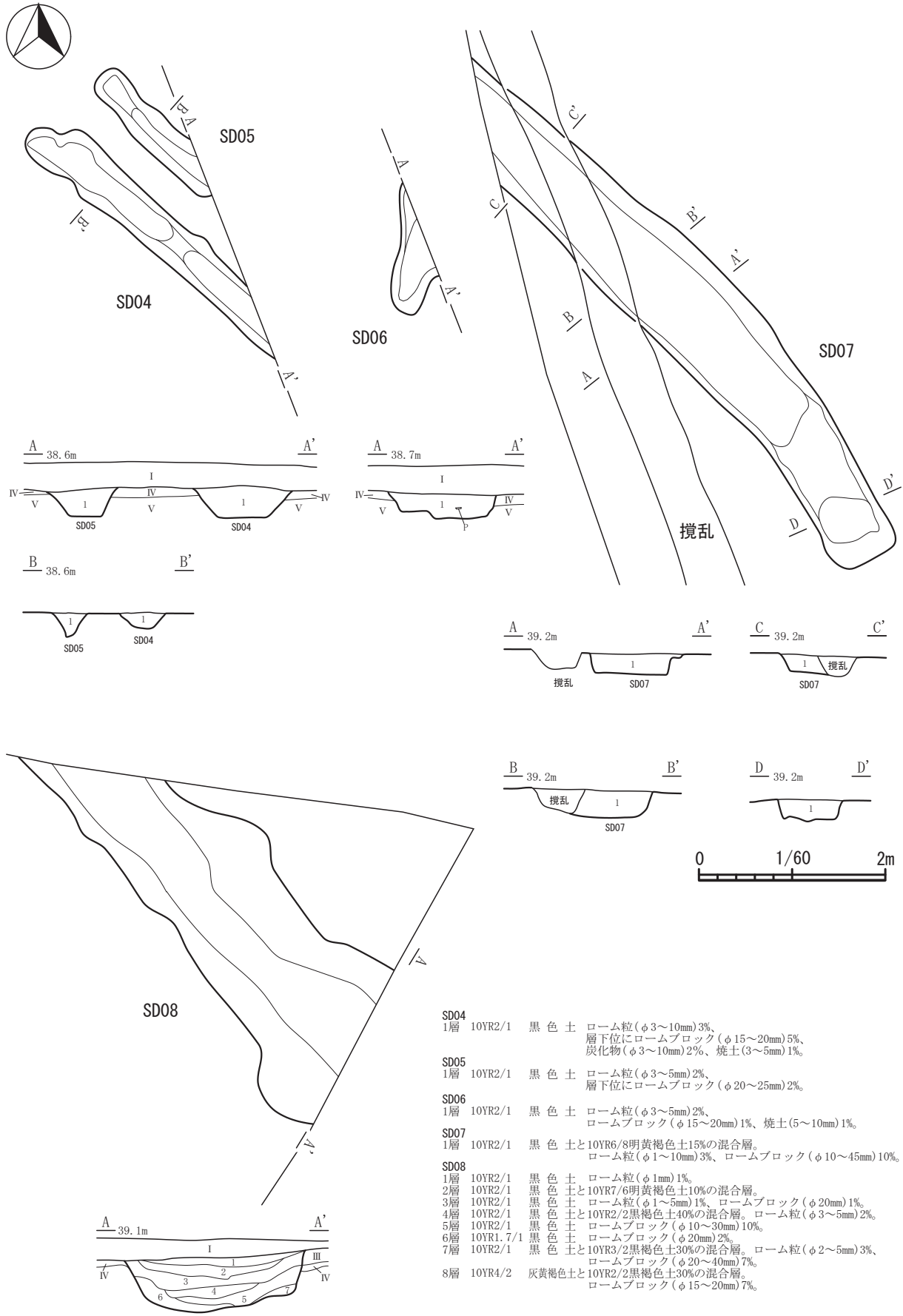
SK25



SK25

- 1層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1~8mm)2%。
- 2層 7.5YR4/6 褐色土と10YR3/4暗褐色土30%の混合層。ローム粒(φ1~10mm)3%、炭化物(φ1~12mm)2%、焼土ブロック(φ1~30mm)5%。
- 3層 10YR3/3 暗褐色土と10YR4/6褐色土30%の混合層。ローム粒(φ1~10mm)2%、炭化物(φ1~10mm)2%、焼土(φ1~7mm)1%。
- 4層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1~20mm)3%、焼土(φ1~7mm)1%。
- 5層 10YR2/2 黒褐色土 ロームブロック(φ1~25mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
- 6層 10YR5/8 黄褐色土と10YR3/3暗褐色土10%の混合層。掘方。ローム粒(φ1~5mm)20%、炭化物(φ1~10mm)10%。

図173 土坑(5)



旭
(1)
遺跡
農道35号

図174 溝跡

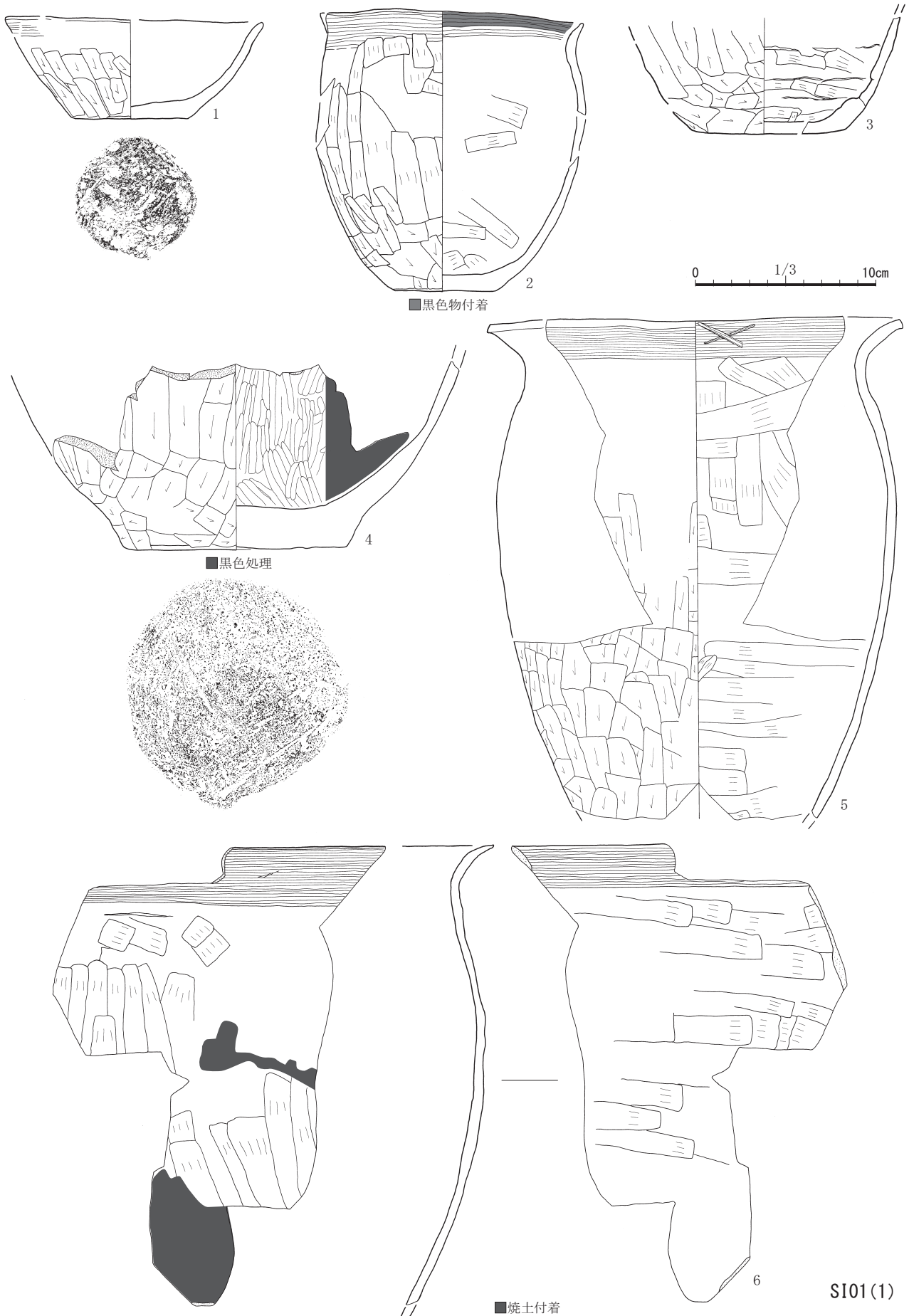
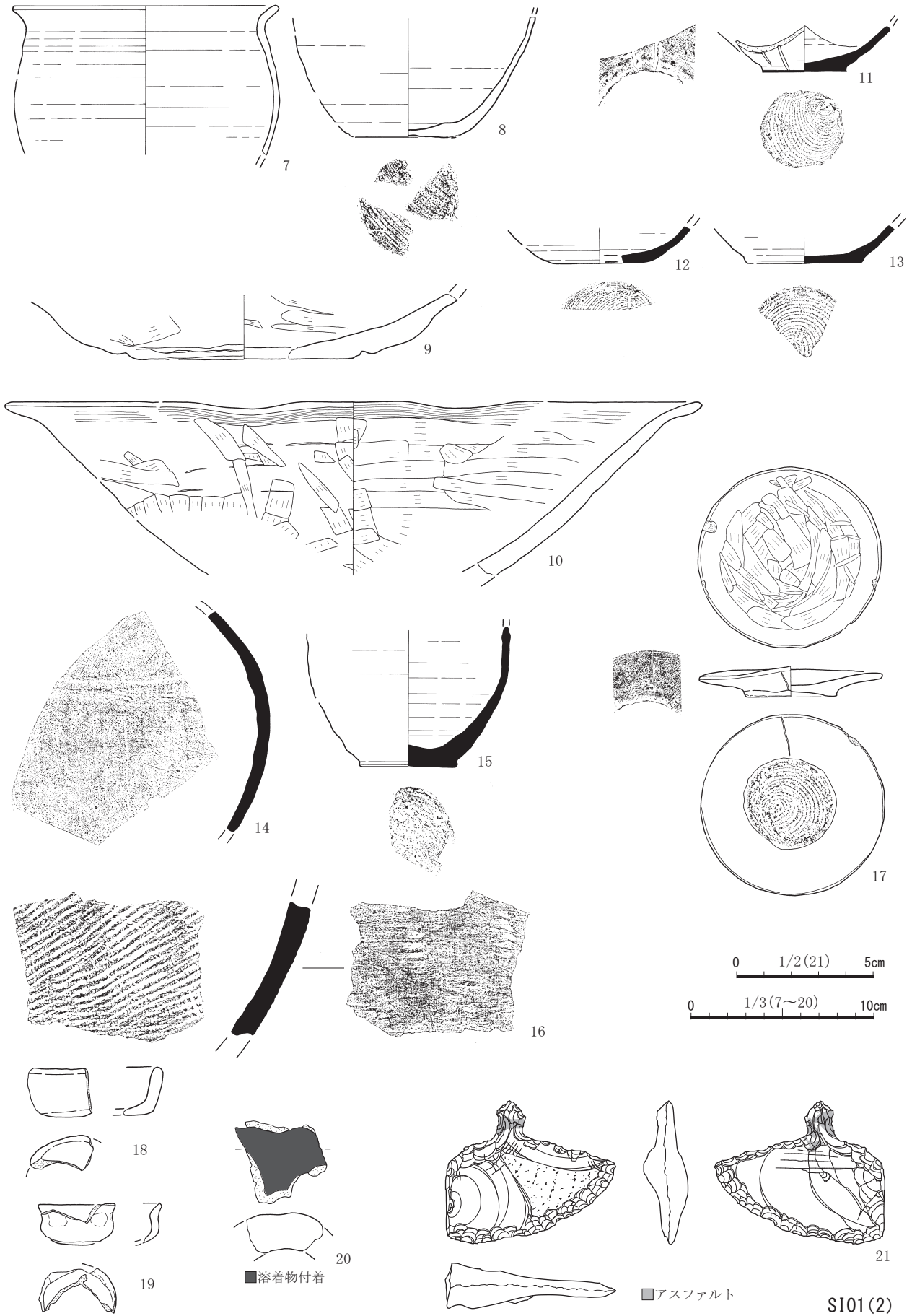


图175 第1号豎穴建物跡(1) 出土遺物



旭
(1)
遺跡
農道35号

図176 第1号竪穴建物跡(2) 出土遺物

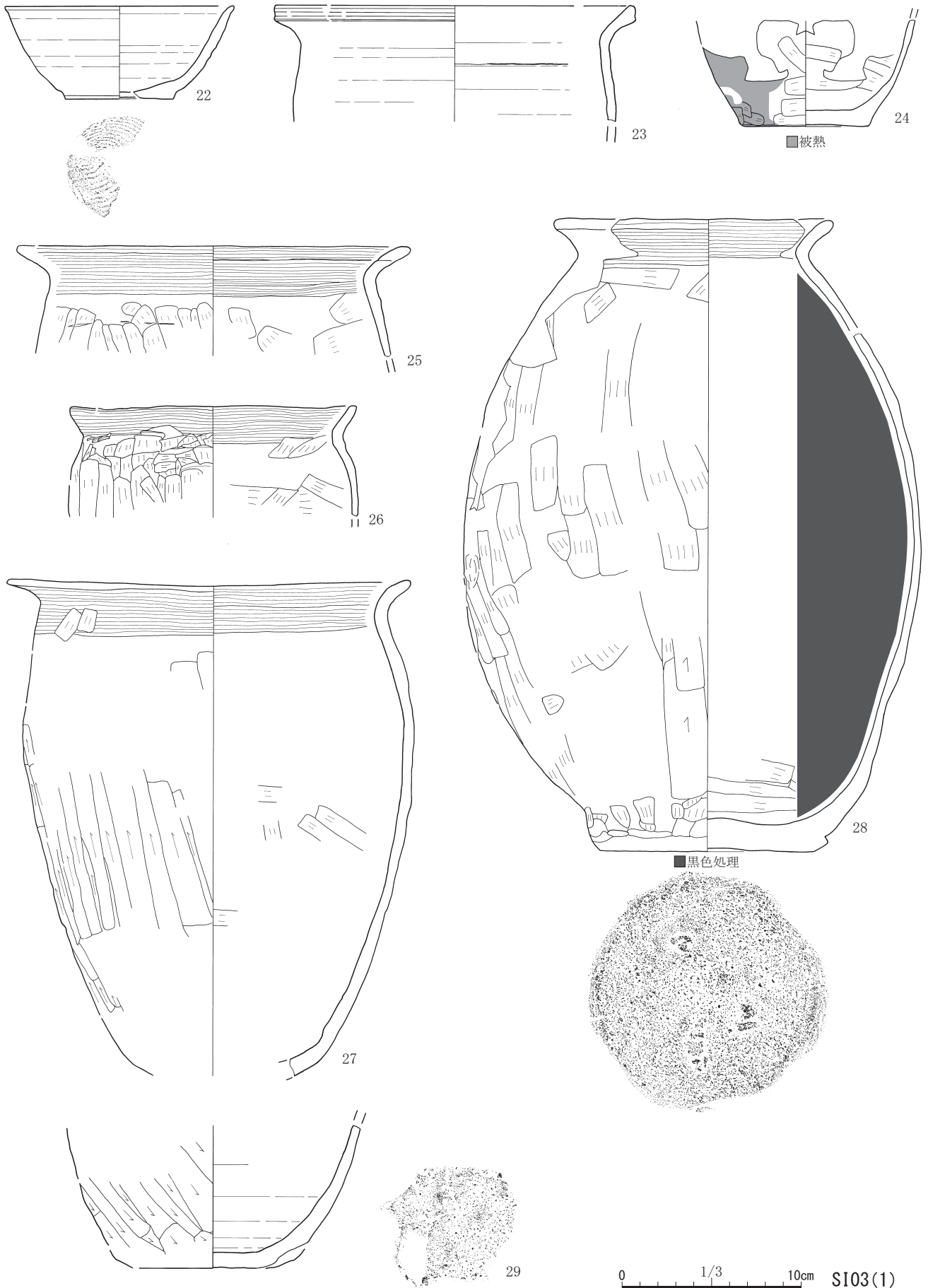
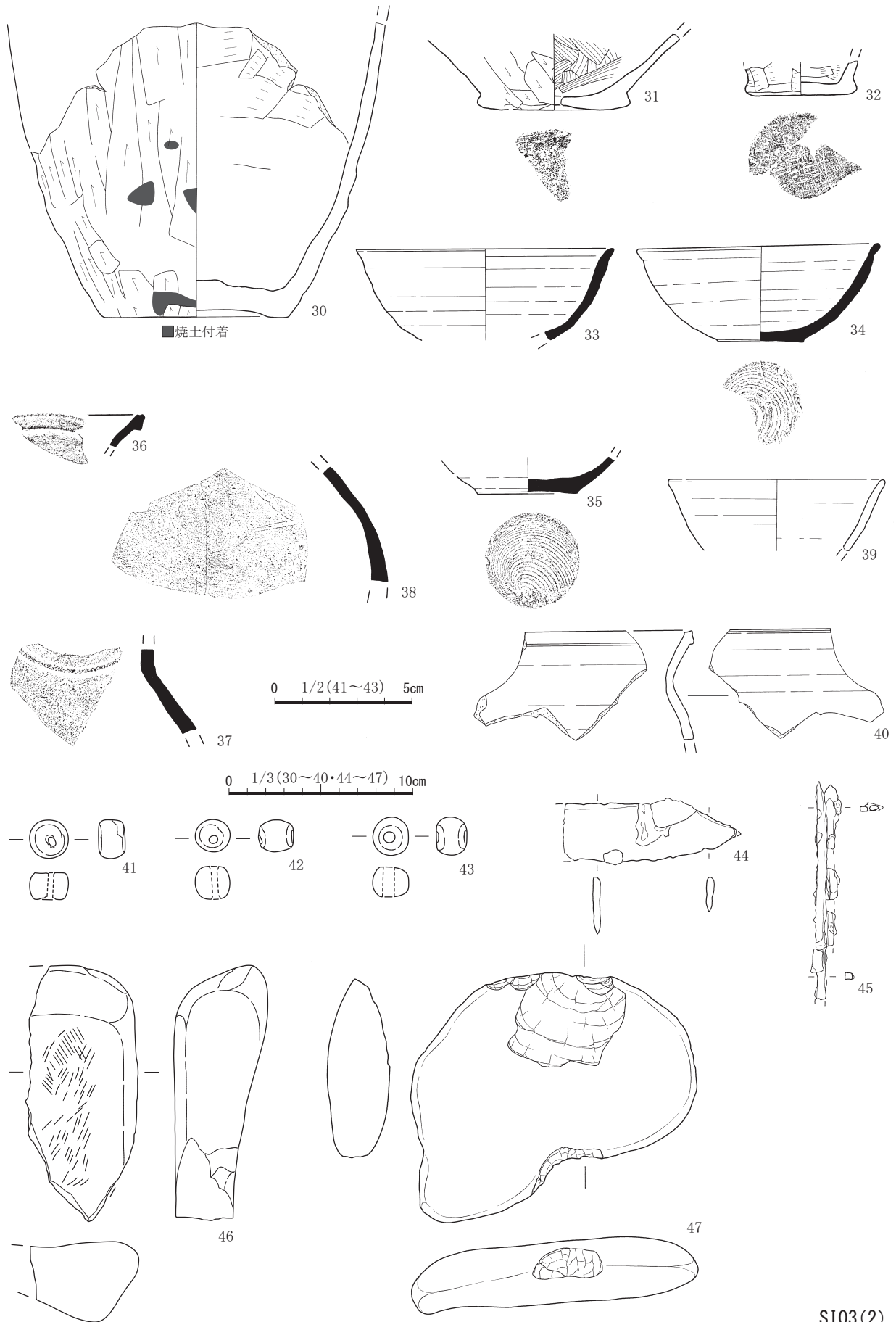


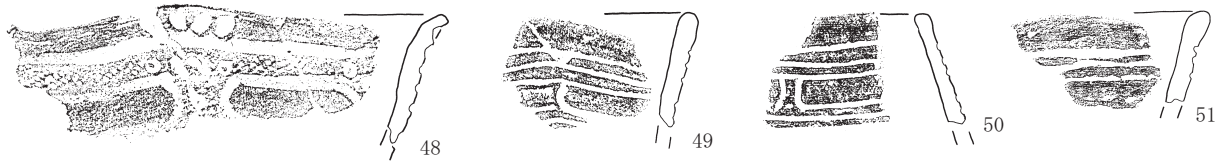
图177 第3号豎穴建物跡(1) 出土遺物



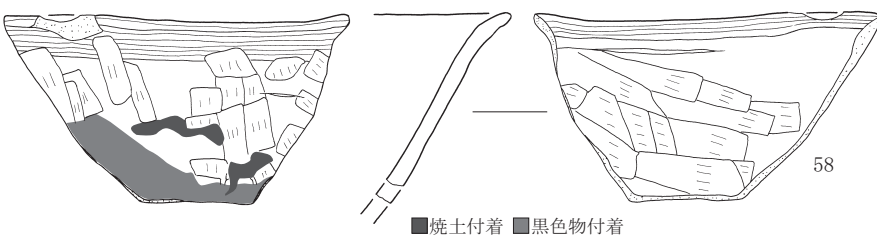
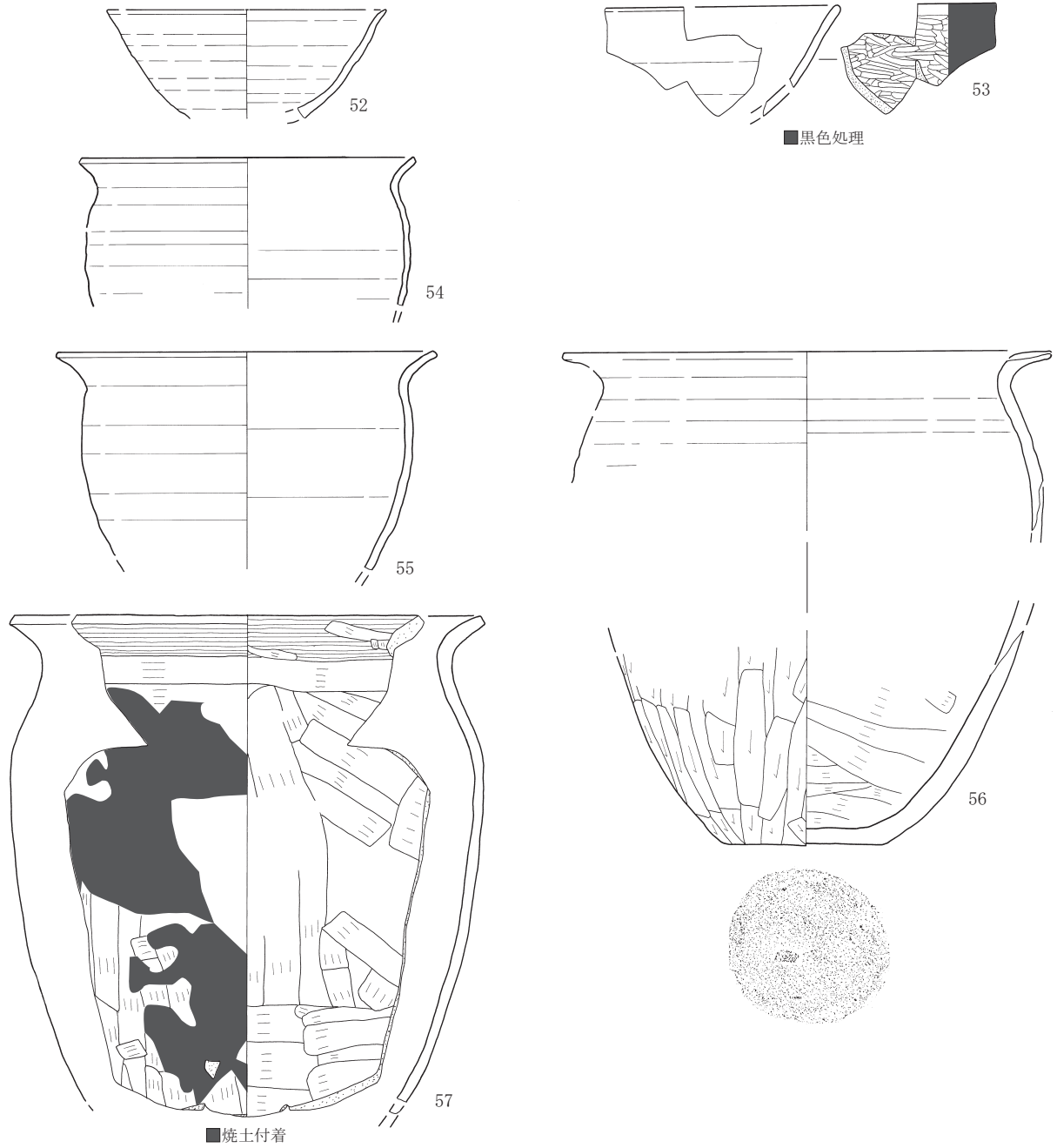
旭
(1)
遺跡
農道35号

図178 第3号竪穴建物跡(2) 出土遺物

SI03(2)



SI03(3)



SI04(1)

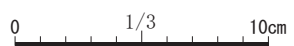
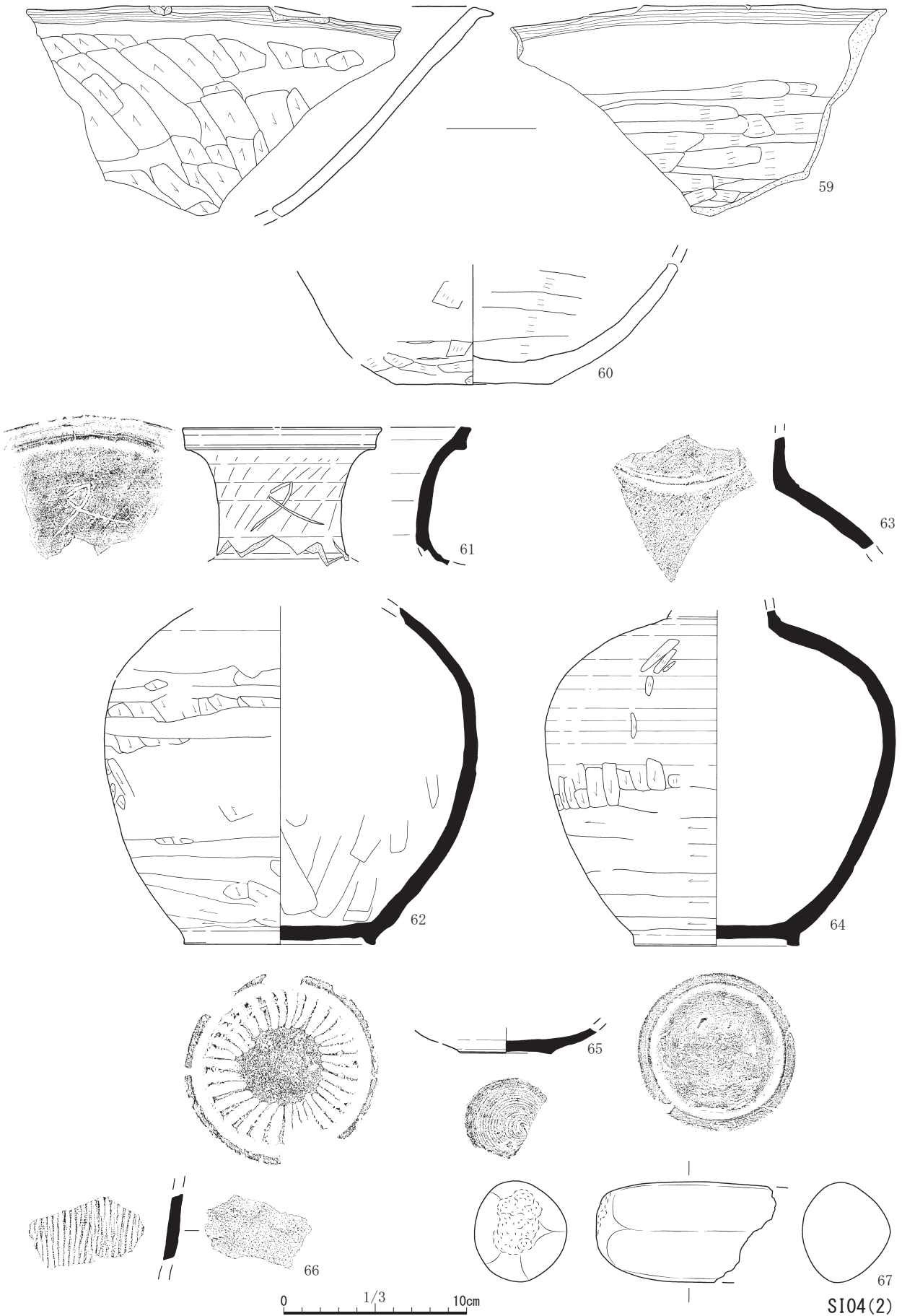
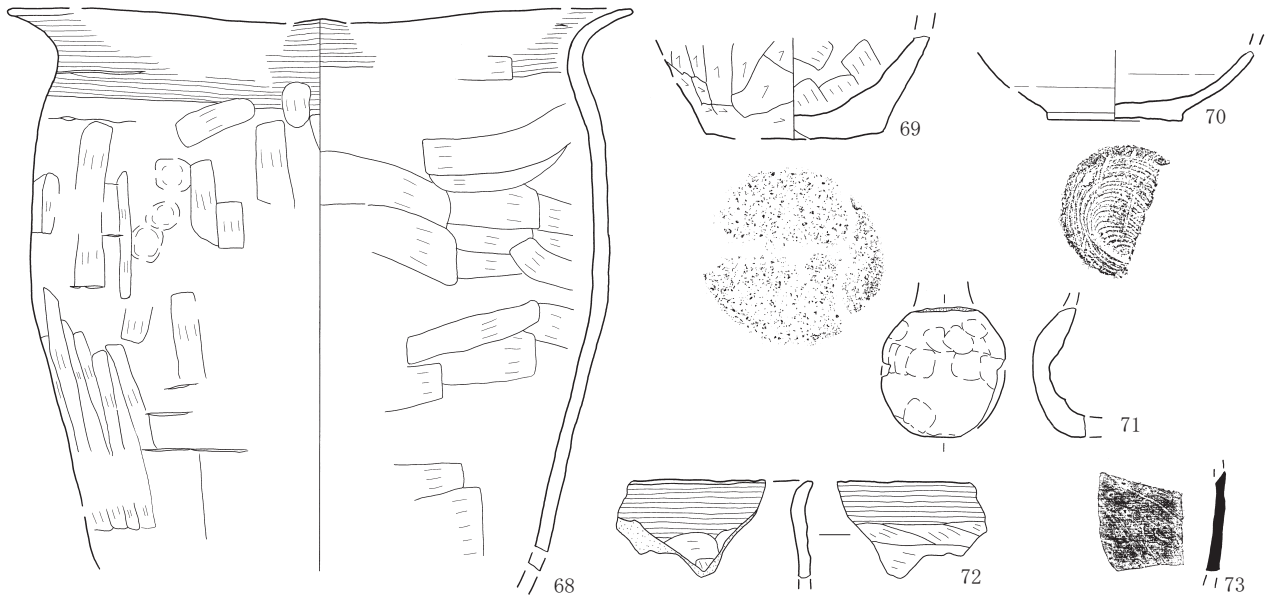


图179 第3号竖穴建物跡(3)・第4号竖穴建物跡(1) 出土遺物

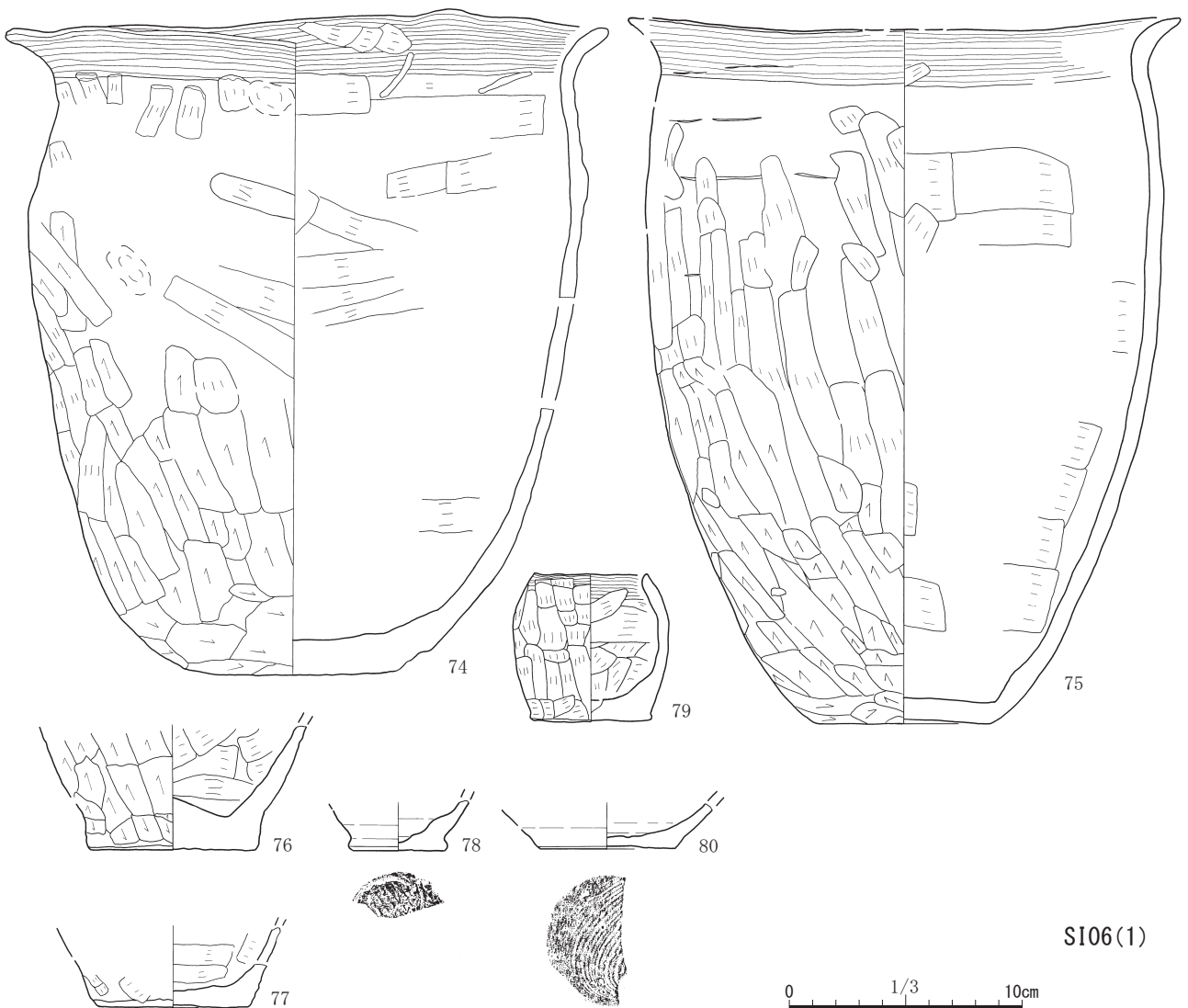


旭
(1)
遺跡
農道35号

図180 第4号竪穴建物跡(2) 出土遺物

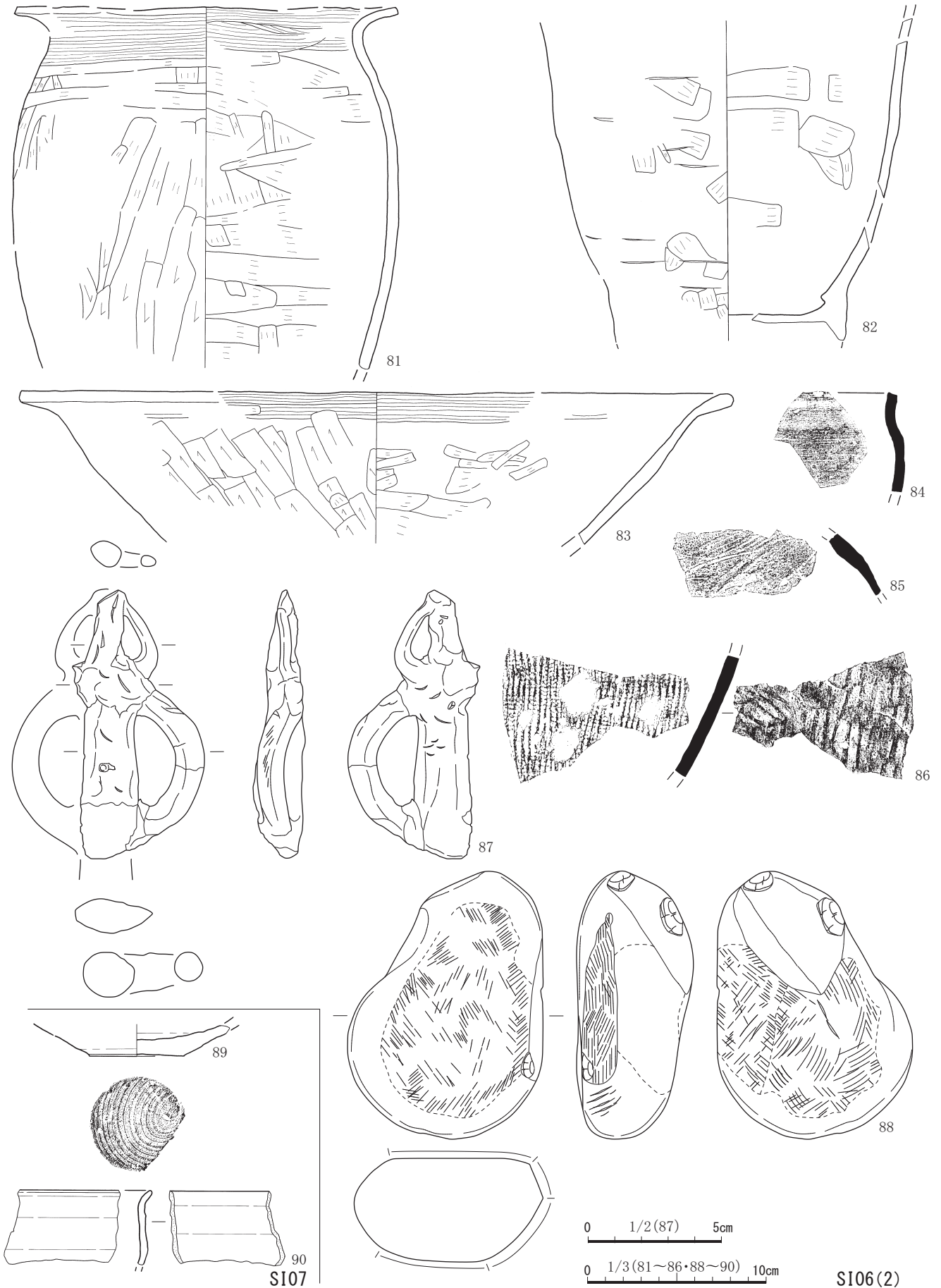


SI05



SI06(1)

图181 第5号竖穴建物跡・第6号竖穴建物跡(1) 出土遺物



旭
(1)
遺跡
農道35号

図182 第6号豎穴建物跡(2)・第7号豎穴建物跡 出土遺物

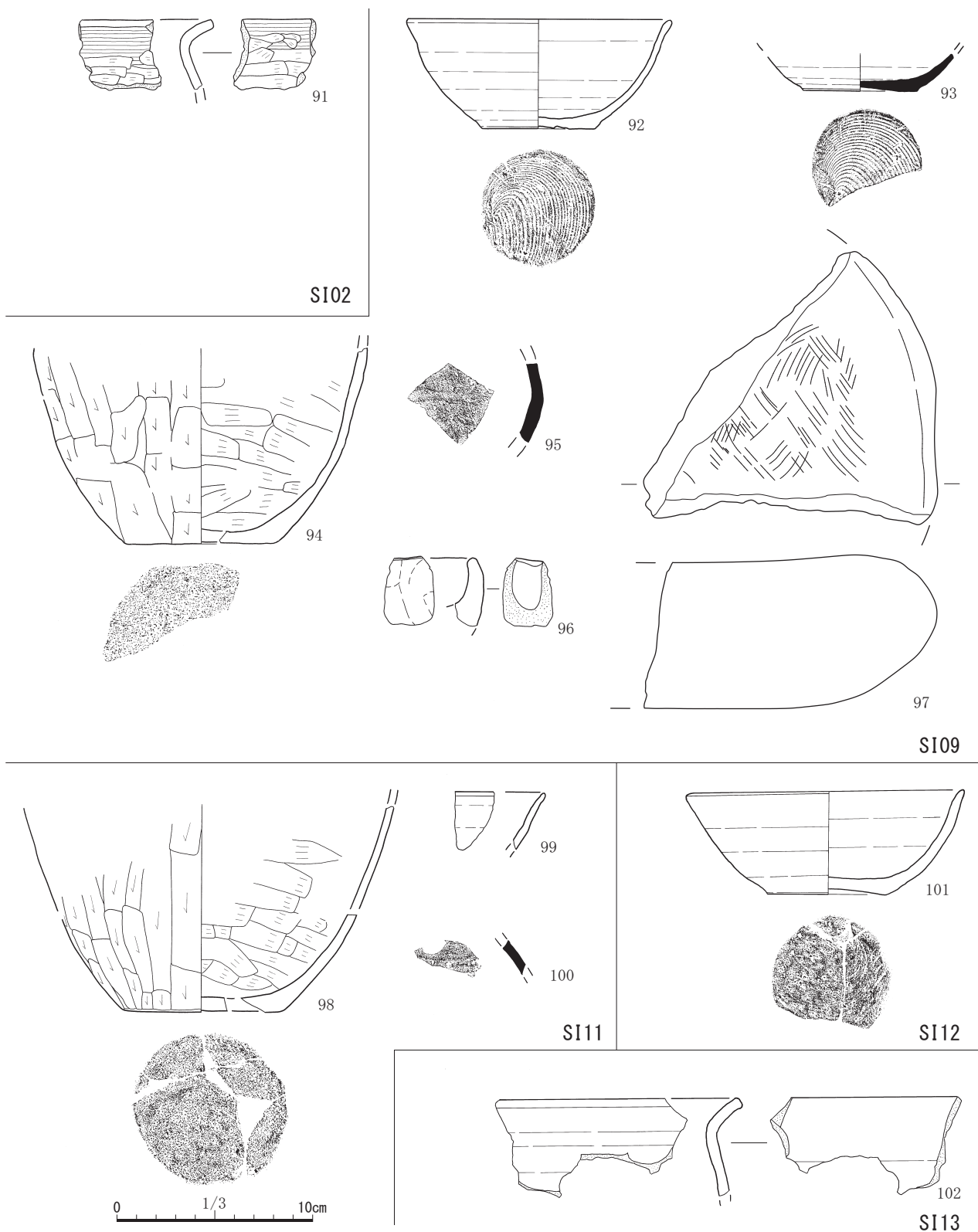


图183 第2号竖穴建物跡・第9号竖穴建物跡・第11号竖穴建物跡・第12号竖穴建物跡・第13号竖穴建物跡 出土遺物

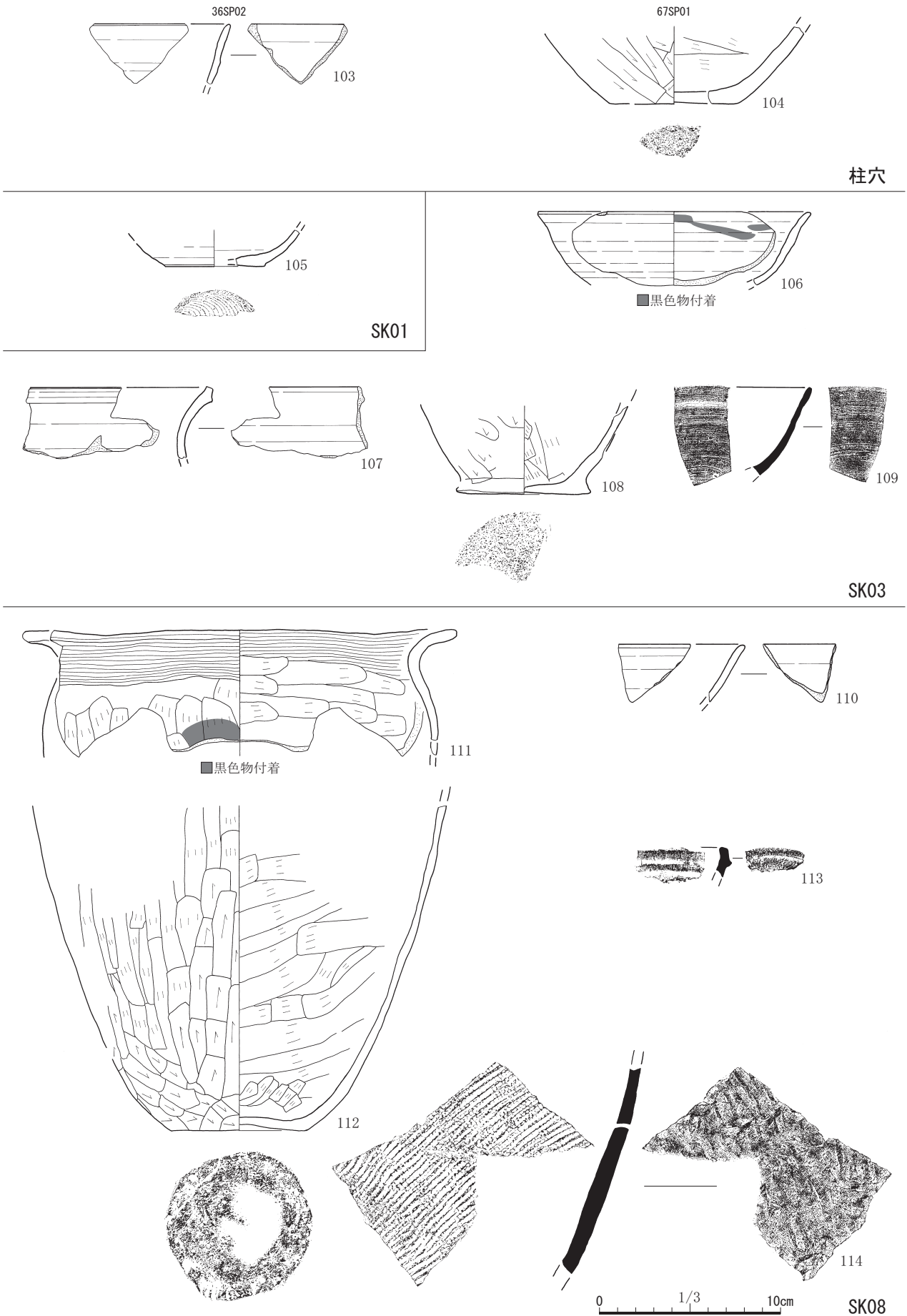
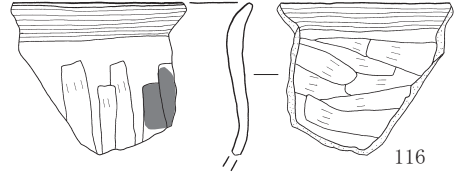


図184 柱穴 出土遺物 土坑(1) 出土遺物

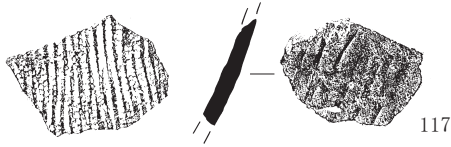


115

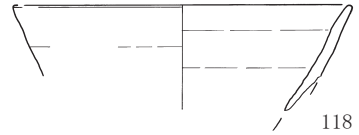


116

■黑色物付着



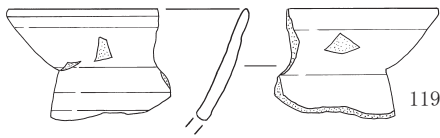
117



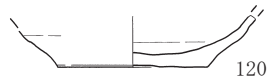
118

SK09

SK10



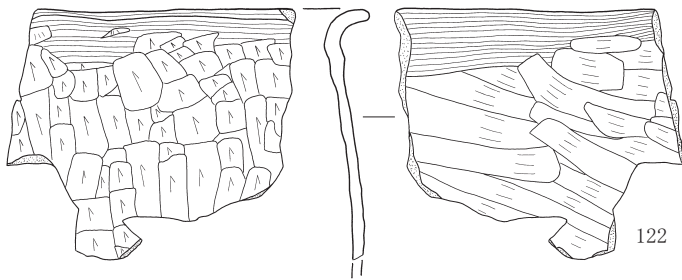
119



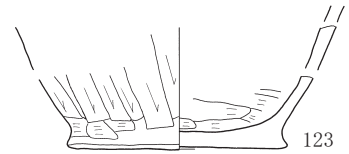
120



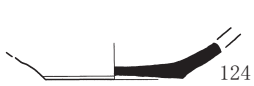
121



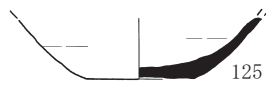
122



123



124

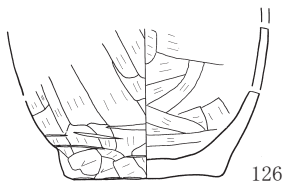


125



SK13

SK12



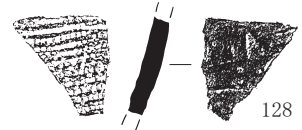
126



127



SK15



128

SK16

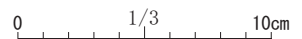
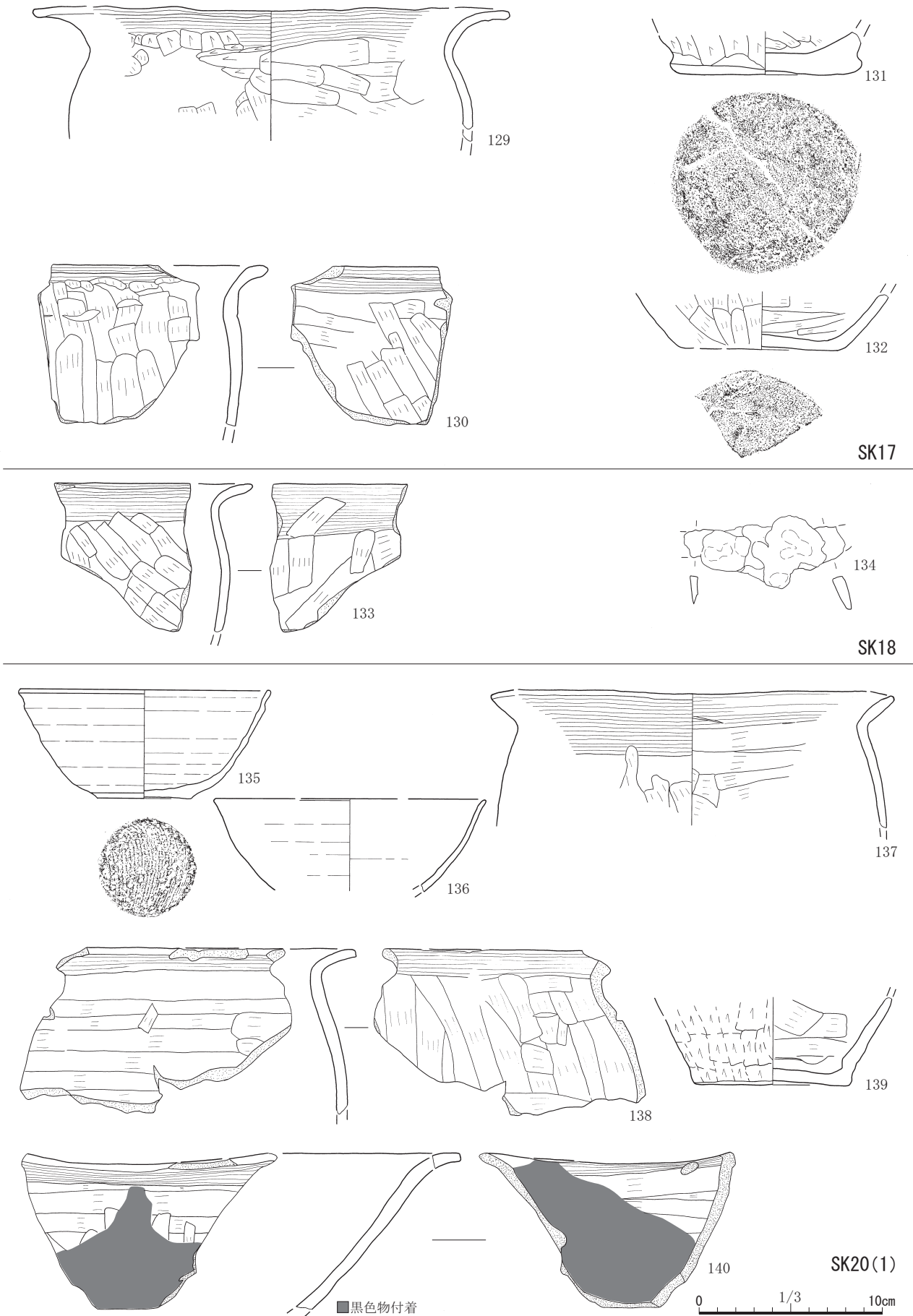
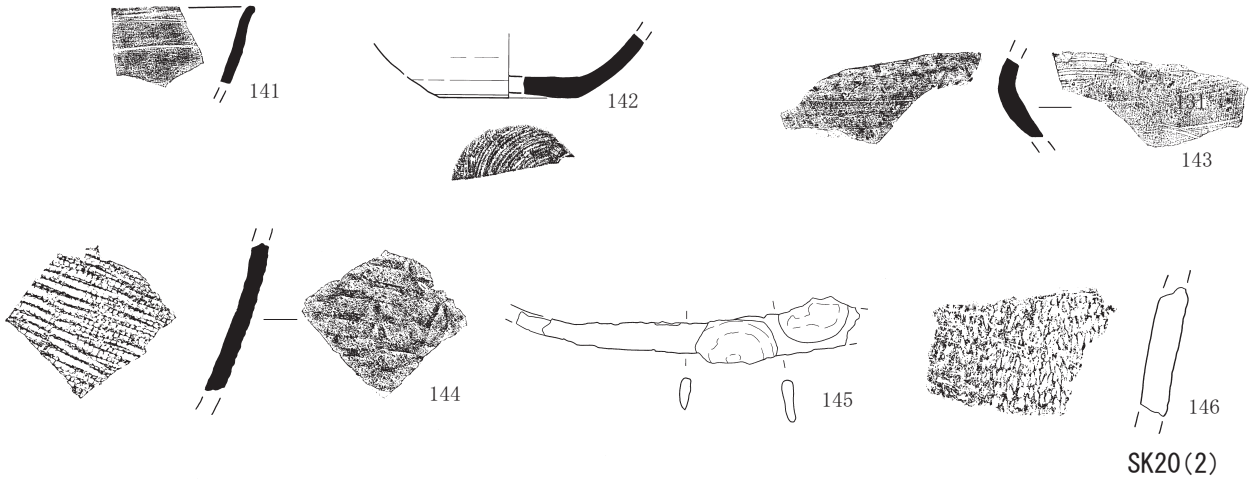


図185 土坑 出土遺物 (2)

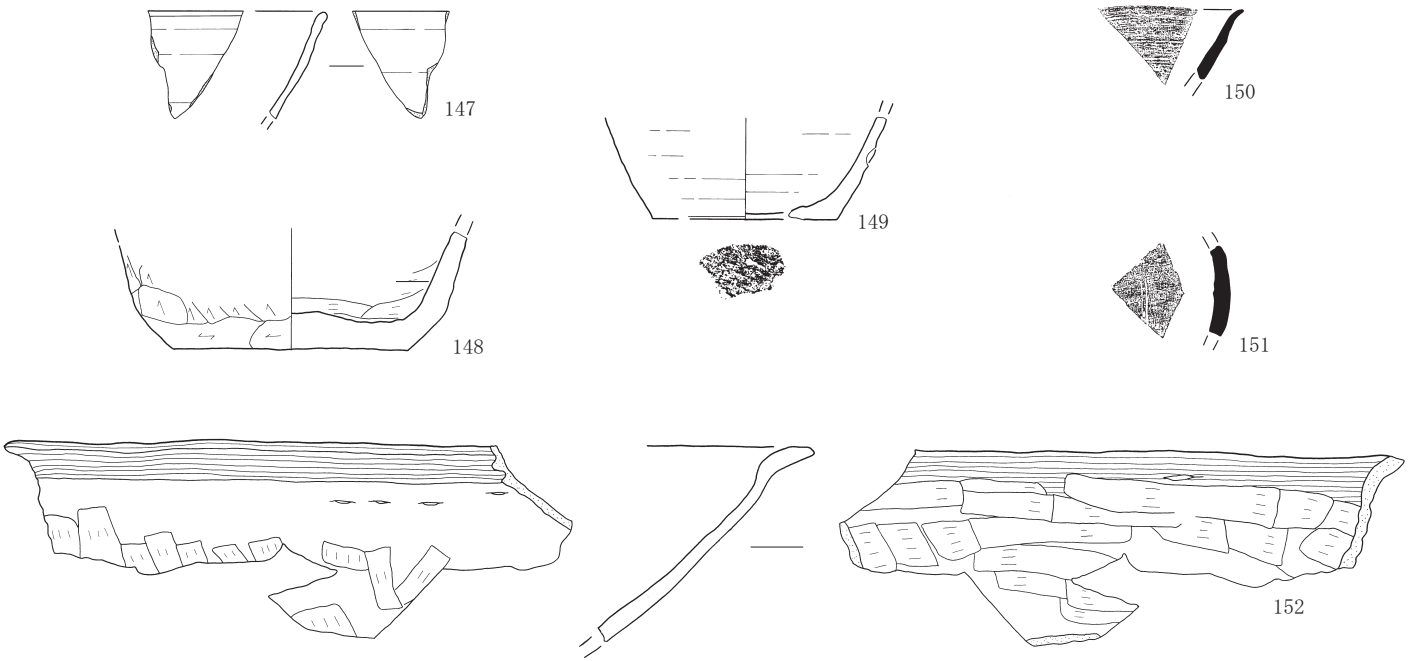


旭
(1)
遺跡
農道35号

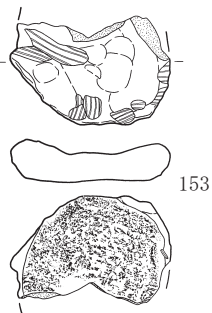
図186 土坑 出土遺物 (3)



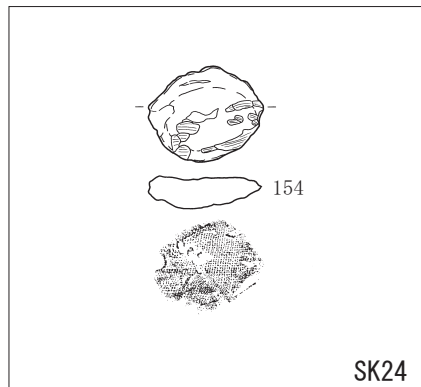
SK20(2)



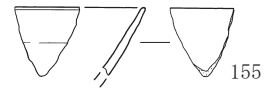
SK25



153



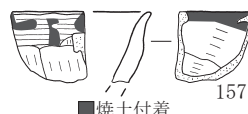
SK24



SD06



156



157

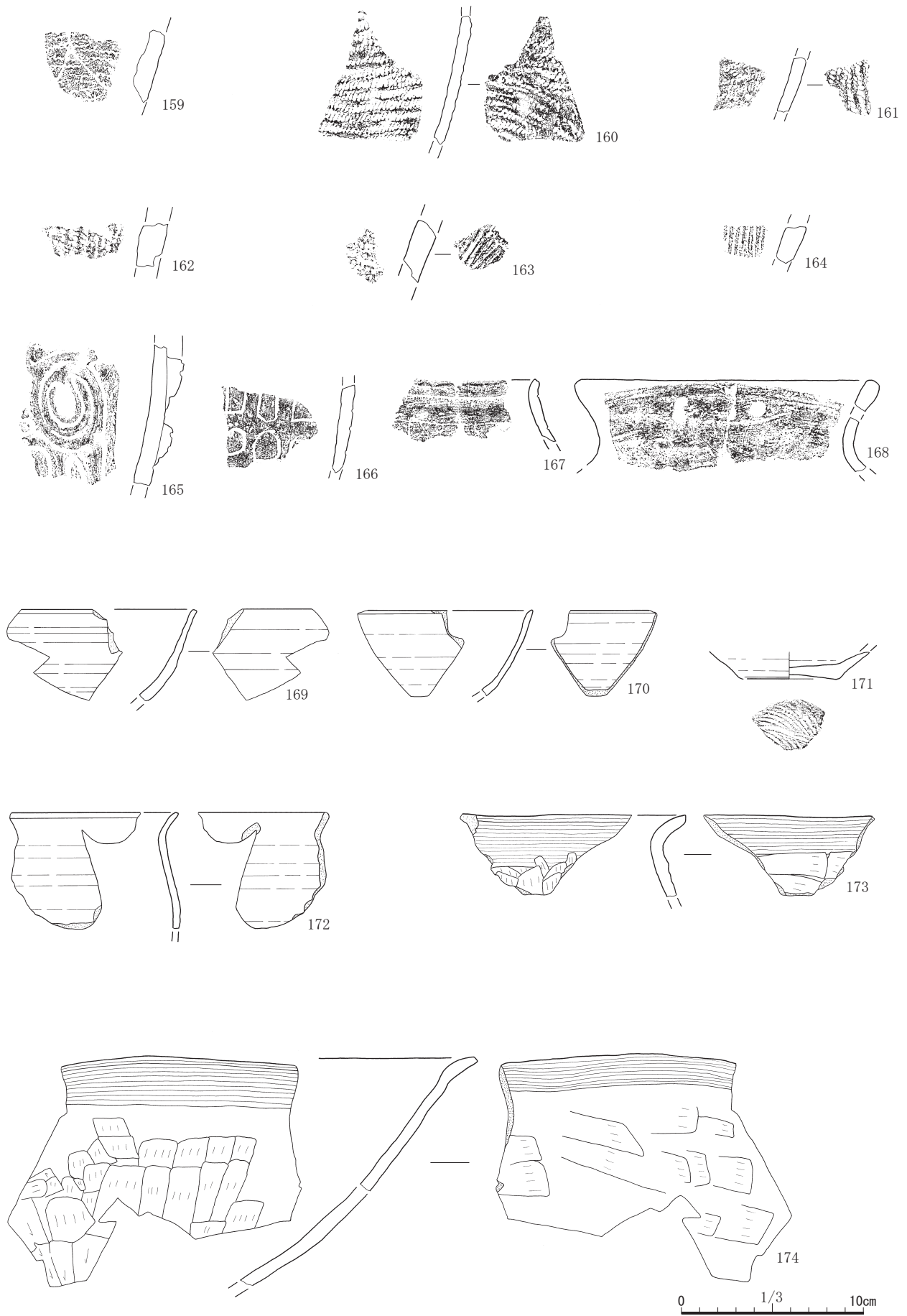


158

SD08

0 1/3 10cm

图187 土坑 出土遺物(4) 溝跡 出土遺物



旭
(1)
遺跡
農道35号

図188 遺構外 出土遺物 (1)

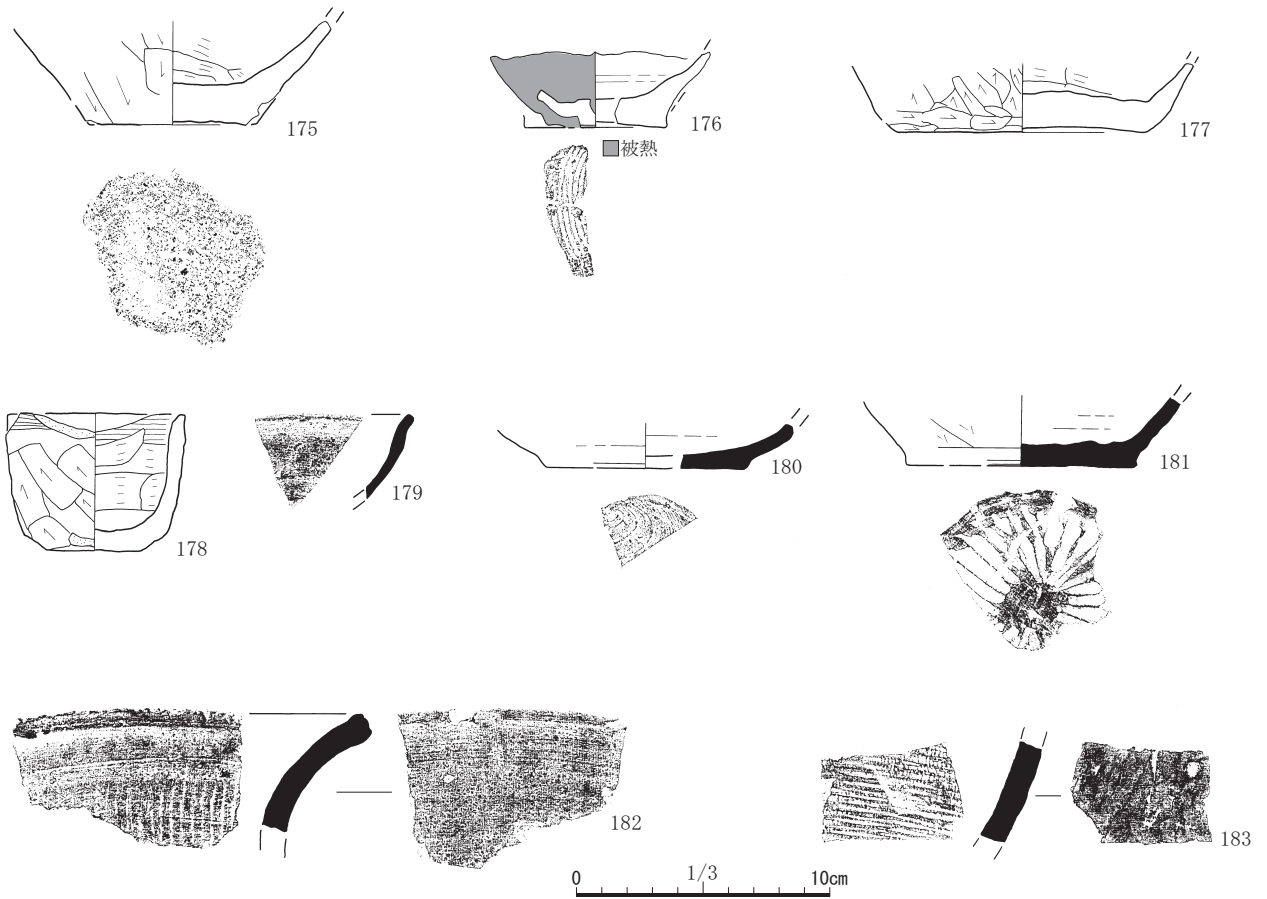


図189 遺構外 出土遺物(2)

第4編 旭(2)遺跡

第1章 調査方法と調査経過、基本層序

第1節 旭(2)遺跡での調査方法

旭(2)遺跡での発掘調査方法は、「第1編第2章 共通する調査方法」で記した方法を用いている。〔測量基準点・水準点の設置・グリッド設定〕旭(2)遺跡で使用した、主な基準点の国土座標値(世界測地系)及び標高値等の一覧表は表7に、調査路線(農道)と公共座標軸との位置関係や基準主要点、グリッドの設定状況・名称については図191の遺構配置図に示してある。

表7 農道37号 主要点の国土座標値及び標高値一覧

地区名	点名	国土座標値 (世界測地系・JGD2011)		標高値 (m)
		X	Y	
農道37号	N0.4	81235.554	-23595.901	0
	N0.8	81249.67	-23517.157	0
	L6	81244.856	-23556.93	39.842
	L7	81248.474	-23537.26	39.147
	RSP.2	81246.37	-23517.402	38.151

※各点の位置は、遺構配置図に示している。

第2節 発掘調査の経過

〔平成26年度〕

- 4月上旬 青森県東青地域県民局地域農林水産部水利防災課、青森県教育庁文化財保護課と打合せを行い、今年度調査対象とする路線や発掘作業の進め方、障害物の有無等について確認した。
- 4月下旬 農道37号西側付近の空き地を借地し、調査事務所、器材庫、発掘作業員休憩所や仮設トイレの設置、駐車場の整備等、事前の準備作業を行った。調査予定地には、調査時の迂回路となる鉄板を敷設した。
- 4月30日 発掘器材等を調査事務所や器材庫に搬入し、環境整備を行った。その後、調査区の確認、トレンチの設定を行い、発掘作業員による粗掘り作業に着手した。
- 5月上旬 トレンチ調査によって遺構確認面までの深さを確認できたことから、重機を使用して砂利を含む表土の除去作業を行った。土坑や溝跡が検出され、早速精査を行う。測量基準点・水準点は工事用のものを使用し、必要に応じて調査区周辺に移設、増設した。
- 5月中旬 溝跡とともに竪穴建物跡も検出され、遺構精査を進める。遺構精査が終了した区域は重機で埋め戻し、迂回路の鉄板を移設して未調査区域の表土を除去し、遺構確認と精査を行った。
- 5月下旬 遺構精査が終了した区域は、写真撮影及び地形測量を行った。調査器材等は洗浄し、運搬しやすいよう梱包した。
- 6月3日 調査器材等を次の調査地である下石川平野遺跡へ運搬した。また、調査区埋め戻しと碎石敷き均しの農道復旧作業、プレハブ・鉄板の撤収作業等を6月上旬まで行い、旭(2)遺跡の発掘調査は終了した。

第3節 地形と基本層序

1 旭(2)遺跡の地形

旭(2)遺跡の発掘調査は、平成26年度に遺跡東端部の農道37号が調査対象区域となった。なお遺跡西側の農道39号は平成27年度に調査対象とした区域である。

津軽半島の南東部にある梵珠山(標高468m)の裾野に広がる高位段丘上に旭(2)遺跡があり、東側は入り組んだ開析谷に面している。開析谷途中には堰堤が築かれ、梵珠山の伏流水が堰き止められて新溜池を形成しており、農業用水として利用されている。南方の旭(1)遺跡の農道35号とは同一丘陵の東縁辺上に立地している。

農道37号は西から東へ延びる直線的な調査区で、標高約38～40mの丘陵平坦面の東側に位置している。調査区より東側の、新溜池がある開析谷へ向かう斜面地は標高約33mまで下っていくが、確認調査によって遺跡が存在しないとの結果が出ており、調査対象外となっている。

2 基本層序

旭(2)遺跡における基本層序は、図191にあるとおり37-20グリッドで確認した。巨視的には下石川平野遺跡の基本層序と同様の土質・色調であり、部分的にリング畑の造成や農道整備等によって第Ⅱ～Ⅲ層が失われていることや、表土直下が遺構確認面であることが多いことも同様である。本来第Ⅱ層に含まれる白頭山苦小牧火山灰が、37-19グリッドの風倒木痕中に検出された。この火山灰の下位から出土した炭化材について放射性炭素年代測定を行い(第6編第3章第1節)、9世紀後半～10世紀後半の年代が示されている。各土層の色調・特徴等は図191にあるのでここでは割愛する。

第2章 農道37号の検出遺構と出土遺物

農道37号は、長さ約250m、幅約5mの工事予定路線であるが、確認調査等の結果、調査区域となったのはその中央部分、37-17~33グリッドの約80m、約440㎡であった。調査地点の標高は約38~40mで、丘陵平坦面の中でも微高地部分となっている地点である。

農道37号で検出された遺構とその略称は、下記のとおりである。

竪穴建物跡(SI)	2棟(内1棟は外周溝を付属する)
柱穴(SP)	6基
土坑(SK)	3基
溝跡(SD)	5条(内1条は竪穴建物跡に付属する)

遺構はいずれも平安時代のもものとみられ、37-23~30グリッドラインにまとまっている。

農道37号から出土した遺物は、土器類、石器類合わせて1箱で、平安時代のもものが大半で縄文時代のもものがごく少量ある。

以下に各遺構や出土遺物の詳細を記載していく。

第1節 検出遺構

1 竪穴建物跡

平安時代の竪穴建物跡が2棟検出され、そのうち1棟(SI01)には外周溝が認められた。

第1号竪穴建物跡(SI01、図192・193・197)

【位置・確認】竪穴建物跡本体は、調査区中央部、37-24・25グリッドに位置し、遺構確認面の標高は39.2~39.4m、第IV層で黒色土の落ち込みを確認した。一部、確認調査のトレンチによって遺存していない部分がある。またその周囲、37-23~26グリッド、では、竪穴建物跡の北側を取り囲む外周溝(SD03)が検出された。本竪穴建物跡に伴うもので、遺構確認面の標高は39.1~39.5mである。SK03、SD04・05より本遺構が古く、SP05・06より本遺構が新しい。

[平面形・規模] 南側大半が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明だが、平面形は方形と推定される。確認できた壁長及び確認面から床面までの深さは、北壁5.5m・深さ22~26cm、東壁(2.4)m・深さ16cm、西壁(0.7)m・深さ29cmを測る。いずれの壁もやや開きながら立ち上がる。南壁にカマドがあるとすれば、建物の軸方向はN-156°-Eである。

[床面・壁溝] 床面は掘方を有し、貼床によって平坦に整えられている。壁溝は検出されなかった。

[柱穴] ピットが8基検出されたが、Pit 1は南側に長方形の柱痕を有しており、本竪穴建物跡の支柱穴と思われる。また壁際に検出されたPit 2・4・8でも柱痕が確認され、Pit 3・6・7と合わせて壁柱穴を構成していたものとみられる。Pit 1は47×34cmの長方形で深さ59cm、Pit 2は38×21cmの長方形で深さ57cm、Pit 3は26×21cmの楕円形で深さ13cm、Pit 4は42×26cmの楕円形で深さ31cm、Pit 5は50×(22)cmの円形で深さ18cm、Pit 6は32×27cmの楕円形で深さ21cm、Pit 7は28×23cmの楕円形で深さ13cm、Pit 8は33×28cmの歪な楕円形で深さ47cmである。いずれのピットからも遺物は出土しなかった。

[カマド] 調査区域内では検出されなかったため、調査区域外の南壁にあるものと思われる。

[その他の施設] SD03が本竪穴建物跡を巡る外周溝とみられ、後述する。

[堆積土] ロームを多量に含む暗褐色土もしくは黒褐色土が堆積しており、人為的に埋め戻されたものと思われる。貼床及び掘方には黒褐色土が用いられている。

[出土遺物] SI01からは、土師器371 g、縄文土器9 gが出土し、そのうち土師器小杯(1)・坏(2)・甕(3)、土鈴(4・5)、縄文土器(6)を図示した。1は、オサエ・ナデ調整のやや深みのある器形で、口唇が先細りに作られている。2は顕著な凹凸が残るロクロ調整の坏で、3は外面に斜方向のケズリ調整がみられる小ぶりの甕である。4・5はいずれも土鈴の鈴部破片で、胎土や色調、焼成状況などから同一個体の可能性がある。1・3～5は床面から、2は床面直上から出土した。6は覆土から出土した縄文時代後期の十腰内I式土器の深鉢口縁部片である。

【外周溝－第3号溝跡(SD03)】

[平面形・規模・底面] SI01の各壁から約2.5～2.8m離れて半円状に取り囲む溝跡である。南北両側とも調査区域外に延びていて、遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(17.5)m、幅は57～112cmで、概ね60～80cm前後の幅である。西側と北東側で土坑状に広がる部分があり、西側では124cm、北東側では153cmまで膨らむ。確認面からの深さは33～62cmで、北東側が35cm前後で最も浅く、東側が約40cm前後、西側が約50～62cmと深くなっている。底面は地山をそのまま平坦な底面としている部分もあるが、L～Mセクションなど掘方を有して平坦に整えている部分もある。断面形は、基本的に逆台形状をなしている。溝底面は南西～北が最も標高が高く、南東側が約20cm低く、南東側に傾斜するよう構築されている。

[堆積土] 堆積土はローム粒を含む黒褐色土が主として堆積していることから、人為的に埋め戻されたものと思われる。

[出土遺物・遺構の時期等] SD03からは、土師器952 g、須恵器17 g、羽口32 g、炭化材等が出土した。そのうち土師器坏(7)・小甕(8)・甕(9・10)、羽口(11)を図示した。1は内面黒色処理を施す坏で、外面にはモチーフ不明だが刻書がみられる。8は器形に屈曲がみられない小甕、9は口縁が大きく外反する甕である。11は溶着物の付着がみられる羽口の端部片である。また、北東部土坑部分の堆積土から出土した炭化材(C-1)について放射性炭素年代を行った(第6編第3章第1節)ところ、8世紀後半～10世紀後半の年代が示されている。

【小結】 堆積土の様相、遺構の形態、遺構の重複関係、出土遺物などから、平安時代10世紀前半頃に廃絶されたものと思われる。

第2号竪穴建物跡(SI02、図194)

[位置・確認] 調査区中央部、37-24グリッドに位置し、遺構確認面の標高は39.6 m、第IV層で落ち込みを確認した。当初はSD03の一部とみていたが、溝跡壁上部で平坦な床面が形成されていることが判明した。床面は掘方を有しているため竪穴建物跡と判断した。SD03より本遺構が新しい。

[平面形・規模] 本遺構の北側大半が調査区域外に延び、南側もSD03によって壊されており、不明な点が多い。平面形、壁長等はいずれも不明で、確認面から床面までの深さは18～32cmを測る。壁はやや湾曲しながら立ち上がる。建物跡の軸方向は不明である。

[床面・壁溝] 床面は掘方を有し、貼床によって平坦に整えられている。壁溝は検出されなかった。

[柱穴・カマド・その他の施設] いずれも検出されなかった。しかし、位置的にSP05・06が本竪穴建物跡と関連する柱穴の可能性が考えられる。

[堆積土] 上位には暗褐色土が、床面付近には黒褐色土が堆積し、自然堆積と思われる。掘り方にはロームブロックを多量に含む黒褐色土が用いられている。

[出土遺物] 遺物は出土しなかった。

[小結] 堆積土の様相、遺構の形態、遺構の重複関係などから、平安時代頃に廃絶されたものと思われる。

2 柱穴

農道37号からは合計6基の柱穴が検出されたが、掘立柱建物跡や柱穴列等、構造物を構成すると見込まれるものは確認できなかった。各柱穴の位置や計測値等諸特徴は、図191遺構配置図や図194、表8計測表に示した。

表8 農道37号 柱穴計測表

SP 番号	図版番号	グリッド	標高 (m)	規模(cm)			備考
				長さ	幅	深さ	
SP01	図194	37-29	38.6	35	25	29	
SP02	図194	37-29	38.7	(46)	36	32	SD01より古い。
SP03	図194	37-27	39.1	46	39	37	
SP04	図194	37-26	39.2	43	39	48	
SP05	図194	37-24・25	39.4	(41)	(37)	57	SD03より古い。SI02に関連する可能性あり。
SP06	図194	37-25	39.4	(34)	(33)	31	SD03より古い。SI02に関連する可能性あり。

3 土坑

3基の土坑が検出された。時期はいずれも平安時代以降のものと思われる。なお調査時にSK04とした土坑があったが、攪乱であることが判明したため欠番とした。

第1号土坑(SK01、図195)

[位置・確認] 調査区東側、37-29・30グリッドに位置し、遺構確認面の標高は38.7m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 確認できた規模は長軸82cm、短軸78cmの不整円形で、確認面からの深さは9～20cmである。底面はやや起伏があり、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] ロームを少量含む黒色土が堆積し、人為堆積の可能性はある。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状、遺跡の状況などから平安時代の遺構である可能性があるが、断定できない。その機能は不明である。

第2号土坑(SK02、図195)

[位置・確認] 調査区東側、37-29グリッドに位置し、遺構確認面の標高は38.6m、第IV層で確認したが、土層観察によると第III層の上位から掘り込まれている。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模] 南側が調査区域外にのびており、全体の形状は不明であるが、確認できた規模は長軸

(208)cm、短軸168cmの楕円形を呈するものと思われる。確認面からの深さは14～29cmである。地山をそのまま平坦な底面としており、断面形は皿状をなしている。

[堆積土] ロームを含む黒褐色土が堆積しており、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等] 遺物は出土しなかった。堆積土の様相、遺構の形状、遺跡の状況などから平安時代の遺構である可能性があるが、断定できない。その機能は不明である。

第3号土坑(SK03、図195)

[位置・確認] 調査区中央部、37-26グリッドに位置し、遺構確認面の標高は39.2m、第IV層でSD03精査中に確認した。SD03と重複し、本遺構が新しい。

[平面形・規模] 北側の大半が調査区域外に延びているため、全体の様相は不明であるが、確認できた規模は長軸(73)cm、短軸(128)cmで、楕円形をなしている可能性がある。確認面からの深さは35～37cmである。地山をそのまま底面としており、断面形は丸底状をなしている。

[堆積土] 確認面付近は黒色土が堆積するが堆積土の大半は黒褐色土で、中位には黄褐色土がブロック状に混入しており、人為堆積の可能性がある。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器片1点、4gが出土したが、図示し得なかった。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物などから平安時代の遺構である可能性があるが、その機能は不明である。

4 溝跡

農道37号からは合計5条の溝跡が検出された。そのうち1条(SD03)は第1号竪穴建物跡に付属する外周溝とみられるため、そちらに記載している。ここで記載する4条の溝跡は、SD01・02、SD04・05で2条ずつ平行している。SD01・02の底面には傾斜がなく、ほぼ水平に作られているのに対し、SD04・05の溝跡では北西から南東方向へ水が流れるように作られている。

第1号溝跡(SD01、図196・197)

[位置・確認] 調査区東側、37-28・29グリッドで検出された。遺構確認面の標高は南西部で38.8m、北東部で38.6m、第IV層で確認した。本遺構はSP02より新しい。

[平面形・規模・底面] 調査区を南西-北東に横切る直線状の溝跡で、両端が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(5.8)m、幅は66～86cmで概ね80cm前後である。確認面からの深さは37～50cmで、概ね40cm前後である。底面は地山第VI層をそのまま平坦な底面としており、断面形は逆台形状をなす。溝底面の南西端と北東端の比高差はほとんどなく、水平である。

[堆積土] 堆積土は上位大半が黒色土で、底面直上には黒褐色土が堆積している。いずれも自然堆積したものと思われる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器1点、縄文土器7点、計92gが出土し、そのうち縄文土器片2点(12・13)を図示した。いずれも外面に2方向からの沈線を菱形状に交差させており、同一個体と思われる。縄文時代後期前半期と思われ、溝跡が開口していた時に流入したものとみられる。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物等から平安時代以降のものと考えられる。本遺構の機能は、そ

の形状や走行方向から排水、区画等の可能性が考えられる。

第2号溝跡(SD02、図196)

[位置・確認] 調査区東側、37-28・29グリッドで検出された。遺構確認面の標高は南西部で38.9m、北東部で38.7m、第IV層で確認した。他遺構との重複は認められなかった。

[平面形・規模・底面] 調査区を南西-北東に横切る直線状の溝跡で、両端が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(5.6)m、幅は26~42cm、概ね40cm前後である。確認面からの深さは12~20cmで、南西側がやや深い。底面は地山第V層をそのまま使用しており、やや凹凸がある。断面形は上部が開口するU字状をなす。溝底面の北東端と南西端の比高差はほとんどなく、水平である。

[堆積土] 黒褐色土が堆積し、自然堆積と思われる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器2点11g、縄文土器1点7gが出土したが図示し得なかった。堆積土の様相、遺構の形状、出土遺物等から平安時代以降のものと考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画等の可能性が考えられる。

第3号溝跡(SD03、図192・193・197)

[位置・確認] 調査区中央部、37-23~26グリッドに位置するが、竪穴建物跡の外周溝であることが判明したため、第1号竪穴建物跡で報告している。

第4号溝跡(SD04、図196)

[位置・確認] 調査区中央部、37-23~26グリッドで検出された。遺構確認面の標高は北西部で39.5m、南東部で39.1m、第IV層で確認した。本遺構は、SI01・SD03より新しい。

[平面形・規模・底面] 調査区を北西-南東に横切る直線状の溝跡で、両端が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(15.8)m、幅は33~56cmで概ね42cm前後である。確認面からの深さは17~30cm、概ね28cm前後であるが、SD03と交差する南東端では53cmと急激に深くなっている。底面にはやや起伏があるものの地山をそのまま使用しており、断面形は上部が開口する丸底状をなす。北西端の24グリッドライン付近と南東端の26グリッドライン付近では、溝底面の比高差は約30cmあり、南東側に傾斜して構築されている。

[堆積土] 黒褐色土が主として堆積し、上位では部分的に黒色土がみられ、自然堆積と思われる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器2点17gが出土したが、図示し得なかった。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物等から平安時代以降のものと考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画等の可能性が考えられる。

第5号溝跡(SD05、図196)

[位置・確認] 調査区中央部、37-23~26グリッドで検出された。遺構確認面の標高は北西部で39.5m、南東部で39.2m、第IV層で確認した。一部、確認調査のトレンチによって遺存していない部分がある。本遺構は、SI01・SD03より新しい。

[平面形・規模・底面] 調査区を北西－南東に横切る直線状の溝跡で、両端が調査区域外に延びていて遺構の全容は不明であるが、確認できた長さは(16.0)m、幅は64～98cmで、概ね90cm前後である。確認面からの深さは45～57cmで、概ね50cm前後である。底面にはやや起伏があるものの地山をそのまま使用しており、断面形は上部が開口するU字状をなす。北西端と南東端では、溝底面の比高差は約20cmあり、南東側に傾斜して構築されている。

[堆積土] 堆積土は黒色土と黒褐色土が互層状に堆積し、自然堆積とみられる。

[出土遺物・遺構の時期等] 土師器1点18gが出土したが、図示し得なかった。堆積土の様相、遺構の形状、遺構の重複関係、出土遺物等から平安時代以降のものと考えられる。本遺構の機能は、その形状や走行方向から排水、区画等の可能性が考えられる。

第2節 遺構外の出土遺物

遺構外から出土した遺物には、縄文時代のものと平安時代のものがある。合計85点、734gが出土した。

1 縄文時代の出土遺物(図197)

土器は、縄文時代中期末～後期のもの(14)と後期～晩期中頃のもの(15～17)を図示した。14は屈曲する頸部片で、15は壺の可能性があり、16・17は深鉢である。

2 平安時代の出土遺物(図197)

土師器は、小杯(18)・小甕(19)を図示した。18は器厚がやや厚ぼったい小杯で、口縁が直線的に立ち上がるものとみられる。19の外面には輪積痕が残り、口縁内面には炭化物が付着している。

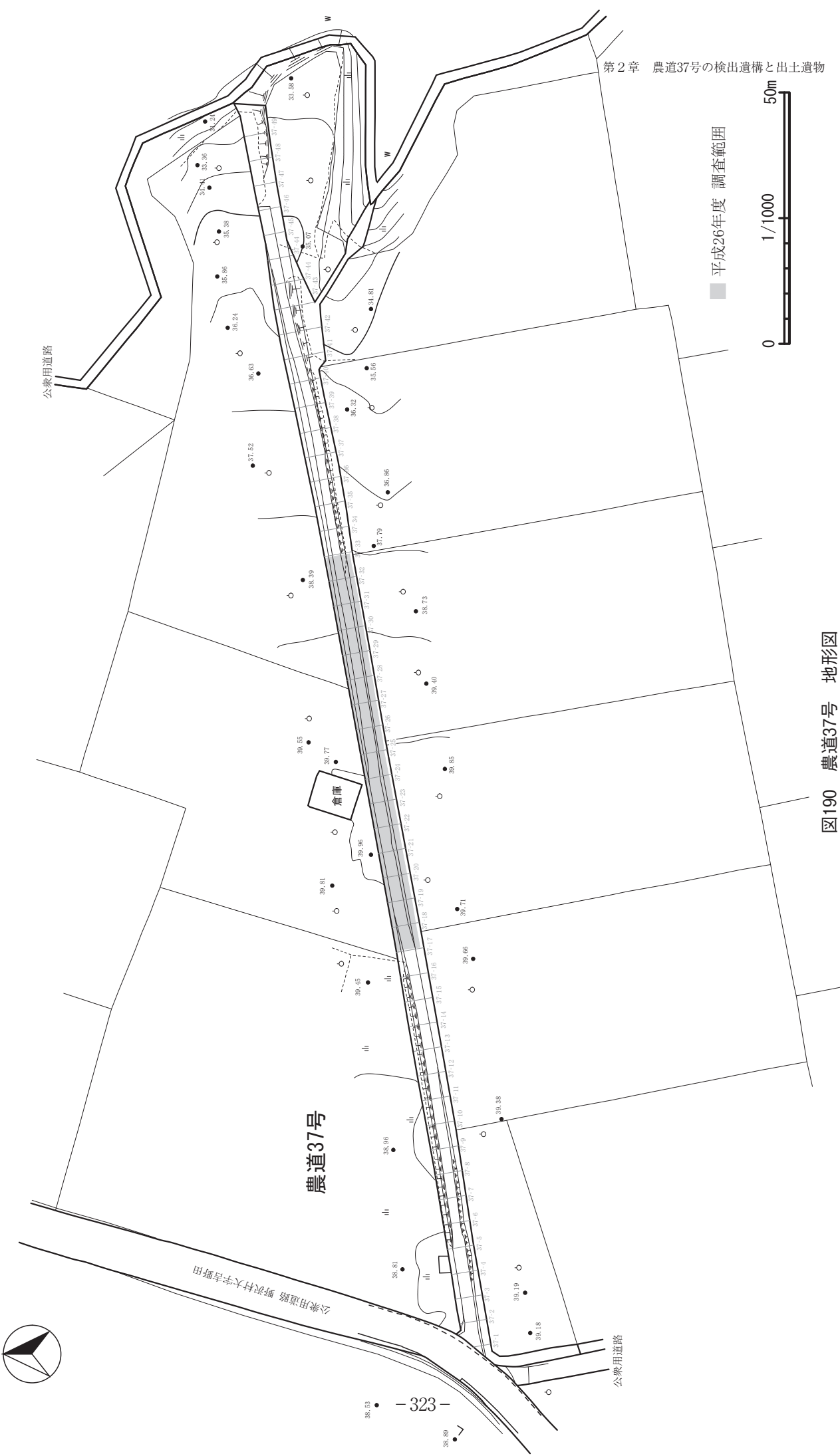


図190 農道37号 地形図

旭
(2)
遺跡
農道37号

旭(2)遺跡

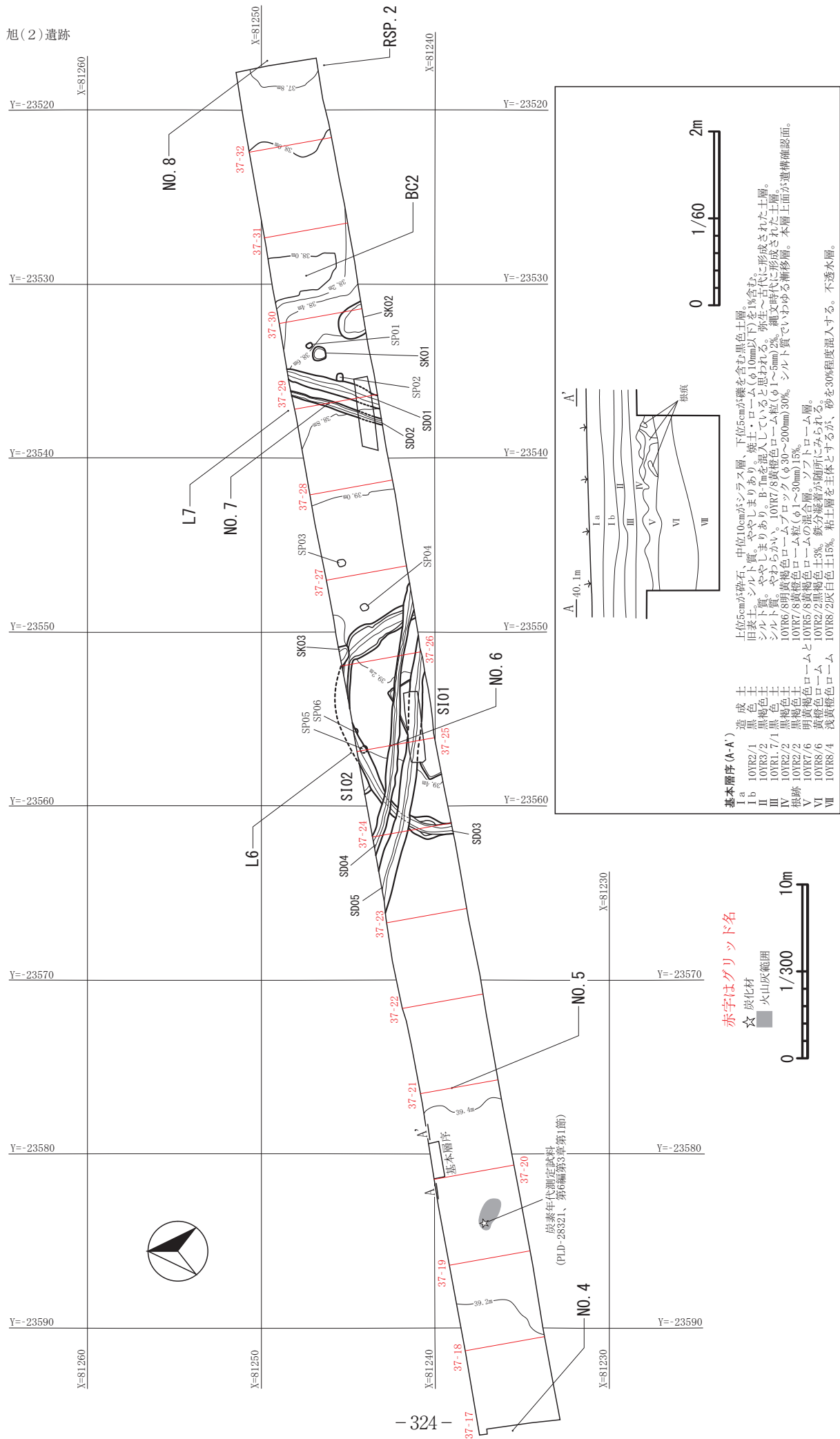


図191 農道37号 遺構配置図 基本層序 断面図

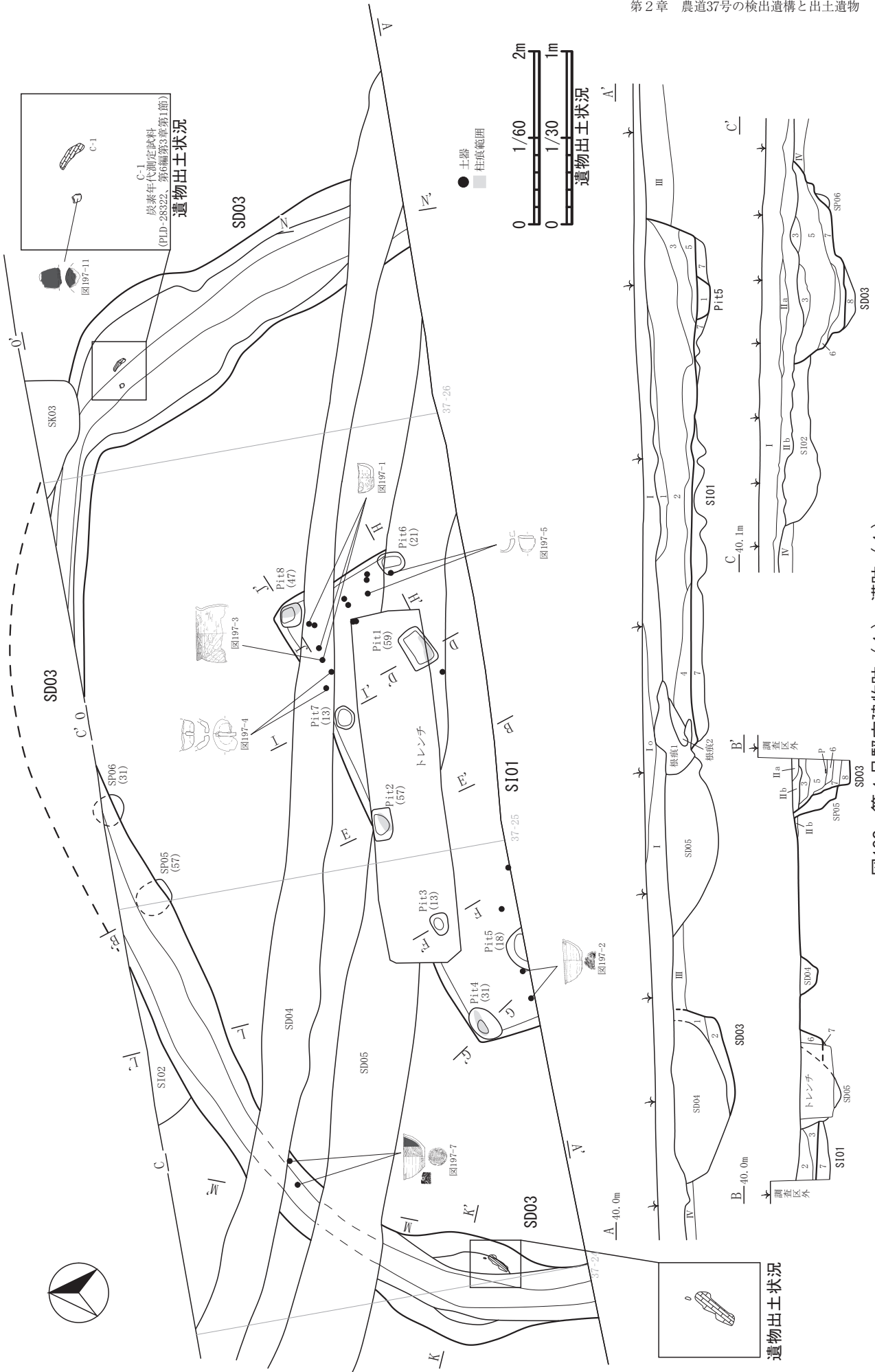
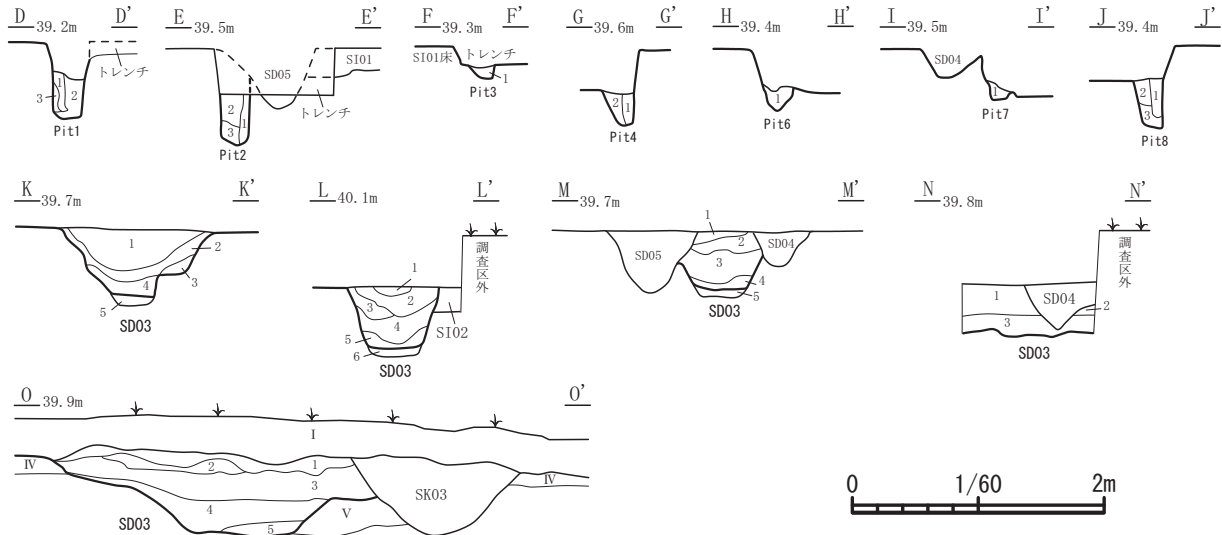


図192 第1号竪穴建物跡(1)・溝跡(1)



SI01 (A-A'・B-B')

- I o 10YR2/3 黒褐色土 現代の焼土・灰を多く含む。
- I 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~15mm)1%。
- 1層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ3~15mm)1%。
- 2層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ3~50mm)15%、2.5YR7/4淡赤橙色ローム粒(φ3~70mm)10%、2.5YR6/6橙色ローム粒(φ3~40mm)7%。
- 3層 10YR2/3 黒褐色土 2.5YR7/4淡赤橙色ローム粒(φ5~30mm)5%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ10~20mm)3%。
- 4層 10YR3/4 暗褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~40mm)25%、10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~30mm)10%、10YR7/1灰白色ローム粒(φ70mm)2%。
- 5層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ5~50mm)7%、10YR8/8黄褐色ローム粒(φ40mm)5%。
- 6層 10YR2/2 黒褐色土 10YR6/4にぶい黄褐色ローム粒(φ1~10mm)3%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)2%。
- 7層 10YR2/3 黒褐色土 掘方。10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~70mm)30%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~30mm)5%。
- III 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ3~10mm)1%。
- IV 10YR2/2 黒褐色土

Pit5 (A-A')

- 1層 10YR2/3 黒褐色土 2.5YR7/4淡赤橙色ローム粒(φ1~20mm)15%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~30mm)7%。

SD03 (A-A')

- 1層 10YR3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~30mm)2%。
- 2層 10YR2/2 黒褐色土と10YR6/8明黄褐色土の混合層。

SD03 (B-B'・C-C')

- IIa 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
- IIb 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)1%、炭化物(φ5mm)1%。
- 3層 10YR2/2 黒褐色土 10YR3/3暗褐色土30%。
- 5層 10YR3/2 黒褐色土 10YR4/6褐色土30%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)10%、炭化物(φ1mm)2%。
- 6層 10YR5/6 黄褐色土 10YR2/3黒褐色土20%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
- 7層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
- 8層 10YR6/6 明黄褐色土 掘方。10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~30mm)20%、10YR2/3黒褐色土10%、炭化物(φ1mm)2%。

Pit1 (D-D')

- 1層 10YR2/2 黒褐色土 柱痕。10YR4/4褐色土20%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)5%、炭化物(φ1mm)1%。
- 2層 10YR4/6 褐色土 掘方。10YR5/6黄褐色土10%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。
- 3層 10YR5/4 にぶい黄褐色土 掘方。7.5YR5/8明褐色土10%、10YR2/2黒褐色土5%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1mm)1%。

Pit2 (E-E')

- 1層 10YR2/2 黒褐色土 柱痕。10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)20%、炭化物(φ1mm)1%。
- 2層 10YR5/6 黄褐色土 掘方。10YR2/2黒褐色土10%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)10%、炭化物(φ1mm)1%。
- 3層 10YR6/6 明黄褐色土 掘方。10YR2/2黒褐色土5%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)10%、炭化物(φ1mm)1%。

Pit3 (F-F')

- 1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR6/6明黄褐色土30%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%。

Pit4 (G-G')

- 1層 10YR2/3 黒褐色土 柱痕。10YR7/6明黄褐色土20%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)3%。
- 2層 10YR3/4 暗褐色土 掘方。10YR7/6明黄褐色土30%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)7%。

Pit6 (H-H')

- 1層 10YR2/3 黒褐色土と10YR5/8黄褐色土の混合層。

Pit7 (I-I')

- 1層 10YR5/8 明黄褐色土 10YR2/2黒褐色土20%、10YR6/4にぶい黄褐色土3%。

Pit8 (J-J')

- 1層 10YR2/1 黒色土 柱痕。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1~15mm)15%、10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~10mm)5%。
- 2層 10YR2/2 黒褐色土 掘方。10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~30mm)20%、10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)5%。
- 3層 10YR2/1 黒色土と10YR8/2灰白色粘土ブロック(φ80mm)の混合層。掘方。10YR7/4にぶい黄褐色ローム粒(φ30mm)10%。

SD03 (K-K')

- 1層 10YR2/3 黒褐色土 10YR6/8明黄褐色土10%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~30mm)30%、炭化物(φ1~3mm)1%。
- 2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
- 3層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%。
- 4層 10YR2/3 黒褐色土 本層下部に厚さ2cmの砂層あり。10YR6/6明黄褐色土10%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~30mm)3%、炭化物(φ1~3mm)1%。
- 5層 10YR3/4 暗褐色土 掘方。10YR7/6明黄褐色土20%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%。

SD03 (L-L')

- 1層 10YR2/3 黒褐色土 ローム粒(φ1~3mm)1%。
- 2層 10YR3/3 暗褐色土 10YR5/8黄褐色土15%、ローム粒(φ1~10mm)3%、炭化物(φ3~20mm)1%。
- 3層 10YR2/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~7mm)1%。
- 4層 10YR3/4 暗褐色土 ローム粒(φ1~50mm)3%。
- 5層 2.5Y3/2 黒褐色土 ローム粒(φ1~3mm)3%。
- 6層 10YR3/4 暗褐色土 掘方。ローム粒(φ1~20mm)5%。

SD03 (N-N')

- 1層 10YR2/3 黒褐色土 鉄分凝着(φ2~3mm)1%。
- 2層 10YR2/2 黒褐色土と10YR6/8明黄褐色土の混合層。
- 3層 10YR2/2 黒褐色土と10YR7/2にぶい黄褐色ロームと10YR6/6明黄褐色ロームの混合層。

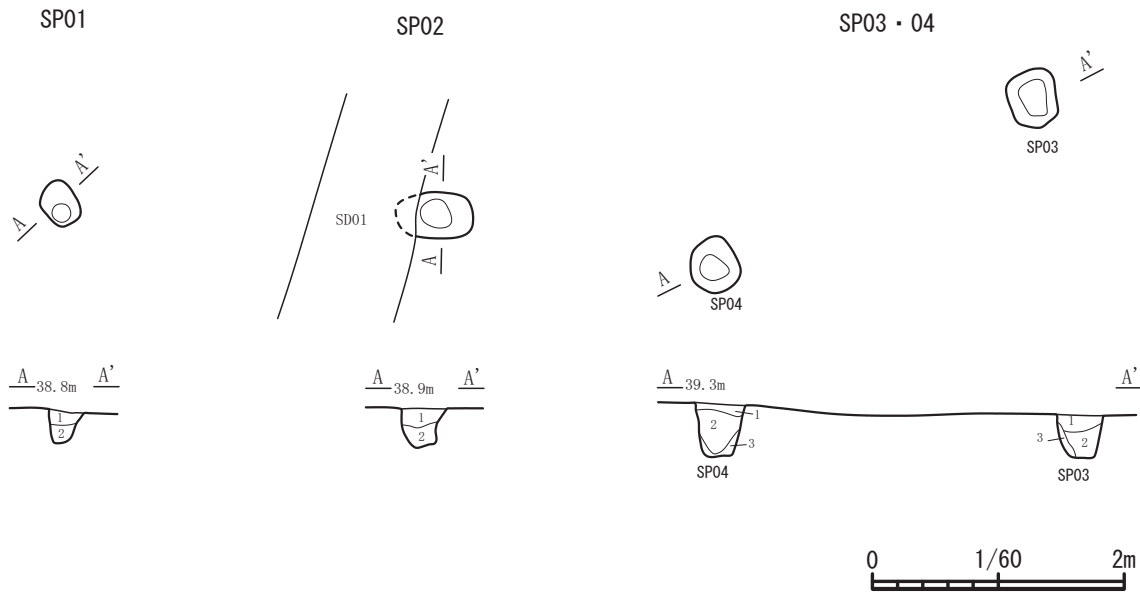
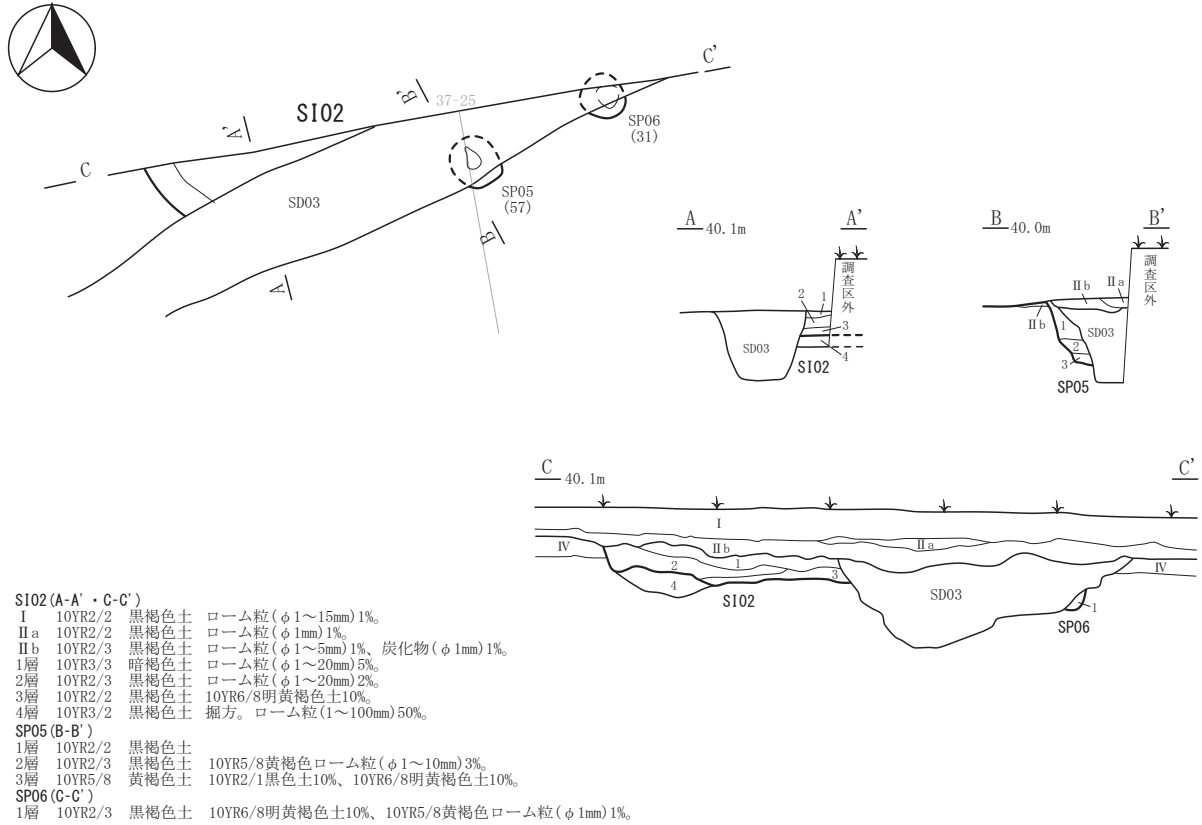
SD03 (M-M')

- 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
- 2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR5/8黄褐色土10%、10YR6/4にぶい黄褐色土5%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
- 3層 10YR2/2 黒褐色土 10YR4/6褐色土10%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~2mm)2%。
- 4層 10YR4/6 褐色土 10YR2/3黒褐色土10%。
- 5層 10YR2/2 黒褐色土 掘方。10YR6/4にぶい黄褐色土5%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~2mm)1%。

SD03 (O-O')

- I 10YR2/3 黒褐色土 小石と礫多い。
- 1層 10YR2/2 黒褐色土 10YR3/3暗褐色土30%、10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
- 2層 10YR2/3 黒褐色土 10YR4/6褐色土10%、炭化物(φ1mm)1%。
- 3層 10YR3/3 暗褐色土 10YR5/8黄褐色ロームブロック(φ20mm)3%、10YR4/6褐色ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
- 4層 10YR2/3 黒褐色土 10YR3/4暗褐色土30%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
- 5層 10YR2/3 暗褐色土 10YR4/6褐色土20%、10YR2/1黒色土10%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~2mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
- IV 10YR2/2 黒褐色土
- V 10YR5/8 黄褐色土

図193 第1号竪穴建物跡(2)・溝跡(2)



SP01

1層	10YR2/1	黒色土	ローム粒 (φ 1mm) 1%、炭化物 (φ 1mm) 1%。
2層	10YR1.7/1	黒色土	10YR6/6明黄褐色土10%、ローム粒 (φ 1mm) 1%。

SP02

1層	7.5YR2/3	極暗褐色土	10YR2/3黒褐色土10%、ローム粒 (φ 1~5mm) 2%、炭化物 (φ 1mm) 1%。
2層	10YR2/3	黒褐色土	10YR6/8明黄褐色土40%、ローム粒 (φ 1mm) 1%。

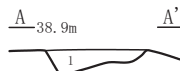
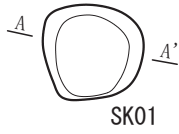
SP03

1層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒 (φ 1~5mm) 2%。
2層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒 (φ 1~30mm) 3%。
3層	10YR5/6	黄褐色土	10YR3/3暗褐色土10%。

SP04

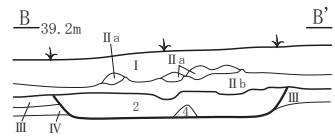
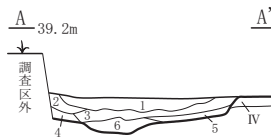
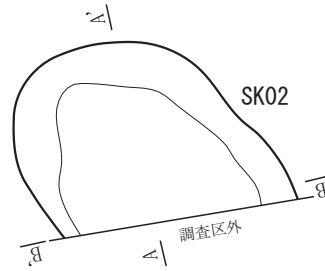
1層	10YR3/3	暗褐色土	ローム粒 (φ 1~30mm) 2%。
2層	10YR2/3	黒褐色土	ローム粒 (φ 1~30mm) 3%。
3層	10YR5/6	黄褐色土	10YR2/3黒褐色土30%。

図194 第2号竪穴建物跡・柱穴



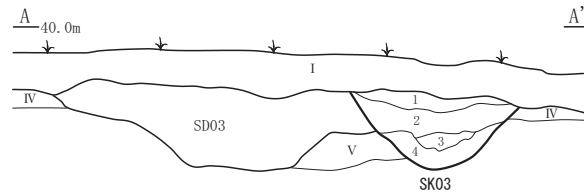
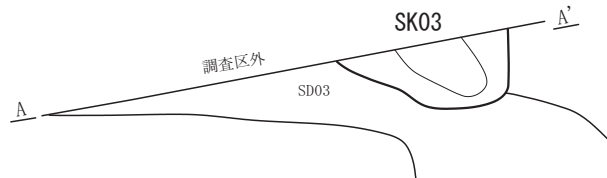
SK01

1層 10YR1.7/1 黒色土 ローム粒(φ1mm)1%。



SK02 (A-A'・B-B')

I	7.5YR2/2	黒褐色土	根多い。小石含む。10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
II a	5YR3/2	暗赤褐色土	根含む。10YR6/8明黄褐色ローム粒(φ1~2mm)1%。
II b	10YR1.7/1	黒色土	根含む。10YR7/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%。
1層	10YR3/2	黒褐色土	根含む。
2層	10YR2/2	黒褐色土	10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~10mm)20%。
3層	7.5YR2/2	黒褐色土	10YR6/6明黄褐色ローム粒(φ1mm)1%。
4層	10YR3/1	黒褐色土	
5層	10YR2/2	黒褐色土	10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~10mm)7%。
6層	10YR2/1	黒色土	10YR6/2灰黄褐色の風化した粘土5%。
III	10YR2/3	黒褐色土	根少し含む。10YR7/6明黄褐色ローム粒(φ1~5mm)3%。
IV	10YR3/4	暗褐色土	



SK03

1層	10YR1.7/1	黒色土	炭化物(φ1mm)1%。
2層	10YR2/3	黒褐色土	10YR5/6黄褐色ローム粒(φ1~3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。
3層	10YR5/6	黄褐色土	10YR2/3黒褐色土10%、10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~5mm)2%、炭化物(φ1mm)1%。
4層	10YR2/2	黒褐色土	10YR5/8黄褐色ローム粒(φ1~3mm)1%、炭化物(φ1mm)1%。

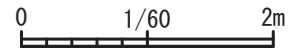


図195 土坑

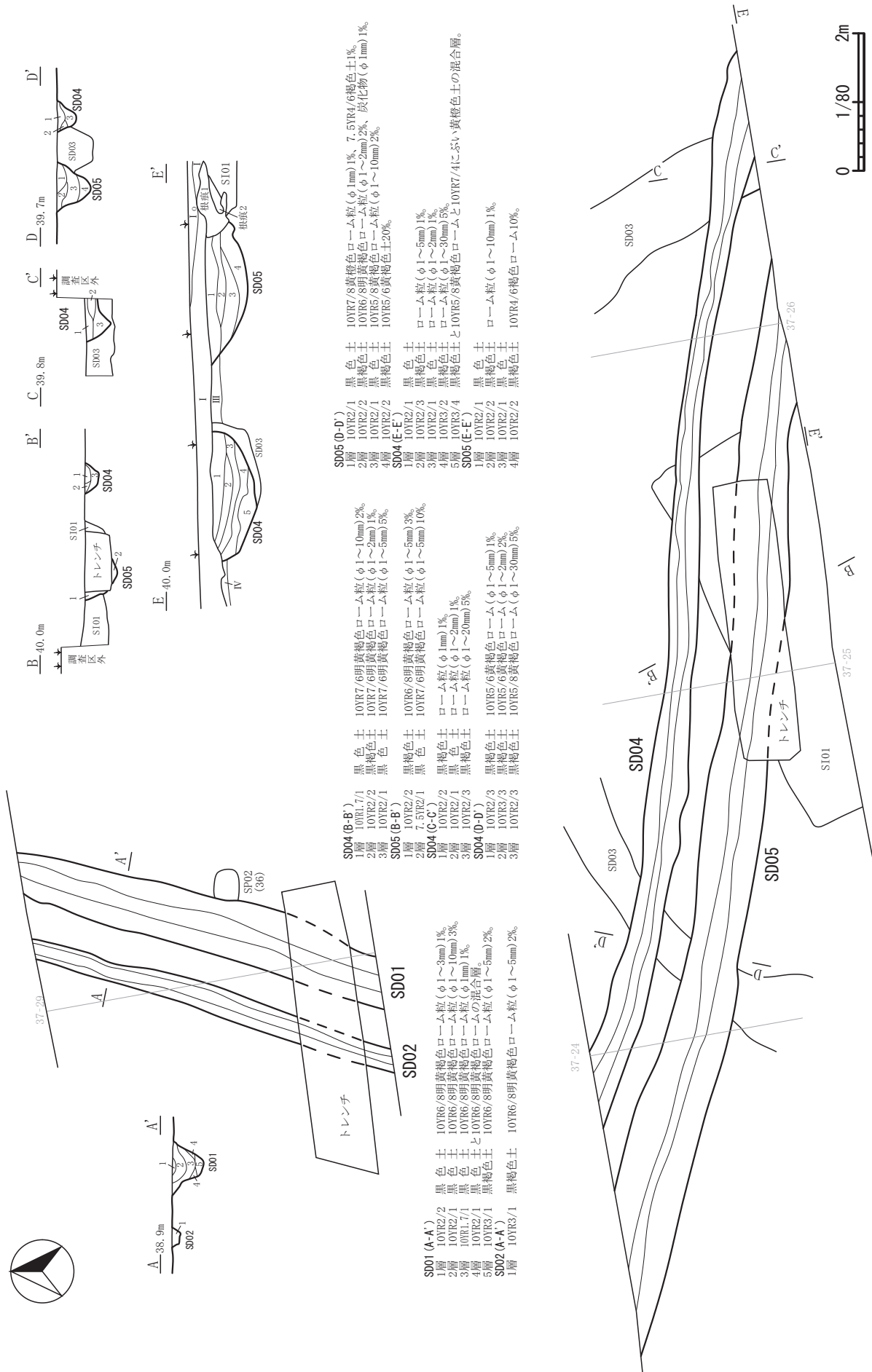


図196 溝跡

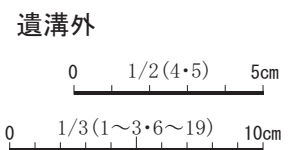
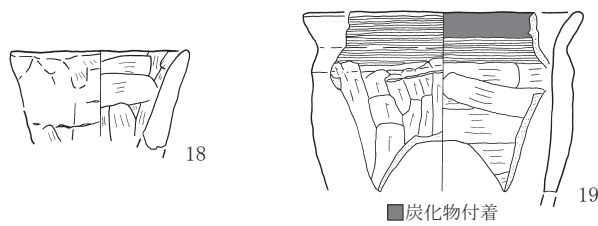
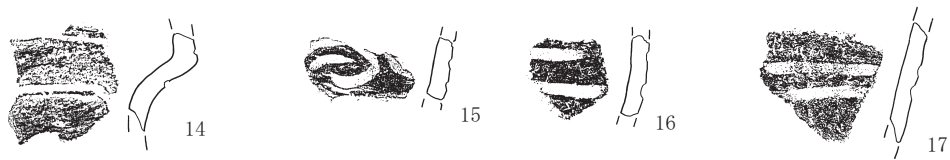
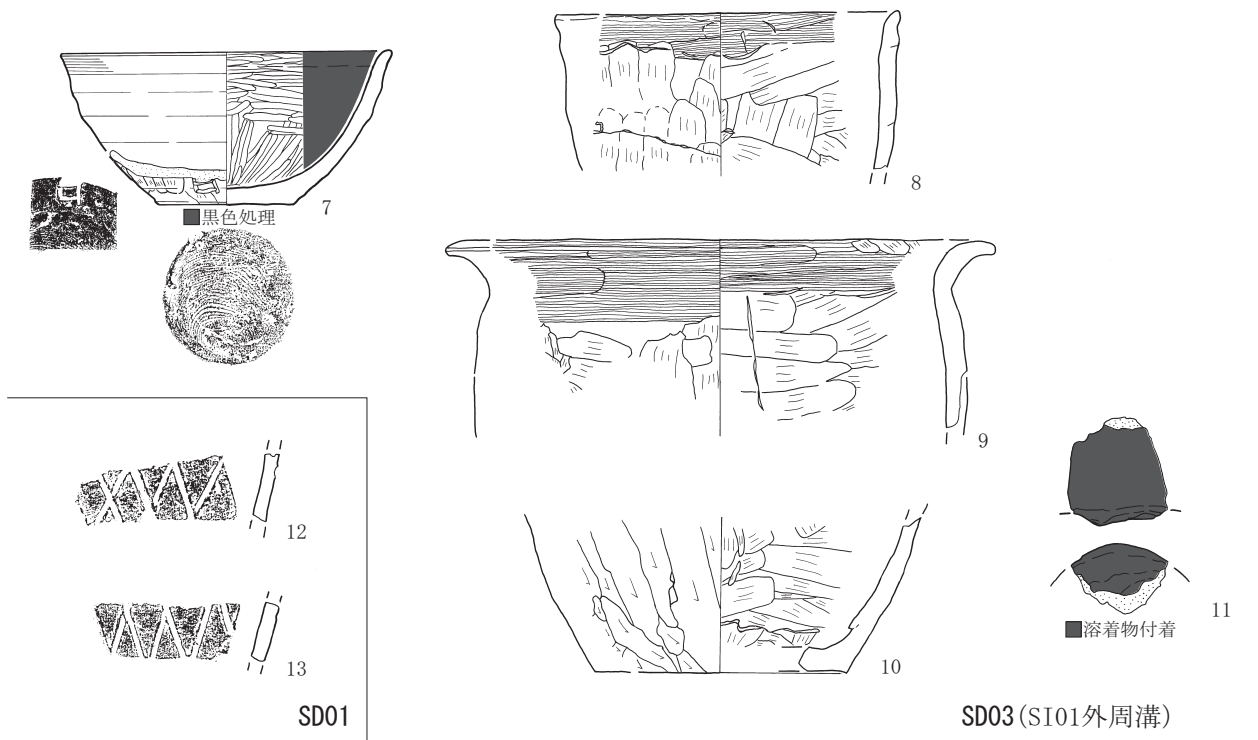
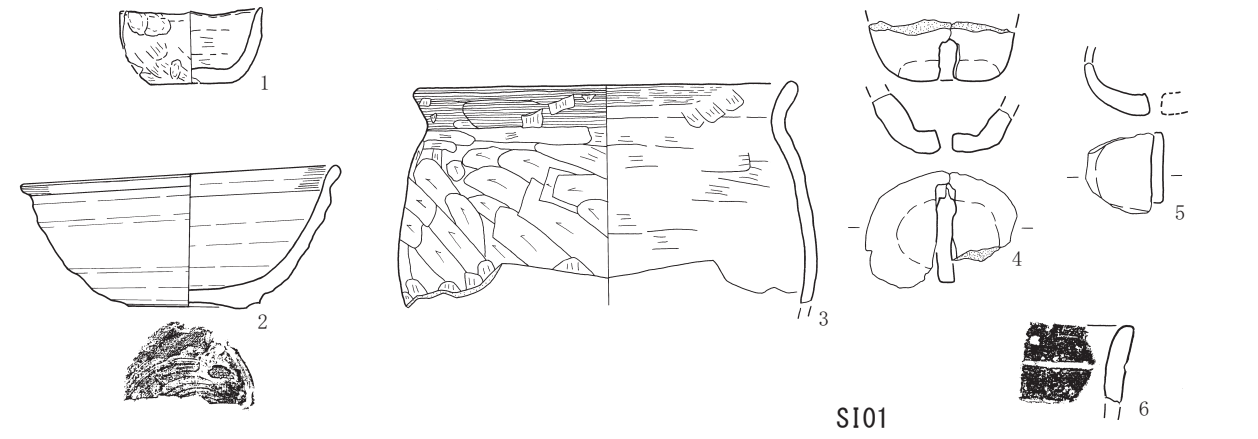


図197 出土遺物

表9 農道30号 土器観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
8	1	沢トレンチ	8層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	RRL横位	平滑なナデ		縄文時代中期後半?
36	2	SI01	床面直上P6	土師器	甕	口縁部	-	-	(4.9)	輪積痕、ロクロ、ヘラナデ	ロクロ		平安時代
36	3	SI01	床面直上P1	土師器	埴	口縁部	-	-	(4.5)	ヘラケズリ、ヘラナデ、横ナデ	ヘラナデ、横ナデ		平安時代
36	4	SI01	確認面	須恵器	坏	体部上半	(13.0)	-	(4.4)	ロクロ	ロクロ	還元軟質焼成。内外面に火襷痕あり。	平安時代
36	5	SI02	壁溝、SI02SK1堆積土、SI02SK2堆積土・2層	土師器	坏	略完形	(14.0)	(6.0)	5.8	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。口縁部にゆがみあり。	平安時代
36	6	SI02	SI02SK1堆積土、SI02SK22層	土師器	坏	略完形	(15.0)	(6.0)	(5.0)	ロクロ	ロクロ	内外面ともに被熱部分が多い。	平安時代
36	7	SI02	SI02SK1堆積土	土師器	小甕	口縁部	(12.0)	-	(3.0)	ロクロ	ロクロ	口縁部に炭化物付着。	平安時代
36	8	SI02	壁溝、カマド袖P7、SI02SK1堆積土、SI02SK24層、30-34・35カクラン	土師器	甕	体部上半	(21.0)	-	(15.0)	横ナデ、ヘラケズリ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ、ナデ		平安時代
36	9	SI02	壁溝、SI02SK24層	土師器	甕	底部	-	(10.6)	(6.1)	輪積痕、指オサエ、ヘラナデ	ナデ、ヘラナデ	底外面木葉痕。	平安時代
36	10	SI02	焼土範囲P2、SI02SK2堆積土・2層・4層	土師器	甕	底部	-	(7.2)	(8.6)	ヘラナデ	ヘラナデ	底外面ヘラナデ?	平安時代
36	11	SI03	床面直上P7、2層(貼床)P15	土師器	甕	口縁部	-	-	(3.7)	横ナデ、ヘラナデ、ナデ	横ナデ、ナデ		平安時代
36	12	SI03	カマド周辺堆積土P2・3、30-35 I層・カクラン	土師器	甕	口縁部	-	-	(5.4)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ		平安時代
36	13	SI03	2層(貼床)P15	須恵器	甕	体部	-	-	-	タタキ	ヘラナデ		平安時代
37	14	SI04	確認面P4	土師器	坏	底部	-	6.1	(2.2)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
37	15	SI04	床面直上P3・22・26~29、カマド周辺堆積土、排土	土師器	小甕	体部上半	(15.0)	-	(12.0)	ロクロ	ロクロ		平安時代
37	16	SI04	確認面P8・11・14・16・20・23、堆積土	土師器	甕	体部上半	(24.0)	-	(14.2)	ロクロ、ヘラナデ、ナデ	ロクロ、ヘラナデ	外面に炭化物付着。	平安時代
37	17	SI06	3層(床面直上)P1	土師器	甕	底部	-	7.8	(3.9)	ヘラケズリ	指ナデ、ヘラナデ	底外面ヘラナデ。	平安時代
37	18	SI06	床面直上	土師器	ミニチュア甕	底部	-	(4.0)	(2.0)	指オサエ	指オサエ		平安時代
37	19	SI06	3層(床面直上)P1	須恵器	鉢	略完形	(11.4)	4.6	9.9	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。外面に刻書あり。	平安時代
37	20	SI07	床面、貼床、30-9カクラン	土師器	坏	体部上半	(15.8)	-	(6.0)	ロクロ	ロクロ		平安時代
37	21	SI07	SI07Pit2堆積土	土師器	坏	体部上半	(13.8)	-	(4.5)	ロクロ	ミガキ、黒色処理		平安時代
37	22	SI07	堆積土、床面P1、30-9 I層	土師器	甕	略完形	(17.6)	8.0	17.6	ロクロ、ヘラケズリ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ	底外面ヘラケズリ。口縁部内面に炭化物付着。	平安時代
37	23	SI07	堆積土	須恵器	坏	体部上半	(15.8)	-	(4.9)	ロクロ	ロクロ	還元や軟質焼成。内面に火襷痕あり。	平安時代
37	24	SI07	堆積土、床面P1	須恵器	長頸壺	口縁部	(10.4)	-	(6.5)	ロクロ	ロクロ		平安時代
38	25	SI08	堆積土	土師器	坏	体部上半	(13.0)	-	(5.2)	ロクロ	ロクロ	外面に黒色物付着。	平安時代
38	26	SI08	床直P1	土師器	小甕	底部	-	(4.8)	(3.1)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
38	27	SI08	SI08Pit9堆積土	土師器	小甕	体部上半	(12.0)	-	(5.7)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ナデ、刷毛目		平安時代
38	28	SI08	堆積土、床面P7	土師器	小甕	体部上半	(11.0)	-	(8.0)	横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ナデ	口縁部内面にスス付着。	平安時代
38	29	SI08	カマド火床面北支脚P3	土師器	小甕	体部下半	-	6.0	(6.5)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
38	30	SI08	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(6.4)	横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
38	31	SI08	堆積土、30-11カクラン	土師器	甕	底部	-	(9.0)	(9.5)	輪積痕、ヘラナデ、ヘラケズリ	指ナデ、ヘラナデ	底外面砂底。外面に粘土付着。	平安時代

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
38	32	SI08	南支脚火床面P2	土師器	甕	体部	-	-	-	ナデ	刷毛目、ナデ		平安時代
38	33	SI08	堆積土	須恵器	坏	略完形	(13.0)	(5.0)	5.0	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。内面に火襷痕あり。	平安時代
38	34	SI08	堆積土	須恵器	坏	体部上半	(15.6)	-	(4.2)	ロクロ	ロクロ	還元軟質焼成。	平安時代
38	35	SI08	SI08Pit4堆積土	須恵器	坏	体部上半	-	-	(4.5)	ロクロ	ロクロ	外面に刻書あり。	平安時代
38	36	SI08	堆積土	須恵器	長頸壺	口縁部	(11.0)	-	(1.4)	ロクロ	ロクロ	口縁端面と内面に自然釉付着。	平安時代
38	39	SK23	堆積土	土師器	坏	体部上半	(14.6)	-	(3.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代
38	40	SK23	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(6.5)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
39	41	SK03	堆積土P29・31	土師器	坏	完形	13.0	5.6	5.0	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
39	42	SK03	堆積土P27・32・40	土師器	坏	略完形	(14.2)	4.3	5.2	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。外面にスス付着。	平安時代
39	43	SK03	堆積土P3・7・35	土師器	小甕	体部上半	(8.4)	-	(5.9)	輪積痕、横ナデ、ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ヘラナデ、ナデ		平安時代
39	44	SK03	堆積土P41	土師器	甕	体部上半	-	-	(10.8)	横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
39	45	SK03	堆積土P19	土師器	甕	底部	-	(10.5)	(4.6)	ヘラナデ	ヘラナデ	底外面ヘラナデ。外面に焼土付着。	平安時代
39	46	SK03	堆積土P8・38	土師器	甕	底部	-	(8.2)	(3.8)	ヘラナデ	ヘラナデ	底外面砂底。	平安時代
39	47	SK03	堆積土P16・17	土師器	甕	底部	-	(8.2)	(6.1)	ヘラナデ、ヘラケズリ	指ナデ、ヘラナデ	底外面砂底。	平安時代
39	48	SK03	堆積土P40・42	土師器	塀	口縁部	-	-	(8.9)	輪積痕、ヘラナデ、ヘラケズリ、横ナデ	ヘラナデ、横ナデ		平安時代
39	49	SK04	堆積土P2	土師器	甕	底部	-	(11.2)	(3.8)	ヘラナデ	指ナデ、ヘラナデ	底外面ヘラケズリ。	平安時代
39	50	SK04	堆積土P1	土師器	甕	底部	-	(13.0)	(3.0)	ヘラケズリ、ヘラナデ	指ナデ、ヘラナデ	底外面ヘラケズリ。	平安時代
40	51	SK10	堆積土	土師器	坏	体部上半	(14.4)	-	(4.1)	ロクロ	ミガキ、黒色処理	口縁部内外面にタール状の付着物あり。	平安時代
40	52	SK10	堆積土	須恵器	坏	体部上半	(15.6)	-	(3.7)	ロクロ、ナデ	ロクロ		平安時代
40	53	SK10	堆積土	須恵器	坏	底部	-	(4.6)	(1.4)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。内外面に火襷痕あり。	平安時代
40	54	SK11	堆積土上位	土師器	坏	体部上半	(13.8)	-	(4.0)	ロクロ	ロクロ		平安時代
40	55	SK12	7層	土師器	甕	体部	-	-	-	ロクロ、ナデ	ロクロ		平安時代
40	56	SK12	堆積土	須恵器	甕	体部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ		平安時代
40	57	SK12	堆積土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	-	沈線	平滑なナデ		縄文時代後期(十腰内I式)
40	58	SK13	堆積土上位	土師器	坏	体部上半	(13.8)	-	(4.9)	ロクロ、ナデ	ロクロ	外面に炭化物付着。	平安時代
40	59	SK13	堆積土上位	土師器	甕	口縁部	-	-	(4.8)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
40	60	SK15	堆積土P1・2・5・11・13~21、堆積土、30-19カクラン	土師器	塀	体部上半	(40.0)	-	(9.4)	横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ヘラナデ	内外面に炭化物付着。	平安時代
40	61	SK15	堆積土P12	土師器	塀	口縁部	-	-	(5.2)	横ナデ、ヘラケズリ	摩滅のため調整不明瞭		平安時代
41	62	SK18	堆積土、30-43カクラン	土師器	坏	略完形	(13.0)	5.7	6.1	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。外面に粘土付着。	平安時代
41	63	SK18	堆積土	土師器	坏	体部上半	(16.6)	-	(4.6)	ロクロ	ロクロ		平安時代
41	64	SK18	堆積土	土師器	小甕	体部上半	(8.0)	-	(4.7)	ロクロ	ロクロ	口縁内外面端部にスス付着。	平安時代
41	65	SK18	堆積土	土師器	小甕	口縁部	(18.4)	-	(7.3)	ロクロ、ナデ	ロクロ	口縁内面端部にスス付着。	平安時代
41	66	SK18	堆積土	土師器	甕	体部上半	(22.0)	-	(30.5)	ロクロ、ヘラケズリ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ	外面に焼土付着。	平安時代
41	67	SK18	堆積土、30-43カクラン	須恵器	坏	略完形	(12.8)	(6.0)	5.3	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。内外面に黒色タール状付着物、外面に火襷痕あり。胎土分析S-1。	平安時代
41	68	SK18	堆積土	須恵器	坏	略完形	(14.0)	(4.2)	4.5	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。外面に刻書あり。	平安時代
41	69	SK21	堆積土	須恵器	坏	体部下半	-	(4.6)	(2.6)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。還元やや軟質焼成。外面に刻書?、外面に火襷痕あり。	平安時代

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
42	70	SD01	堆積土	須恵器	坏	底部	-	(5.0)	(1.1)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。底内面に火襷痕あり。	平安時代
42	71	SD05	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(4.9)	横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
42	72	SD05 (HSD07)	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(5.2)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
42	73	SD05 (HSD07)	1層	土師器	甕	体部下 半	-	7.0	(6.3)	ヘラケズリ	指ナデ、ナデ	底外面砂底。	平安時代
42	74	SD08	堆積土	土師器	坏	体部下 半	-	(5.0)	(2.0)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
42	75	SD08	堆積土	須恵器	坏	体部上 半	(15.6)	-	(3.4)	ロクロ	ロクロ		平安時代
42	76	SD08	堆積土	須恵器	坏	体部上 半	(15.0)	-	(4.1)	ロクロ	ロクロ	還元軟質焼成。外面に火襷痕あり。	平安時代
42	77	SD10	堆積土	土師器	甕	口縁部	(22.0)	-	(8.2)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ		平安時代
42	78	SD11	堆積土	土師器	坏	体部下 半	-	(5.0)	(2.1)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
42	79	SD11	堆積土	須恵器	壺	底部	-	(10.0)	(6.2)	ヘラケズリ	ヘラナデ	底外面ヘラケズリ。	平安時代
42	80	SD12	堆積土上位	土師器	坏	略完形	(11.0)	(4.2)	5.9	ロクロ、ヘラケズリ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
42	81	SD12	堆積土上位	土師器	坏	略完形	12.1	5.5	4.8	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
42	82	SD12	堆積土、堆積土下位、堆積土上位、30-19カクラン	土師器	小甕	体部上 半	(12.0)	-	(8.5)	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ	ヘラナデ、横ナデ		平安時代
42	83	SD12	堆積土、堆積土上位	土師器	小甕	体部上 半	(14.0)	-	(11.5)	輪積痕、ロクロ、ヘラナデ	輪積痕、ロクロ		平安時代
42	84	SD12	堆積土	土師器	小甕	体部上 半	(15.0)	-	(13.3)	ヘラケズリ、ヘラナデ、横ナデ	ヘラナデ、ナデ、横ナデ	外面に被熱による剥落部分多くあり。口縁端部内面にスス付着。	平安時代
43	85	SD12	堆積土、堆積土上位、堆積土下位	土師器	甕	体部上 半	(20.0)	-	(16.3)	ロクロ?、ヘラナデ	ロクロ?、刷毛目		平安時代
43	86	SD12	堆積土上位、堆積土	土師器	甕	体部上 半	(20.0)	-	(16.0)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ		平安時代
43	87	SD12	堆積土上位	土師器	甕	体部上 半	(21.0)	-	(12.7)	輪積痕、ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ		平安時代
43	88	SD12	堆積土上位	土師器	甕	口縁部	-	-	(6.3)	輪積痕、ヘラナデ、横ナデ	刷毛目、横ナデ		平安時代
43	89	SD12	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(8.0)	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ	外面の口縁端部に沈線状の凹みあり。	平安時代
43	90	SD12	堆積土上位	土師器	甕	体部上 半	-	-	(15.9)	横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
43	91	SD12	堆積土上位、堆積土下位	土師器	甕	底部	-	8.0	(6.9)	ヘラケズリ	ナデ	底外面ヘラナデ。	平安時代
43	92	SD12	堆積土	土師器	小甕	底部	-	7.2	(5.8)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
43	93	SD12	堆積土上位、堆積土	土師器	甕	体部下 半	-	(7.0)	(9.3)	ヘラケズリ、ヘラナデ	指ナデ、ヘラナデ	底外面ヘラケズリ。外面に被熱部分あり。	平安時代
43	94	SD12	堆積土上位	土師器	小甕	底部	-	7.2	(3.1)	被熱による剥落のため不明	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
44	95	SD12	堆積土上位、30-19カクラン	土師器	塙	口縁部	-	-	(9.2)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ、ナデ		平安時代
44	96	SD12	堆積土上位	土師器	小甕	体部上 半	(8.0)	-	(4.3)	ロクロ	ロクロ	口縁部内面と口縁端部にスス付着。	平安時代
44	97	SD12	堆積土下位	土師器	小坏	完形	3.4	1.8	2.9	指オサエ	指オサエ、ナデ	底外面ナデ。	平安時代
44	98	SD12	堆積土下位	土師器	ミニチュア 甕	体部上 半	(6.0)	-	(3.6)	ヘラナデ	ヘラナデ、ヘラケズリ		平安時代
44	99	SD12	堆積土上位	須恵器	坏	体部上 半	(14.0)	-	(3.0)	ロクロ	ロクロ	還元やや軟質焼成。外面に火襷痕あり。	平安時代
44	100	SD12	堆積土下位	須恵器	坏	体部上 半	(14.0)	-	(4.7)	ロクロ	ロクロ	外面に火襷痕あり。	平安時代
44	101	SD12	堆積土上位	須恵器	坏	体部上 半	(13.8)	-	(4.5)	ロクロ、ナデ	ロクロ	外面に刻書あり。	平安時代
44	102	SD12	堆積土上位	須恵器	坏	体部上 半	(13.0)	-	(4.3)	ロクロ	ロクロ	外面に刻書、底部付近にへこみあり。	平安時代
44	103	SD12	堆積土上位	須恵器	壺	口縁部	(21.8)	-	(3.7)	ロクロ	ロクロ	酸化やや軟質焼成。	平安時代
44	104	SD12	堆積土上位	須恵器	甕	口縁部	-	-	(3.6)	ロクロ	ロクロ	内面全体的に自然釉付着。	平安時代
44	105	SD12	堆積土上位、SD13堆積土下位	須恵器	甕	体部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ		平安時代
44	106	SD12	堆積土下位	須恵器	甕	体部	-	-	-	タタキ	鳥足状あて具痕	胎土分析S-2。	平安時代
45	110	SD13	堆積土上位	土師器	坏	体部上 半	(15.0)	-	(4.3)	ロクロ、ナデ	ロクロ、ナデ		平安時代

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
45	111	SD13	堆積土上位	土師器	坏	底部	-	5.0	(2.9)	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面ナデ。内外面に炭化物付着。	平安時代
45	112	SD13	堆積土上位P1、堆積土上位	土師器	甕	体部上半	(20.0)	-	(10.8)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
45	113	SD13	堆積土上位P2、堆積土上位	土師器	甕	口縁部	-	-	(11.7)	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ナデ、ヘラナデ		平安時代
45	114	SD13	堆積土上位	須恵器	甕	体部下半	-	-	-	タタキ	ナデ		平安時代
45	116	SD14	堆積土上位	土師器	坏	体部下半	-	5.4	(3.2)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。外面にタール状付着物あり。	平安時代
45	117	SD14	堆積土上位	土師器	小鉢	体部上半	(7.8)	-	(5.7)	ロクロ、ナデ	ロクロ	口縁内面端部に炭化物付着。	平安時代
45	118	SD14	堆積土上位	土師器	小坏	略完形	(6.0)	(5.0)	4.3	ナデ、ミガキ	ナデ	底外面ナデ?	平安時代
45	119	SD14	堆積土上位	土師器	甕	体部上半	-	-	(11.3)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
45	120	SD14	堆積土上位	土師器	甕	口縁部	-	-	(5.0)	横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
45	121	SD14	堆積土	土師器	塀	口縁部	-	-	(4.0)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ	外面に炭化物付着。	平安時代
46	122	SD14	堆積土上位、SD13堆積土上位、30-14 I層	須恵器	坏	略完形	(13.0)	(5.2)	5.1	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。内外面に火襷痕あり。胎土分析S-3。	平安時代
46	123	SD14	堆積土上位	須恵器	坏	略完形	(13.0)	(5.5)	5.0	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。内外面に火襷痕あり。	平安時代
46	124	SD14	堆積土上位	須恵器	坏	底部	-	(5.0)	(2.5)	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。還元軟質焼成。外面に刻書、火襷痕あり。	平安時代
46	125	SD14	堆積土上位	須恵器	甕	体部	-	-	-	タタキ	あて具痕		平安時代
46	126	SD18	堆積土P5	土師器	坏	略完形	(13.0)	(5.0)	6.1	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
46	127	SD18	堆積土P2	土師器	坏	完形	12.5	6.2	4.6	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
46	128	SD18	堆積土P1	土師器	坏	略完形	(13.0)	(5.0)	5.8	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
46	129	SD18	堆積土	土師器	坏	略完形	(13.2)	(4.6)	4.8	ロクロ	ロクロ	底外面ヘラケズリ。	平安時代
46	130	SD18	堆積土	土師器	小甕	底部	-	(4.4)	(3.0)	ヘラナデ	ナデ	底外面ヘラナデ?	平安時代
46	131	SD18	堆積土P5	土師器	甕	底部	-	6.4	(3.5)	ヘラケズリ、ヘラナデ	指ナデ	底外面は剥落のため調整不明。	平安時代
46	132	SD18	堆積土	土師器	甕	底部	-	-	(1.2)	ヘラナデ	ナデ	底外面木葉痕。	平安時代
46	133	SD18	堆積土	土師器	塀	口縁部	-	-	(4.0)	ヘラナデ、横ナデ	ヘラナデ、ナデ、横ナデ	外面に炭化物付着。	平安時代
46	134	SD18	堆積土P3・4	須恵器	坏	略完形	(13.1)	4.9	4.7	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。外面に墨書、内外面に火襷痕あり。	平安時代
46	135	SD18	堆積土、S108堆積土	須恵器	坏	略完形	(14.4)	(5.0)	5.3	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。外面に刻書、内外面に火襷痕あり。	平安時代
46	136	SD18	堆積土P6	須恵器	鉢	底部	-	(6.0)	(4.2)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
47	137	SD18	P6の下	須恵器	甕	体部	-	-	-	タタキ	あて具痕	胎土分析S-5。	平安時代
47	138	SD18	堆積土P5	須恵器	甕	体部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ	胎土分析S-4。	平安時代
48	140	遺構外	30-16カクラン	縄文土器	注口土器	注口部	-	-	-				縄文時代晩期
48	141	遺構外	30-11 I層	土師器	坏	体部下半	-	(6.2)	(3.7)	ロクロ	ミガキ、黒色処理	底外面回転糸切。外面と底外面に炭化物付着。	平安時代
48	142	遺構外	30-26カクラン	土師器	甕	口縁部	-	-	(5.4)	横ナデ、ヘラケズリ	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ、オサエ	口縁部内面に黒色付着物あり。	平安時代
48	143	遺構外	30-26カクラン	土師器	塀	口縁部	-	-	(7.1)	横ナデ、ヘラケズリ、ナデ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
48	144	遺構外	30-20 I層	須恵器	坏	底部	-	(5.0)	(2.3)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。外面に刻書、内面に火襷痕あり。	平安時代
48	145	遺構外	30-34カクラン	須恵器	鉢	口縁部	(12.0)	-	(3.3)	ロクロ	ロクロ	口縁部外面端部と内面に自然袖付着。	平安時代
48	146 a	遺構外	30-14 I層	須恵器	鉢	体部上半	(14.0)	-	(8.5)	ロクロ	ロクロ	胎土分析S-6。	平安時代
48	146 b	遺構外	30-14カクラン	須恵器	鉢	底部	-	(7.0)	(2.8)	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
48	147	遺構外	30-33 I層	須恵器	壺	口縁部	-	-	(5.0)	ロクロ	ロクロ、ナデ		平安時代
48	148	遺構外	30-34カクラン	須恵器	甕	口縁部	-	-	(3.4)	ロクロ	ロクロ	口縁部外面端部と内面に自然袖付着。	平安時代
48	149	遺構外	30-36カクラン	須恵器	壺	底部	-	(8.0)	(2.7)	ロクロ、ヘラケズリ	ロクロ	底外面菊花状。	平安時代

表10 農道30号 石器観察表

図版番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備考
44	109	SD12	覆土上位	礫石器	凹石	103.0	66.0	44.0	304.3	流紋岩	
45	115	SD13	覆土上位	礫石器	凹石	99.0	93.0	30.0	273.4	凝灰岩	
45	139	SD18	覆土	礫石器	砥石	50.0	64.0	53.5	196.8	石英	

表11 農道30号 土製品観察表

図版番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考	時期
38	37	SI08	北堆積土	土製品	土鈴	鈴部	(22.0)	(30.0)	(16.0)	(77.0)	外面ナデ、内面指ナデ。 胎土に骨針混入。	平安時代
38	38	SI08	カマド上面	土製品	羽口	胴部	(51.5)	(47.0)	(27.0)	(49.3)	外面還元焼成。	平安時代
44	107	SD12	堆積土上位	土製品	羽口	胴部	(48.0)	(48.0)	(22.0)	(39.2)	外面一部還元焼成。	平安時代
44	108	SD12	10層	土製品	羽口	胴部	(59.0)	(46.0)	(26.0)	(40.7)	外面還元焼成。	平安時代

表12 農道31号 土器観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
117	1	SI01	カマド火床面支脚P1	土師器	甕	底部	-	(6.4)	(7.1)	輪積痕、ヘラナデ	輪積痕、指ナデ、ヘラナデ、ナデ	底外面砂底。	平安時代
117	2	SI01	カマド煙道部P3	土師器	甕	底部	-	(8.7)	(6.8)	ヘラケズリ	指ナデ、ヘラナデ、ナデ	底外面ヘラナデ。	平安時代
117	3	SI02a	堆積土P47	土師器	坏	略完形	(13.0)	(5.8)	5.9	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
117	4	SI02a	カマド堆積土P5	土師器	坏	体部上半	(14.0)	-	(3.2)	ロクロ	ロクロ		平安時代
117	5	SI02a	堆積土下層、床面	土師器	坏	体部上半	(13.0)	-	(3.3)	ロクロ	ロクロ		平安時代
117	6	SI02a	カマド火床面P54	土師器	小甕	口縁部	(13.0)	-	(6.3)	横ナデ、ヘラナデ?	横ナデ、ヘラナデ	外面に被熱痕あり。内外面ともに剥落部分多い。	平安時代
117	7	SI02a	床面直上P34	土師器	小甕	体部上半	(14.0)	-	(6.4)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ	内面に炭化物付着。	平安時代
117	8	SI02a	カマド袖芯材P59	土師器	甕	体部上半	(23.8)	-	(18.8)	ヘラナデ、ヘラケズリ、横ナデ	ヘラナデ、横ナデ	外面に焼土付着。	平安時代
117	9	SI02a	カマド底面直上P5・9・17、カマド火床面P54	土師器	甕	体部上半	(21.0)	-	(24.6)	横ナデ、ヘラケズリ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
117	10	SI02a	カマド床面P8	土師器	甕	口縁部	(22.0)	-	(3.7)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
117	11	SI02a	カマド底面直上P18	土師器	甕	底部	-	10.5	(6.0)	ヘラケズリ、ナデ	指ナデ、ナデ	底外面砂底。	平安時代
117	12	SI02a	堆積土下層	土師器	小甕	底部	-	5.4	(3.4)	ヘラケズリ	指ナデ、ナデ	底外面ヘラケズリ。	平安時代
117	13	SI02a	堆積土	土師器	ミニチュア甕	口縁部	(3.0)	-	(2.0)	ナデ、横ナデ	ナデ		平安時代
118	14	SI02a	堆積土、カマド底面直上P10~13・42・55	須恵器	坏	略完形	(14.0)	5.6	6.3	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。還元やや軟質焼成。外面に刻書、内外面に火襷痕あり。胎土分析S-7。	平安時代
118	15	SI02a	堆積土上層	須恵器	坏	体部上半	(13.0)	-	(4.1)	ロクロ	ロクロ	外面に刻書、内外面に火襷痕あり。	平安時代
118	16	SI02a	堆積土P48	須恵器	鉢	底部	-	(6.0)	(3.6)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
118	17	SI02a	煙道堆積土P16	須恵器	壺	体部下半	-	-	-	ロクロ、ヘラケズリ、ナデ	ロクロ		平安時代
118	18	SI02a	底面直上P39	須恵器	壺か甕	肩部	-	-	-	ロクロ、タタキ、ヘラケズリ	ロクロ、あて具痕、ナデ		平安時代
118	26	SI02a	北西側堆積土下層	縄文土器	深鉢	頸部	-	-	(3.3)	縄?の側面圧痕、縄(LR?)の馬蹄状圧痕	(不明)	内外面風化顕著。26・27同一個体。	縄文時代中期(円筒上層b式)
118	27	SI02a	北側堆積土、北西側堆積土下層	縄文土器	深鉢	頸部	-	-	(5.2)	粘土紐貼付、L側面圧痕、縄?の馬蹄状圧痕	ミガキ	胎土に骨針含む。内外面風化顕著。26・27同一個体。	縄文時代中期(円筒上層b式)
118	28	SI02a	南側ベルト堆積土、南東側堆積土上層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(5.8)	沈線	ミガキ	外面に黒色付着物あり。	縄文時代後期(十腰内I式)
118	29	SI02a	床面、南西側堆積土下層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(14.8)	RL横、沈線、口唇-押圧	平滑なナデ	29・30と同一個体。小波状口縁。	縄文時代晩期(大洞B式)
118	30	SI02a	南西側堆積土下層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(4.9)	RL横、沈線、口唇-押圧	平滑なナデ	29・30と同一個体。小波状口縁。	縄文時代晩期(大洞B式)
118	31	SI02a	南西側堆積土下層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(5.6)	沈線、LR充填、口唇-押圧	ミガキ	小波状口縁。	縄文時代晩期(大洞B式)
118	32	SI02a	カマド底面直上P19	縄文土器	台付鉢	台部	-	(6.2)	(3.4)	沈線、RL斜?	ナデ	台部内面に輪積痕、オサエ、ナデ。	縄文時代晩期
119	33	SI03a	床面、SK08一括	土師器	坏	体部上半	(12.0)	-	(3.9)	ロクロ	ミガキ、黒色処理	内面被熱のため調整不明瞭。	平安時代
119	34	SI03a	床面直上	土師器	甕	口縁部	-	-	(5.2)	横ナデ、ヘラナデ、ナデ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
119	35	SI03a	確認面	土師器	ミニチュア甕	口縁部	(4.4)	-	(2.2)	ヘラナデ	ヘラナデ		平安時代
119	36	SI03a	堆積土	須恵器	坏	略完形	(14.2)	(5.8)	5.4	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
119	37	SI03a	確認面	須恵器	坏	底部	-	(4.5)	(1.7)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。酸化やや硬質焼成。内外面に火襷痕あり。	平安時代
119	40	SI03b	床面、SI03Pit7中位粘土層P1	土師器	甕	口縁部	-	-	(5.5)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ、ナデ	外面は摩滅のため調整が不明瞭。	平安時代
119	41	SI04	出入口底面直上	縄文土器	深鉢	波状口縁部	-	-	(7.3)	粘土紐貼付、LR側面圧痕、縄束(LR・RL・LR)側面圧痕、LR?馬蹄状圧痕	ミガキ	胎土に骨針含む。41・42同一個体。	縄文時代中期(円筒上層b式)
119	42	SI04	出入口底面直上	縄文土器	深鉢	波状口縁部	-	-	(5.8)	粘土紐貼付、LR側面圧痕、縄束(LR・RL・LR)側面圧痕	ミガキ	胎土に骨針含む。41・42同一個体。	縄文時代中期(円筒上層b式)

図 番号	遺物 番号	遺構名	出土位置・ 層位等	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時 期
119	43	SI04	一括堆積土	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	(3.1)	沈線	ミガキ		縄文時代後期 (十腰内I式)
119	44	SI05	堆積土	土師器	坏	体部上半	(14.0)	-	(4.3)	ロクロ	ミガキ、黒色処理		平安時代
119	45	SI05	堆積土	須恵器	甕	体部下半	-	-	-	タタキ	あて具痕?	やや酸化軟質焼成。 胎土分析S-8。	平安時代
120	46	SI06	カマド床面 P1~3・5	土師器	小甕	底部	-	6.8	(6.1)	ヘラケズリ	輪積痕、指ナデ、 ヘラナデ	底外面砂底。底内 面に指ナデに伴う 爪痕あり。	平安時代
120	47	SI06	一括	須恵器	坏	底部	-	(5.0)	(1.3)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 底内面に火襷痕あ り。	平安時代
120	48	SI07a	堆積土	土師器	坏	体部上半	(13.0)	-	(3.4)	ロクロ	ロクロ	内面に被熱痕あり。	平安時代
120	49	SI07a	堆積土	土師器	坏	底部	-	5.3	(1.7)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
120	50	SI07a	カマド底面直 上(11層上面) P45・59	土師器	小甕	体部上半	(13.0)	-	(8.3)	横ナデ、ヘラケズ リ	横ナデ、ヘラナデ	口縁端部内面に炭 化物付着。	平安時代
120	51	SI07a	カマド支脚底 面P62、カマ ド右袖(13層) P56	土師器	小甕	体部上半	(13.6)	-	(11.8)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ	外面被熱、剥落部 分あり。	平安時代
120	52	SI07a	カマド底面直 上(11層上面) P45・48	土師器	甕	体部上半	(23.0)	-	(19.9)	横ナデ、ヘラケズ リ	横ナデ、ヘラナデ	外面に焼土付着。	平安時代
120	53	SI07a	堆積土、堆積 土中位、カマ ド底面直上 (11層上面) P36・37・49・ 55・56、カマ ド右袖(14層) P50・P60、カ マド左袖内	土師器	甕	体部上半	(22.0)	-	(19.9)	輪積痕、ロクロ、 ヘラケズリ	ロクロ、ヘラナデ	内外面に被熱によ る剥落部分あり。	平安時代
120	54	SI07a	堆積土、床面 直上P3・29、 床面P6・16・ 26・27・28・ 30・31、 SI07Pit1底面 P34、煙道、 貼床	土師器	甕	体部上半	(25.0)	-	(17.3)	ロクロ、タタキ、 ヘラケズリ	輪積痕、ロクロ、 ヘラナデ		平安時代
121	55	SI07a	SI07Pit8 2層	土師器	甕	体部上半	-	-	(16.4)	横ナデ、ヘラナデ	摩滅のため調整 不明		平安時代
121	56	SI07a	堆積土、床面 P32、カマド 底面直上(11 層上面)P38・ 39・61、カマ ド底面直上 P4	土師器	甕	底部	-	(9.5)	(5.4)	ヘラナデ、ヘラケ ズリ	指ナデ、ヘラナデ	底外面ヘラナデ。	平安時代
121	57	SI07a	カマド底面直 上(11層上面) P54	土師器	甕	底部	-	(10.0)	(4.1)	ヘラナデ、ヘラケ ズリ	指ナデ、ヘラナデ	底外面砂底。	平安時代
121	58	SI07a	堆積土	須恵器	坏	底部	-	(5.4)	(1.7)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 外面に火襷痕あり。	平安時代
121	59	SI07a	堆積土P18、 堆積土	須恵器	壺	口縁部	(21.2)	-	(6.3)	ロクロ	ロクロ	内面に被熱による 剥落部分あり。	平安時代
121	60	SI07a	堆積土	須恵器	甕	肩部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ	外面自然袖付着。	平安時代
121	61	SI07a	堆積土	製塩土器		口縁部	-	-	(3.3)	輪積痕、オサエ	ナデ		平安時代
121	66	SI07a	南東堆積土、 SI07Pit1底面 P35	縄文土器	広口 壺?	体部下半	-	6.3	(9.5)	沈線	輪積痕、ナデ	66~68同一個体? 胴部文様3単位。	縄文時代後期 前半 (十腰内II式?)
121	67	SI07a	南東堆積土	縄文土器	広口 壺?	口縁部	-	-	(4.4)	沈線、口唇-粘土 粒貼付	平滑なナデ	66~68同一個体。 波状口縁。	縄文時代後期 前半 (十腰内II式?)
121	68	SI07a	床面P17	縄文土器	広口 壺?	口縁部	-	-	(3.6)	沈線、口唇-粘土 粒貼付	平滑なナデ	66~68同一個体? 波状口縁。	縄文時代後期 前半 (十腰内II式?)
121	69	SI07a	北西堆積土	縄文土器	鉢	口頸部	-	-	(4.8)	沈線	ナデ		縄文時代後期 (十腰内I式)
122	70	SI07b	床面P1、 SI07Pit9堆積 土	土師器	甕	体部上半	(24.0)	-	(24.7)	ロクロ、ヘラケズ リ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナ デ、ナデ	SI07Pit8 2層か ら出土した遺物と 接合はしないが同 一個体とみられる。	平安時代
122	71	SI07b	貼床(新)	須恵器	鉢	略完形	(11.6)	(6.6)	8.2	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 内外面に自然袖付 着。外面に被熱痕 あり。胎土分析 S-9。	平安時代

図 番号	遺物 番号	遺構名	出土位置・ 層位等	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時 期
122	72	SI08	床面直上 P6~8・12・ 14	土師器	小甕	体部上 半	(12.8)	-	(10.0)	ロクロ	ロクロ	外面が全体的に被 熱、剥落部分あり。 外面の一部と内面 の口縁部付近に部 分的に付着物あり。	平安時代
122	73	SI08	床面直上(12 層)P17	土師器	小甕	体部上 半	(15.9)	-	(17.9)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、体部の調 整不明瞭	外面に被熱痕、内 面に黒色付着物あ り。	平安時代
122	74	SI08	堆積土、床面 直上P1・3・ 9・10・13、底 面直上(7層直 上)P18、カマ ド底面直上(8 層)P20、カマ ド19・20層上 面P22	土師器	甕	体部上 半	(26.2)	-	(29.9)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ	外面に炭化物付着。	平安時代
122	75	SI08	床面直上P4・ 5、床面直上 (12層)P15・ 16、カマド床 面直上(8層) P19、カマド2 層P21	土師器	甕	体部上 半	(24.0)	-	(24.5)	ロクロ、ヘラナデ	輪積痕、ロクロ、 ヘラナデ	外面に炭化物付着、 被熱痕あり。	平安時代
122	76	SI08	床面直上P1	土師器	塀	底部	-	(10.0)	(6.1)	輪積痕、ヘラケズ リ、ナデ	指ナデ、ナデ	底外面砂底。外面 の輪積痕顕著。	平安時代
122	77	SI08	堆積土	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	(3.0)	沈線	ナデ		縄文時代後期 (十腰内I式)
123	78	SI09	カマド周辺 P9・13・15・ 19	土師器	坏	略完形	(14.0)	5.3	5.0	ロクロ	ロクロ	底外面回転系切。 内面に炭化物付着。	平安時代
123	79	SI09	堆積土、カマ ド確認面、煙 道確認面	土師器	小甕	体部上 半	(13.0)	-	(9.2)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ	口縁部内外面に炭 化物付着。	平安時代
123	80	SI09	カマド内P1・ 3、カマド周辺 P7・8・10・ 11・14・16・17、 カマド床面	土師器	小甕	略完形	(11.8)	6.4	11.0	ヘラケズリ、横ナ デ	ヘラナデ、横ナデ	底外面ヘラケズリ。	平安時代
123	81	SI09	カマド周辺 P18、カマド 袖芯材P20	土師器	甕	体部上 半	(24.5)	-	(26.4)	横ナデ、ヘラケズ リ、ヘラナデ	輪積痕、横ナデ、 ヘラナデ		平安時代
123	82	SI09	上面一括	須恵器	坏	口縁部	(14.0)	-	(2.3)	ロクロ	ロクロ		平安時代
123	83	SI09	堆積土	須恵器	坏	底部	-	(4.8)	(1.9)	ロクロ	ロクロ	底外面回転系切。 内面に炭化物付着。	平安時代
123	84	SI09	堆積土	縄文土器	浅鉢?	底部	-	(7.6)	(1.5)	沈線	平滑なナデ、沈線	底外面沈線。	縄文時代後期 (十腰内I式)
123	85	SI09	床面直上、北 東堆積土、北 西堆積土	縄文土器	壺	口頸部	(10.2)	-	(3.1)	沈線	ナデ、ミガキ	口縁肥厚、突起3 単位。	縄文時代後期 (十腰内I式)
123	86	SI09	堆積土	縄文土器	壺?	口縁部	-	-	(2.8)	沈線、口唇-押圧	ミガキ		縄文時代後期 (十腰内I式)
124	88	SI10	堆積土	土師器	坏	体部上 半	(14.0)	-	(3.9)	ロクロ、ナデ	ロクロ、ナデ		平安時代
124	89	SI10	堆積土上位	土師器	坏	略完形	(13.4)	(6.0)	5.2	ロクロ	ロクロ	底外面回転系切。 外面に擦痕?あり。 酸化焼成須恵器の 可能性あり。	平安時代
124	90	SI10	床面直上P1・ 2	土師器	甕	体部上 半	(23.0)	-	(22.9)	輪積痕、ヘラケズ リ、ヘラナデ、横 ナデ	ヘラナデ、横ナデ	外面の輪積痕顕著。 外面に粘土付着。	平安時代
124	91	SI10	堆積土上位	土師器	塀	口縁部	-	-	(4.8)	横ナデ、ヘラナデ	ヘラナデ	外面に炭化物付着。	平安時代
124	92	SI10	南半堆積土上 位	縄文土器	浅鉢?	口縁部	-	-	(5.4)	沈線	ミガキ		縄文時代後期 前半 (十腰内I式?)
124	93	SI11	床面直上	土師器	坏	略完形	(13.0)	(5.6)	6.0	ロクロ	ロクロ	底外面回転系切。	平安時代
124	94	SI11	堆積土上位、 堆積土中位	土師器	小甕	略完形	(10.4)	7.0	14.3	ヘラケズリ、ヘラ ナデ、横ナデ	指ナデ、ヘラナ デ、横ナデ	底外面ナデ。口縁 部のゆがみ大きい。 外面に炭化 物、内面口縁部に スス付着。	平安時代
124	95	SI11	確認面、堆積 土上位、 31-44 I層	土師器	小甕	略完形	(14.0)	(6.0)	11.4	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナ デ、ナデ	底外面ヘラケズリ。	平安時代
124	96	SI11	堆積土上位	土師器	甕	口縁部	-	-	(7.1)	ロクロ	ロクロ、ヘラナデ	外面に刻書あり。	平安時代
124	97	SI11	堆積土下位	土師器	甕	体部上 半	(22.0)	-	(13.5)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナ デ、ナデ	外面に炭化物付着。	平安時代
124	98	SI11	堆積土上位、 堆積土中位	土師器	甕	底部	-	(9.0)	(7.0)	ヘラケズリ、ナデ	指ナデ、ヘラナデ	底外面砂底。	平安時代

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
125	99	SI11	確認面、堆積土、堆積土上位、堆積土中位	土師器	埴	体部上半	-	-	(14.3)	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ	ヘラナデ、横ナデ	外面に炭化物付着。	平安時代
125	100	SI11	堆積土上位(B-T mより上)、堆積土中位	須恵器	坏	略完形	(12.4)	(4.4)	5.6	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。内外面に火膨れ、内面に火襷痕あり。	平安時代
125	101	SI11	堆積土上位	須恵器	坏	体部上半	(13.2)	-	(4.6)	ロクロ	ロクロ		平安時代
125	102	SI11	堆積土中位	須恵器	甕	口縁部～肩部	(21.6)	-	(10.8)	ロクロ、タタキ、ナデ	ロクロ、鳥足状あて具痕、ナデ		平安時代
125	103	SI11	床面直上	須恵器	甕	肩部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ	外面自然釉付着。	平安時代
125	104	SI11	堆積土中位	製塩土器		口縁部	-	-	(7.3)	輪積痕、オサエ	ヘラナデ		平安時代
125	105	SI11	確認面	製塩土器		口縁部	-	-	(3.8)	輪積痕、オサエ、ナデ	ヘラナデ		平安時代
125	106	SI11	堆積土上位	製塩土器		体部	-	-	-	輪積痕、ナデ	ヘラナデ		平安時代
125	107	SI11	堆積土上位	製塩土器		体部	-	-	-	輪積痕、オサエ	ヘラナデ		平安時代
126	115	SI12	確認面	土師器	坏	体部上半	(14.2)	-	(4.0)	ロクロ	ロクロ		平安時代
126	116	SI12	床(逆位)P1、カマド堆積土	土師器	小甕	体部下半	-	6.0	(7.5)	輪積痕、ヘラナデ	指ナデ、ヘラナデ	底外面砂底。内面に黒色付着物あり。外面全体的に被熱。	平安時代
126	117	SI12	SI12Pit2 1層P8	土師器	小甕	略完形	(12.9)	6.7	11.8	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。内外面全体的に被熱、外面に被熱による剥落部分あり。内面に黒色付着物あり。	平安時代
126	118	SI12	床P6	土師器	甕	底部	-	(8.5)	(5.6)	ヘラナデ	指ナデ、ヘラナデ	底外面砂底。	平安時代
126	119	SI12	カマド底面直上P7	土師器	甕	体部上半	(22.0)	-	(16.7)	輪積痕、ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ		平安時代
126	120	SI12	堆積土、堆積土上位、堆積土中位、8層P3、13層P5、床面直上(17層)P2、床面直上	土師器	甕	体部上半	(23.0)	-	(29.5)	輪積痕、ヘラナデ、ヘラケズリ、横ナデ、	ヘラナデ、横ナデ	口縁部にゆがみあり。	平安時代
126	121	SI12	堆積土下位、床(逆位)P4	須恵器	坏	略完形	(13.6)	4.6	5.8	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。還元やや軟質焼成。外面に刻書、内外面に火襷痕あり。	平安時代
126	122	SI12	確認面	須恵器	長頸壺	口縁部	(9.6)	-	(1.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代
126	124	SI12	南半堆積土上位	縄文土器	台付土器	台部	-	-	(1.9)	沈線	ミガキ	透かし有り。	縄文時代晩期
127	125	SI13a	堆積土	土師器	坏	略完形	13.3	4.6	5.6	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。ゆがみあり。	平安時代
127	126	SI13a	床面直上	土師器	坏	体部上半	(14.0)	-	(4.3)	ロクロ	ロクロ		平安時代
127	127	SI13a	堆積土、床面直上P1	土師器	甕	体部上半	(22.0)	-	(12.0)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ、ナデ	内外面に被熱痕あり。	平安時代
127	128	SI13a	堆積土、床面直上、床面	土師器	甕	体部上半	-	-	(19.0)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
127	129	SI13a	堆積土、床面直上、SI14堆積土、SK14堆積土	土師器	埴	体部上半	(40.0)	-	(10.2)	横ナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
127	130	SI13a	堆積土P2	須恵器	坏	略完形	(13.0)	5.5	5.3	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。底外面に刻書、内外面に火襷痕あり。	平安時代
127	131	SI13a	堆積土	須恵器	長頸壺	口縁部	(8.0)	-	(1.5)	ロクロ	ロクロ		平安時代
127	132	SI13a	掘方	須恵器	壺	底部	-	(7.6)	(3.2)	ヘラケズリ	ヘラナデ	底外面菊花状。胎土分析S-10。	平安時代
127	133	SP33	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(7.5)	輪積痕、ヘラナデ、横ナデ	ヘラナデ、横ナデ		平安時代
127	134	SI14	堆積土	土師器	坏	体部上半	(14.0)	-	(5.1)	ロクロ	ロクロ	外面摩滅。	平安時代
127	135	SI14	堆積土P6・7	土師器	甕	体部上半	(26.0)	-	(16.4)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、刷毛目、ナデ	外面に炭化物付着。	平安時代
128	136	SI14	堆積土、床面直上P2	土師器	甕	体部上半	(25.0)	-	(17.4)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、刷毛目	外面に炭化物付着。	平安時代
128	137	SI14	堆積土、床面、東支脚火床面P18	土師器	甕	体部下半	-	9.0	(12.7)	ヘラナデ	ヘラナデ	底外面砂底。外面に被熱痕あり。	平安時代
128	138	SI14	東支脚P20(カマドP18の下)	土師器	甕	体部下半	-	8.6	(9.7)	ヘラケズリ	指ナデ、ヘラナデ	底外面砂底。外面に被熱痕あり。	平安時代
128	139	SI14	支脚P22、カマドP18の下のP20の下	土師器	埴	底部	-	(9.0)	(1.3)	ナデ	ナデ	底外面砂底。	平安時代

図 番号	遺物 番号	遺構名	出土位置・ 層位等	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時 期
128	140	SI14	カマド西支脚 P19、火床面	土師器	甕	底部	-	9.0	(8.5)	被熱による剥離	指ナデ、ヘラナデ	底外面砂底。外面 被熱。	平安時代
128	141	SI14	西支脚P21(カ マドP19の下)	土師器	甕	底部	-	8.0	(5.9)	ヘラナデ	指ナデ、ヘラナデ	底外面ヘラケズリ。	平安時代
128	142	SI14	床面直上P1	土師器	塀	体部上 半	(37.0)	-	(10.3)	輪積痕、横ナデ、 ナデ?	横ナデ、刷毛目		平安時代
128	143	SI14	堆積土、床面 直上P5	須恵器	坏	略完形	(13.0)	5.5	5.5	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 内面に火襷痕あり。 体部上半のゆ がみ大きい。	平安時代
128	144	SI14	床面直上P2	須恵器	坏	略完形	(13.0)	(5.0)	5.0	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 内外面に火襷痕あり。	平安時代
129	149	SI15	カマド支脚 P17、SI16SK3 堆積土	土師器	坏	略完形	(13.0)	6.0	(5.7)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 内外面に被熱によ るとみられる剥落 部分あり。	平安時代
129	150	SI15	堆積土	土師器	小甕	口縁部	(15.0)	-	(5.5)	ロクロ	ロクロ、ヘラナデ	外面は被熱による 剥落部分多い。	平安時代
129	151	SI15 (H5I16)	SI15SK3堆積 土(H5I16SK3 堆積土)	土師器	甕	口縁部	(18.8)	-	(8.9)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
129	152	SI15	堆積土、床面 直上P5・7、カ マド付近堆積 土P13、カマ ド袖 P16、 SI15SK1堆積 土、SI15SK2 堆積土、 SK18堆積土	土師器	甕	体部下 半	-	9.0	(20.2)	ヘラケズリ	指ナデ、ナデ?調 整不明瞭	底外面ナデ。外面 に炭化物付着。	平安時代
129	153	SI15	堆積土	須恵器	長頸壺	頸部	-	-	-	ロクロ、しほり痕	ロクロ	外面に刻書あり。	平安時代
129	154	SI16	床面直上P11、 床面、 SI16Pit1堆積 土	土師器	坏	体部下 半	-	(6.0)	(4.3)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
129	155	SI16	床面直上P5・ 10・12・13、堆 積土	土師器	小甕	体部上 半	(13.4)	-	(7.5)	ロクロ	ロクロ	内面に炭化物付着。	平安時代
129	156	SI16	堆積土、 SI16Pit7堆積 土	土師器	甕	体部上 半	-	-	(9.0)	ロクロ、ナデ、ヘ ラケズリ	ロクロ、ナデ?	内面調整不明瞭。	平安時代
129	157	SI16	カマド支脚 P14	土師器	甕	底部	-	8.7	(4.5)	ヘラケズリ、ヘラ ナデ	指ナデ、ヘラナデ	底外面ヘラナデ。 外面に被熱痕あり。	平安時代
129	158	SI16	堆積土、 SK34堆積土	土師器	小甕	底部	-	6.0	(2.0)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
129	159	SI16	床面直上P3・ 6・7 床面	須恵器	坏	略完形	(13.0)	(5.5)	5.2	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 内外面に火襷痕あり。	平安時代
129	160	SI16	床面直上	須恵器	坏	体部上 半	(13.0)	-	(4.1)	ロクロ	ロクロ	外面に刻書あり。 還元やや軟質焼成。	平安時代
129	161	SI16	床面直上P1	須恵器	坏	底部	-	5.0	(1.1)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切、 刻書あり。	平安時代
129	162	SI16	堆積土	須恵器	壺	口縁部	(12.0)	-	(3.6)	ロクロ	ロクロ	口縁部付近に自然 袖付着。胎土分析 S-11。	平安時代
130	164	SI16	床面直上P2	縄文土器	小壺	頸部	-	-	-	ミガキ	輪積痕、指ナデ	胎土に骨針混入。	縄文時代 晩期前半
130	166	SI16	貼床堆積土	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	(3.1)	粘土紐貼付、刺 突、沈線	平滑なナデ、粘土 紐貼付		縄文時代後期 (十腰内I式)
130	168	SI17	堆積土	土師器	坏	体部上 半	(12.0)	-	(5.4)	ロクロ	ミガキ、黒色処理		平安時代
130	169	SI17	堆積土	土師器	坏	体部下 半	-	(5.6)	(3.0)	ロクロ	ミガキ、黒色処理	底外面回転糸切。	平安時代
130	170	SI17	粘土範囲P12	土師器	鉢	略完形	(11.4)	(9.4)	5.7	ナデ、指オサエ	指ナデ、ナデ	底外面ナデ。	平安時代
130	171	SI17	堆積土	土師器	甕	体部上 半	(23.6)	-	(17.9)	横ナデ、ヘラケズ リ	横ナデ、ヘラナデ	外面に炭化物付着。	平安時代
130	172	SI17	粘土範囲P9、 堆積土	土師器	甕	体部上 半	(19.0)	-	(21.8)	輪積痕、ロクロ、 ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ	外面に黒色物付着。	平安時代
130	173	SI17	堆積土、粘土 範囲P1・7	土師器	甕	底部	-	(9.5)	(7.0)	ヘラナデ	指ナデ、ヘラナデ	底外面砂底。	平安時代
130	174	SI17	床面直上P22、 煙道P25	土師器	甕	体部下 半	-	(9.4)	(19.2)	輪積痕、ヘラケズ リ	指ナデ、ヘラナデ ナデ	底外面ヘラナデ。	平安時代
130	175	SI17	床面直上P25、 カマド袖直下	土師器	甕	底部	-	(9.6)	(4.9)	輪積痕、ケズリ、 ナデ	指ナデ、ヘラナデ	底外面ヘラナデ。	平安時代
130	176	SI17	堆積土、カマ ド堆積土	土師器	塀	口縁部	-	-	(6.7)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナ デ、ナデ	内面に炭化物付着。	平安時代
131	177a	SI17	堆積土、 31-24 I層、 31-26 I層	須恵器	坏	体部上 半	(12.0)	-	(3.9)	ロクロ	ロクロ	内外面に火襷痕あり。	平安時代

図 番号	遺物 番号	遺構名	出土位置・ 層位等	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時 期
131	177b	SI17	堆積土、 31-25 I層、 31-26 I層	須恵器	坏	体部下 半	-	(5.0)	(3.7)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 内外面に火襷痕あ り。	平安時代
131	178	SI17	堆積土	須恵器	坏	略完形	(13.0)	(5.4)	4.5	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切後 ヘラナデ。	平安時代
131	179	SI17	床面直上P21、 カマド火床面 直上P28	須恵器	壺	頸部～ 体部	-	-	(10.3)	ロクロ、ヘラケズ リ	ロクロ	外面に自然袖付着。 195と同一固体か？ 胎土分析S-12。	平安時代
131	183	SI17	堆積土	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	(5.0)	沈線	ミガキ		縄文時代後期 (十腰内I式)
131	184	SI18	1層	土師器	坏	体部下 半	-	(5.8)	(3.8)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 外面に炭化物付着。	平安時代
131	185	SI18	堆積土	土師器	坏	体部下 半	-	(6.0)	(4.1)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
131	186	SI18	堆積土	土師器	小甕	口縁部	(14.4)	-	(7.8)	ロクロ	ロクロ、ヘラナデ	内外面に炭化物付 着。	平安時代
131	187	SI18	堆積土	土師器	甕	底部	-	(8.8)	(4.1)	ヘラケズリ	ヘラナデ	底外面ヘラナデ？ 外面被熱による剥 落部分あり。	平安時代
131	188	SI18	堆積土	須恵器	甕	体部	-	-	-	タタキ	鳥足状あて具痕	胎土分析S-13。	平安時代
132	189	SI18	堆積土	須恵器	小鉢	体部上 半	(13.0)	-	(5.8)	ロクロ	ロクロ	外面に刻書？あり。	平安時代
132	192	SI19	堆積土	土師器	坏	体部下 半	-	(6.0)	(3.8)	ロクロ	ミガキ、黒色処理	底外面回転糸切。	平安時代
132	193	SI19	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(5.5)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
132	194	SI19	床面直上P4	須恵器	壺	底部	-	(10.0)	(5.6)	ロクロ、ケズリ	ロクロ	底外面菊花状。	平安時代
132	195	SI19	床面直上P1	須恵器	壺	口縁部	(15.6)	-	(6.0)	ロクロ	ロクロ	内外面に自然袖付 着。外面に被熱痕、 外面に刻書？あり。 179と同一固体か？ 胎土分析S-14。	平安時代
132	196	SI20	カマド支脚 P18	土師器	坏	完形	13.5	6.5	6.2	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 外面被熱。内面に 黒色付着物あり。	平安時代
132	197	SI20	堆積土	土師器	坏	略完形	(12.6)	5.1	5.9	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
132	198	SI20	1層	土師器	坏	体部下 半	-	5.6	(3.8)	ロクロ、ナデ	ミガキ、黒色処理	底外面回転糸切。	平安時代
132	199	SI20	堆積土	土師器	小甕	口縁部	(15.0)	-	(7.0)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ	口縁部内面にスス 付着。	平安時代
132	200	SI20	確認面、 31-21 I層	土師器	甕	体部上 半	(22.2)	-	(17.9)	横ナデ、ヘラケズ リ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ	内面に炭化物あり。	平安時代
133	201	SI20	カマド煙道 P17	土師器	甕	底部	-	(9.0)	(4.5)	ヘラナデ	指ナデ、ヘラナデ	底外面ナデ。	平安時代
133	202	SI20	堆積土、 31-25 I層	土師器	甕	体部下 半	-	8.2	(6.8)	ヘラナデ？	ヘラナデ、ナデ	底外面砂底。	平安時代
133	203	SI20	貼床内	土師器	小鉢？	体部下 半	-	(5.6)	(4.5)	指オサエ、ナデ	ナデ	底外面ヘラナデ？ 282と接合はしな いが同一個体とみ られる。	平安時代
133	204	SI20	堆積土	土師器	塀	体部上 半	(42.0)	-	(12.0)	ヘラナデ、横ナデ	ヘラナデ、横ナデ	外面に粘土付着。	平安時代
133	205	SI21	堆積土	土師器	坏	体部上 半	(13.6)	-	(3.4)	ロクロ	ロクロ		平安時代
133	206	SI21	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(4.4)	ヘラナデ、横ナデ	ヘラナデ、横ナデ		平安時代
133	207	SI21	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(3.2)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
133	209	SD07a	堆積土上位 P2、堆積土、 31-11 I層	土師器	甕	体部上 半	(21.6)	-	(11.5)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ	外面に粘土付着。	平安時代
133	210	SD07a	堆積土P3、 31-11 I層	土師器	甕	体部下 半	-	(12.0)	(15.3)	ヘラナデ	指ナデ、ヘラナデ	底外面ヘラケズリ。	平安時代
134	211	SD07a	堆積土P1	土師器	塀	口縁部	(39.6)	-	(7.5)	輪積痕、ヘラナ デ、横ナデ	ヘラナデ、横ナデ	外面に焼土、黒色 物付着。	平安時代
134	212	SI26 (HIS125)	堆積土	土師器	坏	台部	-	(5.6)	(2.0)	横ナデ	剥離のため不明	底外面ナデ？	平安時代
134	213	SI26 (HIS125)	床面直上、堆 積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(7.3)	横ナデ、ヘラケズ リ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
134	214	SI26	カマド床面直 上P5	土師器	甕	口縁部	-	-	(7.0)	横ナデ、ヘラケズ リ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ	外面に炭化物付着。	平安時代
134	215	SI26	床面	土師器	甕	口縁部	-	-	(8.0)	横ナデ、ヘラケズ リ	横ナデ、ヘラナ デ、ナデ		平安時代
134	216	SI26	堆積土、床面 直上、床面 P5・6	土師器	小甕	体部下 半	-	(8.4)	(11.8)	ヘラナデ	指ナデ、ヘラナデ	底外面砂底。	平安時代
134	217	SI26 (HIS125)	堆積土、 31-12 I層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(5.9)	粘土紐貼付、R・L 側面圧痕、繩の束 (L・R・L)側面圧 痕、RL馬蹄状圧 痕	平滑なナデ	波状口縁、植物纖 維少量混入。	縄文時代中期 (円筒上層b式)

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
134	218	SI26	堆積土	縄文土器	鉢	底部	-	(4.4)	(2.2)	沈線	ナデ	底外面に沈線。	縄文時代後期前半(十腰内Ⅱ式?)
135	219	SP13 (HKS03)	堆積土 土製品2	縄文土器	鉢	底部	-	4.0	1.3	ナデ	ナデ	底外面に二重同心円状沈線。内面に炭化物付着。	縄文時代後期前半?
135	220	SP54	堆積土上位	土師器	甕	口縁部	-	-	(4.3)	横ナデ、ヘラナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
135	221	SP15	堆積土上位	土師器	甕	底部	-	8.0	(4.0)	ロクロ、ヘラケズリ、ヘラナデ	ロクロ?指ナデ、ヘラナデ	底外面剥離?外面全体的に被熱。	平安時代
135	223	SP51	堆積土	土師器	甕	底部	-	(6.0)	(2.8)	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
135	224	SP51	堆積土	須恵器	甕	口縁部	-	-	(6.6)	ロクロ	ロクロ		平安時代
135	225	SP51	堆積土	須恵器	甕	体部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ナデ		平安時代
135	226	SP63	堆積土	土師器	坏	底部	-	(6.0)	(1.4)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
136	227	SK01	底面	須恵器	長頸壺	口縁部	(10.4)	-	(4.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代
136	228	SK02	堆積土中位、堆積土下半	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(8.6)	沈線、ミガキ	ミガキ		縄文時代後期初頭
136	229	SK02	堆積土上位、堆積土中位	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(4.8)	L斜、ミガキ、L側面圧痕、沈線	ミガキ		縄文時代後期初頭?
136	230	SK02	堆積土上位、堆積土中位、堆積土下半	縄文土器	深鉢	体部上半	(24.6)	-	(13.5)	沈線	平滑なナデ、ミガキ	230・231・233・234同一個体。	縄文時代後期(十腰内Ⅰ式)
136	231	SK02	堆積土上位、堆積土中位、堆積土下半	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(11.7)	沈線	平滑なナデ	230・231・233・234同一個体。	縄文時代後期(十腰内Ⅰ式)
136	232	SK02	堆積土上位	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(4.5)	折返状口縁、沈線	平滑なナデ		縄文時代後期(十腰内Ⅰ式)
136	233	SK02	堆積土中位	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(4.5)	沈線	ミガキ	230・231・233・234同一個体。	縄文時代後期(十腰内Ⅰ式)
136	234	SK02	堆積土、堆積土上位、堆積土下半	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	(16.5)	沈線	平滑なナデ	230・231・233・234同一個体。	縄文時代後期(十腰内Ⅰ式)
136	235a	SK02	堆積土	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	(3.7)	沈線、ミガキ	ミガキ	235a・235b・237同一個体。内面に黒色付着物あり。	縄文時代後期(十腰内Ⅰ式)
136	235b	SK02	堆積土	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	(3.8)	沈線、ミガキ	ミガキ	235a・235b・237同一個体。波状口縁。内面に黒色付着物あり。	縄文時代後期(十腰内Ⅰ式)
136	236	SK02	堆積土中位	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	(4.3)	沈線、ミガキ	ミガキ		縄文時代後期(十腰内Ⅰ式)
136	237	SK02	堆積土中位	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	(4.5)	沈線、ミガキ	ミガキ	235a・235b・237同一個体。内面に黒色付着物あり。	縄文時代後期(十腰内Ⅰ式)
136	238	SK02	堆積土中位	縄文土器	壺	口頸部	-	-	(7.9)	沈線、ミガキ	ミガキ		縄文時代後期(十腰内Ⅰ式?)
136	239	SK02	堆積土中位	縄文土器	台付鉢	台部	-	(6.6)	(2.0)	沈線	ミガキ		縄文時代後期?
137	242	SK03	堆積土	縄文土器	深鉢	底部	-	(7.4)	(2.0)	(無文)	ナデ		縄文時代後期
137	243	SK03	堆積土	縄文土器	鉢?	胴部	-	-	(2.9)	沈線	ナデ		縄文時代後期前半(十腰内Ⅱ式?)
137	244	SK03	堆積土 土製品4	縄文土器	ミニチュア鉢?	底部	-	2.2	1.0	ナデ	ナデ	ナデ	縄文時代後期?
137	247	SK04	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(9.4)	ロクロ	ロクロ、ヘラナデ		平安時代
137	248	SK04	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(6.2)	ロクロ?、ナデ	ロクロ?、ヘラナデ		平安時代
137	249	SK04	2層P1・2	土師器	塙	口縁部	(37.8)	-	(7.5)	輪積痕、ヘラナデ、横ナデ	ヘラナデ、横ナデ	外面に炭化物付着。	平安時代
137	251	SK06	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(7.4)	ヘラナデ、ナデ、横ナデ	ヘラナデ、横ナデ、ナデ		平安時代
138	254	SK07	堆積土	土師器	坏	体部上半	(13.0)	-	(4.8)	ロクロ	ロクロ	内外面に炭化物付着。	平安時代
138	255	SK07	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(12.8)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ?		平安時代
138	256	SK07 (HKS104)	堆積土	土師器	甕	体部上半	-	-	(17.6)	ヘラナデ、横ナデ	ヘラナデ、横ナデ	外面に炭化物付着。	平安時代
138	257	SK07	堆積土、底面直上、底面	土師器	甕	略完形	(23.0)	(10.6)	30.0	輪積痕、ロクロ、横ナデ、ヘラケズリ、ヘラナデ	ロクロ、横ナデ、ナデ	底外面ヘラナデ。外面に炭化物付着。	平安時代
138	258	SK07	堆積土、堆積土下層	土師器	甕	底部	-	6.0	(4.5)	ヘラナデ、ヘラケズリ	指ナデ、ヘラナデ	外面の一部と底面が剥落。	平安時代
138	259	SK07 (HKS104)	堆積土	須恵器	坏	体部上半	(13.0)	-	(4.1)	ロクロ	ロクロ	外面に刻書、内面に火襷痕あり。	平安時代
138	260	SK07	堆積土	須恵器	坏	体部上半	(13.0)	-	(3.3)	ロクロ、ナデ	ロクロ	外面に火襷痕あり。	平安時代
138	261	SK07	堆積土	須恵器	坏	体部下半	-	(5.5)	(2.0)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。内外面に火襷痕あり。	平安時代

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
139	263	SK07	SI04出入口底面直上、SK07堆積土・底面直上・堆積土下層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(10.4)	RL横、粘土紐貼付・RL側面圧痕、RL・LR側面圧痕、LR馬蹄状圧痕、口唇-LR側面圧痕	ミガキ	胎土に骨針、植物繊維微量含む。土器片の大部分がSK07出土。	縄文時代中期(円筒上層b式)
139	264	SK07	南側底面直上、堆積土	縄文土器	深鉢	頸胴部	-	-	(18.3)	粘土紐貼付・LR側面圧痕、LR・RL・LR側面圧痕、LR馬蹄状圧痕、結束第1種(RL・LR)横、縄端回転文	ミガキ	胎土に骨針含む。	縄文時代中期(円筒上層b式)
139	265	SK07	南側底面直上、堆積土、31-29一括	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(8.6)	粘土紐貼付、LR側面圧痕、LR馬蹄状圧痕	ミガキ	胎土に骨針含む。弁状突起。	縄文時代中期(円筒上層b式)
139	266	SK07	南側底面直上、堆積土	縄文土器	深鉢	頸部	-	-	(8.8)	粘土紐貼付・L側面圧痕、R・L・R側面圧痕、LR馬蹄状圧痕、結束第1種?(LR・RL)横、縄端回転文	ミガキ	胎土に骨針含む。266・268同一個体。	縄文時代中期(円筒上層b式)
139	267	SK07	南側堆積土下層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(6.2)	粘土紐貼付・L側面圧痕、R・L・R側面圧痕、LR馬蹄状圧痕	ミガキ	胎土に骨針含む。	縄文時代中期(円筒上層b式)
139	268	SK07	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(7.0)	粘土紐貼付・L・R側面圧痕、R・R・L側面圧痕、LR馬蹄状圧痕	ミガキ	胎土に骨針含む。266・268同一個体。	縄文時代中期(円筒上層b式)
139	269	SK07	南側堆積土下層、南東堆積土、堆積土、31-30 1層	縄文土器	深鉢	底部	-	(11.6)	(10.8)	結束第1種(RL・LR)横、縄端回転文	ミガキ	胎土に骨針含む	縄文時代中期前半
139	270	SK07	東側堆積土下層、北側堆積土、堆積土、底面	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	(28.4)	LR横、結節回転文	ミガキ		縄文時代中期前半
140	272	SK08	堆積土P1、堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(4.7)	沈線、ミガキ	ミガキ		縄文時代後期(十腰内I式)
140	273	SK10	堆積土一括	縄文土器	鉢	口縁部	-	-	(3.1)	沈線、口唇に粘土紐貼付	平滑なナデ		縄文時代後期(十腰内I式)
140	274	SK15	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(2.2)	沈線	ミガキ		縄文時代後期(十腰内I式)
140	275	SK12	確認面P5・7・10・12、SI06床面・堆積土・貼床中、31-30 1層、31-36攪乱、SI06床面直上、貼床	縄文土器	壺	略完形	(10.6)	7.2	(38.9)	沈線、LR横(上半)・斜(下半)、口縁無紋	ナデ	図上復元。	縄文時代晩期前半
140	276	SK12	確認面P1・11・12、31-38攪乱	縄文土器	深鉢	体部上半	(17.6)	-	(13.2)	沈線、LR横	平滑なナデ	小波状口縁。口縁内面に炭化物付着。	縄文時代晩期(大洞B式)
141	277	SK16	堆積土	土師器	小甕	体部上半	(15.0)	-	(9.0)	横ナデ、ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ナデ、刷毛目	内面に付着物あり。	平安時代
141	278	SK16	堆積土、底面	土師器	甕	口縁部	(22.0)	-	(7.0)	ロクロ	ロクロ	内面に刻書あり。	平安時代
141	279	SK16	底面	土師器	甕	体部上半	(20.6)	-	(12.5)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ		平安時代
141	280	SK16	底面	土師器	甕	底部	-	(8.0)	(1.1)	ヘラナデ	指ナデ	底外面木葉痕。	平安時代
141	281	SK16	堆積土、底面	土師器	壺	体部上半	(17.0)	-	(21.2)	ロクロ、ヘラナデ	輪積痕、ミガキ、黒色処理	ゆがみあり。	平安時代
141	282	SK17	堆積土	土師器	小鉢	略完形	(6.0)	(5.6)	4.2	指オサエ、ナデ	指ナデ、ナデ	底外面ヘラナデ? 203と接合はしないが、同一個体とみられる。	平安時代
141	283	SK17	堆積土、SK18堆積土	土師器	小甕	口縁部	(14.6)	-	(8.0)	輪積痕、ヘラナデ、横ナデ	ヘラナデ、横ナデ	内面の口縁端部にスス付着。	平安時代
141	284	SK17	堆積土	須恵器	坏	底部	-	4.2	(1.4)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。内外面に火襷痕あり。	平安時代
141	286	SK18	堆積土P3・14・15	土師器	小甕	略完形	(16.6)	7.5	14.7	横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、指ナデ、ヘラナデ	底外面砂底。内面に炭化物付着。	平安時代
141	287	SK18	堆積土P12	土師器	甕	口縁部	-	-	(12.3)	輪積痕、ロクロ、ヘラナデ	輪積痕、ロクロ、ヘラナデ		平安時代
142	288	SK18	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(6.6)	ヘラケズリ、横ナデ	ヘラナデ、横ナデ		平安時代
142	289	SK18	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(8.0)	ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ	外面に炭化物付着。	平安時代
142	290	SK18	底面P1	土師器	甕	底部	-	8.0	(6.1)	ヘラケズリ	指ナデ、ヘラナデ	底外面砂底。外面は全体的に被熱、部分的に粘土が付着。	平安時代

図 番号	遺物 番号	遺構名	出土位置・ 層位等	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時 期
142	291	SK18	堆積土	須恵器	坏	体部上半	(13.4)	-	(4.3)	ロクロ	ロクロ	内面に火彫れ痕あり。	平安時代
142	292	SK18	堆積土	須恵器	甕	頸部～ 肩部	-	-	-	タタキ、ナデ	鳥足状あて具痕、 ナデ	胎土分析S-15。	平安時代
142	293	SK18	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(3.3)	粘土紐貼付、L側 面圧痕		胎土に骨針含む	縄文時代中期 (円筒上層c式?)
142	294	SK19	堆積土下層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	(8.0)	RL横、粘土紐貼 付、竹管状工具連 続刺突		294・295同一個体。	縄文時代中期 (円筒上層c式)
142	295	SK19	堆積土下層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	(6.5)	粘土紐貼付、竹管 状工具連続刺突		294・295同一個体。	縄文時代中期 (円筒上層c式)
142	296	SK20	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(2.2)	ハラナデ、横ナデ	ハラナデ、横ナデ		平安時代
142	297	SK20	堆積土	土師器	甕	底部	-	(7.5)	(2.0)	ハラケズリ、ハラ ナデ	ハラナデ	底外面ナデ。	平安時代
142	299	SK21	堆積土	土師器	坏	体部上半	(14.0)	-	(4.4)	ロクロ	ロクロ	内外面ともに剥落 部分あり。	平安時代
142	300	SK21	堆積土	土師器	甕	口縁部	(22.0)	-	(6.3)	横ナデ、ハラケズ リ、ナデ	輪積痕、横ナデ、 ハラナデ		平安時代
142	301	SK21	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(7.0)	ロクロ、ナデ	ロクロ		平安時代
142	302	SK23	堆積土	土師器	甕	体部	-	-	-	横ナデ、ハラナデ	ハラナデ		平安時代
143	304	SK24	底面P1、 31-28 I層	土師器	甕	体部下半	-	7.2	(6.7)	ハラナデ、刷毛目	ナデ、ハラナデ		平安時代
143	305	SK25	堆積土	土師器	坏	体部上半	(13.6)	-	(3.5)	ロクロ	ミガキ、黒色処理		平安時代
143	306	SK25	堆積土	土師器	小甕	体部上半	(9.6)	-	(4.7)	ハラナデ、横ナデ	ハラナデ、横ナデ		平安時代
143	307	SK27	堆積土	須恵器	坏	体部上半	(14.0)	-	(3.9)	ロクロ	ロクロ	内面に火襷痕あり。	平安時代
143	309	SK29	堆積土	土師器	甕	口縁部	-	-	(8.0)	輪積痕、横ナデ、 ハラナデ	輪積痕、横ナデ、 ハラナデ	外面に炭化物付着。	平安時代
143	310	SK29	堆積土2層	土師器	甕	体部上半	(22.0)	-	(32.0)	輪積痕、ハラナ デ、横ナデ	ハラナデ、横ナデ	外面に炭化物付着。	平安時代
143	311	SK29	堆積土	須恵器	坏	体部上半	(14.0)	-	(3.0)	ロクロ	ロクロ	還元やや軟質焼成。 外面に刻書?、外 面に火襷痕あり。	平安時代
143	312	SK33	堆積土	土師器	坏	体部下半	-	(5.2)	(2.8)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
143	313	SK33	堆積土、 N30-SD14 堆積土上位	土師器	甕	体部上半	(22.0)	-	(15.2)	ロクロ、ハラケズ リ	ロクロ、ハラナデ		平安時代
143	314	SK34	5層	土師器	甕	口縁部	-	-	(4.8)	横ナデ、ハラナデ	横ナデ、ハラナ デ、ナデ	口縁内面にスス付 着。	平安時代
143	315	SK34	5層	土師器	甕	底部	-	-	(4.8)	ハラケズリ	ハラナデ	底外面ハラナデ?	平安時代
144	318	SK35	堆積土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	(4.4)	沈線	平滑なナデ		縄文時代後期 (十腰内I式)
144	319	SK36	堆積土(10層) P1	土師器	坏	体部下半	-	5.5	(4.9)	ロクロ	ミガキ、黒色処理	底外面回転糸切。	平安時代
144	320	SK36	堆積土、堆積 土上部	土師器	坏	略完形	(13.0)	4.8	4.6	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 口縁部の歪み顕著。	平安時代
144	321	SK36	堆積土上部	土師器	坏	体部下半	-	5.2	(2.9)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
144	322	SK36	堆積土、堆積 土上部	土師器	甕	口縁部	(21.6)	-	(6.8)	ロクロ	ロクロ		平安時代
144	323	SK36	堆積土	土師器	甕	底部	-	(10.0)	(1.3)		指ナデ	底外面木葉痕。	平安時代
144	324	SK36	堆積土上部	土師器	塼	底部	-	8.8	(2.8)	ハラケズリ	指ナデ	底外面ハラケズリ。	平安時代
144	325	SK36	堆積土	須恵器	坏	体部上半	(14.0)	-	(3.6)	ロクロ	ロクロ	外面に刻書あり。 還元やや軟質焼成。	平安時代
144	326	SK36	堆積土上部	須恵器	壺	口縁部	-	-	(3.3)	ロクロ	ロクロ	口縁端面と内面に 自然袖付着。	平安時代
144	327	SK36	堆積土上部	須恵器	甕	体部	-	-	-	タタキ	あて具痕?	胎土分析S-16。	平安時代
145	329	SK41	堆積土	須恵器	坏	体部上半	(15.0)	-	(3.0)	ロクロ	ロクロ	外面に火襷痕あり。	平安時代
145	330	SK41	堆積土	須恵器	甕	体部	-	-	-	タタキ	あて具痕、ハラナ デ	胎土分析S-17。	平安時代
145	331	SK43	堆積土P2、 31-9 I層	土師器	坏	体部上半	(14.4)	-	(4.8)	ロクロ	ロクロ	内外面全面に黒色 タール状付着物あり。	平安時代
145	332	SK43	堆積土P1	須恵器	甕	体部	-	-	-	タタキ	あて具痕?		平安時代
145	333	SK44	底面P1	土師器	小甕	底部	-	(8.0)	(4.0)	ハラケズリ	指ナデ、ハラナデ	底外面ナデ。	平安時代
145	334	SK45	堆積土、SI26 掘方・床面直 上・床面	土師器	甕	体部上半	(15.8)	-	(20.0)	輪積痕、横ナデ、 ナデ、ハラナデ	横ナデ、指ナデ、 ハラナデ		平安時代
146	335	SD01	堆積土	土師器	坏	略完形	(12.0)	(4.0)	4.5	ロクロ	ロクロ	底外面ハラケズリ。	平安時代
146	336	SD01	堆積土、 31-13 I層	須恵器	長頸壺	口縁部	(11.0)	-	(2.0)	ロクロ	ロクロ	内面に自然袖付着。 外面が部分的に被 熱。	平安時代
146	337	SD03	南壁ぎわP1	土師器	坏	完形	13.3	6.3	5.6	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 内外面に黒色ター ール状付着物あり。	平安時代

図 番号	遺物 番号	遺構名	出土位置・ 層位等	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時 期
146	338	SD03	堆積土、堆積土上位、堆積土中位、31-2 I層	土師器	坏	体部上半	(13.1)	-	(5.0)	ロクロ	ロクロ		平安時代
146	339	SD03	堆積土上位	土師器	坏	体部上半	(13.7)	-	(5.3)	ロクロ	ロクロ	底部付近につぶれあり。	平安時代
146	340	SD03	堆積土上位	土師器	甕	口縁部	-	-	(8.5)	横ナデ、ヘラナデ	横ナデ、ヘラナデ、ナデ		平安時代
146	341	SD03	堆積土上位	土師器	甕	口縁部	-	-	(8.4)	輪積痕、ロクロ、ヘラナデ	ロクロ、ヘラナデ	外面に黒色物と粘土付着。	平安時代
146	342	SD03	確認面P1、堆積土上位、31-2 I層	土師器	甕	底部	-	(9.0)	(9.3)	ヘラケズリ	ヘラナデ	底外面ヘラケズリ。	平安時代
146	343	SD03	堆積土上位、B-Tm、31-2 I層	須恵器	坏	略完形	(13.5)	(5.0)	4.9	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。内外面に火襷痕あり。	平安時代
146	347	SD04	堆積土	土師器	坏	体部上半	(14.0)	-	(3.3)	ロクロ、ナデ	ロクロ		平安時代
147	348	SV03	堆積土上層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	(3.9)	結束第1種(RL・LR、0段多縄)横	平滑なナデ	胎土に骨針、植物繊維含む。	縄文時代中期前半
147	350	SR01	本体P1	縄文土器	深鉢	略完形	-	9.1	(26.4)	粘土紐貼付・L側面圧痕、L・L側面圧痕、結束第1種(LR・RL)横、結節回転文	ナデ	突起部欠損	縄文時代中期(円筒上層a2式)
147	352	SR02	埋設P1、31-24 I層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	(16.0)	結束第1種(RL・LR)横	平滑なナデ	胎土に骨針、植物繊維含む。	縄文時代中期前半
148	353	遺構外	31-32 I層	縄文土器	台付鉢	底部	(9.6)	-	(3.0)	ミガキ	平滑なナデ	底外面ナデ。台部欠損。	縄文時代晩期中葉?
148	359	遺構外	31-39 I層	土師器	坏	略完形	(13.6)	(5.2)	5.6	ロクロ	ミガキ、黒色処理	底外面回転糸切。	平安時代
148	360	遺構外	排土	土師器	坏	略完形	(13.6)	(5.2)	5.4	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
148	361	遺構外	31-41 一括	土師器	坏	略完形	(12.5)	(5.2)	5.5	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。内外面の下半部表面が剥落。	平安時代
148	362	遺構外	31-10 カクラン、31-11 I層	土師器	甕	底部	-	(10.6)	(3.0)	ヘラナデ	指ナデ、ヘラナデ	底外面木葉痕。	平安時代
148	363	遺構外	31-33カクラン	土師器	小鉢	体部上半	(9.0)	-	(4.4)	ヘラナデ	ナデ		平安時代
148	364	遺構外	31-26 I層	土師器	ミニチュア甕	体部上半	(4.4)	-	(3.2)	指オサエ	指オサエ		平安時代
148	365	遺構外	31-26 I層	土師器	ミニチュア甕	体部上半	(4.0)	-	(2.7)	指オサエ	指オサエ	内外面にオサエに伴う爪痕あり。	平安時代
149	366	遺構外	31-30 I層、31-30カクラン	須恵器	坏	体部上半	(12.8)	-	(4.8)	ロクロ	ロクロ	外面に刻書、内外面に火襷痕あり。	平安時代
149	367	遺構外	31-29 I層、一括	須恵器	坏	体部下半	-	5.0	(4.4)	ロクロ	ロクロ、ナデ	底外面回転糸切。還元やや軟質焼成。内外面に火襷痕あり。胎土分析S-18。	平安時代
149	368	遺構外	41-44 I層	須恵器	坏	体部下半	-	(5.0)	(2.4)	ロクロ、ナデ	ロクロ	底外面回転糸切。外面に刻書、内面に火襷痕あり。	平安時代
149	369	遺構外	31-33 I層	須恵器	坏	体部下半	-	(5.6)	(2.4)	ロクロ	ロクロ	外面に刻書、外面に火襷痕あり。	平安時代
149	370	遺構外	31-28 I層	須恵器	鉢	口縁部	-	-	(4.0)	ロクロ	ロクロ	外面に刻書あり。	平安時代
149	371	遺構外	31-16 I層	須恵器	壺	口縁部	(9.6)	-	(2.9)	ロクロ	ロクロ	内外面被熱。	平安時代
149	372	遺構外	31-27 I層	須恵器	壺	底部	-	(9.4)	(1.3)	ロクロ	ロクロ、指ナデ	底外面菊花状。	平安時代
149	373	遺構外	31-19カクラン	須恵器	甕	口縁部	-	-	(4.8)	ロクロ、しぼり痕?	ロクロ	内面に自然釉付着。	平安時代

表13 農道31号 石器観察表

図版 番号	遺物 番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	石材	備 考
118	24	SI02a	底面直上S-1	礫石器	台石	(93.0)	(69.0)	19.0	(222.4)	流紋岩	磨り面あり。
118	25	SI02a	掘方	礫石器	砥石	101.0	43.0	17.0	81.6	凝灰岩	
119	38	SI03a	覆土S-2	礫石器	敲磨器	115.0	75.0	5.0	457.0	流紋岩	
119	39	SI03a	覆土S-1	礫石器	敲石	99.0	87.0	62.0	682.5	流紋岩	擦痕あり。
123	87	SI09	北東覆土	剥片石器	撿器	32.0	22.0	11.0	6.6	珪質頁岩	
130	165	SI16	Pit3覆土	剥片石器	石錐?	39.5	23.5	3.5	5.1	珪質頁岩	
130	167	SI16	貼床内	剥片石器	石鏃	29.0	13.0	6.5	1.3	珪質頁岩	
131	182	SI17	粘土範囲1	礫石器	砥石	67.0	119.0	32.0	338.6	流紋岩	擦痕あり。
132	191	SI18	覆土(S-1)、床面直上	礫石器	砥石	94.0	37.0	31.0	74.4	泥岩	2点が接合。
133	208	SI24	内周溝覆土	礫石器	砥石	(82.0)	(47.0)	(45.0)	(217.2)	流紋岩	
135	222	SP21	覆土S-1	礫石器	磨製石斧	(132.0)	31.0	31.0	(236.6)	ホルンフェルス	
137	253	SK06	覆土	剥片石器	削器	42.5	51.5	9.0	17.6	珪質頁岩	

図版番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	石材	備考
139	271	SK07	覆土	剥片石器	搔器	45.0	22.0	13.0	11.0	珪質頁岩	
142	303	SK23	覆土	礫石器	敲磨器	124.0	72.0	76.0	826.6	流紋岩	
143	308	SK27	床面直上	剥片石器	石匙	69.0	31.0	5.4	15.6	珪質頁岩	
144	328	SK36	覆土(11層付近)	礫石器	砥石	(160.0)	(96.0)	(102.0)	(1443.6)	流紋岩	
147	349	SV03	覆土S-1	礫石器	敲石	(81.0)	57.0	33.0	(150.5)	流紋岩	
147	351	SR01	底面直上S-1	礫石器	敲磨器	103.0	69.0	31.0	368.7	花崗岩	
148	354	遺構外	31-26・I層	剥片石器	搔器	4.0	33.0	12.0	11.9	珪質頁岩	
148	355	遺構外	31-36・I層	剥片石器	削搔器	(27.0)	(36.0)	12.5	(11.5)	珪質頁岩	
148	356	遺構外	調査区南端・表採	礫石器	磨製石斧	(47.0)	(31.0)	(21.5)	(51.5)	花崗岩	基部のみ。
148	357	遺構外	31-14・I層	礫石器	石錘	41.0	55.0	15.0	40.1	頁岩	
148	358	遺構外	31-R5・I層	石製品	円盤状石製品?	(53.0)	58.0	18.0	(78.9)	安山岩	

表14 農道31号 土製品観察表

図版番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考	時期
118	19	SI02a	カマド堆積土上層 玉1	土製品	土玉	略完形	11.0	11.0	10.0	1.1	一部剥落。貫通孔内径2mm。	平安時代
118	20	SI02a	堆積土 玉1	土製品	土玉	完形	16.0	16.0	10.0	2.0	一部ミガキ調整残存。貫通孔内径1.5mm。	平安時代
118	21	SI02a	堆積土 玉2	土製品	土玉	一部	16.0	15.0	11.0	1.5	欠損。貫通孔内径推定2mm。	平安時代
121	62	SI07a	床面 土製品1	土製品	焼成粘土紐?	一部	23.0	85.0	90.0	1.2	ナデ。	平安時代
125	108	SI11	北半堆積土上位(B-Tmより上) 土錘1	土製品	土錘	略完形	60.0	21.0	20.0	21.5	貫通孔内径4mm。	平安時代?
125	109	SI11	北半確認面 土錘3	土製品	土錘	略完形	56.0	17.0	17.0	13.1	外面ミガキ。貫通孔内径5mm。	平安時代?
125	110	SI11	南半堆積土上位 土錘5	土製品	土錘	一部	49.0	16.0	8.0	6.4	欠損。貫通孔内径推定5mm。	平安時代?
125	111	SI11	北半堆積土上位 土錘2	土製品	土錘	略完形	(56.0)	18.0	17.0	(14.8)	外面ミガキ。貫通孔内径4mm。	平安時代?
125	112	SI11	南半堆積土上位(B-Tmより上) 土錘4	土製品	土錘	一部	46.0	16.0	16.0	7.5	欠損。貫通孔内径推定5.5mm。	平安時代?
125	113	SI11	南付近確認面 土錘6	土製品	土錘	一部	42.0	17.0	16.0	10.7	欠損。外面ミガキ。貫通孔内径推定5mm。	平安時代?
126	123	SI12	南半確認面 土玉1	土製品	勾玉	一部	31.0	16.0	15.0	6.4	欠損。貫通孔内径2mm。	平安時代?
128	145	SI14	カマド東袖端部羽口1(145a)・2(145b)カマド西袖端部羽口3(145c)	土製品	羽口	一部	(127.0)	81.0	78.0	(507.8)	カマド袖芯材3点接合。溶着物付着。	平安時代
128	146	SI14	カマド西袖 羽口4	土製品	羽口	一部	92.0	57.0	29.0	86.1	溶着物少量付着。	平安時代
129	163	SI16	火床面直上 土玉1、カマド堆積土	土製品	土玉	完形	13.0	13.0	9.0	1.3	貫通孔内径2mm。	平安時代
131	180	SI17	堆積土 土玉1	土製品	土玉	完形	15.0	16.0	9.0	2.0	貫通孔内径3mm。	平安時代
131	181	SI17	堆積土 土錘1	土製品	土錘	完形	53.0	23.0	24.0	27.8	貫通孔内径4mm。	平安時代
132	190	SI18	堆積土 P1	土製品	勾玉	略完形	35.0	25.0	12.0	5.9	一部剥落、ミガキ調整。貫通孔内径3mm。	平安時代?
136	240	SK02	堆積土下半 土製品1	土製品	耳栓		16.0	16.0	18.0	2.4		縄文時代後期
136	241	SK02	堆積土上位、堆積土中位	土製品	鐸形土製品	鐸部	(55.0)	(39.0)	(60.0)	(35.0)(石膏含む)	内外面ナデ。貫通孔ある頂部等欠損。	縄文時代後期(十腰内I式)
137	245	SK03	堆積土 土製品1	土製品	四脚土製品	完形	34.0	23.0	19.0	11.2		縄文時代後期(十腰内I式)
137	246	SK03	堆積土	土製品?	不明土製品	一部	27.0	30.0	17.0	7.3	貫通孔あり	縄文時代後期?
137	250	SK04	堆積土	土製品	円盤状土製品	完形	45.0	48.0	7.0	21.3	外面沈線、内面ミガキ。縄文時代後期(十腰内I式)深鉢胴部片を利用	縄文時代後期?(十腰内I式)
137	252	SK06(旧SI03)	堆積土 玉1	土製品	土玉	完形	14.0	13.0	13.0	2.6	貫通孔内径2mm。	平安時代
138	262	SK07	堆積土 土錘1	土製品	土錘	一部	(45.0)	(24.0)	(20.0)	(14.2)	欠損。貫通孔内径4mm。	平安時代
141	285	SK17	堆積土上層	土製品	羽口	一部	(45.0)	(63.0)	(30.0)	(61.2)	溶着物付着	平安時代
142	298	SK20	底面 S-1	土製品	土錘	一部	(48.0)	15.0	14.0	(7.4)	欠損。貫通孔内径3mm。	平安時代
143	316	SK34	堆積土	土製品	土錘	一部	(37.0)	(20.0)	(20.0)	(7.9)	貫通孔内径3~5mm。	平安時代
143	317	SK34	堆積土 土玉1	土製品	土玉	略完形	18.5	18.0	14.5	5.1	一部欠損。側面ミガキ調整残存。貫通孔内径2.5mm。	平安時代
146	344	SD03	確認面 土玉1	土製品	土玉	完形	10.5	11.0	9.0	1.1	貫通孔内径2mm。	平安時代
146	345	SD03	底面直上 土玉2	土製品	土玉	完形	9.0	8.5	8.5	0.5	貫通孔内径1mm。	平安時代
146	346	SD03	堆積土上位	土製品	焼成粘土		32.0	25.0	15.0	7.7	ひび割れている。	平安時代

図版番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	時期
149	374	遺構外	31-27 I層	土製品	勾玉	完形	26.0	22.0	10.0	3.0	貫通孔内径1mm。	平安時代
149	375	遺構外	31-44 I層	土製品	土錘	一部	52.0	19.0	18.0	14.3	外面ミガキ。貫通孔内径5～6mm。SI11と同一グリッドから出土	平安時代
149	376	遺構外	31-30 I層	土製品	不明土製品		38.0	17.0	13.0	7.8	棒状だが一端は強く、もう一端は弱く湾曲する。	平安時代
149	377	遺構外	31-44 I層	土製品	羽口	一部	51.0	61.0	25.0	53.2	ナデ調整。外面に溶着物付着。	平安時代

表15 農道31号 鉄製品観察表

図版名	遺物番号	器種	遺構名	出土位置・層位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
118	22	刀子?	SI02a	底面直上F-3	(43.0)	17.0	4.0	(3.5)	
118	23	鉄塊系遺物?	SI02a	カマド覆土F-1	(70.0)	32.0	15.0	(54.9)	
121	63	釘状鉄製品	SI07a	床直F-1A・B	67.0	9.0	4.0	2.2	2点が接合
121	64	釘状鉄製品?	SI07a	内周溝覆土	(48.0)	10.5	3.0	(2.1)	
121	65	釘状鉄製品?	SI07a	北東覆土	(37.5)	6.5	3.5	(1.2)	
125	114	釘状鉄製品?	SI11	北半覆土中位	(18.5)	5.0	4.5	(0.7)	
128	147	芋引金具?	SI14	底面直上鉄製品-1	(67.0)	18.0	5.0	(4.7)	釘付き。
128	148	筒状鉄製品?	SI14	Pit3覆土2層鉄製品-2	52.5	19.0	16.0	9.6	長方形の貫通孔(2×1mm)あり。

表16 農道35号 土器観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
175	1	SI01	カマド1層 P107	土師器	坏	略完形	(14.4)	6.5	5.7	ヘラケズリ、横ナデ	不明	底面調整不明。(ケズリ?)	平安時代
175	2	SI01	床面直上 P102 カマド1層 P106 カマド堆積土 SK1底面 P111・112	土師器	小甕	口縁部～底部	(14.6)	5.4	16.7	横ナデ、ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ナデ、口縁に黒色物附着	底外面ナデ?	平安時代
175	3	SI01	カマド堆積土 SK1底面 P111・112	土師器	小甕	胴部～底部	-	8.3	(6.5)	ヘラケズリ	輪積痕、ナデ	底外面ナデ。	平安時代
175	4	SI01	床面 P61 堆積土 P62・63・65 2層	土師器	大甕	胴部～底部	-	(12.4)	(10.3)	ヘラケズリ	ミガキ、黒色処理	底外面砂底?ケズリ	平安時代
175	5	SI01	2層 P39 堆積土 P87～89	土師器	甕	口縁部～胴部	(22.7)	-	(27.8)	横ナデ、ヘラケズリ、焼土附着	横ナデ、ナデ、刻書		平安時代
175	6	SI01	床面直上 P80・83 カマド堆積土 SK1底面 P112 SK1堆積土	土師器	大甕	口縁部～胴部	-	-	(25.5)	横ナデ、輪積痕、ナデ	横ナデ、ナデ		平安時代
176	7	SI01	堆積土 P19・22・29・51・53 2・3層	土師器	小甕	口縁部	14.3	-	(8.2)	ロクロ	ロクロ		平安時代
176	8	SI01	堆積土 P13・21・24・29 2・3層	土師器	小甕?	胴部～底部	-	(5.9)	(6.6)	ロクロ	ロクロ	被熱。	平安時代
176	9	SI01	SK01底面 P109	土師器	塀	底部	-	(12.0)	(3.5)	輪積痕、ナデ	ナデ		平安時代
176	10	SI01	カマド堆積土 SK01底面 P110～112 SK01堆積土	土師器	塀	口縁部～胴部	(38.2)	-	(9.5)	横ナデ、輪積痕、ナデ	横ナデ、ナデ		平安時代
176	11	SI01	床面 P70	須恵器	坏	完形	-	4.6	(2.5)	ロクロ、刻書	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
176	12	SI01	堆積土 P69 カマド堆積土	須恵器	坏	底部	-	(4.6)	(2.0)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
176	13	SI01	1層	須恵器	坏	胴部～底部	-	(6.2)	(21)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。刻書?	平安時代
176	14	SI01	堆積土 P72	須恵器	壺	胴部	-	-	(11.8)	ロクロ、ヘラケズリ	ロクロ		平安時代
176	15	SI01	堆積土 P73	須恵器	壺	胴部～底部	-	(5.0)	(7.7)	ロクロ	ロクロ	内面自然釉附着。胎土分析試料A-1。	平安時代
176	16	SI01	堆積土 P86	須恵器	大甕	胴部～底部	-	-	(7.2)	タタキ	あて具痕	胎土分析試料A-2。	平安時代
176	17	SI01	8層 P1	須恵器	皿	口縁部～胴部	9.9	4.9	1.7	ロクロ、刻書	ロクロ、ナデ	底外面回転糸切。内面摩耗。転用硯?	平安時代
176	18	SI01	2・3層	土師器	小杯	口縁部～底部	-	-	2.6	ナデ	ナデ		平安時代
176	19	SI01	1層	土師器	小杯	略完形	(4.3)	-	(2.1)	オサエ	オサエ		平安時代
177	22	SI03	床面 P38 5層 P49 52・56 2層	土師器	坏	略完形	(12.8)	(6.0)	5.2	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
177	23	SI03	カマド P11	土師器	中甕	口縁部	(20.0)	-	(6.5)	ロクロ	輪積痕、ロクロ		平安時代
177	24	SI03	床面 P39	土師器	中甕	胴部～底部				ナデ、被熱	ナデ	底外面ナデ。	平安時代
177	25	SI03	床面直上 P9 カマド	土師器	中甕	口縁部	(22.0)	-	(6.2)	輪積痕、ナデ、横ナデ	輪積痕、ナデ、横ナデ		平安時代
177	26	SI03	掘方	土師器	小甕	口縁部	(16.0)	-	(6.1)	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ		平安時代
177	27	SI03	床面 P31 5層 P54 61・62 1・2層・堆積土 SK1堆積土 SK3堆積土	土師器	中甕	口縁部～胴部	22.5	-	(27.7)	横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ナデ		平安時代
177	28	SI03	床面直上 P63 2層 P55 5層 P57・58	土師器	壺	口縁部～底部	(15.7)	12.0	35.3	横ナデ、ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、黒色処理	底外面砂底。	平安時代
177	29	SI03	カマド P14 2層	土師器	中甕	胴部～底部	-	(7.1)	(8.0)	ヘラケズリ	ロクロ	底外面砂底。支脚。被熱。	平安時代

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
178	30	SI03	床面直上P2・4~8 P12・13・18・20・22~26・29 1・2層・堆積土	土師器	中甕	胴部~底部	-	(10.0)	(16.0)	ヘラケズリ、焼土付着	ナデ	底外面ナデ?	平安時代
178	31	SI03	2層	土師器	中甕	底部	-	(8.0)	(4.1)	ヘラケズリ	刷毛目	底外面砂底。	平安時代
178	32	SI03	堆積土	土師器	小杯	底部	-	(6.0)	(1.8)	ナデ	ナデ	底外面ナデ。刻書。	平安時代
178	33	SI03	2層・堆積土	須恵器	坏	口縁部	(14)	-	(5.0)	ロクロ	ロクロ	内外面に火襷痕あり。	平安時代
178	34	SI03 SD01	1層・堆積土 堆積土	須恵器	坏	略完形	(13.8)	4.5	5.4	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 内外面に火襷痕あり。 胎土分析試料A-3。	平安時代
178	35	SI03	5層 P53 2層・堆積土	須恵器	坏	底部	-	5.4	(2.0)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 内外面に火襷痕あり。	平安時代
178	36	SI03	掘方	須恵器	壺	口縁部	-	-	(1.8)	ロクロ	ロクロ	内外面自然袖付着。	平安時代
178	37	SI03	2層	須恵器	壺	頸部	-	-	(4.6)	ロクロ	ロクロ	外面自然袖付着。	平安時代
178	38	SI03	5層 P51 堆積土	須恵器	壺	胴部	-	-	(6.3)	ロクロ	ロクロ		平安時代
178	39	SD01	堆積土	土師器	坏	口縁部	(11.6)	-	(3.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代
178	40	SD01	堆積土	土師器	小甕	口縁部	-	-	(5.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代
179	48	SI03	堆積土 掘方	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(5.1)	L R、沈線、刺突 (棒状・竹管状工具)			縄文時代 後期前葉
179	49	SI03	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(4.5)	沈線			縄文時代 後期前葉
179	50	SI03	5層 P59	縄文土器	壺	口縁部	-	-	(4.4)	沈線			縄文時代 後期前葉
179	51	SD01	堆積土	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(3.5)	沈線			縄文時代 後期前葉
179	52	SI04	床面 P14	土師器	坏	口縁部	(12.7)	-	(4.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代
179	53	SI04	堆積土	土師器	坏	口縁部	-	-	(5.0)	ロクロ	ミガキ、黒色処理		平安時代
179	54	SI04	床面直上 P15~17	土師器	中甕	口縁部	(15.0)	-	(6.7)	ロクロ	ロクロ		平安時代
179	55	SI04	床面直上 P10 堆積土	土師器	中甕	口縁部	(17.0)	-	(9.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代
179	56	SI04 遺構外	床面直上 P11・14 堆積土 35-31 III層	土師器	中甕	口縁部・胴部~底部	(22.2)	7.0	(17.7)	ロクロ、ヘラケズリ	ロクロ、ヘラナデ	底外面砂底。	平安時代
179	57	SI04 SK25	床面直上 P7 Pit2 確認面 P18~20 堆積土 P6	土師器	中甕	口縁部~胴部	(21.6)	-	(22.7)	横ナデ、ヘラナデ、 焼土付着	横ナデ、ヘラナデ		平安時代
179	58	SI04	Pit2 確認面 P21	土師器	埴	口縁部	-	-	(7.5)	横ナデ、輪積痕、 ナデ、黒色物・焼土付着	横ナデ、輪積痕、 ヘラナデ		平安時代
180	59	SI04 SI06	床面直上 P10 堆積土 掘方 P76	土師器	埴	口縁部~胴部	-	-	(11.5)	横ナデ、ヘラケズリ	ナデ		平安時代
180	60	SI04 SI06 遺構外	床面直上 P10堆積土 35-31 I層 35-32 III層	土師器	埴	底部	-	8.0	(6.5)	輪積痕、ヘラナデ	ナデ	底外面ナデ。	平安時代
180	61	SI04	床面直上 P1	須恵器	長頸壺	口縁部	10.8	-	(7.6)	ヘラケズリ、ロクロ	ロクロ	被熱。	平安時代
180	62	SI04 SI06	床面直上 P1 堆積土 P66	須恵器	長頸壺	肩部~底部	-	10.4	(18.4)	ロクロ、ヘラケズリ	ロクロ、ヘラナデ	被熱。底外面菊花状。 胎土分析試料A-4。	平安時代
180	63	SI04	床面直上 P14	須恵器	長頸壺	肩部	-	-	(6.0)	ロクロ	ロクロ	胎土分析試料A-6。	平安時代
180	64	SI04	床面直上 P1	須恵器	長頸壺	肩部~底部	-	9.0	(18.4)	ロクロ、ヘラケズリ	ロクロ	胎土分析試料A-5。	平安時代
180	65	SI04	堆積土	須恵器	坏	底部	-	(5.0)	(1.4)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 内外面に火襷痕あり。	平安時代
180	66	SI04	堆積土	須恵器	中甕	胴部	-	-	(3.4)	タタキ	あて具痕		平安時代
181	68	SI05	カマド P4・5・10・14	土師器	大甕	口縁部~胴部	(24.4)	-	(22.3)	横ナデ、輪積痕、 ナデ、オサエ	横ナデ、ナデ		平安時代
181	69	SI05 遺構外	カマド P7~9 35-32 I層	土師器	小甕	底部	-	(7.0)	(4.0)	ヘラケズリ	ヘラナデ	底外面砂底。被熱による赤化。	平安時代
181	70	SI05	堆積土	土師器	坏	底部	-	(5.2)	(2.8)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代

旭(1)遺跡

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
181	72	SI05	SK1堆積土	土師器	小甕	口縁部	-	-	(3.8)	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ		平安時代
181	73	SI05	堆積土	須恵器	壺	胴部	-	-	(3.1)	ヘラケズリ	ロクロ		平安時代
181	74	SI06	床面直上 P26・27・30・31・33~37・39 堆積土	土師器	大甕	略完形	26.0	7.8	27.9	横ナデ、ナデ、オサエ、ヘラケズリ	横ナデ、ヘラナデ	底外面ナデ。	平安時代
181	75	SI06	床面直上 P1・6~8・10・16・19・22・24・26・28・57 堆積土	土師器	大甕	口縁部~底部	(23.8)	7.5	30.4	横ナデ、輪積痕、ヘラナデ、ヘラケズリ	横ナデ、横ナデ	底外面ナデ。	平安時代
181	76	SI06	床面直上	土師器	中甕	底部	-	7.2	(5.3)	ヘラケズリ	ナデ	底外面ナデ。	平安時代
181	77	SI06	床面直上 P51	土師器	中甕	底部	-	6.4	(3.4)	ナデ	ナデ	底外面ナデ。	平安時代
181	78	SI06	床面直上 P51	土師器	鉢(坏?)	底部	-	(4.2)	(2.1)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
181	79	SI06	床面直上 P58	土師器	小杯	口縁部~底部	(4.8)	(4.8)	6.4	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ	底外面ナデ。	平安時代
181	80	SI06	床面直上 P14	土師器	坏	底部	-	(5.7)	(1.9)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
182	81	SI06 SI07 遺構外	床面直上 P3・29 堆積土 掘方 P77・81・83・85・87 貼床・掘方 35-31・32 I層	土師器	大甕	口縁部~胴部	(21.6)	-	(20.4)	横ナデ、ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ナデ		平安時代
182	82	SI06	床面直上 P21・27・54~57・59~61・64 堆積土	土師器	大甕	胴部~底部	-	(12.8)	(18.0)	輪積痕、ヘラナデ	ヘラナデ	底外面剥離。	平安時代
182	83	SI04 SI06	堆積土 堆積土	土師器	埴	口縁部	(40.0)	-	(8.5)	横ナデ、ナデ、ヘラケズリ	ナデ		平安時代
182	84	SI06	床面直上 P63	須恵器	鉢	口縁部	-	-	(5.6)	ロクロ	ロクロ	外面に火襷痕?。	平安時代
182	85	SI06	床面直上 P50	須恵器	壺	胴部	-	-	(3.4)	ヘラケズリ	ロクロ		平安時代
182	86	SI06	3層・堆積土	須恵器	中甕	胴部	-	-	(6.8)	タタキ、被熱	あて具痕		平安時代
182	89	SI07	貼床・掘方	土師器	坏	底部	-	(5.2)	(1.7)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
182	90	SI07	貼床・掘方	土師器	中甕	口縁部	-	-	(4.2)	ロクロ	ロクロ		平安時代
183	91	SI02	2層	土師器	甕	口縁部	-	-	(3.6)	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ		平安時代
183	92	SI09	2層 P1	土師器	坏	略完形	13.6	5.8	5.6	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
183	93	SI09	堆積土	須恵器	皿		-	(5.6)	(1.9)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
183	94	SI09 遺構外	堆積土・掘方 35-42 III層	土師器	中甕	胴部~底部	-	(8.0)	(10.0)	ヘラケズリ	ナデ	底外面砂底。	平安時代
183	95	SI09	掘方	須恵器	壺	胴部	-	-	(4.1)	ヘラケズリ	ロクロ		平安時代
183	96	SI09	堆積土	土師器	小杯		-	-	(3.5)	オサエ	オサエ		平安時代
183	98	SI11	カマド4層 P6 堆積土	土師器	中甕	胴部~底部	-	8.2	(10.4)	ヘラケズリ	ナデ	底外面砂底。	平安時代
183	99	SI11	堆積土	土師器	坏	口縁部	-	-	(2.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代
183	100	SI11	堆積土	須恵器	壺	胴部	-	-	(1.7)	ロクロ	ロクロ		平安時代
183	101	SI12	床面 P2	土師器	坏	口縁部~底部	(14.0)	(6.0)	5.4	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
183	102	SI13	床面直上	土師器	中甕	口縁部	-	-	(5.0)	ロクロ	ロクロ		平安時代
184	103	36SP02	堆積土	土師器	坏	口縁部	-	-	(3.3)	ロクロ	ロクロ		平安時代
184	104	67SP01	堆積土	土師器	中甕	底部	-	7.3	(4.3)	ヘラケズリ	ナデ	底外面砂底。	平安時代
184	105	SK01	堆積土	土師器	坏	底部	-	(5.6)	(2.0)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
184	106	SK03	堆積土	土師器	坏	口縁部	(15.0)	-	(4.1)	ロクロ	ロクロ、黒色物付着		平安時代
184	107	SK03	堆積土	土師器	小甕	口縁部	-	-	(3.9)	ロクロ	ロクロ		平安時代
184	108	SK03	堆積土	土師器	小甕	底部	-	(7.5)	(4.9)	ヘラケズリ	ナデ	底外面砂底。	平安時代
184	109	SK03	堆積土	須恵器	坏	口縁部	-	-	(4.9)	ロクロ	ロクロ	外面に火襷痕。	平安時代
184	110	SK08	堆積土	土師器	坏	口縁部	-	-	(3.2)	ロクロ	ロクロ		平安時代
184	111	SK08	堆積土	土師器	中甕	口縁部	(24.0)	-	(7.0)	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ		平安時代
184	112	SK08 遺構外	底面 P2 35-32 I・III層	土師器	中甕	胴部~底部	-	7.4	(18.0)	ナデ、ヘラケズリ	ナデ	底外面ナデ?	平安時代
184	113	SK08	堆積土	須恵器	鉢	口縁部	-	-	(1.7)	ロクロ	ロクロ		平安時代
184	114	SK08	堆積土	須恵器	大甕	胴部	-	-	(11.4)	タタキ	あて具痕	胎土分析試料A-7。	平安時代
185	115	SK09	堆積土	土師器	坏	口縁部	-	-	(2.8)	ロクロ	ロクロ		平安時代
185	116	SK09	堆積土	土師器	小甕	口縁部	-	-	(5.0)	横ナデ、ナデ、黒色物付着	横ナデ、ナデ		平安時代
185	117	SK09	堆積土	須恵器	中甕	胴部	-	-	(4.2)	タタキ	あて具痕		平安時代
185	118	SK10	堆積土	土師器	坏	口縁部	(13.2)	-	(4.2)	ロクロ	ロクロ		平安時代

図 番号	遺物 番号	遺構名	出土位置・ 層位	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時 期
185	119	SK12	堆積土	土師器	坏	口縁部	-	-	(4.4)	ロクロ	ロクロ		平安時代
185	120	SK12	堆積土	土師器	坏	底部	-	5.8	(2.0)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
185	121	SK12	堆積土	須恵器	坏	底部	-	(3.0)	(1.9)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
185	122	SK12	堆積土	土師器	小甕	口縁部	-	-	(9.9)	横ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ナデ		平安時代
185	123	SK12	堆積土	土師器	小甕	底部	-	8.2	(4.9)	ナデ、ヘラケズリ	ナデ	底外面砂底。	平安時代
185	124	SK13	底面 P1	須恵器	坏	底部	-	(5.4)	(1.4)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 胎土分析試料A-8。	平安時代
185	125	SK13	堆積土	須恵器	坏	底部	-	(4.4)	(2.4)	ロクロ	ロクロ		平安時代
185	126	SK15	3層	土師器	小甕	底部	-	6.0	(5.9)	ナデ、ヘラケズリ	ナデ	底外面砂底。	平安時代
185	127	SK15	1層 P1	土師器	小甕	底部	-	(9.4)	(3.8)	ヘラケズリ	ナデ	底外面砂底。	平安時代
185	128	SK16	堆積土	須恵器	中甕	胸部	-	-	(3.9)	タタキ	あて具痕	外面自然釉付着。	平安時代
186	129	SK17	底面 P15	土師器	小甕	口縁部	(26)	-	(7.3)	横ナデ、ナデ、ヘラケズリ	横ナデ、ナデ		平安時代
186	130	SK17	底面直上 P10 底面直上 P11	土師器	小甕	口縁部	-	-	(8.7)	横ナデ、輪積痕、 ナデ	横ナデ、ナデ		平安時代
186	131	SK17	底面直上 P19-21	土師器	小甕	底部	-	10.4	(2.3)	ヘラケズリ	ナデ	底外面砂底。	平安時代
186	132	SK17	底面直上 P22	土師器	小甕	底部	-	(8.6)	(3.2)	ナデ	ナデ	底外面砂底。	平安時代
186	133	SK18B	堆積土 P2	土師器	小甕	口縁部	-	-	(8.1)	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ		平安時代
186	135	SK20	堆積土 P1	土師器	坏	略完形	13.6	5.1	5.9	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 胎土分析試料A-9。	平安時代
186	136	SK20	3層・堆積土	土師器	坏	口縁部	(14.6)	-	(5.0)	ロクロ	ロクロ		平安時代
186	137	SK20	3層	土師器	中甕	口縁部	(22.0)	-	(7.2)	横ナデ、ナデ	横ナデ、輪積痕、 ナデ		平安時代
186	138	SK20	堆積土 P1	土師器	中甕	口縁部	-	-	(9.0)	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ		平安時代
186	139	SK20	堆積土	土師器	中甕	底部	-	8.4	(4.8)	ヘラケズリ	ナデ	底外面ナデ。	平安時代
186	140	SK20	堆積土	土師器	塀	口縁部	-	-	(8.5)	横ナデ、ナデ、黒 色物付着	横ナデ、ナデ		平安時代
187	141	SK20	堆積土	須恵器	坏	口縁部	-	-	(3.1)	ロクロ	ロクロ		平安時代
187	142	SK20	堆積土	須恵器	坏	底部	-	(5.3)	(2.5)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 外面に火襷痕。	平安時代
187	143	SK20	3層	須恵器	壺	頸部	-	-	(3.1)	ロクロ	ロクロ		平安時代
187	144	SK20	6層	須恵器	中甕	胴部	-	-	(5.8)	タタキ	あて具痕		平安時代
187	146	SK20	堆積土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	(5.1)	RR?縦走			縄文時代前期 中葉~後葉
187	147	SK25	堆積土 P6	土師器	坏	口縁部	-	-	(4.2)	ロクロ	ロクロ		平安時代
187	148	SK25 遺構外	堆積土 P20 35-32 Ⅲ層	土師器	大甕	底部	-	9.2	(4.7)	ヘラケズリ	ナデ	ナデ	平安時代
187	149	SK25	1層	土師器	壺 (杯?)	底部	-	(7.4)	(4.1)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切?	平安時代
187	150	SK25	1層	須恵器	坏	口縁部	-	-	(2.8)	ロクロ	ロクロ		平安時代
187	151	SK25	堆積土 P23	須恵器	壺	胸部	-	-	(3.6)	ロクロ、ヘラケズリ	ロクロ		平安時代
187	152	SK25 SK05 遺構外	堆積土 P4 35-32 Ⅲ層	土師器	塀	口縁部	(45.0)	-	(7.8)	横ナデ、輪積痕、 ナデ	横ナデ、輪積痕、 ナデ		平安時代
187	155	SD06	堆積土	土師器	坏	口縁部	-	-	(2.7)	ロクロ	ロクロ		平安時代
187	156	SD08	堆積土	土師器	小甕	口縁部	-	-	(3.5)	横ナデ	横ナデ		平安時代
187	157	SD08	堆積土	土師器	小杯	口縁部	-	-	(2.8)	横ナデ、ナデ、焼 土付着	横ナデ、ナデ、焼 土付着		平安時代
187	158	SD08	堆積土	須恵器	坏	口縁部	-	-	(5.4)	ロクロ	ロクロ		平安時代
188	159	遺構外	35-R11 I層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	(4.0)	貝殻復縁文	内面剥離		縄文時代 早期中葉
188	160	遺構外	35-R1 I層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	(7.1)	LR	LR	繊維混入。	縄文時代 早期後葉
188	161	遺構外	35-R1 I層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	(3.0)	LR	LR	繊維混入。	縄文時代 早期後葉
188	162	遺構外	35-R9 I層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	(2.3)	LR		繊維混入。	縄文時代 早期末葉
188	163	遺構外	35-R9 I層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	(3.5)	LR?	貝殻条痕文	繊維混入。	縄文時代 早期末葉
188	164	遺構外	35-44 Ⅲ層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	(2.0)	単軸絡条体第1 類(R)縦位		繊維混入。	縄文時代 前期後葉
188	165	遺構外	35-R10 I層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(7.8)	隆帯、沈線			縄文時代 後期前葉
188	166	遺構外	35-R10 I層	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	(4.9)	沈線			縄文時代 後期前葉
188	167	遺構外	35-R8 I層	縄文土器	壺?	口縁部	-	-	(3.4)	沈線			縄文時代 後期前葉
188	168	遺構外	35-R11 I層	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	(5.0)	補修孔			縄文時代 後期前葉
188	169	遺構外	35-R7 I層	土師器	坏	口縁部	-	-	(5.0)	ロクロ	ロクロ		平安時代

図 番号	遺物 番号	遺構名	出土位置・ 層位	種類	器種	部位	口径 (cm)	底径 (cm)	器高 (cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時 期
188	170	遺構外	35-32 Ⅲ層	土師器	坏	口縁部	-	-	(4.7)	ロクロ	ロクロ		平安時代
188	171	遺構外	35-R1 Ⅰ層	土師器	坏	底部	-	(5.6)	(1.5)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
188	172	遺構外	35-32 Ⅲ層	土師器	小甕	口縁部	-	-	(6.4)	ロクロ	ロクロ		平安時代
188	173	遺構外	35-37	土師器	小甕	口縁部	-	-	(4.5)	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ		平安時代
188	174	遺構外	35-32 Ⅲ層	土師器	埴	口縁部 ~ 胴部	-	-	(12.6)	横ナデ、ナデ	横ナデ、ナデ		平安時代
189	175	攪乱		土師器	中甕	底部	-	(7.2)	(4.1)	ヘラケズリ	ナデ	底外面砂底。	平安時代
189	176	遺構外	35-31 Ⅰ層	土師器	坏	底部	-	(5.4)	(3.0)	ロクロ、被熱	ロクロ	底外面回転糸切。	平安時代
189	177	遺構外	35-R7 Ⅰ層	土師器	中甕	底部	-	9.8	(2.7)	ヘラケズリ	ナデ	ナデ	平安時代
189	178	遺構外	35-32 Ⅰ層	土師器	小杯	胸部~ 底部	7.0	3.8	5.4	横ナデ、ヘラケズ リ	横ナデ、ナデ	ナデ	平安時代
189	179	遺構外	35-45 Ⅲ層	須恵器	坏	口縁部	-	-	(3.3)	ロクロ	ロクロ		平安時代
189	180	遺構外	35-32 Ⅲ層	須恵器	坏	底部	-	(7.8)	(1.8)	ロクロ	ロクロ	底外面回転糸切。 外面に火傷痕。	平安時代
189	181	遺構外	35-40 Ⅲ層	須恵器	壺	底部	-	(4.8)	(2.8)	ヘラケズリ	ロクロ	底外面菊花状。	平安時代
189	182	遺構外	表採	須恵器	大甕	口縁部	-	-	(4.7)	横ナデ、タタキ	横ナデ	胎土分析試料A-10。	平安時代
189	183	遺構外	35-R9 Ⅰ層	須恵器	大甕	胴部	-	-	(4.0)	タタキ	あて具痕		平安時代

表17 農道35号 石器観察表

図版 名	遺物 番号	遺構名	出土位置・層位	器種	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	備考
175	21	SI01	堆積土	石匙	5.3	6.2	1.7	25.7	珪質頁岩	横型、つまみ部にアスファルト付着
178	46	SI03	床	砥石	(13.9)	(6.2)	(5.2)	440.8	流紋岩	器面に弱い擦り、被熱破砕
178	47	SI03	2層	石錘?(剥離礫)	15.4	13.5	3.4	627.4	緑色凝灰岩	両側縁に抉り状剥離、一側縁に敲打痕
180	67	SI04	ピット2堆積土	敲石	(9.8)	5.5	4.0	301.4	流紋岩	棒状礫端部敲打痕、器体弱い擦り、被熱破砕
182	88	SI06	1層	磨り石・砥石	15.0	11.0	6.5	1,349.5	流紋岩	両器面に擦り(ツル)、一側縁磨り面(砥面)
183	97	SI09	掘方	台石	(14.0)	(15.0)	(7.5)	1,785.1	凝灰岩	一器面使用、破砕

表18 農道35号 土製品観察表

図 番号	遺物 番号	遺構名	出土位置・層位	種類	器種	部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量(g)	備考	時 期
176	20	SI01	床面 P57	土製品	羽口	胴部	(4.6)	(5.0)	(2.2)	30.8	溶着物付着	平安時代
178	41	SI03	床面直上	土製品	玉	完形	1.4	1.4	1.0	2.1		平安時代
178	42	SI03	2層	土製品	玉	完形	1.3	1.3	1.2	2.0		平安時代
181	71	SI05	カマド P14・17	土製品	土鈴	鈴部	(5.1)	(4.9)	(2.1)	30.6	オサエ	平安時代
182	87	SI06	掘方	土製品	錫杖頭状		(10.1)	(4.9)	(2.0)	47.7		平安時代
187	153	SK25	堆積土 P8	土製品	焼成粘土		4.3	6.3	1.7	39.5	布目痕?・スサ痕	平安時代
187	154	SK24	1層	土製品	焼成粘土		3.8	4.5	1.4	16.6	布目痕・スサ痕	平安時代

表19 農道35号 石製品観察表

図 番号	遺物 番号	遺構名	出土位置・層位	種類	器種	部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	石質	備考
178	43	SI03	床面直上	石製品	玉	完形	1.4	1.3	1.1	2.7	流紋岩	

表20 農道35号 鉄製品観察表

図 番号	遺物 番号	遺構名	出土位置・層位	種類	器種	部位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	備考	時 期
178	44	SI03	堆積土 2層	鉄製品	刀子	刃部	(9.4)	3.6	0.4	26.7	保存処理1	平安時代
178	45	SI03	堆積土 鉄1	鉄製品	鉄鏃	矢尻	(11.9)	1.7	0.5	6.5	保存処理2	平安時代
186	134	SK18	堆積土	鉄製品	刀子?	刃部?	(8.8)	4.0	0.7	58.1	保存処理3	平安時代
187	145	SK20	3層	鉄製品	刀子?	刃部~茎 部	(13.6)	2.5	0.5	18.7	保存処理4	平安時代

表21 農道37号 土器観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置	種類	器種	部位	口径(cm)	底径(cm)	器高(cm)	外面調整(文様)	内面調整(文様)	備考(底面調整)	時期
197	1	SI01	床面 P10・19・20	土師器	小杯	略完形	(5.6)	(3.0)	2.9	オサエ、ナデ	指ナデ	底外面はナデ	平安時代
197	2	SI01	床面直上 P2・3	土師器	坏	略完形	12.6	5.1	5.7	ロクロ	ロクロ	底外面は回転糸切	平安時代
197	3	SI01	床面 P19	土師器	甕	体部上半	(15.0)	-	8.7	横ナデ、ヘラケズリ、ヘラナデ	ヘラナデ、指ナデ		平安時代
197	6	SI01	覆土 P1	縄文土器	深鉢	口縁部	-	-	3.0	沈線			縄文時代後期(十腰内I式)
197	7	SD03	覆土 P-1・2	土師器	坏	略完形	(13.0)	5.4	6.1	ロクロ・ナデ・刻書	ミガキ・黒色処理	底外面は回転糸切、ナデ	平安時代
197	8	SD03	37-26 覆土	土師器	小甕	口縁部	(14.0)	-	6.2	輪積痕、横ナデ、ヘラナデ	輪積痕、ナデ、横ナデ		平安時代
197	9	SD03	37-24 覆土	土師器	甕	口縁部	(23.0)	-	7.4	横ナデ、指ナデ、ヘラナデ	輪積痕、指ナデ、ナデ		平安時代
197	10	SD03	覆土	土師器	甕	底部	-	(10.0)	6.1	ヘラケズリ	輪積痕、指ナデ、ヘラナデ	底外面ナデ	平安時代
197	12	SD01	覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	2.7	沈線	平滑なナデ	図197-12・13同一個体	縄文時代後期前半
197	13	SD01	覆土	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	2.4	沈線	平滑なナデ	図197-12・13同一個体	縄文時代後期前半
197	14	遺構外	37-21 I層	縄文土器	深鉢	頸部	-	-	4.1	沈線			縄文時代中期末～後期
197	15	遺構外	37-23 風倒木	縄文土器	壺?	胴部	-	-	2.3	沈線			縄文時代後期～晩期中頃
197	16	遺構外	37-23 風倒木	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	3.0	沈線			縄文時代後期～晩期中頃
197	17	遺構外	37-23 風倒木	縄文土器	深鉢	胴部	-	-	4.7	沈線			縄文時代後期～晩期中頃
197	18	遺構外	37-25 試掘トレンチ埋土	土師器	小杯	体部上半	(7.0)	-	3.7	輪積痕、オサエ、ナデ	ナデ		平安時代
197	19	遺構外	37-25 試掘トレンチ埋土	土師器	小甕	口縁部	(11.0)	-	7.1	輪積痕、横ナデ、ヘラケズリ	ナデ、横ナデ	口縁内面に炭化物付着	平安時代

表22 農道37号 土製品観察表

図番号	遺物番号	遺構名	出土位置・層位等	種類	器種	部位	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重さ(g)	備考	時期
197	4	SI01	床面 P17・18	土製品	土鈴	鈴部	(3.1)	(4.0)	(1.6)	(10.6)	外-オサエ、ナデ? 内-輪積痕、オサエ 図197-4・5同一個体? 重さは石膏含む	平安時代
197	5	SI01	床面 P13・16	土製品	土鈴	鈴部	(2.2)	(1.8)	(1.4)	(2.5)	外-オサエ、ナデ? 内-オサエ 図197-4・5同一個体?	平安時代
197	11	SD03	37-26 覆土	土製品	羽口	一部	(4.3)	(4.0)	(2.8)	(32.9)	外-溶着物付着	平安時代

青森県埋蔵文化財調査報告書 第569集

下石川平野遺跡Ⅱ
旭（１）遺跡
旭（２）遺跡

－ 県営野沢２期地区畑地帯総合整備事業に伴う遺跡発掘調査報告－

（第１分冊）

発行年月日 2016年 3月25日
発行 青森県教育委員会
編集 青森県埋蔵文化財調査センター
〒038-0042 青森県青森市大字新城字天田内152-15
TEL 017-788-5701 FAX 017-788-5702
印刷 協同印刷工業株式会社
〒035-0041 青森県むつ市金曲1-15-8
TEL 0175-22-2231 FAX 0175-22-0435
